HITACHI
Inspire the Next

Cosminexus
ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8

サービスプラットフォーム リファレンス

手引・文法・操作書

3020-3-U56-80

■対象製品

●適用 OS：Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2，Windows XP，Windows Vista，Windows 7 x86，Windows 7 x64 ※1

P-2443-7T84 uCosminexus Service Architect 08-70

●適用 OS：Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003（x64）※1，Windows Server 2003 R2（x64）※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 R2

P-2443-7S84 uCosminexus Service Platform 08-70

●適用 OS：Windows Server 2003（x64），Windows Server 2003 R2（x64），Windows Server 2008 x64，Windows Server 2008 R2

P-2943-7S84 uCosminexus Service Platform 08-70 ※2

●適用 OS：HP-UX 11i V2（IPF），HP-UX 11i V3（IPF）

P-1J43-7S81 uCosminexus Service Platform 08-70 ※2

●適用 OS：AIX V7.1，AIX V6.1，AIX 5L V5.3

P-1M43-7S81 uCosminexus Service Platform 08-70 ※2

●適用 OS：Red Hat Enterprise Linux AS 4（x86），Red Hat Enterprise Linux ES 4（x86），Red Hat Enterprise Linux AS 4（AMD64 & Intel EM64T），Red Hat Enterprise Linux ES 4（AMD64 & Intel EM64T），Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform（x86），Red Hat Enterprise Linux 5（x86），Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform（AMD/Intel 64），Red Hat Enterprise Linux 5（AMD/Intel 64），Red Hat Enterprise Linux Server 6（32-bit x86），Red Hat Enterprise Linux Server 6（64-bit x86_64）

P-9S43-7S81 uCosminexus Service Platform 08-70 ※2

●適用 OS：Red Hat Enterprise Linux AS 4（IPF），Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform（Intel Itanium），Red Hat Enterprise Linux 5（Intel Itanium）

P-9V43-7S81 uCosminexus Service Platform 08-70 ※2

●適用 OS：Windows Server 2003，Windows Server 2003 R2，Windows XP，Windows Vista，Windows 7 x86，Windows 7 x64 ※1

P-2443-CL14 uCosminexus Service Adapter Architect for FTP 01-10

●適用 OS：Windows Server 2003，Windows Server 2003（x64）※1，Windows Server 2003 R2，Windows Server 2003 R2（x64）※1，Windows Server 2008 x86，Windows Server 2008 x64 ※1，Windows Server 2008 R2，HP-UX 11i V2（IPF），HP-UX 11i V3（IPF），AIX V7.1，AIX V6.1，AIX 5L V5.3，Red Hat Enterprise Linux AS 4（x86），Red Hat Enterprise Linux ES 4（x86），Red Hat Enterprise Linux AS 4（AMD64 & Intel EM64T），Red Hat Enterprise Linux ES 4（AMD64 & Intel EM64T），Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform（x86），Red Hat Enterprise Linux 5（x86），Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform（AMD/Intel 64），Red Hat Enterprise Linux 5（AMD/Intel 64），Red Hat Enterprise Linux Server 6（32-bit x86），Red Hat Enterprise Linux Server 6（64-bit x86_64）

P-2443-CK14 uCosminexus Service Adapter for FTP 01-10

注※1　WOW64（Windows On Windows 64）環境だけで使用できます。

注※2　製品のサポート時期をご確認ください。

これらのプログラムプロダクトのほかにもこのマニュアルをご利用になれる場合があります。詳細は「リリースノート」でご確認ください。

本製品では日立トレース共通ライブラリをインストールします。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。
なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

AIX は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
AIX 5L は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
AMD は，Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。
Borland のブランド名および製品名はすべて，米国 Borland Software Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
HP-UX は，Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。
IIOP は，OMG 仕様による ORB(Object Request Broker) 間通信のネットワークプロトコルの名称です。
Itanium は，アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
iWay および iWay Software は，Information Builders, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
J2EE は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Java は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
JDBC は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Office Excel は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
Microsoft Office Word は，米国 Microsoft Corporation の商品名称です。
MyEclipse は，米国 Genuitec 社の商品名称です。
OMG，CORBA，IIOP，UML，Unified Modeling Language，MDA，Model Driven Architecture は，Object Management Group, Inc. の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
Oracle 及び Oracle 10g は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Oracle 及び Oracle9i は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Oracle 及び Oracle Database 11g は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Red Hat は，米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。
SOAP（Simple Object Access Protocol）は，分散ネットワーク環境において XML ベースの情報を交換するための通信プロトコルの名称です。
UNIX は，The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
W3C は，World Wide Web Consortium の商標（多数の国において登録された）です。
WebSphere は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標で

す。
Windows Vista は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Eclipse は，開発ツールプロバイダのオープンコミュニティである Eclipse Foundation, Inc. により構築された開発ツール統合のためのオープンプラットフォームです。
This product includes software developed by the Apache Software Foundation (http://www.apache.org/).

■マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは，マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記			製品名
Excel			Microsoft(R) Office Excel
Windows	Windows 7	Windows 7 x86	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise(32 ビット版)
			Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional(32 ビット版)
			Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate(32 ビット版)
		Windows 7 x64	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise(64 ビット版)
			Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional(64 ビット版)
			Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate(64 ビット版)
	Windows Server 2003	Windows Server 2003 Enterprise Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition Operating System（x86）
		Windows Server 2003 Standard Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Operating System（x86）
	Windows Server 2003 R2	Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Operating System（x86）
		Windows Server 2003 R2 Standard Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Operating System（x86）
	Windows Server 2003（x64）	Windows Server 2003 Enterprise x64 Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Operating System
		Windows Server 2003 Standard x64 Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Operating System
	Windows Server 2003 R2（x64）	Windows Server 2003 R2 Enterprise x64 Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition Operating System

表記			製品名
		Windows Server 2003 R2 Standard x64 Edition	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Operating System
	Windows Server 2008 x86		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise 32-bit
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard 32-bit
	Windows Server 2008 x64		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise x64 Edition
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard x64 Edition
	Windows Server 2008 R2		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise
			Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard
	Windows Vista	Windows Vista Business	Microsoft(R) Windows Vista(R) Business
		Windows Vista Enterprise	Microsoft(R) Windows Vista(R) Enterprise
		Windows Vista Ultimate	Microsoft(R) Windows Vista(R) Ultimate
	Windows XP		Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System

■発行

2011 年 8 月 3020-3-U56-80

■著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2008, 2011, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容（3020-3-U56-80）uCosminexus Service Architect 08-70，uCosminexus Service Platform 08-70，uCosminexus Service Adapter Architect for FTP 01-10，uCosminexus Service Adapter for FTP 01-10

追加・変更内容	変更個所
Cosminexus サービスプラットフォームを構成するソフトウェア製品ごとの前提 OS に，次の OS を追加した。 • AIX V7.1 • Red Hat Enterprise Linux Server 6（32-bit x86） • Red Hat Enterprise Linux Server 6（64-bit x86_64）	－
Eclipse Classic 3.6.1 に対応したことに伴い，最新の画面図に差し替えた。	1 章，3 章
2 進化 10 進数の属性追加に伴い，説明を追加した。 また，次の画面およびダイアログを変更した。 • 画面のプロパティービュー • フォーマットダイアログ • 単純内容要素ダイアログ • 構成要素ダイアログ • 条件値設定ダイアログ	1.1.1，1.1.2，1.3.1， 1.3.2(1)，1.3.4(1)，1.3.5
バイナリ型変数と any 型変数の追加に伴い，説明を追加した。 また，次の画面およびダイアログを変更した。 • サービスアダプタ定義画面 • ビジネスプロセスのデバッグ画面 • ユーザ定義受付定義画面（TP1/RPC 受付およびカスタム受付の基本画面） • 変数・相関セット一覧ダイアログ • 値の設定ダイアログ	1.2.2(5)(a)，1.2.4，1.2.4(2)， 1.2.6(2)(a)，1.4.1，1.5.3， 3.6(3)(a)，csmlshistory（電文の実行履歴情報の表示）
検証アクティビティ（validate 属性）の追加に伴い，説明を追加した。 また，次の画面およびダイアログを追加，変更した。 • 画面の定義領域 • ビジネスプロセス定義画面 • 検証アクティビティダイアログ	1.2.3，1.2.3(1)，1.4.17， 1.9.11(4)，3.6(3)(a)，HCSC サーバランタイム定義ファイル
マッピング定義のコピー方法の追加に伴い，構造一致複製マッピングおよび要素名一致複製マッピングの説明を追加した。 また，次のダイアログを追加，変更した。 • ノード選択ダイアログ • 複製マッピング範囲設定ダイアログ	1.6.6，1.6.12，1.6.13
マッピング線とファンクションの強調表示をサポートしたことに伴い，次のダイアログを追加した。 • 要素名検索ダイアログ	1.6.8
各要素のくり返し処理を連携させる機能の追加に伴い，説明を追加した。	1.6.27
画面に表示される受付種別の説明を追加した。	3.2(4)
メッセージ型変数に，non-XML 形式および any 形式を追加したことに伴い，メッセージ型変数の説明を変更した。	3.6(3)(a)

追加・変更内容	変更個所
リポジトリのインポート可否の検証機能の追加に伴い，次に示すコマンドを追加した。 • cscrepcheck また，次に示すコマンドにオプションを追加した。 • cscrepctl • cscrepdiff • cscrepls	表 4-1，cscrepcheck（インポート可否の検証），cscrepctl（インポート / エクスポート），cscrepdiff（リポジトリ情報の差分の表示），cscrepls（リポジトリ情報の表示）
リポジトリアップデート機能の追加に伴い，次に示すコマンドを追加した。 • cscrepupdate	表 4-1，cscrepupdate（リポジトリのアップデート）
コマンドを使用する際の注意事項を追加した。 • cscenvupdate	cscenvupdate（実行環境のバージョンアップ）
運用コマンドの制限事項の解除に伴い，次に示すコマンドの制限事項を削除した。 • csmftpaddusr • csmftpdelusr	csmftpaddusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの登録・更新），csmftpdelusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの削除）
FTP アダプタの定義ファイルを追加した。 • FTP アダプタコマンド定義ファイル	定義ファイルの種類，FTP アダプタコマンド定義ファイル
LIST コマンドおよび NLST コマンドの追加に伴い，次のファイルを追加した。 • リストコマンドオプション定義ファイル また，次のファイルの説明を変更した。 • FTP アダプタ実行環境プロパティファイル • FTP 受付コンフィグファイル • FTP コマンド許可リスト定義ファイル	定義ファイルの種類，定義ファイルの入力形式，FTP アダプタ実行環境プロパティファイル，FTP 受付コンフィグファイル，FTP コマンド許可リスト定義ファイル，リストコマンドオプション定義ファイル
Cosminexus サービスプラットフォームの前提となるデータベースから，次のデータベースを削除した。 • HiRDB Version 7 • Oracle9i • Oracle 10g（Oracle 10g R2 は使用可）	HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル，付録 A.2(1)
Oracle 11g の JDBC ドライバのファイル名は JDK のバージョンごとに異なるため，記述を変更した。	HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル
データベースを利用する環境の場合に，運用環境と実行環境を 1 対 1 で構成できるようになったことに伴い，次に示すプロパティを追加した。 • クラスタ情報を格納する領域を指定するプロパティ（clusterinfo-tbl-area） • クラスタ内で配備された非同期アダプタサービス ID を格納する領域を指定するプロパティ（haasyncadp-tbl-area）	HCSC サーバセットアップ定義ファイル

追加・変更内容	変更個所
HCSC サーバランタイム定義ファイルに，次に示すプロパティの記述を追加した。 • フォーマット定義をキャッシュできる数を指定するプロパティ（formatdef-maxcache-num） • データ変換定義をキャッシュできる数を指定するプロパティ（transformdef-maxcache-num） • 指定した SOAP ヘッダが存在しない場合に処理を継続するかどうかを指定するプロパティ（telegram-notfound-soapheader） • メッセージ型変数（XML）を検証するかどうかを指定するプロパティ（validation-activity） • J2EE アプリケーションが停止した際のタイムアウト時間を指定するプロパティ（j2ee-stopapp-timeout） • J2EE サーバ起動を監視するタイムアウト値を指定するプロパティ（startcsc-timeout） • J2EE サーバ停止を監視するタイムアウト値を指定するプロパティ（stopcsc-timeout） • コマンドの通信のタイムアウト時間を指定するプロパティ（csc-command-timeout） • DB アダプタのトランザクションをビジネスプロセスとは別に開始するかどうかを指定するプロパティ（dba-separate-transaction）	HCSC サーバランタイム定義ファイル
FTP アダプタ実行環境プロパティファイルに，次に示すプロパティの記述を追加した。 • FTP サーバとの間で情報を送受信する際に使用する文字セット名を指定するプロパティ（ftpadp.file-name.charset） • FTP サーバとの接続に FTPS を使用するかどうかを指定するプロパティ（ftpadp.ftps.enable） • セキュリティ通信用のプロトコルを指定するプロパティ（ftpadp.ftps.protocol-name） • FTPS の Implicit モードを使用するかどうかを指定するプロパティ（ftpadp.ftps.implicit-mode） • データコネクションの通信を暗号化するかどうかを指定するプロパティ（ftpadp.ftps.data-con-secure） • FTP サーバのサーバ認証をするかどうかを指定するプロパティ（ftpadp.ftps.server-authentication）	FTP アダプタ実行環境プロパティファイル，付録 B
FTP 受付の処理時間を監視する機能の追加に伴い，FTP 受付コンフィグファイルに次に示すプロパティを追加した。 • FTP 受付後のビジネスプロセスの処理時間を指定するプロパティ（urecp-ftp.request-timeout） • FTP 受付後の処理時間の監視で利用する常駐スレッド数を指定するプロパティ（urecp-ftp.resident-thread.count） • FTP 受付の処理時間の監視で利用する最大スレッド数を指定するプロパティ（urecp-ftp.timer-thread.maximum）	FTP 受付コンフィグファイル
FTP 受付のユーザ ID に使用できる文字制限が解除されたため，次に示すプロパティに関する制限事項を修正した。 • urecp-ftp.permission.allow • urecp-ftp.permission.deny	FTP 実行許可リスト定義ファイル

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，Cosminexus サービスプラットフォームで SOA に対応したシステムを開発する際に使用する定義画面の操作方法，およびシステムを構築・運用する際に使用するファイルの形式，定義方法およびコマンドについて説明しています。
Cosminexus サービスプラットフォームでは，次に示すプログラムプロダクトを使用してシステムを開発，運用します。

- uCosminexus Service Architect
- uCosminexus Service Platform
- uCosminexus Service Adapter Architect for FTP
- uCosminexus Service Adapter for FTP

また，オペレーティングシステム（OS）の種類によって，機能が異なる場合があります。OS ごとの違いがある場合の表記方法については，「適用 OS の違いによる機能相違点の表記」を参照してください。

■対象読者

Cosminexus サービスプラットフォームを利用して，SOA に対応したシステムを構築するシステム開発者，およびそのシステムの運用管理者を対象としています。
対象読者の前提知識として必要な知識を次に示します。

- SOA に関する基本的な知識
- J2EE に関する基本的な知識
- リレーショナルデータベースおよびデータベース操作言語（SQL）に関する基本的な知識
- XML に関する基本的な知識

なお，JP1 との連携機能を使用する場合は，次の内容を理解していることが必要です。

- JP1 の統合管理，ジョブ管理，ネットワーク管理，およびアベイラビリティ管理に関する基本的な知識

■適用 OS の違いによる機能相違点の表記

このマニュアルは，適用 OS が Windows，AIX，HP-UX および Linux の製品に対応するため，OS の種類によって，機能が異なる場合があります。OS ごとの違いがある場合は，次に示す表記を使用して，それぞれの説明に OS 名を明記しています。

表記	意味
Windows の場合	Windows に該当する表記です。
AIX の場合	AIX に該当する表記です。
HP-UX の場合	HP-UX に該当する表記です。
Linux の場合	Linux に該当する表記です。

表記	意味
UNIX の場合	UNIX（AIX，HP-UX および Linux）に該当する表記です。

■パスの表記について

このマニュアルでは，原則として Windows のパスの区切り（「¥」）を使用しています。UNIX の場合は，「¥」を「/」に置き換えてお読みください。

■このマニュアルで使用している記号

注意事項

間違いやすい点，および間違うとトラブルが発生するような項目について説明しています。

ポイント

その説明の要点について説明しています。

参考

補足的な情報を説明しています。

■画面や操作の説明で使用している記号

このマニュアルの画面や操作の説明で使用している記号を次に示します。

記　号	意味
［　］	ダイアログ名，キー名称，メニュー項目名，ボタン名，画面に表示されている項目名，および画面の表示エリア名に使用します。
［　］－［　］	－の前に示したメニューから，－の後ろのメニューを選択することを表します。
＜　＞	＜　＞内の名称がユーザの環境によって異なることを表します。
「　」	入力値，可変値，またはメッセージなどのユーザが入力する内容を表します。
＋	＋の前のキーを押したまま，後ろのキーを押すことを表します。 （例）［Ctrl］キー＋［V］キー

■文法の説明で使用している記号

このマニュアルの文法の説明で使用している記号を次に示します。

記　号	意　味
｜	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し，「または」を意味します。 （例）　A ｜ B　A または B を指定することを示します。

記　号	意　味
{　}	この記号で囲まれている複数の項目のうちから一つを選択することを示します。項目が横に並べられ，記号｜で区切られている場合は，そのうちの一つを選択します。 （例）｛A ｜ B ｜ C｝　A，B または C のどれかを指定することを示します。
[　]	この記号で囲まれている項目は省略してもよいことを示します。 （例）［A］「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。
<　>	この記号で囲まれている項目は，該当する要素を指定することを示します。 （例）＜プロパティ＞　プロパティを記述します。
…	記述が省略されていることを示します。 （例）ABC…　ABC の後ろに記述があり，その記述が省略されていることを示します。
～	この記号の前に示された項目が，記号～に続く＜　＞，((　))，<<　>> などの規則に従うことを示します。
＜　＞	項目を記述するときに従わなければならない構文要素を示します。構文要素については，「使用している構文要素」を参照してください。
((　))	項目で指定できる値の範囲を示します。
<<　>>	項目を省略したときに，システムが仮定する標準値を示します。

■使用している構文要素

このマニュアルで使用している構文要素の種類と意味を次に示します。

種　類	定　義
英字	A ～ Z　a ～ z
英小文字	a ～ z
英大文字	A ～ Z
数字	0 ～ 9
英数字	A ～ Z　a ～ z　0 ～ 9
記号	_　.　-
文字列	任意の文字の配列

目次

第 1 編　開発環境のリファレンス

1 画面（開発環境） 1

1.1 画面構成（開発環境） 2

1.1.1 バイナリフォーマット定義ファイルを作成する画面の構成 2

1.1.2 HCSC コンポーネントおよびデータ変換定義を作成する画面の構成 4

1.2 画面一覧 6

1.2.1 バイナリフォーマット定義画面 7

1.2.2 サービスアダプタ定義画面 12

1.2.3 ビジネスプロセス定義画面 34

1.2.4 ビジネスプロセスのデバッグ画面 39

1.2.5 データ変換定義画面 45

1.2.6 ユーザ定義受付定義画面 51

1.2.7 HCSC コンポーネント情報表示画面 60

1.2.8 ユーザ定義受付情報表示画面 64

1.3 バイナリフォーマット定義に関連するダイアログ 66

1.3.1 フォーマットダイアログ 66

1.3.2 単純内容要素ダイアログ 69

1.3.3 複合内容要素ダイアログ 78

1.3.4 構成要素ダイアログ 83

1.3.5 条件値設定ダイアログ 89

1.3.6 ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義） 90

1.3.7 要素選択ダイアログ 94

1.3.8 セパレータ選択ダイアログ 95

1.3.9 セパレータ追加 / 変更ダイアログ 96

1.3.10 バイナリフォーマット定義ファイル（COBOL 登録集原文からの変換）ダイアログ 98

1.4 ビジネスプロセスに関連するダイアログ 104

1.4.1 変数・相関セット一覧ダイアログ 104

1.4.2 ヘッダ割当変数ダイアログ 107

1.4.3 割当相関セット群ダイアログ 108

1.4.4 変数の表示ダイアログ 110

1.4.5 電文フォーマットの取込ダイアログ 111

1.4.6 フォルト処理の割当ダイアログ 113

1.4.7 受付アクティビティダイアログ 114
1.4.8 応答アクティビティダイアログ 116
1.4.9 サービス呼出アクティビティダイアログ 118
1.4.10 Java 呼出アクティビティダイアログ 121
1.4.11 データ変換アクティビティダイアログ 122
1.4.12 代入アクティビティダイアログ 125
1.4.13 代入アクティビティサブダイアログ 126
1.4.14 無操作アクティビティダイアログ 129
1.4.15 フォルト送出アクティビティダイアログ 129
1.4.16 待機アクティビティダイアログ 130
1.4.17 検証アクティビティダイアログ 132
1.4.18 スコープアクティビティダイアログ 134
1.4.19 繰り返しアクティビティダイアログ 134
1.4.20 条件設定ダイアログ（繰り返しアクティビティ） 135
1.4.21 分岐アクティビティダイアログ 137
1.4.22 条件設定ダイアログ（分岐アクティビティ） 138
1.4.23 並列処理アクティビティダイアログ 140
1.4.24 リンクダイアログ 141
1.4.25 条件設定ダイアログ（並列処理アクティビティ） 142
1.4.26 パレット設定ダイアログ 143
1.5 ビジネスプロセスのデバッグに関連するダイアログ 146
1.5.1 デバッグ構成ダイアログ 146
1.5.2 条件設定ダイアログ 150
1.5.3 値の設定ダイアログ 150
1.6 データ変換に関連するダイアログ 153
1.6.1 ルート要素選択ダイアログ 153
1.6.2 マッピング元設定ダイアログ 154
1.6.3 自動マッピング元設定ダイアログ 156
1.6.4 自動マッピング候補選択ダイアログ 157
1.6.5 くり返し設定ダイアログ 158
1.6.6 ノード選択ダイアログ（データ変換） 160
1.6.7 ファンクション選択ダイアログ 162
1.6.8 要素名検索ダイアログ 163
1.6.9 ノード条件設定ダイアログ 165
1.6.10 条件設定ダイアログ（ノード条件の設定） 166
1.6.11 マッピング定義登録ダイアログ 170
1.6.12 複製マッピング範囲設定ダイアログ 171

1.6.13 複製マッピング元設定ダイアログ 172
1.6.14 設定ダイアログ 174
1.6.15 文字列連結ダイアログ 177
1.6.16 部分文字列取得ダイアログ 179
1.6.17 文字数取得ダイアログ 182
1.6.18 文字列調査ダイアログ 183
1.6.19 空白除去ダイアログ 185
1.6.20 数値フォーマット変換ダイアログ 187
1.6.21 数値演算ダイアログ 189
1.6.22 端数処理ダイアログ 191
1.6.23 総和ダイアログ 192
1.6.24 ノード数取得ダイアログ 194
1.6.25 ノード名取得ダイアログ 195
1.6.26 ノード調査ダイアログ 196
1.6.27 くり返しダイアログ 198
1.6.28 ソート条件追加 / 編集ダイアログ 200
1.6.29 選択ダイアログ 202
1.6.30 条件追加 / 編集ダイアログ 205
1.6.31 定数ダイアログ 207
1.6.32 値置換えダイアログ 209
1.6.33 カスタムダイアログ 212
1.6.34 変換ファンクション選択ダイアログ 215
1.6.35 入力値を除去ダイアログ 216
1.7 ユーザ定義受付に関連するダイアログ 218
1.7.1 ユーザ定義受付削除ダイアログ 218
1.8 バイナリフォーマット定義画面の操作 220
1.8.1 要素をコピーして貼り付ける 220
1.8.2 要素を削除する 222
1.8.3 要素を移動する 222
1.8.4 操作を元に戻す 226
1.8.5 操作をやり直す 226
1.9 ビジネスプロセス定義画面の操作 227
1.9.1 オブジェクトをコピーする 227
1.9.2 オブジェクトを切り取る 227
1.9.3 オブジェクトを貼り付ける 227
1.9.4 オブジェクトを削除する 229
1.9.5 オブジェクトを整列する 229

1.9.6 操作を元に戻す 229
1.9.7 操作をやり直す 230
1.9.8 表示を拡大する 231
1.9.9 表示を縮小する 231
1.9.10 表示を元のサイズに戻す 231
1.9.11 パレットの表示を設定する 232
1.10 データ変換定義画面の操作 236
1.10.1 操作を元に戻す 236
1.10.2 操作をやり直す 236
1.10.3 定義を保存する 236
1.10.4 マッピング線の色を変更する 236

2 コマンド（開発環境） 239
コマンドの種類 240
コマンドの入力形式 241
コマンドの文法の記述形式 243
csamkxmls（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルの生成） 244
cscfdx2xsd（バイナリフォーマット定義ファイルから XML フォーマット定義ファイルの生成） 245
cscsoapmode（SOAP モードの設定） 247

第 2 編　実行環境・運用環境のリファレンス

3 画面（運用環境） 249
3.1 画面構成（運用環境） 250
3.2 基本情報ページ 253
3.3 定義情報ページ 262
3.4 稼働運用ページ 265
3.5 稼働確認ページ 273
3.6 履歴管理ページ 278

4 コマンド（運用環境・実行環境） 287
コマンドの種類 290

コマンドの入力形式	296
コマンドの文法の記述形式	298
csaftpuseradd（FTP **アダプタのユーザの登録・更新**）	299
csaftpuserdel（FTP **アダプタのユーザの削除**）	303
csaftpuserls（FTP **アダプタのユーザの表示**）	305
cscapputil（**アプリケーションの操作**）	306
csccmctl（**定義ファイルの管理**）	309
csccompoconfig（HCSC **コンポーネントの定義**）	313
csccompodeploy（HCSC **コンポーネントの配備**）	317
csccompostart（HCSC **コンポーネントの開始**）	319
csccompostop（HCSC **コンポーネントの停止**）	321
csccompoundeploy（**配備済みの** HCSC **コンポーネントの削除**）	323
cscenvbackup（HCSC-Manager **環境のバックアップ**）	325
cscenvrestore（HCSC-Manager **環境のリストア**）	327
cscenvupdate（**実行環境のバージョンアップ**）	329
cscfscls（**共通フォルダの参照**）	331
cscfscrm（**共通フォルダの削除**）	334
cscfswls（**作業フォルダの参照**）	337
cscfswrm（**作業フォルダの削除**）	340
cscpasswd（**ユーザの管理**）	342
cscmsgtk（**メッセージトラッキング機能の起動**）	346
cscpidelete（**プロセスインスタンスの実行履歴の削除**）	351
cscpireexec（**プロセスインスタンスの再実行**）	355
cscpiselect（**プロセスインスタンスの検索**）	359
cscrcptnstart（**標準受付およびユーザ定義受付の開始**）	376
cscrcptnstop（**標準受付およびユーザ定義受付の停止**）	378
cscrepcheck（**インポート可否の検証**）	380
cscrepctl（**インポート / エクスポート**）	382
cscrepdiff（**リポジトリ情報の差分の表示**）	385
cscrepls（**リポジトリ情報の表示**）	390
cscrepupdate（**リポジトリのアップデート**）	405
cscresinfo（**リソース稼働情報の表示**）	407
cscstatus（**状態表示**）	411
cscsetup（**本番環境の簡易セットアップ**）	415
cscsvcctl（**サービス情報の管理**）	417

cscsvcls（サービス情報の表示） 420
cscsvconfig（HCSC サーバランタイムの定義） 425
cscsvsetup（HCSC サーバのセットアップ） 427
cscsvstart（HCSC サーバの起動） 429
cscsvstop（HCSC サーバの停止） 432
cscsvunsetup（HCSC サーバのアンセットアップ） 435
cscutil（各種操作） 437
csmdeletehistory（電文の実行履歴情報テーブルのレコードの削除） 443
csmftpaddusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの登録・更新） 446
csmftpdelusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの削除） 449
csmftplsusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの表示） 451
csmftplshistory（転送履歴の表示） 452
csmlshistory（電文の実行履歴情報の表示） 456
csmlslocation（サービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報の表示） 465
csmlsreception（ユーザ定義受付の情報の表示） 470
csmlsstate（HCSC サーバの状態の表示） 474

5 定義ファイル 477
定義ファイルの種類 479
定義ファイルの入力形式 481
定義ファイルの文法の記述形式 482
HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル 483
HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル 485
HCSC サーバ構成定義ファイル 487
HCSC サーバセットアップ定義ファイル 494
HCSC サーバランタイム定義ファイル 515
ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル 531
HCSC-Manager 定義ファイル 532
サービス情報変更定義ファイル 539
SOAP Fault 動作定義ファイル 547
cscsetup コマンド定義ファイル 549
クライアント定義ファイル 551
FTP アダプタコマンド定義ファイル 553
FTP アダプタ実行環境プロパティファイル 554
アカウント定義ファイル 569

ファイル操作アダプタ定義ファイル 570
実行環境プロパティファイル 576
FTP 受付定義ファイル 579
FTP 受付コンフィグファイル 582
FTP 実行許可リスト定義ファイル 585
FTP コマンド許可リスト定義ファイル 588
リストコマンドオプション定義ファイル 591
TP1/RPC 受付定義ファイル 594

付録 597
付録 A　このマニュアルの参考情報 598
付録 A.1　関連マニュアル 598
付録 A.2　このマニュアルでの表記 601
付録 A.3　英略語 603
付録 A.4　KB（キロバイト）などの単位表記について 604
付録 B　用語解説 605

索引 619

1 画面（開発環境）

この章では，Cosminexus サービスプラットフォームの開発環境で使用する画面について説明します。

1.1 画面構成（開発環境）

1.2 画面一覧

1.3 バイナリフォーマット定義に関連するダイアログ

1.4 ビジネスプロセスに関連するダイアログ

1.5 ビジネスプロセスのデバッグに関連するダイアログ

1.6 データ変換に関連するダイアログ

1.7 ユーザ定義受付に関連するダイアログ

1.8 バイナリフォーマット定義画面の操作

1.9 ビジネスプロセス定義画面の操作

1.10 データ変換定義画面の操作

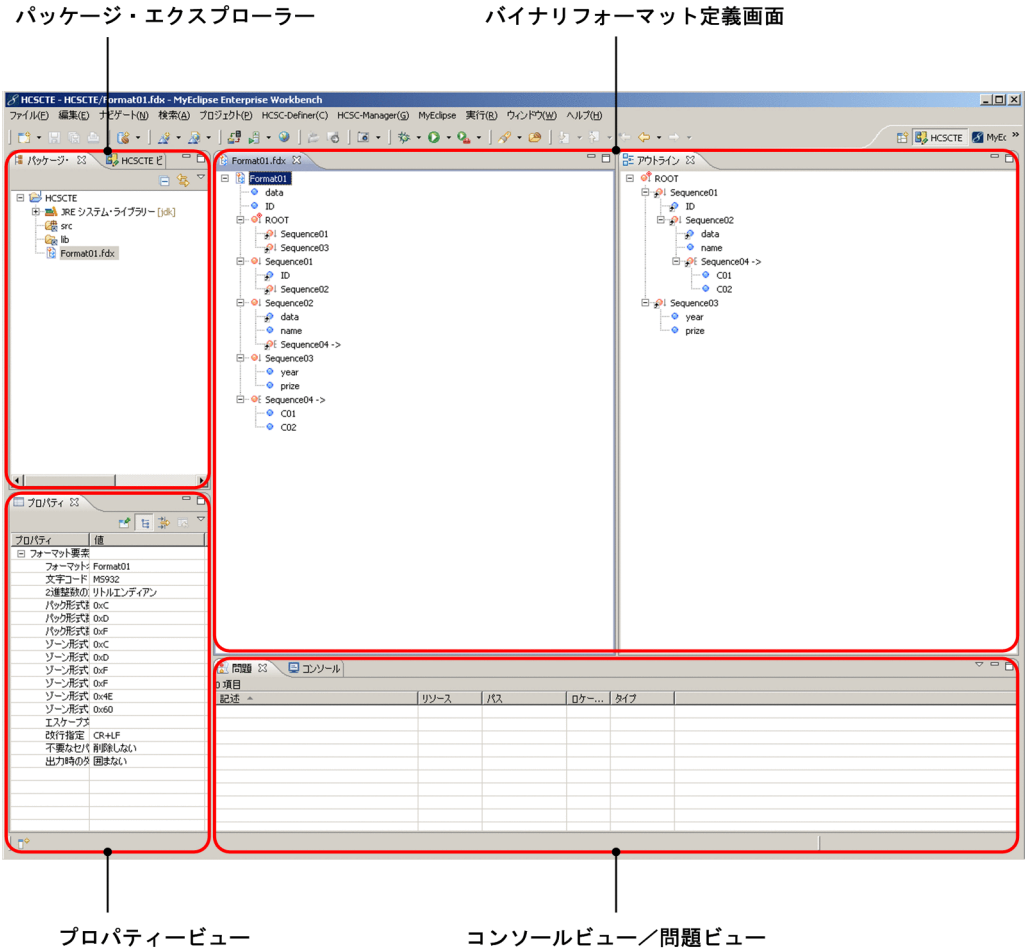
1.1 画面構成（開発環境）

開発環境で使用する画面の構成について説明します。

1.1.1 バイナリフォーマット定義ファイルを作成する画面の構成

バイナリフォーマット定義ファイルを作成する画面の構成を次の図に示します。

図 1-1 バイナリフォーマット定義ファイルを作成する画面の構成



パッケージ・エクスプローラー

バイナリフォーマット定義ファイルの一覧が表示されます。

バイナリフォーマット定義画面

バイナリフォーマット定義ファイルの内容を定義する画面です。バイナリフォー

マット定義エディタおよびアウトラインビューから構成されます。
バイナリフォーマット定義画面の詳細については，「1.2.1　バイナリフォーマット定義画面」を参照してください。

プロパティービュー

バイナリフォーマット定義画面で定義したバイナリフォーマット定義ファイルの情報や各要素の情報が表示されます。

コンソールビュー

バイナリフォーマット定義ファイルの検証結果が表示されます。

問題ビュー

バイナリフォーマット定義ファイルを検証した結果，問題があった場合に，問題点の一覧が表示されます。

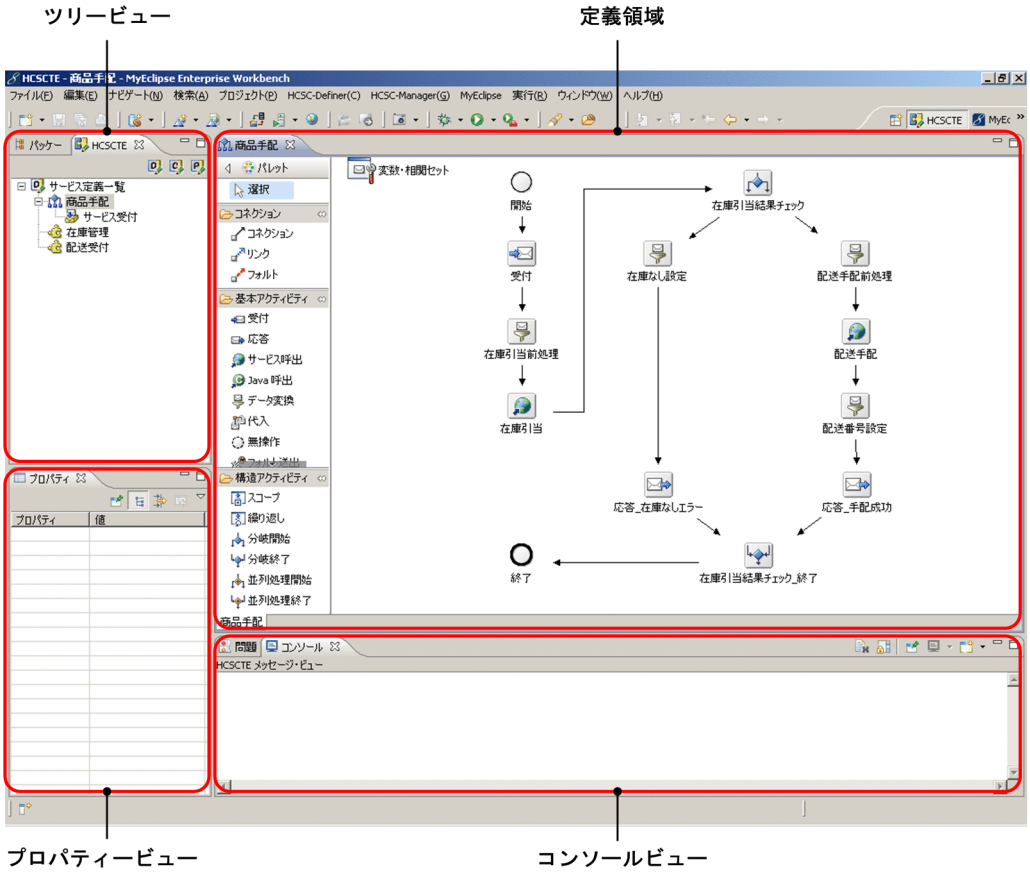
参考

Eclipse のパースペクティブによっては，初期状態で表示されないビューがあります。この場合，Eclipse のメニューから［ウィンドウ］－［ビューの表示］を選択して，必要なビューを開いてください。

1.1.2　HCSC コンポーネントおよびデータ変換定義を作成する画面の構成

HCSC コンポーネントおよびデータ変換定義を作成する画面の構成を次の図に示します。

図 1-2　HCSC コンポーネントおよびデータ変換定義を作成する画面の構成



ツリービュー

サービス定義一覧，公開サービス一覧，およびシステム構成定義一覧が表示されます。

定義領域

次のどれかの画面が表示されます。

- サービスアダプタ定義画面
- ビジネスプロセス定義画面
- データ変換定義画面
- ユーザ定義受付定義画面
- HCSC コンポーネント情報表示画面
- ユーザ定義受付情報表示画面

それぞれの画面の詳細については,「1.2　画面一覧」を参照してください。

プロパティービュー

定義領域で定義した HCSC コンポーネントの情報などが表示されます。

コンソールビュー

検証結果やエラー情報が表示されます。

1.2 画面一覧

開発環境で使用する画面の一覧を次の表に示します。

表 1-1 開発環境で使用する画面の一覧

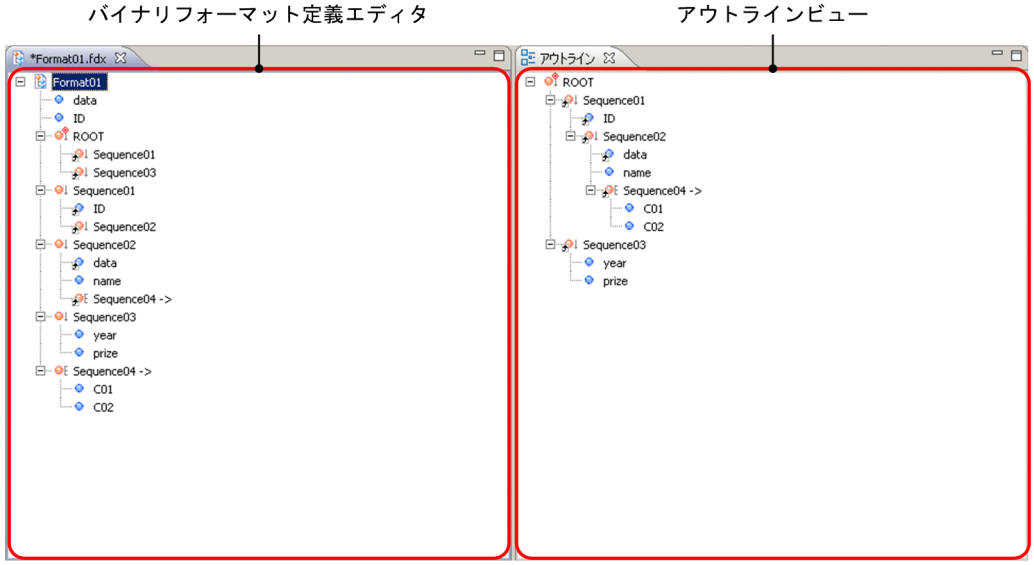
画面		説明
画面名	画面の構成要素（タブなど）	
バイナリフォーマット定義画面	バイナリフォーマット定義エディタ	バイナリフォーマット定義ファイルの内容を定義します。
	アウトラインビュー	バイナリフォーマット定義エディタで定義した各要素の関係が表示されます。
サービスアダプタ定義画面（Web サービスの場合）	基本定義	Web サービスの基本項目を定義します。
	詳細定義	Web サービスの詳細項目を定義します。
サービスアダプタ定義画面（SessionBean の場合）	基本定義	SessionBean の基本項目を定義します。
	詳細定義	SessionBean の詳細項目を定義します。
サービスアダプタ定義画面（MDB（WS-R）の場合）	基本定義	MDB（WS-R）の基本項目を定義します。
	詳細定義	MDB（WS-R）の詳細項目を定義します。
サービスアダプタ定義画面（MDB（DB キュー）の場合）	基本定義	MDB（DB キュー）の基本項目を定義します。
サービスアダプタ定義画面（カスタムアダプタの場合）	基本定義	カスタムアダプタの基本項目を定義します。
	詳細定義	カスタムアダプタの詳細項目を定義します。
ビジネスプロセス定義画面		ビジネスプロセスを定義します。
ビジネスプロセスのデバッグ画面		ビジネスプロセスをデバッグします。
データ変換定義画面		データ変換を定義します。
ユーザ定義受付定義画面		ユーザ定義受付の定義内容が表示されます。
HCSC コンポーネント情報表示画面		HCSC サーバの構成および HCSC コンポーネントの情報が表示されます。
ユーザ定義受付情報表示画面		ユーザ定義受付の情報が表示されます。

1.2.1　バイナリフォーマット定義画面

バイナリフォーマット定義ファイルを作成するためのバイナリフォーマット定義画面について説明します。

バイナリフォーマット定義ファイルの作成方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4　電文フォーマット（バイナリフォーマット定義ファイル）の作成方法」を参照してください。

図 1-3　バイナリフォーマット定義画面



バイナリフォーマット定義画面は，バイナリフォーマット定義エディタとアウトラインビューから構成されます。

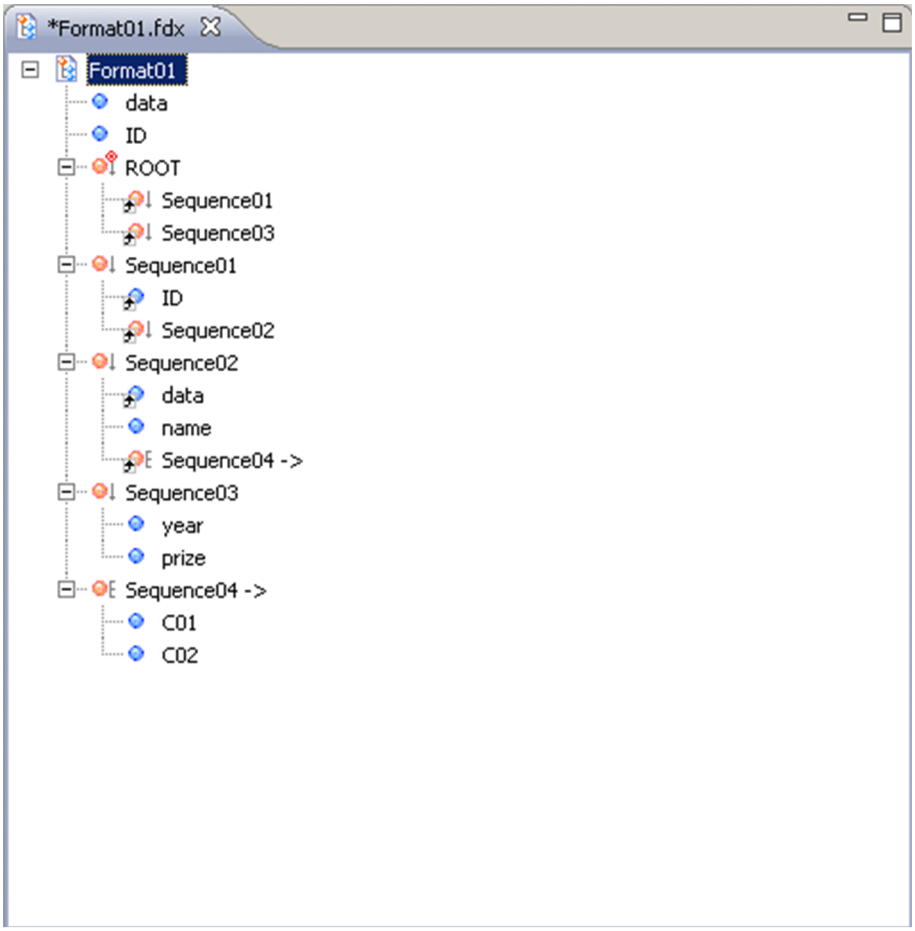
それぞれの表示内容について，次に説明します。

(1)　バイナリフォーマット定義エディタ

要素を設定してバイナリフォーマット定義ファイルの内容を定義します。定義した内容はツリー形式で表示されます。

バイナリフォーマット定義エディタの表示内容について説明します。

図 1-4　バイナリフォーマット定義エディタ



バイナリフォーマット定義ファイル名

バイナリフォーマット定義ファイルの名称です。
バイナリフォーマットエディタは，複数のバイナリフォーマット定義ファイルを開いて編集できます。編集するバイナリフォーマット定義ファイルの名称をクリックすると，編集の対象がアクティブになります。また，アウトラインビューの表示も切り替わります。

フォーマット（ ）

バイナリフォーマット定義ファイルのフォーマット名です。

ノード

バイナリフォーマット定義ファイル内に定義されている要素です。
フォーマットを基準に一つ目の階層はグローバル定義の要素です。二つ目の階層は複合内容要素の構成要素です。各ノードには，アイコンと要素名が表示されます。
なお，バイナリフォーマット定義エディタでノードを選択すると，アウトライン

ビューでも同じノードが選択状態になります。
各ノードの表示内容を次の表に示します。

表 1-2　バイナリフォーマット定義エディタに表示されるノード

区分	アイコン	説明
グローバル定義の要素		単純内容要素です。
		逐次構成の複合内容要素です。
		ルート要素に設定されている逐次構成の複合内容要素です。
		選択構成の複合内容要素です。
		ルート要素に設定されている選択構成の複合内容要素です。
複合内容要素の構成要素		構成要素として設定されている単純内容要素です。
		構成要素として設定されている逐次構成の複合内容要素です。
		構成要素として設定されている選択構成の複合内容要素です。
		ローカル定義の単純内容要素です。

検証の結果として，警告またはエラーが発生しているノードには，上で示すアイコンに警告またはエラーの発生を示すアイコン（警告： ，エラー： ）が付与されて表示されます。

出現回数

ノードに出現回数が設定されている場合に，次の形式で表示されます。

［最小出現回数:最大出現回数］

構成要素を設定したときに，出現回数をどのように設定したかによって，出現回数の表示は異なります。出現回数の表示と設定内容の関係を次の表に示します。

表 1-3　出現回数の表示と設定内容の関係

表示形式	出現回数の指定方法	説明
[n:n]	固定	n は固定の出現回数です。 最小出現回数と最大出現回数に同じ値が表示されます。例えば，出現回数が 3 回で固定の場合，[3:3] と表示されます。
[n:*]	データの終端まで	データを省略できる場合 　最小出現回数 n が 0 になり，[0:*] と表示されます。 データを省略できない場合 　最小出現回数 n が 1 になり，[1:*] と表示されます。

表示形式	出現回数の指定方法	説明
[0:*]->	ノード指定	最小出現回数は 0，最大出現回数は * で表示されます。また，ほかのノードを参照するノードであることを示す「->」が表示されます。
[n:m]	範囲指定	出現回数が n ～ m の範囲であることを示しています。

依存関係

ほかのノードを参照しているノード（依存ノード）の場合，「->」が表示されます。ただし，参照されているノード（ターゲットノード）には何も表示されません。
なお，依存関係の詳細情報（パスなど）は，プロパティービューに表示されます。

(2) アウトラインビュー

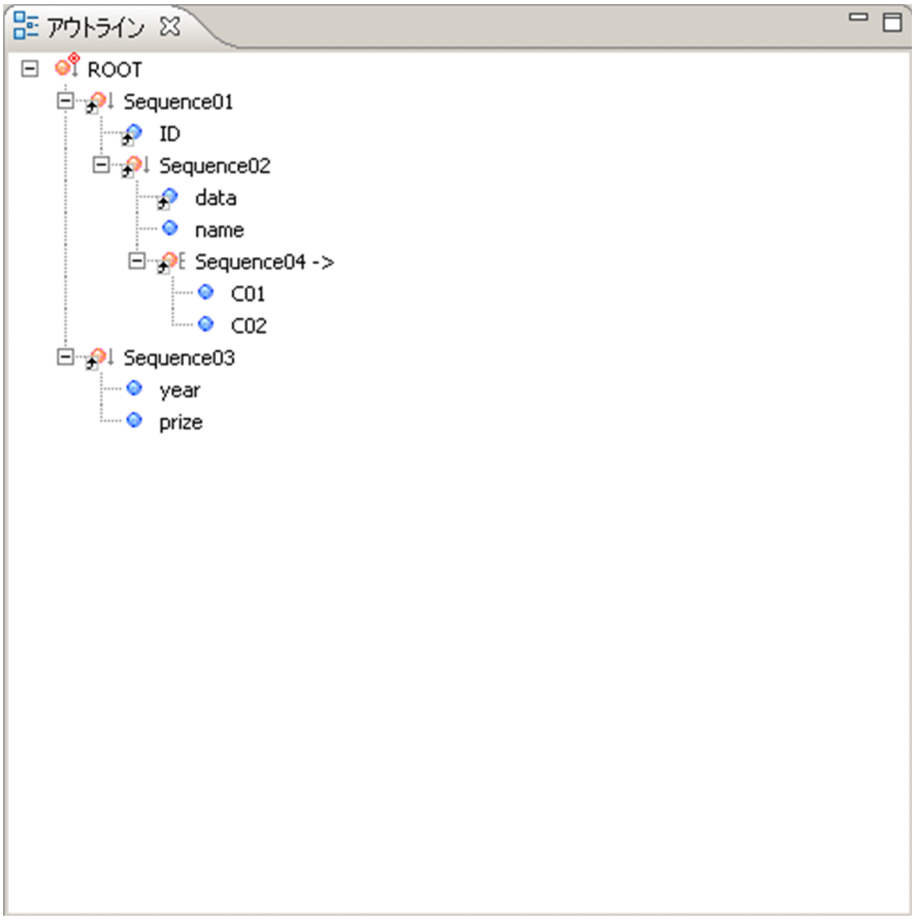
バイナリフォーマット定義エディタで定義した各要素の関係を確認できます。各要素の関係は，ルート要素を起点としたツリー形式で表現されます。

アウトラインビューの表示は，バイナリフォーマット定義エディタで要素を定義すると，自動的に更新されます。アウトラインビューでは要素を定義できません。

なお，アウトラインビューに表示されているノード（ルート要素および構成要素）を選択すると，バイナリフォーマット定義エディタでも同じノードが選択状態になります。

アウトラインビューの表示内容について説明します。

図 1-5 アウトラインビュー



ノード

バイナリフォーマット定義ファイル内に定義されている要素です。
各ノードの表示内容を次の表に示します。

表 1-4 アウトラインビューに表示されるノード

区分	アイコン	説明
ルート要素		ルート要素に設定されている逐次構成の複合内容要素です。
		ルート要素に設定されている選択構成の複合内容要素です。
構成要素		構成要素として設定されている単純内容要素です。
		構成要素として設定されている逐次構成の複合内容要素です。
		構成要素として設定されている選択構成の複合内容要素です。

区分	アイコン	説明
		ローカル定義の単純内容要素です。

検証の結果として，警告またはエラーが発生しているノードには，上で示すアイコンに警告またはエラーの発生を示すアイコン（警告： ，エラー： ）が付与されて表示されます。

1.2.2 サービスアダプタ定義画面

サービスアダプタまたは DB アダプタ（カスタムアダプタ）を定義するときのサービスアダプタ定義画面について説明します。

画面の表示方法，およびサービスアダプタの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「5.3.1　サービスアダプタ（Web サービス）を定義する」を参照してください。

DB アダプタの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「5.3.5　DB アダプタを定義する」を参照してください。

注意事項

サービスアダプタ定義画面では，入力項目の前後に半角スペースや全角スペースを指定できません。ただし，MDB（WS-R）の詳細画面の［転送キュー作成先 RD エリア名］には，末尾に半角スペースを指定できます。

（1） Web サービスの場合

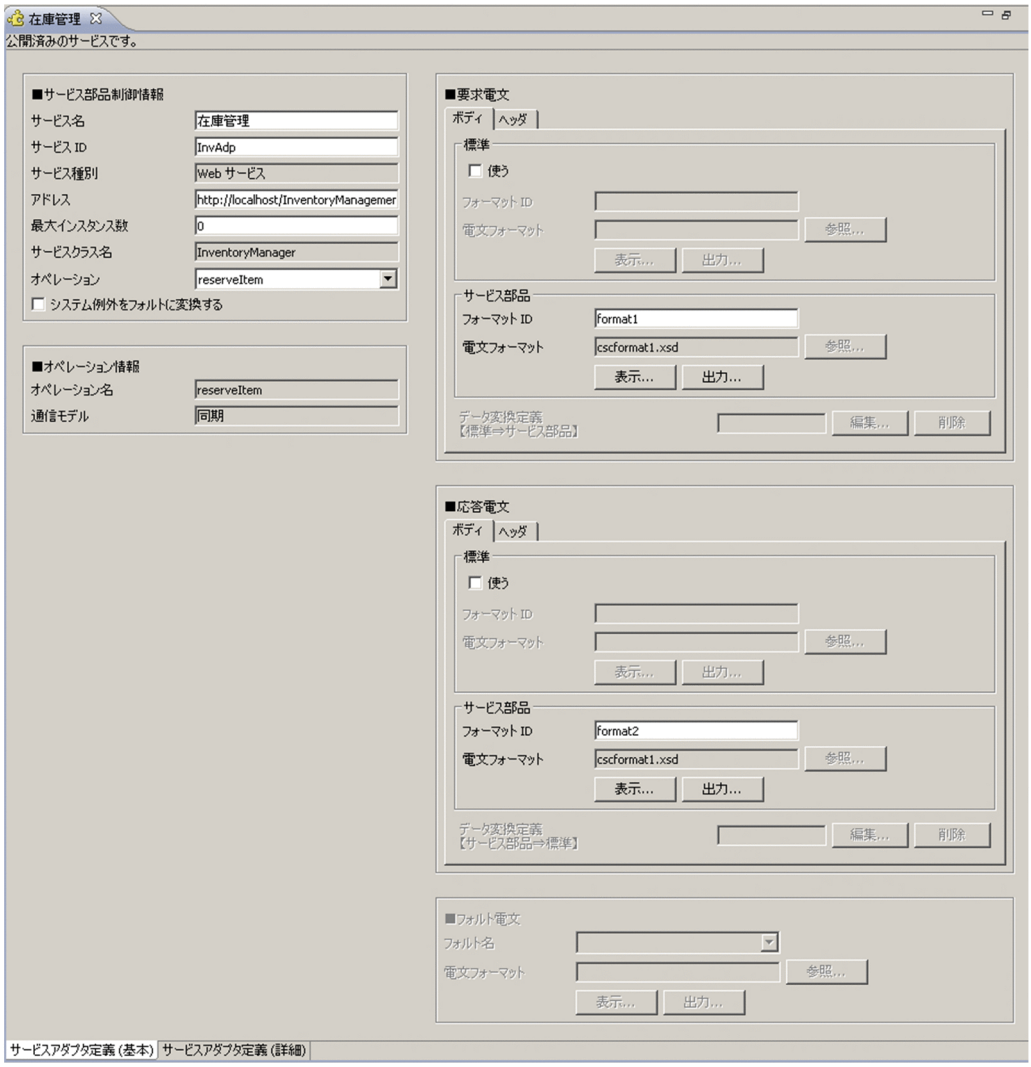
Web サービスに対応するサービスアダプタを定義する場合の画面について説明します。

（a） Web サービスの基本画面

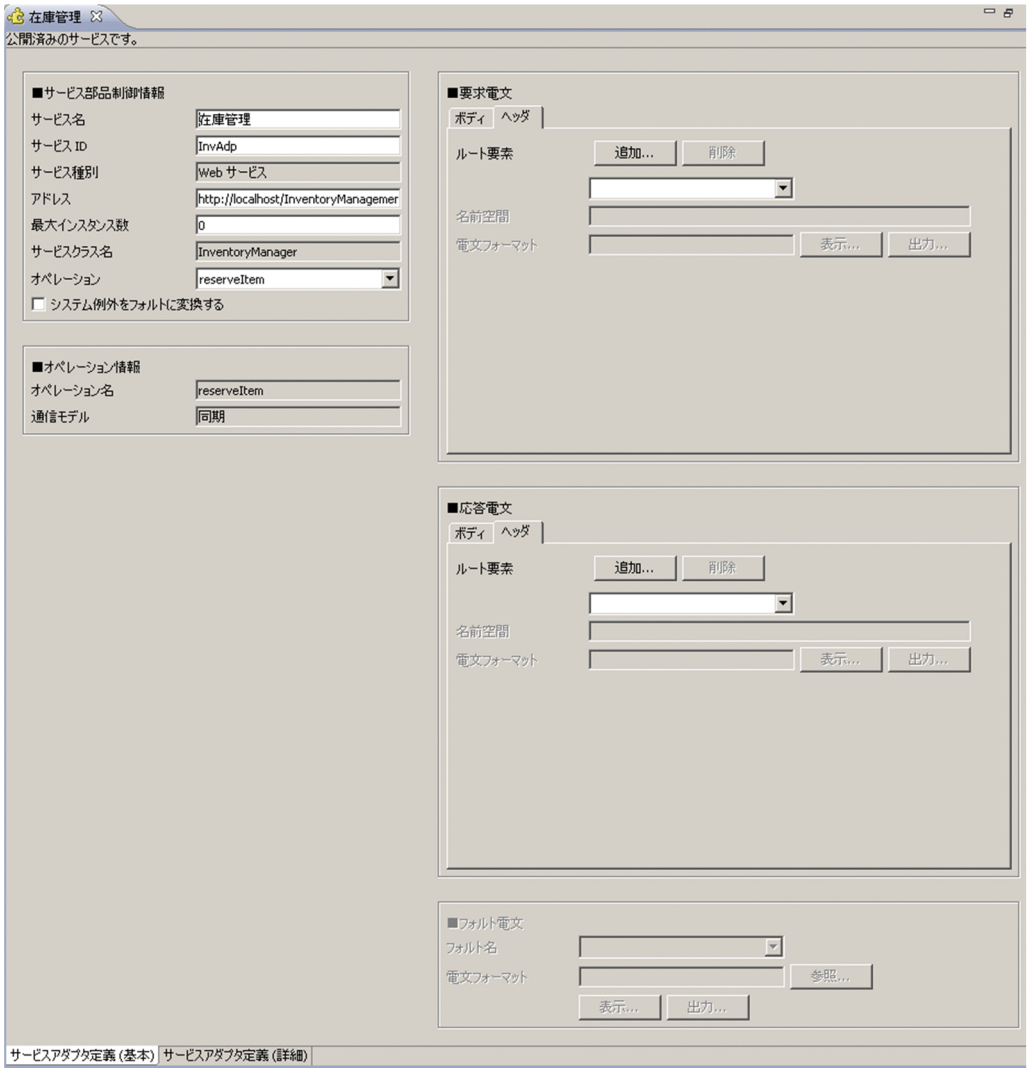
Web サービスの基本画面の項目について説明します。

図 1-6　サービスアダプタ定義画面（Web サービスの基本画面）

［ボディ］タブを表示した状態



［ヘッダ］タブを表示した状態



(i) **［サービス部品制御情報］**

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品についての情報が表示されます。

［サービス名］

HCSC コンポーネントの名称が表示されます。

［サービス ID］

HCSC コンポーネントの ID が表示されます。サービス ID は，8 バイト以内の英数字およびアンダーライン（_）で指定します。

[サービス種別]
サービス部品の種別として「Web サービス」が表示されます。

[アドレス]
サービス部品のある URL が表示されます。

[最大インスタンス数]
サービス部品の最大インスタンス数が表示されます。

[サービスクラス名]
サービス部品のクラス名が表示されます。

[オペレーション]
オペレーション名が表示されます。サービス部品が持つオペレーション名をドロップダウンリストから選択できます。

[システム例外をフォルトに変換する] チェックボックス
サービス部品で発生した例外をフォルトに変換する場合にチェックします。

(ii) **[オペレーション情報]**
サービス部品のオペレーションについての情報が表示されます。

[オペレーション名]
サービス部品制御情報のオペレーション欄で選択したオペレーションの名称が表示されます。

[通信モデル]
サービス部品制御情報のオペレーション欄で選択したオペレーションの通信モデルとして「同期」が表示されます。

(iii) **[要求電文]**
サービスリクエスタから送信される要求電文の情報が表示されます。

[ボディ] タブ

- **[標準]**

[使う] チェックボックス
サービスリクエスタから受け付けた標準電文の内容を確認したり，標準電文をサービス部品電文のフォーマットにデータ変換したりする場合にチェックします。

[フォーマット ID]
サービスリクエスタから受け付けた標準電文のフォーマットの ID が表示されます。フォーマットの ID は変更できます。

[電文フォーマット]
サービスリクエスタから受け付けた標準電文のフォーマット名が表示されます。電文フォーマットは変更できます。

[参照] ボタン
標準電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。

［表示］ボタン

標準電文のフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

標準電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・［サービス部品］

［フォーマット ID］

サービス部品の電文フォーマットの ID が「formatN」（N は 1 以上の整数）の形式で自動的に割り当てられます。フォーマットの ID は変更できます。

［電文フォーマット］

サービス部品の電文フォーマット名が表示されます。電文フォーマットは，サービス部品電文のオペレーションの要求電文に該当する WSDL から自動生成されます。変更はできません。

［参照］ボタン

このボタンは使用しません。

［表示］ボタン

サービス部品の電文フォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

サービス部品の電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・［データ変換］

［データ変換定義］

標準電文からサービス部品電文へデータ変換するための定義ファイル名を入力します。

［編集］ボタン

データ変換定義画面が表示されます。データ変換定義欄で設定した定義ファイルの内容を編集できます。初めて定義する場合は，［ルート要素選択］ダイアログが表示されます。電文フォーマットを変更した場合は，電文フォーマットの変更を反映するかを確認するダイアログが表示されます。

［削除］ボタン

［編集］ボタンで設定したデータ変換定義を削除します。

［ヘッダ］タブ

・［ルート要素］

ルート要素が表示されます。ドロップダウンリストに表示されるルート要素の一覧は，ボタンで追加・削除できます。

［追加］ボタン

電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。電文フォーマットを設定したあと，その電文フォーマットに含まれるルート要素を追加できます。

［削除］ボタン

［ルート要素］に表示されているルート要素を削除します。削除するルート要素はドロップダウンリストから選択できます。

- **［名前空間］**

［ルート要素］に表示されているルート要素の名前空間が表示されます。

- **［電文フォーマット］**

［ルート要素］に表示されているルート要素を含んだ電文フォーマット名が表示されます。

［表示］ボタン

ルート要素を含んだ電文のフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

(iv) **［応答電文］**

サービス部品から送信される応答電文の情報が表示されます。

［ボディ］タブ

- **［標準］**

［使う］チェックボックス

サービス部品から受け付けたサービス部品電文の内容を確認したり，サービス部品電文を標準電文のフォーマットにデータ変換したりする場合にチェックします。

［フォーマット ID］

サービス部品から受け付けた標準電文のフォーマットの ID が表示されます。フォーマットの ID は変更できます。

［電文フォーマット］

サービス部品から受け付けた標準電文のフォーマット名が表示されます。電文フォーマットは変更できます。

［参照］ボタン

標準電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。

［表示］ボタン

標準電文のフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

標準電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

- **［サービス部品］**

［フォーマット ID］

サービス部品の電文フォーマットの ID が「formatN」（N は 1 以上の整数）の形式で自動的に割り当てられます。フォーマットの ID は変更できます。

［電文フォーマット］

サービス部品の電文フォーマット名が表示されます。電文フォーマットは，サービス部品電文のオペレーションの応答電文に該当する WSDL から自動生成されます。変更はできません。

［参照］ボタン

このボタンは使用しません。

［表示］ボタン

サービス部品電文のフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

サービス部品の電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・［データ変換］

［データ変換定義］

サービス部品電文から標準電文へデータ変換するための定義ファイル名を入力します。

［編集］ボタン

データ変換定義画面が表示されます。データ変換定義欄で設定した定義ファイルの内容を編集できます。初めて定義する場合は，［ルート要素選択］ダイアログが表示されます。電文フォーマットを変更した場合は，電文フォーマットの変更を反映するかを確認するダイアログが表示されます。

［削除］ボタン

［編集］ボタンで指定したデータ変換定義を削除します。

［ヘッダ］タブ

・［ルート要素］

ルート要素が表示されます。ドロップダウンリストに表示されるルート要素の一覧は，ボタンで追加・削除できます。

［追加］ボタン

電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。電文フォーマットを設定したあと，その電文フォーマットに含まれるルート要素を追加できます。

［削除］ボタン

［ルート要素］に表示されているルート要素を削除します。削除するルート要素はドロップダウンリストから選択できます。

・［名前空間］

［ルート要素］に表示されているルート要素の名前空間が表示されます。

・［電文フォーマット］

［ルート要素］に表示されているルート要素を含んだ電文フォーマット名が表示されます。

［表示］ボタン

ルート要素を含んだフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

(v)［フォルト電文］

サービス部品のフォルト電文についての情報が表示されます。

［フォルト名］

サービス部品のフォルトの名称が表示されます。

［電文フォーマット］

サービス部品のフォルト電文のフォーマット名が表示されます。

［参照］ボタン

このボタンは使用しません。

［表示］ボタン

フォルト電文のフォーマットが表示されます。

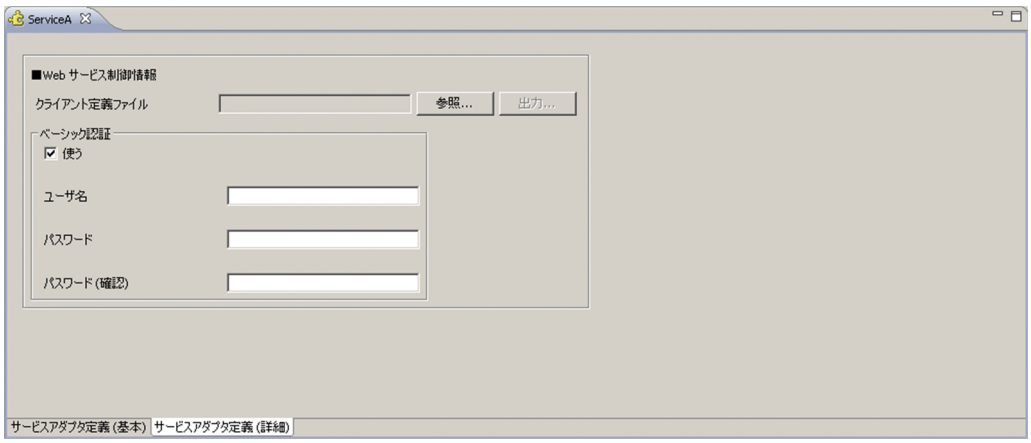
［出力］ボタン

フォルト電文のフォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

（b）Web サービスの詳細画面

Web サービスの詳細画面の項目について説明します。

図 1-7　サービスアダプタ定義画面（Web サービスの詳細画面）



(i)［Web サービス制御情報］

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品について，サービス種別ごとの情報が表示されます。

・クライアント定義ファイル

［クライアント定義ファイル］

［参照］ボタンで設定したクライアント定義ファイル名が表示されます。

［参照］ボタン

クライアント定義ファイルを設定するダイアログが表示されます。

［出力］ボタン

クライアント定義ファイルの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・ベーシック認証

［ベーシック認証］

［使う］チェックボックス

サービス部品で，ベーシック認証を使用している場合にチェックします。

［ユーザ名］

英数字および記号を半角で入力します。バイト長の制限はありません。

［パスワード］

40 バイト以内の英数字および記号を半角で入力します。

［パスワード（確認）］

パスワード欄で入力したパスワードを再度入力します。

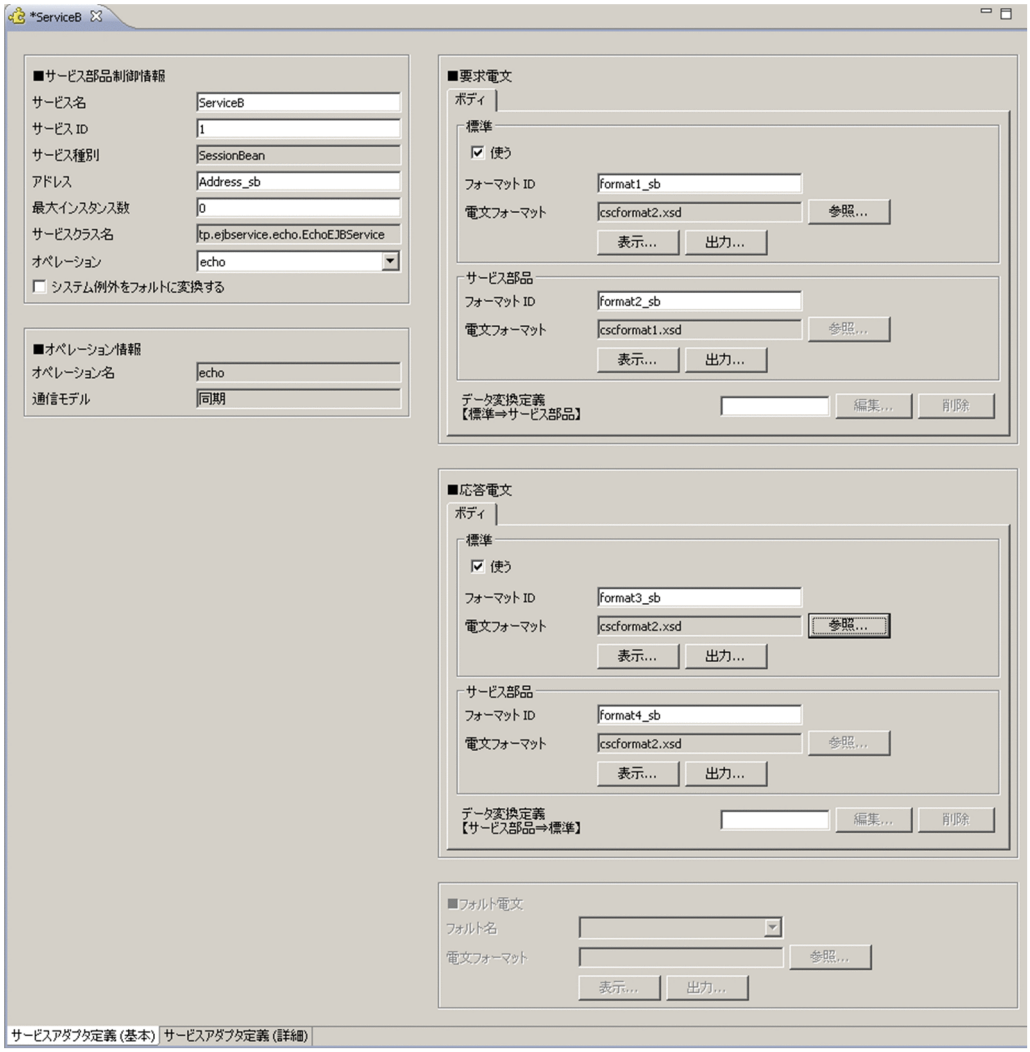
（2） SessionBean の場合

SessionBean に対応するサービスアダプタを定義する場合の画面について説明します。

（a） SessionBean の基本画面

SessionBean の基本画面の項目について説明します。

図 1-8　サービスアダプタ定義画面（SessionBean の基本画面）



(i) **［サービス部品制御情報］**

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品についての情報が表示されます。

［サービス種別］

サービス部品の種別として「SessionBean」が表示されます。

［アドレス］

JNDI 名前空間に登録されている，呼び出すサービス部品の名称を入力します。リモート呼び出しとなるようにアドレスを指定します（ローカル呼び出しはできません）。

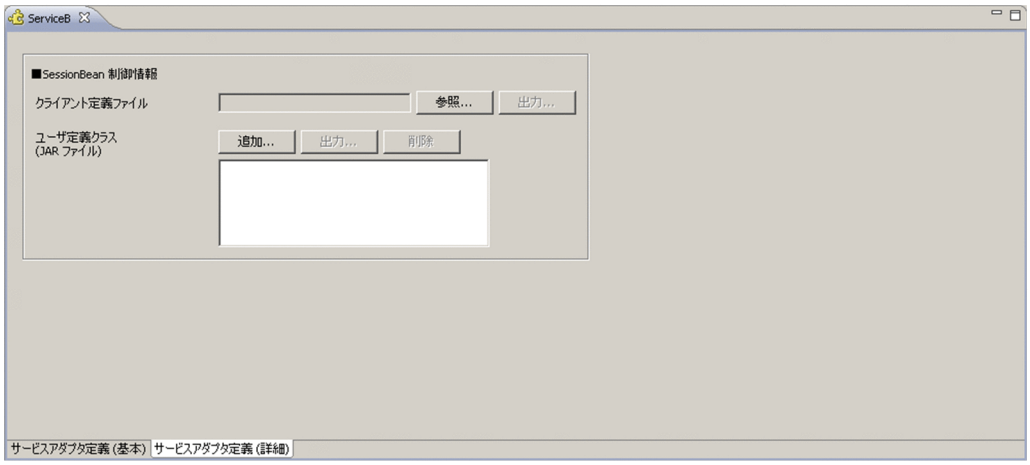
SessionBean の場合は，フォルト電文の情報は表示されません。

上記以外の各項目は，Web サービスの基本画面と同様です。Web サービスの基本画面の項目については，「1.2.2(1)(a) Web サービスの基本画面」を参照してください。

(b) SessionBean の詳細画面

SessionBean の詳細画面の項目について説明します。

図 1-9 サービスアダプタ定義画面（SessionBean の詳細画面）



(i)［SessionBean 制御情報］

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品について，サービス種別ごとの情報が表示されます。

・クライアント定義ファイル

［クライアント定義ファイル］

クライアント定義ファイル名が表示されます。

［参照］ボタン

クライアント定義ファイルを設定するダイアログが表示されます。

［出力］ボタン

クライアント定義ファイルの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・ユーザ定義クラス

［ユーザ定義クラス（JAR ファイル）］

［追加］ボタンで設定したユーザ定義クラス（JAR ファイル）名が表示されます。

［追加］ボタン

ユーザ定義クラス（JAR ファイル）を設定するダイアログが表示されます。選択する JAR ファイルの拡張子は，すべて小文字の「jar」としてください。

［出力］ボタン

ユーザ定義クラス（JAR ファイル）の出力先を指定するダイアログが表示されます。

［削除］ボタン

ユーザ定義クラス欄で選択した JAR ファイルを削除します。

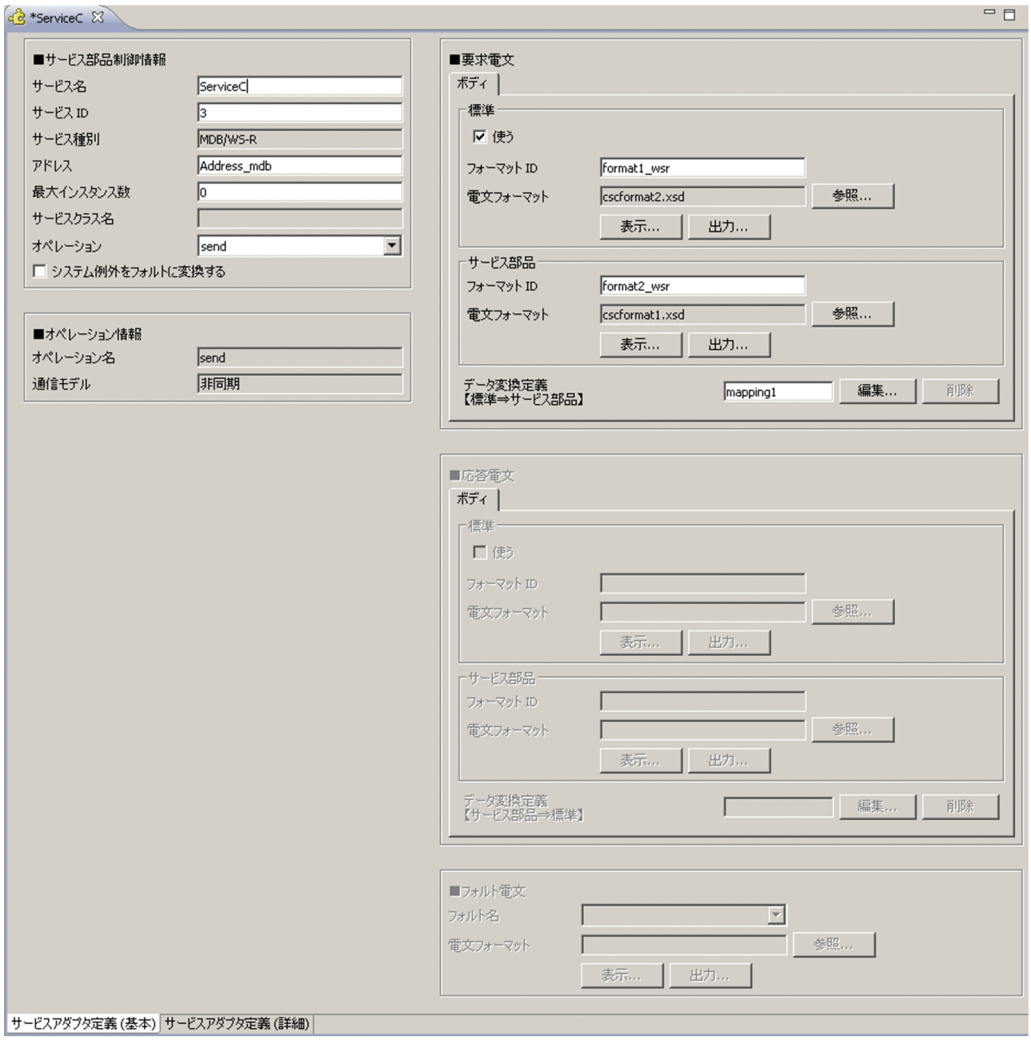
（3） MDB（WS-R）の場合

MDB（WS-R）に対応するサービスアダプタを定義する場合の画面について説明します。

（a） MDB（WS-R）の基本画面

MDB（WS-R）の基本画面の項目について説明します。

図 1-10　サービスアダプタ定義画面（MDB（WS-R）の基本画面）



(i)［サービス部品制御情報］

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品についての情報が表示されます。

［サービス種別］

サービス部品の種別として「MDB/WS-R」が表示されます。

［アドレス］

サービス部品に関連づけられているキュー名を入力します。

［サービスクラス名］

この項目は使用しません。

(ii)［オペレーション情報］

サービス部品のオペレーションについての情報が表示されます。

［通信モデル］

サービス部品制御情報のオペレーション欄で選択したオペレーションの通信モデルとして「非同期」が表示されます。

(iii)［要求電文］

・［サービス部品］

［フォーマット ID］

サービス部品の電文フォーマットの ID を入力します。フォーマットの ID は変更できます。

［電文フォーマット］

サービス部品電文のフォーマット名を入力します。電文フォーマットは変更できます。

［参照］ボタン

サービス部品電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。

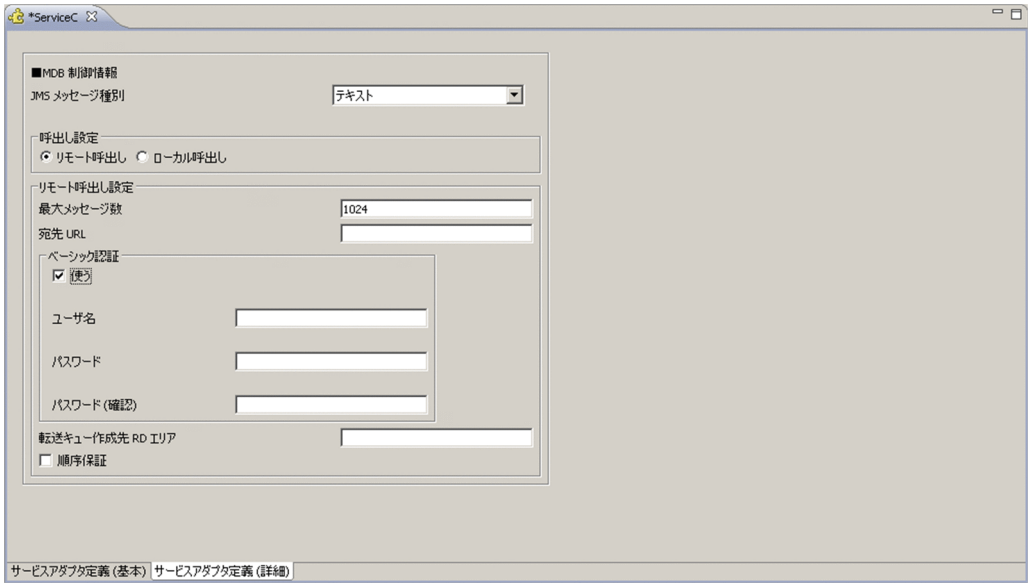
MDB（WS-R）の場合は，応答電文，およびフォルト電文の情報は表示されません。

上記以外の項目は，Web サービスの基本画面と同様です。Web サービスの基本画面の項目については，「1.2.2(1)(a) Web サービスの基本画面」を参照してください。

(b) MDB（WS-R）の詳細画面

MDB（WS-R）の詳細画面の項目について説明します。

図 1-11　サービスアダプタ定義画面（MDB（WS-R）の詳細画面）



(i) **[MDB 制御情報]**

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品について，サービス種別ごとの情報が表示されます。

[JMS メッセージ種別]

サービス部品の JMS メッセージ種別が表示されます。次に示すメッセージ種別をドロップダウンリストから選択します。

- テキスト
- バイト
- オブジェクト

・[呼出し設定]

[リモート呼出し] ラジオボタン

サービス部品をリモート呼出しする場合に選択します。選択すると，リモート呼出し設定の各項目が活性化し，入力できる状態になります。

[ローカル呼出し] ラジオボタン

サービス部品をローカル呼出しする場合に選択します。選択すると，リモート呼出し設定の各項目が非活性化し，入力できない状態になります。

・[リモート呼出し設定]

[最大メッセージ数]

サービス部品が送信できる電文の最大数を設定します。設定できる値は 1 ～ 65535 です。

[宛先 URL]
非同期時の応答結果の受信先 URL を設定します。

- **[ベーシック認証]**

[使う] チェックボックス
サービス部品で，ベーシック認証を使用している場合にチェックします。

[ユーザ名]
英数字および記号を半角で入力します。バイト長の制限はありません。

[パスワード]
40 バイト以内の英数字および記号を半角で入力します。

[パスワード（確認）]
パスワード欄で入力したパスワードを再度入力します。

[転送キュー作成先 RD エリア名]
転送キューの作成先 RD エリア名を指定します。なお，この項目の末尾には半角スペースを指定できます。

[順序保証] チェックボックス
Cosminexus RM で転送の順序を保障する場合にチェックします。

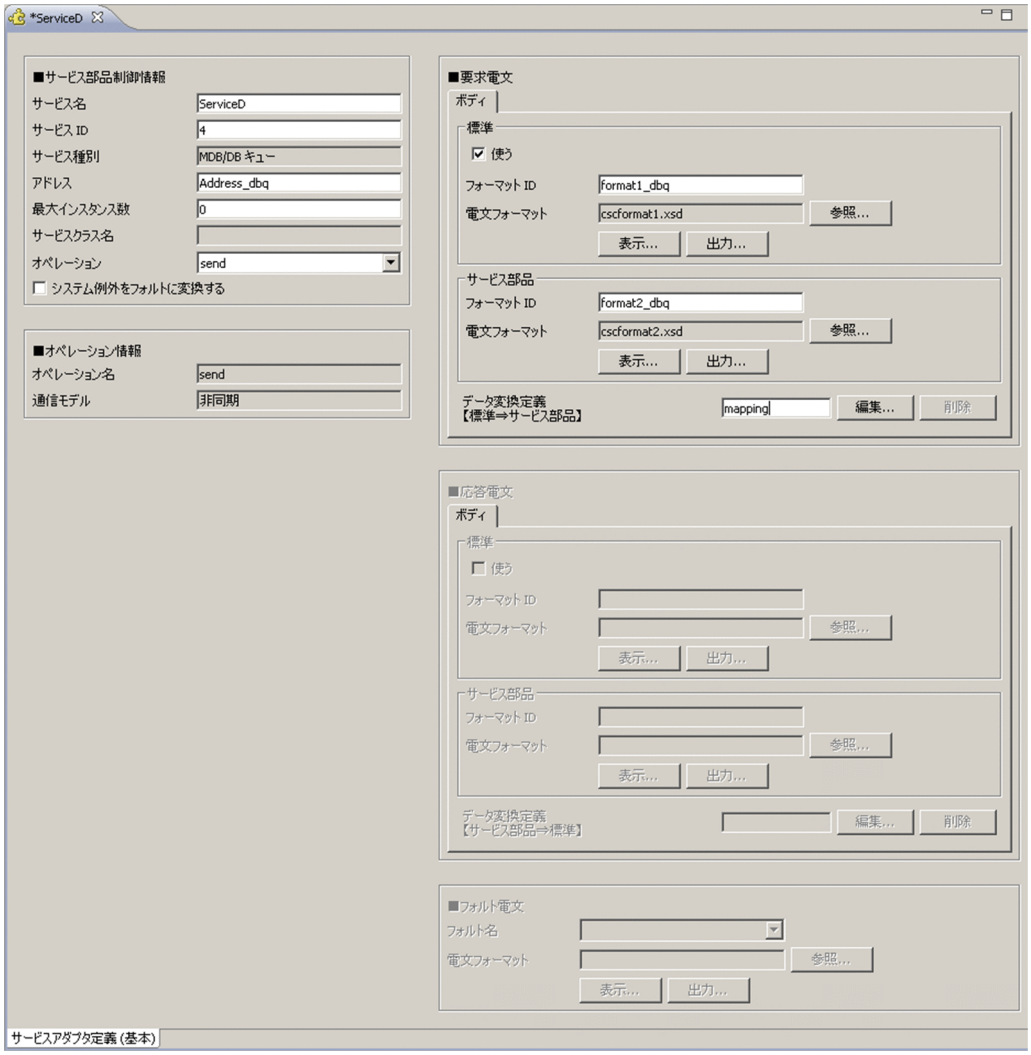
（4） MDB（DB キュー）の場合

MDB（DB キュー）に対応するサービスアダプタを定義する場合の画面について説明します。

（a） MDB（DB キュー）の基本画面

MDB（DB キュー）の基本画面の項目について説明します。

図 1-12　サービスアダプタ定義画面（MDB（DB キュー）の基本画面）



(i) **［サービス部品制御情報］**

サービスアダプタ新規作成時に指定したサービス部品についての情報が表示されます。

［サービス種別］

サービス部品の種別として「MDB/DB キュー」が表示されます。

上記以外の項目は，MDB（WS-R）の基本画面と同様です。MDB（WS-R）の基本画面の項目については，「1.2.2(3)(a) MDB（WS-R）の基本画面」を参照してください。

なお，MDB（DB キュー）には，詳細画面はありません。

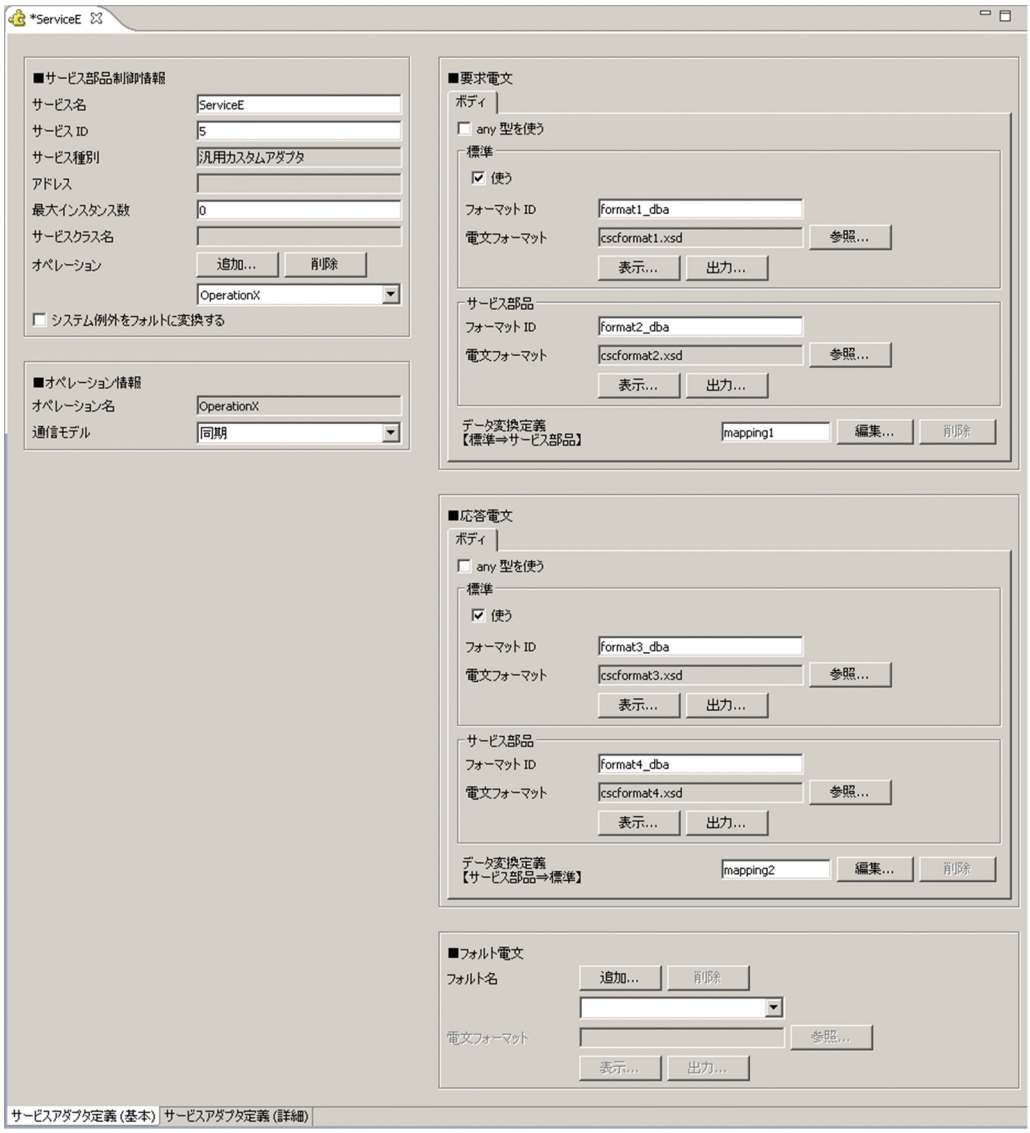
(5) カスタムアダプタの場合

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）を定義する場合の画面について説明します。

(a) カスタムアダプタの基本画面

カスタムアダプタの基本画面の項目について説明します。

図 1-13 サービスアダプタ定義画面（カスタムアダプタの基本画面）



(i) [サービス部品制御情報]

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）新規作成時に指定したサービス部品についての情報が表示されます。

[サービス名]
HCSC コンポーネントの名称が表示されます。

[サービス ID]
HCSC コンポーネントの ID が表示されます。サービス ID は，8 バイト以内の英数字およびアンダーライン（_）で指定します。

[サービス種別]
サービス部品の種別として「汎用カスタムアダプタ」が表示されます。

[アドレス]
この項目は使用しません。

[最大インスタンス数]
サービス部品の最大インスタンス数が表示されます。

[サービスクラス名]
この項目は使用しません。

[オペレーション]
オペレーション名が表示されます。サービス部品が持つオペレーション名をドロップダウンリストから選択できます。

[システム例外をフォルトに変換する] チェックボックス
サービス部品で発生した例外をフォルトに変換する場合にチェックします。

[追加] ボタン
オペレーションを追加するダイアログが表示されます。

[削除] ボタン
オペレーション欄で選択したオペレーションを削除します。

(ii) **[オペレーション情報]**
サービス部品のオペレーションについての情報が表示されます。

[オペレーション名]
サービス部品制御情報のオペレーション欄で選択したオペレーションの名称が表示されます。

[通信モデル]
サービス部品制御情報のオペレーション欄で選択したオペレーションの通信モデルが表示されます。同期または非同期をドロップダウンリストから選択できます。選択内容によって，次のように表示が変わります。

- 同期を選択した場合：応答電文とフォルト電文の情報が表示されます。
- 非同期を選択した場合：応答電文とフォルト電文の情報は表示されません。非同期のまま，アダプタ定義を保存すると，応答電文とフォルト電文の全項目は消えます。

(iii) **[要求電文]**
サービスリクエスタから送信される要求電文の情報が表示されます。

［any 型を使う］チェックボックス

データの型を指定しないでアダプタを作成する場合にチェックします。

- **［標準］**

［使う］チェックボックス

サービスリクエスタから受け付けた標準電文の内容を確認したり，標準電文をカスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマットにデータ変換したりする場合にチェックします。

［フォーマット ID］

サービスリクエスタから受け付けた標準電文のフォーマット ID が表示されます。フォーマットの ID は変更できます。

［電文フォーマット］

サービスリクエスタから受け付けた標準電文のフォーマット名が表示されます。電文フォーマットは変更できます。

［参照］ボタン

標準電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。

［表示］ボタン

標準電文のフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

標準電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

- **［サービス部品］**

［フォーマット ID］

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）の ID を入力します。フォーマットの ID は変更できます。

［電文フォーマット］

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）名を入力します。電文フォーマットは変更できます。

［参照］ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマットファイル（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）を設定するダイアログが表示されます。

［表示］ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）が表示されます。

［出力］ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマット（DB アダプタ用

の XML フォーマット定義ファイル）の出力先を指定するダイアログが表示されます。

- **[データ変換]**

[データ変換定義]

標準電文からカスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文へデータ変換するための定義ファイル名を入力します。

[編集] ボタン

データ変換定義画面が表示されます。データ変換定義欄で設定した定義ファイルの内容を編集できます。初めて定義する場合は，［ルート要素選択］ダイアログが表示されます。電文フォーマットを変更した場合は，電文フォーマットの変更を反映するかを確認するダイアログが表示されます。

[削除] ボタン

［編集］ボタンで設定したデータ変換定義を削除します。

(iv) **[応答電文]**

サービス部品から送信される応答電文の情報が表示されます。
オペレーション情報の通信モデル欄で，「同期」を選択した場合だけ，設定できます。

[any 型を使う] チェックボックス

データの型を指定しないでアダプタを作成する場合にチェックします。

- **[標準]**

[使う] チェックボックス

サービス部品から受け付けたカスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文の内容を確認したり，カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文を標準電文のフォーマットにデータ変換したりする場合にチェックします。

[フォーマット ID]

サービス部品から受け付けた標準電文のフォーマットの ID が表示されます。
フォーマットの ID は変更できます。

[電文フォーマット]

サービス部品から受け付けた標準電文のフォーマット名が表示されます。電文フォーマットは変更できます。

[参照] ボタン

標準電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。

[表示] ボタン

標準電文フォーマットが表示されます。

[出力] ボタン

標準電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・[サービス部品]

[フォーマット ID]

サービス部品の電文フォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）の ID が表示されます。フォーマットの ID は変更できます。

[電文フォーマット]

サービス部品の電文フォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）名が表示されます。電文フォーマットは変更できます。

[参照] ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文のフォーマットファイル（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）を設定するダイアログが表示されます。

[表示] ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）のフォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）が表示されます。

[出力] ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）のフォーマット（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイル）の出力先を指定するダイアログが表示されます。

・[データ変換]

[データ変換定義]

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）電文から標準電文へデータ変換するための定義ファイル名を入力します。

[編集] ボタン

データ変換定義画面が表示されます。データ変換定義欄で設定した定義ファイルの内容を編集できます。初めて定義する場合は，［ルート要素選択］ダイアログが表示されます。電文フォーマットを変更した場合は，電文フォーマットの変更を反映するかを確認するダイアログが表示されます。

[削除] ボタン

［編集］ボタンで指定したデータ変換定義を削除します。

(v) [フォルト電文]

サービス部品のフォルト電文についての情報が表示されます。

[追加] ボタン

フォルト名を追加するダイアログが表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

[削除] ボタン

フォルト名欄で選択したフォルト名を削除します。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

［フォルト名］

サービス部品のフォルトの名称が表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，この欄は使用しません。

［電文フォーマット］

サービス部品のフォルト電文のフォーマット名が表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，この欄は使用しません。

［参照］ボタン

フォルト電文のフォーマットを設定するダイアログが表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

［表示］ボタン

フォルト電文のフォーマットが表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

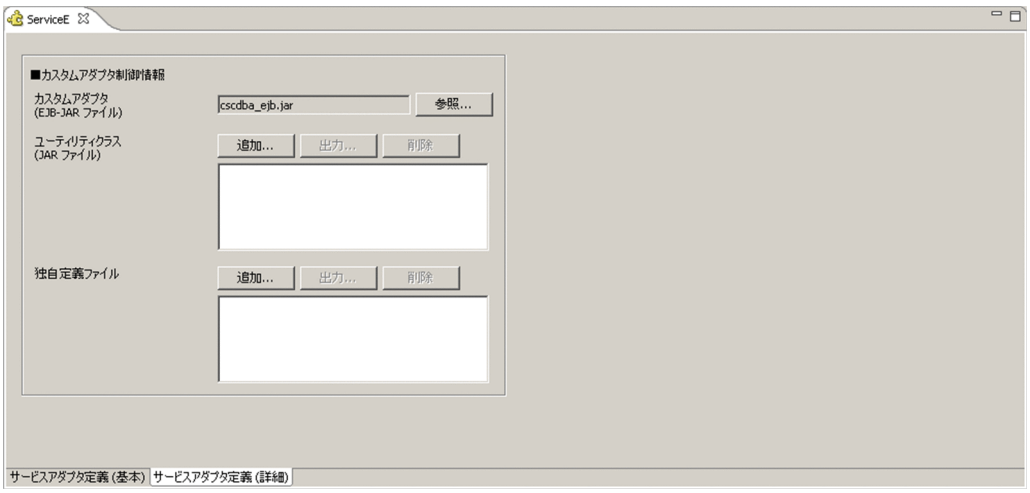
［出力］ボタン

フォルト電文のフォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

(b) カスタムアダプタの詳細画面

カスタムアダプタの詳細画面の項目について説明します。

図 1-14　サービスアダプタ定義画面（カスタムアダプタの詳細画面）



(i) **［カスタムアダプタ制御情報］**

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）新規作成時に指定したサービス部品についての情報が表示されます。

・カスタムアダプタ

［カスタムアダプタ（EJB-JAR ファイル）］

［参照］ボタンで設定したカスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の EJB-JAR ファイルの名称が表示されます。

［参照］ボタン

カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の EAR ファイル名を設定するダイアログが表示されます。

・ユーティリティクラス

［ユーティリティクラス（JAR ファイル）］

［追加］ボタンで設定したユーティリティクラスが表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，この欄は使用しません。

［追加］ボタン

ユーティリティクラスを追加するダイアログが表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

［出力］ボタン

ユーティリティクラスの出力先を指定するダイアログが表示されます。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

［削除］ボタン

ユーティリティクラス欄で選択したファイルを削除します。カスタムアダプタ（DB アダプタを含む）の定義では，このボタンは使用しません。

・独自定義ファイル

［独自定義ファイル］

［追加］ボタンで設定した SQL オペレーション定義ファイル，およびアプリケーション統合属性ファイルが表示されます。

［追加］ボタン

独自定義ファイル（SQL オペレーション定義ファイルおよびアプリケーション統合属性ファイル）を追加するダイアログが表示されます。

［出力］ボタン

独自定義ファイル（SQL オペレーション定義ファイルおよびアプリケーション統合属性ファイル）の出力先を指定するダイアログが表示されます。

［削除］ボタン

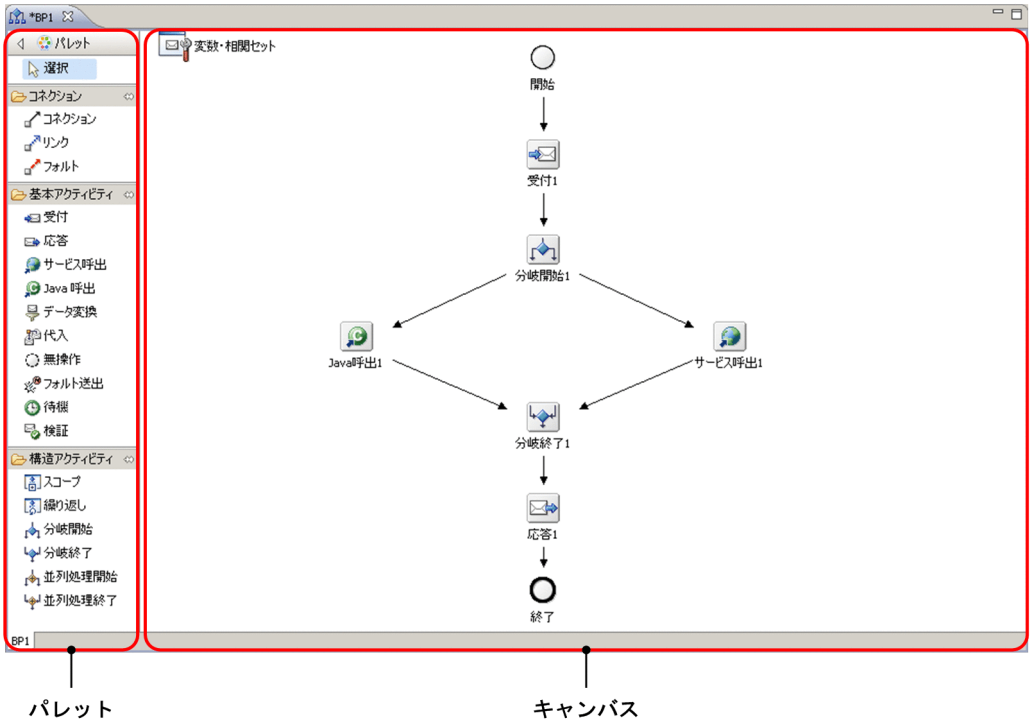
独自定義ファイル欄で選択したファイルを削除します。

1.2.3 ビジネスプロセス定義画面

ビジネスプロセスを定義するときのビジネスプロセス定義画面について説明します。

操作方法については，「1.9　ビジネスプロセス定義画面の操作」を参照してください。

図 1-15　ビジネスプロセス定義画面



(1) パレット

キャンバスに配置するアクティビティやコネクションを，パレットのツールから選択します。

パレットの各項目について説明します。

図 1-16 パレット（ビジネスプロセス定義画面）

グループ

コネクションまたは同じ種類のアクティビティをまとめたグループです。先頭に が付いています。

ツール

アクティビティやコネクションなどです。選択したアクティビティをキャンバスに配置したり，キャンバスに配置したアクティビティをコネクションで連結したりします。

パレットのグループおよびツールの一覧を次の表に示します。

表 1-5　パレットのグループおよびツール（ビジネスプロセス定義画面）

アイコン	表示名	説明
	選択	キャンバス上のアクティビティおよびコネクションを選択します。
	コネクション	通常のコネクション，リンクコネクション，およびフォルトコネクションをまとめたグループです。
	コネクション	通常のアクティビティを連結するコネクションです。
	リンク	リンクを定義する場合にアクティビティを連結するリンクコネクションです。
	フォルト	フォルト処理を定義する場合にアクティビティを連結するフォルトコネクションです。
	基本アクティビティ※	受付アクティビティや応答アクティビティなど，ビジネスプロセスで基本的な定義をするアクティビティをまとめたグループです。
	受付	受付アクティビティです。
	応答	応答アクティビティです。
	サービス呼出	サービス呼出アクティビティです。
	Java 呼出	Java 呼出アクティビティです。
	データ変換	データ変換アクティビティです。
	代入	代入アクティビティです。
	無操作	無操作アクティビティです。
	フォルト送出	フォルト送出アクティビティです。
	待機	待機アクティビティです。
	検証	検証アクティビティです。
	構造アクティビティ※	スコープアクティビティや繰り返しアクティビティなど，ビジネスプロセスで構造的な定義をするアクティビティをまとめたグループです。
	スコープ	スコープアクティビティです。
	繰り返し	繰り返しアクティビティです。
	分岐開始	分岐開始アクティビティです。

アイコン	表示名	説明
	分岐終了	分岐終了アクティビティです。
	並列処理開始	並列処理開始アクティビティです。
	並列処理終了	並列処理終了アクティビティです。

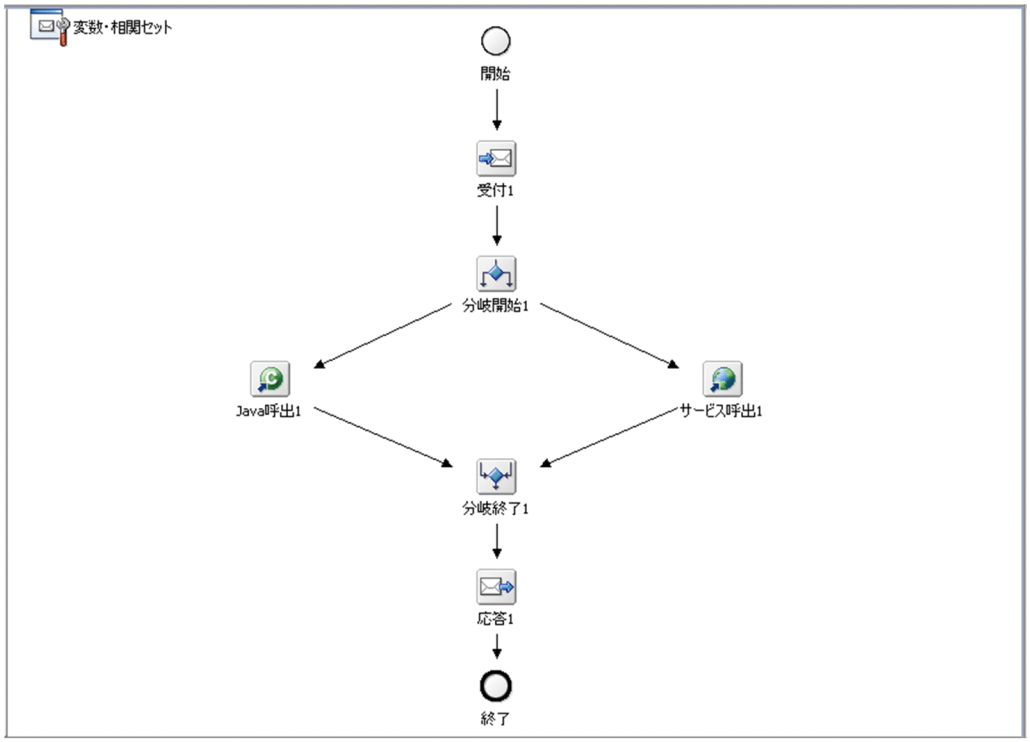
注※　詳細については，「付録 B　用語解説」を参照してください。

(2) キャンバス

キャンバスに，パレットから選択したアクティビティを配置します。また，配置したアクティビティをコネクションで連結します。

キャンバスには，変数・相関セット，開始アクティビティ，および終了アクティビティがすでに配置されています。

図 1-17　キャンバス



変数・相関セット（ ）

変数・相関セットを定義する場合に使用します。クリックすると，［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。

開始（ ○ ）

開始アクティビティです。このアクティビティは削除できません。

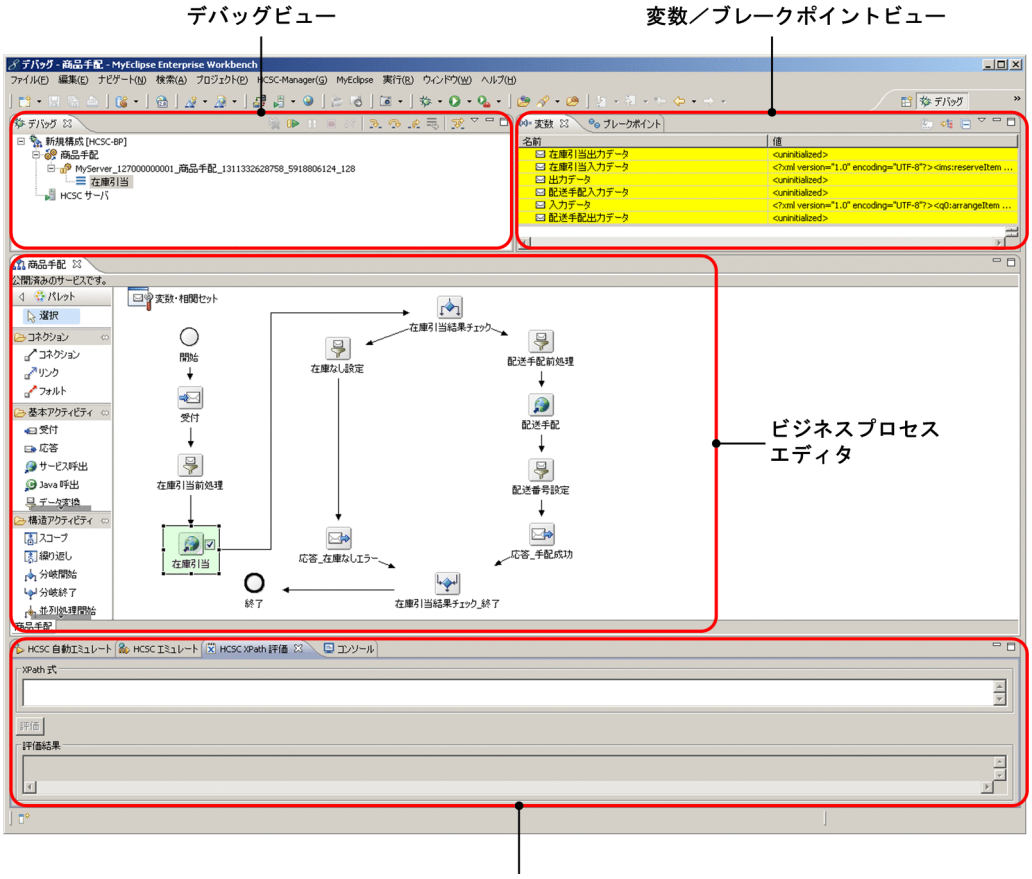
終了（ ◎ ）

終了アクティビティです。このアクティビティは削除できません。

1.2.4　ビジネスプロセスのデバッグ画面

ビジネスプロセスのデバッグ画面の構成を次の図に示します。

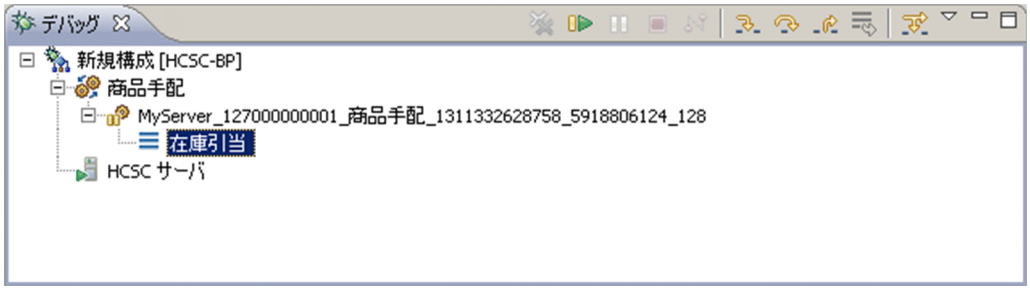
図 1-18　ビジネスプロセスのデバッグ画面の構成



(1) デバッグビュー

デバッグ中のビジネスプロセスの名称，および中断しているアクティビティの名称が表示されます。また，ステップ実行，再開，および終了の操作を実行します。

図 1-19　デバッグビュー



デバッグビューに表示されるアイコンを次に示します。

表 1-6　デバッグビューのアイコン

アイコン	名称	説明
	デバッグ構成	「[デバッグ構成] ダイアログで指定した名称」[HCSC-BP]」が表示されます。
	ビジネスプロセス	デバッグ中のビジネスプロセスの名称が表示されます。
	プロセスインスタンス※	プロセスインスタンス名が表示されます。
	アクティビティ	中断しているアクティビティの名称が表示されます。
	HCSC サーバ	常に「HCSC サーバ」が表示されます。
	ステップイン	中断しているアクティビティがステップ実行，および再開されます。 ステップイン，ステップオーバー，ステップリターン，および再開したときの処理の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「11.　ビジネスプロセスのデバッグ」を参照してください。
	ステップオーバー	
	ステップリターン	
	再開	
	終了	ビジネスプロセスのデバッグが終了されます。

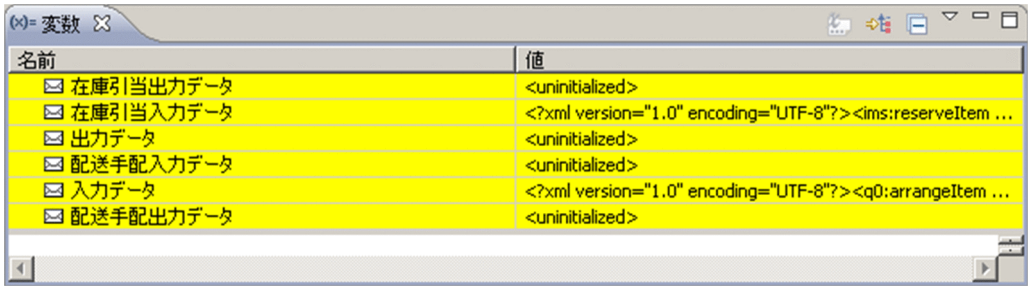
注※

プロセスインスタンスの処理が中断している場合，アイコンは で表示されます。プロセスインスタンスが処理中の場合は になります。

(2) 変数ビュー

ビジネスプロセスで現在使用している変数，および相関セットを確認したり，変数の値を更新したりするときに使用します。

図 1-20　変数ビュー



[名前]

変数（ ）および相関セット（ ）の名称が表示されます。

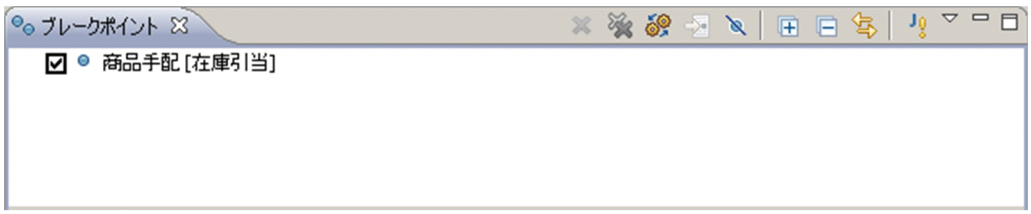
[値]

変数および相関セットの値が表示されます。ビジネスプロセスの実行によって変数の値が変わった場合や，変数の値を更新した場合，値が変わった変数の［名前］および［値］のセルが黄色で表示されます。変数が初期化されていない場合は，<uninitialized> が表示されます。なお，実行中のスコープと上位のスコープに同じ名前の変数や相関セットがある場合，変数ビューには実行中のスコープの変数や相関セットが表示されます。

(3) ブレークポイントビュー

ブレークポイントの設定を有効，または無効にする場合に使用します。

図 1-21　ブレークポイントビュー



アクティビティに設定したブレークポイントが「ビジネスプロセス名［アクティビティ名］」の形式で表示されます。ブレークポイントに条件式を指定している場合は，「ビジネスプロセス名［アクティビティ名］：条件式」の形式で表示されます。

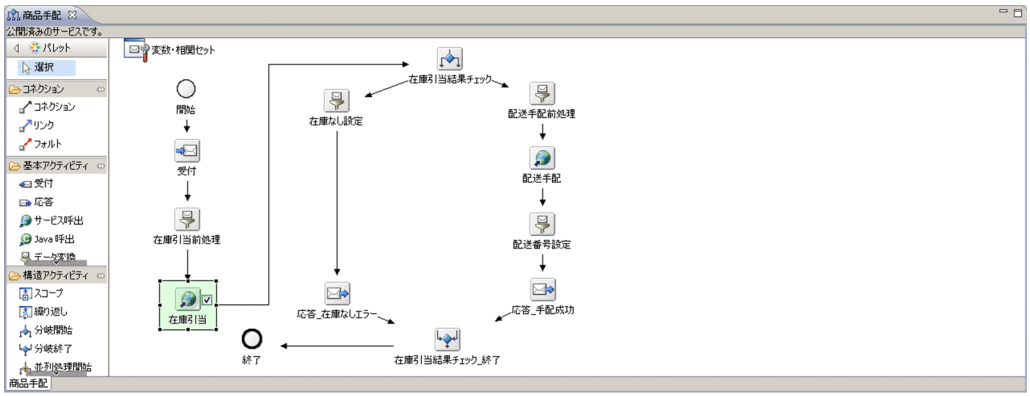
設定したブレークポイントを有効にする場合は，チェックボックスをチェックします。設定したブレークポイントを無効にする場合は，チェックボックスのチェックを解除します。

なお，ビジネスプロセスのデバッグでは，すべてのブレークポイントをスキップする機能（ ）は使用できません。

(4) ビジネスプロセスエディタ

デバッグ中のビジネスプロセスが表示されます。

図 1-22 ビジネスプロセスエディタ



プロセスインスタンスの処理が中断しているときは，中断しているアクティビティが緑色で表示されます。

なお，ブレークポイントが設定されたアクティビティには，ブレークポイントを表すマークが付きます。ブレークポイントが有効の場合は，次の図のようにマークがチェックされた状態になります。ブレークポイントが無効の場合は，マークのチェックが外れた状態になります。

図 1-23 ブレークポイントが設定されたアクティビティ

(5) HCSC 自動エミュレートビュー

サービスの自動エミュレーションを設定するときに使用します。

図 1-24 HCSC 自動エミュレートビュー

[有効]

サービスの自動エミュレーションの設定を有効にする場合にチェックボックスをチェックします。

[優先順位]
先頭の行から順番に 1，2，3，…が表示されます。

[サービス名]
セルを選択すると，選択できるサービスの一覧がドロップダウンリストで表示されます。

[オペレーション名]
セルを選択すると，［サービス名］で選択したサービスが持つオペレーションの一覧がドロップダウンリストで表示されます。

[応答種別]
セルを選択すると，通常応答またはフォルト応答をドロップダウンリストから選択できます。

[応答電文]
セルを選択すると，［...］ボタンが表示されます。［...］ボタンをクリックすると，応答電文を設定するダイアログが表示されます。すでに応答電文を設定している場合は，応答電文のファイル名が表示されます。

[条件]
サービスをエミュレーションする条件式を XPath で入力します。条件式を入力するときは，次の点に注意してください。
- サービスの要求電文に対して条件を設定するため，変数名の指定は不要です。
- 空文字（0x00）および csc:getVariableData などの拡張関数は使用できません。
- 条件式を指定しなかった場合は，常に真として評価されます。

[追加] ボタン
テーブルに行が追加されます。

[削除] ボタン
セルを選択して［削除］ボタンをクリックすると，選択したセルを含む行が削除されます。

[上へ] ボタン
選択した行の優先順位を上げます。

[下へ] ボタン
選択した行の優先順位を下げます。

[保存] ボタン
HCSC 自動エミュレートビューで設定した情報を保存するダイアログが表示されます。

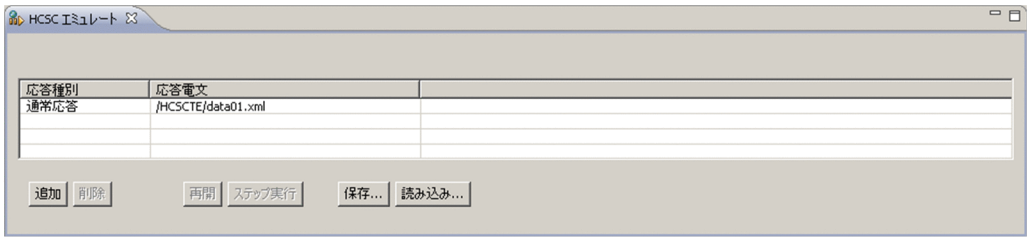
[読み込み] ボタン

HCSC 自動エミュレートビューで設定した情報を取得するダイアログが表示されます。

(6) HCSC エミュレートビュー

サービスの手動エミュレーションを設定，および実行するときに使用します。

図 1-25 HCSC エミュレートビュー



[応答種別]

セルを選択すると，ドロップダウンリストが表示され，通常応答またはフォルト応答を選択できます。

[応答電文]

セルを選択すると，[...] ボタンが表示されます。[...] ボタンをクリックすると，応答電文を設定するダイアログが表示されます。すでに応答電文を設定している場合は，応答電文のファイル名が表示されます。

[追加] ボタン

テーブルに行が追加されます。

[削除] ボタン

セルを選択して［削除］ボタンをクリックすると，選択したセルを含む行が削除されます。

[再開] ボタン

サービスがエミュレーションされ，ビジネスプロセスのデバッグが再開されます。

[ステップ実行] ボタン

サービスがエミュレーションされ，ビジネスプロセスのデバッグがステップオーバーされます。

[保存] ボタン

HCSC エミュレートビューで設定した情報を保存するダイアログが表示されます。

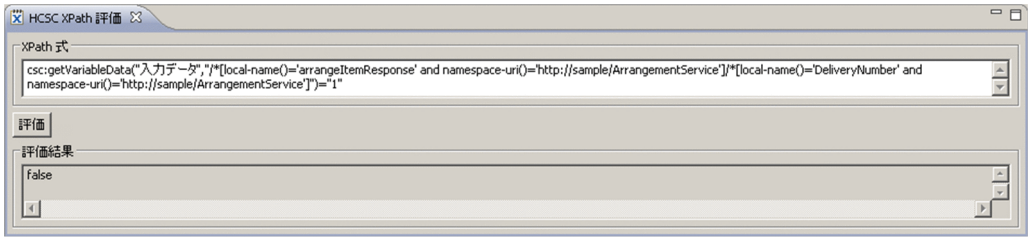
[読み込み] ボタン

HCSC エミュレートビューで設定した情報を取得するダイアログが表示されます。

(7) HCSC XPath 評価ビュー

分岐開始アクティビティや代入アクティビティの条件式を評価するときに使用します。

図 1-26 HCSC XPath 評価ビュー



[XPath 式]

条件式を XPath で入力します。条件式を入力するときは，次の点に注意してください。

- 空文字（0x00）は使用できません。
- 改行が含まれる値の同値判定はできません。
  例えば，変数 x の要素 /y/z を次に示すような値とします。

```
"a
b"
```

このとき，次の XPath 式で XPath 評価を実行しても評価結果は真（true）になりません。

```
$x/y/z="a
b"
```

改行文字やスペースを取り除く XPath の関数 normalize-space() を使用することで回避できます。

[評価] ボタン

［XPath 式］に入力した条件式が評価されます。

[評価結果]

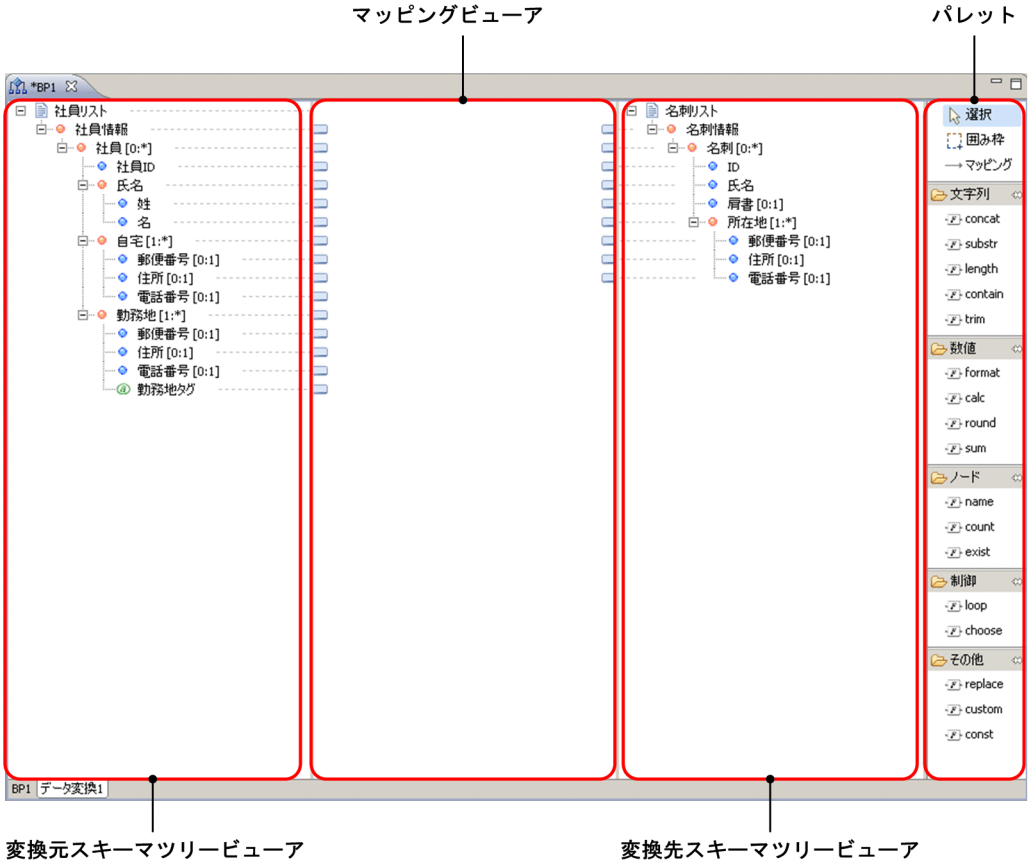
［XPath 式］に入力した条件式の評価結果が表示されます。

1.2.5 データ変換定義画面

データ変換を定義するときのデータ変換定義画面について説明します。

操作方法については，「1.10 データ変換定義画面の操作」を参照してください。

図 1-27 データ変換定義画面

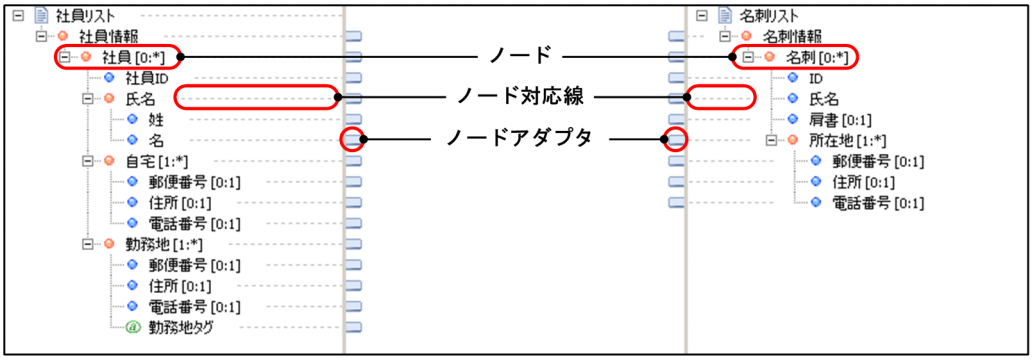


(1) 変換元スキーマツリービューア，マッピングビューア，および変換先スキーマツリービューア

変換元スキーマツリービューアのノードから変換先スキーマツリービューアのノードへマッピングします。マッピングビューアでは，パレットから選択したファンクションを配置したり，ノードアダプタやファンクションをマッピング線で接続したりします。

変換元スキーマツリービューア，マッピングビューア，および変換先スキーマツリービューアの各項目について説明します。

図 1-28　変換元スキーマツリービューア，マッピングビューア，および変換先スキーマツリービューア



ノード

XML スキーマのスキーマ論理名，要素，および属性です。

ノードに表示されるアイコンおよびアイコンの意味を次に示します。

- スキーマ論理名（ ）

  XML スキーマファイルを識別する論理名を表します。

- 複合内容（ ）

  複合内容を持つ複合型の要素を表します。

- 単純内容（ ）

  単純型の要素，および単純内容を持つ複合型の要素を表します。

- 属性（ ）

  要素の属性を表します。

ノードの最後に表示される角括弧（[　]）の値は，ノードの出現回数を示します。出現回数は次の形式で表示されます。

[最小出現回数：最大出現回数]

最大出現回数に上限がない場合，アスタリスク（*）が表示されます。

最小出現回数，最大出現回数がともに 1 回の場合，出現回数は表示されません。

ノード対応線

ノードとノードアダプタの対応を示す線です。

ノードアダプタ

ノードアダプタはすべてのノードに対して表示されます。変換元のノードアダプタと変換先のノードアダプタをマッピング線で接続して，マッピングします。ノードアダプタには，マッピング対象のノードアダプタ（ ）とマッピング対象外のノードアダプタ（ ）の 2 種類があります。マッピング対象およびマッピング対象外については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.10　マッピングの条件」を参照してください。

なお，ノードアダプタは，マッピングビューアに表示されるスクロールバーではス

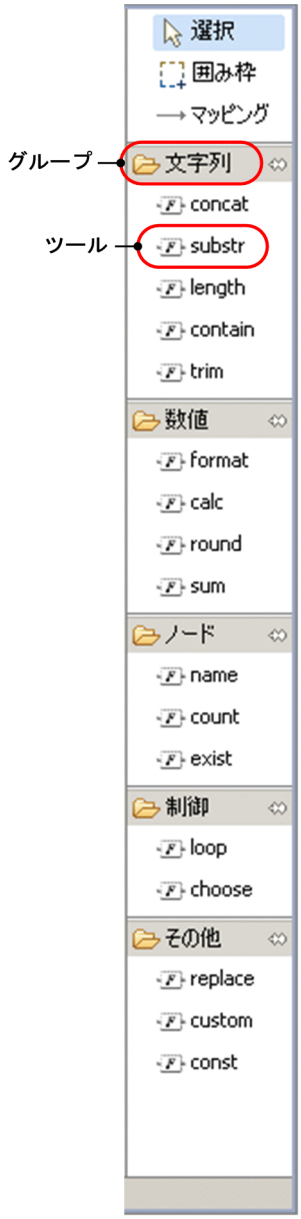
クロールできません。変換先スキーマツリービューアに表示されるスクロールバーを動かすことでスクロールできます。

(2) パレット

マッピングビューアに配置するファンクションをパレットのツールから選択します。また，マッピング線を選択して，ノードアダプタやファンクションを接続します。

パレットの各項目について説明します。

図 1-29　パレット（データ変換定義画面）



グループ

同じ種類のファンクションをまとめたグループです。先頭に が付いています。クリックすると，グループ下のツール一覧が非表示になります。ツール一覧が非表示の場合は，ツールの一覧が表示されます。

ツール

ファンクションやマッピング線などです。選択したファンクションをマッピング

ビューアに配置したり，ノードアダプタやファンクションをマッピング線で接続したりします。

パレットのグループおよびツールの一覧を次の表に示します。

表 1-7 パレットのグループおよびツール（データ変換定義画面）

アイコン	表示名	説明
	選択	マッピングビューア上のファンクションおよびマッピング線を選択します。
	囲み枠	四角で囲んだ範囲に含まれるファンクションおよびマッピング線を選択します。
	マッピング	ノードやファンクションを接続するマッピング線です。
	文字列	文字列に関するファンクションをまとめたグループです。
	concat	文字列連結ファンクションです。
	substr	部分文字列取得ファンクションです。
	length	文字数取得ファンクションです。
	contain	文字列調査ファンクションです。
	trim	空白除去ファンクションです。
	数値	数値に関するファンクションをまとめたグループです。
	format	数値フォーマット変換ファンクションです。
	calc	数値演算ファンクションです。
	round	端数処理ファンクションです。
	sum	総和ファンクションです。
	ノード	ノードに関するファンクションをまとめたグループです。
	name	ノード名取得ファンクションです。
	count	ノード数取得ファンクションです。
	exist	ノード調査ファンクションです。
	制御	マッピングを制御するファンクションをまとめたグループです。
	loop	くり返しファンクションです。
	choose	選択ファンクションです。
	その他	どのグループにも当てはまらないファンクションをまとめたグループです。

アイコン	表示名	説明
	replace	値置換えファンクションです。
	custom	カスタムファンクションです。
	const	定数ファンクションです。

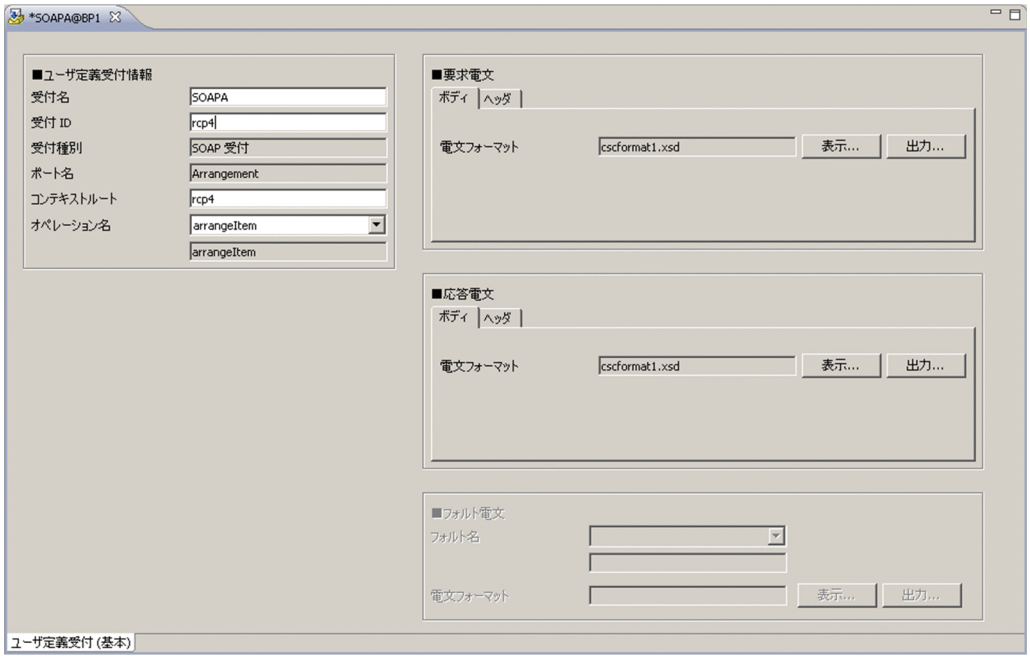
1.2.6 ユーザ定義受付定義画面

(1) SOAP ユーザ定義受付の場合

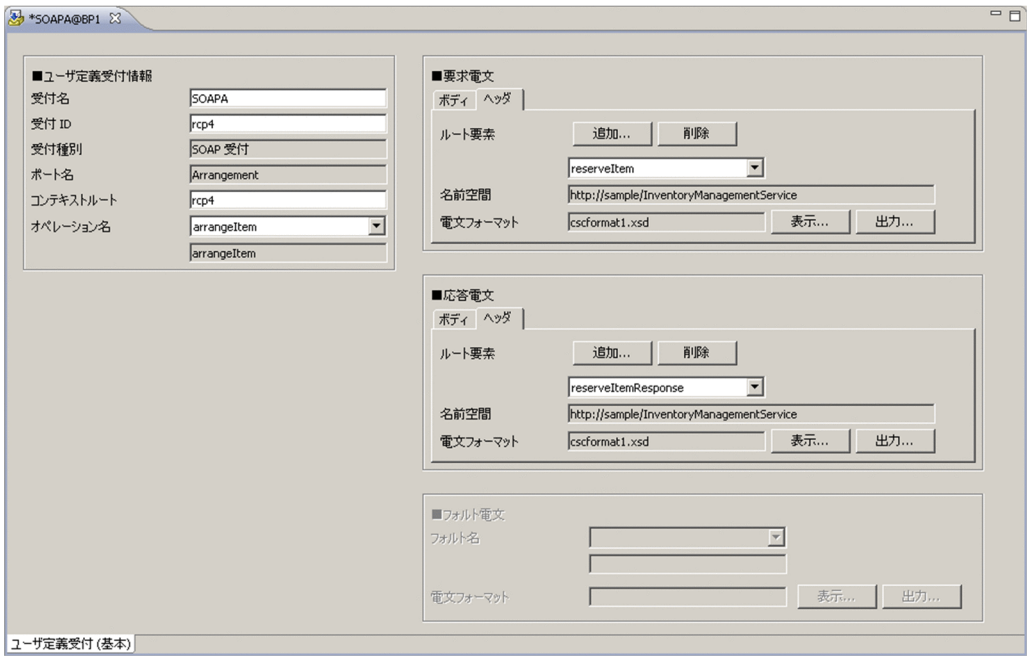
SOAP ユーザ定義受付の定義情報を表示するユーザ定義受付定義画面について説明します。

図 1-30　ユーザ定義受付定義画面（SOAP ユーザ定義受付の基本画面）

［ボディ］タブを表示した状態



［ヘッダ］タブを表示した状態



[ユーザ定義受付情報]

[受付名]

ユーザ定義受付を追加したときにユーザ定義受付追加ウィザードに指定した受付名が表示されます。受付名は，XMLSchema の NCName 定義文字で，40 バイト以内で指定します。また，受付名は，ビジネスプロセス内で一意になるように指定します。

[受付 ID]

ユーザ定義受付を追加したときに付与される ID が表示されます。受付 ID は，8 バイト以内の英数字およびアンダーライン（_）で指定します。また，受付 ID は，リポジトリ内で一意になるように指定します。

[受付種別]

受付の種別として「SOAP 受付」が表示されます。受付種別は変更できません。

[ポート名]

ユーザ定義受付を追加するウィザードの［Port の指定］で選択したポート名が表示されます。

[コンテキストルート]

コンテキストルート名が表示されます。コンテキストルート名は，次の点に注意して指定します。

- 半角英数字および次に示す記号で指定してください。
  / @ + - $ _ . ! ' ( ) % ~
- リポジトリ内で一意になるように指定してください。
- Cosminexus アプリケーションサーバの仕様に準拠した指定をしてください。
  次の値を指定すると，デプロイ時にエラーとなります。
  先頭，または末尾に区切り文字（/）が指定されている。
  （例）/rcp, rcp/sub/
  区切り文字（/）が多重指定されている。
  （例）rcp//sub
  相対パスが指定されている。
  （例）rcp/./sub/..
  パーセントエンコーディング以外の目的でパーセント（%）が指定されている。
  （例）rcp%
- HCSC サーバ名，HCSC サーバに配備されたサービスアダプタ（Web サービス）のサービス ID，および Cosminexus RM で使用するコンテキストルートの値は指定しないでください。

[オペレーション名]

オペレーション名が表示されます。ユーザ定義受付に定義されているオペレーション名をドロップダウンリストから選択できます。

［要求電文］

・［ボディ］タブ

［電文フォーマット］

要求電文の電文フォーマット名が表示されます。電文フォーマットは，WSDLから自動生成されます。

- **［表示］ボタン**
  要求電文の電文フォーマットが表示されます。
- **［出力］ボタン**
  要求電文の電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

・［ヘッダ］タブ

［ルート要素］

ルート要素が表示されます。要求電文にヘッダ情報が含まれていない場合，この項目には何も表示されません。ドロップダウンリストに表示されるルート要素の一覧は，ボタンで追加・削除できます。

- **［追加］ボタン**
  電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。電文フォーマットを設定したあと，その電文フォーマットに含まれるルート要素を追加できます。
- **［削除］ボタン**
  ［ルート要素］に表示されているルート要素を削除します。

［名前空間］

［ルート要素］に表示されているルート要素の名前空間が表示されます。要求電文にヘッダ情報が含まれていない場合，この項目には何も表示されません。

［電文フォーマット］

［ルート要素］に表示されているルート要素を含んだ電文フォーマット名が表示されます。要求電文にヘッダ情報が含まれていない場合，この項目には何も表示されません。

［表示］ボタン

要求電文のヘッダ情報が表示されます。

［出力］ボタン

要求電文のヘッダ情報の出力先を指定するダイアログが表示されます。

［応答電文］

・［ボディ］タブ

［電文フォーマット］

応答電文の電文フォーマット名が表示されます。電文フォーマットは，WSDLから自動生成されます。

［表示］ボタン

応答電文の電文フォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

応答電文の電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

- **［ヘッダ］タブ**

［ルート要素］

ルート要素が表示されます。応答電文にヘッダ情報が含まれていない場合，この項目には何も表示されません。ドロップダウンリストに表示されるルート要素の一覧は，ボタンで追加・削除できます。

- **［追加］ボタン**
  電文フォーマットを設定するダイアログが表示されます。電文フォーマットを設定したあと，その電文フォーマットに含まれるルート要素を追加できます。
- **［削除］ボタン**
  ［ルート要素］に表示されているルート要素を削除します。

［名前空間］

［ルート要素］に表示されているルート要素の名前空間が表示されます。応答電文にヘッダ情報が含まれていない場合，この項目には何も表示されません。

［電文フォーマット］

［ルート要素］に表示されているルート要素を含んだ電文フォーマット名が表示されます。応答電文にヘッダ情報が含まれていない場合，この項目には何も表示されません。

［表示］ボタン

応答電文のヘッダ情報が表示されます。

［出力］ボタン

応答電文のヘッダ情報の出力先を指定するダイアログが表示されます。

［フォルト電文］

［フォルト名］

ユーザ定義受付のフォルトの名称が表示されます。

［電文フォーマット］

フォルト電文のフォーマット名が表示されます。電文フォーマットは，WSDLから自動生成されます。

［表示］ボタン

フォルト電文のフォーマットが表示されます。

［出力］ボタン

フォルト電文のフォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

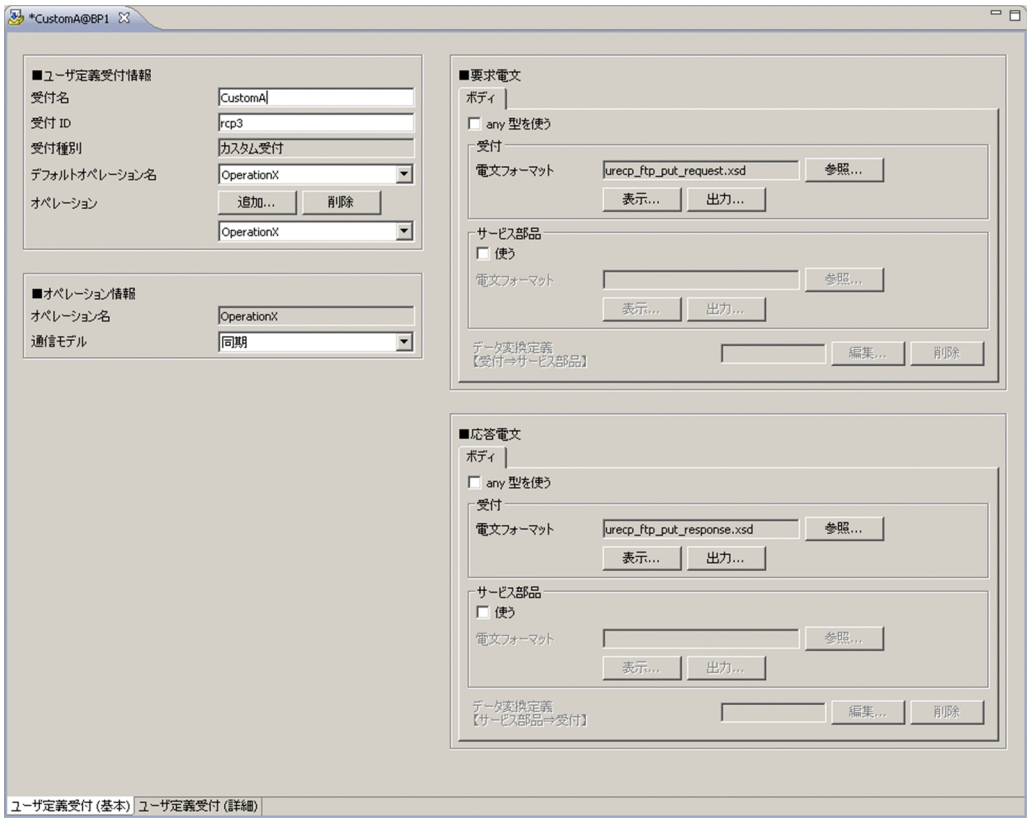
（2） TP1/RPC 受付およびカスタム受付の場合

TP1/RPC 受付およびカスタム受付を定義する場合の画面について説明します。

(a) TP1/RPC 受付およびカスタム受付の基本画面

TP1/RPC 受付およびカスタム受付の基本画面の項目について説明します。

図 1-31 ユーザ定義受付定義画面（TP1/RPC 受付およびカスタム受付の基本画面）



[ユーザ定義受付情報]

[受付名]

受付の名称が表示されます。TP1/RPC 受付またはカスタム受付の名称を 40 バイト以内で指定します。また，受付名は，ビジネスプロセス内で一意になるように指定します。

[受付 ID]

受付の ID が表示されます。受付 ID は，8 バイト以内の英数字およびアンダーライン（_）で指定します。

[受付種別]

受付の種別として「カスタム受付」が表示されます。受付種別は変更できません。

[デフォルトオペレーション名]

デフォルトで呼び出すオペレーション名が表示されます。デフォルトで呼び出

すオペレーション名をドロップダウンリストから選択できます。

［オペレーション］

オペレーション名が表示されます。カスタム受付で定義されているオペレーション名をドロップダウンリストから選択できます。

- **［追加］ボタン**
  オペレーションを追加するダイアログが表示されます。
- **［削除］ボタン**
  オペレーション欄で選択したオペレーションを削除します。

［オペレーション情報］

サービス部品のオペレーションについての情報が表示されます。

［オペレーション名］

ユーザ定義受付情報のオペレーション欄で選択したオペレーションの名称が表示されます。

［通信モデル］

オペレーションの通信モデルが表示されます。同期または非同期をドロップダウンリストから選択できます。TP1/RPC 受付の場合，必ず同期を選択してください。

［要求電文］

TP1/RPC 受付またはカスタム受付がサービスリクエスタから受け取る要求電文の情報が表示されます。

［any 型を使う］チェックボックス

データの型を指定しないでアダプタを作成する場合にチェックします。

［受付］

- **［電文フォーマット］**
  TP1/RPC 受付またはカスタム受付がサービスリクエスタから受け取る要求電文のフォーマット名が表示されます。表示される電文フォーマットは，受付の種類によって次のように異なります。
  ・TP1/RPC 受付の場合：fdx ファイル
  ・カスタム受付の場合：fdx ファイルまたは xsd ファイル
  電文フォーマットは変更できます。
- **［参照］ボタン**
  要求電文のフォーマットを設定するダイアログが表示されます。
- **［表示］ボタン**
  要求電文のフォーマットが表示されます。
- **［出力］ボタン**
  要求電文フォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

［サービス部品］

- **［使う］チェックボックス**
  TP1/RPC 受付またはカスタム受付がビジネスプロセスに渡す要求電文を，データ変換する場合にチェックします。TP1/RPC 受付の場合，必ずチェック

してください。

- **［電文フォーマット］**
  TP1/RPC 受付またはカスタム受付がビジネスプロセスに渡す要求電文のフォーマット名が表示されます。表示される電文フォーマットは，xsd ファイルです。
  電文フォーマットは変更できます。
- **［参照］ボタン**
  要求電文のフォーマットを設定するダイアログが表示されます。
- **［表示］ボタン**
  要求電文のフォーマットが表示されます。
- **［出力］ボタン**
  要求電文のフォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

［データ変換定義］

要求電文をデータ変換するための定義ファイル名が表示されます。TP1/RPC 受付の場合，必ずデータ変換用の定義ファイルを指定してください。

- **［編集］ボタン**
  データ変換定義画面が表示されます。［データ変換定義］で設定した定義ファイルの内容を編集できます。初めて定義する場合は，［ルート要素選択］ダイアログが表示されます。電文フォーマットを変更した場合は，電文フォーマットの変更を反映するかを確認するダイアログが表示されます。
- **［削除］ボタン**
  ［編集］ボタンで設定したデータ変換定義を削除します。

［応答電文］

TP1/RPC 受付またはカスタム受付がサービスリクエスタに返す応答電文の情報が表示されます。オペレーション情報の［通信モデル］で，「同期」を選択した場合だけ，設定できます。

［any 型を使う］チェックボックス

データの型を指定しないでアダプタを作成する場合にチェックします。

［受付］

- **［電文フォーマット］**
  TP1/RPC 受付またはカスタム受付がサービスリクエスタに返す応答電文のフォーマット名が表示されます。表示される電文フォーマットは，受付の種類によって次のように異なります。
  ・TP1/RPC 受付の場合：fdx ファイル
  ・カスタム受付の場合：fdx ファイルまたは xsd ファイル
  電文フォーマットは変更できます。
- **［参照］ボタン**
  応答電文のフォーマットを設定するダイアログが表示されます。
- **［表示］ボタン**
  応答電文のフォーマットが表示されます。
- **［出力］ボタン**

応答電文のフォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

［サービス部品］

- **［使う］チェックボックス**
  TP1/RPC 受付またはカスタム受付がビジネスプロセスから受け取る応答電文を，データ変換する場合にチェックします。TP1/RPC 受付の場合，必ずチェックしてください。
- **［電文フォーマット］**
  TP1/RPC 受付またはカスタム受付がビジネスプロセスから受け取る応答電文のフォーマット名が表示されます。表示される電文フォーマットは，xsd ファイルです。
  電文フォーマットは変更できます。
- **［参照］ボタン**
  応答電文のフォーマットを設定するダイアログが表示されます。
- **［表示］ボタン**
  応答電文のフォーマットが表示されます。
- **［出力］ボタン**
  応答電文のフォーマットの出力先を指定するダイアログが表示されます。

［データ変換定義］

応答電文をデータ変換するための定義ファイル名が表示されます。TP1/RPC 受付の場合，必ずデータ変換用の定義ファイルを指定してください。

- **［編集］ボタン**
  データ変換定義画面が表示されます。［データ変換定義］で設定した定義ファイルの内容を編集できます。初めて定義する場合は，［ルート要素選択］ダイアログが表示されます。電文フォーマットを変更した場合は，電文フォーマットの変更を反映するかを確認するダイアログが表示されます。
- **［削除］ボタン**
  ［編集］ボタンで設定したデータ変換定義を削除します。

(b) TP1/RPC 受付およびカスタム受付の詳細画面

TP1/RPC 受付およびカスタム受付の詳細画面の項目について説明します。

図 1-32　ユーザ定義受付定義画面（TP1/RPC 受付およびカスタム受付の詳細画面）

［カスタム受付制御情報］

独自定義ファイルおよび EAR ファイルの名称が表示されます。

［独自定義ファイル］

［追加］ボタンで設定した独自定義ファイルが表示されます。TP1/RPC 受付の場合，必ず TP1/RPC 受付定義ファイルを指定してください。カスタム受付の場合，必要に応じてカスタム受付ユーザファイルを指定してください。

- **［追加］ボタン**
  独自定義ファイルを追加するダイアログが表示されます。
- **［出力］ボタン**
  独自定義ファイルの出力先を指定するダイアログが表示されます。
- **［削除］ボタン**
  ［独自定義ファイル］で選択したファイルを削除します。

［EAR ファイル］

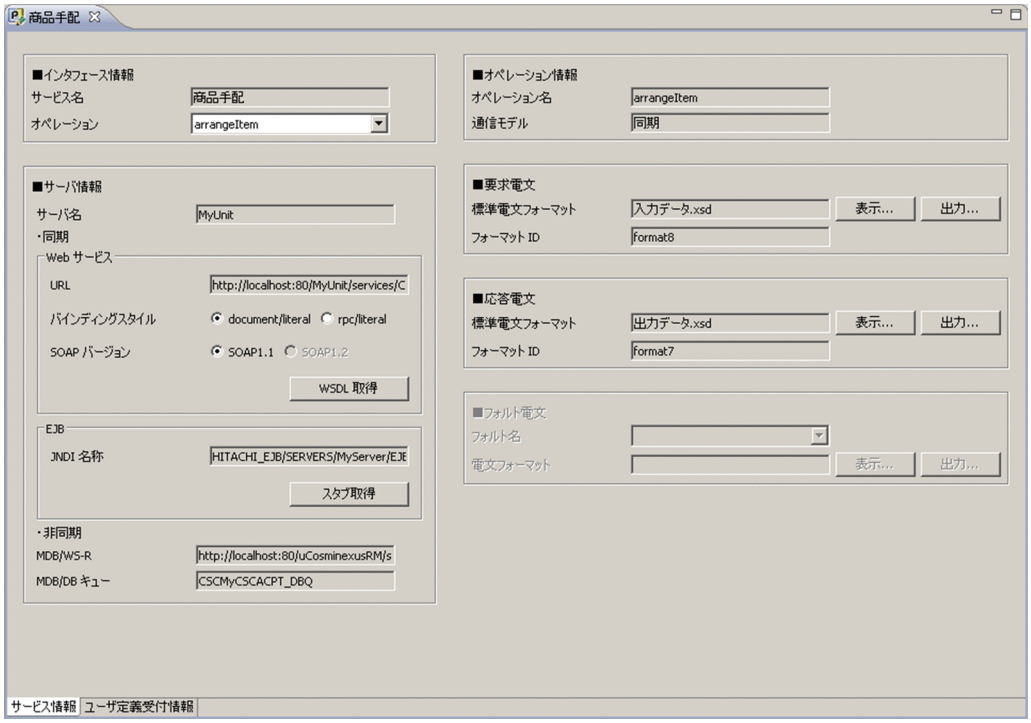
［参照］ボタンで設定した EAR ファイルの名称が表示されます。

- **［参照］ボタン**
  インポートする EAR ファイルを設定するダイアログが表示されます。

1.2.7　HCSC コンポーネント情報表示画面

HCSC コンポーネントの情報を表示する HCSC コンポーネント情報表示画面について説明します。

図 1-33　HCSC コンポーネント情報表示画面



(1) インタフェース情報

インタフェース情報の各項目について説明します。

[サービス名]

ツリービューの公開サービス一覧で選択した HCSC コンポーネントの名称が表示されます。

[オペレーション]

［サービス名］に表示された HCSC コンポーネントのオペレーション名が表示されます。情報を表示するオペレーションを，ドロップダウンリストから選択します。

(2) サーバ情報

サーバ情報の各項目について説明します。

[サーバ名]

サービス部品を呼び出すことができる HCSC サーバが表示されます。情報を表示する HCSC サーバを，ドロップダウンリストから選択します。

[Web サービス]

［サーバ名］で選択した HCSC サーバの Web サービスの受付宛先情報（URL）が表示されます。また，取得する WSDL 定義のスタイル（バインディングスタイル），

および SOAP 仕様のバージョン（SOAP バージョン）を選択します。
なお，表示される受付宛先情報（URL）は SOAP1.1 の場合だけです。SOAP1.2 の場合は，SOAP バージョンを選択して取得した WSDL の <soap12:address> の location を確認してください。

[WSDL 取得] ボタン

Web サービスで使用する WSDL ファイルを取得する［WSDL ファイルの保存］ダイアログが表示されます。

[EJB]

［サーバ名］で選択した HCSC サーバの SessionBean の受付宛先情報が表示されます。宛先情報には JNDI 名称が表示されます。

[スタブ取得] ボタン

SessionBean で使用する RMI-IIOP スタブファイルを取得する［スタブファイルの保存］ダイアログが表示されます。

[MDB/WS-R] ※

［サーバ名］で選択した HCSC サーバの MDB（WS-R）の受付宛先情報が表示されます。宛先情報には URL が表示されます。

[MDB/DB キュー] ※

［サーバ名］で選択した HCSC サーバの MDB（DB キュー）の受付宛先情報が表示されます。宛先情報にはキュー名称が表示されます。

注※

HCSC サーバがロードバランスクラスタ構成の場合，ロードバランスクラスタ経由で非同期の実行要求（MDB（WS-R）または MDB（DB キュー））を受け付けられません。非同期の実行要求は，個々の HCSC サーバで直接受け付けます。
そのため，HCSC サーバがロードバランスクラスタ構成の場合，個々の HCSC サーバの受付宛先情報はコンマ（,）区切りで表示されます。

(3) オペレーション情報

［インタフェース情報］の［オペレーション］で選択したオペレーションの情報が表示されます。

[オペレーション名]

［インタフェース情報］の［オペレーション］で選択したオペレーション名称が表示されます。

[通信モデル]

［インタフェース情報］の［オペレーション］で選択したオペレーションの通信モデルが表示されます。同期または非同期のどちらかが表示されます。

(4) 要求電文

［インタフェース情報］の［オペレーション］で選択したオペレーションの情報が表示されます。

［標準電文フォーマット］
標準の要求電文のフォーマット名が表示されます。

［表示］ボタン
［標準電文フォーマット］に表示された要求電文の内容を表示します。

［出力］ボタン
［標準電文フォーマット］に表示された要求電文の出力先を指定するダイアログが表示されます。

［フォーマット ID］
標準の要求電文のフォーマット ID が表示されます。

(5) 応答電文

［インタフェース情報］の［オペレーション］で選択したオペレーションの情報が表示されます。

［標準電文フォーマット］
標準の応答電文のフォーマット名が表示されます。

［表示］ボタン
［標準電文フォーマット］に表示された応答電文の内容を表示します。

［出力］ボタン
［標準電文フォーマット］に表示された応答電文の出力先を指定するダイアログが表示されます。

［フォーマット ID］
標準の応答電文のフォーマット ID が表示されます。

(6) フォルト電文

［インタフェース情報］の［オペレーション］で選択したオペレーションの情報が表示されます。

［フォルト名］
フォルト名が表示されます。情報を表示するフォルト名を，ドロップダウンリストから選択します。

［電文フォーマット］
［フォルト名］で選択した電文のフォーマット名が表示されます。

［表示］ボタン

［電文フォーマット］に表示された電文の内容を表示します。

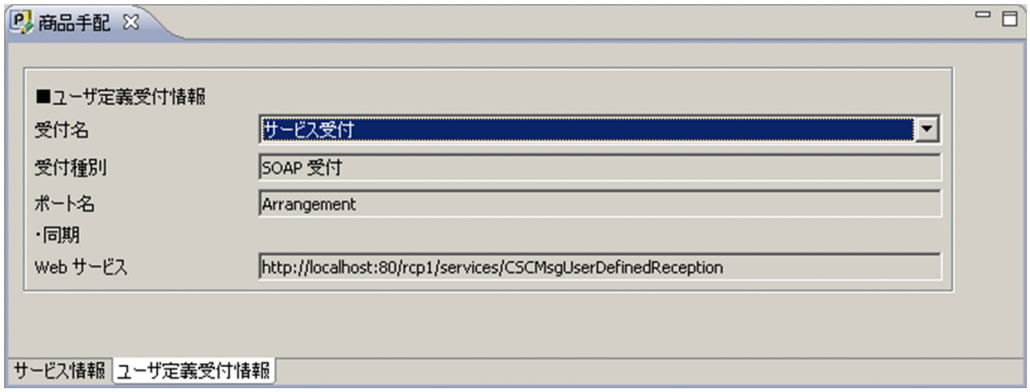
［出力］ボタン

［電文フォーマット］に表示された電文の出力先を指定するダイアログが表示されます。

1.2.8 ユーザ定義受付情報表示画面

パッケージング後のユーザ定義受付の定義情報を表示するユーザ定義受付情報表示画面について説明します。

図 1-34 ユーザ定義受付情報表示画面



［ユーザ定義受付情報］

［受付名］

ユーザ定義受付を追加するときにユーザ定義受付追加ウィザードに指定した受付名が表示されます。

［受付種別］

ユーザ定義受付追加ウィザードに指定した受付種別が表示されます。

［ポート名］

ユーザ定義受付を追加するときにユーザ定義受付追加ウィザードに指定したポート名が表示されます。

［同期］

情報は表示されません。

［Web サービス］

WSDL のサービスロケーションの値（wsdl:port 要素内の soap-address 要素の location 属性に設定している値）に設定する URL が表示されます。

サービスリクエスタを作成する前に，WSDL を編集して，この項目に表示された値をサービスロケーションの値として設定します。

WSDL の編集については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォー

ム 開発ガイド」の「10.7.2　WSDL を編集する」を参照してください。

1.3　バイナリフォーマット定義に関連するダイアログ

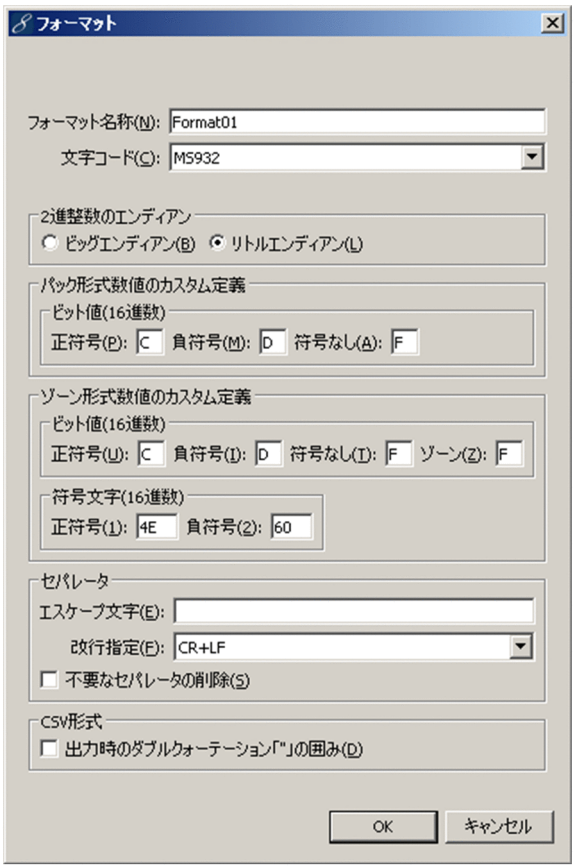
バイナリフォーマット定義に関連するダイアログについて説明します。

1.3.1　フォーマットダイアログ

フォーマットダイアログは，バイナリフォーマット定義ファイルのフォーマット名称や文字コードを設定するときに使用します。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.3　要素を定義する（CSV 以外の形式の場合）」を参照してください。

図 1-35　フォーマットダイアログ



[インフォメーション]

フォーマットダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，

マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

［フォーマット名称］

バイナリフォーマット定義ファイルのフォーマット名称を指定します。NCName 型で 256 文字以内で指定します。

［文字コード］

バイナリデータで使用される文字コードをドロップダウンリストから選択します。選択できる文字コード種別を次の表に示します。なお，文字コードの詳細は，マニュアル「日立コード変換ユーザーズガイド（Java™ 版）」のコード体系に関する内容を参照してください。

表 1-8　選択できる文字コード種別

文字コード種別	コード体系	補足
MS932	SJIS	Microsoft コードページ 932
UTF8	Unicode（UCS-2）	Unicode の UTF-8 エンコーディング※ 1
UTF16_BIG	Unicode（UCS-2）	ビッグエンディアンで扱う Unicode の UTF-16 エンコーディング※ 1
UTF16_LITTLE	Unicode（UCS-2）	リトルエンディアンで扱う Unicode の UTF-16 エンコーディング※ 1
JIS	JIS 漢字コード	JIS X 0208-1983
KEIS+EBCDIC	KEIS	KEIS'83 および半角英数字が EBCDIC
KEIS+EBCDIK	KEIS	KEIS'83 および半角英数字が EBCDIK
KEIS※ 2	KEIS	KEIS'83 で半角英数字およびカタカナを含まない
IBM_CODE+EBCDIC(LATIN)	IBM 漢字コード	IBM 漢字コード＋標準または拡張英小文字セット※ 3
IBM_CODE+EBCDIC(KANA)	IBM 漢字コード	IBM 漢字コード＋標準または拡張カタカナ文字セット※ 3
CUSTOM	文字コード変換 UOC	文字コードを変換するためのユーザが作成した外部プログラム

注※ 1

BOM 付のデータは扱えません。BOM（Byte Order Mark）とは，データのバイトの並び順序を表すコードです。

注※ 2

CSV 形式では使用できません。

注※ 3

uCosminexus 日立コード変換 - Development Kit 03-01 以降が必要です。

[2 進整数のエンディアン]

バイナリデータに含まれる 2 進整数のエンディアンをラジオボタンで選択します。
この項目は，使用するバイナリデータが CSV 形式以外の場合にだけ選択できます。

[パック形式数値のカスタム定義]

パック形式数値のカスタム定義は，単純内容要素ダイアログの設定が次のすべての条件を満たしている場合に適用されます。

- ［データ種別］で［パック形式数値］を選択している
- ［符号の設定］で［カスタム］を選択している
- ［符号の有無］で［あり］を選択している

[ビット値（16 進数）]

パック形式数値の符号ビットを 16 進数で指定します。

- ［正符号］
  パック形式数値の正符号ビットを 16 進数の英数字で指定します。
- ［負符号］
  パック形式数値の負符号ビットを 16 進数の英数字で指定します。
- ［符号なし］
  パック形式数値の符号なし（絶対値）ビットを 16 進数の英数字で指定します。

[ゾーン形式数値のカスタム定義]

ゾーン形式数値のカスタム定義は，単純内容要素ダイアログの設定が次のすべての条件を満たしている場合に適用されます。

- ［データ種別］で［ゾーン形式数値］を選択している
- ［符号の設定］で［カスタム］を選択している
- ［符号の有無］で［あり］を選択している

[ビット値（16 進数）]

ゾーン形式数値の符号ビットを 16 進数で指定します。
［符号の設定］が［符号ビット］の場合に適用されます。

- ［正符号］
  パック形式数値の正符号ビットを 16 進数の英数字で指定します。
- ［負符号］
  パック形式数値の負符号ビットを 16 進数の英数字で指定します。
- ［符号なし］
  パック形式数値の符号なし（絶対値）ビットを 16 進数の英数字で指定します。
- ［ゾーン］
  ゾーン形式数値のゾーンビットを 16 進数の英数字で指定します。

[符号文字（16 進数）]

ゾーン形式数値で符号を表す文字を 16 進数で指定します。
［符号の設定］が［符号文字］の場合に適用されます。

- ［正符号］
  正符号文字を英数字 1 ～ 2 桁の 16 進数で指定します。
- ［負符号］
  負符号文字を英数字 1 ～ 2 桁の 16 進数で指定します。

［セパレータ］

［エスケープ文字］
セパレータとして使用する文字がデータ内に含まれる場合に，エスケープ文字として使用する文字を指定します。エスケープ文字として使用できる文字は，1 文字のラテン文字（JIS X 0201 の「0x21」～「0x7E」）または半角スペース（JIS X 0201 の「0x20」）です。
この項目は，使用するバイナリデータが CSV 形式以外の場合に指定できます。

［改行指定］
セパレータで使用する改行文字をドロップダウンリストで選択します。使用できる改行コードは，CR ＋ LF，または LF です。

［不要なセパレータの削除］チェックボックス
末尾のセパレータを出力する場合にチェックします。

［CSV 形式］

［出力時のダブルクォーテーション「"」の囲み］チェックボックス
データ項目をダブルクォーテーションで囲む場合にチェックします。

［OK］ボタン
指定した内容を設定してフォーマットダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
指定した内容を設定しないでフォーマットダイアログを閉じます。

1.3.2 単純内容要素ダイアログ

単純内容要素ダイアログは，バイナリフォーマット定義ファイルに単純内容要素を設定するときに使用します。

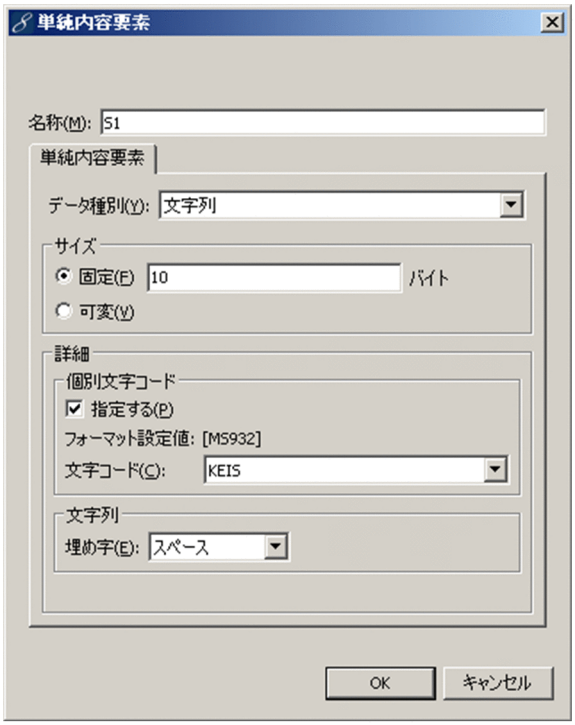
操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.3　要素を定義する（CSV 以外の形式の場合）」を参照してください。

単純内容要素ダイアログは，グローバル定義の単純内容要素を設定する場合と，ローカル定義の単純内容要素を設定する場合で表示されるタブが異なります。

(1) 単純内容要素タブ

単純内容要素タブは，設定する単純内容要素がグローバル定義でもローカル定義でも表示されます。単純内容要素の情報を指定します。

図 1-36　単純内容要素ダイアログ（単純内容要素タブ）



[データ種別]

単純内容要素として使用するデータの種別をドロップダウンリストから選択します。
選択できるデータ種別と，それに応じて［詳細］に表示される内容を次に示します。

データ種別	［詳細］に表示される内容
文字列	「(a)　文字列型の場合」を参照してください。
整数	「(c)　ゾーン・パック形式以外の数値型の場合」を参照してください。
実数	
固定小数部数値	
ゾーン形式数値	「(b)　ゾーン・パック形式数値の場合」を参照してください。
パック形式数値	
符号付 2 進整数	「(c)　ゾーン・パック形式以外の数値型の場合」を参照してください。
符号無 2 進整数	
バイト列	［詳細］には何も表示されません。
日付時刻	「(d)　日付時刻型の場合」を参照してください。

[サイズ]

単純内容要素として使用するデータのサイズを指定します。

- 固定値の場合

ラジオボタンで［固定］を選択し，サイズ（バイト）を指定します。
データ種別と文字コードによって指定できるサイズの範囲が異なります。指定できるサイズの範囲を次の表に示します。

表 1-9 固定値の単純内容要素に指定できるサイズの範囲

データ種別		文字コード	指定できる範囲（バイト）
文字列，整数，実数，固定小数部数値		UTF16 以外	1 ～ 2,147,483,647
		UTF16	2 ～ 2,147,483,646
ゾーン形式数値，パック形式数値		－	1 ～ 2,147,483,647
符号付 2 進整数，符号無 2 進整数		－	1，2，4，8 のどれか
バイト列		－	1 ～ 2,147,483,647
日付時刻	CCYYMMDD	UTF16 以外	8 ～ 2,147,483,647
		UTF16	16 ～ 2,147,483,646
	YYMMDD	UTF16 以外	6 ～ 2,147,483,647
		UTF16	12 ～ 2,147,483,646
	hhmmss	UTF16 以外	6 ～ 2,147,483,647
		UTF16	12 ～ 2,147,483,646
	CCYYMMDDhhmmss	UTF16 以外	14 ～ 2,147,483,647
		UTF16	28 ～ 2,147,483,646
	YYMMDDhhmmss	UTF16 以外	12 ～ 2,147,483,647
		UTF16	24 ～ 2,147,483,646

（凡例）
－：指定できる範囲が文字コードに依存しないことを示します。

- 可変値の場合
  ラジオボタンで［可変］を選択します。サイズの決定方法は，構成要素タブ（または構成要素ダイアログ）の［サイズ］で設定します。

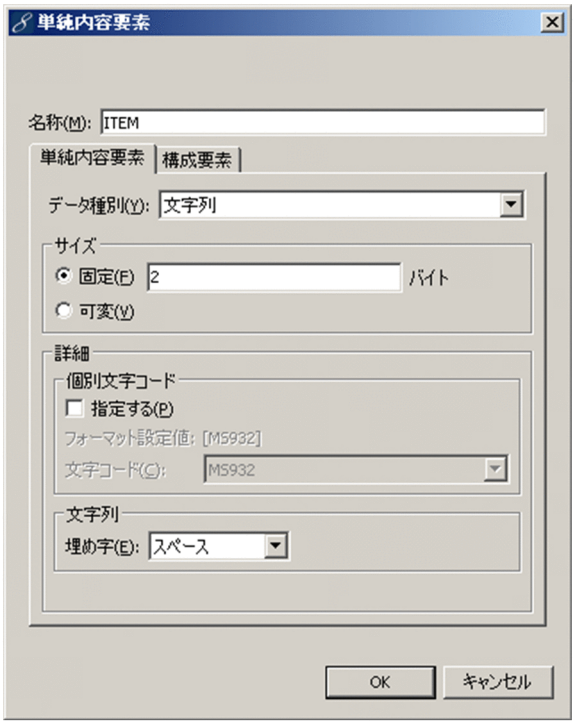
［詳細］

［データ種別］の選択内容に応じて，次のように表示内容が異なります。

(a) 文字列型の場合

［データ種別］で「文字列」を選択した場合に表示されます。

図 1-37 単純内容要素ダイアログ（単純内容要素タブ（[データ種別] で「文字列」を選択した場合））



[個別文字コード]

単純内容要素として使用するデータの文字コードが，フォーマットダイアログに設定した文字コードと異なる場合，文字コードを個別に指定します。

[指定する] チェックボックス

個別文字コードを指定する場合にチェックします。

[フォーマット設定値]

フォーマットダイアログに設定した文字コードが表示されます。

[文字コード]

指定する文字コードをドロップダウンリストから選択します。
選択できる文字コード種別を次の表に示します。なお，文字コードの詳細は，マニュアル「日立コード変換ユーザーズガイド（Java™ 版）」のコード体系に関する内容を参照してください。

表 1-10 選択できる文字コード種別

文字コード種別	コード体系	補足
MS932	SJIS	Microsoft コードページ 932
UTF8	Unicode（UCS-2）	Unicode の UTF-8 エンコーディング※2

文字コード種別	コード体系	補足
UTF16_BIG	Unicode（UCS-2）	ビッグエンディアンで扱う Unicode の UTF-16 エンコーディング※2
UTF16_LITTLE	Unicode（UCS-2）	リトルエンディアンで扱う Unicode の UTF-16 エンコーディング※2
JIS	JIS 漢字コード	JIS X 0208-1983
KEIS+EBCDIC	KEIS	KEIS'83 および半角英数字が EBCDIC
KEIS+EBCDIK	KEIS	KEIS'83 および半角英数字が EBCDIK
KEIS※1	KEIS	KEIS'83 で半角英数字およびカタカナを含まない
IBM_CODE+EBCDIC(LATIN)	IBM 漢字コード	IBM 漢字コード＋標準または拡張英小文字セット※3
IBM_CODE+EBCDIC(KANA)	IBM 漢字コード	IBM 漢字コード＋標準または拡張カタカナ文字セット※3
CUSTOM	文字コード変換 UOC	文字コードを変換するためのユーザが作成した外部プログラム

注※ 1

CSV 形式では使用できません。

注※ 2

BOM 付きのデータは扱えません。BOM（Byte Order Mark）とは，データのバイトの並び順序を表すコードです。

注※ 3

uCosminexus 日立コード変換 - Development Kit 03-01 以降が必要です。

[文字列]

データ種別が文字列の場合で，サイズが固定のとき，埋め字の種類を設定します。

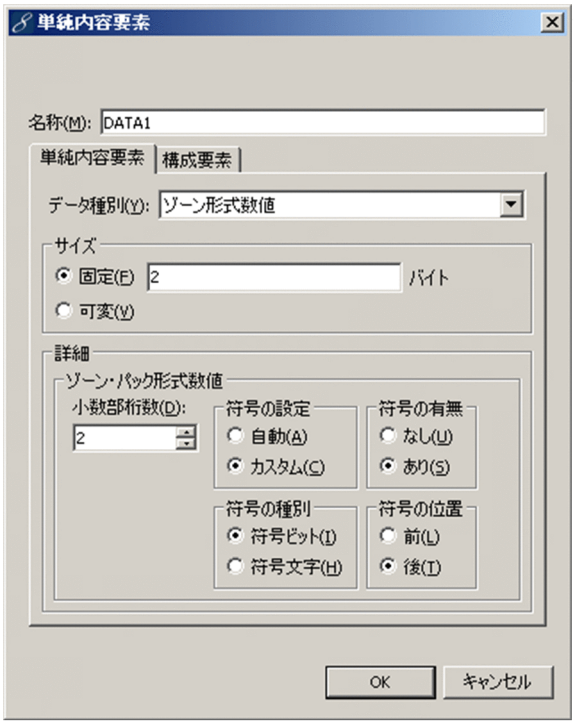
[埋め字]

単純内容要素として使用するデータが指定したサイズに満たない場合，余った部分を埋める文字をドロップダウンリストから選択します。空白で埋める場合は［スペース］を，空文字（0x00）で埋める場合は［空文字］を選択します。

(b) ゾーン・パック形式数値の場合

［データ種別］で「ゾーン形式数値」または「パック形式数値」を選択した場合に表示されます。

図 1-38　単純内容要素ダイアログ（単純内容要素タブ（[データ種別] で「ゾーン形式数値」または「パック形式数値」を選択した場合））



[ゾーン・パック形式数値]

データ種別がゾーン形式数値またはパック形式数値の場合，詳細を設定します。

[小数部桁数]

小数部の桁数を指定します。

[符号の設定]

10 進数符号の設定方法として，［自動］または［カスタム］を選択します。

［カスタム］を選択すると，フォーマットダイアログで指定された項目が使用されます。

[符号の有無]

符号を付けない場合は［なし］，符号を付ける場合は［あり］を選択します。

この項目は，［符号の設定］で［カスタム］を選択した場合に指定できます。

[符号の種別]

符号を符号ビットで付ける場合は［符号ビット］，符号文字で付ける場合は［符号文字］を選択します。

この項目は，次のすべての条件を満たしている場合に指定できます。

- ［データ種別］で［ゾーン形式数値］を選択している
- ［符号の設定］で［カスタム］を選択している
- ［符号の有無］で［あり］を選択している

[符号の位置]

符号を前に付ける場合は［前］，符号を後ろに付ける場合は［後］を選択します。

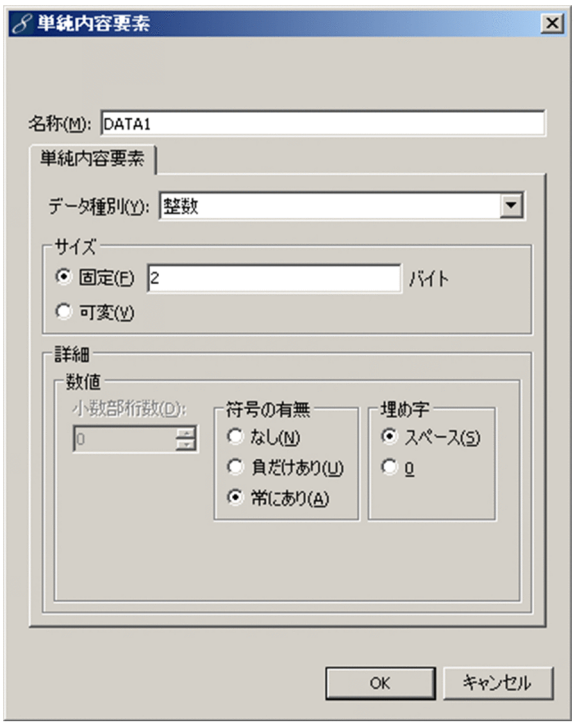
この項目は，次のすべての条件を満たしている場合に指定できます。

- ［データ種別］で［ゾーン形式数値］を選択している
- ［符号の設定］で［カスタム］を選択している
- ［符号の有無］で［あり］を選択している

(c) ゾーン・パック形式以外の数値型の場合

［データ種別］で「整数」，「実数」，「固定小数部数値」，「符号付 2 進整数」または「符号無 2 進整数」を選択した場合に表示されます。ただし，「符号付 2 進整数」または「符号無 2 進整数」を選択した場合は，［詳細］の項目はすべて非活性になります。

図 1-39　単純内容要素ダイアログ（単純内容要素タブ（[データ種別] で「整数」，「実数」，「固定小数部数値」，「符号付 2 進整数」または「符号無 2 進整数」を選択した場合））



[数値]

データ種別が整数，実数または固定小数部数値の場合，詳細を設定します。

[小数部桁数]

小数部分の桁数を 0 ～ 33 で指定します。

[符号の有無]

データ種別が整数，実数または固定小数部数値の場合，正負の符号の有無をラジオボタンで選択します。

- 符号がない場合
  ［なし］を選択します。
- 負の符号だけある場合
  ［負だけあり］を選択します。
- 常に正負の符号がある場合
  ［常にあり］を選択します。

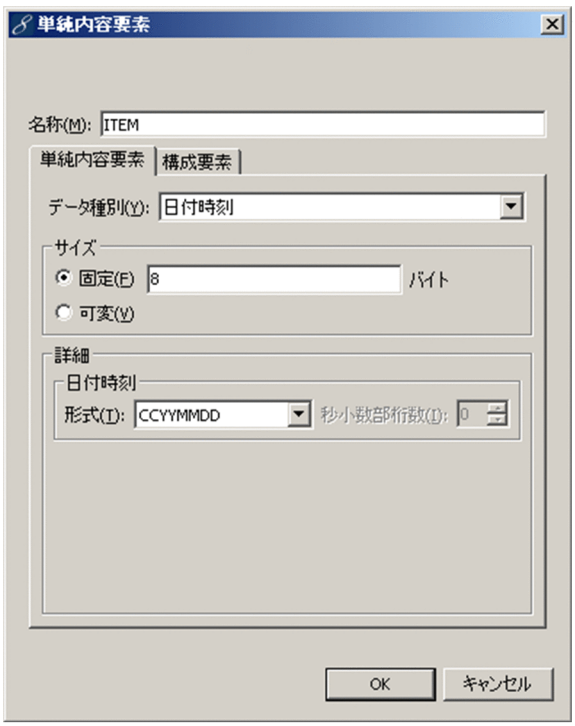
[埋め字]

データ種別が整数，実数または固定小数部数値の場合，単純内容要素として使用するデータが指定したサイズに満たないとき，余った部分を埋める文字をラジオボタンで選択します。空白で埋める場合は［スペース］を，0 で埋める場合は［0］を選択します。

(d) 日付時刻型の場合

［データ種別］で「日付時刻」を選択した場合に表示されます。

図 1-40 単純内容要素ダイアログ（単純内容要素タブ（[データ種別]で「日付時刻」を選択した場合））



[日付時刻]

データ種別が日付時刻の場合，日付時刻の形式を設定します。

[形式]

日付時刻の形式をドロップダウンリストから選択します。

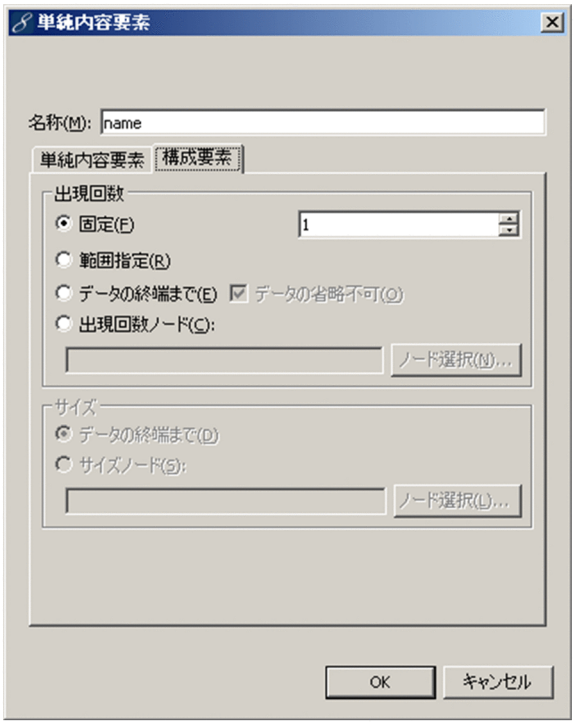
[秒小数部桁数]

日付時刻の形式に時刻（hhmmss）が含まれる場合，秒の小数部分の桁数を 0 ～ 3 で指定します。

(2) 構成要素タブ

構成要素タブは，ローカル定義の単純内容要素を設定する場合にだけ表示されます。構成要素の情報を指定します。

図 1-41　単純内容要素ダイアログ（構成要素タブ）



指定する内容は，構成要素ダイアログの構成要素タブと同じです。

構成要素ダイアログの構成要素タブについては，「1.3.4　構成要素ダイアログ」を参照してください。

(3) 各タブで共通の内容

各タブで共通の内容を次に示します。

[インフォメーション]

単純内容要素ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，

マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[名称]

単純内容要素の名称を指定します。NCName 型で使用できる文字を利用して 256 文字以内で指定します。

[OK] ボタン

指定した内容を設定して単純内容要素ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

指定した内容を設定しないで単純内容要素ダイアログを閉じます。

1.3.3　複合内容要素ダイアログ

複合内容要素ダイアログは，バイナリフォーマット定義ファイルに複合内容要素を設定するときに使用します。また，複合内容要素にセパレータを設定するときにも使用します。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.3　要素を定義する（CSV 以外の形式の場合）」を参照してください。

複合内容要素ダイアログは，複合内容要素を設定する場合と，セパレータを設定する場合で操作するタブが異なります。

(1) 複合内容要素タブ

複合内容要素タブは，複合内容要素の情報を指定するときに使用します。

構成区分が［選択構成］の場合，利用する構成要素を何から選択するかによって，表示される画面が変わります。

図 1-42　複合内容要素ダイアログ（複合内容要素タブ：構成要素を選択条件ノードの値から選択する場合）

図 1-43　複合内容要素ダイアログ（複合内容要素タブ：構成要素を開始セパレータの値から選択する場合）

[構成区分]

複合内容要素に設定された構成要素の構成区分をラジオボタンで選択します。

- 逐次構成の場合
  ［逐次構成］を選択します。
- 選択構成の場合
  ［選択構成］を選択します。

[選択種別]

構成区分が［選択構成］の場合，選択構成の選択種別をラジオボタンで選択します。

- 選択条件ノードの値から，利用する構成要素を選択する場合
  ［選択条件ノード］を選択し，［ノード選択］ボタンをクリックして選択条件ノードを指定します。
- 構成要素の開始セパレータの値から，利用する構成要素を選択する場合
  ［構成要素の開始セパレータ］を選択します。

[ノード選択] ボタン

ノード選択ダイアログが表示されます。構成要素の選択条件ノードを選択するときに使用します。

ノード選択ダイアログで選択したノードは次のように表示されます。

- 基準パスで選択した場合
  基準ノードからの相対パスが表示されます。
- 絶対パスで選択した場合
  ルート要素からのパスが表示されます。

[構成要素一覧]

複合内容要素に設定された構成要素の一覧が表示されます。

[名称]

構成要素に設定されている単純内容要素および複合内容要素の名称が表示されます。

[選択条件値]

構成区分が［選択構成］で選択種別が［選択条件ノード］の場合，構成要素に設定されている選択条件値が表示されます。構成区分が［逐次構成］の場合，および構成区分が［選択構成］で選択種別が［構成要素の開始セパレータ］の場合，この項目は表示されません。

構成区分が［選択構成］で選択種別が［選択条件ノード］の場合，［選択条件値］に表示されているどの値にも当てはまらないときは，選択条件値が表示されていない構成要素が出現します。このような構成要素は，構成要素の中で一つだけ設定できます。

[開始セパレータ値]

構成区分が［選択構成］で選択種別が［構成要素の開始セパレータ］の場合，構成要素に設定されている開始セパレータ値が表示されます。構成区分が［逐次構成］の場合，および構成区分が［選択構成］で選択種別が［選択条件ノード］の場合，この項目は表示されません。

構成区分が［選択構成］で選択種別が［構成要素の開始セパレータ］の場合で，［開始セパレータ値］に表示されているどの値にも当てはまらないとき，次に示す構成要素が出現します。

- 開始セパレータ値が表示されていない構成要素
- 単純内容要素である構成要素

このような構成要素は，構成要素の中で一つだけ設定できます。

［上へ］ボタン

構成要素一覧で選択した構成要素の配置を一つ上に変更します。

［下へ］ボタン

構成要素一覧で選択した構成要素の配置を一つ下に変更します。

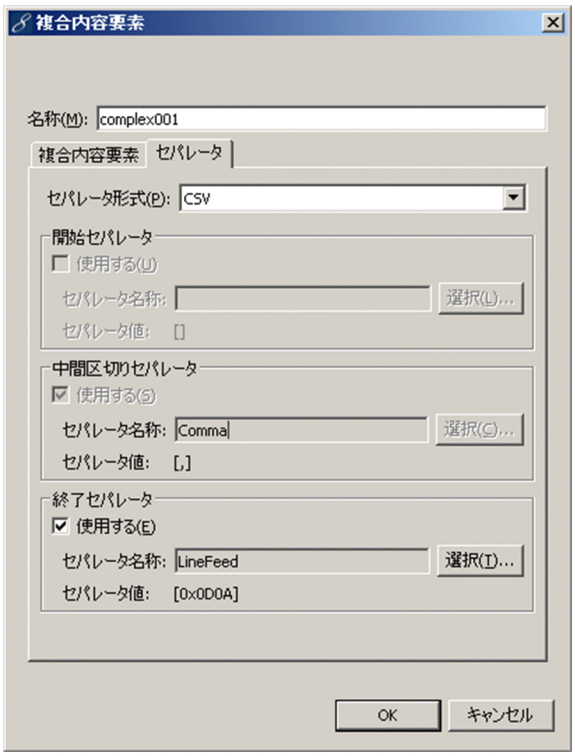
［条件値設定］ボタン

構成区分が［選択構成］で選択種別が［選択条件ノード］の場合，このボタンをクリックすると，条件値設定ダイアログが表示されます。構成区分が［逐次構成］の場合，および［選択構成］で選択種別が［構成要素の開始セパレータ］の場合，このボタンは表示されません。構成要素一覧で選択した構成要素の選択条件値を設定するときに使用します。

(2) セパレータタブ

セパレータタブは，複合内容要素にセパレータを設定する場合に使用します。

図 1-44　複合内容要素ダイアログ（セパレータタブ）



[セパレータ形式]

使用するセパレータ形式をドロップダウンリストから選択します。選択できるセパレータを次に示します。

- ユーザ指定：ユーザが各セパレータを設定します。
- CSV：CSV 形式のセパレータを自動で設定します。

なお，セパレータ形式に CSV を選択した場合，開始セパレータおよび中間区切りセパレータは次のように設定されます。

- 開始セパレータ：なし
- 中間セパレータ：コンマ（,）

開始セパレータ，中間区切りセパレータ，終了セパレータとして使用するセパレータを，次の項目を利用してそれぞれ指定します。

[使用する] チェックボックス

各セパレータを使用する場合にチェックします。

[セパレータ名称]
使用するセパレータの名称を指定します。

[選択] ボタン
セパレータ選択ダイアログが表示されます。

[セパレータ値]
[セパレータ名称] を指定した場合，定義されているセパレータの値が表示されます。セパレータの値は［］で囲まれて表示されます。

(3) 各タブで共通の内容

各タブで共通の内容を次に示します。

[インフォメーション]
複合内容要素ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[名称]
複合内容要素の名称を指定します。NCName 型で使用できる文字を利用して 256 文字以内で指定します。

[OK] ボタン
指定した内容を設定して複合内容要素ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン
指定した内容を設定しないで複合内容要素ダイアログを閉じます。

1.3.4 構成要素ダイアログ

構成要素ダイアログは，グローバル定義の単純内容要素または複合内容要素を，複合内容要素の構成要素に設定するときに使用します。

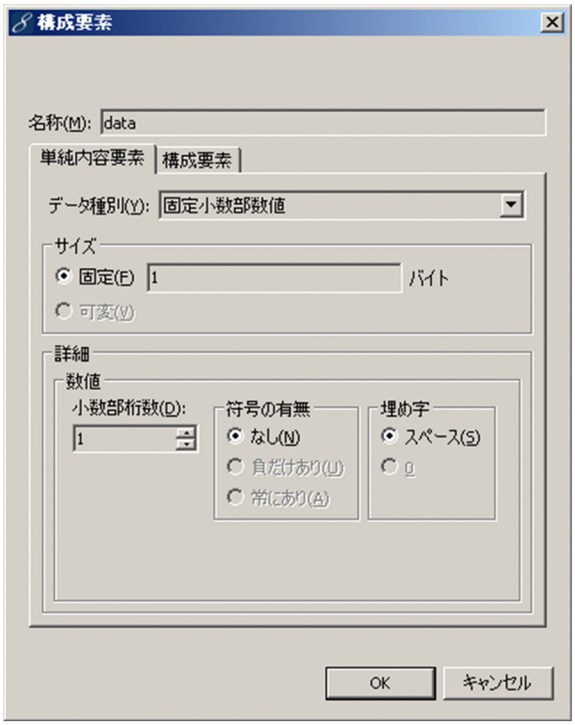
操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.3　要素を定義する（CSV 以外の形式の場合）」を参照してください。

構成要素ダイアログは，グローバル定義の単純内容要素を構成要素に設定する場合と，複合内容要素を構成要素に設定する場合で表示されるタブが異なります。

(1) 単純内容要素タブ

単純内容要素タブは，単純内容要素を構成要素に設定する場合にだけ表示されます。構成要素に設定する単純内容要素の情報が表示されます。内容は変更できません。

図 1-45　構成要素ダイアログ（単純内容要素タブ）



表示される情報は，構成要素に設定するグローバル定義の単純内容要素を設定するときに，単純内容要素ダイアログの単純内容要素タブで設定した値です。

単純内容要素ダイアログの単純内容要素タブについては，「1.3.2　単純内容要素ダイアログ」を参照してください。

(2) 複合内容要素タブ

複合内容要素タブは，複合内容要素を構成要素に設定する場合にだけ表示されます。構成要素に設定する複合内容要素の情報が表示されます。内容は変更できません。

図 1-46　構成要素ダイアログ（複合内容要素タブ）

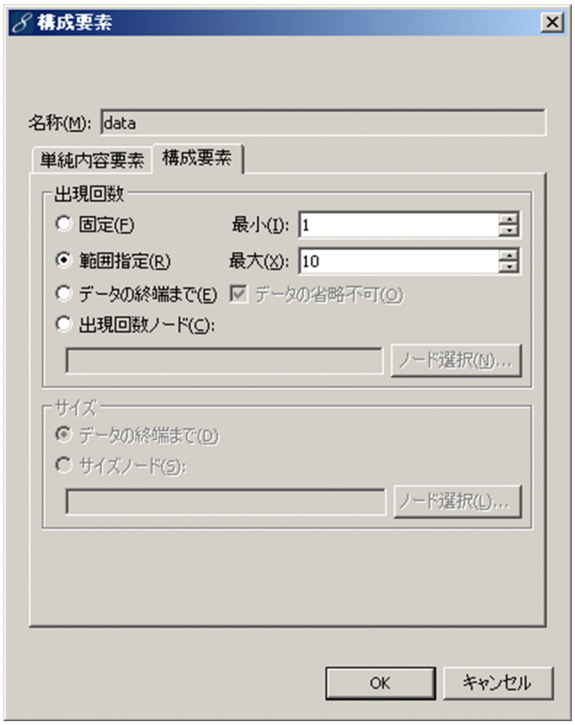
表示される情報は，構成要素に設定する複合内容要素を設定するときに，複合内容要素ダイアログで設定した値です。

複合内容要素ダイアログについては，「1.3.3　複合内容要素ダイアログ」を参照してください。

(3) 構成要素タブ

構成要素タブは，構成要素に設定する要素がグローバル定義の単純内容要素でも複合内容要素でも表示されます。構成要素の情報を指定します。

図 1-47　構成要素ダイアログ（構成要素タブ）



[出現回数]

構成要素の出現回数を指定します。

- 出現回数が固定の場合
  ラジオボタンで［固定］を選択し，［最小］に出現回数を 1 ～ 2,147,483,647 で指定します。バイナリデータとして CSV 形式のデータを扱う場合，CSV データにヘッダがないときは 0 を，ヘッダがあるときは 1 を設定します。
- 出現回数を範囲で指定する場合
  ラジオボタンで［範囲指定］を選択し，［最小］と［最大］で出現回数の範囲を指定します。設定できる範囲は，1 ～ 2,147,483,647 です。
- データの終端までを要素とする場合
  ラジオボタンで［データの終端まで］を選択します。なお，必ず 1 回以上出現させる場合は，［データの省略不可］チェックボックスにチェックします。
- 出現回数をほかの要素に依存させる場合
  ラジオボタンで［出現回数ノード］を選択し，［ノード選択］ボタンをクリックして依存させるノードを選択します。

［ノード選択］ボタン

ノード選択ダイアログが表示されます。構成要素の出現回数をほかの要素に依存させる場合，依存させるノードを選択するときに使用します。

ノード選択ダイアログで選択したノードは次のように表示されます。

- 基準パスで選択した場合

基準ノードからの相対パスが表示されます。
- 絶対パスで選択した場合
  ルート要素からのパスが表示されます。

[サイズ]

単純内容要素タブの［サイズ］で［可変］を選択した場合に，構成要素である単純内容要素として使用するデータのサイズを設定します。

- データの終端までを要素とする場合
  ラジオボタンで［データの終端まで］を選択します。
- サイズをほかの要素に依存させる場合
  ラジオボタンで［サイズノード］を選択し，［ノード選択］ボタンをクリックして依存させるノードを選択します。

[ノード選択] ボタン

ノード選択ダイアログが表示されます。構成要素である単純内容要素のサイズをほかの要素に依存させる場合，依存させるノードを選択するときに使用します。

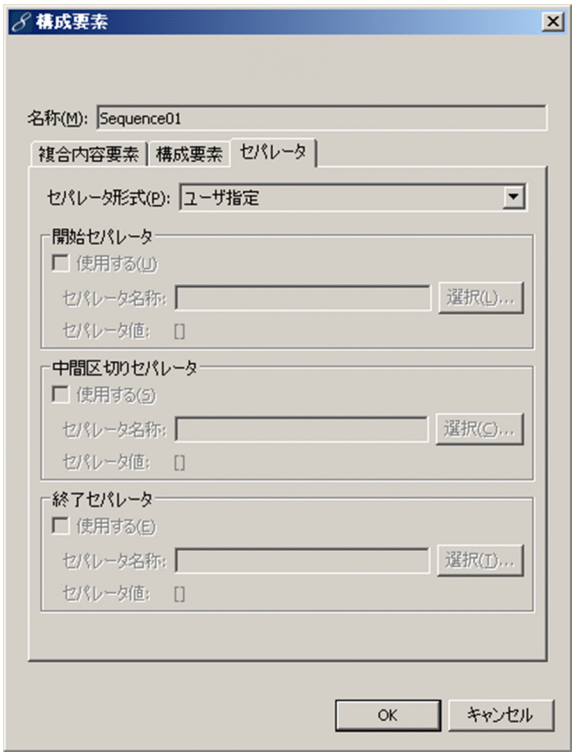
ノード選択ダイアログで選択したノードは次のように表示されます。

- 基準パスで選択した場合
  基準ノードからの相対パスが表示されます。
- 絶対パスで選択した場合
  ルート要素からのパスが表示されます。

(4) セパレータタブ

セパレータタブは，複合内容要素を構成要素に設定する場合にだけ表示されます。構成要素に設定する複合内容要素のセパレータの情報が表示されます。内容は変更できません。

図 1-48　構成要素ダイアログ（セパレータタブ）



表示される情報は，構成要素に設定する複合内容要素にセパレータを設定するときに，複合内容要素ダイアログで設定した値です。

複合内容要素ダイアログについては，「1.3.3　複合内容要素ダイアログ」を参照してください。

(5) 各タブで共通の内容

各タブで共通の内容を次に示します。

[インフォメーション]

構成要素ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[名称]

構成要素に設定する要素の名称が表示されます。

[OK] ボタン

指定した内容を設定して構成要素ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

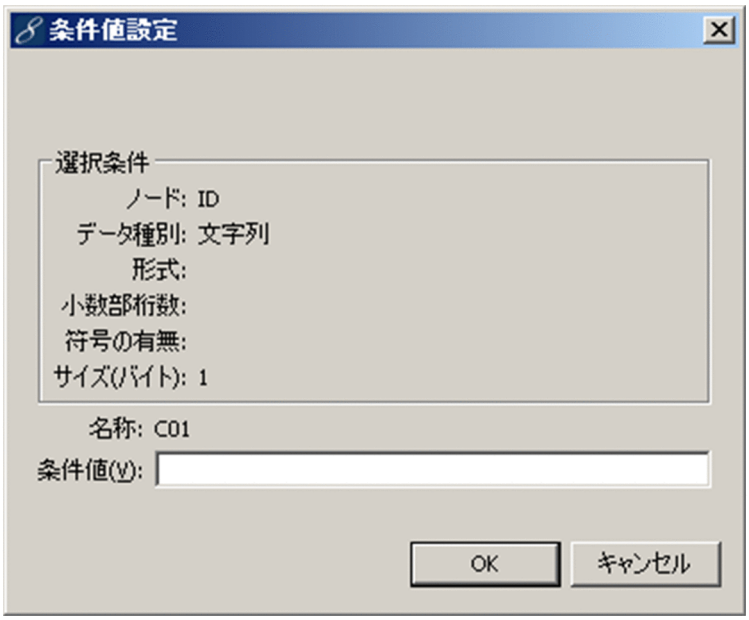
指定した内容を設定しないで構成要素ダイアログを閉じます。

1.3.5　条件値設定ダイアログ

条件値設定ダイアログは，選択構成の複合内容要素の構成要素に選択条件値を設定するときに使用します。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.3　要素を定義する（CSV 以外の形式の場合）」を参照してください。

図 1-49　条件値設定ダイアログ



［インフォメーション］

条件値設定ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

［選択条件］

［ノード］

選択条件ノードが表示されます。

［データ種別］

選択条件ノードのデータ種別が表示されます。

［形式］

選択条件ノードのデータ種別が日付時刻の場合，日付時刻の形式が表示されま

す。

[小数部桁数]

選択条件ノードのデータ種別が固定小数部数値，ゾーン形式数値，パック形式数値，または日付時刻（時刻を含む形式）の場合，小数部分の桁数が表示されます。

[符号の有無]

選択条件ノードのデータ種別が整数，実数または固定小数部数値の場合，符号の有無が表示されます。

また，ゾーン形式数値またはパック形式数値で，符号の設定が［カスタム］の場合，符号の有無が表示されます。

[サイズ（バイト)]

選択条件ノードのサイズが固定値の場合，その値が表示されます。可変値の場合には「可変値」と表示されます。

[名称]

選択条件値を設定する構成要素の名称が表示されます。

[条件値]

選択条件値を 1,024 文字以内で指定します。指定できる条件値は，選択条件ノードのデータ種別によって異なります。

指定できる条件値については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[OK] ボタン

指定した内容を設定して条件値設定ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

指定した内容を設定しないで条件値設定ダイアログを閉じます。

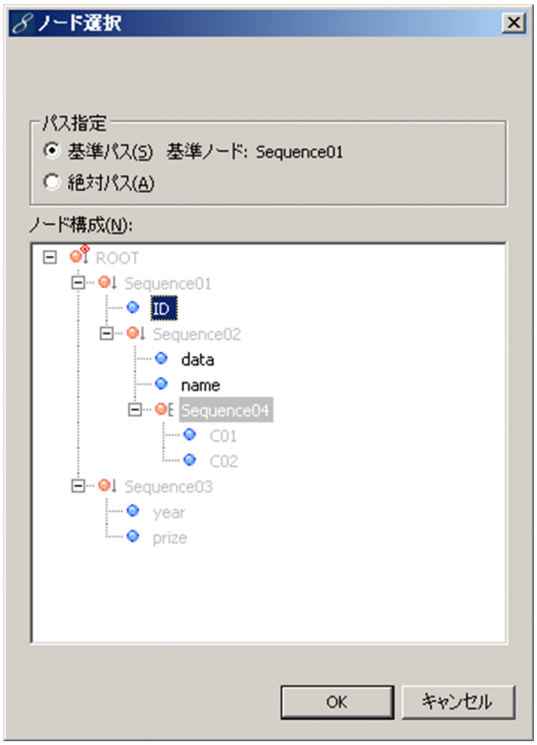
1.3.6　ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義）

ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義）は，構成要素の出現回数やサイズをほかの要素から参照する場合のターゲットノードや，構成要素の選択条件値を持つ選択条件ノードを選択するときに使用します。

次のダイアログにある［ノード選択］ボタンをクリックした場合に表示されます。

- 単純内容要素ダイアログ（構成要素タブ）
- 構成要素ダイアログ（構成要素タブ）
- 複合内容要素ダイアログ

図 1-50　ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義）



[インフォメーション]

ノード選択ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[パス指定]

ターゲットノードまたは選択条件ノードの指定方法をラジオボタンで選択します。

[基準パス] ラジオボタン

基準ノードからのパスでターゲットノードまたは選択条件ノードを指定する場合に選択します。

基準ノードとは，参照元の構成要素（依存ノード）がツリー全体に複数ある場合に，共通するツリー構成部分の最上位ノードです。

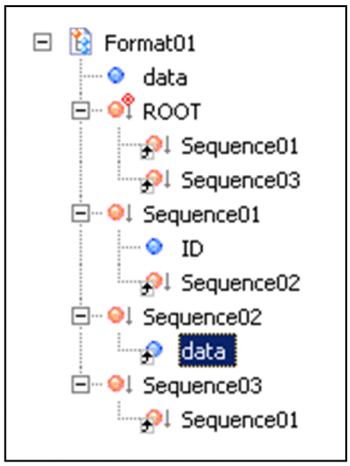
［基準パス］を選択すると，［ノード構成］には基準ノードからの構成がツリー表示されます。

［基準パス］を選択した場合の例を次の図に示します。

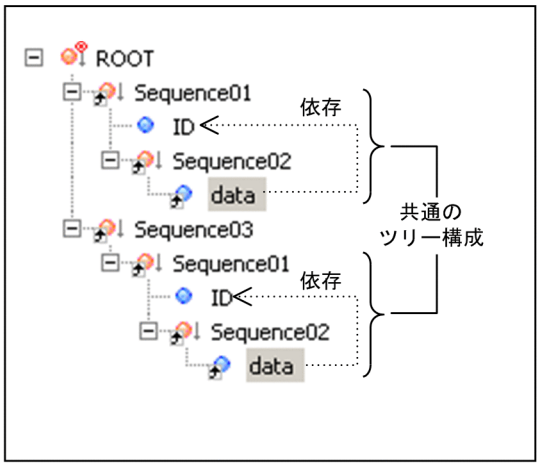
図 1-51　基準パスを選択した場合の例

・ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義）

・フォーマット定義エディタ



・アウトラインビュー



［絶対パス］ラジオボタン

ルート要素からのパスでターゲットノードまたは選択条件ノードを指定する場合に選択します。

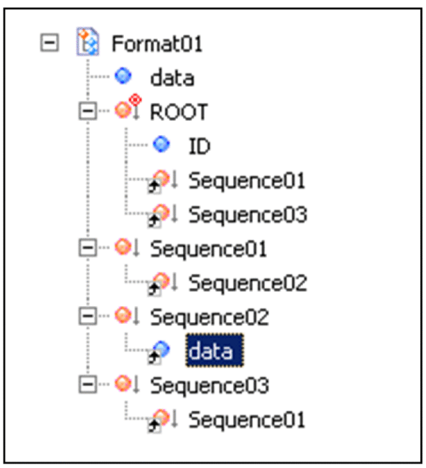
［絶対パス］を選択すると，［ノード構成］にはルート要素からの構成がツリー表示されます。

［絶対パス］を選択した場合の例を次の図に示します。

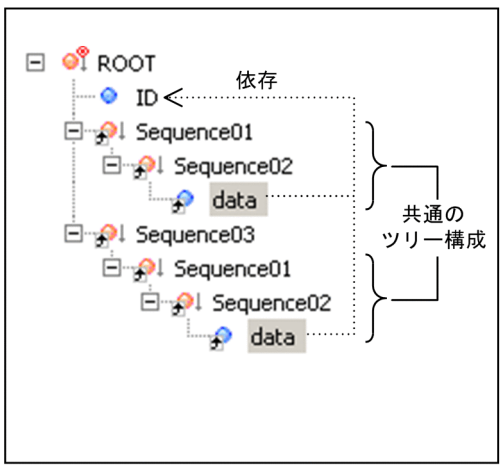
図 1-52　絶対パスを選択した場合の例

・ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義）

・フォーマット定義エディタ



・アウトラインビュー



［ノード構成］

［パス指定］の選択に従って，ノードの構成がツリー表示されます。表示されたツ

リーからターゲットノードまたは選択条件ノードを選択します。

［OK］ボタン

指定した内容を設定してノード選択ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

指定した内容を設定しないでノード選択ダイアログを閉じます。

1.3.7　要素選択ダイアログ

要素選択ダイアログは，構成要素として設定するグローバル定義の要素を選択するときに使用します。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.3　要素を定義する（CSV 以外の形式の場合）」を参照してください。

図 1-53　要素選択ダイアログ

［インフォメーション］

要素選択ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[要素一覧]

構成要素として設定する要素を選択します。

[名称]

構成要素として設定できるグローバル定義の要素が表示されます。

[要素]

単純内容要素の場合は「単純内容」，複合内容要素の場合は「複合内容」と表示されます。

[OK] ボタン

指定した内容を設定して要素選択ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

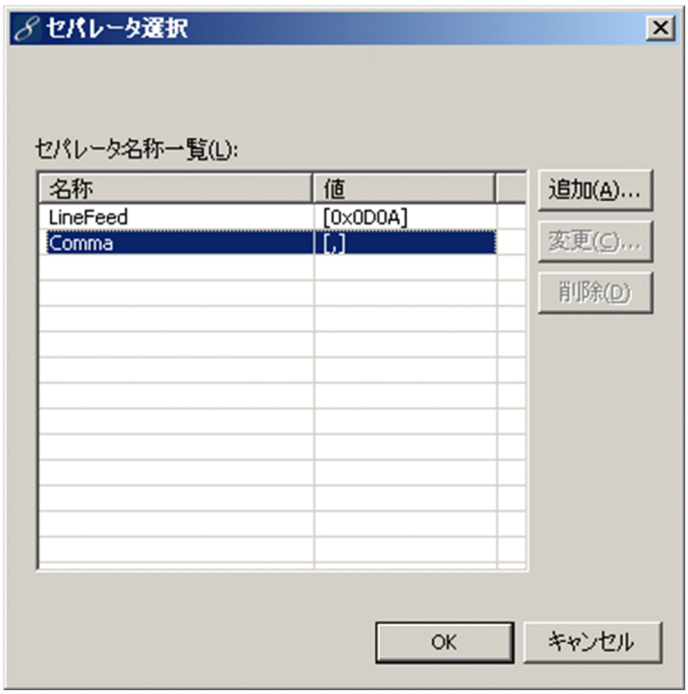
指定した内容を設定しないで要素選択ダイアログを閉じます。

1.3.8 セパレータ選択ダイアログ

セパレータ選択ダイアログは，複合内容要素の開始セパレータ，中間区切りセパレータおよび終了セパレータとして設定するセパレータを選択するダイアログです。

複合内容要素ダイアログ（セパレータタブ）の，各セパレータの指定欄にある［選択］ボタンをクリックした場合に表示されます。

図 1-54 セパレータ選択ダイアログ



[インフォメーション]

セパレータ選択ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

[セパレータ名称一覧]

[名称]

定義されているセパレータの名称が表示されます。

[値]

定義されているセパレータの値が表示されます。セパレータの値は［］で囲まれて表示されます。

[追加] ボタン

セパレータとして使用する文字を新たに追加するときに使用します。セパレータ追加 / 変更ダイアログが表示されます。

[変更] ボタン

すでに定義されているセパレータの名称およびセパレータの値を変更するときに使用します。［セパレータ名称一覧］から情報を変更するセパレータを選択してクリックすると，セパレータ追加 / 変更ダイアログが表示されます。

なお，次のセパレータの情報は変更できません。

- 「LineFeed」および「Comma」（初期設定されているセパレータ）
- 同じ複合内容要素の中で，すでにほかのセパレータとして指定されているセパレータ

[削除] ボタン

すでに定義されているセパレータを削除するときに使用します。［セパレータ名称一覧］から削除するセパレータを選択してクリックすると，選択したセパレータが削除されます。

なお，次のセパレータは削除できません。

- 「LineFeed」および「Comma」（初期設定されているセパレータ）
- 同じ複合内容要素の中で，すでにほかのセパレータとして指定されているセパレータ

[OK] ボタン

指定した内容を設定してセパレータ選択ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

指定した内容を設定しないでセパレータ選択ダイアログを閉じます。

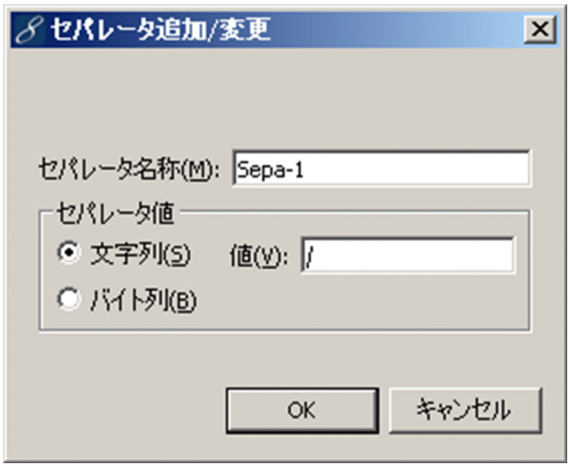
1.3.9　セパレータ追加 / 変更ダイアログ

セパレータ追加 / 変更ダイアログは，複合内容要素の開始セパレータ，中間区切りセパ

レータおよび終了セパレータとして使用するセパレータを追加したり，セパレータの情報を変更したりするダイアログです。

セパレータ選択ダイアログの，［追加］ボタンまたは［変更］ボタンをクリックした場合に表示されます。

図 1-55　セパレータ追加 / 変更ダイアログ



［インフォメーション］

セパレータ追加 / 変更ダイアログの入力情報に問題がある場合に，ダイアログの最上段に問題点を示すメッセージが表示されます。表示されるメッセージと対策については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.4.6　バイナリフォーマット定義ファイルを検証する」を参照してください。

［セパレータ名称］

セパレータの名称を指定します。NCName 型で 256 文字以内で指定します。

すでに定義されているセパレータの情報を変更する場合には，セパレータ名称が初期表示されます。セパレータの新規追加する場合には，「Sepa-」という接頭語に通し番号が付いた名称が初期表示されます。

［セパレータ値］

［文字列］ラジオボタン

セパレータの値として文字列を使用する場合に選択します。

［バイト列］ラジオボタン

セパレータの値としてバイト列を使用する場合に選択します。

［値］

セパレータの値として使用する文字列またはバイト列を指定します。次の値を指定できます。文字列の場合，指定できる文字は，ラテン文字（JIS X 0201 の「0x21」～「0x7E」）または半角スペース（JIS X 0201 の「0x20」）で 1,024 文字以内です。

セパレータの値として ASCII 文字列の「012」を表現したい場合の指定例を次に示します。

- 文字列の場合
  「012」と，文字列をそのまま指定します。
- バイト列の場合
  「303132」と，16 進数の 0x 表記なしの形式で指定します。

[OK] ボタン

指定した内容を設定してセパレータ追加 / 変更ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

指定した内容を設定しないでセパレータ追加 / 変更ダイアログを閉じます。

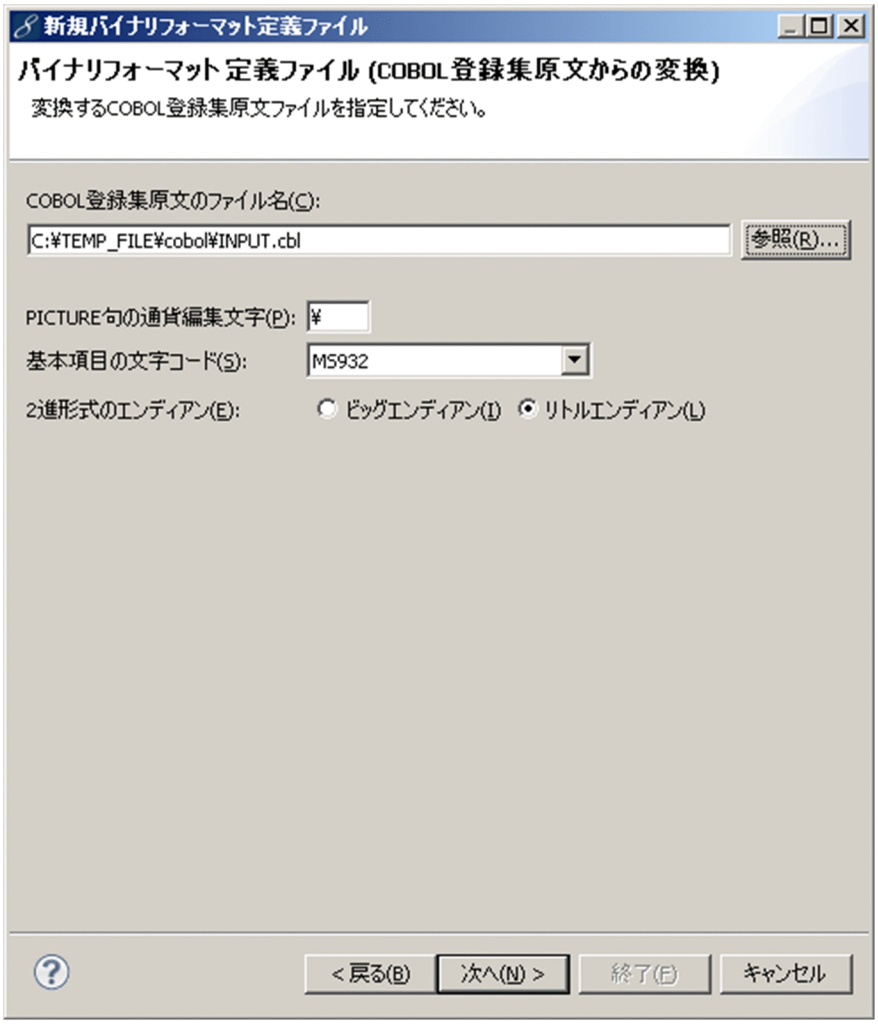
1.3.10 バイナリフォーマット定義ファイル（COBOL 登録集原文からの変換）ダイアログ

この項では，COBOL 登録集原文ファイルからバイナリフォーマット定義ファイルの生成機能で使用する画面について説明します。

(1) COBOL 登録集原文設定ページ

変換する COBOL 登録集原文ファイルや，変換時に必要な情報を設定するページです。

図 1-56　COBOL 登録集原文設定ページ



[COBOL 登録集原文のファイル名]

変換する COBOL 登録集原文ファイル名を指定します。

[参照] ボタン

COBOL 登録集原文ファイルを設定するダイアログが表示されます。

[PICTURE 句の通貨編集文字]

PICTURE 句の文字列で使用する通貨文字を指定します。初期値は「¥」が指定されています。

PICTURE 句の通貨編集文字に指定できる文字を次に示します。

「!」,「#」,「$」,「%」,「&」,「<」,「>」,「?」,「@」,「F」,「G」,「H」,「I」,「J」,「K」,「L」,「M」,「O」,「Q」,「T」,「U」,「W」,「Y」,「[」,「¥」,「]」,「^」,「_」,「`」,「{」,「|」,「}」,「~」, 半角カタカナ（MS932 コードの 0xA1 ～ 0xDF）

[基本項目の文字コード]

基本項目で使用されている文字コードを選択します。初期値は「MS932」が選択されています。ここで選択した文字コードは，バイナリフォーマット定義ファイルの文字コードとして設定されます。

基本項目で選択できる文字コードを次に示します。

- MS932
- UTF8
- UTF16_BIG
- UTF16_LITTLE
- JIS
- KEIS+EBCDIC
- KEIS+EBCDIK
- KEIS
- IBM_CODE+EBCDIC(LATIN)
- IBM_CODE+EBCDIC(KANA)
- CUSTOM

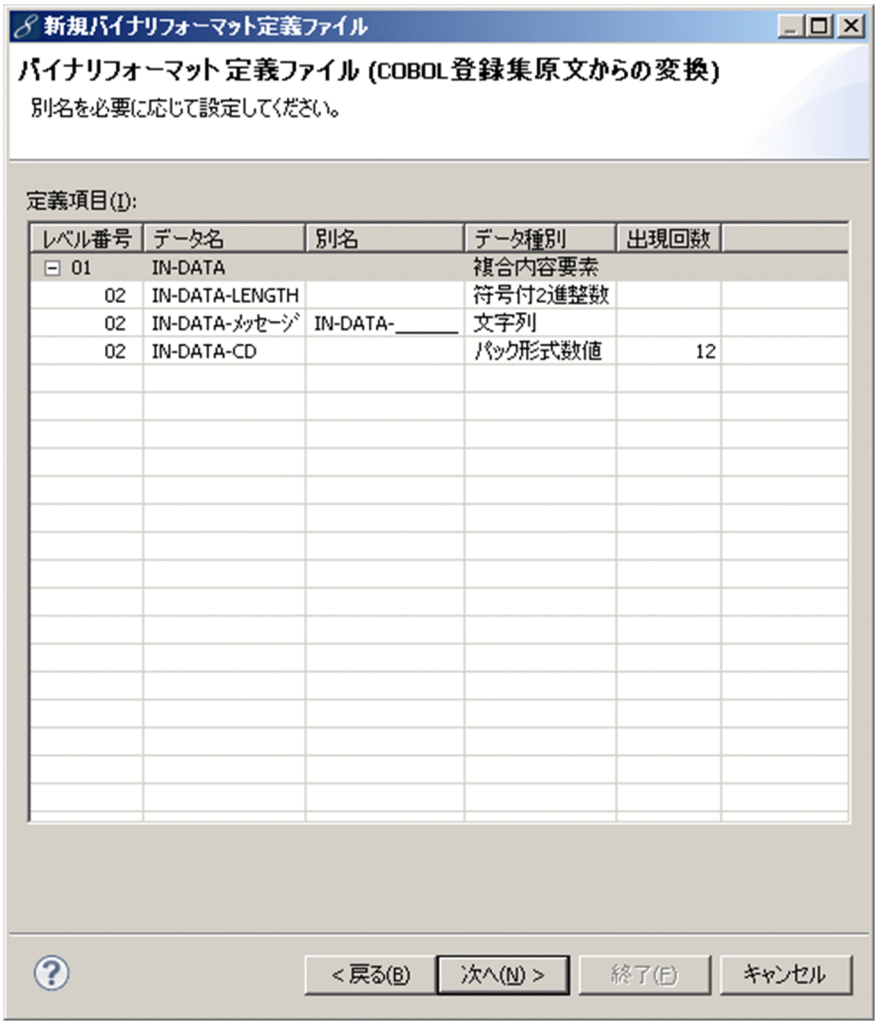
[2 進形式のエンディアン]

2 進形式のエンディアンをビッグエンディアンまたはリトルエンディアンのどちらかから選択します。初期値は「リトルエンディアン」が選択されています。

(2) データ項目設定ページ

COBOL 登録集原文ファイルを変換した結果が表示されます。各項目は複数列のツリービューで表示されます。

図 1-57　データ項目設定ページ



[定義項目]

[レベル番号]

COBOL 登録集原文ファイルで指定されていた項目のレベル番号が表示されます。集団項目で下位の項目を非表示にしたい場合は，［レベル番号］の左のボタンをクリックします。

[データ名]

COBOL 登録集原文ファイルで指定されていた項目のデータ名が表示されます。

[別名]

バイナリフォーマット定義ファイルの要素名として使用される名称が表示されます。セルをクリックすることで名称を変更できます。［別名］を設定しない場合は，［データ名］に表示された名称がバイナリフォーマット定義ファイルの要

素名となります。
［別名］に入力できる文字列は，次の条件を満たしている必要があります。条件を満たしていない場合，［別名］は設定されません。

- NCName で使用できる文字であること
  NCName で使用できない文字が使用されている場合は，「_」に置き換えられます。
- ほかのデータ名と重複しないこと

なお，FILLER の場合は「_.00001」，「_.00002」のように，先頭 2 文字が「_.」で，残り 5 文字が昇順の番号となる名称で別名が設定されます。
［データ名］に表示された名称がほかの項目のデータ名，および別名と重複する場合は，［データ名］の末尾に数値が付加された名称が別名に設定されます。

［データ種別］

変換後のバイナリフォーマット定義ファイルでの属性が表示されます。COBOL 登録集原文ファイルとの属性の対応については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「4.5.2　COBOL 登録集原文ファイルとバイナリフォーマット定義ファイルのデータ型の対応」を参照してください。

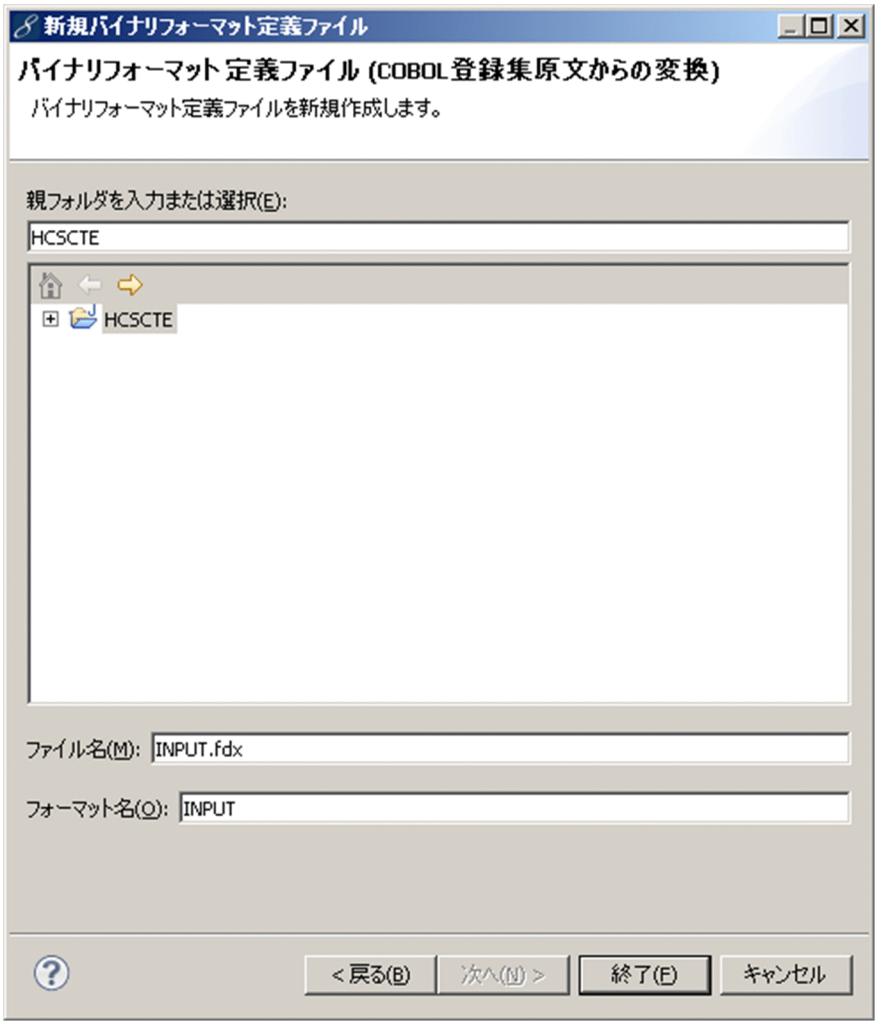
［出現回数］

COBOL 登録集原文ファイルの OCCURS 句で 2 以上の値が指定されている場合に，指定された値が表示されます。

(3) 出力ファイル設定ページ

バイナリフォーマット定義ファイルを出力するときに使用します。

図 1-58　出力ファイル設定ページ



[親フォルダを入力または選択]

入力または選択したフォルダ名が表示されます。

[ファイル名]

バイナリフォーマット定義ファイル名を指定できます。初期値は「(フォーマット名）+".fdx"」が指定されています。NCName で使用できる文字を入力できます。

[フォーマット名]

バイナリフォーマット定義ファイルのフォーマット名を指定できます。初期値は［ファイル名］から拡張子を除いた文字列となります。NCName で使用できる文字を入力できます。［フォーマット名］に文字を入力すると，「入力した文字 +".fdx"」が［ファイル名］にも連動して設定されます。

1.4　ビジネスプロセスに関連するダイアログ

ビジネスプロセスに関連するダイアログについて説明します。

注意事項

ビジネスプロセスに関連するダイアログでは，入力項目の前後に半角スペースや全角スペースを指定できません。

1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ

変数・相関セット一覧ダイアログは，変数や相関セットを追加，変更したり，一覧を表示したりするときに使用します。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.5.1　変数の定義」および「6.5.2　相関セットの定義」を参照してください。

図 1-59　変数・相関セット一覧ダイアログ（変数情報の表示）

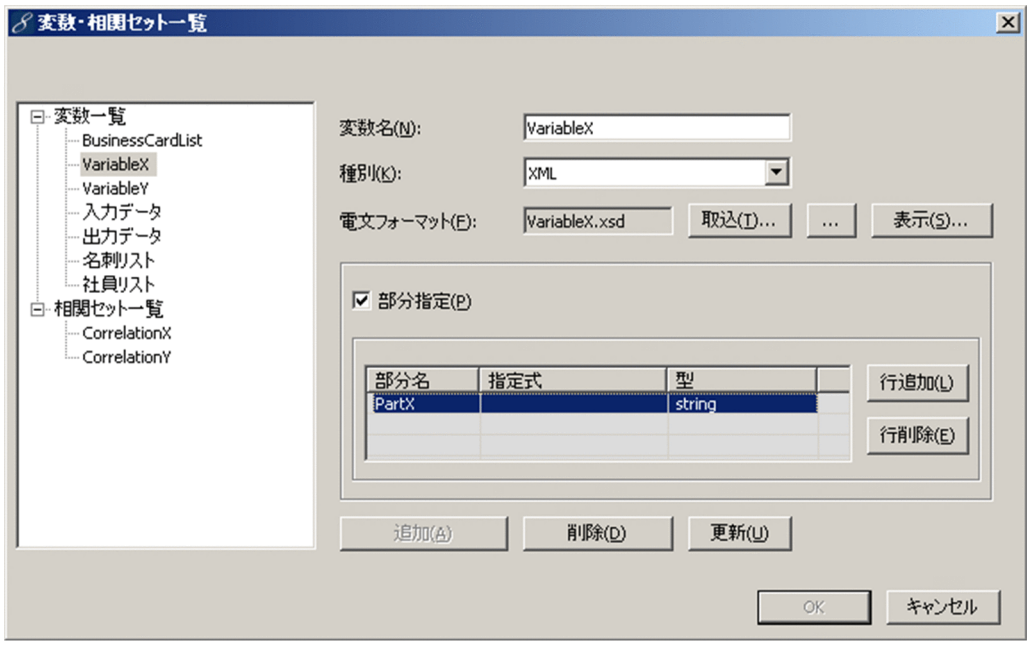
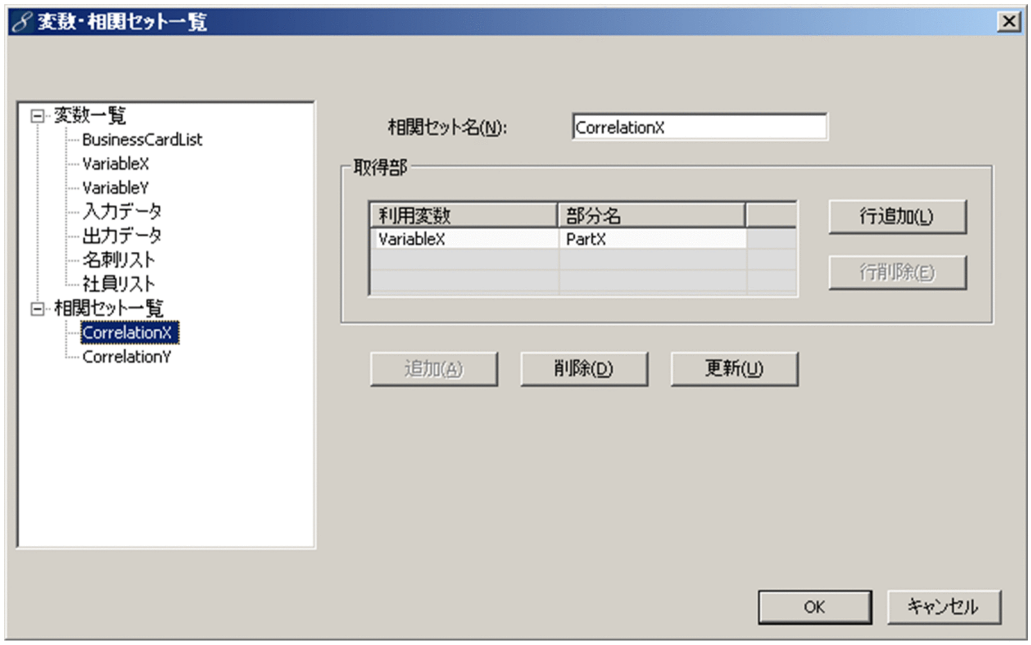


図 1-60　変数・相関セット一覧ダイアログ（相関セット情報の表示）



[変数一覧]

プロセスまたはスコープに属する定義済み変数の一覧が表示されます。

[変数名]

変数名を 64 バイト以内で指定します。

[種別]

変数の種別を次の 6 種類から選択します。

- XML 型（XML）
- バイナリ型（non-XML）
- any 型（any）
- 数値（numeric）
- 文字列（string）
- 真偽値（boolean）

[電文フォーマット]

変数の種別がメッセージ型の場合に，電文フォーマットとなる XML スキーマファイルが表示されます。

[取込] ボタン

変数の種別がメッセージ型の場合に，呼び出すサービス部品またはユーザ定義受付の要求電文，応答電文またはフォルト電文に設定されている電文フォーマットを，変数に設定する場合に使用します。

電文フォーマットの取込ダイアログが表示されます。電文フォーマットの取込ダイ

アログでは，変数に設定する電文フォーマットを指定します。

[...] ボタン

変数の種別がメッセージ型の場合に，電文フォーマットとなる XML スキーマファイルを設定します。

[表示] ボタン

変数の種別がメッセージ型の場合，変数のパスを取得するときに使用します。変数の表示ダイアログが表示されます。

[部分指定] チェックボックス

変数の種別がメッセージ型の場合，部分指定をするためにチェックします。

[部分名]

部分指定をする場合，部分名を指定します。
部分名は，次の条件に従って指定します。

部分の型がメッセージ型（XML）の場合

部分名はビジネスプロセス内で一意である必要があります。

部分の型が数値（numeric），文字列（string）または真偽値（boolean）の場合

- 電文フォーマットが異なる変数で，同じ部分の型である場合，同じ部分名を使用できます。
- 上記以外の場合，部分名は一意である必要があります。

[指定式]

部分指定をする場合，部分名に対応する式を指定します。指定式には，変数の表示ダイアログの［選択パス］で取得したパスを指定します。

[型]

変数の種別がメッセージ型の場合，部分名に対応する型を選択します。メッセージ型（XML），数値（numeric），文字列（string），真偽値（boolean）の 4 種類から選択します。

[相関セット一覧]

プロセスまたはスコープに属する定義済み相関セットの一覧が表示されます。

[相関セット名]

相関セット名を 64 バイト以内で指定します。

[取得部]

[利用変数]

相関セットの定義に利用する電文フォーマットを持つ変数を指定します。所属しているスコープおよびその親スコープで定義済みの，基本型の部分を持つメッセージ型の変数が表示されます。

[部分名]

［利用変数］で選択した変数に対して，相関セットとして利用する基本型の部分

の，部分名を指定します。

［行追加］ボタン
部分指定または取得部指定をするための行を追加します。

［行削除］ボタン
不要な部分指定または取得部指定の行を削除します。

［追加］ボタン
定義した変数や相関セットの情報を新規追加します。

［削除］ボタン
定義した変数や相関セットの情報を削除します。

［更新］ボタン
定義済みの変数や相関セットの情報の内容を更新します。

［OK］ボタン
定義した内容で，変数・相関セット一覧ダイアログを閉じます。

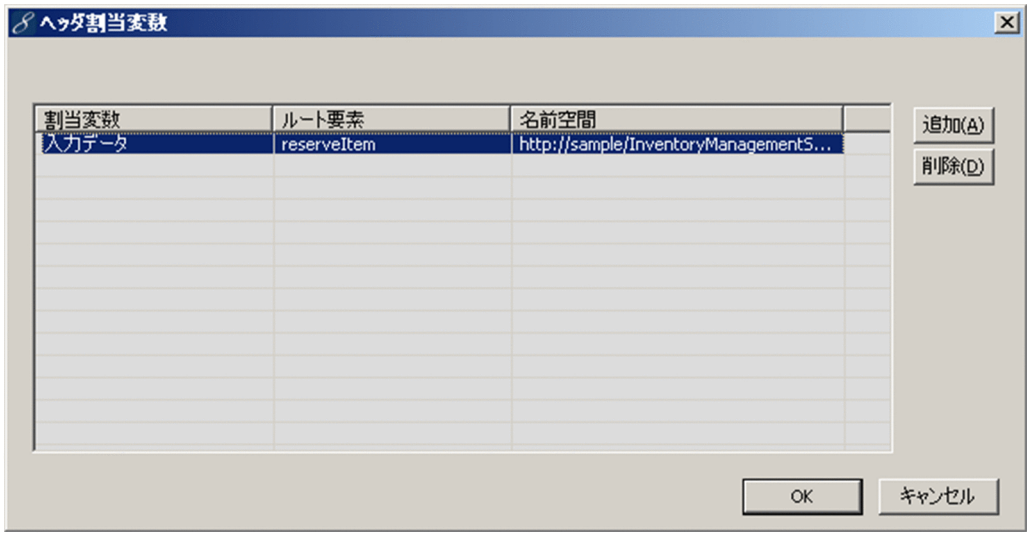
［キャンセル］ボタン
定義した内容を取り消し，定義前の内容で変数・相関セット一覧ダイアログを閉じます。

1.4.2 ヘッダ割当変数ダイアログ

ヘッダ割当変数ダイアログは，ヘッダ割当変数を設定するときに使用します。

受付アクティビティ，応答アクティビティ，およびサービス呼出アクティビティのヘッダ割当変数の［設定］ボタンをクリックした場合に表示されます。

図 1-61　ヘッダ割当変数ダイアログ



[割当変数]
　割当変数が昇順に表示されます。

[ルート要素]
　割当変数に定義したルート要素が表示されます。

[名前空間]
　ルート要素の名前空間が表示されます。

[追加] ボタン
　表の最下行に新しい行を追加します。

[削除] ボタン
　[割当変数] に表示された割当変数を行ごと削除します。一度に複数の割当変数の行を選択して削除できます。

[OK] ボタン
　定義した内容で，ヘッダ割当変数ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン
　定義した内容を取り消し，定義前の内容でヘッダ割当変数ダイアログを閉じます。

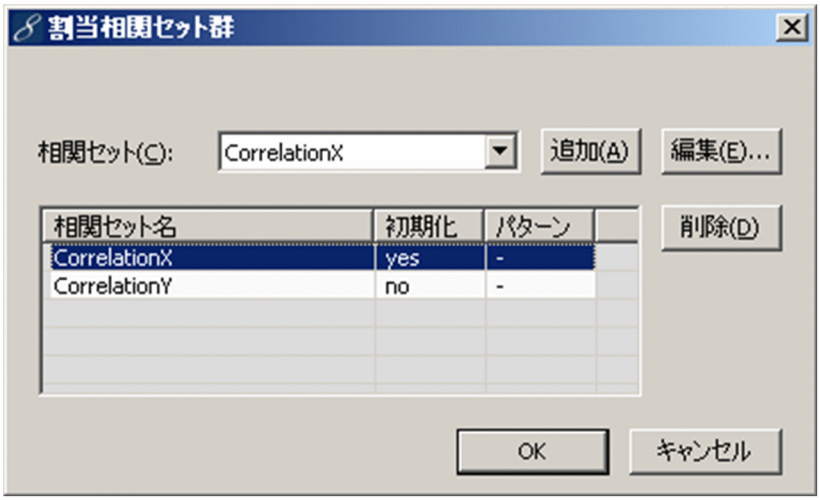
1.4.3　割当相関セット群ダイアログ

割当相関セット群ダイアログは，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した相関セットグループをアクティビティに割り当てるときに使用します。

受付アクティビティ，応答アクティビティ，およびサービス呼出アクティビティの［設定］ボタンをクリックした場合に表示されます。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.5.2　相関セットの定義」を参照してください。

図 1-62　割当相関セット群ダイアログ



[相関セット]

要求電文や応答電文に割り当てる相関セットを，ドロップダウンリストから選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義済みの相関セットだけが表示されます。

[追加] ボタン

［相関セット］で選択した相関セットを［相関セット名］に追加します。

[編集] ボタン

変数・相関セット一覧ダイアログが表示されます。

[削除] ボタン

［相関セット名］に表示された相関セットを行ごと削除します。一度に複数の相関セットの行を選択して削除できます。

[相関セット名]

［相関セット］で選択した相関セットが表示されます。

[初期化]

相関セットを初期化するかどうかを選択します。初期化する場合は「yes」を，初期化しない場合は「no」を選択します。

[パターン]

相関セットのパターンを選択します。受付アクティビティ，および応答アクティビティから相関セットの割当があった場合は，「－」が表示されます。

［OK］ボタン

定義した内容で，割当相関セット群ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義した内容を取り消し，定義前の内容で割当相関セット群ダイアログを閉じます。

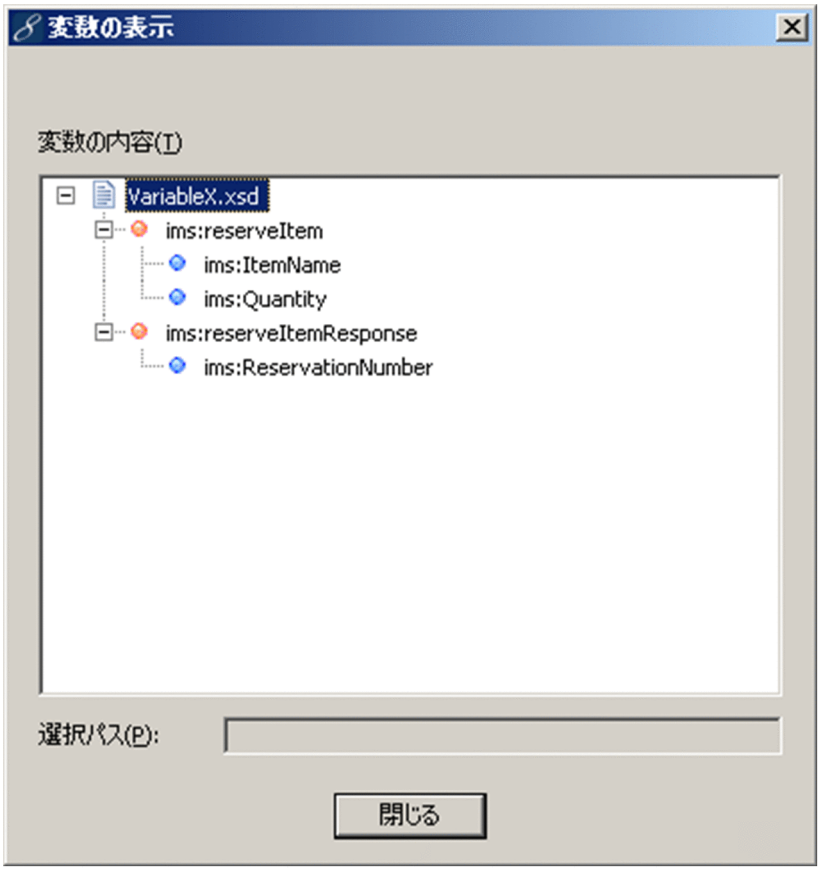
1.4.4　変数の表示ダイアログ

変数の表示ダイアログでは，変数のパスを取得する場合に使用します。

変数・相関セット一覧ダイアログの［表示］ボタンをクリックした場合に表示されます。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.5.1　変数の定義」を参照してください。

図 1-63　変数の表示ダイアログ



[変数の内容]

変数・相関セット一覧ダイアログで選択した変数の内容がツリービューで表示されます。

表示された変数を選択し，右クリックして［パスの取得］を選択すると，ルート要素からの絶対パスを取得できます。取得したパスは，任意の個所に貼り付けることができます。

［選択パス］

ツリービューで表示された変数を選択すると，選択した変数のパスがルート要素からの絶対パスで表示されます。

［閉じる］ボタン

変数の表示ダイアログを閉じます。

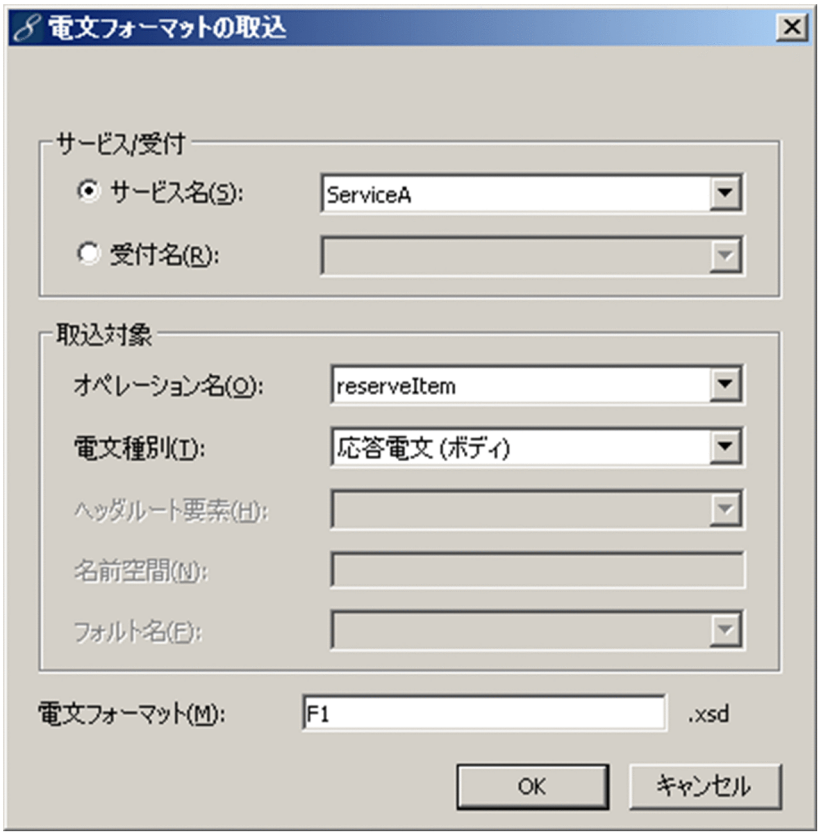
1.4.5 電文フォーマットの取込ダイアログ

呼び出すサービス部品またはユーザ定義受付の，要求電文，応答電文またはフォルト電文に設定されている電文フォーマットを，変数に設定するときに使用します。

変数・相関セット一覧ダイアログの［取込］ボタンをクリックした場合に表示されます。

操作手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.5.1　変数の定義」を参照してください。

図 1-64　電文フォーマットの取込ダイアログ



[サービス / 受付]

[サービス名] ラジオボタン

呼び出すサービス部品の要求電文，応答電文またはフォルト電文に設定されている電文フォーマットを，変数に設定する場合に選択します。ドロップダウンリストでは，呼び出すサービス部品を選択します。

[受付名] ラジオボタン

ユーザ定義受付に設定されている電文フォーマットを，変数に設定する場合に選択します。ドロップダウンリストでは，取り込むユーザ定義受付を選択します。

[取込対象]

[オペレーション名]

［サービス / 受付］で指定したサービス部品，またはユーザ定義受付のオペレーションのうち，取り込むオペレーション名をドロップダウンリストで選択します。

[電文種別]

変数に設定する電文フォーマットの種別を次の中からドロップダウンリストで

選択します。
- 要求電文（ボディ）
- 応答電文（ボディ）
- 要求電文（ヘッダ）
- 応答電文（ヘッダ）
- フォルト電文

[ヘッダルート要素]
選択したヘッダに設定されたルート要素が昇順で表示されます。

[名前空間]
［電文種別］で「要求電文（ヘッダ）」または「応答電文（ヘッダ）」を選択した場合，名前空間が表示されます。

[フォルト名]
［電文種別］でフォルト電文を選択した場合，［オペレーション名］で選択したオペレーションのうち，取り込むフォルト名を選択します。

[電文フォーマット]
電文フォーマットとなる XML スキーマファイルの名称を入力します。

[OK] ボタン
ダイアログを閉じます。設定した内容は，変数・相関セット一覧ダイアログに反映されます。

[キャンセル] ボタン
設定した内容を保存しないでダイアログを閉じます。

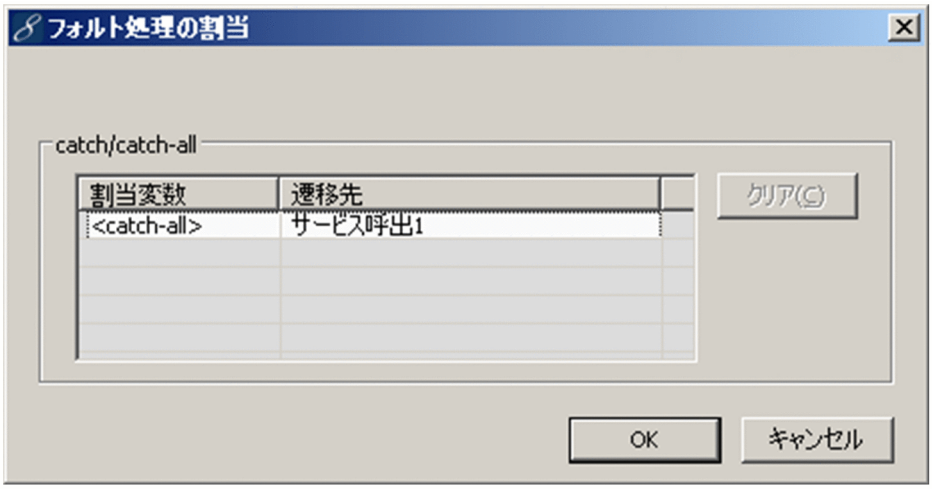
1.4.6 フォルト処理の割当ダイアログ

フォルト処理の条件を設定するダイアログです。

フォルトコネクションを利用して設定した連結線をダブルクリックした場合に表示されます。

操作方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.4.3 フォルト処理を定義する」を参照してください。

図 1-65 フォルト処理の割当ダイアログ



[割当変数]

フォルトの対象となる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，該当するビジネスプロセスに定義されている変数が表示されます。
なお，定義していないフォルトが発生した場合のフォルト処理を設定する場合，ドロップダウンリストから「catch-all」を選択します。フォルトの発生するアクティビティが Java 呼出アクティビティの場合，定義できるのは「catch-all」のフォルト処理だけです。

[遷移先]

［割当変数］に指定したフォルトが発生したときに実行するフォルト処理を定義したアクティビティのアクティビティ名称を選択します。

[クリア] ボタン

選択している［割当変数］の行に指定されている内容をクリアします。

[OK] ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.7 受付アクティビティダイアログ

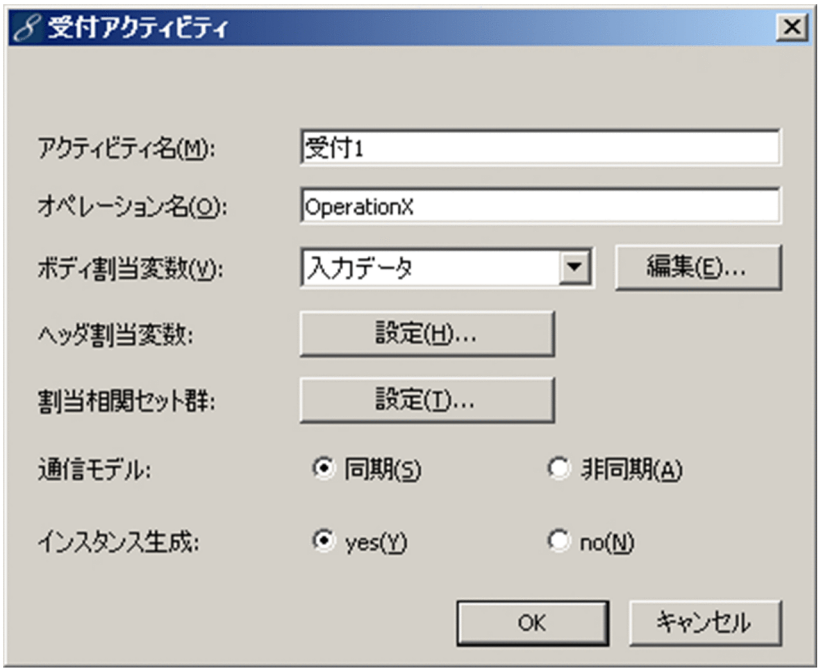
受付アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの受付アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの受付アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

受付アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.2　受付アクティビティ」を参照してください。

図 1-66　受付アクティビティダイアログ



[アクティビティ名]

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

[オペレーション名]

サービスリクエスタからサービス部品を呼び出すときに利用するオペレーション名を 255 バイト以内で指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。

オペレーション名には，ビジネスプロセス内のほかの受付アクティビティに設定されていない名称を指定します。

[ボディ割当変数]

ビジネスプロセスの要求電文に割り当てる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［ボディ割当変数］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

［ヘッダ割当変数］

［設定］ボタンをクリックして，定義済みのヘッダ割当変数をアクティビティに割り当てます。

［設定］ボタン

［ヘッダ割当変数］ダイアログが表示されます。必要に応じて，アクティビティに割り当てるヘッダ割当変数を［ヘッダ割当変数］ダイアログで設定します。
［ヘッダ割当変数］ダイアログの詳細については，「1.4.2　ヘッダ割当変数ダイアログ」を参照してください。

［割当相関セット群］

［設定］ボタンをクリックして定義済みの相関セットグループをアクティビティに割り当てます。

［設定］ボタン

［割当相関セット群］ダイアログが表示されます。必要に応じて，アクティビティに割り当てる相関セットを［割当相関セット群］ダイアログで設定します。また，割り当てる相関セットを初期化するかどうかを設定します。
なお，［インスタンス生成］で［no］を選択した場合，初期化しない相関セットを一つだけ設定する必要があります。
［割当相関セット群］ダイアログの詳細については，「1.4.3　割当相関セット群ダイアログ」を参照してください。

［通信モデル］

オペレーションの同期または非同期を選択します。

［インスタンス生成］

要求電文を受け付けたときに，プロセスを初期化するかどうかを選択します。

［OK］ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.8　応答アクティビティダイアログ

応答アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

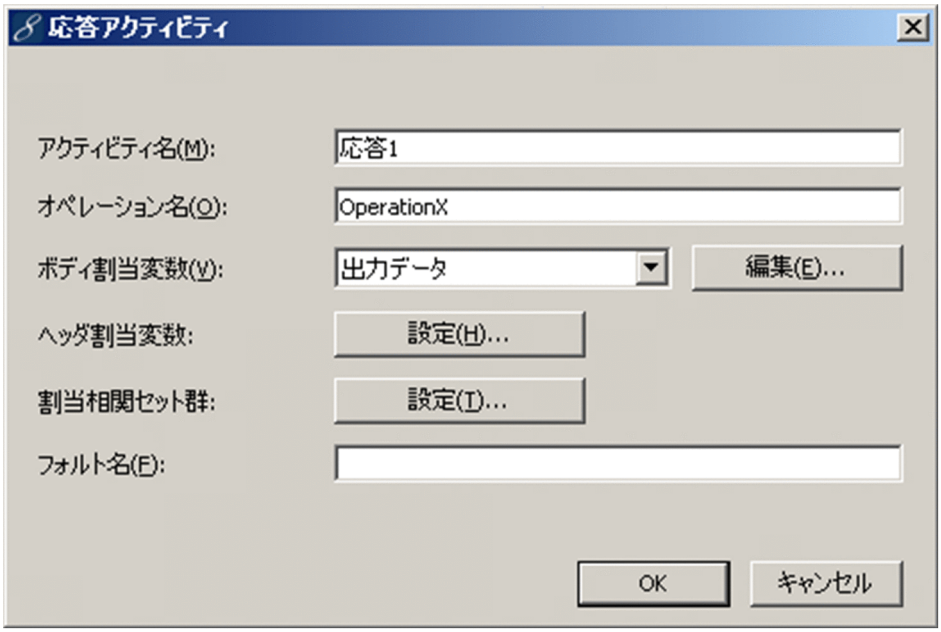
次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの応答アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの応答アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

応答アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービス

プラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.3　応答アクティビティ」を参照してください。

図 1-67　応答アクティビティダイアログ



[アクティビティ名]

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

[オペレーション名]

対応する受付アクティビティに指定したオペレーション名を，255 バイト以内で指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。

[ボディ割当変数]

応答電文に割り当てる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［ボディ割当変数］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[ヘッダ割当変数]

［設定］ボタンをクリックして，定義済みのヘッダ割当変数をアクティビティに割り当てます。

[設定] ボタン

［ヘッダ割当変数］ダイアログが表示されます。必要に応じて，アクティビティに割り当てるヘッダ割当変数を［ヘッダ割当変数］ダイアログで設定します。
［ヘッダ割当変数］ダイアログの詳細については，「1.4.2　ヘッダ割当変数ダイアログ」を参照してください。

[割当相関セット群]

［設定］ボタンをクリックして定義済みの相関セットグループをアクティビティに割り当てます。

[設定] ボタン

［割当相関セット群］ダイアログが表示されます。必要に応じて，アクティビティに割り当てる相関セットを［割当相関セット群］ダイアログで設定します。また，割り当てる相関セットを初期化するかどうかを設定します。
［割当相関セット群］ダイアログの詳細については，「1.4.3　割当相関セット群ダイアログ」を参照してください。

[フォルト名]

フォルト処理として応答アクティビティを定義して，サービスリクエスタにフォルトが発生したことを示す応答電文を送信する場合，フォルトの名称を指定します。
XMLSchema の NCName 定義文字でローカル名を指定します。
フォルト名を指定しない場合，応答電文は正常な応答となります。

[OK] ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.9　サービス呼出アクティビティダイアログ

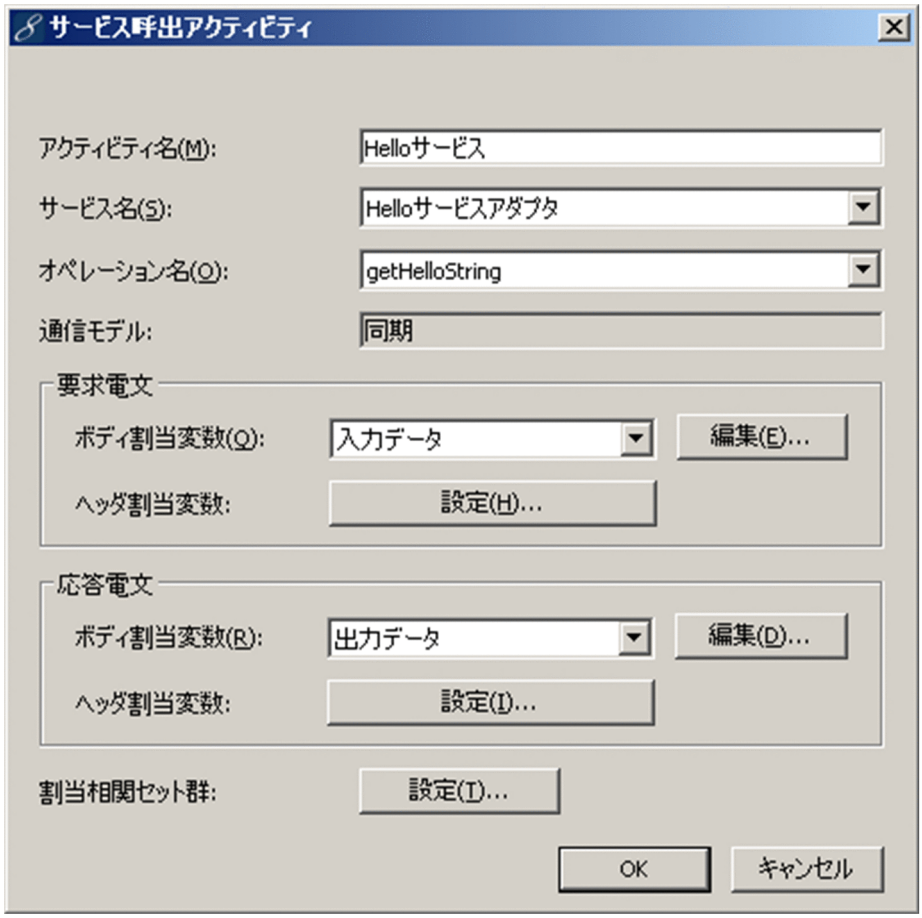
サービス呼出アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスのサービス呼出アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスのサービス呼出アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

サービス呼出アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.4　サービス呼出アクティビティ」を参照してください。

図 1-68　サービス呼出アクティビティダイアログ



[アクティビティ名]

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

[サービス名]

要求電文を送信して呼び出すサービス部品をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，ツリービューのサービス定義一覧に表示されるサービス部品が表示されます。

[オペレーション名]

［サービス名］で指定したサービス部品のオペレーションのうち，実際に呼び出すオペレーションの名称を指定します。

[通信モデル]

［オペレーション名］で選択したオペレーションに設定されている通信モデル（同期または非同期）が表示されます。

[要求電文]

要求電文に関する割当変数を次に示す項目で指定します。

[ボディ割当変数]

サービス部品を呼び出す要求電文に割り当てる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[ヘッダ割当変数]

［ヘッダ割当変数］ダイアログが表示されます。必要に応じて，アクティビティに割り当てるヘッダ割当変数を［ヘッダ割当変数］ダイアログで設定します。

［ヘッダ割当変数］ダイアログの詳細については，「1.4.2　ヘッダ割当変数ダイアログ」を参照してください。

[応答電文]

応答電文に関する割当変数を次に示す項目で指定します。

[ボディ割当変数]

同期オペレーションから受け取る応答電文に割り当てる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[ヘッダ割当変数]

［ヘッダ割当変数］ダイアログが表示されます。必要に応じて，アクティビティに割り当てるヘッダ割当変数を［ヘッダ割当変数］ダイアログで設定します。

［ヘッダ割当変数］ダイアログの詳細については，「1.4.2　ヘッダ割当変数ダイアログ」を参照してください。

[割当相関セット群]

［設定］ボタンをクリックして定義済みの相関セットグループを割り当てます。相関セットグループは，サービス部品を呼び出す要求電文，およびサービス部品から受け取る応答電文に割り当てられます。

[設定] ボタン

［割当相関セット群］ダイアログが表示されます。サービス部品を呼び出す要求電文，およびサービス部品から受け取る応答電文に割り当てる相関セットを［割当相関セット群］ダイアログで設定します。また，割り当てる相関セットを初期化するかどうか，およびパターンを設定します。

［割当相関セット群］ダイアログの詳細については，「1.4.3　割当相関セット群ダイアログ」を参照してください。

［OK］ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.10　Java 呼出アクティビティダイアログ

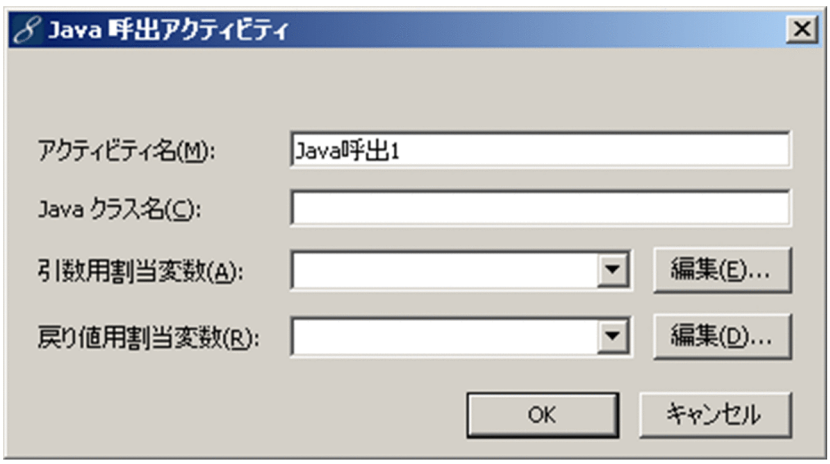
Java 呼出アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの Java 呼出アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの Java 呼出アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

Java 呼出アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.5　Java 呼出アクティビティ」を参照してください。

図 1-69　Java 呼出アクティビティダイアログ



［アクティビティ名］

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［Java クラス名］

Java クラス名を指定します。指定する Java クラス名にはパッケージ名称を含みます。なお，拡張子（「.class」，「.java」など）は指定しないでください。

[引数用割当変数]

［Java クラス名］で指定した Java クラスを呼び出すときの引数に割り当てる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[戻り値用割当変数]

［Java クラス名］で指定した Java クラスを呼び出すときの戻り値に割り当てる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

［編集］ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［引数用割当変数］または［戻り値用割当変数］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

［OK］ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.11　データ変換アクティビティダイアログ

データ変換アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスのデータ変換アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスのデータ変換アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

データ変換アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.6　データ変換アクティビティ」を参照してください。

図 1-70　データ変換アクティビティダイアログ

[アクティビティ名]

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

[変換元変数]

次の項目を利用して，データ変換の変換元となる変数を指定します。変数は複数指定できます。また，データ変換を定義したあとでも変更できます。

[変数]

データ変換の変換元になる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

選択した変数は，［追加］ボタンをクリックすると［一覧］に表示されます。

[追加] ボタン

［変数］で選択した変数を［一覧］に追加します。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［変数］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[一覧]

データ変換の変換元になる変数が表示されます。

[削除] ボタン

［一覧］で選択した変数を削除します。複数選択して［削除］ボタンをクリックすると，選択したすべての変数が削除されます。

[変換先変数]

次の項目を利用して，データ変換の変換先となる変数を指定します。データ変換を定義したあとでも変更できます。

[変数]

データ変換の変換先になる変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［変数］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[データ変換定義]

データ変換定義ファイルの論理名を指定します。XML で無効となる文字は指定できません。また，データ変換定義ファイルの名称は，ビジネスプロセス内で一意になるように指定します。

論理名とは，データ変換定義ファイルに仮想的に付与する名称です。論理名には対応するファイル名が自動的に付与されます。

データ変換定義画面では，指定したデータ変換定義ファイルの名称でデータ変換定義を作成します。

[ファイルを削除] ボタン

［データ変換定義］に指定したデータ変換定義ファイルを削除します。

[OK] ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

! 注意事項

データ変換を定義したあとに，変換元変数または変換先変数を変更した場合は，データ変換を定義し直してください。データ変換を定義し直す方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.3.2　電文フォーマットを変更した場合の定義手順」を参照してください。

1.4.12　代入アクティビティダイアログ

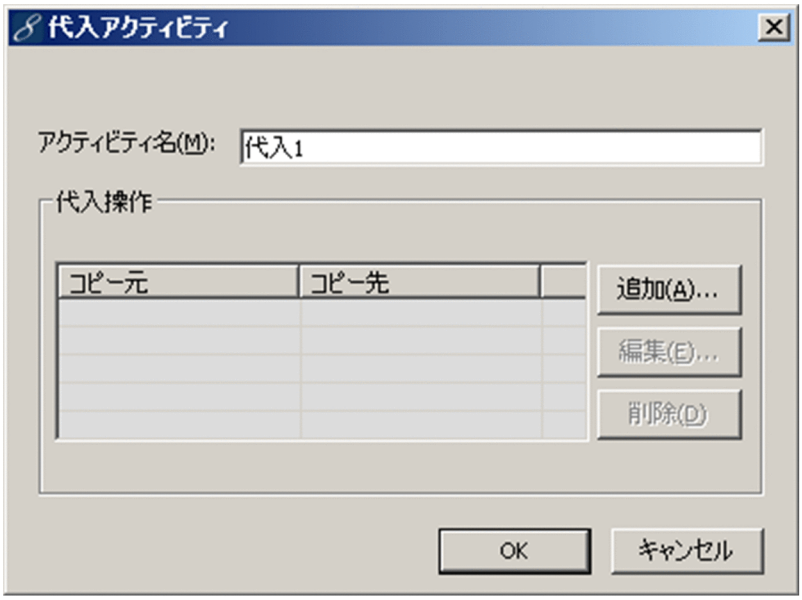
代入アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの代入アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの代入アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

代入アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.7　代入アクティビティ」を参照してください。

図 1-71　代入アクティビティダイアログ



［アクティビティ名］

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［コピー元］

代入元となる変数または値が表示されます。［追加］ボタンをクリックして表示される［代入アクティビティ］サブダイアログで設定します。

［コピー先］

代入先となる変数が表示されます。［追加］ボタンをクリックして表示される［代入アクティビティ］サブダイアログで設定します。

［追加］ボタン

［代入アクティビティ］サブダイアログが表示されます。［コピー先］および［コ

ピー元］に変数または値を追加する場合にクリックします。［代入アクティビティ］サブダイアログについては，「1.4.13　代入アクティビティサブダイアログ」を参照してください。

［編集］ボタン
［代入アクティビティ］サブダイアログが表示されます。［コピー先］および［コピー元］の変数または値を編集する場合にクリックします。［代入アクティビティ］サブダイアログについては，「1.4.13　代入アクティビティサブダイアログ」を参照してください。

［削除］ボタン
［コピー先］および［コピー元］で選択した行を削除します。複数の行を選択して［クリア］ボタンをクリックすると，選択したすべての行が削除されます。

［OK］ボタン
定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.13　代入アクティビティサブダイアログ

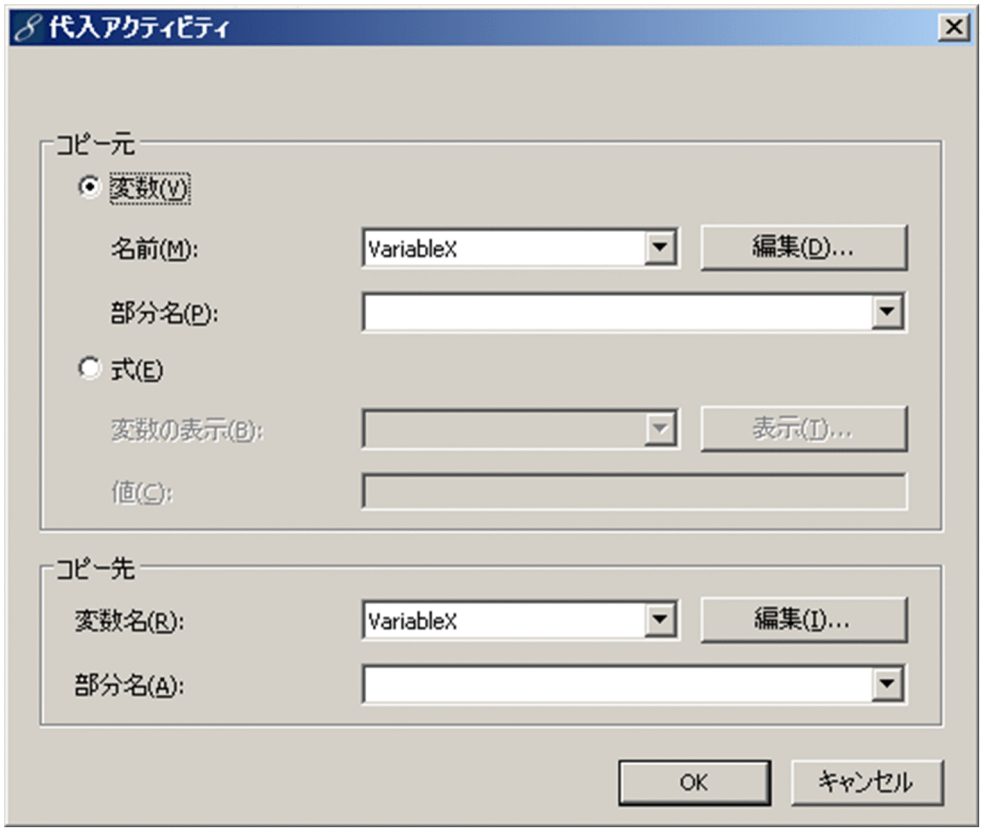
代入アクティビティダイアログで定義する［コピー元］および［コピー先］を追加または編集するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 代入アクティビティダイアログの［追加］ボタンをクリックする
- 代入アクティビティダイアログの［編集］ボタンをクリックする

代入アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.7　代入アクティビティ」を参照してください。

図 1-72　代入アクティビティサブダイアログ



[コピー元]

次の項目を利用して，代入アクティビティダイアログの［コピー元］に設定する値を指定します。

[変数] ラジオボタン

変数名，または変数名と部分名で［コピー元］に変数を設定する場合に選択します。

[名前]

［コピー元］に設定する変数名をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［名前］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[部分名]

［名前］で選択した変数がメッセージ型の場合，部分名をドロップダウンリスト

で選択できます。ドロップダウンリストには，［名前］で選択した変数に設定されている部分名だけが表示されます。

［式］ラジオボタン

［コピー元］に値（数値，文字列，真偽値）を設定する場合，または［コピー元］にメッセージ型の変数の一部を絶対パス（XPath 式）で指定して設定する場合に選択します。

［変数の表示］

［コピー元］の［式］で変数を利用する場合，表示する変数名をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義したメッセージ型の変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

［表示］ボタン

［変数の表示］ダイアログが表示されます。［変数の表示］ダイアログでは，［変数の表示］で指定したメッセージ型の変数の内容から，コピー元に設定する内容を選択して，絶対パス（XPath 式）を取得できます。

［変数の表示］ダイアログについては，「1.4.4　変数の表示ダイアログ」を参照してください。

［値］

［コピー元］に数値，文字列，真偽値を設定する場合，それぞれの値を指定します。

［変数の表示］でメッセージ型の変数を選択した場合とメッセージ型以外の変数を選択した場合とで，指定する値が異なります。指定する値については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.18 XPath を指定する」を参照してください。

［コピー先］

次の項目を利用して，代入アクティビティダイアログの［コピー先］に設定する値を指定します。

［変数名］

［コピー先］に設定する変数名をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

［編集］ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［変数名］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

［部分名］

［変数名］で選択した変数がメッセージ型の場合，部分名をドロップダウンリストで選択できます。ドロップダウンリストには，［変数名］で選択した変数に設定されている部分名だけが表示されます。

［OK］ボタン
定義内容を［代入アクティビティ］ダイアログに反映してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
定義内容を［代入アクティビティ］ダイアログに反映しないでダイアログを閉じます。

1.4.14 無操作アクティビティダイアログ

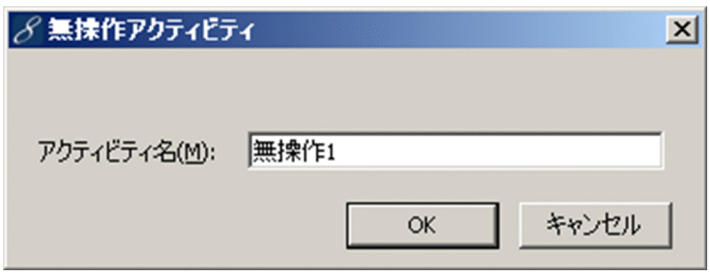
無操作アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの無操作アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの無操作アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

無操作アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.8 無操作アクティビティ」を参照してください。

図 1-73 無操作アクティビティダイアログ



［アクティビティ名］
アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［OK］ボタン
定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.15 フォルト送出アクティビティダイアログ

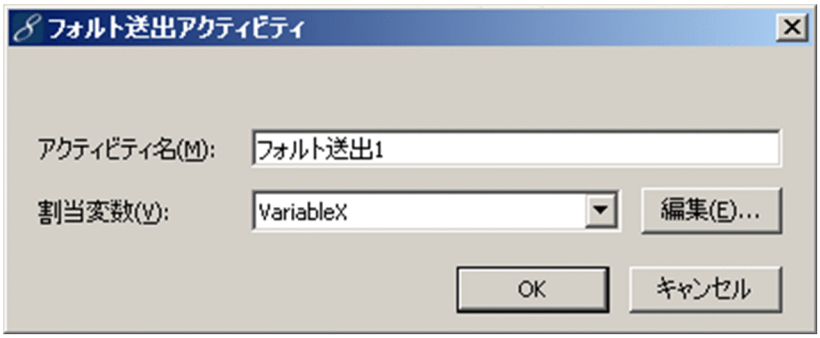
フォルト送出アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスのフォルト送出アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスのフォルト送出アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

フォルト送出アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.9　フォルト送出アクティビティ」を参照してください。

図 1-74　フォルト送出アクティビティダイアログ



［アクティビティ名］

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［割当変数］

上位のスコープまたはビジネスプロセスに送出するフォルトに割り当てる変数を，ドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義した変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

［編集］ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［割当変数］に設定する変数の内容を編集する場合にクリックします。

［変数・相関セット一覧］ダイアログの詳細については，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

［OK］ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.16　待機アクティビティダイアログ

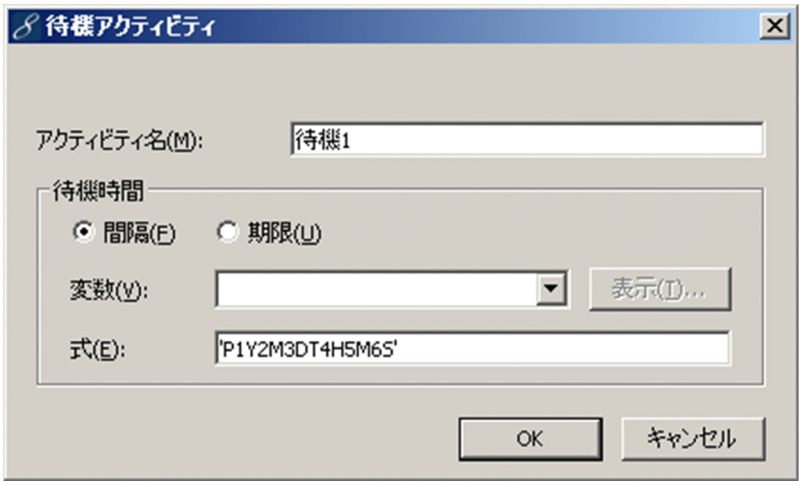
待機アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの待機アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの待機アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

待機アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.10　待機アクティビティ」を参照してください。

図 1-75　待機アクティビティダイアログ



［アクティビティ名］

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［待機時間］

次の項目を利用して，ビジネスプロセスの処理を待機する時間を指定します。

［間隔］ラジオボタン

任意の時間，処理を停止させる場合に選択します。例えば，5 分間処理を停止させる場合は，［間隔］ラジオボタンを選択します。

［期限］ラジオボタン

任意の時間まで，処理を停止させる場合に選択します。例えば，2009 年 5 月 31 日まで処理を停止させる場合は，［期限］ラジオボタンを選択します。

［変数］

［待機時間］の［式］で変数を利用する場合，表示する変数名をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義したメッセージ型の変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

［表示］ボタン

［変数の表示］ダイアログが表示されます。［変数の表示］ダイアログでは，［変数の表示］で指定したメッセージ型の変数の内容から，待機時間に設定する内容を選択して，絶対パス（XPath 式）を取得できます。

［変数の表示］ダイアログについては，「1.4.4　変数の表示ダイアログ」を参照してください。

［式］

待機時間の間隔または期限として指定する式を XPath で指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.10　待機アクティビティ」，および「6.6.18　XPath を指定する」を参照してください。

［OK］ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.17　検証アクティビティダイアログ

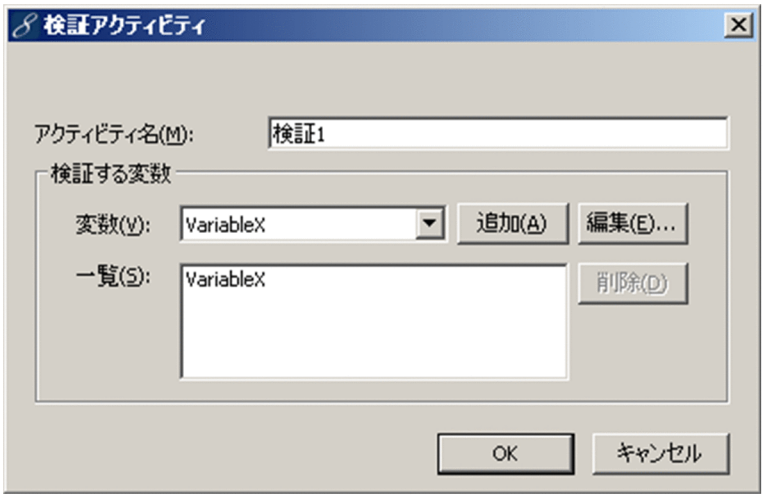
検証アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの検証アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの検証アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

検証アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.11　検証アクティビティ」を参照してください。

図 1-76　検証アクティビティダイアログ



[アクティビティ名]

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

[検証する変数]

次の項目を利用して，ビジネスプロセスの処理を検証する変数を指定します。

[変数]

変数をドロップダウンリストから選択します。ドロップダウンリストには，ビジネスプロセス定義画面で定義された変数のうち，種別が「XML」の変数を表示します。また，空の要素を最後に表示します。

[追加] ボタン

［変数］で選択した変数を追加します。

[編集] ボタン

［変数・相関セット一覧］ダイアログが表示されます。［変数・相関セット一覧］ダイアログでは，［変数］で選択した変数を編集します。

［変数・相関セット一覧］ダイアログについては，「1.4.1　変数・相関セット一覧ダイアログ」を参照してください。

[一覧]

追加された変数を追加順に表示します。

変数を削除する場合は，対象となる変数を選択します。複数の変数を選択できます。

[削除] ボタン

［一覧］で選択した変数を削除します。

［OK］ボタン
定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.18 スコープアクティビティダイアログ

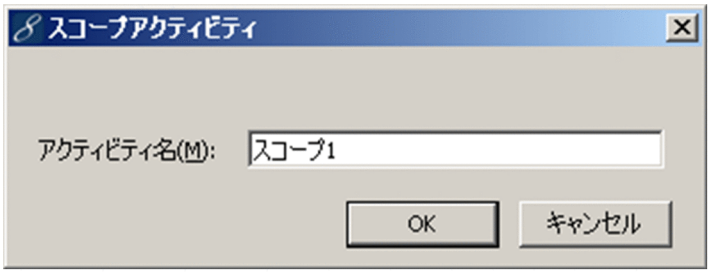
スコープアクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスのスコープアクティビティをダブルクリックする
- キャンバスのスコープアクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

スコープアクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.12　スコープアクティビティ」を参照してください。

図 1-77　スコープアクティビティダイアログ



［アクティビティ名］
アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［OK］ボタン
定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.19 繰り返しアクティビティダイアログ

繰り返しアクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの繰り返しアクティビティをダブルクリックする

- キャンバスの繰り返しアクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

繰り返しアクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.13　繰り返しアクティビティ」を参照してください。

図 1-78　繰り返しアクティビティダイアログ

［アクティビティ名］

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［繰り返し条件設定］ボタン

［条件設定］ダイアログが表示されます。繰り返しの条件を設定するときにクリックします。［条件設定］ダイアログについては，「1.4.20　条件設定ダイアログ（繰り返しアクティビティ）」を参照してください。

［OK］ボタン

定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

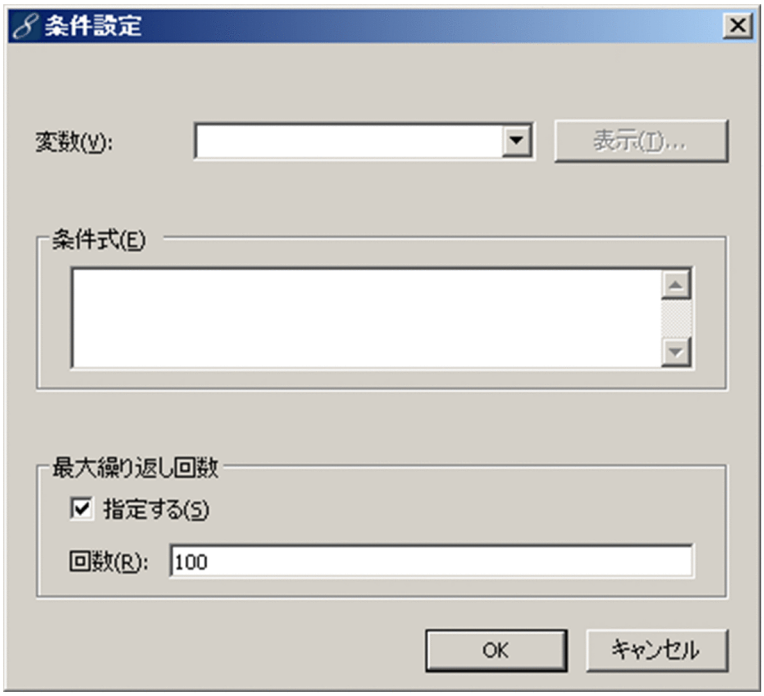
1.4.20　条件設定ダイアログ（繰り返しアクティビティ）

繰り返しアクティビティを利用して繰り返し処理を設定する場合の条件を定義するダイアログです。

繰り返しアクティビティダイアログの［繰り返し条件設定］ボタンをクリックした場合に表示されます。

繰り返しアクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.13　繰り返しアクティビティ」を参照してください。

図 1-79　［条件設定］ダイアログ（繰り返しアクティビティ）



［変数］

条件に変数を利用した式を設定する場合，変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義したメッセージ型の変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

［表示］ボタン

［変数の表示］ダイアログが表示されます。［変数の表示］ダイアログでは，［変数］で指定したメッセージ型の変数の内容を確認できます。

［変数の表示］ダイアログについては，「1.4.4　変数の表示ダイアログ」を参照してください。

［条件式］

繰り返し条件の条件式を XPath 式で指定します。XPath 式の中では，拡張関数を使用して変数内の情報を取得し，利用することができます。拡張関数の使用方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.18　XPath を指定する」を参照してください。

［最大繰り返し回数］

次の項目を利用して，繰り返しアクティビティでの最大繰り返し回数を指定します。

［指定する］チェックボックス

最大繰り返し回数を指定する場合にチェックします。

チェックボックスをチェックしない場合は，最大で 2,147,483,647 回まで繰り

返すことができます。

[回数]
繰り返しの回数の最大値を半角の数字で指定します。指定できる値は 1 ～ 2,147,483,647 の整数です。

[OK] ボタン
定義内容を［繰り返しアクティビティ］ダイアログに反映してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン
定義内容を［繰り返しアクティビティ］ダイアログに反映しないでダイアログを閉じます。

1.4.21 分岐アクティビティダイアログ

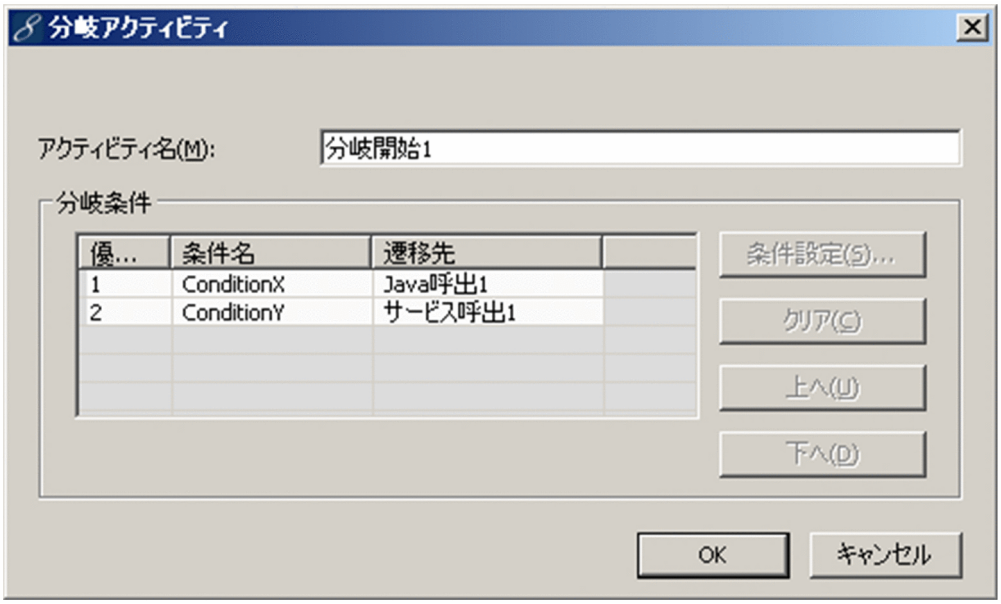
分岐アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの分岐アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの分岐アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

分岐アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.14 分岐アクティビティ」を参照してください。

図 1-80 分岐アクティビティダイアログ



[アクティビティ名]
アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

[優先順位]
［条件名］に設定される条件の優先順位が，優先順位の高い順に表示されます。条件の優先順位は，［上へ］ボタンおよび［下へ］ボタンで変更できます。

[条件名]
条件の名称が表示されます。条件は，［条件設定］ボタンをクリックして表示される［条件設定］ダイアログで設定します。

[遷移先]
その条件を満たす場合に実行するアクティビティのアクティビティ名を選択します。

[条件設定] ボタン
［条件設定］ダイアログが表示されます。分岐の条件を設定するときにクリックします。［条件設定］ダイアログについては，「1.4.22　条件設定ダイアログ（分岐アクティビティ）」を参照してください。

[クリア] ボタン
選択した条件を削除します。

[上へ] ボタン
選択した条件の優先順位を一つ上げます。

[下へ] ボタン
選択した条件の優先順位を一つ下げます。

[OK] ボタン
定義内容を保存してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン
定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

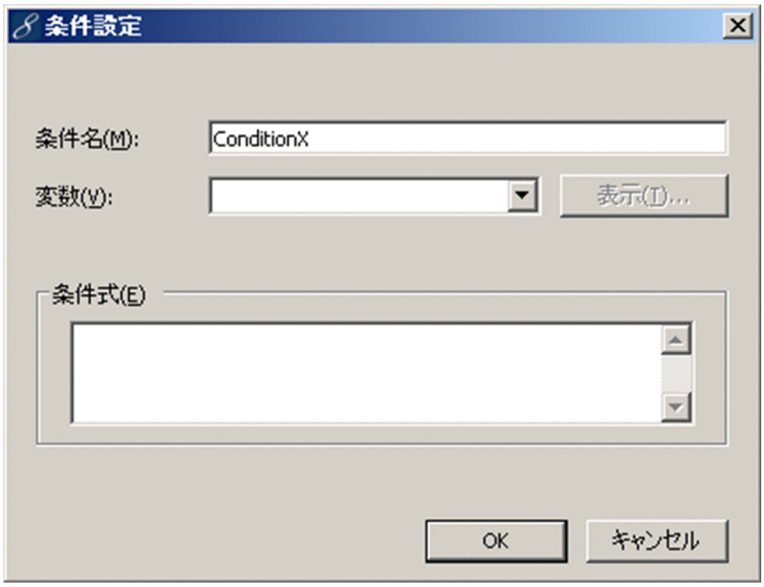
1.4.22　条件設定ダイアログ（分岐アクティビティ）

分岐アクティビティダイアログで定義する分岐処理の分岐条件を設定するダイアログです。

分岐アクティビティダイアログの［条件設定］ボタンをクリックした場合に表示されます。

分岐アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.14　分岐アクティビティ」を参照してください。

図 1-81　条件設定ダイアログ（分岐アクティビティ）



[条件名]

［分岐アクティビティ］ダイアログの［条件名］に設定する条件の名称を指定します。条件名は，分岐アクティビティの定義内で一意になるように指定します。

[変数]

条件に変数を利用した式を設定する場合，変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義したメッセージ型の変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[表示] ボタン

［変数の表示］ダイアログが表示されます。［変数の表示］ダイアログでは，［変数］で指定したメッセージ型の変数の内容を確認できます。

［変数の表示］ダイアログについては，「1.4.4　変数の表示ダイアログ」を参照してください。

[条件式]

分岐条件の条件式を XPath 式で指定します。XPath 式の中では，拡張関数を使用して変数内の情報を取得し，利用することができます。拡張関数の使用方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.18　XPath を指定する」を参照してください。

[OK] ボタン

定義内容を［分岐アクティビティ］ダイアログに反映してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

定義内容を［分岐アクティビティ］ダイアログに反映しないでダイアログを閉じま

す。

1.4.23　並列処理アクティビティダイアログ

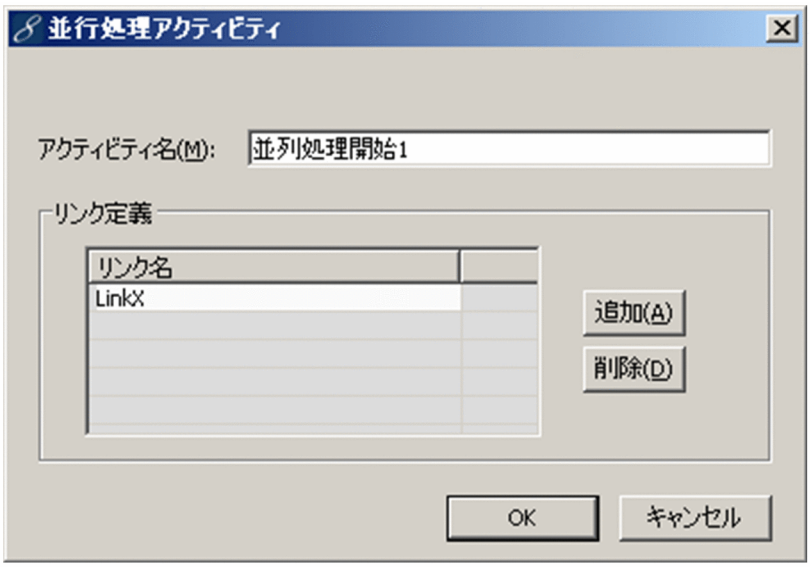
並列処理アクティビティの詳細を定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- キャンバスの並列処理開始アクティビティをダブルクリックする
- キャンバスの並列処理開始アクティビティを選択して右クリックし，［設定］を選択する

並列処理アクティビティの詳細の定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.15　並列処理アクティビティ」を参照してください。

図 1-82　並列処理アクティビティダイアログ



［アクティビティ名］

アクティビティの名称を指定します。使用できる文字は，XMLSchema の NCName 定義文字です。また，アクティビティの名称は，ビジネスプロセス（スコープ内も含む）内で一意になるように指定します。

［リンク名］

リンクの名称を指定します。リンクの名称は，ビジネスプロセス内で一意になるように指定します。

［追加］ボタン

［リンク名］に入力行を 1 行追加します。

［削除］ボタン
　選択したリンク名を削除します。削除するリンク名は複数指定できます。

［OK］ボタン
　定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
　定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

1.4.24　リンクダイアログ

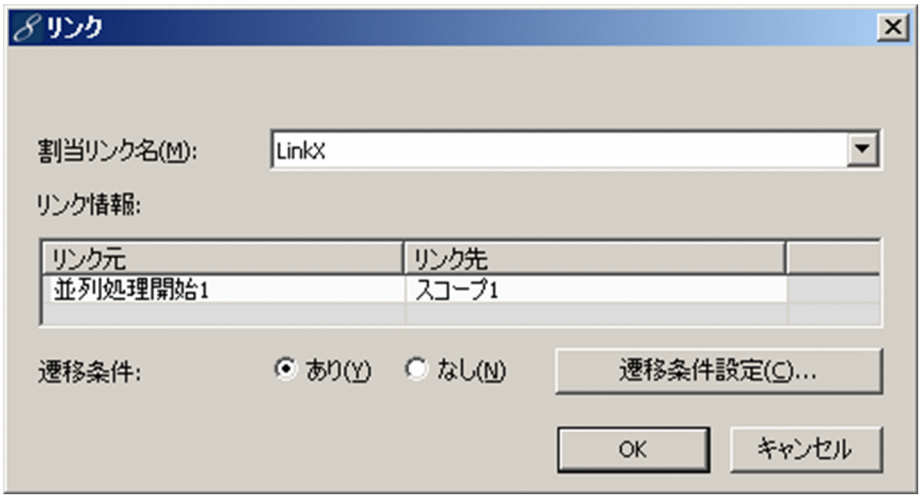
並列処理する複数のシーケンス間でのリンクを定義するダイアログです。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- リンク対象のアクティビティ同士を連結する連結線をダブルクリックする
- リンク対象のアクティビティ同士を連結する連結線を選択して右クリックし，［設定］を選択する

並列処理時のリンクの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.15　並列処理アクティビティ」を参照してください。

図 1-83　リンクダイアログ



［割当リンク名］
　割り当てるリンクの名称をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，該当するスコープ内で設定したリンク名が表示されます。

［リンク元］
　リンクコネクションを利用して連結されているアクティビティのうち，連結元に当たるアクティビティの名称が表示されます。

［リンク先］
リンクコネクションを利用して連結されているアクティビティのうち，連結先に当たるアクティビティの名称が表示されます。

［遷移条件］
リンクによる遷移に条件を定義するかどうかを選択します。

［遷移条件設定］ボタン
［条件設定］ダイアログが表示されます。リンクによる遷移の条件を設定するときにクリックします。条件が設定できるのは，［遷移条件］で［あり］を選択した場合だけです。［条件設定］ダイアログについては，「1.4.25　条件設定ダイアログ（並列処理アクティビティ）」を参照してください。

［OK］ボタン
定義内容を保存してダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
定義内容を保存しないでダイアログを閉じます。

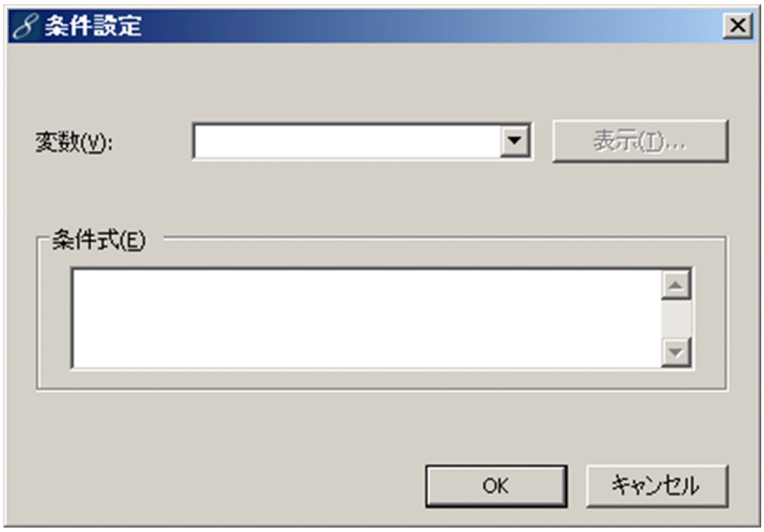
1.4.25　条件設定ダイアログ（並列処理アクティビティ）

並列処理でリンクを設定した場合のリンクの条件を定義するダイアログです。

リンクダイアログの［遷移条件設定］ボタンをクリックした場合に表示されます。

並列処理時のリンクの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.15　並列処理アクティビティ」を参照してください。

図 1-84　条件設定ダイアログ（並列処理アクティビティ）



[変数]

条件に変数を利用した式を設定する場合，変数をドロップダウンリストで選択します。ドロップダウンリストには，変数・相関セット一覧ダイアログで定義したメッセージ型の変数のうち，利用可能な変数だけが表示されます。

[表示] ボタン

［変数の表示］ダイアログが表示されます。［変数の表示］ダイアログでは，［変数］で指定したメッセージ型の変数の内容を確認できます。

［変数の表示］ダイアログについては，「1.4.4　変数の表示ダイアログ」を参照してください。

[条件式]

遷移条件の条件式を XPath 式で指定します。XPath 式の中では，拡張関数を使用して変数内の情報を取得し，利用することができます。拡張関数の使用方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「6.6.18　XPath を指定する」を参照してください。

[OK] ボタン

定義内容を［リンク］ダイアログに反映してダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

定義内容を［リンク］ダイアログに反映しないでダイアログを閉じます。

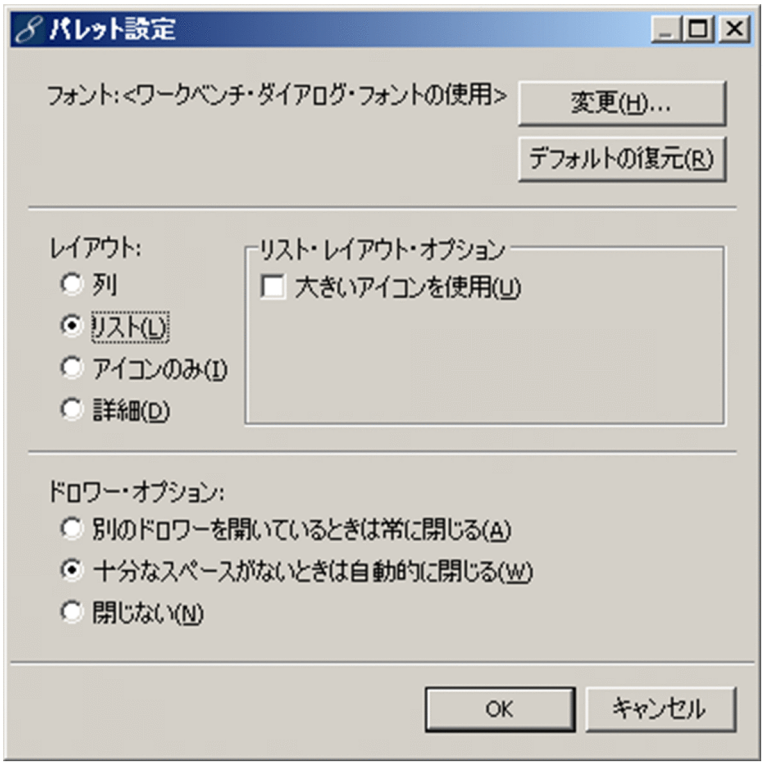
1.4.26　パレット設定ダイアログ

パレット設定ダイアログは，パレットの表示を設定する場合に使用します。

パレットのグループまたはツールを右クリックして，［設定］を選択した場合に表示されます。

操作手順については，「1.9.11　パレットの表示を設定する」を参照してください。

図 1-85　パレット設定ダイアログ



［フォント］

［変更］ボタン

パレットのグループおよびツールのフォントを変更する場合に使用します。クリックすると，［設定］ダイアログが表示されます。

［デフォルトの復元］ボタン

［変更］ボタンで変更したフォントを Eclipse で設定したフォントに戻す場合に使用します。

［レイアウト］

次のどれかのラジオボタンを選択して，パレットのグループおよびツールのレイアウトを設定します。

［列］ラジオボタン

すべてのグループおよびツールを水平に整列します。

［リスト］ラジオボタン

すべてのグループおよびツールを垂直に整列します。

［アイコンのみ］ラジオボタン

すべてのツールに対して，ツール名を表示しないでアイコンだけの表示にします。

［詳細］ラジオボタン
すべてのツールに対して，詳細なフォーマットおよび記述を表示します。

［リスト・レイアウト・オプション］

［大きいアイコンを使用］チェックボックス
パレットのツールのアイコンサイズを大きくする場合にチェックします。

［ドロワー・オプション］
次のどれかのラジオボタンを選択して，パレットのツール一覧の表示方法を設定します。

［別のドロワーを開いているときは常に閉じる］ラジオボタン
一つのグループのツール一覧だけを表示します。

［十分なスペースがないときは自動的に閉じる］ラジオボタン
複数のグループのツール一覧を表示しているためパレットに十分な表示スペースがない場合，自動的にツール一覧が閉じます。

［閉じない］ラジオボタン
常にツール一覧を表示します。

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

1.5 ビジネスプロセスのデバッグに関連するダイアログ

ビジネスプロセスのデバッグに関連するダイアログについて説明します。

1.5.1 デバッグ構成ダイアログ

ビジネスプロセスのデバッグの構成を定義するダイアログです。

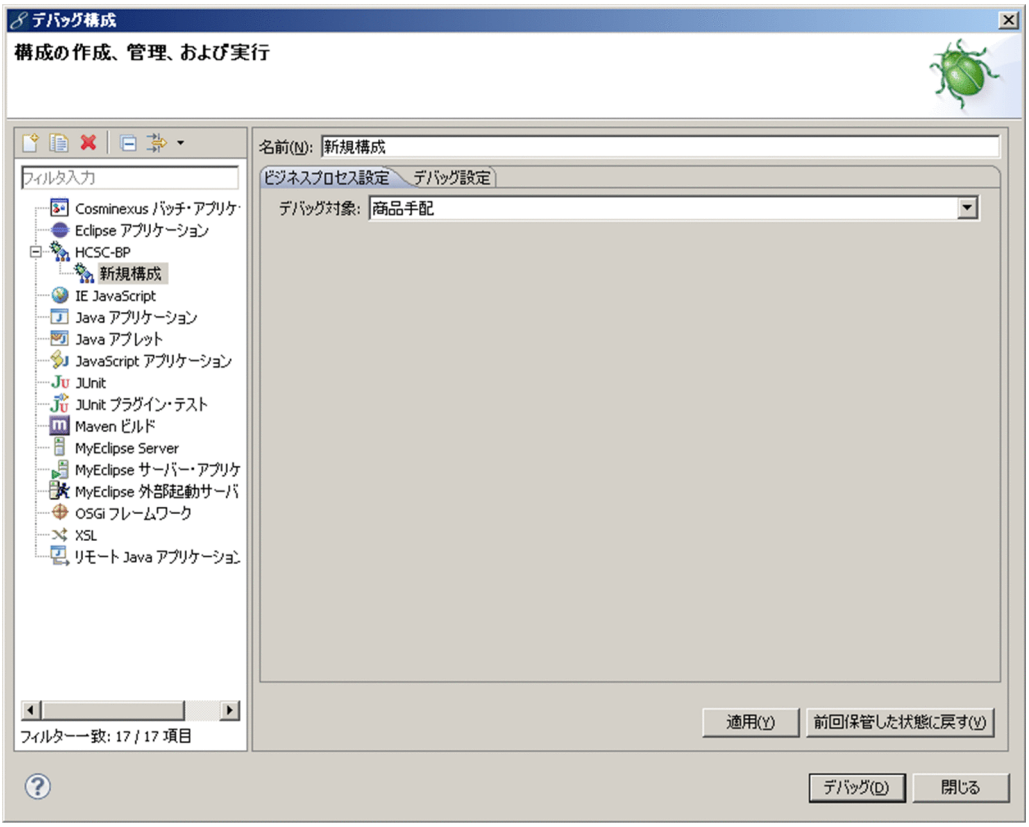
次のどれかの操作をした場合に表示されます。

- Eclipse の［デバッグ］メニューから［デバッグの構成］を選択する
- ツリービューのサービス定義一覧からデバッグするビジネスプロセスを右クリックし，［デバッグの構成］を選択する
- パッケージエクスプローラから対象のプロジェクトを右クリックし，［デバッグ］－［デバッグの構成］を選択する
- Eclipse の［実行］メニューから［デバッグの構成］を選択する

ビジネスプロセスのデバッグを実行する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「11. ビジネスプロセスのデバッグ」を参照してください。

デバッグ構成ダイアログの構成を次に示します。

図 1-86　デバッグ構成ダイアログの構成



デバッグ構成ダイアログは，ビジネスプロセス設定タブとデバッグ設定タブから構成されています。

(1) ビジネスプロセス設定タブ

ビジネスプロセス設定タブの項目について説明します。

図 1-87　ビジネスプロセス設定タブ

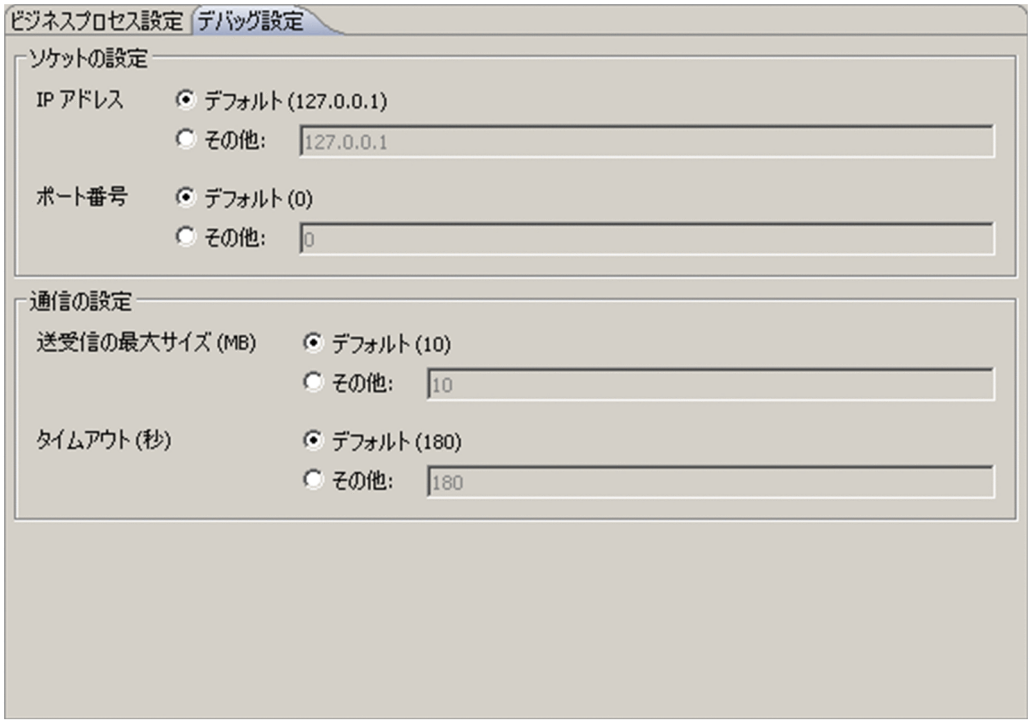
[デバッグ対象]

デバッグするビジネスプロセスをドロップダウンリストから選択します。

(2) デバッグ設定タブ

デバッグ設定タブの項目について説明します。

図 1-88 デバッグ設定タブ



[ソケットの設定]

ビジネスプロセスのデバッグに使用する IP アドレス，およびポート番号を指定します。

[IP アドレス]

ビジネスプロセスのデバッグに使用する IP アドレスを指定します。任意の IP アドレスを指定する場合は，［その他］ラジオボタンを選択し，テキストボックスに IP アドレスを入力します。

[ポート番号]

ビジネスプロセスのデバッグに使用するポート番号を指定します。任意のポート番号を指定する場合は，［その他］ラジオボタンを選択し，テキストボックスにポート番号を入力します。ポート番号には，0 ～ 65535 までの数字を入力できます。ポート番号に 0 を入力した場合，未使用のポート番号が自動で設定されます。

[通信の設定]

送受信の最大サイズおよびタイムアウト値を指定します。

[送受信の最大サイズ (MB)]

データ（電文など）の送受信の最大サイズ（単位：MB）を指定します。任意の最大サイズを指定する場合は，［その他］ラジオボタンを選択し，テキストボックスに送受信の最大サイズを入力します。送受信の最大サイズには 1 ～ 2,000

までの数字を入力できます。［送受信の最大サイズ (MB)］に入力したサイズ以上のデータを送受信した場合，ビジネスプロセスのデバッグが強制的に終了します。

参考

このパラメタは，ビジネスプロセスのデバッグで扱うことができる変数値（電文）の長さ，XPath 式の長さ，XPath 式の評価結果の長さに影響します。

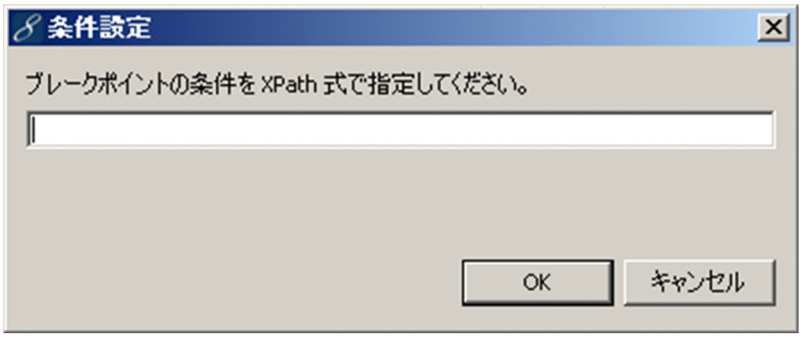
［タイムアウト (秒)］

開発環境と実行環境の間でビジネスプロセスのデバッグのための接続が確立するまでのタイムアウト値（単位：秒）を設定します。任意のタイムアウト値を指定する場合は，［その他］ラジオボタンを選択し，テキストボックスにタイムアウト値を入力します。タイムアウト値には 1 ～ 1,800 までの数字を入力できます。

1.5.2 条件設定ダイアログ

ブレークポイントの条件設定を変更するダイアログです。

図 1-89 条件設定ダイアログ



プロセスインスタンスの処理が中断する条件式を XPath で指定します。条件式に空文字（0x00）は使用できません。

1.5.3 値の設定ダイアログ

値の設定ダイアログは，メッセージ型の変数の場合とメッセージ型以外の変数の場合とで，表示される内容が異なります。

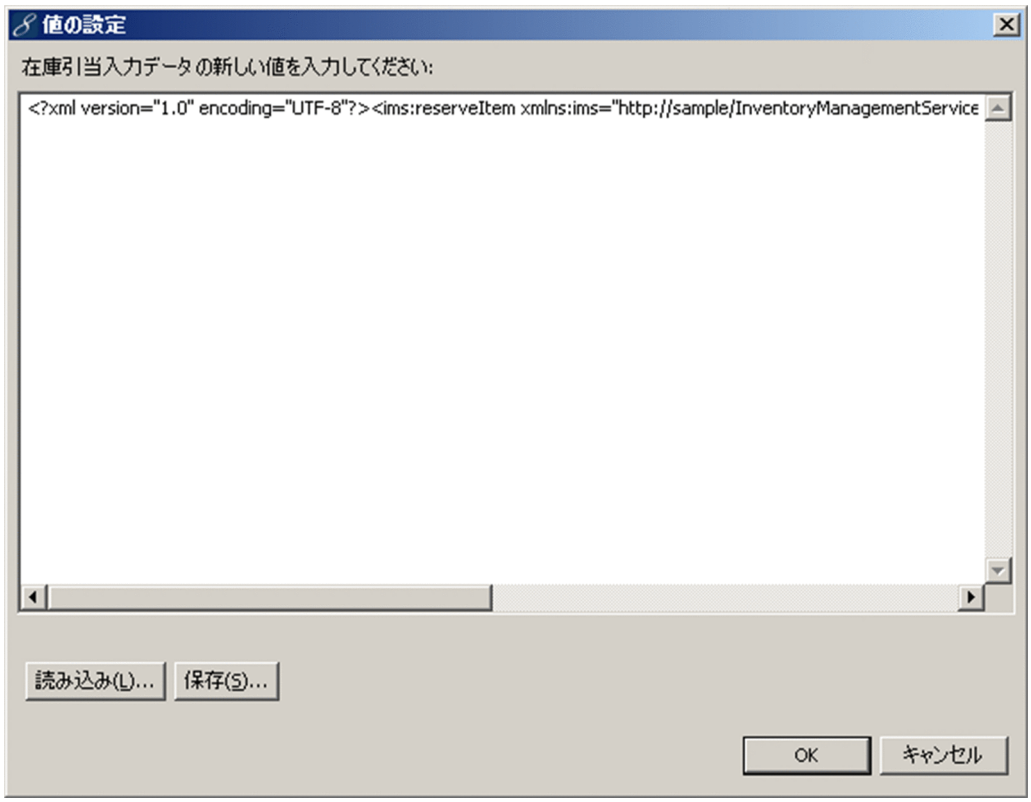
(1) 値の設定ダイアログ（メッセージ型の変数の場合）

メッセージ型の変数の値を更新するときに使用するダイアログです。

変数ビューから XML，non-XML，any の変数を右クリックし，［値の変更］を選択した

場合に表示されます。

図 1-90　値の設定ダイアログ（メッセージ型の変数の場合）



変数の型が XML の場合に，入力フィールドに変数の値を入力します。バイナリ型（non-XML），any 型の変数の値は入力できません。

変数の値に空文字（0x00）は使用できません。メッセージ型の変数を更新すると，XML の文字コードは必ず UTF-8 になります（UTF-8 以外の文字コードを指定しても UTF-8 に変換されます）。

［読み込み］ボタン
　ファイルを設定するダイアログが表示されます。

［保存］ボタン
　ファイルを保存するダイアログが表示されます。

［OK］ボタン
　入力した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

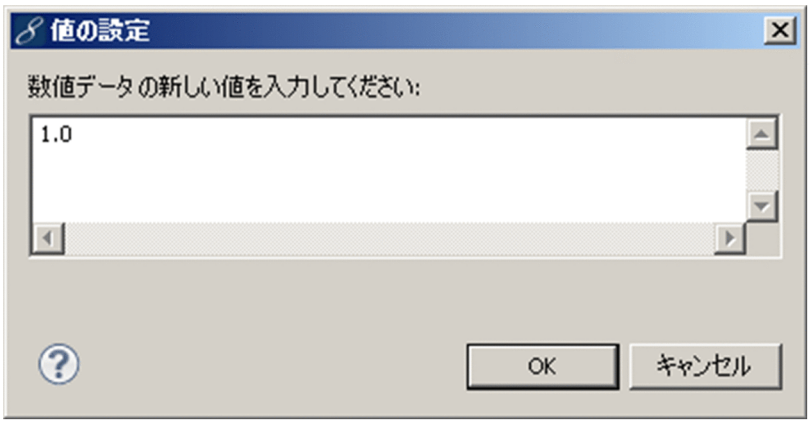
［キャンセル］ボタン
　設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) 値の設定ダイアログ（メッセージ型以外の変数の場合）

XML，non-XML，any 以外の変数の値を更新するときに使用するダイアログです。

変数ビューから XML，non-XML，any 以外の変数を右クリックし，［値の変更］を選択した場合に表示されます。

図 1-91　値の設定ダイアログ（メッセージ型以外の変数の場合）



入力フィールドに変数の値を入力します。変数の型ごとに入力できる値の範囲を次の表に示します。

表 1-11　変数の型ごとに入力できる値の範囲

変数の型	値の範囲
numeric 型	java.lang.Double の valueOf（java.lang.String）メソッドで解釈できる値（例：+1，3.14，1e-2d）
boolean 型	true または false
string 型	任意の文字列（例：15 インチ LCD ディスプレイ）

［OK］ボタン

入力した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

1.6　データ変換に関連するダイアログ

データ変換に関連するダイアログについて説明します。

1.6.1　ルート要素選択ダイアログ

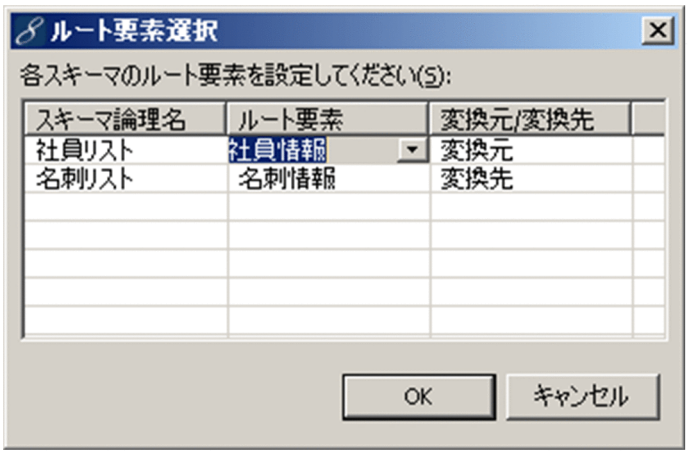
ルート要素選択ダイアログでは，マッピングするスキーマ論理名のルート要素を選択します。

次のどれかの操作をした場合に表示されます。

- アダプタ定義画面またはビジネスプロセス定義画面のデータ変換アクティビティから，データ変換定義画面を表示する（新規にデータ変換を定義する場合）
- スキーマ（電文フォーマット）のルート要素を変更または削除してからデータ変換定義画面を表示する
- 変換元マッピングビューアまたは変換先マッピングビューアのスキーマ論理名を右クリックし，［ルート要素選択］を選択する

ルート要素選択ダイアログを次に示します。

図 1-92　ルート要素選択ダイアログ



(1) 表示項目

[スキーマ論理名]

マッピング対象となる XML スキーマファイルのスキーマ論理名が表示されます。

[ルート要素]

ルート要素をドロップダウンリストから選択します。選択したルート要素のスキーマがデータ変換定義画面でツリー表示されます。

[変換元 / 変換先]

マッピング対象となる XML スキーマファイルが，変換元 XML スキーマファイルの場合は「変換元」，変換先 XML スキーマファイルの場合は「変換先」と表示されます。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。ただし，次の場合にクリックするとエラーになります。

- ルート要素を初めて選択する場合
- 電文フォーマットを変更してデータ変換を定義し直す場合

(2) このダイアログでできる内容

ルート要素選択ダイアログでは，ルート要素を選択および変更することができます。選択および変更すると，ルート要素のスキーマがデータ変換定義画面でツリー表示されます。ルート要素の選択および変更方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.3.1　データ変換の定義手順」を参照してください。

1.6.2 マッピング元設定ダイアログ

マッピング元設定ダイアログでは，マッピング元となる変換元ノードおよびファンクションを指定します。

マッピング元設定ダイアログは，変換先ノードを右クリックして，［マッピング元］を選択した場合に表示されます。

マッピング元設定ダイアログを次に示します。

図 1-93　マッピング元設定ダイアログ

(1) 表示項目

[パス / ファンクション名]

マッピング元となる変換先ノードおよびファンクションを指定します。すでにマッピングされている場合，そのマッピング元が表示されます。
［パス / ファンクション名］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[依存対象]

くり返しファンクションを使用した場合，［パス / ファンクション名］で指定したくり返しファンクションに対応するくり返し依存対象が表示されます。くり返し依存対象の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.6　くり返しの設定」を参照してください。

[ノード追加] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［パス / ファンクション名］にマッピング元となる変換元ノードを追加する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせるときにクリックします。
［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

[ファンクション追加] ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［パス / ファンクション名］にマッピング元となるファンクションを追加する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

[除去] ボタン

［パス / ファンクション名］で選択した変換元ノードまたはファンクションが［パス / ファンクション名］から削除されます。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

マッピング元設定ダイアログでは，次のことができます。

- マッピングする
  マッピング元設定ダイアログを使用したマッピング方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4　マッピングする」を参照してください。
- くり返し依存対象を確認する
  くり返し依存対象の確認方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.6.4　くり返し依存対象を確認する」を参照してください。
- くり返し依存対象を変更する
  くり返し依存対象の変更方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.6.5　くり返し依存対象を変更する」を参照してください。

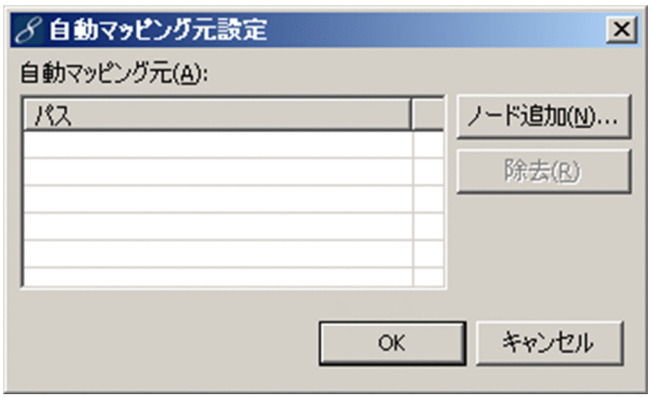
1.6.3　自動マッピング元設定ダイアログ

自動マッピング元設定ダイアログでは，自動でマッピングさせる変換元ノードの範囲と変換先ノードの範囲を指定します。

自動マッピング元設定ダイアログは，変換先ノードの要素（自動でマッピングさせたい範囲の最上位要素）を右クリックして，［自動マッピング］を選択した場合に表示されます。

自動マッピング元設定ダイアログを次に示します。

図 1-94　自動マッピング元設定ダイアログ



(1) 表示項目

［パス］

［ノード追加］ボタンで選択したマッピング対象の要素が表示されます。

自動マッピング元設定ダイアログを閉じると［パス］に表示されている内容はリセットされ，再び自動マッピング元設定ダイアログを表示したときには［パス］には何も選択されていない状態になります。

［ノード追加］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［パス］にマッピング元となる変換元ノードの要素を追加する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［除去］ボタン

［パス］で選択した要素が［パス］から削除されます。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

自動マッピング元設定ダイアログでは，変換元ノードの範囲と変換先ノードの範囲を指定すると，変換元ノードと変換先ノードで類似度が高い要素同士を自動でマッピングします。範囲内にマッピング候補が存在しない場合やすでに変換先ノードアダプタにマッピング線が接続されている場合は，マッピングされません。

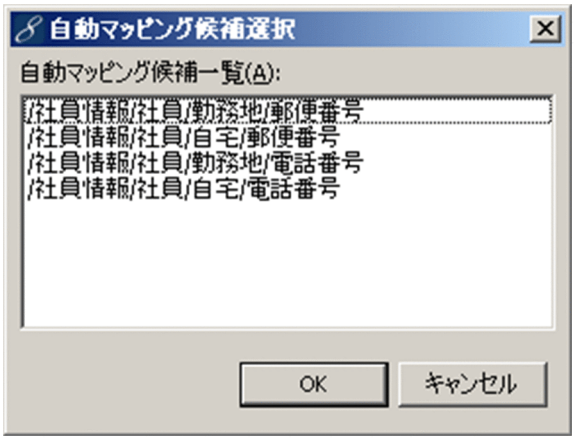
1.6.4　自動マッピング候補選択ダイアログ

自動マッピング候補選択ダイアログでは，自動でマッピングさせる要素の候補を指定します。

自動マッピング候補選択ダイアログは，変換先ノードの要素を右クリックして，［自動マッピング候補選択］を選択した場合に表示されます。

自動マッピング候補選択ダイアログを次に示します。

図 1-95　自動マッピング候補選択ダイアログ



(1) 表示項目

[自動マッピング候補一覧]

選択した変換先ノードの要素に対して，マッピングの候補となる変換元ノードの要素が一覧で表示されます。表示順序は優先度が高い候補ほど上位になります。
自動でマッピングする候補が存在しない場合，［自動マッピング候補一覧］には何も表示されません。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

自動マッピング候補選択ダイアログでは，変換元ノードの要素の候補を指定すると，選択した候補の要素がマッピングされ，マッピング線（代入線）が自動で設定されます。また，選択した要素のノードアダプタにマッピング線が接続済みの場合でも，同一の要素で依存関係が異なるマッピング線を接続できるときは，指定した候補とのマッピングが実行されます。

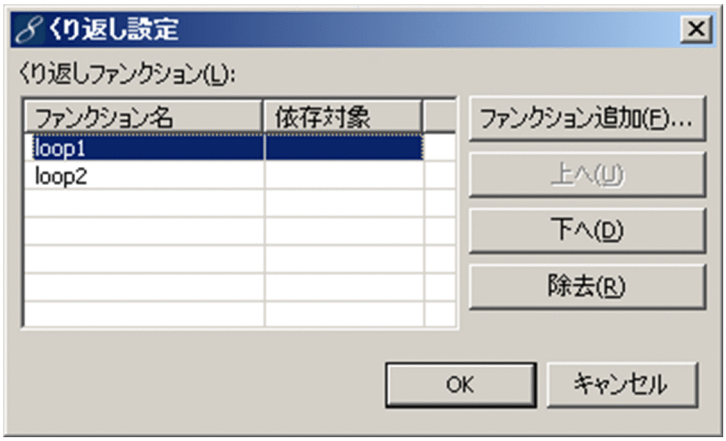
1.6.5　くり返し設定ダイアログ

くり返し設定ダイアログでは，マッピング元となるくり返しファンクションを指定します。くり返し設定ダイアログを次に示します。

くり返し設定ダイアログは，くり返しファンクションを使用した場合，変換先ノードを右クリックして，［くり返し］を選択したときに表示されます。

くり返し設定ダイアログを次に示します。

図 1-96　くり返し設定ダイアログ



（1） 表示項目

［ファンクション名］

マッピング元となるくり返しファンクションを指定します。くり返しファンクション名が表示されます。

［依存対象］

［ファンクション名］で指定したくり返しファンクションに対応するくり返し依存対象が表示されます。くり返し依存対象の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.6　くり返しの設定」を参照してください。

［ファンクション追加］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［ファンクション名］にマッピング元となるくり返しファンクションを追加する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［上へ］ボタン

［ファンクション名］で選択したくり返しファンクションの位置が一つ上に移動します。このボタンは，くり返しを合成する場合に使用することがあります。

［下へ］ボタン

［ファンクション名］で選択したくり返しファンクションの位置が一つ下に移動します。このボタンは，くり返しを合成する場合に使用することがあります。

［除去］ボタン

［ファンクション名］で選択したくり返しファンクションが［ファンクション名］から削除されます。

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2）このダイアログでできる内容

くり返し設定ダイアログでは，次のことができます。

- マッピングする
- くり返しを合成する
- くり返し依存対象を確認する
- くり返し依存対象を変更する

上記の方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.6　くり返しの設定」を参照してください。

1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）

ノード選択ダイアログ（データ変換）では，変換元ノード，または変換先ノードを指定します。

次のどれかの操作をした場合に，変換元ノードを指定するノード選択ダイアログ（データ変換）が表示されます。

- ［マッピング元設定］ダイアログの［ノード追加］ボタンをクリックする
- 各ファンクションの設定ダイアログの［ノード追加］ボタンまたは［ノード選択］ボタンをクリックする
- ［自動マッピング元設定］ダイアログの［ノード追加］ボタンをクリックする
- ［複製マッピング元設定］ダイアログの［ノード追加］ボタンをクリックする
- ［複製マッピング範囲設定］ダイアログの［変換元ノード］の［ノード選択］ボタンをクリックする

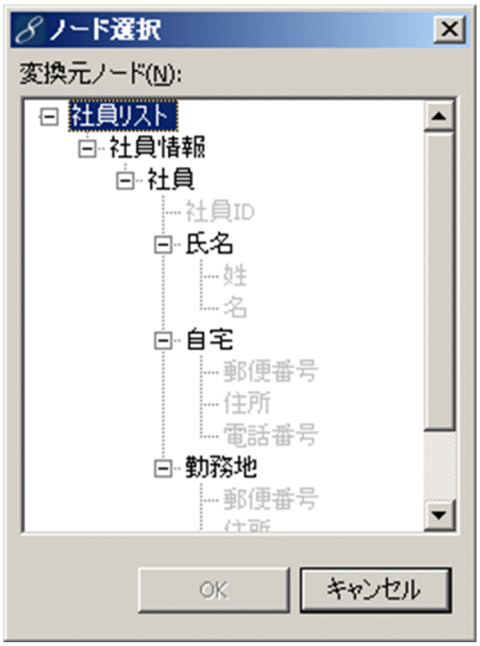
次の操作をした場合に，変換先ノードを指定するノード選択ダイアログ（データ変換）が表示されます。

- ［複製マッピング範囲設定］ダイアログの［変換先ノード］の［ノード選択］ボタンをクリックする

ノード選択ダイアログ（データ変換）を次に示します。

図 1-97　ノード選択ダイアログ（データ変換）

＜変換元ノード用＞



＜変換先ノード用＞

(1) 表示項目

[変換元ノード]

マッピング定義の変換元ノードが表示されます。
起動元ダイアログの項目へ設定できないノードは，グレーで表示されます。グレーで表示されたノードを選択した場合，［OK］ボタンはクリックできません。

[変換先ノード]

マッピング定義の変換先ノードが表示されます。
起動元ダイアログの項目へ設定できないノードは，グレーで表示されます。グレーで表示されたノードを選択した場合，［OK］ボタンはクリックできません。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

ノード選択ダイアログ（データ変換）では，次のことができます。

- マッピング元となる変換元ノードを指定する
  ［マッピング元設定］ダイアログまたは各ファンクションの設定ダイアログから表示し

た場合，マッピング元となる変換元ノードを指定して，［マッピング元設定］ダイアログまたは各ファンクションの設定ダイアログに変換元ノードを設定します。

- 自動マッピングでマッピング元となる変換元ノードを指定する
  ［自動マッピング元設定］ダイアログから表示した場合，自動でマッピングさせたい変換元ノードの要素を指定して，［自動マッピング元設定］ダイアログのパスに変換元ノードの要素を設定します。
- 構造一致の複製マッピングでコピー先となる変換元ノードを指定する
  ［複製マッピング元設定］ダイアログから表示した場合，コピー先となる変換元ノードを指定して，［複製マッピング元設定］ダイアログに変換元ノードを設定します。
- 要素名一致の複製マッピングでコピー元またはコピー先となる変換元ノードを指定する
  ［複製マッピング範囲設定］ダイアログの［変換元ノード］から表示した場合，マッピング定義のコピー元またはコピー先となる変換元ノードを指定して，［複製マッピング範囲設定］ダイアログに変換元ノードを設定します。
- 要素名一致の複製マッピングでコピー元またはコピー先となる変換先ノードを指定する
  ［複製マッピング範囲設定］ダイアログの［変換先ノード］から表示した場合，マッピング定義のコピー元またはコピー先となる変換先ノードを指定して，［複製マッピング範囲設定］ダイアログに変換先ノードを設定します。

1.6.7 ファンクション選択ダイアログ

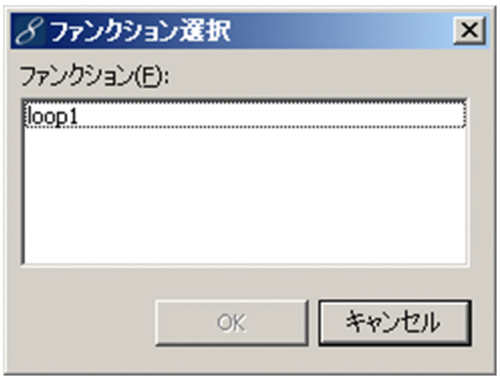
ファンクション選択ダイアログは，マッピング元となるファンクションを指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- ［マッピング元設定］ダイアログの［ファンクション追加］ボタンをクリックする
- 各ファンクションの設定ダイアログの［ファンクション追加］ボタンまたは［ファンクション選択］ボタンをクリックする

ファンクション選択ダイアログを次に示します。

図 1-98 ファンクション選択ダイアログ



(1) 表示項目

[ファンクション]
マッピング元として選択できるファンクションが表示されます。

[OK] ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

ファンクション選択ダイアログでは，マッピング元となるファンクションを指定して，[マッピング元設定] ダイアログまたは各ファンクションの設定ダイアログに指定したファンクションを設定します。

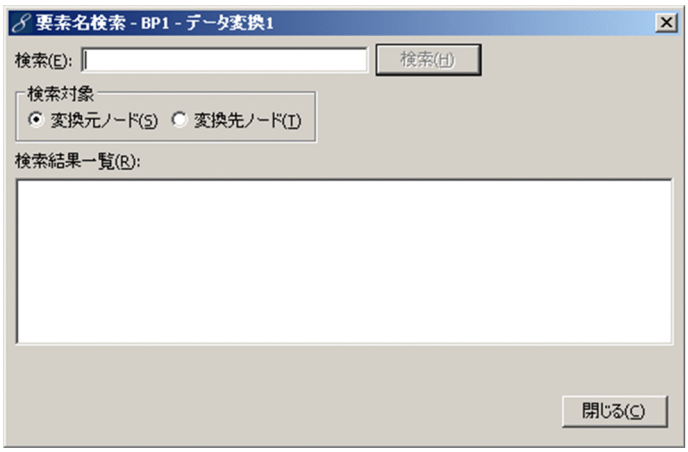
1.6.8 要素名検索ダイアログ

要素名検索ダイアログでは，要素名を部分一致で検索して，検索結果のパスを一覧表示します。要素名検索ダイアログを表示したままマッピング定義を編集することもできます。

要素名検索ダイアログは，データ変換定義画面のツリービューアの適当な場所で右クリックして，[要素名検索] を選択した場合に表示されます。

要素名検索ダイアログを次に示します。

図 1-99 要素名検索ダイアログ



(1) 表示項目

[検索]
検索文字列を指定します。[検索] ボタンをクリックすると，検索文字列を含むノー

ドを検索できます。
検索対象となるノードは次のとおりです。

- 論理名
- 複合内容要素
- 単純内容要素
- 属性
- any 要素
- anyAttribute 属性
- #(sequence), #(choice)
- #anonymous

検索に関しては次の点に注意してください。

- 検索文字列の大文字と小文字は区別されません。
- 正規表現での検索はできません。
- ノードのパス全体ではなく，末端の要素名だけを検索対象とします。

検索結果は，［検索結果一覧］にノードのパスが一覧表示されます。

［検索］ボタン

［検索］に指定した検索文字列を含むノードを検索できます。検索結果は［検索結果一覧］に表示されます。

［検索対象］

検索対象として，［変換元ノード］または［変換先ノード］を選択します。

［検索結果一覧］

検索結果のノードのパスが，画面上のノード表示順に従って一覧表示されます。表示されたパスを選択すると，ノードが次のように選択されます。

- ［検索対象］が変換元ノードの場合は，変換元スキーマツリービューア上の該当するノードが選択状態になります。
- ［検索対象］が変換先ノードの場合は，変換先スキーマツリービューア上の該当するノードが選択状態になります。

［検索要素数］

検索結果の個数が表示されます。
なお，この項目は，［検索］ボタンをクリックして検索を実行したあとに，［検索結果一覧］の下に表示されます。

［閉じる］ボタン

要素名検索ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

要素名検索ダイアログでは，要素名を部分一致で検索できます。変換元ノードや変換先ノードの数が多い場合に，使用したいノードを簡単に探し出せます。

1.6.9　ノード条件設定ダイアログ

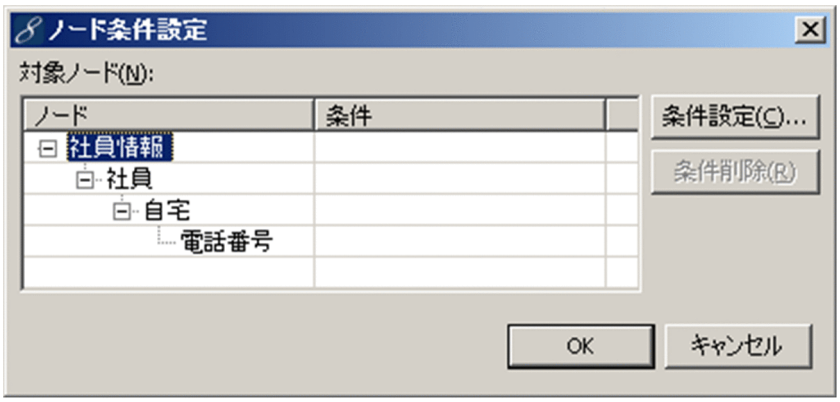
ノード条件設定ダイアログでは，ノード条件を設定する変換元ノードを指定し，条件を設定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- ［マッピング元設定］ダイアログの［ノード条件設定］ボタンをクリックする
- 各ファンクションの設定ダイアログの［ノード条件設定］ボタンをクリックする

ノード条件設定ダイアログを次に示します。

図 1-100　ノード条件設定ダイアログ



(1) 表示項目

[ノード]

［マッピング元設定］ダイアログまたは各ファンクションを設定するダイアログで選択したノードおよびその子孫ノードが表示されます。

[条件]

［条件設定］ダイアログで設定した条件が表示されます。

[条件設定] ボタン

［条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定する場合にクリックします。

［条件設定］ダイアログについては，「1.6.10　条件設定ダイアログ（ノード条件の設定）」を参照してください。

[条件削除] ボタン

［条件］で選択した条件を［条件］から削除します。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

ノード条件設定ダイアログでは，ノード条件を設定する変換元ノードを指定して，ノード条件を設定します。条件を設定した変換元ノードは，その条件を満たす場合だけマッピングします。変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

1.6.10　条件設定ダイアログ（ノード条件の設定）

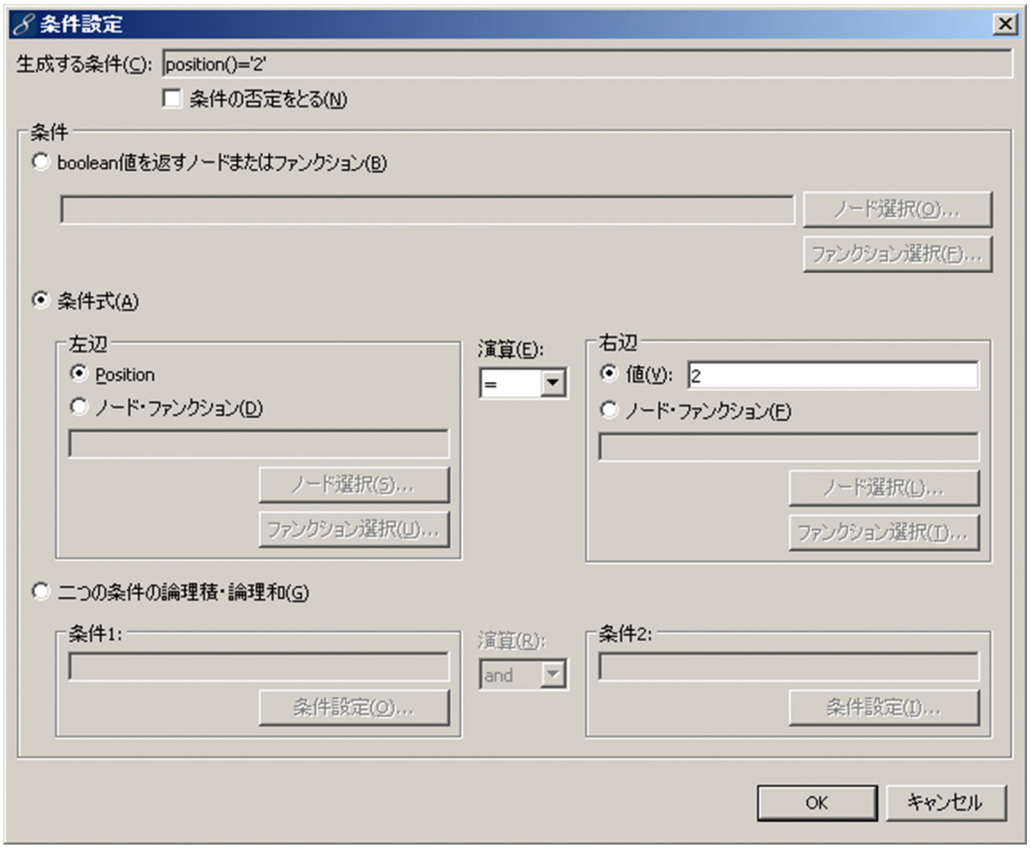
条件設定ダイアログでは，条件の内容を決めます。

次のどれかの操作をした場合に表示されます。

- ［ノード条件設定］ダイアログの［条件設定］ボタンをクリックする
- ［条件追加 / 編集］ダイアログの［条件設定］ボタンをクリックする
- 条件設定ダイアログの［条件設定］ボタンをクリックする

条件設定ダイアログを次に示します。

図 1-101　条件設定ダイアログ（ノード条件の設定）



（1） 表示項目

[生成する条件]

［条件］で設定した条件が表示されます。
［条件の否定をとる］チェックボックスにチェックした場合，条件の先頭に「not」が表示されます。

[条件の否定をとる］チェックボックス

［条件］で設定した条件と反対の内容を条件とする場合にチェックします。

[条件]

[boolean 値を返すノードまたはファンクション］ラジオボタン

論理値を条件として設定する場合に選択します。
［ノード選択］ボタンまたは［ファンクション選択］ボタンで指定したマッピング元の値によって，次の論理値が設定されます。

- マッピング元の値が「true」，または「0」，「-0」，もしくは「NaN」以外の数値の場合
  真が条件として設定されます。

- マッピング元の値が「true」以外の文字列，または「0」，「-0」，もしくは「NaN」の数値の場合
  偽が条件として設定されます。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。マッピング元に変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。マッピング元にファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［条件式］ラジオボタン

指定した条件式を条件として設定する場合に選択します。

［左辺］

［Position］ラジオボタン

マッピング元のインスタンスの出現する順番を条件として設定する場合に選択します。
例えば，「Position=2」（このラジオボタンを選択し，右辺の値に「2」を指定）と指定した場合，2 番目に出現するインスタンスを条件として設定します。

［ノード・ファンクション］ラジオボタン

変換元ノードまたはファンクションの値を条件として設定する場合に選択します。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。条件式の左辺に変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。条件式の左辺にファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［演算］ドロップダウンリスト

条件式に設定する演算子が表示されます。表示される演算子を次に示します。

- =
- !=
- >

- <
- >=
- <=

[右辺]

[値] ラジオボタン

ユーザが指定した値を条件として設定する場合に選択します。指定できる文字数は，1,024 文字までです。

[ノード・ファンクション] ラジオボタン

変換元ノードまたはファンクションの値を条件として設定する場合に選択します。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。条件式の右辺に変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ファンクション選択] ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。条件式の右辺にファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

[二つの条件の論理積・論理和] ラジオボタン

二つの条件を設定して，その条件の論理積または論理和を条件に設定する場合に選択します。

[条件 1]

一つ目の条件が表示されます。

[条件設定] ボタン

条件設定ダイアログが表示されます。一つ目の条件を設定する場合にクリックします。

[演算] ドロップダウンリスト

and（論理積）または or（論理和）が表示されます。

[条件 2]

二つ目の条件が表示されます。

[条件設定] ボタン

条件設定ダイアログが表示されます。二つ目の条件を設定する場合にクリックします。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

条件設定ダイアログでは，次のことができます。

- ノード条件を設定する
  ノード条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。
- 選択ファンクションの条件を設定する
  選択ファンクションの条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

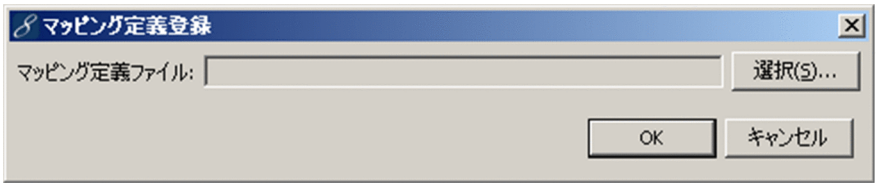
1.6.11　マッピング定義登録ダイアログ

マッピング定義登録ダイアログでは，マッピング定義をコピーするときのコピー元として登録するマッピング定義ファイル（拡張子：.mdo）を指定します。

マッピング定義登録ダイアログは，データ変換定義画面の変換元スキーマツリービューア，マッピングビューア，または変換先スキーマツリービューアの適当な場所で右クリックして，［マッピング定義登録］を選択した場合に表示されます。

マッピング定義登録ダイアログを次に示します。

図 1-102　マッピング定義登録ダイアログ



(1) 表示項目

［マッピング定義ファイル］
コピー元となるマッピング定義ファイルを指定します。すでにマッピング定義ファイルが登録されている場合，登録されているマッピング定義ファイルが表示されます。

［選択］ボタン
ファイルを選択するダイアログが表示されます。ファイルを選択するダイアログに最初に表示されるディレクトリは，［設定］ダイアログで任意の場所に設定できます。［設定］ダイアログについては，「1.6.14　設定ダイアログ」を参照してください。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

マッピング定義登録ダイアログでは，マッピング定義をコピーするときのコピー元として登録するマッピング定義ファイル（拡張子：.mdo）を設定できます。マッピング定義のコピーについては，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.8.4　マッピング定義のコピー」を参照してください。

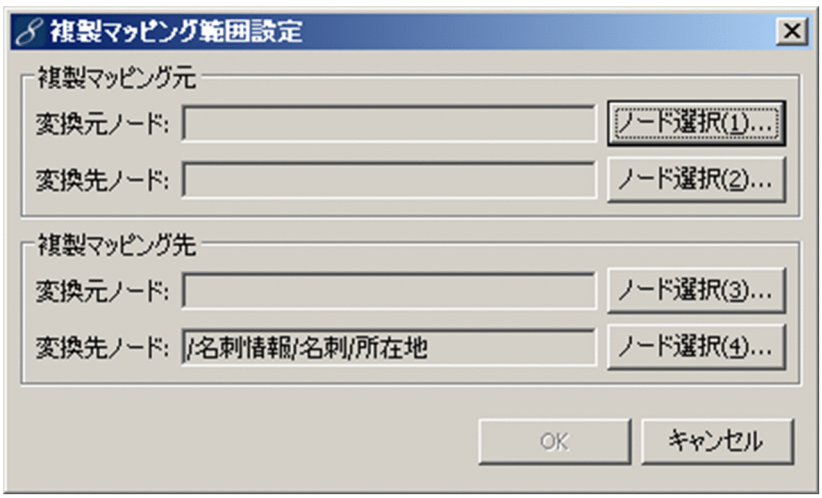
1.6.12　複製マッピング範囲設定ダイアログ

複製マッピング範囲設定ダイアログでは，マッピング定義をコピーするときにコピー元およびコピー先となるノード（変換元ノードおよび変換先ノード）を指定します。

複製マッピング範囲設定ダイアログは，データ変換定義画面の変換先スキーマツリービューアで複合内容要素を右クリックし，［複製マッピング］から「要素名一致」を選択した場合に表示されます。

複製マッピング範囲設定ダイアログを次に示します。

図 1-103　複製マッピング範囲設定ダイアログ



（1） 表示項目

［複製マッピング元］

［変換元ノード］

複製マッピング元の変換元ノードを指定します。

変換元ノードを変更する場合は右側の［ノード選択］ボタンをクリックし，表示された［ノード選択］ダイアログで指定します。［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［変換先ノード］

複製マッピング元の変換先ノードを指定します。
変換先ノードを変更する場合は右側の［ノード選択］ボタンをクリックし，表示された［ノード選択］ダイアログで指定します。［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［複製マッピング先］

［変換元ノード］

複製マッピング先の変換元ノードを指定します。
変換元ノードを変更する場合は右側の［ノード選択］ボタンをクリックし，表示された［ノード選択］ダイアログで指定します。［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［変換先ノード］

複製マッピング先の変換先ノードを指定します。
変換先ノードを変更する場合は右側の［ノード選択］ボタンをクリックし，表示された［ノード選択］ダイアログで指定します。［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2）このダイアログでできる内容

複製マッピング範囲設定ダイアログでは，マッピング定義のコピー元およびコピー先となるノードを設定できます。それぞれの項目に変換元ノードおよび変換先ノードを設定します。

マッピング定義のコピーについては，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.8.4　マッピング定義のコピー」を参照してください。

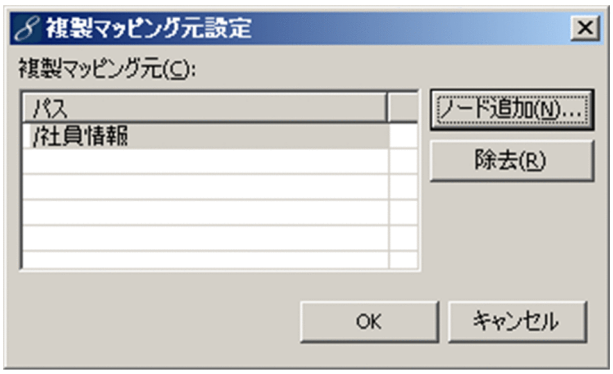
1.6.13　複製マッピング元設定ダイアログ

複製マッピング元設定ダイアログでは，マッピング定義をコピーするときにコピー先となるノード（変換元ノード）を指定します。

複製マッピング元設定ダイアログは，データ変換定義画面の変換先スキーマツリービューアで複合内容要素を右クリックし，［複製マッピング］から［構造一致］を選択した場合に表示されます。

複製マッピング元設定ダイアログを次に示します。

図 1-104　複製マッピング元設定ダイアログ



(1) 表示項目

[パス]

マッピング定義をコピーするときにコピー先となるノード（変換元ノード）を指定します。

［パス］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード追加] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［パス］にノード（変換元ノード）を追加する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[除去] ボタン

［パス］で選択したノード（変換元ノード）が［パス］から削除されます。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

複製マッピング元設定ダイアログでは，マッピング定義をコピーするときにコピー先となるノード（変換元ノード）を設定できます。マッピング定義のコピーについては，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.8.4　マッピング定義のコピー」を参照してください。

1.6.14　設定ダイアログ

設定ダイアログは，データ変換に関する内容を設定するときに使用します。

設定ダイアログを表示する手順を次に示します。

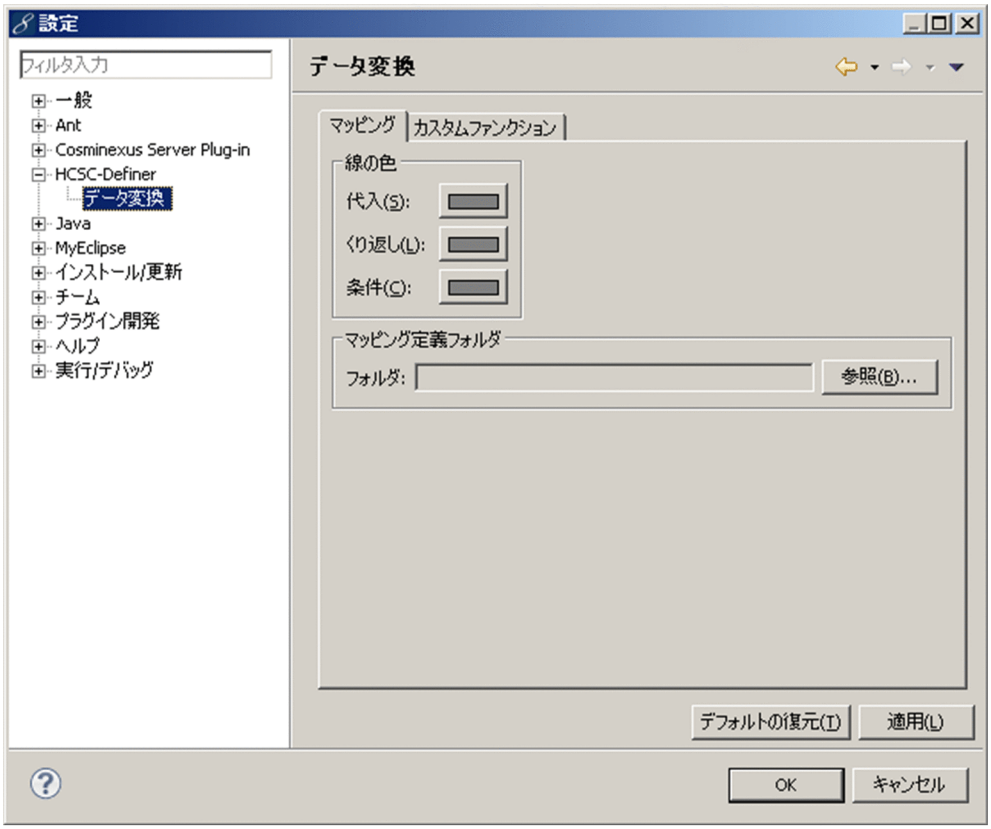
1. Eclipse **のメニューから，［ウィンドウ］－［設定］を選択します。**
   ［設定］ダイアログが表示されます。
2. **ダイアログ左側から［HCSC-Definer］－［データ変換］を選択します。**
   データ変換定義画面の設定項目がダイアログ右側に表示されます。

設定ダイアログにはマッピングタブとカスタムファンクションタブがあります。それぞれのタブについて説明します。

（1）マッピングタブ

設定ダイアログのマッピングタブを次に示します。

図 1-105　**設定ダイアログ（マッピングタブ）**



(a) 表示項目

[線の色]

[代入]
［代入］の右側にあるボタンをクリックすると，［色の設定］ダイアログが表示されます。

[くり返し]
［くり返し］の右側にあるボタンをクリックすると，［色の設定］ダイアログが表示されます。

[条件]
［条件］の右側にあるボタンをクリックすると，［色の設定］ダイアログが表示されます。

[マッピング定義フォルダ]

[フォルダ]
マッピング定義を保存するとき，およびマッピング定義を登録するときに最初に表示するフォルダを指定します。

[参照] ボタン
フォルダの選択画面が表示されます。

[デフォルトの復元] ボタン
設定ダイアログがデフォルトの設定になります。デフォルトの設定は次のとおりです。

- マッピング線の色：グレー
- マッピング定義フォルダ：空欄
- 変換ファンクション定義ファイル：空欄

変換ファンクション定義ファイルについては，「(2) カスタムファンクションタブ」を参照してください。

[適用] ボタン
設定した内容を有効にします。ダイアログは閉じません。

[OK] ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(b) このタブでできる内容

設定ダイアログのマッピングタブでは，次のことができます。

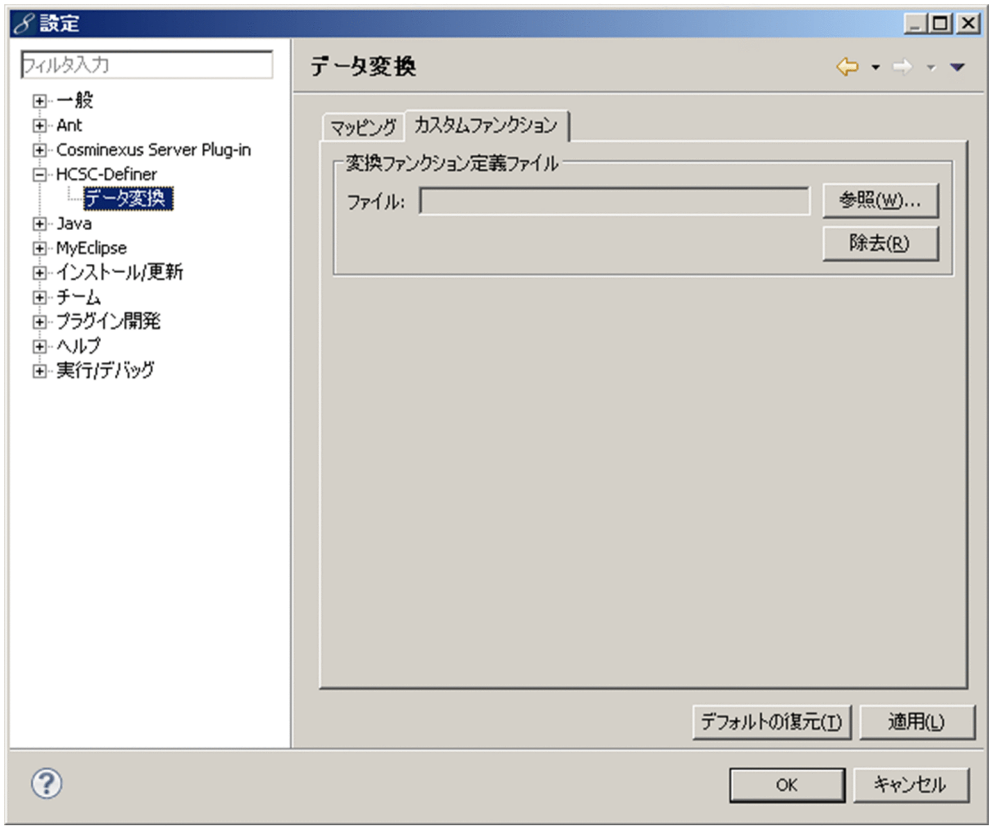
- マッピング線の色を変更する
  マッピング線の色を変更する方法については，「1.10.4 マッピング線の色を変更する」を参照してください。

- ［マッピング定義登録］ダイアログおよび［マッピング定義保存］ダイアログで最初に参照するディレクトリを設定する
  ［マッピング定義登録］ダイアログについては，「1.6.11　マッピング定義登録ダイアログ」を参照してください。

(2) カスタムファンクションタブ

設定ダイアログのカスタムファンクションタブを次に示します。

図 1-106　設定ダイアログ（カスタムファンクションタブ）



(a) 表示項目

［変換ファンクション定義ファイル］

［ファイル］

カスタムファンクションの定義で使用する変換ファンクション定義ファイルを指定します。

［参照］ボタン

ファイルの選択画面が表示されます。

［除去］ボタン

［ファイル］に指定した変換ファンクション定義ファイルが［ファイル］から削

除されます。

［デフォルトの復元］ボタン

設定ダイアログがデフォルトの設定になります。デフォルトの設定は次のとおりです。

- マッピング線の色：グレー
- マッピング定義フォルダ：空欄
- 変換ファンクション定義ファイル：空欄

マッピング線の色，およびマッピング定義フォルダについては，「(1)　マッピングタブ」を参照してください。

［適用］ボタン

設定した内容を有効にします。ダイアログは閉じません。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(b) このタブでできる内容

設定ダイアログのカスタムファンクションタブでは，カスタムファンクションを定義するときに必要となる変換ファンクション定義ファイルを登録できます。カスタムファンクションの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.15　文字列連結ダイアログ

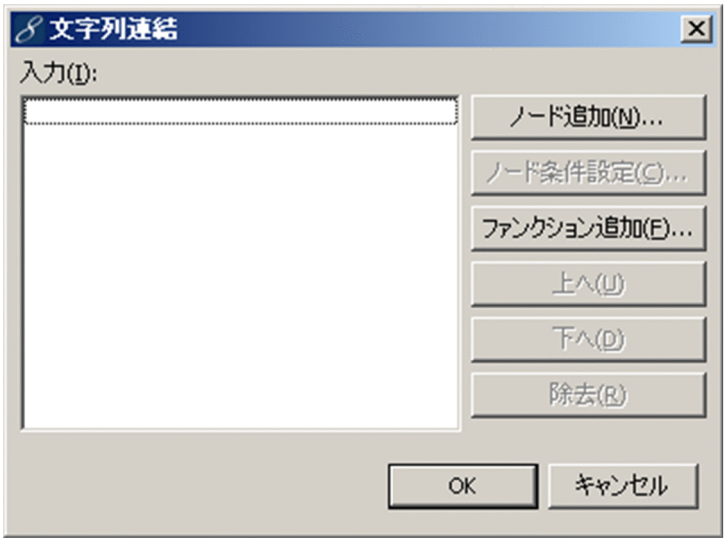
文字列連結ダイアログでは，連結対象となる文字列を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 文字列連結ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 文字列連結ファンクションをダブルクリックする

文字列連結ダイアログを次に示します。

図 1-107　文字列連結ダイアログ



(1) 表示項目

[入力]

連結対象となる文字列の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに連結対象と文字列連結ファンクションがマッピングされている場合，その連結対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード追加] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に連結対象となる文字列の変換元ノードを追加する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

[ファンクション追加] ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に連結対象となる文字列のファンクションを追加する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイア

ログ」を参照してください。

［上へ］ボタン
［入力］で選択した変換元ノードまたはファンクションの位置が一つ上に移動します。

［下へ］ボタン
［入力］で選択した変換元ノードまたはファンクションの位置が一つ下に移動します。

［除去］ボタン
［入力］で選択した変換元ノードまたはファンクションが［入力］から削除されます。

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

文字列連結ダイアログでは，文字列連結ファンクションを設定できます。部分文字列取得ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.16　部分文字列取得ダイアログ

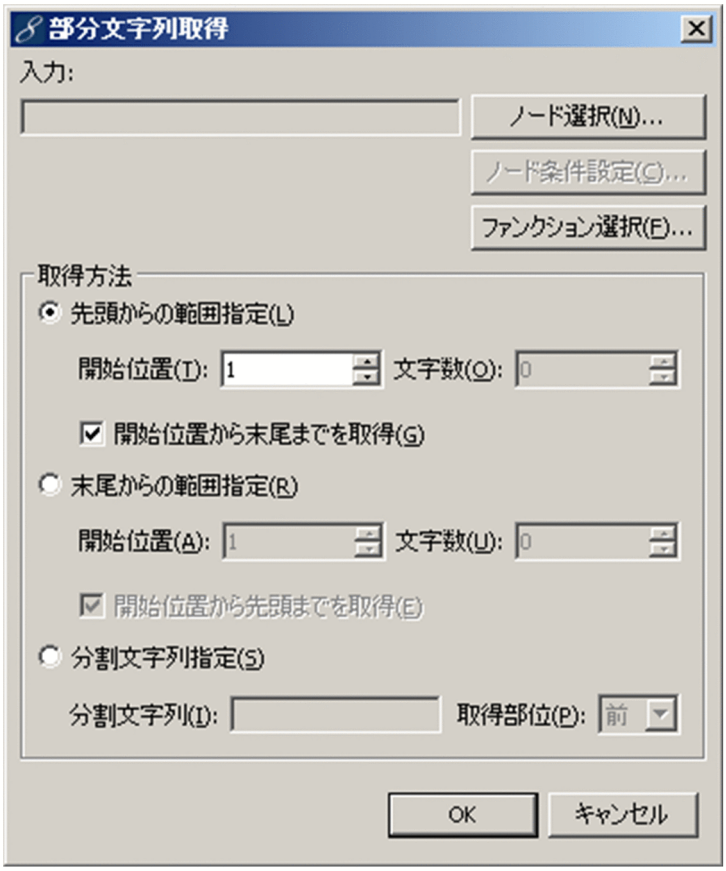
部分文字列取得ダイアログでは，一つの文字列から取り出す一部分の文字列を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 部分文字列取得ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 部分文字列取得ファンクションをダブルクリックする

部分文字列取得ダイアログを次に示します。

図 1-108　部分文字列取得ダイアログ



(1) 表示項目

[入力]

一部分の文字列の取り出し元となる変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに取り出し元と部分文字列取得がマッピングされている場合，その取り出し元が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に一部分の文字列の取り出し元となる変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に一部分の文字列の取り出し元となるファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［取得方法］

［先頭からの範囲指定］ラジオボタン

取り出す範囲を文字列の先頭から指定する場合に選択します。

［開始位置］

取り出す文字列の開始文字の位置を指定します。

［文字数］

取り出す文字列の文字数を指定します。指定できる文字数は 0 から 2,147,483,647 です。

［開始位置から末尾までを取得］チェックボックス

［開始位置］で指定した開始文字の位置から末尾までの文字列を取り出したい場合にチェックします。

［末尾からの範囲指定］ラジオボタン

取り出す範囲を文字列の末尾から指定する場合に選択します。

［開始位置］

取り出す文字列の開始文字の位置を指定します。

［文字数］

取り出す文字列の文字数を指定します。指定できる文字数は 0 から 2,147,483,647 です。

［開始位置から先頭までを取得］チェックボックス

［開始位置］で指定した開始文字の位置から先頭までの文字列を取り出したい場合にチェックします。

［分割文字列指定］ラジオボタン

文字列を二つに分割して，分割した前の部分かあとの部分かのどちらかを指定する場合に選択します。
分割文字列が複数検索される文字列の場合は，先頭から検索して最初に出現した分割文字列の位置で分割されます。また，分割文字列が検索されない場合は空文字となります。

［分割文字列］

マッピング元の文字列を分割する文字列を指定します。指定できる文字数は，

1,024 文字までです。

［取得部位］

前または後が表示されます。

- 前
  先頭の文字から［分割文字列］で指定した文字列より前の文字列を取得します。
- 後
  ［分割文字列］で指定した文字列以降の文字列を取得します。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

部分文字列取得ダイアログでは，部分文字列取得ファンクションを設定できます。部分文字列取得ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.17　文字数取得ダイアログ

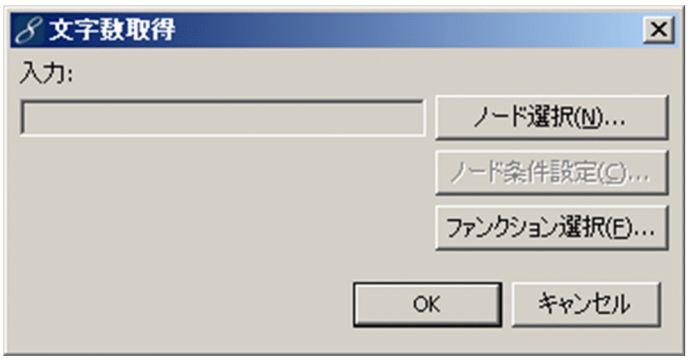
文字数取得ダイアログでは，文字数を取得したい文字列を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 文字数取得ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 文字数取得ファンクションをダブルクリックする

文字数取得ダイアログを次に示します。

図 1-109　文字数取得ダイアログ



(1) 表示項目

[入力]

文字数を取得したい文字列の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに文字数の取得対象と文字数取得ファンクションがマッピングされている場合，その文字数の取得対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に文字数を取得したい文字列の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

[ファンクション選択] ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に文字数を取得したい文字列のファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

文字数取得ダイアログでは，文字数取得ファンクションを設定できます。文字数取得ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.18　文字列調査ダイアログ

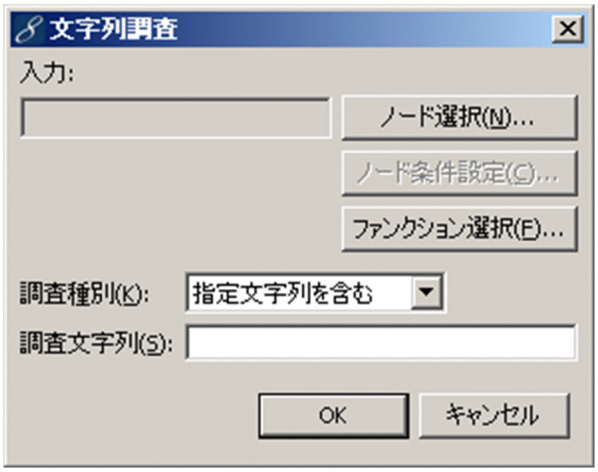
文字列調査ダイアログでは，指定した文字列が含まれているかまたは指定した文字列で開始されているかのどちらを調査するかを選択し，調査対象となる文字列を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 文字列調査ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 文字列調査ファンクションをダブルクリックする

文字列調査ダイアログを次に示します。

図 1-110　文字列調査ダイアログ



（1） 表示項目

［入力］

調査対象となる文字列の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに調査対象と文字列調査ファンクションがマッピングされている場合，その調査対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に調査対象となる文字列の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に調査対象となる文字列のファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［調査種別］

［調査文字列］で指定した文字列に対する調査種別が表示されます。表示される調査種別を次に示します。

- 指定文字列を含む
- 指定文字列から開始

［調査文字列］

調査対象となる文字列を指定します。指定できる文字数は，1,024 文字までです。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

文字列調査ダイアログでは，文字列調査ファンクションを設定できます。文字列調査ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.19　空白除去ダイアログ

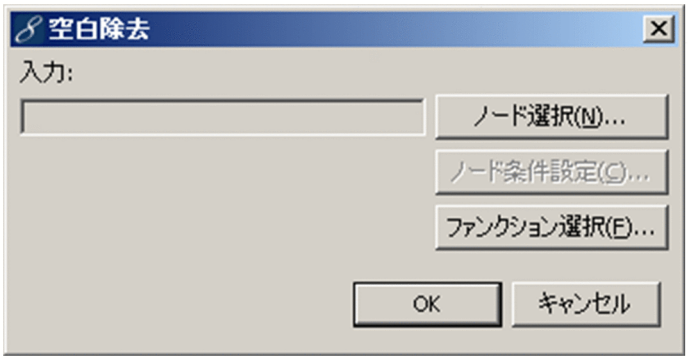
空白除去ダイアログでは，空白の除去対象となる文字列を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 空白除去ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 空白除去ファンクションをダブルクリックする

空白除去ダイアログを次に示します。

図 1-111　空白除去ダイアログ



（1）表示項目

［入力］

空白の除去対象となる文字列の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに空白の除去対象と空白除去ファンクションがマッピングされている場合，その空白の除去対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に空白の除去対象となる文字列の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に空白の除去対象となる文字列のファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

空白除去ダイアログでは，空白除去ファンクションを設定できます。空白除去ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.20　数値フォーマット変換ダイアログ

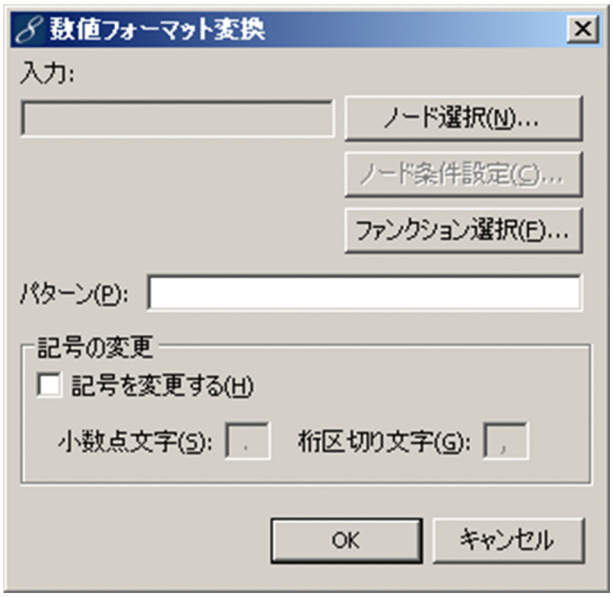
数値フォーマット変換ダイアログでは，変換後の java.text.DecimalFormat クラスの形式のパターン文字列を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 数値フォーマット変換ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 数値フォーマット変換ファンクションをダブルクリックする

数値フォーマット変換ダイアログを次に示します。

図 1-112　数値フォーマット変換ダイアログ



(1) 表示項目

［入力］

変換対象となる数値の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに変換対象と数値フォーマット変換ファンクションがマッピングされている場合，その変換対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に変換対象となる数値の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に変換対象となる数値のファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［パターン］

変換後の java.text.DecimalFormat クラスの形式のパターン文字列を指定します。指定できる文字数は，1,024 文字までです。

［記号の変更］を指定した場合は，変更後の記号を使用してパターンを記述してください。

［記号の変更］

［記号を変更する］チェックボックス

小数点文字または桁区切り文字をデフォルトから変更する場合にチェックします。

［小数点文字］

小数点文字を変更する場合，変更後の小数点文字の記号を指定します。

［桁区切り文字］

桁区切り文字を変更する場合，変更後の桁区切り文字の記号を指定します。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

数値フォーマット変換ダイアログでは，数値フォーマット変換ファンクションを設定できます。数値フォーマット変換ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.21　数値演算ダイアログ

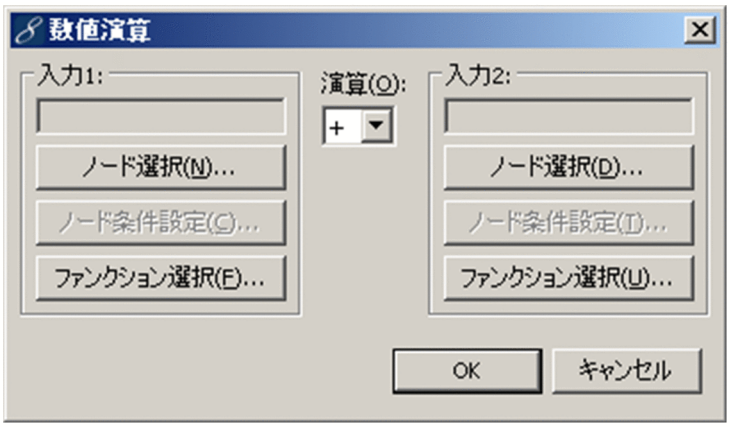
数値演算ダイアログでは，演算対象となる二つの数値と演算の種類を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 数値演算ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 数値演算ファンクションをダブルクリックする

数値演算ダイアログを次に示します。

図 1-113　数値演算ダイアログ



(1) 表示項目

［入力 1］

演算対象となる一つ目の数値の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに演算対象と数値演算ファンクションがマッピングされている場合，その演算対象が表示されます。

［入力 1］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力 1］に演算対象となる数値の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。
［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7 ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力 1］に演算対象となる数値のファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［演算］

実行できる演算が表示されます。表示される演算を次に示します。

- +（加算）
- -（減算）
- *（乗算）
- /（除算）
- %（剰余）

［入力 2］

演算対象となる二つ目の数値の変換元ノードおよびファンクションを指定します。表示形式は［入力 1］と同じです。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力 2］に演算対象となる数値の変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。
［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7 ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力 2］に演算対象となる数値のファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

数値演算ダイアログでは，数値演算ファンクションを設定できます。数値演算ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.22　端数処理ダイアログ

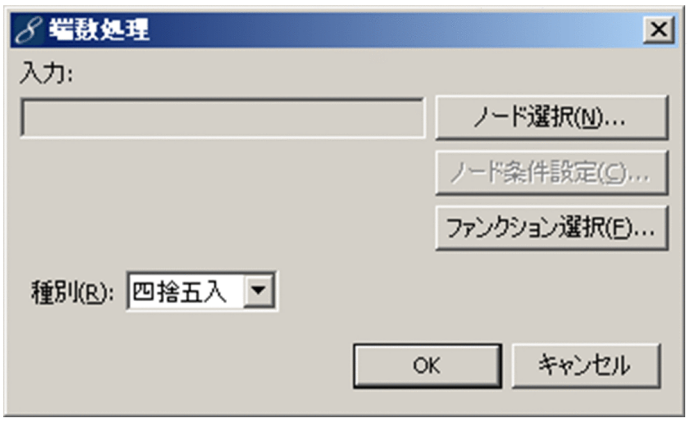
端数処理ダイアログでは，端数処理の対象となる数値を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 端数処理ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 端数処理ファンクションをダブルクリックする

端数処理ダイアログを次に示します。

図 1-114　端数処理ダイアログ



（1） 表示項目

［入力］

端数処理の対象となる数値の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに端数処理の対象と端数処理ファンクションがマッピングされている場合，その端数処理の対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に端数処理の対象となる数値の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に端数処理の対象となる数値のファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［種別］

実行できる端数処理が表示されます。表示される端数処理を次に示します。

- 四捨五入
- 切り捨て
- 切り上げ

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

端数処理ダイアログでは，端数処理ファンクションを設定できます。端数処理ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.23　総和ダイアログ

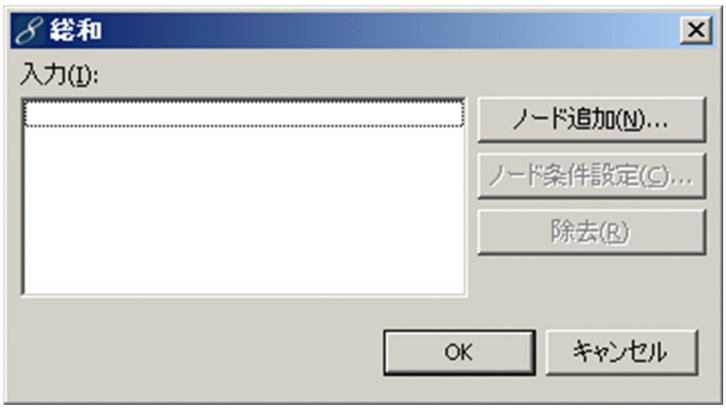
総和ダイアログでは，合計したいノードが含まれているノードセットを指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 総和ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 総和ファンクションをダブルクリックする

総和ダイアログを次に示します。

図 1-115　総和ダイアログ



（1） 表示項目

［入力］

合計したいノードが含まれているノードセットを指定します。すでにノードセットと総和ファンクションがマッピングされている場合，そのノードセットが表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード追加］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に合計したいノードが含まれているノードセットを追加する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。ノードセットに条件を設定して，その条件を満たすノードセットだけをマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［除去］ボタン

［入力］で選択したノードセットが［入力］から削除されます。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

総和ダイアログでは，総和ファンクションを設定できます。総和ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.24　ノード数取得ダイアログ

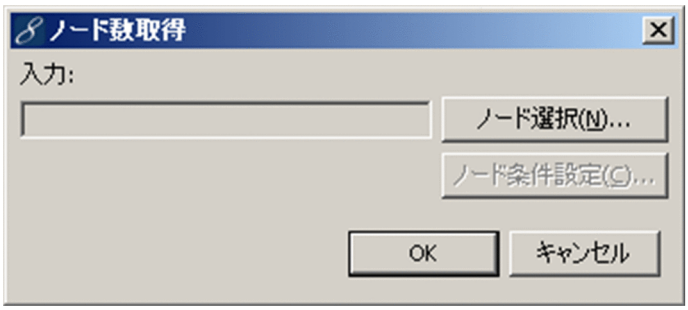
ノード数取得ダイアログでは，ノード数を取得したいノードセットを指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- ノード数取得ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- ノード数取得ファンクションをダブルクリックする

ノード数取得ダイアログを次に示します。

図 1-116　ノード数取得ダイアログ



(1) 表示項目

［入力］

ノード数を取得したいノードセットを指定します。すでにノードセットとノード数取得ファンクションがマッピングされている場合，そのノードセットが表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］にノード数を取得したいノードセットを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。ノードセットに条件を設定して，その条件を満たすノードセットだけをマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

ノード数取得ダイアログでは，ノード数取得ファンクションを設定できます。ノード数取得ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.25　ノード名取得ダイアログ

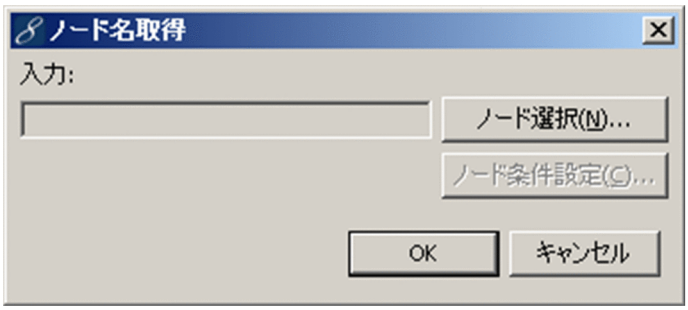
ノード名取得ダイアログでは，ノード名を取得したい変換元ノードを指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- ノード名取得ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- ノード名取得ファンクションをダブルクリックする

ノード名取得ダイアログを次に示します。

図 1-117　ノード名取得ダイアログ



（1） 表示項目

［入力］

ノード名を取得したい変換元ノードを指定します。すでにノード名を取得したい変

換元ノードとノード名取得ファンクションがマッピングされている場合，その変換元ノードが表示されます。
［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］にノード名を取得したい変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。
［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

ノード名取得ダイアログでは，ノード名取得ファンクションを設定できます。ノード名取得ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.26　ノード調査ダイアログ

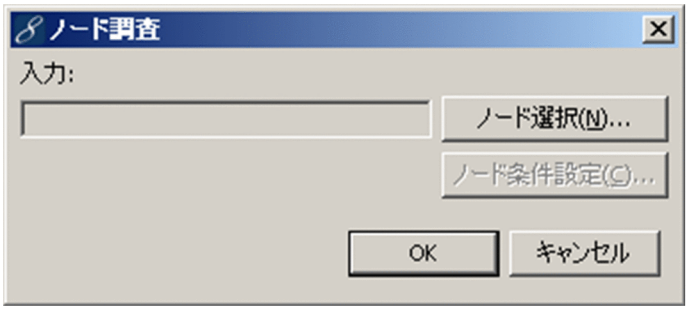
ノード調査ダイアログでは，ノードが存在するか調査したいマッピング元の変換元ノードを指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- ノード調査ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- ノード調査ファンクションをダブルクリックする

ノード調査ダイアログを次に示します。

図 1-118　ノード調査ダイアログ



(1) 表示項目

[入力]

ノードが存在するか調査したい変換元ノードを指定します。すでにノードが存在するか調査したい変換元ノードとノード調査ファンクションがマッピングされている場合，その変換元ノードが表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］にノードが存在するか調査したい変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

ノード調査ダイアログでは，ノード調査ファンクションを設定できます。ノード調査ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してくださ

い。

1.6.27 くり返しダイアログ

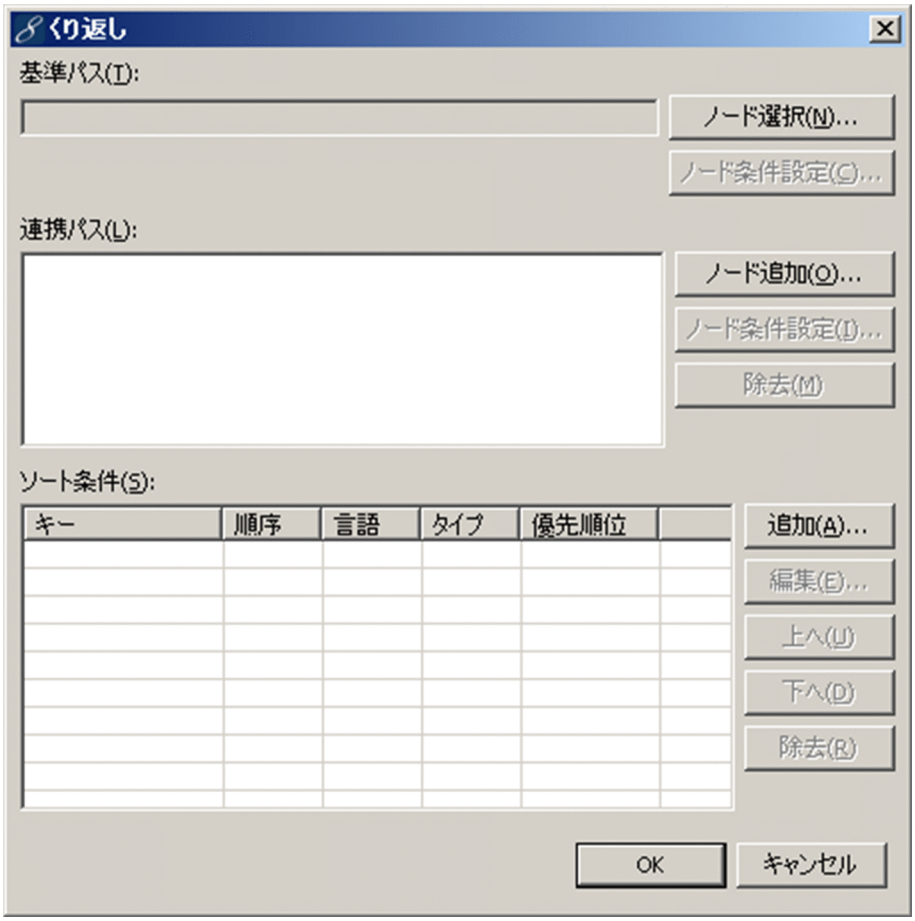
くり返しダイアログでは，変換先ノードにくり返しを対応づけたい変換元ノードを指定します。また，複数回出現する変換元ノードのインスタンスのソート条件を設定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- くり返しファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- くり返しファンクションをダブルクリックする

くり返しダイアログを次に示します。

図 1-119 くり返しダイアログ



(1) 表示項目

[基準パス]

変換先ノードにくり返しを対応づけたい変換元ノードを指定します。すでにくり返しを対応づけたい変換元ノードとくり返しファンクションがマッピングされている場合，その変換元ノードが表示されます。

［基準パス］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［基準パス］にくり返しを対応づけたい変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

[連携パス]

設定されているすべての連携パスが表示されます。条件設定または除去をしたい場合に連携パスを選択します。

[ノード追加] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。連携パスを選択して［OK］ボタンをクリックすると，指定された連携パスが［連携パス］の一番下に追加されます。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。連携パスに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，連携パスに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7　ノード条件を設定する」を参照してください。

[除去] ボタン

［連携パス］で選択したパスが［連携パス］から削除されます。

[ソート条件]

［ソート条件追加 / 編集］ダイアログで設定した内容が表示されます。［ソート条件］

に設定できるキーは八つまでです。
［ソート条件追加 / 編集］ダイアログについては，「1.6.28　ソート条件追加 / 編集ダイアログ」を参照してください。

［追加］ボタン
［ソート条件追加 / 編集］ダイアログが表示されます。［ソート条件］にキーを追加して，ソートする条件を設定する場合にクリックします。
［ソート条件追加 / 編集］ダイアログについては，「1.6.28　ソート条件追加 / 編集ダイアログ」を参照してください。

［編集］ボタン
［ソート条件追加 / 編集］ダイアログが表示されます。［ソート条件］に設定されたキーのソート条件を編集する場合にクリックします。
［ソート条件追加 / 編集］ダイアログについては，「1.6.28　ソート条件追加 / 編集ダイアログ」を参照してください。

［上へ］ボタン
［ソート条件］で選択したキーの位置が一つ上に移動します。

［下へ］ボタン
［ソート条件］で選択したキーの位置が一つ下に移動します。

［除去］ボタン
［ソート条件］で選択したキーが［ソート条件］から削除されます。

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

くり返しダイアログでは，くり返しファンクションを設定できます。くり返しファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

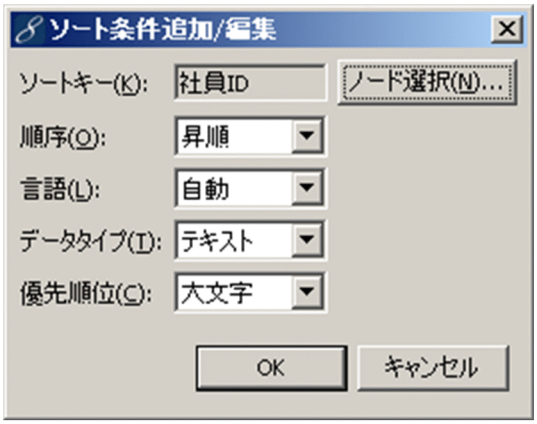
1.6.28　ソート条件追加 / 編集ダイアログ

ソート条件追加 / 編集ダイアログでは，［くり返し］ダイアログの［ソート条件］にキーを追加して，ソート条件を設定します。また，キーに設定されたソート条件を編集します。

ソート条件追加 / 編集ダイアログは，［くり返し］ダイアログの［追加］ボタンまたは［編集］ボタンをクリックした場合に表示されます。

ソート条件追加 / 編集ダイアログを次に示します。

図 1-120　ソート条件追加 / 編集ダイアログ



（1） 表示項目

[ソートキー]

ソートさせたいインスタンスの元となる変換元ノードを指定します。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［ソートキー］にソートさせたいインスタンスの元となる変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[順序]

インスタンスをソートする順序が表示されます。表示される順序を次に示します。

- 昇順
- 降順

[言語]

インスタンスをソートする言語が表示されます。表示される言語を次に示します。

- 日本語
- 英語
- 自動

なお，「自動」を選択した場合，デフォルトに設定されているシステムのロケールに対応した言語コードが指定されます。

[データタイプ]

インスタンスをソートするデータタイプが表示されます。表示されるデータタイプを次に示します。

- テキスト
- 数値

［優先順位］
インスタンスをソートする優先順位が表示されます。［データタイプ］が「テキスト」の場合に選択します。表示される優先順位を次に示します。
- 大文字
- 小文字

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

ソート条件追加 / 編集ダイアログでは，くり返しファンクションのソート条件を設定できます。くり返しファンクションのソート条件の設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.29　選択ダイアログ

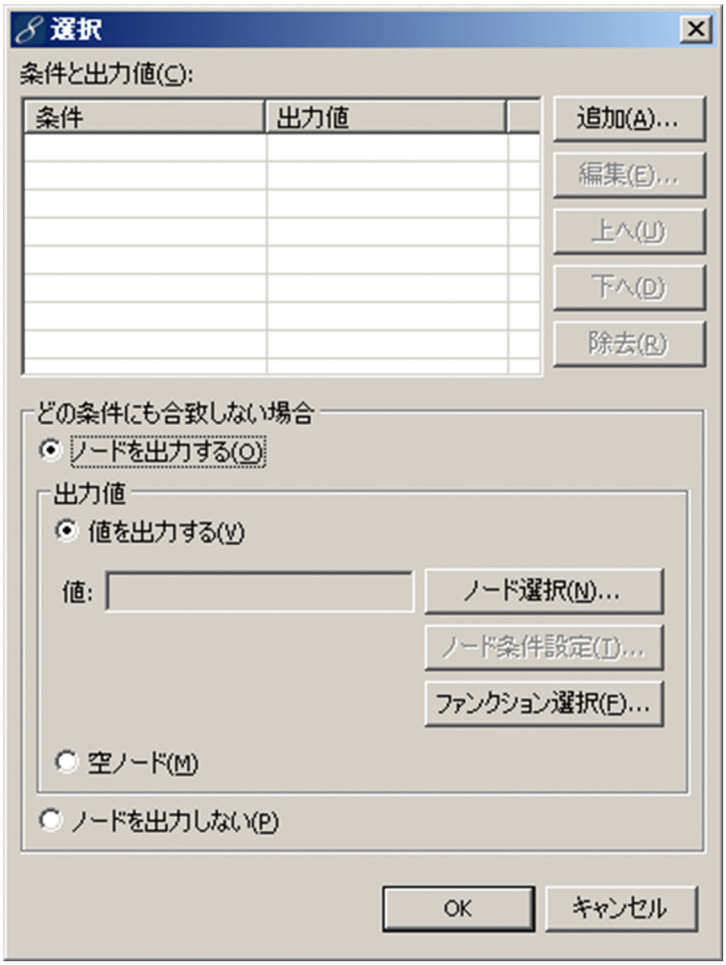
選択ダイアログでは，条件を設定して，その条件よって出力する変換元ノードまたはファンクションを指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 選択ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 選択ファンクションをダブルクリックする

選択ダイアログを次に示します。

図 1-121　選択ダイアログ



(1) 表示項目

[条件と出力値]

[条件]

［条件追加 / 編集］ダイアログで設定した条件が表示されます。［条件追加 / 編集］ダイアログでの設定方法については，「1.6.30　条件追加 / 編集ダイアログ」を参照してください。

[出力値]

条件に合致する場合に出力する出力値の変換元ノードまたはファンクションを指定します。すでに出力値の変換元ノードまたはファンクションと選択ファンクションがマッピングされている場合，その変換元ノードまたはファンクションが表示されます。

［出力値］に表示される変換元ノードまたはファンクションについては，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピ

ング元の表示形式」を参照してください。なお，このダイアログの［空ノード］ラジオボタンを選択した指定した場合は「空ノード」が，［ノードを出力しない］ラジオボタンを選択した指定した場合は「出力なし」が表示されます。

［追加］ボタン

［条件追加 / 編集］ダイアログが表示されます。［条件と出力値］に条件および出力値を追加する場合にクリックします。

［編集］ボタン

［条件追加 / 編集］ダイアログが表示されます。［条件と出力値］の条件または出力値を編集する場合にクリックします。

［上へ］ボタン

［条件と出力値］で選択した条件および出力値の位置が一つ上に移動します。

［下へ］ボタン

［条件と出力値］で選択した条件および出力値の位置が一つ下に移動します。

［除去］ボタン

［条件と出力値］で選択した条件および出力値が［条件と出力値］から削除されます。

［どの条件にも合致しない場合］

［条件と出力値］で指定したすべての条件に合致しない場合の出力を設定します。

［ノードを出力する］ラジオボタン

変換先ノードを出力させるときに選択します。

［ノードを出力しない］ラジオボタン

変換先ノードを出力させないときに選択します。

［出力値］

［どの条件にも合致しない場合］の［ノードを出力する］ラジオボタンを選択した場合に設定します。

［値を出力する］ラジオボタン

変換元ノードまたはファンクションの値を出力させるときに選択します。

［値］

出力値の変換元ノードおよびファンクションを指定します。
出力値の表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

［ノード選択］ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［値］に出力値の変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

［ノード条件設定］ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7 ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［値］に出力値のファンクションを指定する場合にクリックします。

［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［空ノード］ラジオボタン

変換先ノードに値を出力させない（空ノードを出力）ときに選択します。

［OK］ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

選択ダイアログでは，選択ファンクションを設定できます。選択ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

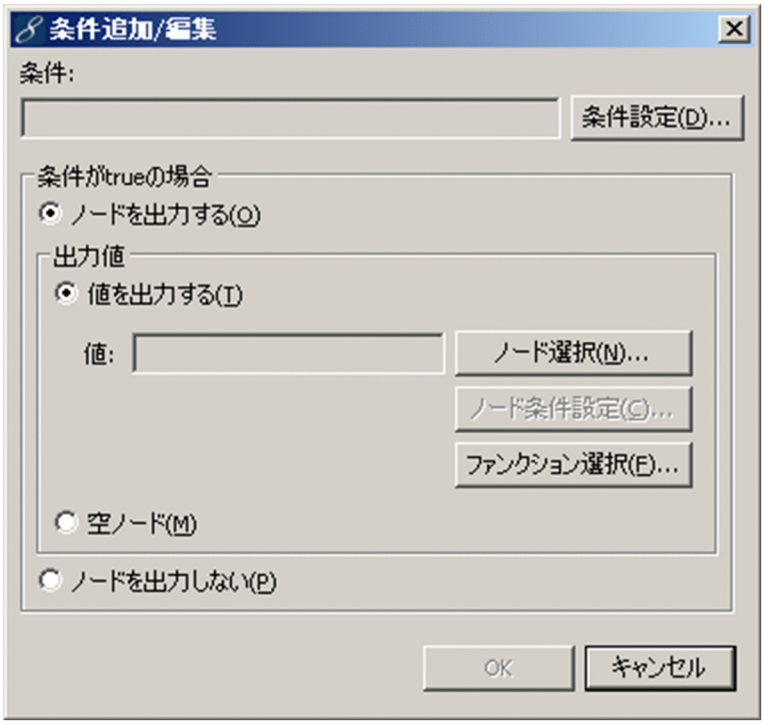
1.6.30　条件追加 / 編集ダイアログ

条件追加 / 編集ダイアログでは，［選択］ダイアログの［条件と出力値］に条件を追加します。また，条件と出力値の条件または出力値を編集します。

条件追加 / 編集ダイアログは，［選択］ダイアログの［追加］ボタンまたは［編集］ボタンをクリックした場合に表示されます。

条件追加 / 編集ダイアログを次に示します。

図 1-122　条件追加 / 編集ダイアログ



（1） 表示項目

[条件]

［条件設定］ダイアログで設定した条件が表示されます。［条件設定］ダイアログでの設定方法については，「1.6.10　条件設定ダイアログ（ノード条件の設定）」を参照してください。

[条件が true の場合]

［条件］で指定した条件に合致する場合の出力を設定します。

［ノードを出力する］ラジオボタン

変換先ノードを出力させるときに選択します。

［ノードを出力しない］ラジオボタン

変換先ノードを出力させないときに選択します。

[出力値]

［条件が true の場合］の［ノードを出力する］ラジオボタンを選択した場合に設定します。

［値を出力する］ラジオボタン

変換元ノードまたはファンクションの値を出力させるときに選択します。

[値]

出力値の変換元ノードおよびファンクションを指定します。
出力値の表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［値］に出力値の変換元ノードを指定する場合にクリックします。
［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。
［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。また，変換元ノードに条件を設定する方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7 ノード条件を設定する」を参照してください。

[ファンクション選択] ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［値］に出力値のファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

[空ノード] ラジオボタン

変換先ノードに値を出力させない（空ノードを出力）ときに選択します。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

条件追加 / 編集ダイアログでは，選択ファンクションの条件の追加・編集を設定できます。選択ファンクションの条件の追加・編集の設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.31 定数ダイアログ

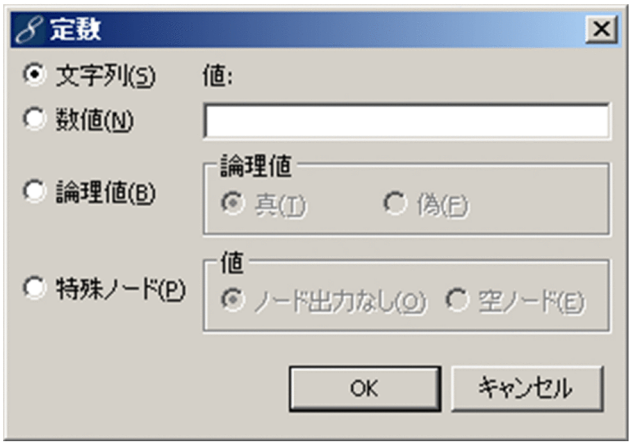
定数ダイアログでは，マッピング先に代入する値を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 定数ファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 定数ファンクションをダブルクリックする

定数ダイアログを次に示します。

図 1-123　定数ダイアログ



(1) 表示項目

[文字列] ラジオボタン

マッピング先に代入する値が文字列の場合に選択します。

[値]

マッピング先に代入する文字列または数値を指定します。指定できる文字数は，1,024 文字までです。

[数値] ラジオボタン

マッピング先に代入する値が数値の場合に選択します。

[論理値] ラジオボタン

マッピング先に代入する値が論理値の場合に選択します。

[論理値]

[真] ラジオボタン

マッピング先に代入する論理値が真の場合に選択します。

[偽] ラジオボタン

マッピング先に代入する論理値が偽の場合に選択します。

[特殊ノード] ラジオボタン

マッピング先に代入する値が特殊ノードの場合に選択します。

［値］

［ノード出力なし］ラジオボタン
マッピング先にノードを出力させない場合に選択します。

［空ノード］ラジオボタン
マッピング先のノードに値を代入しない（空ノード）場合に選択します。

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

定数ダイアログでは，定数ファンクションを設定できます。定数ファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.32 値置換えダイアログ

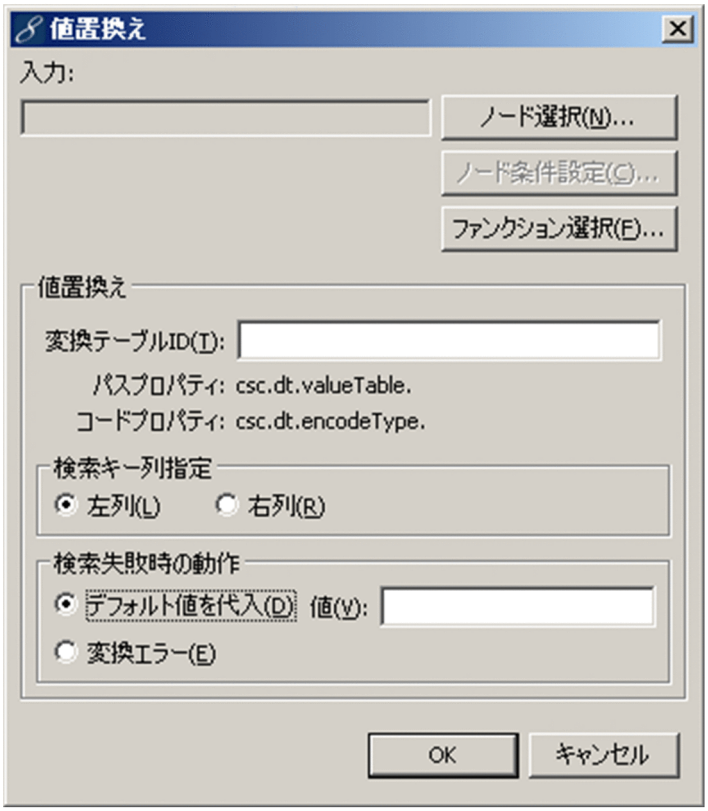
値置換えダイアログでは，マッピング元からの入力値を置き換えてマッピング先に代入するための変換テーブルを指定します。また，置き換え元の文字列を検索する列と，置き換え元の文字列が変換テーブルに存在しなかった場合の対処を指定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- 値置換えファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- 値置換えファンクションをダブルクリックする

値置換えダイアログを次に示します。

図 1-124　値置換えダイアログ



(1) 表示項目

[入力]

置き換えの対象となる文字列の変換元ノードおよびファンクションを指定します。すでに置き換えの対象と値置換えファンクションがマッピングされている場合，その置き換えの対象が表示されます。

［入力］での表示形式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.4.6　マッピング元の表示形式」を参照してください。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［入力］に置き換えの対象となる文字列の変換元ノードを指定する場合にクリックします。

［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。変換元ノードに条件を設定して，その条件を満たす場合だけマッピングさせる場合にクリックします。

［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を

参照してください。また，ノード条件の設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.7 ノード条件を設定する」を参照してください。

［ファンクション選択］ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［入力］に置き換えの対象となる文字列のファンクションを指定する場合にクリックします。
［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7 ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

［値置換え］

［変換テーブル ID］

値の置き換えに使用する変換テーブルの変換テーブル ID を指定します。変換テーブル ID は，変換テーブルの作成後にシステムプロパティファイル（usrconf.properties）に記述した変換テーブルの名称です。

［パスプロパティ］

［変換テーブル ID］に指定した変換テーブルの格納先が設定されているプロパティ（usrconf.properties のキー）が表示されます。次の形式で表示されます。

```
csc.dt.valueTable.<変換テーブルID>
```

［コードプロパティ］

［変換テーブル ID］に指定した変換テーブルで使用している文字コードが設定されているプロパティ（usrconf.properties のキー）が表示されます。次の形式で表示されます。

```
csc.dt.encodeType.<変換テーブルID>
```

［検索キー列指定］

［左列］ラジオボタン

置き換え元の文字列を変換テーブルの左列から検索して，右列の文字列に置き換える場合に選択します。

［右列］ラジオボタン

置き換え元の文字列を変換テーブルの右列から検索して，左列の文字列に置き換える場合に選択します。

［検索失敗時の動作］

［デフォルト値を代入］ラジオボタン

置き換え元の文字列の検索失敗時に，あらかじめ指定した値をマッピング先に代入する場合に選択します。

［値］

置き換え元の文字列の検索失敗時に，マッピング先に代入するデフォルト値を

指定します。［デフォルト値を代入］を選択した場合に指定します。

［変換エラー］ラジオボタン
置き換え元の文字列の検索失敗時に，変換エラーを発生させる場合に選択します。

［OK］ボタン
設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

値置換えダイアログでは，値置換えファンクションを設定できます。値置換えファンクションの設定方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.6.33　カスタムダイアログ

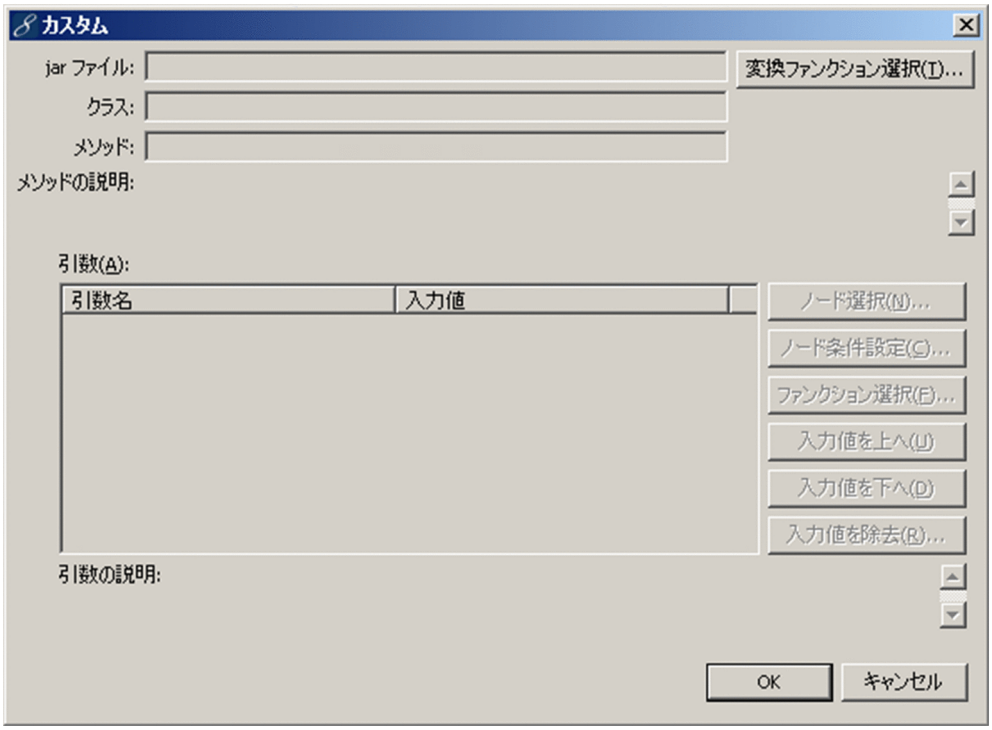
カスタムダイアログでは，カスタムファンクションから呼び出す Java プログラム（変換ファンクション）を設定します。

次のどちらかの操作をした場合に表示されます。

- カスタムファンクションを右クリックし，［設定］を選択する
- カスタムファンクションをダブルクリックする

カスタムダイアログを次に示します。

図 1-125　カスタムダイアログ



(1) 表示項目

[jar ファイル]

［変換ファンクション選択］ダイアログで選択したメソッドが存在する jar ファイルが表示されます。

[変換ファンクション選択] ボタン

［変換ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［変換ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.34　変換ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

[クラス]

［変換ファンクション選択］ダイアログで選択したメソッドが存在するクラスが表示されます。

[メソッド]

［変換ファンクション選択］ダイアログで選択したメソッドが表示されます。「メソッド名（引数 1，引数 2，…）」の形式で表示されます。

[メソッドの説明]

［変換ファンクション選択］ダイアログで選択したメソッドのコメントが表示されます。

[引数]

[引数名]

［変換ファンクション選択］ダイアログで選択したメソッドの引数名が表示されます。

[入力値]

メソッドの引数に入力する値を選択します。

[ノード選択] ボタン

［ノード選択］ダイアログが表示されます。［ノード選択］ダイアログについては，「1.6.6　ノード選択ダイアログ（データ変換）」を参照してください。

[ノード条件設定] ボタン

［ノード条件設定］ダイアログが表示されます。［ノード条件設定］ダイアログについては，「1.6.9　ノード条件設定ダイアログ」を参照してください。

[ファンクション選択] ボタン

［ファンクション選択］ダイアログが表示されます。［ファンクション選択］ダイアログについては，「1.6.7　ファンクション選択ダイアログ」を参照してください。

[入力値を上へ] ボタン

［入力値］で選択した値の位置が一つ上に移動します。

[入力値を下へ] ボタン

［入力値］で選択した値の位置が一つ下に移動します。

[入力値を除去] ボタン

［入力値を除去］ダイアログが表示されます。［入力値を除去］ダイアログについては，「1.6.35　入力値を除去ダイアログ」を参照してください。

[引数の説明]

［変換ファンクション選択］ダイアログで選択したメソッドの引数のコメントが表示されます。

[OK] ボタン

設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

(2) このダイアログでできる内容

カスタムダイアログでは，次のことができます。

- カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションのメソッドの選択
- カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションのメソッドの引数に入力する値の選択

カスタムファンクションの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプ

ラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

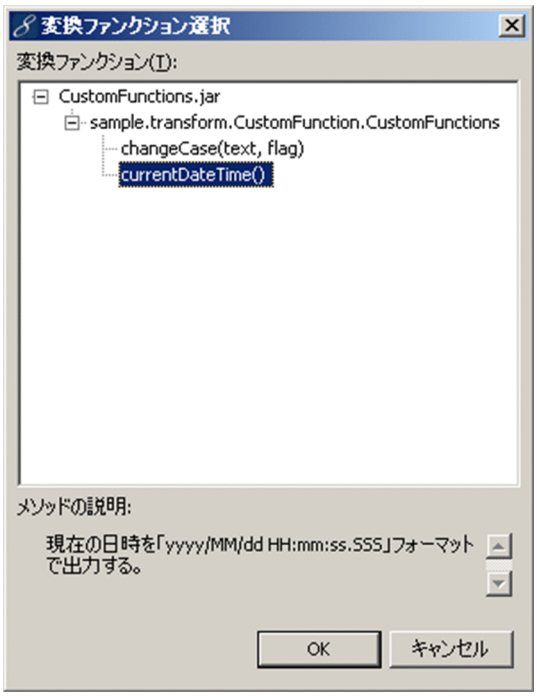
1.6.34　変換ファンクション選択ダイアログ

変換ファンクション選択ダイアログでは，カスタムファンクションから呼び出す Java プログラム（変換ファンクション）のメソッドを選択します。

変換ファンクション選択ダイアログは，［カスタム］ダイアログで［変換ファンクションの選択］ボタンをクリックした場合に表示されます。

変換ファンクション選択ダイアログを次に示します。

図 1-126　変換ファンクション選択ダイアログ



(1) 表示項目

[変換ファンクション]

変換ファンクション定義ファイルに指定された jar ファイルのメソッドが表示されます。ここで，カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションのメソッドを選択します。

[メソッドの説明]

［変換ファンクション］で選択したメソッドの説明が表示されます。

［OK］ボタン
　設定した内容を有効にして，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン
　設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションのメソッドを設定できます。カスタムファンクションの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

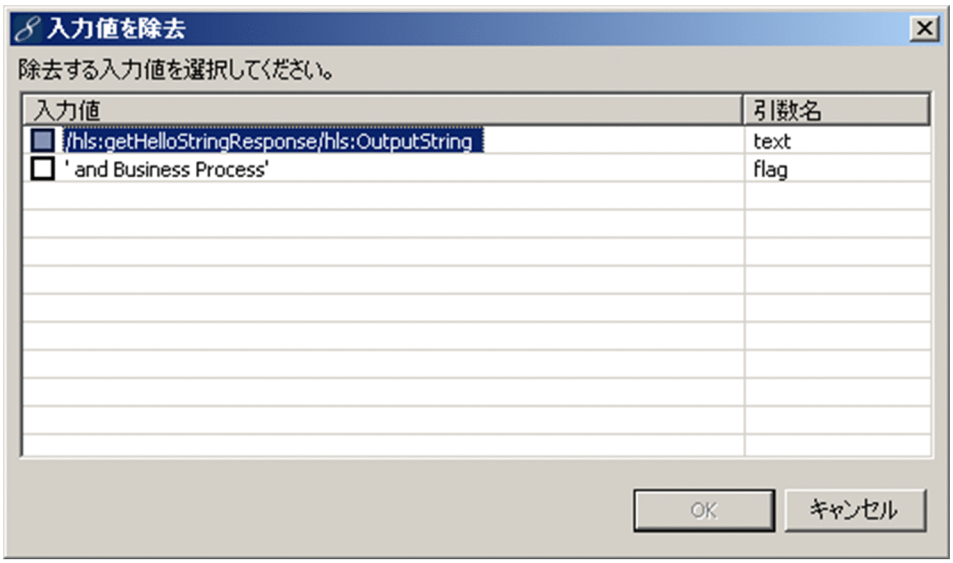
1.6.35　入力値を除去ダイアログ

入力値を除去ダイアログでは，カスタムファンクションに入力された値を除去します。

入力値を除去ダイアログは，［カスタム］ダイアログで［入力値を除去］ボタンをクリックした場合に表示されます。

入力値を除去ダイアログを次に示します。

図 1-127　入力値を除去ダイアログ



（1） 表示項目

［入力値］
　接続された順に，カスタムファンクションに接続されたノードおよびファンクションを表示します。除去したい入力値のチェックボックスにチェックします。

［引数名］

［入力値］の値が入力される引数がある場合は，引数名が表示されます。

［OK］ボタン

［入力値］のチェックボックスにチェックした入力値を削除して，ダイアログを閉じます。

［キャンセル］ボタン

設定した内容を無効にして，ダイアログを閉じます。

（2） このダイアログでできる内容

カスタムファンクションに入力された値を除去できます。カスタムファンクションの定義方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「7.5　ファンクションを使用した値の加工」を参照してください。

1.7　ユーザ定義受付に関連するダイアログ

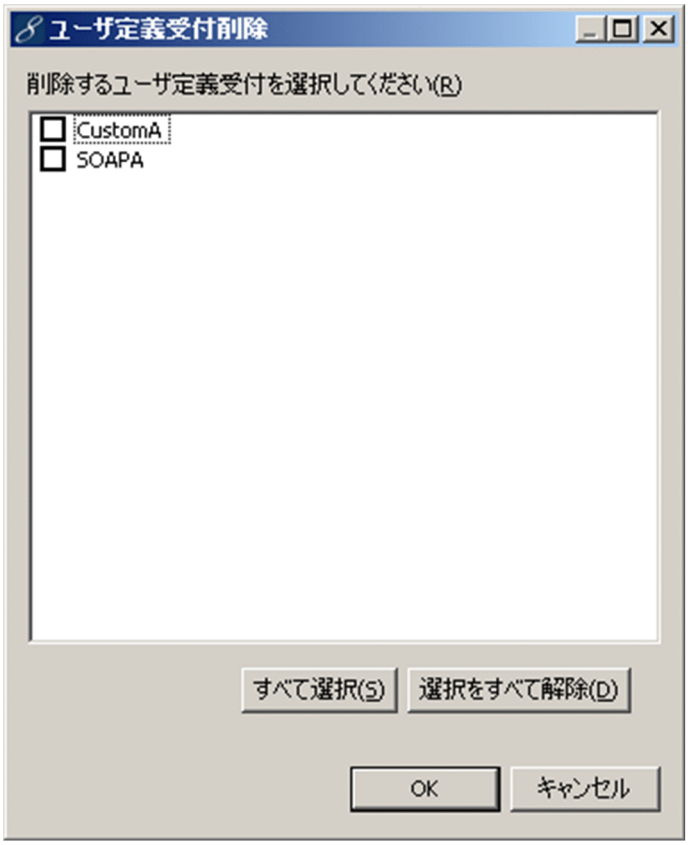
ユーザ定義受付に関連するダイアログについて説明します。

1.7.1　ユーザ定義受付削除ダイアログ

ユーザ定義受付を削除するためのダイアログです。

ユーザ定義受付の削除方法の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「8.9　ユーザ定義受付の削除」を参照してください。

図 1-128　ユーザ定義受付削除ダイアログ



[削除するユーザ定義受付を選択してください]

定義されているユーザ定義受付の一覧が表示されます。削除するユーザ定義受付をチェックボックスで選択します。

[すべて選択] ボタン

ユーザ定義受付の一覧のすべてのチェックボックスがチェックされます。

[選択をすべて解除] ボタン

ユーザ定義受付の一覧のすべてのチェックボックスのチェックが解除されます。

[OK] ボタン

指定したユーザ定義受付を削除して，ダイアログを閉じます。

[キャンセル] ボタン

ユーザ定義受付を削除しないでダイアログを閉じます。

1.8 バイナリフォーマット定義画面の操作

バイナリフォーマット定義画面での操作について説明します。

注意事項

以降の項での説明は，バイナリフォーマット定義画面内のバイナリフォーマット定義エディタの操作の説明です。バイナリフォーマット定義画面内のアウトラインビューには，バイナリフォーマット定義エディタでの操作結果が表示されます。

1.8.1 要素をコピーして貼り付ける

バイナリフォーマット定義エディタ上の要素をコピーして貼り付けます。

注意事項

コピーした要素は，ほかのバイナリフォーマット定義ファイルを編集しているバイナリフォーマット定義エディタ上には貼り付けできません。貼り付けできるのは，コピーした要素があるバイナリフォーマット定義エディタ上だけです。

要素をコピーして貼り付ける方法を次に示します。

1. **コピーする要素を選択します。**
2. **右クリックして［コピー］を選択するか，**［Ctrl］**キー** + ［C］**キーを押します。**
3. **貼り付け先の要素を選択します。**
4. **右クリックして［貼り付け］を選択するか，**［Ctrl］**キー** + ［V］**キーを押します。**
   貼り付けた要素の名称は次の形式で自動設定されます（n は要素名をユニークにするための自然数）。

   Copy-＜n＞-＜コピー元の要素名＞

   ただし，ローカル定義の単純内容要素を別の複合内容要素の構成要素として貼り付ける場合で，同じ名称の構成要素がないときは，コピー元の要素と同じ名称の要素として貼り付けられます。

コピー元の要素と貼り付け先の要素の対応を次の表に示します。

表 1-12　コピー元の要素と貼り付け先の要素の対応

コピー元の要素	貼り付け先の要素					
	フォーマット	単純内容要素（グローバル定義）	複合内容要素	構成要素（単純内容要素（グローバル定義））	構成要素（複合内容要素）	構成要素（単純内容要素（ローカル定義））
フォーマット	－	－	－	－	－	－
単純内容要素（グローバル定義）	(1)	(2)	(2)	－	－	－
複合内容要素	(1)	(2)	(2)	－	－	－
構成要素（単純内容要素（グローバル定義））	－	－	－	－	－	－
構成要素（複合内容要素）	－	－	－	－	－	－
構成要素（単純内容要素（ローカル定義））	－	－	(3)	(4)	(4)	(4)

（凡例）

－：コピー，貼り付けはできません。

(1)

コピーしたグローバル定義の単純内容要素または複合内容要素と同じ内容で，グローバル定義の単純内容要素または複合内容要素が追加されます。すべてのグローバル定義の要素の最後尾に追加されます。

なお，複合内容要素をコピーした場合，複合内容要素に設定されている構成要素もコピーされます。

(2)

コピーしたグローバル定義の単純内容要素または複合内容要素と同じ内容で，グローバル定義の単純内容要素または複合内容要素が追加されます。貼り付け先に選択したグローバル定義の要素の上に追加されます。

なお，複合内容要素をコピーした場合，複合内容要素に設定されている構成要素もコピーされます。

(3)

コピーしたローカル定義の単純内容要素と同じ内容で，選択した複合内容要素にローカル定義の単純内容要素が追加されます。選択した複合内容要素の構成要素の最後尾に追加されます。

(4)

コピーしたローカル定義の単純内容要素と同じ内容で，ローカル定義の単純内容要素が追加されます。貼り付け先に選択した構成要素の上に追加されます。

注意事項

- グローバル定義の単純内容要素をコピーして，ローカル定義の単純内容要素として貼り付けることはできません。逆に，ローカル定義の単純内容要素をコピーして，グローバル定義の単純内容要素として貼り付けることもできません。
- バイナリデータとして CSV 形式のデータを利用する場合，コピーできるのは，複合内容要素（ヘッダ要素またはレコード要素）の構成要素として設定されている単純内容要素だけです。

1.8.2 要素を削除する

バイナリフォーマット定義エディタ上の要素を削除します。

要素を削除する方法を次に示します。

1. **削除する要素を選択します。**
2. **右クリックして［削除］を選択するか，[Delete］キーを押します。**

なお，次の要素の場合は削除できません。

- 構成要素から参照されているグローバル定義の単純内容要素および複合内容要素
- ルート要素に設定されている複合内容要素

また，次の要素の場合，削除してよいかを確認する警告メッセージが表示されます。

- ほかの要素の出現回数，サイズを決定する単純内容要素（ターゲットノード）
- ほかの要素の選択条件値を持つ単純内容要素（選択条件ノード）

1.8.3 要素を移動する

バイナリフォーマット定義エディタ上の要素は，移動する要素（ドラッグ元）を移動先（ドロップ先）にドラッグ＆ドロップして移動できます。ドラッグ中に［Esc］キーを押すと，動作をキャンセルできます。

ドロップ先の種類と，ドラッグ時に［Ctrl］キーを押しているかどうかによって，ドラッグ＆ドロップしたときの結果は異なります。

注意事項

- ドラッグ＆ドロップできる範囲は，バイナリフォーマット定義エディタ内に限定されます。バイナリフォーマット定義エディタの要素を，別のビューやエディタへドロップすることも，別のビューやエディタの要素をバイナリフォーマット定義エディタにドロップすることもできません。
- ドラッグ＆ドロップによって，選択条件などの要素間の依存関係に問題が発生しても，ドラッグ＆ドロップした時点ではエラーになりません。バイナリフォーマットファイルの検証を実施したときにエラーが出力されます。
- バイナリデータとして CSV 形式のデータを利用する場合，ドラッグできるのはローカル単純内容要素だけです。ドラッグしたローカル単純内容要素をドロップできるのは，複合内容要素（ヘッダ要素またはレコード要素），およびその構成要素の上辺と下辺です。

参考

ツリーがバイナリフォーマット定義エディタ内に収まらず，ドロップ先の要素が表示されていない場合，ドラッグするときのカーソルをバイナリフォーマット定義エディタの枠の近くに移動させると自動的にスクロールされます。
また，ツリーが折りたたまれていてドロップ先の要素が表示されていない場合，ドラッグするときのカーソルを折りたたまれている要素の近くに滞留させておくと自動的にツリーが展開されます。

(1) ドロップ先の種類

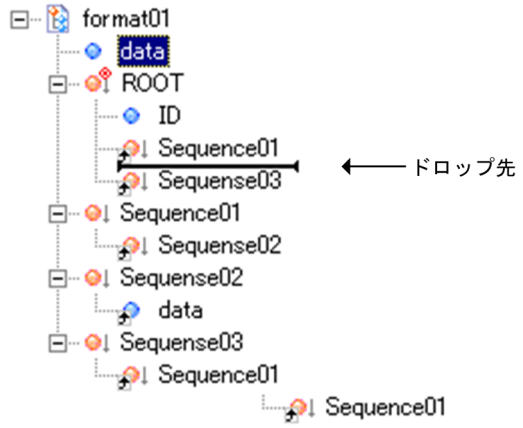
ドロップ先の種類には，要素，上辺および下辺があります。

要素をドロップ先にする場合，ドロップ先の要素にドラッグしたカーソルを移動すると，要素の表示色が反転します。

上辺および下辺をドロップ先にする場合，ドロップ位置に線（ ）が表示されます。

上辺および下辺にドロップする場合の例を次に示します。

図 1-129 上辺および下辺にドロップする場合の例



この図の例では，ドロップ先は構成要素「Sequence01」の下辺，かつ構成要素「Sequence03」の上辺になります。

(2) ドラッグ＆ドロップしたときの結果

ドラッグ＆ドロップしたときの結果は，［Ctrl］キーを押しているかどうかによって異なります。

［Ctrl］キーを押さないでドラッグ＆ドロップする場合

移動

要素を移動します。ドラッグ元の要素は削除され，ドロップ先に追加されます。

参照追加

グローバル定義の複合内容要素に構成要素を追加します。ドラッグ＆ドロップして追加された構成要素の内容はデフォルト値になります。

［Ctrl］キーを押さないでドラッグ＆ドロップした場合の，ドラッグ元とドロップ先の関係を次の表に示します。

表 1-13 ドラッグ＆ドロップしたときの結果（［Ctrl］キーを利用しない場合）

ドラッグ元	ドロップ先								
	単純内容要素（グローバル定義）			複合内容要素（グローバル定義）			構成要素		
	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺
単純内容要素（グローバル定義）	移動	―	移動	移動	参照追加	移動	参照追加	―	参照追加
複合内容要素（グローバル定義）	移動	―	移動	移動	参照追加	移動	参照追加	―	参照追加

ドラッグ元	ドロップ先								
	単純内容要素（グローバル定義）			複合内容要素（グローバル定義）			構成要素		
	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺
構成要素（単純内容要素）	―	―	―	―	―	―	移動	―	移動
構成要素（複合内容要素）	―	―	―	―	―	―	移動	―	移動
構成要素（単純内容要素（ローカル定義））	―	―	―	―	―	―	移動	―	移動

（凡例）

―：ドラッグ＆ドロップできません。

［Ctrl］キーを押したままドラッグ＆ドロップする場合

コピー追加

要素をコピーして追加します。
追加された要素の設定情報は，ドラッグ元の要素の情報が引き継がれます。
追加された要素の名称は次の形式で自動設定されます（n は要素名をユニークにするための自然数）。

Copy-＜n＞-＜ドラッグ元の要素名＞

複合内容要素をコピー追加した場合，ドラッグ元の複合内容要素に設定されている構成要素も引き継がれます。

［Ctrl］キーを押したままドラッグ＆ドロップした場合の，ドラッグ元とドロップ先の関係を次の表に示します。

表 1-14　ドラッグ＆ドロップしたときの結果（［Ctrl］キーを利用した場合）

ドラッグ元	ドロップ先											
	フォーマット			単純内容要素（グローバル定義）			複合内容要素（グローバル定義）			構成要素		
	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺
単純内容要素（グローバル定義）	―	○	―	○	―	○	○	―	○	―	―	―
複合内容要素（グローバル定義）	―	○	―	○	―	○	○	―	○	―	―	―
構成要素（単純内容要素）	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―

ドラッグ元	ドロップ先											
	フォーマット			単純内容要素（グローバル定義）			複合内容要素（グローバル定義）			構成要素		
	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺	上辺	要素	下辺
構成要素（複合内容要素）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
構成要素（単純内容要素（ローカル定義））	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○	－	○

（凡例）

－：ドラッグ＆ドロップできません。

○：コピー追加できます。

1.8.4 操作を元に戻す

バイナリフォーマット定義エディタで行った操作を元に戻します。操作は何回でも元に戻すことができます。

操作を元に戻すには次の二つの方法があります。

方法 1

バイナリフォーマット定義エディタ上で右クリックして，［元に戻す］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー＋［Z］キーを押します。

1.8.5 操作をやり直す

バイナリフォーマット定義エディタで行った操作をやり直します。操作は何回でもやり直すことができます。

操作をやり直すには次の二つの方法があります。

方法 1

バイナリフォーマット定義エディタ上で右クリックして，［やり直し］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー＋［Y］キーを押します。

1.9 ビジネスプロセス定義画面の操作

ビジネスプロセス定義画面での操作について説明します。

1.9.1 オブジェクトをコピーする

キャンバス上のオブジェクト（アクティビティ，コネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクション）をコピーします。オブジェクトを複数選択した場合，選択したすべてのオブジェクトをコピーします。オブジェクトはビジネスプロセス画面のキャンバス以外に，Word，Excel などほかのアプリケーションにもコピーできます。ただし，開始アクティビティおよび終了アクティビティは，ほかのアプリケーションにはコピーできますが，ビジネスプロセス画面のキャンバスにはコピーはできません。

オブジェクトをコピーする手順を次に示します。

1. **コピーしたいオブジェクトを選択します。**
   コネクションをコピーする場合，連結元のアクティビティおよび連結先のアクティビティも一緒に選択してください。連結元のアクティビティおよび連結先のアクティビティを一緒に選択しないと，コネクションはコピーされません。
2. **次のどちらかの方法でコピーします。**
   - 右クリックして，［コピー］を選択します。
   - ［Ctrl］キー＋［C］キーを押します。

1.9.2 オブジェクトを切り取る

キャンバス上のオブジェクト（アクティビティ，コネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクション）を切り取ります。切り取ることができるオブジェクトなどはコピーの場合と同じです。詳細については，「1.9.1　オブジェクトをコピーする」を参照してください。

オブジェクトを切り取る手順を次に示します。

1. **切り取りたいオブジェクトを選択します。**
   コネクションを切り取る場合，連結元のアクティビティおよび連結先のアクティビティも一緒に選択してください。連結元のアクティビティおよび連結先のアクティビティを一緒に選択しないと，コネクションを切り取ることができません。
2. **次のどちらかの方法で切り取ります。**
   - 右クリックして，［切り取り］を選択します。
   - ［Ctrl］キー＋［X］キーを押します。

1.9.3 オブジェクトを貼り付ける

コピーまたは切り取ったオブジェクト（アクティビティ，コネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクション）を，ビジネスプロセス画面のキャンバスまたは

ほかのアプリケーションに貼り付けます。

オブジェクトを貼り付ける方法を，キャンバスの場合とほかのアプリケーションの場合とに分けて次に示します。

キャンバスの場合

次のどちらかの方法で貼り付けます。

- アクティビティが選択されていない状態でキャンバス上を右クリックして，［貼り付け］を選択します。
- ［Ctrl］キー＋［V］キーを押します。

ほかのアプリケーションの場合

［Ctrl］キー＋［V］キーを押します。

なお，貼り付け先によって，コピーまたは切り取り元から貼り付けられるアクティビティの内容が異なります。貼り付け先によるアクティビティの内容の違いを次の表に示します。

表 1-15　貼り付け先によるアクティビティの内容の違い

コピーまたは切り取り元のアクティビティ	貼り付け先			
	同じキャンバス内	同じビジネスプロセスの定義内（別のスコープまたは別の繰り返し）	別のビジネスプロセスの定義	別のアプリケーション
開始アクティビティ	×	×	×	△
終了アクティビティ	×	×	×	△
データ変換アクティビティ	○	○	○	△
スコープアクティビティ	◎	○	○	△
繰り返しアクティビティ	◎	○	○	△
上記以外のアクティビティ	◎	○	○	△

（凡例）

◎：次の内容が貼り付けられます。

- アクティビティのアイコン
- アクティビティの定義情報（変数の情報はコピーされません）

○：次の内容が貼り付けられます。

- アクティビティのアイコン

新規にアクティビティを配置した場合と同じ状態になります。

△：次の内容が貼り付けられます。

- アクティビティのアイコン

コピー先では定義できません。

×：貼り付けられません。

1.9.4 オブジェクトを削除する

キャンバス上のオブジェクト（アクティビティ，コネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクション）を削除します。オブジェクトを複数選択した場合，選択したすべてのオブジェクトを削除します。

オブジェクトを削除する手順を次に示します。

1. **削除したいオブジェクトを選択します。**
2. **次のどちらかの方法で削除します。**
   - 右クリックして，［削除］を選択します。
   - ［Delete］キーを押します。

   なお，連結元のアクティビティまたは連結先のアクティビティを削除すると，連結されていたコネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクションも削除されます。

1.9.5 オブジェクトを整列する

キャンバス上で選択した複数のオブジェクト（アクティビティ，コネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクション）を整列します。整列の種類は，次から選択できます。

- 左揃え
- 中央揃え（水平方向）
- 右揃え
- 上揃え
- 中央揃え（垂直方向）
- 下揃え

なお，コネクション，フォルトコネクション，およびリンクコネクションは，アクティビティの整列に伴い移動されるだけです。

オブジェクトを整列する手順を次に示します。

1. **整列したいオブジェクトを選択します。**
   整列したいオブジェクトの中には，必ず二つ以上のアクティビティを含めてください。
2. **右クリックして，［整列］を指定し，整列の種類を選択します。**

1.9.6 操作を元に戻す

キャンバス上で行った操作を元に戻します。元に戻す操作の対象は，ビジネスプロセス

ごとに管理されています。よって，同じビジネスプロセス内の別のスコープアクティビティまたは繰り返しアクティビティの操作の場合は，元に戻すことができます。また，操作は 20 回まで元に戻すことができます。なお，次の操作は元に戻すことができません。

- プロパティービューでの操作。
- スコープのタブまたは繰り返しのタブを，開くまたは閉じる操作。ただし，操作を元に戻してスコープアクティビティおよび繰り返しアクティビティを削除した場合，スコープのタブまたは繰り返しのタブは削除されます。
- データ変換定義画面での操作。
- 表示を拡大または縮小する操作。
- マッピング定義への電文フォーマット変更の反映。

操作を元に戻すには，次の二つの方法があります。

方法 1

アクティビティが選択されていない状態でキャンバス上を右クリックして，［元に戻す］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー +［Z］キーを押します。

注意事項

ビジネスプロセスを保存した時点で，操作が初期化されます。したがって，ビジネスプロセスを保存すると，操作を元に戻すことができません。

1.9.7 操作をやり直す

元に戻した操作をやり直します。やり直す操作の対象は，元に戻す操作と同様に，ビジネスプロセスごとに管理されています。また，やり直すことができる操作の回数は，連続して元に戻した回数までとなります。

操作をやり直すには，次の二つの方法があります。

方法 1

アクティビティが選択されていない状態でキャンバス上を右クリックして，［やり直す］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー +［Y］キーを押します。

注意事項

ビジネスプロセスを保存した時点で，操作が初期化されます。したがって，ビジネスプロセスを保存すると，操作を元に戻すことができません。

1.9.8 表示を拡大する

キャンバスの表示を拡大します。表示は 200% まで拡大できます。

表示を拡大するには，次の三つの方法があります。

方法 1

アクティビティが選択されていない状態でキャンバス上を右クリックして，［拡大］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー +［+］キーを押します。

方法 3

［Ctrl］キー + ホイールマウスを使用します。

1.9.9 表示を縮小する

キャンバスの表示を縮小します。表示は 10% まで縮小できます。

表示を縮小するには，次の三つの方法があります。

方法 1

アクティビティが選択されていない状態でキャンバス上を右クリックして，［縮小］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー +［-］キーを押します。

方法 3

［Ctrl］キー + ホイールマウスを使用します。

1.9.10 表示を元のサイズに戻す

拡大または縮小したキャンバスの表示を元のサイズ（100%）に戻します。

次の方法で表示を元サイズに戻します。

方法

アクティビティが選択されていない状態でキャンバス上を右クリックして，［元のサイズに戻す］を選択します。

1.9.11 パレットの表示を設定する

パレットの表示を設定します。設定できる内容を次に示します。

- グループおよびツールのレイアウト
- アイコンのサイズ
- フォント
- グループ下のツール一覧の表示または非表示

パレットの表示項目については，「1.2.3(1) パレット」を参照してください。なお，ここで設定した内容は，すべてのビジネスプロセス画面で適用されます。

(1) グループおよびツールのレイアウトを設定する

パレットのグループおよびツールは，次のようにレイアウトを設定できます。

- 列
  すべてのグループおよびツールを水平に整列します。
- リスト
  すべてのグループおよびツールを垂直に整列します。
- アイコンのみ
  すべてのツールに対して，ツール名を表示せずアイコンだけの表示にします。
- 詳細
  すべてのツールに対して，詳細なフォーマットおよび記述を表示します。

グループおよびツールのレイアウトを設定するには，次の二つの方法があります。

方法 1

パレットのグループまたはツールを右クリックして，［レイアウト］から設定したい項目を選択します。

方法 2

1. **パレットのグループまたはツールを右クリックして，［設定］を選択します。**
   ［パレット設定］ダイアログが表示されます。
2. **［レイアウト］から設定したい項目を選択します。**

(2) アイコンのサイズを設定する

パレットのツールのアイコンは，サイズを大きくできます。

ツールのアイコンのサイズを大きくするには，次の二つの方法があります。

方法 1

パレットのグループまたはツールを右クリックして，［大きいアイコンを使用］を選択します。

方法 2

1. **パレットのグループまたはツールを右クリックして，［設定］を選択します。**
   ［パレット設定］ダイアログが表示されます。
2. **［リスト・レイアウト・オプション］の［大きいアイコンを使用］チェックボックスにチェックします。**

（3） フォントを設定する

パレットのグループおよびツールのフォントは変更できます。また，変更したフォントはデフォルトに戻すことができます。

フォントを設定する方法を，フォントを変更する場合とフォントをデフォルトに戻す場合とに分けて次に示します。

フォントを変更する場合

1. **パレットのグループまたはツールを右クリックして，［設定］を選択します。**
   ［パレット設定］ダイアログが表示されます。
2. **［フォント］の［変更］ボタンをクリックします。**

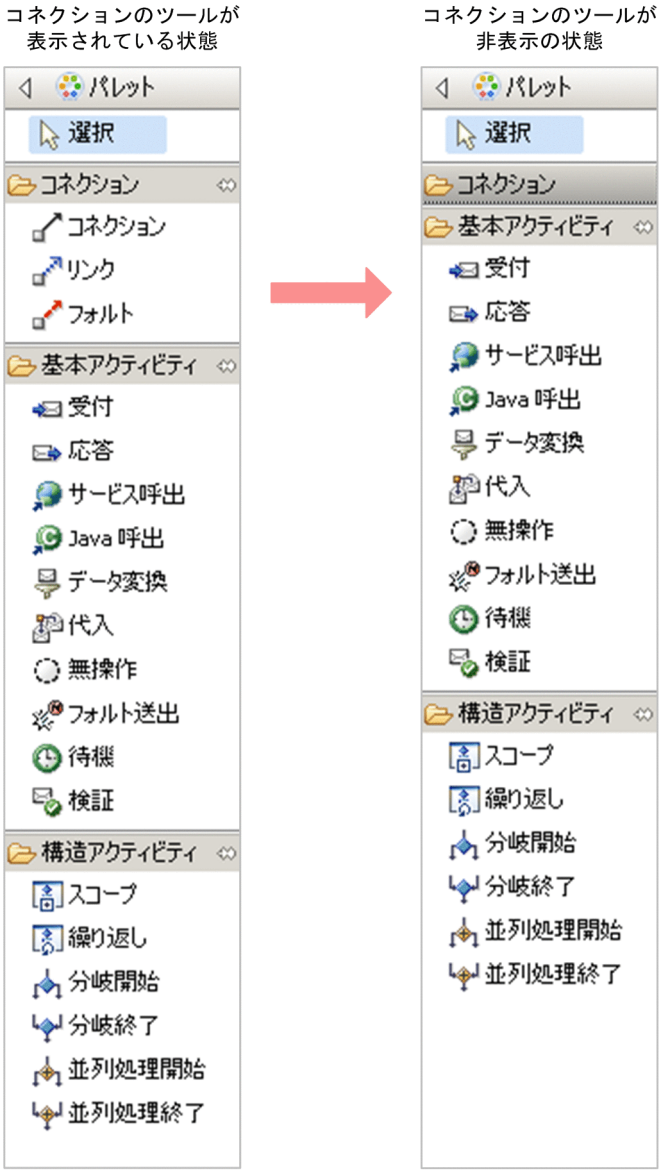
フォントをデフォルトに戻す場合

1. **パレットのグループまたはツールを右クリックして，［設定］を選択します。**
   ［パレット設定］ダイアログが表示されます。
2. **［フォント］の［デフォルトの復元］ボタンをクリックします。**

（4） ツールの一覧の表示または非表示を設定する

パレットに表示されているツールの一覧を非表示にすることができます。また，非表示にしたツールの一覧を表示させることができます。ツールの一覧の表示および非表示の例を次に示します。

図 1-130　ツールの一覧の表示および非表示



ツールの一覧を表示または非表示にするには，次の二つの方法があります。

方法 1

パレットのグループをクリックします。

方法 2

1. **パレットのグループを右クリックして，［設定］を選択します。**
［パレット設定］ダイアログが表示されます。

2. **［ドロワー・オプション］で次のラジオボタンを選択します。**

［別のドロワーを開いているときは常に閉じる］ラジオボタン

一つのグループのツール一覧だけを表示させたい場合に選択します。

［十分なスペースがないときは自動的に閉じる］ラジオボタン

複数のグループのツール一覧を表示しているためパレットに十分な表示スペースがない場合，自動的にツール一覧を閉じたいときに選択します。ただし，ピン留め※が設定されているグループは，パレットに十分な表示スペースがない場合でもツール一覧は閉じません。

［閉じない］ラジオボタン

グループや表示スペースの影響によって，ツール一覧が閉じないようにしたい場合に選択します。

注※

ピン留めを設定するには，次の二つの方法があります。

方法 1

パレットのグループの右側にある（ピン）をクリックします。

方法 2

パレットのグループを右クリックして，［ピン留め］を選択します。

1.10 データ変換定義画面の操作

データ変換定義画面での操作について説明します。

1.10.1 操作を元に戻す

データ変換定義画面で行った操作を元に戻します。操作は何回でも元に戻すことができます。また，保存したあとでも操作を元に戻すことができます。

操作を元に戻すには，次の二つの方法があります。

方法 1

データ変換定義画面上で右クリックして，［元に戻す］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー＋［Z］キーを押します。

1.10.2 操作をやり直す

データ変換定義画面で行った操作をやり直します。操作は何回でもやり直すことができます。また，保存したあとでも操作をやり直すことができます。

操作をやり直すには，次の二つの方法があります。

方法 1

データ変換定義画面上で右クリックして，［やり直し］を選択します。

方法 2

［Ctrl］キー＋［Y］キーを押します。

1.10.3 定義を保存する

データ変換定義を保存する方法を次に示します。

方法

Eclipse のメニューから，［保存］を選択します。

保存したデータ変換定義は再編集できます。再編集する場合は，アダプタ定義画面またはビジネスプロセス定義画面のデータ変換アクティビティから，データ変換定義画面を表示して再編集してください。

1.10.4 マッピング線の色を変更する

マッピング線の色を変更する方法を次に示します。

方法

1. Eclipse **のメニューから，［ウィンドウ］－［設定］を選択します。**
   ［設定］ダイアログが表示されます。
2. **ダイアログ左側から［**HCSC-Definer**］－［データ変換］を選択します。**
   データ変換定義画面の設定項目がダイアログ右側に表示されます。データ変換定義画面の設定項目については，「1.6.14　設定ダイアログ」を参照してください。
3. **マッピング線の色を設定します。**
   - 代入線の色を設定する場合
     ［代入］の右側にあるボタンをクリックすると，各 OS に対応した，色を選択するダイアログが表示されます。表示されたダイアログで，設定したい色を選択します。
   - くり返し対応線とくり返し連携線の色を設定する場合
     ［くり返し］の右側にあるボタンをクリックすると，各 OS に対応した，色を選択するダイアログが表示されます。表示されたダイアログで，設定したい色を選択します。
   - 条件線の色を設定する場合
     ［条件］の右側にあるボタンをクリックすると，各 OS に対応した，色を選択するダイアログが表示されます。表示されたダイアログで，設定したい色を選択します。
4. **［適用］ボタンをクリックします。**
5. **［**OK**］ボタンをクリックします。**

2 コマンド（開発環境）

この章では，Cosminexus サービスプラットフォームのシステム開発に利用するコマンドについて説明します。

コマンドの種類

コマンドの入力形式

コマンドの文法の記述形式

csamkxmls（DB **アダプタ用の** XML **フォーマット定義ファイルの生成**）

cscfdx2xsd（**バイナリフォーマット定義ファイルから** XML **フォーマット定義ファイルの生成**）

cscsoapmode（SOAP **モードの設定**）

コマンドの種類

Cosminexus サービスプラットフォームの開発環境で使用するコマンドの一覧を，次の表に示します。

表 2-1 Cosminexus サービスプラットフォームの開発環境で使用するコマンドの一覧

コマンド	説明
csamkxmls	DB アダプタのサービス部品を実行するための DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルを作成します。
cscfdx2xsd	バイナリフォーマット定義ファイルから XML フォーマット定義ファイルを生成します。
cscsoapmode	使用する SOAP モードを設定します。

コマンドの入力形式

コマンドの入力形式を次に示します。

コマンド名称 [オプション…]

各項目について説明します。なお，コマンドプロンプトを「$」，コマンド名称を「cmd」と表記します。

コマンド名称

実行するコマンドのファイル名を指定します。

空白を含むパスを指定してコマンドを実行する場合，パス全体を " " で囲む必要があります。

- 誤った指定例：$ C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin¥cmd
- 正しい指定例：$ "C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin¥cmd"

引数

引数には，オプションも含まれます。オプションの入力形式および指定規則を次に示します。

オプションの入力形式

オプションは，「-」（ハイフン）で始まる文字列です。オプションの入力形式には，オプション引数を指定しない形式と，1 個のオプション引数を指定する形式があります。

オプション引数を指定しない形式

$ cmd - **オプションフラグ**

1 個のオプション引数を指定する形式

$ cmd - **オプションフラグ < スペースまたはタブ > オプション引数**

（凡例）

- オプションフラグ
  1 文字の半角英数字です。大文字と小文字が区別されます。
- オプション引数
  オプションフラグに対する引数です。

オプションの指定規則

- オプションフラグは，一つの「-」（ハイフン）にまとめて指定できません。
  誤った指定例：`$ cmd -abc`
  正しい指定例：`$ cmd -a -b -c`
- オプション引数を必要とするオプションフラグのオプション引数は，省略できません。
- オプションフラグとオプション引数の間には，スペースまたはタブが必要です。

誤った指定例：`$ cmd -afile`
正しい指定例：`$ cmd -a file`

- 同じオプションフラグは，複数指定できません。
  誤った指定例：`$ cmd -a 1 -a 2`
- オプション引数に空白を含む場合，オプション引数全体を "" で囲む必要があります。
  誤った指定例：`$ cmd -a file 1`
  正しい指定例：`$ cmd -a "file 1"`

コマンドの文法の記述形式

コマンドの文法について次の形式で説明します。

形式
　コマンドの入力形式を示します。

機能
　コマンドの機能について説明します。

引数
　コマンドの引数およびオプションについて説明します。

使用例
　コマンドの使用例について説明します。

戻り値
　コマンドの戻り値について説明します。

注意事項
　コマンドを実行する上での全体的な注意事項について説明します。

csamkxmls（DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルの生成）

形式

```
csamkxmls -o <SQLオペレーション定義ファイルの名称>
          -x <DBアダプタ用のXMLフォーマット定義ファイルの名称>
         [-f]
```

機能

DB アダプタのサービス部品を実行するための DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルを作成します。

引数

-o <SQL オペレーション定義ファイルの名称 >　～ ((1 － 200 バイト))

SQL 実行形式を記載している SQL オペレーション定義ファイルの名称を指定します。SQL オペレーション定義ファイルの名称は，形式が「csa_sql_< 任意の名称 >.xml」のファイルを絶対パスで指定します。

-x <DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルの名称 >　～ ((1 － 200 バイト))

作成する DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルの名称を指定します。DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルの名称は，拡張子が「.xsd」のファイルを絶対パスで指定します。なお，XML フォーマット定義ファイルの名称は，200 バイト※以内で指定してください。

注※

XML フォーマット定義ファイルの絶対パスを UTF-8 で変換したときのバイト数です。

-f

作成する DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルと同じ名称の XML フォーマット定義ファイルがすでにある場合，上書きをします。作成する DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルと同じ名称の XML フォーマット定義ファイルがすでにある場合に，このオプションを指定していないと，エラーになります。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	異常終了しました。

cscfdx2xsd（バイナリフォーマット定義ファイルから XML フォーマット定義ファイルの生成）

形式

```
cscfdx2xsd <fdxファイルパス> [<xsdファイルパス>]
```

機能

バイナリフォーマット定義ファイルから XML フォーマット定義ファイルを生成します。

このコマンドは，次の場所に格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ >¥CSCTE¥bin

コマンドを実行する場合は，この場所まで移動するかパスを指定してください。

引数

<fdx ファイルパス >

入力するバイナリフォーマット定義ファイルのパスを指定します。

指定できるファイルは一つだけです。ワイルドカードの指定によって複数ファイルが選択された場合はエラーになります。

<xsd ファイルパス >

出力する XML フォーマット定義ファイルのパスを指定します。

この指定を省略した場合，<fdx ファイルパス > に指定したパスの拡張子を「.xsd」に変更したファイルパスが仮定されます。

使用例

(1) バイナリフォーマット定義ファイル「CSVFormat.fdx」から XML フォーマット定義ファイル「CSVFormat.xsd」を生成する場合

```
C:¥> cscfdx2xsd CSVFormat.fdx
KECT91001-I The XML schema file was created successfully. (file
= CSVFormat.xsd)
C:¥>
```

(2) バイナリフォーマット定義ファイル「BinFormat.fdx」から XML フォーマット定義ファイル「XMLFormat.xsd」を生成して，既存の XML フォーマット定義ファイル「XMLFormat.xsd」に上書きをする場合

```
C:¥> cscfdx2xsd BinFormat.fdx XMLFormat.xsd
```

```
KECT91002-Q The specified XML schema file already exists. Do you
want to overwrite it? [Y/N]:y
KECT91001-I The XML schema file was created successfully. (file
= XMLFormat.xsd)
C:¥>
```

戻り値

このコマンドには戻り値はありません。メッセージが標準出力に出力されます。

注意事項

次の場合はエラーになります。

- バイナリフォーマット定義ファイルの検証が完了していない場合
- バイナリフォーマット定義ファイルの拡張子が「.fdx」以外の場合
- 指定したバイナリフォーマット定義ファイルが存在しない場合
- バイナリフォーマット定義ファイルとして読み込むことができない場合
- バイナリフォーマット定義ファイルの指定，またはXMLフォーマット定義ファイルの指定で，ワイルドカードを使用した場合
- 変換処理中に何らかのエラーが発生した場合

cscsoapmode（SOAP モードの設定）

形式

```
cscsoapmode {only | both | -h}
```

機能

使用する SOAP モードを設定します。

このコマンドは，次の場所に格納されています。

<Cosminexus インストールディレクトリ >¥CSCTE¥bin

コマンドを実行する場合は，この場所まで移動するかパスを指定してください。

引数

only

SOAP1.1 モードを利用する場合に指定します。

both

SOAP1.1/1.2 併用モードを使用する場合に指定します。

-h

コマンドの使用方法と，現在の SOAP モードを表示します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	異常終了しました。

注意事項

- このコマンドは，管理者権限のあるユーザで実行してください。
- このコマンドは HCSCTE プロジェクトを作成する前に実行する必要があります。すでに HCSCTE プロジェクトを作成している場合の設定手順については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「3.1.5　SOAP モードを変更する」を参照してください。
- コマンドを実行し，SOAP モードの設定を反映させるには，Eclipse の再起動が必要になります。

3 画面（運用環境）

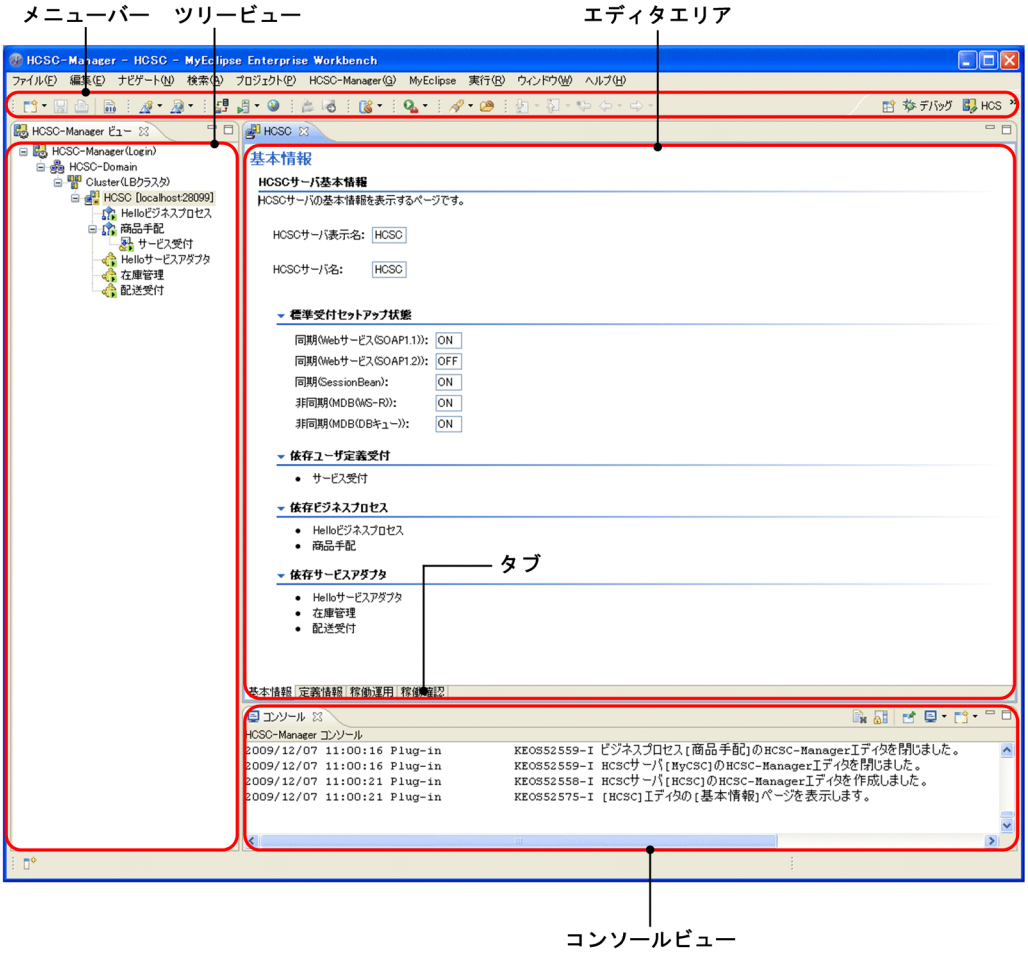
この章では，Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境で使用する画面について説明します。

3.1 画面構成（運用環境）
3.2 基本情報ページ
3.3 定義情報ページ
3.4 稼働運用ページ
3.5 稼働確認ページ
3.6 履歴管理ページ

3.1　画面構成（運用環境）

運用環境での画面構成について説明します。

図 3-1　運用環境での画面構成



メニューバー

Eclipse のメニューバーです。運用環境の固有メニューは［HCSC-Manager］です。

ツリービュー

HCSC-Manager が管理しているシステム構成，および管理対象（アダプタやビジネスプロセス）の状態がアイコンで表示されます。管理対象を示すアイコンに，その状態を表すアイコンを組み合わせて表示します。ツリービューで表示されるアイコンを次の表に示します。

表 3-1　ツリービューで表示されるアイコン

分類	アイコン / 状態	説明
アイコン		HCSC-Manager を示します。
		HCSC-Domain を示します。
		ロードバランスクラスタまたは HA クラスタを示します。
		HCSC サーバを示します。
		ビジネスプロセスを示します。
		サービスアダプタまたは DB アダプタを示します。
		ユーザ定義受付を示します。
状態		次のどちらかを示します。 • HCSC サーバの起動状態 • サービスアダプタまたは DB アダプタの開始状態
		停止状態を示します。
		閉塞状態を示します。
		配備前状態を示します。
		取得失敗を示します。

ツリービューで管理対象を選択して右クリックすると，コンテキストメニューが表示され，管理対象に対する操作ができるようになります。

エディタエリア

ツリービューに表示される管理対象の情報を表示したり，操作したりするためのエディタです。エディタの種類を次に示します。

表 3-2　エディタの種類

エディタ名	ページ名	機能
HCSC サーバエディタ	基本情報ページ	HCSC サーバの基本情報を表示します。
	定義情報ページ	HCSC サーバの定義情報を表示します。
	稼働運用ページ	HCSC サーバの稼働運用操作を実行します。
	稼働確認ページ	HCSC サーバのリソースの稼働情報を確認します。
ビジネスプロセスエディタ	基本情報ページ	ビジネスプロセスの基本情報を表示します。
	稼働運用ページ	ビジネスプロセスの稼働運用操作を実行します。
	履歴管理ページ	プロセスインスタンスの実行履歴を管理します。

エディタ名	ページ名	機能
サービスアダプタエディタ	基本情報ページ	サービスアダプタの基本情報を表示します。
	稼働運用ページ	サービスアダプタの稼働運用を実行します。
ユーザ定義受付エディタ	基本情報ページ	ユーザ定義受付の基本情報を表示します。
	定義情報ページ	ユーザ定義受付の定義情報を表示します。
	稼働運用ページ	ユーザ定義受付の稼働運用操作を実行します。

タブ

エディタごとに，表 3-2 に示すページに切り替わります。

コンソールビュー

ログを出力する領域です。

コンソールビューには，次の形式で出力されます。

yyyy/mm/dd △ hh:mm:ss △アプリケーション名△メッセージ ID △メッセージ本文

アプリケーション名には，次のように表示されます。

- 画面操作のログの場合：「Plug-in」
- Cosminexus Manager からのログの場合：セットアップ時に指定した Cosminexus Manager 名

出力されるメッセージが 64KB を超える場合は，古いメッセージから 4KB ほど行単位で削除されます。

ショートカット

ツリービューやダイアログなどで，［Alt］キーを押したまま「(G)」などのアンダーバー付きの文字と同じキーを押すと，管理対象を選択できます。

3.2　基本情報ページ

基本情報ページには，HCSC-Manager が管理している対象の現在の基本情報が表示されます。これらの情報は，設定内容を確認するために利用できます。

各管理対象の基本情報ページは，ツリービューから管理対象を選択し，エディタエリアで［基本情報］タブを選択すると表示されます。

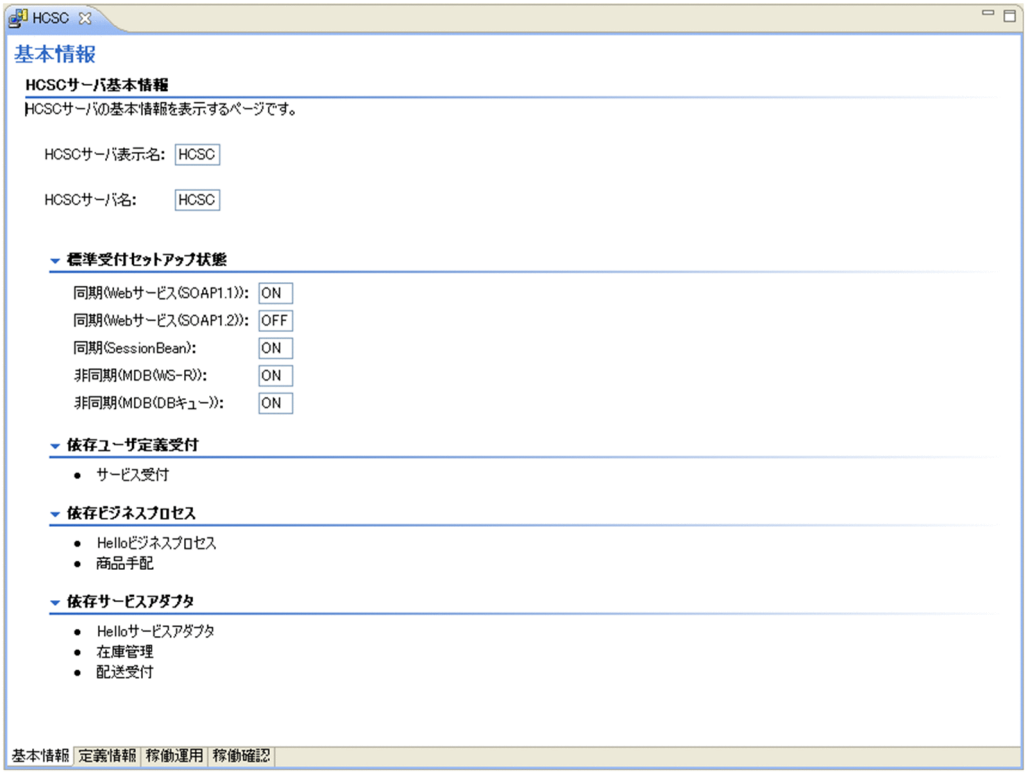
基本情報ページについて，管理対象ごとに説明します。

（1）HCSC サーバ基本情報

HCSC サーバの基本情報ページには，HCSC サーバの構築時の情報が表示されます。この情報で，HCSC サーバをセットアップしたあとの設定内容を確認できます。

HCSC サーバの基本情報ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-2　HCSC サーバの基本情報ページ



HCSC サーバ表示名

HCSC サーバの表示名が表示されます。HCSC サーバの表示名が指定されていない場合は，HCSC サーバの名称が表示されます。

HCSC サーバ名

HCSC サーバの名称が表示されます。

標準受付セットアップ状態

次の項目について，セットアップしているかどうかが表示されます。セットアップしている場合は「ON」，セットアップしていない場合は「OFF」，基本情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

- 同期（Web サービス（SOAP1.1））
- 同期（Web サービス（SOAP1.2））
- 同期（SessionBean）
- 非同期（MDB（WS-R））
- 非同期（MDB（DB キュー））

依存ユーザ定義受付

HCSC サーバに依存しているユーザ定義受付の名称が表示されます。

依存ビジネスプロセス

HCSC サーバに依存しているビジネスプロセスのサービス名が表示されます。

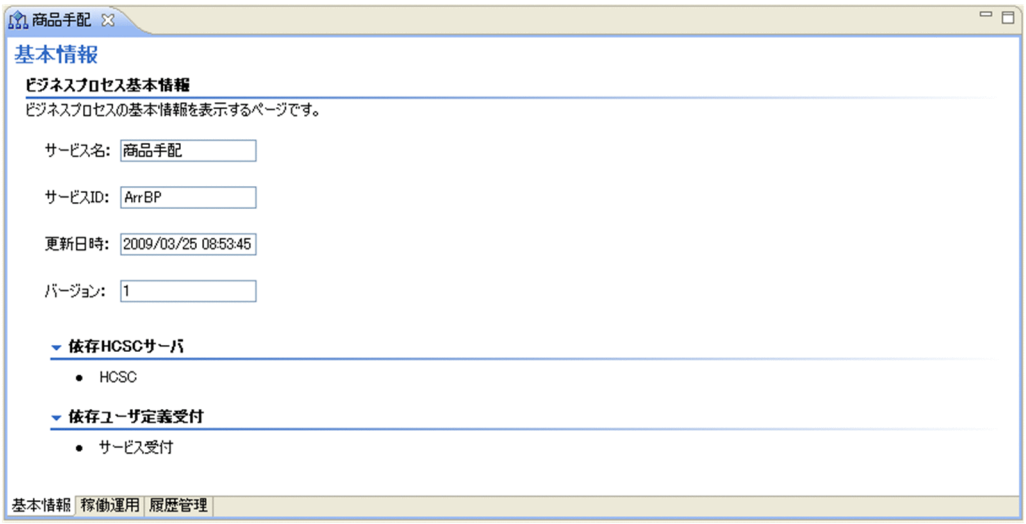
依存サービスアダプタ

HCSC サーバに依存しているサービスアダプタのサービス名が表示されます。

(2) ビジネスプロセス基本情報

ビジネスプロセス基本情報ページには，ビジネスプロセスの基本情報が表示され，ビジネスプロセスの設定内容を確認できます。ビジネスプロセスの基本情報ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-3 ビジネスプロセスの基本情報ページ



サービス名
ビジネスプロセス定義名またはサービス名が表示されます。

サービス ID
ビジネスプロセスのサービス ID が表示されます。

更新日時
配備済みビジネスプロセスが更新された日時が表示されます。基本情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」，ビジネスプロセスの配備前は「-」が表示されます。

バージョン
ビジネスプロセスのバージョンが表示されます。

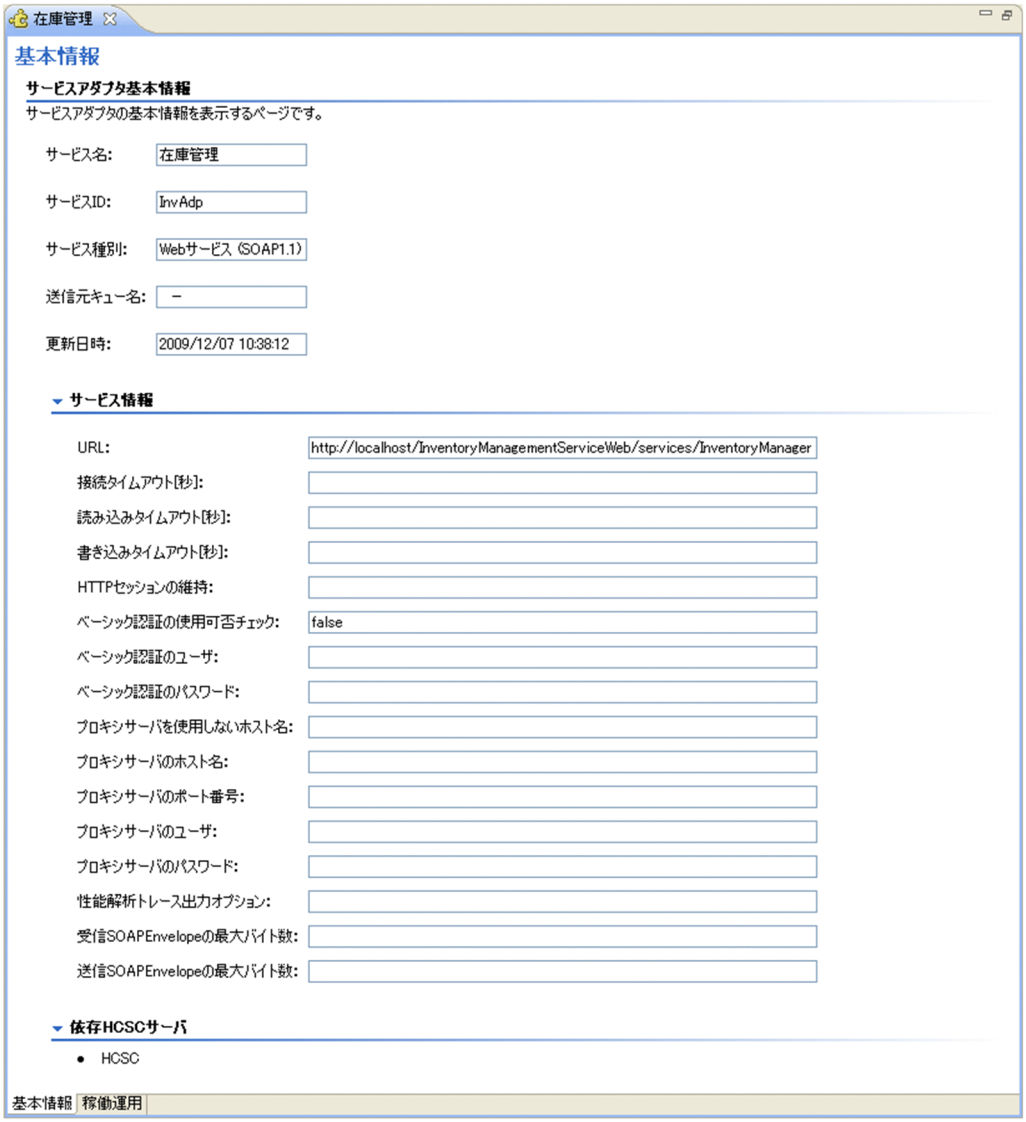
依存 HCSC サーバ
依存している HCSC サーバの表示名が表示されます。

依存ユーザ定義受付
依存しているユーザ定義受付の名称が表示されます。

(3) サービスアダプタ基本情報

サービスアダプタ基本情報ページには，サービスアダプタの基本情報が表示され，サービスアダプタの設定内容を確認できます。サービスアダプタの基本情報ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-4 サービスアダプタの基本情報ページ（サービス種別が Web サービスの場合）



サービス名

サービスアダプタのサービス名が表示されます。

サービス ID

サービスアダプタのサービス ID が表示されます。

サービス種別

サービスアダプタのサービス種別が表示されます。次の種別のうち，どれかが表示されます。

- Web サービス（SOAP1.1）

- Web サービス（SOAP1.2）
- SessionBean
- MDB（WS-R）
- MDB（DB キュー）
- カスタム

送信元キュー名

非同期のアダプタの場合に，サービスアダプタが利用するキュー名が表示されます。サービスアダプタの配備前は「-」が表示されます。

更新日時

配備済みサービスアダプタが更新された日時が表示されます。基本情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」，サービスアダプタの配備前は「-」が表示されます。

サービス情報

サービス種別に応じた情報が表示されます。

サービス種別と対応するサービス情報を次の表に示します。

表 3-3　サービス種別に対応するサービス情報の表示項目

サービス種別	サービス情報	
	項目	意味
Web サービス（SOAP1.1）	URL	Web サービスの URL が表示されます。
	接続タイムアウト［秒］	サービス部品呼び出し時のソケットの接続タイムアウト値が表示されます。
	読み込みタイムアウト［秒］	サービス部品呼び出し時のソケットの読み込みタイムアウト値が表示されます。
	書き込みタイムアウト［秒］	サービス部品呼び出し時のソケットの書き込みタイムアウト値が表示されます。
	HTTP セッションの維持	HTTP セッションを維持するかどうかを指定します。 • true セッションを維持します。 • false セッションを維持しません。
	ベーシック認証の使用可否チェック	サービスアダプタがベーシック認証を使用するかどうかが表示されます。次のどちらかが表示されます。 • true 使用します。 • false 使用しません。
	ベーシック認証のユーザ	ベーシック認証のユーザ ID が設定されていた場合，「The value has already been set.」が表示されます。

サービス種別	サービス情報	
	項目	意味
	ベーシック認証のパスワード	ベーシック認証のパスワードが設定されていた場合，「The value has already been set.」が表示されます。
	プロキシサーバを使用しないホスト名	プロキシサーバを使用しない場合のホスト名または IP アドレス群が表示されます。
	プロキシサーバのホスト名	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスが表示されます。
	プロキシサーバのポート番号	プロキシサーバのポート番号が表示されます。
	プロキシサーバのユーザ	プロキシサーバの認証ユーザ ID が設定されていた場合，「The value has already been set.」が表示されます。
	プロキシサーバのパスワード	プロキシサーバの認証ユーザ ID に対応するパスワードが設定されていた場合，「The value has already been set.」が表示されます。
	性能解析トレース出力オプション	性能解析トレースを出力するかどうかが表示されます。次のどちらかが表示されます。 • ALL トレース取得ポイントで性能解析トレースを出力します。 • NONHANDLER トレース取得ポイントで性能解析トレースを出力しません。 トレース取得ポイントの詳細については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3 クライアント定義ファイルの設定」を参照してください。
	受信 SOAPEnvelope の最大バイト数	受信できる SOAP エンベロープの最大バイト数が表示されます。
	送信 SOAPEnvelope の最大バイト数	送信できる SOAP エンベロープの最大バイト数が表示されます。
Web サービス（SOAP1.2）	URL	Web サービスの URL が表示されます。
	接続タイムアウト［秒］	サービス部品呼び出し時のソケットの接続タイムアウト値が表示されます。
	読み込みタイムアウト［秒］	サービス部品呼び出し時のソケットの読み込みタイムアウト値が表示されます。
	HTTP セッションの維持	HTTP セッションを維持するかどうかを指定します。 • true セッションを維持します。 • false セッションを維持しません。

サービス種別	サービス情報	
	項目	意味
	ベーシック認証の使用可否チェック	サービスアダプタがベーシック認証を使用するかどうかが表示されます。次のどちらかが表示されます。 • true 使用します。 • false 使用しません。
	ベーシック認証のユーザ	ベーシック認証のユーザ ID が設定されていた場合，「The value has already been set.」が表示されます。
	ベーシック認証のパスワード	ベーシック認証のパスワードが設定されていた場合，「The value has already been set.」が表示されます。
SessionBean	URL	ネーミングサービスの URL が表示されます。
	ルックアップ名	JNDI 名前空間に登録されている，呼び出すサービス部品の名称が表示されます。
	EJB 呼出しタイムアウト	サービス部品呼び出し時のビジネスメソッド呼び出しのタイムアウト値が表示されます。
	性能解析トレース出力オプション	性能解析トレースを出力するかどうかが表示されます。次のどちらかが表示されます。 • ALL トレース取得ポイントで性能解析トレースを出力します。 • NONHANDLER トレース取得ポイントで性能解析トレースを出力しません。 トレース取得ポイントの詳細については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3 クライアント定義ファイルの設定」を参照してください。
MDB（WS-R）	送信先キュー名	サービスアダプタがメッセージを送信するキュー名が表示されます。
	呼出し設定	リモートホストのサービス部品に接続するか，ローカルホストのサービス部品に接続するかが表示されます。リモートホストのサービス部品に接続する場合は，「リモート呼出し」が表示されます。ローカルホストのサービス部品に接続する場合は，「ローカル呼出し」が表示されます。
	URL	サービスアダプタが使用する転送キューのメッセージ転送先の URL が表示されます。［呼出し設定］が「ローカル呼出し」の場合は，何も表示されません。

サービス種別	サービス情報	
	項目	意味
	最大メッセージ数	サービスアダプタが使用する転送キューが保持できるメッセージの最大数が表示されます。［呼出し設定］が「ローカル呼出し」の場合は，何も表示されません。
	順序保証	サービスアダプタが使用する転送キューがメッセージを正しい順序で転送することを保証するかどうかが表示されます。次のどちらかが表示されます。 • ON 保証します。 • OFF 保証しません。 ［呼出し設定］が「ローカル呼出し」の場合は，何も表示されません。
	転送キュー作成先 RD エリア	サービスアダプタが使用する転送キューの作成先の RD エリア名が表示されます。［呼出し設定］が「ローカル呼出し」の場合は，何も表示されません。
MDB（DB キュー）	送信先キュー名	サービス部品に関連づけられるキュー名が表示されます。

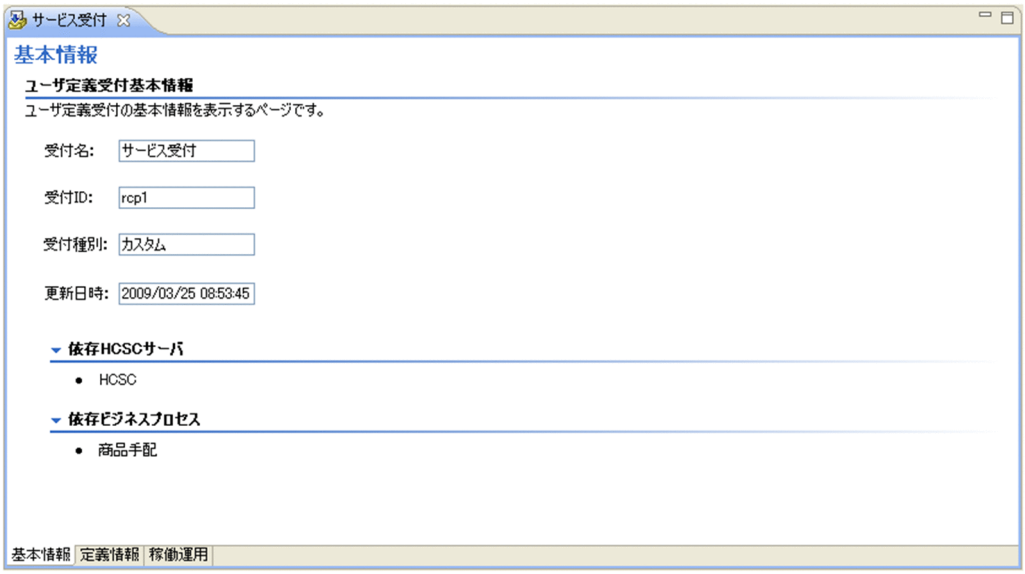
依存 HCSC サーバ

依存している HCSC サーバの表示名が表示されます。

（4） ユーザ定義受付基本情報

ユーザ定義受付基本情報ページには，ユーザ定義受付の基本情報が表示され，ユーザ定義受付の設定内容を確認できます。ユーザ定義受付の基本情報ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-5　ユーザ定義受付の基本情報ページ



受付名

ユーザ定義受付の受付名が表示されます。

受付 ID

ユーザ定義受付の受付 ID が表示されます。

受付種別

ユーザ定義受付の受付種別として，次のどちらかが表示されます。

- Web サービス
- カスタム

更新日時

ユーザ定義受付が更新された日時が表示されます。基本情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」，ユーザ定義受付の配備前は「-」が表示されます。

依存 HCSC サーバ

依存している HCSC サーバの表示名が表示されます。

依存ビジネスプロセス

依存しているビジネスプロセスのサービス名が表示されます。

3.3　定義情報ページ

定義情報ページには，管理対象に設定され，実行環境で反映済みの定義情報が表示されます。これらの情報は，HCSC サーバの構築後も変更できます。

各管理対象の定義情報ページは，ツリービューから管理対象を選択し，エディタエリアで［定義情報］タブを選択すると表示されます。また，変更後の定義情報を画面に表示させるには，ほかのページに切り替えてから再度，定義情報ページを開いてください。

定義情報ページについて，管理対象ごとに説明します。

（1）HCSC サーバ定義情報

HCSC サーバの定義情報ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-6　HCSC サーバの定義情報ページ

HCSC サーバ表示名

HCSC サーバの表示名が表示されます。

同期受付（Web サービス（SOAP1.1））

次の情報が表示されます。定義情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。この受付がセットアップされていない場合は「-」が表示されます。

最大同時実行数

同期受付（Web サービス（SOAP1.1））の最大同時実行数が表示されます。

占有スレッド数

同期受付（Web サービス（SOAP1.1））の占有スレッド数が表示されます。

実行待ちキューサイズ

同期受付（Web サービス（SOAP1.1））の実行待ちキューサイズが表示されます。

同期受付（Web サービス（SOAP1.2））

次の情報が表示されます。定義情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。この受付がセットアップされていない場合は「-」が表示されます。

最大同時実行数

同期受付（Web サービス（SOAP1.2））の最大同時実行数が表示されます。

占有スレッド数

同期受付（Web サービス（SOAP1.2））の占有スレッド数が表示されます。

実行待ちキューサイズ

同期受付（Web サービス（SOAP1.2））の実行待ちキューサイズが表示されます。

同期受付（SessionBean）

次の情報が表示されます。定義情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。この受付がセットアップされていない場合は「-」が表示されます。

最小インスタンス数

同期受付（SessionBean）の最小インスタンス数が表示されます。

最大インスタンス数

同期受付（SessionBean）の最大インスタンス数が表示されます。

CTM 連携

CTM 連携をしているかどうかが表示されます。

CTM 用スレッド数

CTM がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数が表示されます。

非同期受付（MDB（WS-R））

次の情報が表示されます。定義情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示さ

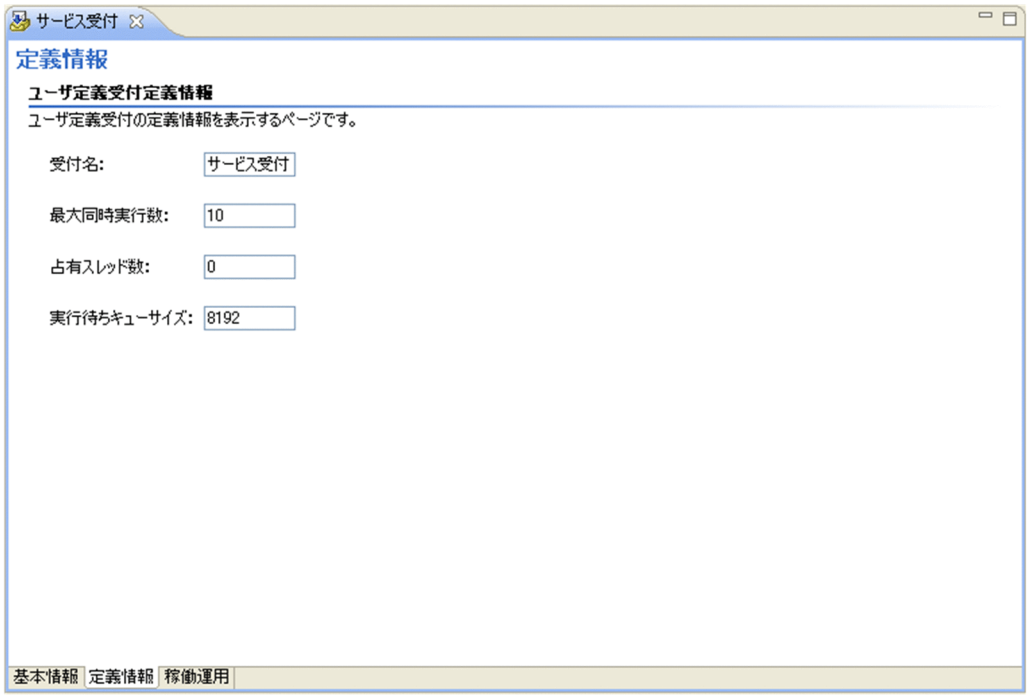
れます。この受付がセットアップされていない場合は「-」が表示されます。

最大インスタンス数
非同期受付（MDB（WS-R））の最大インスタンス数が表示されます。

(2) ユーザ定義受付定義情報

ユーザ定義受付の定義情報ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-7 ユーザ定義受付の定義情報ページ



情報の取得に失敗した場合は，［受付名］以外の各項目に「取得失敗」が表示されます。
ユーザ定義受付の配備前は，［受付名］以外の各項目に「-」が表示されます。

受付名
ユーザ定義受付の名称が表示されます。

最大同時実行数
ユーザ定義受付に定義されている最大同時実行数が表示されます。

占有スレッド数
ユーザ定義受付に定義されている占有スレッド数が表示されます。

実行待ちキューサイズ
ユーザ定義受付に定義されている実行待ちキューサイズが表示されます。

3.4　稼働運用ページ

稼働運用ページは，ツリービューから管理対象を選択し，エディタエリアで［稼働運用］タブを選択すると表示されます。稼働運用ページでは，HCSC サーバおよび標準受付の運用操作を実行します。HCSC サーバ，サービスアダプタ，ビジネスプロセスまたはユーザ定義受付で表示される内容が異なります。

稼働運用ページについて，管理対象ごとに説明します。

（1）HCSC サーバ稼働運用

HCSC サーバ稼働運用ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-8　HCSC サーバの稼働運用ページ

HCSC サーバ表示名

この画面で操作する HCSC サーバの表示名が表示されます。

稼働状態

HCSC サーバの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 起動状態
- 停止中
- 起動中

- 取得失敗

HCSC サーバを起動または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

標準受付稼働状態

標準受付の稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗

標準受付を開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

依存ユーザ定義受付

HCSC サーバに依存しているユーザ定義受付の稼働状態が一覧に表示されます。

受付名

依存しているユーザ定義受付の名称が表示されます。

依存サービス名

ユーザ定義受付が依存しているサービス名が表示されます。

稼働状態

依存しているユーザ定義受付の稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗

HCSC **サーバ**

［起動］ボタン

HCSC サーバを起動します。

［停止］ボタン

HCSC サーバを停止します。

標準受付

［開始］ボタン

標準受付を開始します。

[通常停止] ボタン

標準受付を停止します。通常の運用で標準受付を停止する場合に利用します。

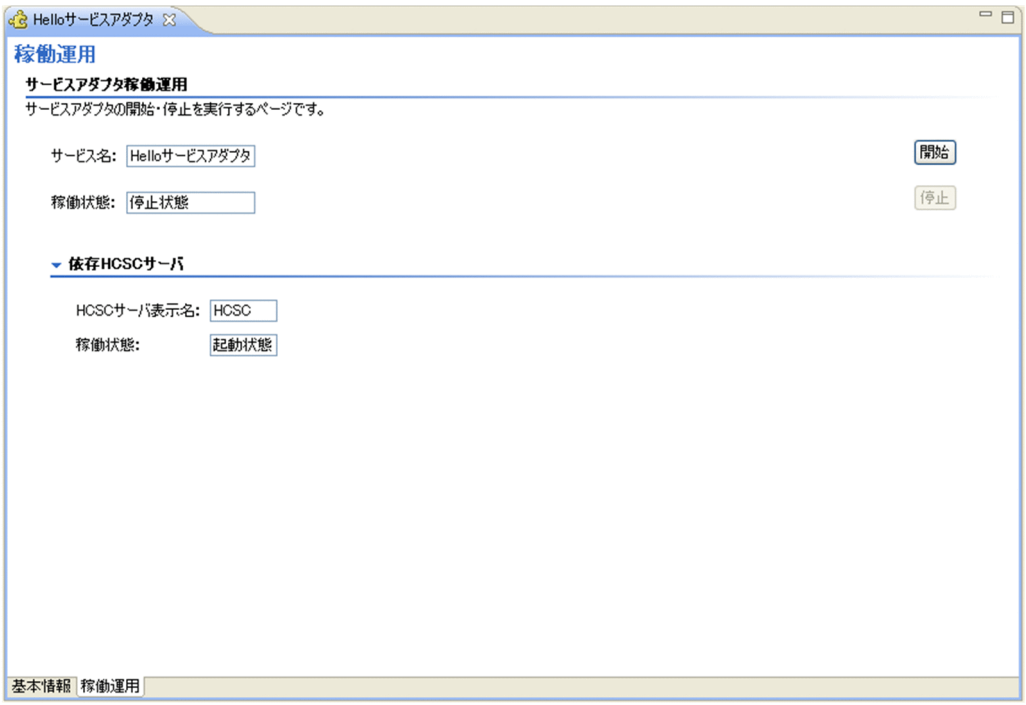
[計画停止] ボタン

標準受付を停止します。HCSC サーバをアンセットアップする場合に利用します。

(2) サービスアダプタ稼働運用

サービスアダプタ稼働運用ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-9　サービスアダプタの稼働運用ページ



サービス名

この画面で操作するサービスアダプタのサービス名が表示されます。

稼働状態

サービスアダプタの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗

- 配備前状態

サービスアダプタを開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

依存 HCSC サーバ

依存している HCSC サーバの情報が表示されます。

HCSC サーバ表示名

依存している HCSC サーバの表示名が表示されます。

稼働状態

サービスアダプタが配備されている HCSC サーバの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 起動状態
- 停止中
- 起動中
- 取得失敗

サービスアダプタを開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

［開始］ボタン

サービスアダプタを開始します。

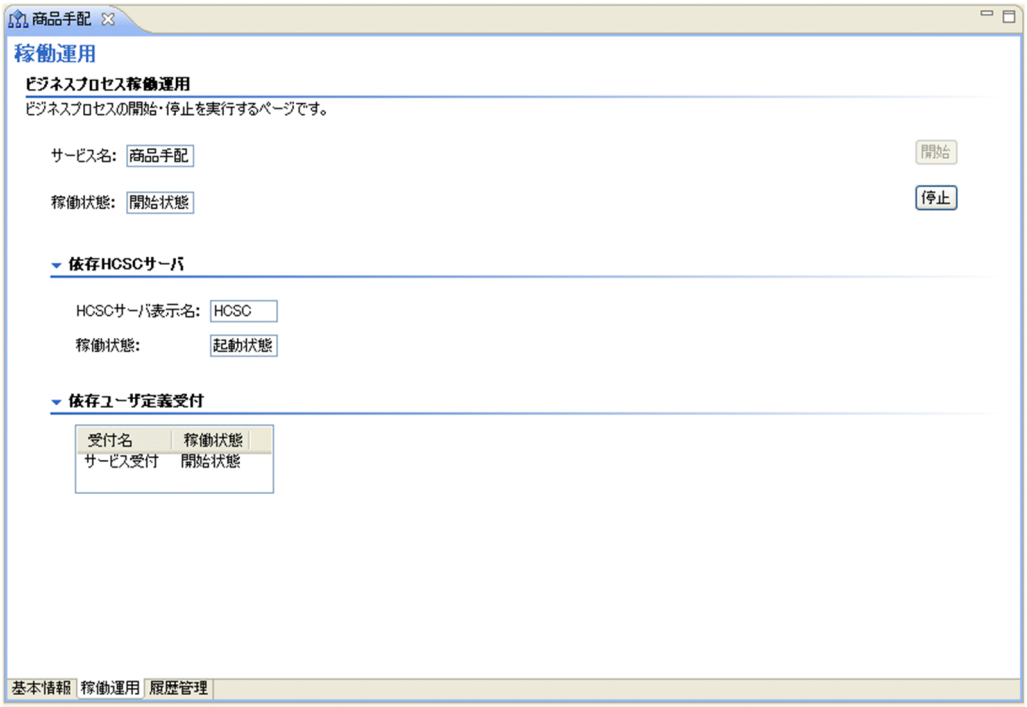
［停止］ボタン

サービスアダプタを停止します。

（3）ビジネスプロセス稼働運用

ビジネスプロセス稼働運用ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-10　ビジネスプロセスの稼働運用ページ



サービス名

この画面で操作するビジネスプロセスのサービス名が表示されます。

稼働状態

ビジネスプロセスの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗
- 配備前状態

ビジネスプロセスを開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

依存 HCSC サーバ

依存している HCSC サーバの情報が表示されます。

HCSC サーバ表示名

依存している HCSC サーバの表示名が表示されます。

稼働状態

ビジネスプロセスが配備されている HCSC サーバの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 起動状態
- 停止中
- 起動中
- 取得失敗

ビジネスプロセスを開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

依存ユーザ定義受付

依存しているユーザ定義受付の情報が表示されます。

受付名

ユーザ定義受付の受付名が表示されます。定義されているユーザ定義受付の分だけ表示されます。

稼働状態

ユーザ定義受付の稼働状態が表示されます。定義されているユーザ定義受付の分だけ表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 取得失敗
- 配備前状態

ビジネスプロセスを開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

［開始］ボタン

ビジネスプロセスを開始します。

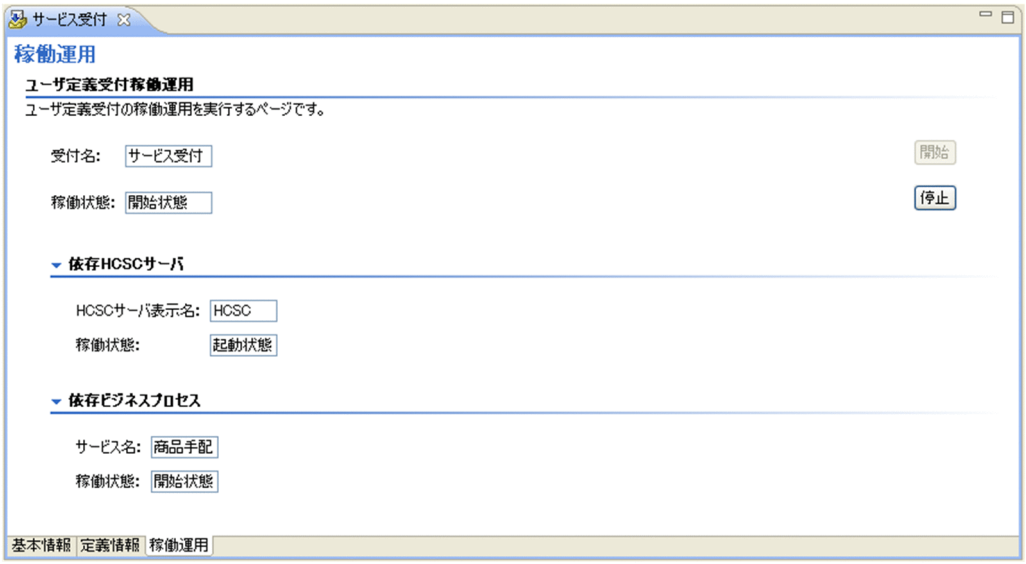
［停止］ボタン

ビジネスプロセスを停止します。

（4） ユーザ定義受付稼働運用

ユーザ定義受付稼働運用ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-11　ユーザ定義受付の稼働運用ページ



受付名

この画面で操作するユーザ定義受付の受付名が表示されます。

稼働状態

ユーザ定義受付の稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗
- 配備前状態

ユーザ定義受付を開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

依存 HCSC サーバ

依存している HCSC サーバの情報が表示されます。

HCSC サーバ表示名

依存している HCSC サーバの表示名が表示されます。

稼働状態

ユーザ定義受付が配備されている HCSC サーバの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 起動状態

- 停止中
- 起動中
- 取得失敗

ユーザ定義受付を開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

依存ビジネスプロセス

依存しているビジネスプロセスの情報が表示されます。

サービス名

依存するビジネスプロセスのサービス名が表示されます。

稼働状態

ビジネスプロセスの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗
- 配備前状態

ユーザ定義受付を開始または停止した場合以外でも，実行環境からの通知で状態が変更される場合があります。

［開始］ボタン

ユーザ定義受付を開始します。

［停止］ボタン

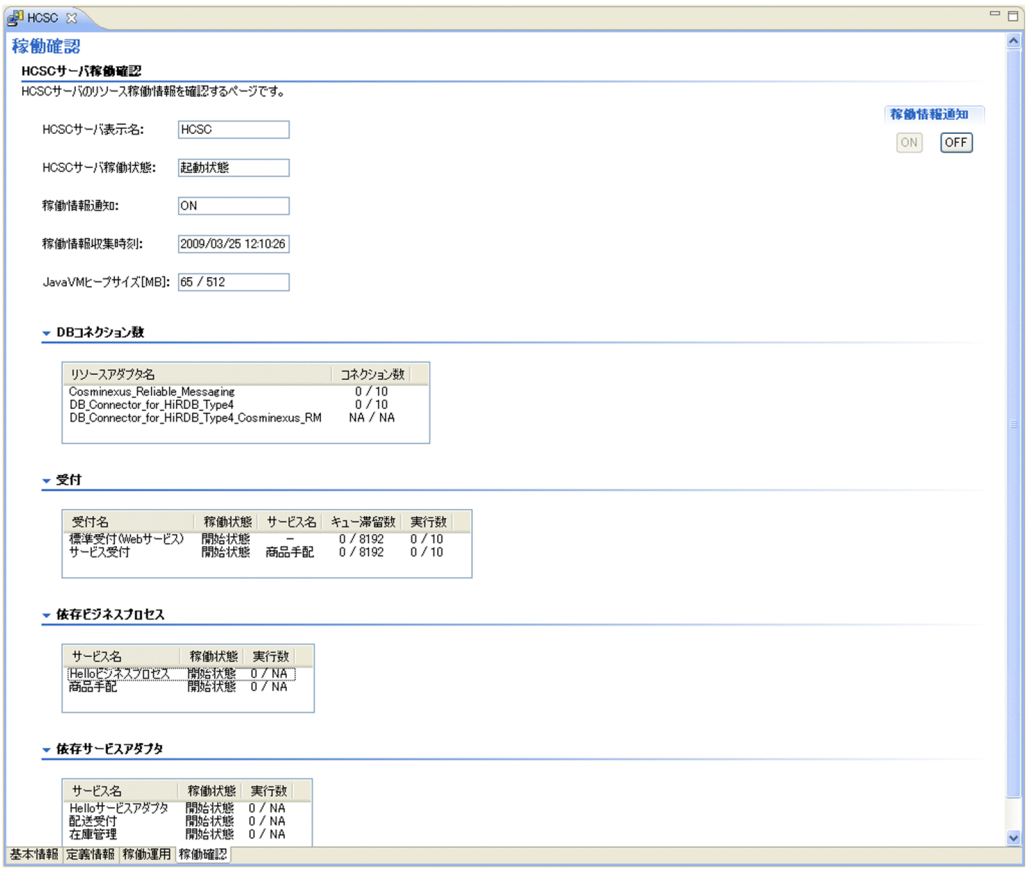
ユーザ定義受付を停止します。

3.5　稼働確認ページ

稼働確認ページには，HCSC サーバのリソースの稼働情報が表示されます。稼働確認ページは，エディタエリアで［稼働確認］タブを選択すると表示されます。

稼働確認ページの画面および表示される項目を次に示します。

図 3-12　稼働確認ページ



HCSC サーバ表示名

HCSC サーバの表示名が表示されます。

HCSC サーバ稼働状態

HCSC サーバの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 起動状態
- 停止中
- 起動中
- 取得失敗

稼働情報通知

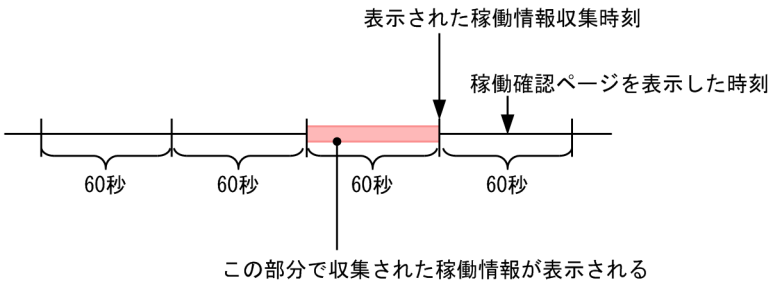
実行環境から HCSC サーバに稼働情報を通知するかどうかが表示されます。稼働情報を通知する場合は「ON」が，稼働情報を通知しない場合は「OFF」が表示されます。

稼働情報収集時刻

稼働情報が収集された時刻が表示されます。HCSC サーバが起動状態以外の場合は「-」が表示されます。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

稼働情報は次の図に示すように，表示された稼働情報収集時刻の直前の 60 秒間（デフォルト）に収集された情報になります。

図 3-13　稼働情報収集時刻と収集された稼働情報の関係



Java VM **ヒープサイズ**［MB］

HCSC サーバの Java VM ヒープサイズが表示されます。「収集した Java VM ヒープサイズの最大値 / Java VM ヒープサイズの上限値」の形式で表示されます。

小数点以下は切り捨てられ，整数で表示されます。HCSC サーバが起動状態以外の場合は「-」が表示されます。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

なお，Java VM の -Xmx オプションで指定した値から Survivor 領域の一つ分のサイズを除いた値が表示されます。

DB **コネクション数**

J2EE サーバ上で稼働しているすべてのリソースアダプタの情報が表示されます。

HCSC サーバが起動状態以外の場合は，情報が表示されません。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

リソースアダプタ名

リソースアダプタの表示名が表示されます。

コネクション数

HCSC サーバの DB コネクション数が表示されます。「収集した DB コネクション数の最大値 / DB コネクション数の上限値」の形式で表示されます。DB コネクション数の上限値には，1 ～ 2,147,483,647 の範囲で指定した値が表示されます。DB コネクション数の上限値に「-1」（無制限）を指定した場合は，「収集し

た DB コネクション数の最大値 / NA」の形式で表示されます。「NA」は無制限であることを示します。また，次の場合は，「NA / NA」（無効値）が表示されます。

- DB コネクション数の上限値に「0」を指定した場合
- 該当のリソースアダプタがルートリソースアダプタ，または Cosminexus RM 連携用 DB コネクタの場合

受付

標準受付またはユーザ定義受付の情報が表示されます。標準受付の場合，標準受付がセットアップされていないときは，情報が表示されません。

受付名

標準受付の受付名，またはユーザ定義受付の受付名が表示されます。標準受付の場合は，「標準受付（Web サービス（SOAP1.1））」または「標準受付（Web サービス（SOAP1.2））」が表示されます。ユーザ定義受付の場合は，ユーザが定義した受付名が表示されます。

稼働状態

標準受付またはユーザ定義受付の稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗

HCSC サーバが起動状態以外の場合は「-」が表示されます。ユーザ定義受付の場合，ユーザ定義受付が配備前状態のときは「配備前状態」が表示されます。

サービス名

依存しているビジネスプロセスやサービスアダプタのサービス名が表示されます。標準受付の場合は，常に「-」が表示されます。

キュー滞留数

標準受付またはユーザ定義受付のキュー滞留数が表示されます。「収集したキュー滞留数の最大値 / キュー滞留数の上限値」の形式で表示されます。標準受付またはユーザ定義受付のキュー滞留数には，0 ～ 2,147,483,647 の範囲で値が表示されます。HCSC サーバが起動状態以外の場合や，該当する受付が停止状態の場合は「-」が表示されます。ユーザ定義受付の場合，配備前状態のときは「-」が表示されます。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

実行数

標準受付またはユーザ定義受付の実行数が表示されます。「収集した実行数の最

大値 / 実行数の上限値」の形式で表示されます。標準受付またはユーザ定義受付の実行数には，1 ～ 1,024 の範囲で値が表示されます。HCSC サーバが起動状態以外の場合や，該当する受付が停止状態の場合は「-」が表示されます。ユーザ定義受付の場合，配備前状態のときは「-」が表示されます。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

依存ビジネスプロセス

HCSC サーバに依存しているビジネスプロセスの情報が表示されます。

サービス名

依存するビジネスプロセスのサービス名が表示されます。

稼働状態

ビジネスプロセスの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗
- 取得失敗
- 配備前状態

HCSC サーバが起動状態以外の場合は「-」が表示されます。

実行数

ビジネスプロセスの実行数が表示されます。「収集した実行数の最大値 / NA」の形式で表示されます。「NA」は無制限であることを示します。収集した実行数の最大値には，0 ～ 2,147,483,647 の範囲で値が表示されます。HCSC サーバが起動状態以外の場合や，ビジネスプロセスが配備前状態，または停止状態の場合は「-」が表示されます。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

依存サービスアダプタ

HCSC サーバに依存しているサービスアダプタの情報が表示されます。

サービス名

サービスアダプタのサービス名が表示されます。

稼働状態

サービスアダプタの稼働状態が表示されます。次のどれかが表示されます。

- 停止状態
- 開始状態
- 停止中
- 開始中
- 停止失敗
- 開始失敗

- 取得失敗
- 配備前状態

HCSC サーバが起動状態以外の場合は「-」が表示されます。

実行数

サービスアダプタの実行数が表示されます。「収集した実行数の最大値 / 実行数の上限値」の形式で表示されます。「実行数の上限値」には「NA」が表示される場合もあります。「NA」は無制限であることを示します。収集した実行数の最大値には，0 ～ 2,147,483,647 の範囲で値が表示されます。HCSC サーバが起動状態以外の場合や，サービスアダプタが配備前状態，または停止状態の場合は「-」が表示されます。稼働情報の取得に失敗した場合は「取得失敗」が表示されます。

稼働情報通知

[ON] ボタン

実行環境からの稼働情報の通知を開始します。

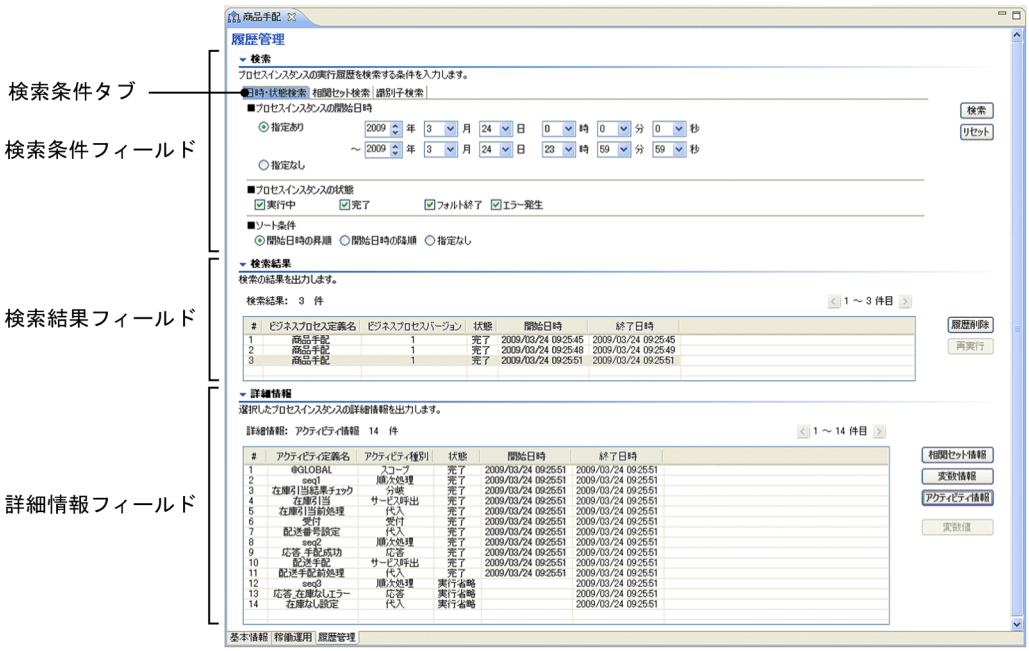
[OFF] ボタン

実行環境からの稼働情報の通知を停止します。

3.6 履歴管理ページ

履歴管理ページは，ツリービューから管理対象のビジネスプロセスを選択し，［履歴管理］タブを選択すると表示されます。履歴管理ページでは，プロセスインスタンスの実行履歴の検索，削除，再実行，および詳細情報を取得できます。履歴管理ページの構成について説明します。

図 3-14 履歴管理ページの構成



- **検索条件タブ**
  日時 / 状態検索，相関セット検索，または識別子検索を切り替えます。

- **検索条件フィールド**
  検索条件の選択，入力，または検索をします。

- **検索結果フィールド**
  検索結果の表示，実行履歴の削除，または実行履歴の再実行をします。

- **詳細情報フィールド**
  検索結果から詳細情報の選択，または表示をします。

(1) 検索状態フィールド

(a) 日時 / 状態検索

図 3-15 ［日時・状態検索］タブ選択時の検索条件フィールド

［日時・状態検索］タブ

検索条件として日時や状態からプロセスインスタンスを検索する画面を選択するタブです。

・プロセスインスタンスの開始日時

プロセスインスタンスの開始日時を指定してプロセスインスタンスを検索する場合に使用します。

［指定あり］ラジオボタン

プロセスインスタンスの開始日時を指定してプロセスインスタンスを検索する場合に選択します。

［指定なし］ラジオボタン

プロセスインスタンスの開始日時を指定しないでプロセスインスタンスを検索する場合に選択します。

日時条件開始入力フィールド

検索範囲の開始日時を入力します。指定した日時は，稼働しているマシンのタイムゾーンの日時として扱われます。

年

検索範囲の開始年を西暦で指定します。4 けたの整数を半角で入力します。入力できる範囲は 1970 ～ 9999 です。

月

検索範囲の開始月をドロップダウンリストから選択します。選択できる範囲は 1 ～ 12 です。

日

検索範囲の開始日をドロップダウンリストから選択します。選択できる範囲は 1 ～ 31 です。

時

検索範囲の開始時間をドロップダウンリストから選択します。選択できる範囲は 0 ～ 23 です。

分

検索範囲の開始分をドロップダウンリストから選択します。選択できる範囲は0 ～ 59 です。

秒

検索範囲の開始秒をドロップダウンリストから選択します。選択できる範囲は0 ～ 59 です。

日時条件終了入力フィールド

検索範囲の終了日時を入力します。
年，月，日，時，分，および秒については，日時条件開始入力フィールドと同様です。

- **プロセスインスタンスの状態**

  プロセスインスタンスの状態を指定してプロセスインスタンスを検索する場合にチェックします。複数の状態を選択して，どれかの状態の場合を検索することもできます。

  ［実行中］チェックボックス

  実行中のプロセスインスタンスを検索する場合にチェックします。

  ［完了］チェックボックス

  プロセスのグローバルスコープが完了したプロセスインスタンスを検索する場合にチェックします。

  ［フォルト終了］チェックボックス

  フォルトが発生し，グローバルスコープでもキャッチできないで，フォルト終了したプロセスインスタンスを検索する場合にチェックします。

  ［エラー発生］チェックボックス

  サービス呼出アクティビティの実行中にエラーが発生し，終了したプロセスインスタンスを検索する場合にチェックします。

- **ソート条件**

  検索結果の表示順序を指定します。

  ［開始日時の昇順］ラジオボタン

  検索結果を開始日時の昇順で表示する場合に選択します。

  ［開始日時の降順］ラジオボタン

  検索結果を開始日時の降順で表示する場合に選択します。

  ［指定なし］ラジオボタン

  ソート条件を指定しないで検索結果を表示する場合に選択します。

- **［検索］ボタン**

  指定した条件で検索が実行されます。

- **［リセット］ボタン**

  選択しているタブに入力した検索条件が初期値に戻ります。

(b) 相関セット検索

図 3-16　［相関セット検索］タブ選択時の検索条件フィールド

［相関セット検索］タブ

検索条件として相関セットからプロセスインスタンスを検索する画面を選択するタブです。「相関セット定義名」および「相関セット値」の両方に入力が必要です。

相関セット定義名

検索する相関セット定義名を半角の英数字で入力します。

相関セット値

検索する相関セット値を半角の英数字で入力します。

(c) 識別子検索

図 3-17　［識別子検索］タブ選択時の検索条件フィールド

［識別子検索］タブ

検索条件としてプロセスインスタンス識別子からプロセスインスタンスを検索する画面を選択するタブです。

プロセスインスタンス識別子

検索するプロセスインスタンス識別子を入力します。

(2) 検索結果フィールド

検索結果件数

検索結果の総数が表示されます。

表示件数範囲

検索結果一覧に表示している検索結果の範囲について，検索結果の上位から何件目であるかの範囲が表示されます。

［<］ボタン

検索結果の前の最大 20 件が表示されます。

［>］ボタン
検索結果の次の最大 20 件が表示されます。

検索結果一覧
検索条件に該当した検索対象が表示されます。一度に表示できる件数は 20 件までです。

#
検索結果件数に対応した番号が表示されます。

ビジネスプロセス定義名
ビジネスプロセスの定義名が表示されます。

ビジネスプロセスバージョン
ビジネスプロセスのバージョンが表示されます。

状態
プロセスインスタンスの状態が表示されます。

開始日時
プロセスインスタンスの実行を開始した日時が表示されます。検索条件で指定したときと同様に「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」の形式で表示されます。開始していない場合は表示されません。

終了日時
プロセスインスタンスの実行を終了した日時が表示されます。検索条件で指定したときと同様に「yyyy/mm/dd hh:mm:ss」の形式で表示されます。終了していない場合は表示されません。

［履歴削除］ボタン
検索結果から選択した，ある一つのプロセスインスタンスの実行履歴が削除されます。

［再実行］ボタン
検索結果から選択した，ある一つのプロセスインスタンスが再実行されます。

（3） 詳細情報フィールド

（a） 相関セット情報

詳細情報件数
検索結果一覧で選択したプロセスインスタンスの詳細情報の総件数，および詳細情報の種別（相関セット情報，変数情報，またはアクティビティ情報）が表示されます。

表示件数範囲
詳細情報一覧に表示している検索結果の範囲を，検索結果の上位から何件目であるかの範囲が表示されます。

［<］ボタン

検索結果の前の最大 20 件が表示されます。

［>］ボタン

検索結果の次の最大 20 件が表示されます。

詳細情報一覧

詳細情報の種別（相関セット情報，変数情報，またはアクティビティ情報）で選択した項目に対応した詳細情報が表示されます。一度に表示できる件数は 20 件までです。

図 3-18　詳細情報一覧（相関セット情報）

#	相関セット定義名	相関セット値
1	set	HDD対応プラズマテレビ 60型

図 3-19　詳細情報一覧（変数情報）

#	変数定義名	変数型	変数値
1	入力データ	Message	<?xml version="1.0" encoding="UT...
2	出力データ	Message	<?xml version="1.0" encoding="UT...
3	在庫引当入力データ	Message	<?xml version="1.0" encoding="UT...
4	在庫引当出力データ	Message	<?xml version="1.0" encoding="UT...
5	配送手配入力データ	Message	<?xml version="1.0" encoding="UT...
6	配送手配出力データ	Message	<?xml version="1.0" encoding="UT...

図 3-20　詳細情報一覧（アクティビティ情報）

#	アクティビティ定義名	アクティビティ種別	状態	開始日時	終了日時
1	@GLOBAL	スコープ	完了	2008/10/10 12:27:30	2008/10/10 12:27:31
2	seq1	順次処理	完了	2008/10/10 12:27:30	2008/10/10 12:27:31
3	受付	受付	完了	2008/10/10 12:27:30	2008/10/10 12:27:30
4	在庫引当前処理	代入	完了	2008/10/10 12:27:30	2008/10/10 12:27:31
5	在庫引当	サービス呼出	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
6	在庫引当結果チェック	分岐	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
7	配送番号設定	代入	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
8	seq2	順次処理	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
9	応答_手配成功	応答	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
10	配送手配	サービス呼出	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
11	配送手配前処理	代入	完了	2008/10/10 12:27:31	2008/10/10 12:27:31
12	seq3	順次処理	実行省略		2008/10/10 12:27:31
13	応答_在庫なしエラー	応答	実行省略		2008/10/10 12:27:31
14	在庫なし設定	代入	実行省略		2008/10/10 12:27:31

#

詳細情報件数に対応した番号が表示されます。

相関セット定義名

［相関セット情報］ボタンをクリックした場合に相関セット定義名が表示されます。相関セット定義名の昇順で表示されます。

相関セット値

［相関セット情報］ボタンをクリックした場合に相関セット値が表示されます。

変数定義名

［変数情報］ボタンをクリックした場合に変数定義名が表示されます。変数定義名の昇順で表示されます。

変数型

［変数情報］ボタンをクリックした場合に変数のデータ型（Boolean，Numeric，String，または Message）が表示されます。

メッセージ型の変数である XML 型（XML），バイナリ型（non-XML），any 型（any）は，「Message」と表示されます。

変数値

［変数情報］ボタンをクリックした場合に変数値が表示されます。変数型によって次の内容が表示されます。

Boolean：真偽値として，「1」（真）または「0」（偽）が表示されます。

Numeric：数値（64 ビット浮動小数）が表示されます。

String：文字列が表示されます。

Message：電文（XML，non-XML，any）が表示されます。

アクティビティ定義名

［アクティビティ情報］ボタンをクリックした場合に，アクティビティ定義名が表示されます。開始日時の昇順で表示されます。また，開始日時が空欄の項目は後ろに配置されます。

アクティビティ種別

［アクティビティ情報］ボタンをクリックした場合に，次に示すアクティビティの種別が表示されます。

表 3-4　アクティビティの種別

名称	説明
受付	サービスリクエスタが送信した要求電文を受信します。
応答	同期受信をした際に，プロセスの実行結果をサービスリクエスタに応答します。
サービス部品呼出	要求電文をサービス部品に送信します。
代入	変数へ代入します。
スコープ	アクティビティの有効範囲を定めます。 グローバルスコープ名は，「@GLOBAL」となります。
順次処理	アクティビティを定義した順番に実行します。 順次処理アクティビティは，保持しているアクティビティの最後のアクティビティが完了したときに，完了となります。

名称	説明
並列処理	定義したアクティビティを同時に実行します。 ビジネスプロセス開発時の並列処理開始アクティビティと並列処理終了アクティビティは，並列処理アクティビティとして表示されます。並列処理アクティビティは，保持するすべてのアクティビティが完了したときに，完了となります。
分岐	定義した選択条件によって実行するアクティビティを選択します。 ビジネスプロセス開発時の分岐開始アクティビティと分岐終了アクティビティは，分岐アクティビティとして表示されます。分岐アクティビティは，分岐条件によって選択されたアクティビティが完了したときに，完了となります。
繰り返し	定義した繰り返し条件が真である場合，アクティビティの実行を繰り返します。
java 呼出	決められたインターフェースに従って java プログラムを呼び出します。
無操作	何もしない動作を表します。
フォルト送出	上位のスコープアクティビティに，ユーザ定義のフォルトを通知します。
待機	指定した一定の間隔，または期限まで，プロセスの実行を待機させます。
検証	指定されたメッセージ型変数（XML）を検証します。

状態

［アクティビティ情報］ボタンをクリックした場合に，次に示すアクティビティの状態が表示されます。

表 3-5　アクティビティの状態

名称	説明
未実行	アクティビティインスタンスが未実行で，今後実行される可能性のある状態を示します。
未省略	アクティビティインスタンスが未実行で，今後実行が省略される状態を示します。
実行中	アクティビティインスタンスが，実行中の状態を示します。
待ち受け	受付アクティビティインスタンスが，受け付けのできる状態を示します。
フォルト中	スコープアクティビティインスタンスにフォルトが発生しキャッチしたアクティビティを実行している状態を示します。
完了	アクティビティインスタンスが正常に実行され終了した状態を示します。
キャンセル	フォルトが発生しアクティビティインスタンスの実行がキャンセルされた状態を示します。
フォルト終了	アクティビティインスタンスの実行中にフォルトが発生して終了した状態を示します。
実行省略	アクティビティインスタンスの実行が省略され終了した状態を示します。
エラー発生	アクティビティインスタンスの実行中にエラーが発生して終了した状態を示します。

開始日時

［アクティビティ情報］ボタンをクリックした場合に，アクティビティの開始日時が検索条件フィールドの形式と同様に表示されます。

終了日時

［アクティビティ情報］ボタンをクリックした場合に，アクティビティの終了日時が検索条件フィールドの形式と同様に表示されます。

［相関セット情報］ボタン

検索結果一覧で選択したプロセスインスタンスについて，相関セットの詳細情報が表示されます。相関セット情報は，相関セット定義名で昇順にソートされます。

［変数情報］ボタン

検索結果一覧で選択したプロセスインスタンスについて，変数の詳細情報が表示されます。変数情報は，変数定義名で昇順にソートされます。

［アクティビティ情報］ボタン

検索結果一覧で選択したプロセスインスタンスについて，アクティビティの詳細情報が表示されます。アクティビティ情報は，開始日時で昇順にソートされます。なお，開始日時が空欄（未実行）の項目は後ろに並びます。

［変数値］ボタン

詳細情報一覧に表示された変数情報のデータ型が String，またはメッセージ型の場合に，変数値の内容を別ウィンドウに表示できます。

4 コマンド（運用環境・実行環境）

この章では，Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境および実行環境で使用するコマンドの文法について説明します。

コマンドの種類

コマンドの入力形式

コマンドの文法の記述形式

csaftpuseradd（FTP **アダプタのユーザの登録・更新**）

csaftpuserdel（FTP **アダプタのユーザの削除**）

csaftpuserls（FTP **アダプタのユーザの表示**）

cscapputil（**アプリケーションの操作**）

csccmctl（**定義ファイルの管理**）

csccompoconfig（HCSC **コンポーネントの定義**）

csccompodeploy（HCSC **コンポーネントの配備**）

csccompostart（HCSC **コンポーネントの開始**）

csccompostop（HCSC **コンポーネントの停止**）

csccompoundeploy（**配備済みの** HCSC **コンポーネントの削除**）

cscenvbackup（HCSC-Manager **環境のバックアップ**）

cscenvrestore（HCSC-Manager **環境のリストア**）

cscenvupdate（実行環境のバージョンアップ）

cscfscls（共通フォルダの参照）

cscfscrm（共通フォルダの削除）

cscfswls（作業フォルダの参照）

cscfswrm（作業フォルダの削除）

cscpasswd（ユーザの管理）

cscmsgtk（メッセージトラッキング機能の起動）

cscpidelete（プロセスインスタンスの実行履歴の削除）

cscpireexec（プロセスインスタンスの再実行）

cscpiselect（プロセスインスタンスの検索）

cscrcptnstart（標準受付およびユーザ定義受付の開始）

cscrcptnstop（標準受付およびユーザ定義受付の停止）

cscrepcheck（インポート可否の検証）

cscrepctl（インポート / エクスポート）

cscrepdiff（リポジトリ情報の差分の表示）

cscrepls（リポジトリ情報の表示）

cscrepupdate（リポジトリのアップデート）

cscresinfo（リソース稼働情報の表示）

cscstatus（状態表示）

cscsetup（本番環境の簡易セットアップ）

cscsvcctl（サービス情報の管理）

cscsvcls（サービス情報の表示）

cscsvconfig（HCSC サーバランタイムの定義）

cscsvsetup（HCSC サーバのセットアップ）

cscsvstart（HCSC サーバの起動）

cscsvstop（HCSC サーバの停止）

cscsvunsetup（HCSC サーバのアンセットアップ）

cscutil（各種操作）
csmdeletehistory（電文の実行履歴情報テーブルのレコードの削除）
csmftpaddusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの登録・更新）
csmftpdelusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの削除）
csmftplsusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの表示）
csmftplshistory（転送履歴の表示）
csmlshistory（電文の実行履歴情報の表示）
csmlslocation（サービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報の表示）
csmlsreception（ユーザ定義受付の情報の表示）
csmlsstate（HCSC サーバの状態の表示）

コマンドの種類

Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境および実行環境で使用するコマンドには，2 種類あります。それぞれのコマンドは，コマンドが格納されるディレクトリが異なります。

- csc で始まるコマンド
  運用環境から実行するコマンドです。HCSC サーバの構築，基本運用，およびリポジトリやユーザの管理ができます。なお，一部のコマンドは，Management Server と通信して HCSC サーバを管理します。そのため，コマンドを強制停止しても処理は継続されることがあります。
- csm で始まるコマンド
  実行環境から実行するコマンドです。実行環境の状況の確認，および電文の実行履歴の管理ができます。

Windows Vista 上で HCSC サーバを動作させる場合，管理者特権でコマンドを実行してください。

使用するデータベースが HiRDB で JDBC ドライバが HiRDB Type4 JDBC Driver の場合は，HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイルに HiRDB Type4 JDBC Driver のパスを指定してください。

使用するデータベースが Oracle の場合は，HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイルに Oracle JDBC Thin Driver のパスを指定してください。

注意事項

Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境および実行環境で使用するコマンドは管理者権限のあるユーザで実行してください。なお，UNIX の場合の Cosminexus Service Coordinator の管理者の変更方法については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 A　Cosminexus Service Coordinator 管理者の変更方法」を参照してください。

コマンドの一覧

Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境および実行環境で使用するコマンドの一覧を，次の表に示します。

表 4-1 Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境および実行環境で使用するコマンドの一覧

環境	機能の分類		コマンド	説明	処理の分類
	大分類	小分類			
運用環境	管理系	ユーザ管理	cscpasswd	指定された条件に従ってユーザ情報を変更します。	A
		リポジトリ管理	cscrepls	リポジトリ情報を標準出力に出力します。	C
			cscrepdiff	現在のリポジトリ情報とエクスポートしたリポジトリ情報の差分を標準出力に表示します。	C
			cscrepcheck	リポジトリのインポート可否を検証します。	C
			cscrepctl	リポジトリ内の情報を ZIP 形式ファイルに出力したり，ZIP 形式で保存された情報をリポジトリに展開したりします。	A
			cscrepupdate	運用環境のリポジトリをアップデートします。	A
		サービス管理	cscsvcls	サービス情報を標準出力に出力します。また，cscsvcctl コマンドの引数に指定する値を調べます。	C
			cscsvcctl	サービス情報変更定義ファイルを出力または入力します。また，アダプタに関するサービス情報を変更します。	A
		環境管理	cscenvbackup	HCSC-Manager 環境の復元に必要なファイルをバックアップします。	C
			cscenvrestore	HCSC-Manager 環境のバックアップファイルを利用して環境を復元します	A
	構築系	サーバ構築	cscsvsetup	HCSC サーバのセットアップをします。	A
			cscsvunsetup	HCSC サーバのアンセットアップをします。	A
		HCSC コンポーネントの構築	csccompodeploy	HCSC コンポーネントを配備します。	A
			csccompoundeploy	配備済みの HCSC コンポーネントを削除します。	A

環境	機能の分類		コマンド	説明	処理の分類
	大分類	小分類			
		サーバ定義設定，取得	cscsvconfig（-operation オプションに set を指定）	HCSC サーバの定義情報を更新します。	B
			cscsvconfig（-operation オプションに get を指定）	HCSC サーバの定義情報を取得します。	C
		定義ファイルの取得，設定，削除	csccmctl（-operation オプションに get を指定）	開発環境で設定した定義ファイルを取得します。	D
			csccmctl（-operation オプションに set を指定）	定義ファイルを運用環境上に設定します。	A
			csccmctl（-operation オプションに reset を指定）	定義ファイルを削除します。	A
		HCSC コンポーネント定義設定，取得	csccompoconfig（-operation オプションに set を指定）	ユーザ定義受付の定義情報を更新します。	B
			csccompoconfig（-operation オプションに get を指定）	ユーザ定義受付の定義情報を取得します。	C
		簡易セットアップ	cscsetup	本番環境に適用できるシステムを容易に構築します。	A
	運用系	サーバ運用	cscsvstart	HCSC サーバを起動します。	B
			cscsvstop	HCSC サーバを停止します。	B
		HCSC コンポーネント運用	csccompostart	HCSC コンポーネントを開始します。	B

環境	機能の分類		コマンド	説明	処理の分類
	大分類	小分類			
			csccompostop	HCSC コンポーネントを停止します。	B
		標準受付およびユーザ定義受付の運用	cscrcptnstart	標準受付およびユーザ定義受付を開始します。	B
			cscrcptnstop	標準受付およびユーザ定義受付を停止します。	B
		状態確認	cscstatus	HCSC サーバ，標準受付，および HCSC コンポーネントの状態を表示します	C
		稼働確認	cscresinfo	HCSC サーバのリソースの稼働情報を表示します。	C
		汎用	cscutil	次に示す操作をします。 • HCSC サーバの起動と停止 • HCSC コンポーネントの開始と停止 • 標準受付の開始と停止 • HCSC サーバセットアップ情報，HCSC サーバ情報の取得 • HCSC コンポーネントの情報取得	D
			cscpiselect	指定された条件に従ってビジネスプロセス情報を検索し CSV または TSV 形式で出力します。	C
			cscpidelete	指定された条件に従ってビジネスプロセスの実行履歴を削除します。	C
			cscpireexec	指定された条件に従って実行中のビジネスプロセスを再実行します。	C
			cscapputil	HCSC サーバが管理しているアプリケーションを操作します。	C
	FTP 連携	フォルダ運用	cscfscls	共通フォルダ内のファイルを参照します。	C
			cscfscrm	共通フォルダ内のファイルを削除します。	B
			cscfswls	作業フォルダを参照します。	C
			cscfswrm	作業フォルダを削除します。	B
		ユーザの登録，更新，取得	csaftpuseradd	FTP アダプタに新規のユーザを登録します。	B

環境	機能の分類		コマンド	説明	処理の分類
	大分類	小分類			
			csaftpuserdel	FTP アダプタに登録されているユーザを削除します。	B
			csaftpuserls	FTP アダプタに登録されているユーザを表示します。	C
			csmftpaddusr	FTP インバウンドアダプタに新規のユーザを登録します。	B
			csmftpdelusr	FTP インバウンドアダプタに登録されているユーザを削除します。	B
			csmftplsusr	FTP インバウンドアダプタに登録されているユーザを表示します。	C
		転送履歴	csmftplshistory	FTP インバウンドアダプタの転送履歴を表示します。	C
	ツール	バージョンアップ	cscenvupdate	指定した実行環境の HCSC サーバをバージョンアップします。	A
		メッセージトラッキング	cscmsgtk	メッセージトラッキングを起動し，メッセージトラッキングプロンプトを表示します。	E
実行環境	実行履歴管理		csmdeletehistory	電文の実行履歴情報テーブル中のレコードを削除します。	C
	情報表示		csmlshistory	電文の実行履歴の情報を表示します。	C
			csmlslocation	配備したサービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報を表示します。	C
			csmlsreception	配備したユーザ定義受付の情報を表示します。	C
			csmlsstate	HCSC サーバの状態および設定情報の一覧を表示します。	C

（凡例）

A：リポジトリ更新コマンド（実行時にリポジトリが更新されるコマンド）です。

B：サーバ更新コマンド（実行時に HCSC サーバの情報または状態が更新されるコマンド）です。

C：参照コマンド（実行時に情報を参照するだけのコマンド）です。HCSC サーバやリポジトリは更新されません。

D：オプションによって，サーバ更新コマンドか参照コマンドかが異なります。

E：リポジトリ更新，サーバ更新，参照のどれにも該当しないコマンドです。

コマンドの同時実行について

コマンドを実行するときに，ほかの操作が実行中の場合，コマンドが実行できない場合

があります。ほかの操作を実行中の場合にコマンドが実行できるかどうかを次の表に示します。

表 4-2 ほかの操作が実行中のコマンドの実行可否

実行するコマンド	現在実行中の操作，または現在の状態				
	リポジトリ更新コマンド実行中	サーバ更新コマンド実行中	参照コマンド実行中	画面へログインしている状態	画面からの操作中（更新系）
リポジトリ更新コマンド	×	×	×	×	×
サーバ更新コマンド	×	×	○	○	×
参照コマンド	×	○	○	○	○

（凡例）

○：コマンドが実行できます。

×：コマンドは実行できません。リポジトリ更新コマンドとリポジトリ操作（参照 / 更新）のあるコマンドとを同時実行した場合，排他エラーとなりリターンコード 3 が返ります。

注

cscutil コマンドには，サーバ更新コマンドの機能（HCSC サーバの起動，停止など）と，参照コマンドの機能（HCSC サーバ情報の取得など）があります。

ほかの操作が実行中の場合に cscutil コマンドを実行するときは，実行する機能（オプションの指定）によって，実行の可否が異なります。

コマンドの入力形式

コマンドの入力形式を次に示します。

コマンド名 [オプション…]

各項目について説明します。なお，コマンドプロンプトを「$」，コマンド名を「cmd」と表記します。

コマンド名

実行するコマンドのファイル名を指定します。

空白を含むパスを指定してコマンドを実行する場合，パス全体を " " で囲む必要があります。

- 誤った指定例：$ C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin¥cmd
- 正しい指定例：$ "C:¥Program Files¥Hitachi¥Cosminexus¥CC¥server¥bin¥cmd"

引数

引数には，オプションも含まれます。オプションの入力形式および指定規則を次に示します。

オプションの入力形式

オプションは，ハイフン（-）で始まる文字列です。オプションの入力形式には，オプション引数を指定しない形式と，1 個のオプション引数を指定する形式があります。

オプション引数を指定しない形式

$ cmd - **オプションフラグ**

1 個のオプション引数を指定する形式

$ cmd - **オプションフラグ オプション引数**

（凡例）

- オプションフラグ
  1 文字の半角英数字です。大文字と小文字が区別されます。
- オプション引数
  オプションフラグに対する引数です。

オプションの指定規則

- オプションフラグは，一つのハイフン（-）にまとめて指定できません。
  誤った指定例：`$ cmd -abc`
  正しい指定例：`$ cmd -a -b -c`
- オプション引数を必要とするオプションフラグのオプション引数は，省略できません。

- オプションフラグとオプション引数の間には，スペースまたはタブが必要です。
  誤った指定例：`$ cmd -afile`
  正しい指定例：`$ cmd -a file`
- 同じオプションフラグは，複数指定できません。
  誤った指定例：`$ cmd -a 1 -a 2`
- オプション引数に空白を含む場合，オプション引数全体を "" で囲む必要があります。
  誤った指定例：`$ cmd -a file 1`
  正しい指定例：`$ cmd -a "file 1"`
- オプション引数に特殊文字（エスケープ文字）を含む場合，特殊文字を "" で囲む必要があります。
  誤った指定例：`$ cmd -a xyz;12`
  正しい指定例：`$ cmd -a "xyz;12"`

オプションの優先順位

各コマンドのオプションの幾つかは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルに記述すると省略できます。HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルとコマンド引数の指定は，次のように異なります。

- HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルとコマンド引数の両方に指定がある場合
  コマンド引数に指定した方が有効となります。
- HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルとコマンド引数の両方に記述がない場合
  異常終了します。

また，オプションの指定順序はありません。例１と例２は，同一のコマンドとして扱われます。

例１：$ cmd -a file -b option

例２：$ cmd -b option -a file

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルの詳細については，「5. 定義ファイル」の「HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル」を参照してください。

コマンドの文法の記述形式

このマニュアルでは，コマンドの文法について次の形式で説明します。なお，各コマンドは，アルファベットの順に説明します。

形式
　コマンドの入力形式を示します。

機能
　コマンドの機能について説明します。

引数
　コマンドの引数およびオプションについて説明します。

入力例
　コマンドの入力例を示します。

表示形式
　コマンドの出力形式を示します。

表示例
　コマンドの表示例を示します。

戻り値
　コマンドの戻り値について示します。

注意事項
　コマンドを実行する上での全体的な注意事項について説明します。

注
　すべてのコマンドで上記の項目をすべて説明しているわけではありません。また，上記以外に，各コマンドの固有情報を記載している場合があります。

csaftpuseradd（FTP アダプタのユーザの登録・更新）

形式

```
csaftpuseradd [-h]
              -user <ログインユーザID>
              -pass <ログインパスワード>
              [-account <課金情報>]
              [-r]
              -f <アカウント定義ファイルのパス>
```

機能

FTP アダプタのアカウント定義ファイルに新規のユーザを登録します。ユーザがすでに登録されている場合は，パスワードや課金情報を更新します。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～<半角英数字および半角記号>** ((1 － 80 **文字**))

登録または更新したいユーザ ID を指定します。

使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号を次に示します。

- 感嘆符（!）
- ダブルクォーテーション（"）
- 番号記号（#）
- ドル記号（$）
- パーセント（%）
- アンパサンド（&）
- アポストロフィ（'）
- 始め小括弧（(）
- 終わり小括弧（)）
- アスタリスク（*）
- 正符号（+）
- コンマ（,）
- ハイフン（-）

- ピリオド（.）
- スラッシュ（/）
- コロン（:）
- セミコロン（;）
- 左アングルブラケット（<）
- 右アングルブラケット（>）
- 等号（=）
- クエスチョンマーク（?）
- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）
- 円マーク（¥）
- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）
- 波ダッシュ（~）

-pass < **ログインパスワード** > 　**～＜半角英数字および半角記号＞** ((1 － 80 **文字**))

登録または更新したいユーザ ID に対するパスワードを指定します。使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号は -user オプションと同じです。

更新したい場合（-r オプションを指定する場合），更新後のパスワードを指定します。

-account < **課金情報** > 　**～＜半角英数字および半角記号＞** ((1 **文字以上**))

登録または更新したいユーザに対する課金情報（アカウントを示す文字列）を指定します。使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号は -user オプションと同じです。

このオプションを省略，または < 課金情報 > に空文字を指定した場合，課金情報は設定されません。

なお，課金情報が設定されているユーザのパスワードを変更する場合，このオプションを指定する必要があります。

-r

すでに登録されているユーザ ID のパスワードを変更する場合に指定します。

-f < アカウント定義ファイルのパス >

アカウント定義ファイルのパスを相対パス，または絶対パスで指定します。空白を含む場合は，オプション引数全体をダブルクォーテーション（"）で囲みます。

ファイルが存在しない場合，新規にアカウント定義ファイルが作成されます。ただし，ディレクトリが存在しない場合は，エラーになります。既存のアカウント定義ファイルに新規アカウントを追加する場合は，既存のアカウント定義ファイルを指定してください。

入力例

(1) 課金情報を設定するユーザを登録する場合

```
csaftpuseradd -user user1 -pass password1 -account account1 -f
account.properties
```

(2) 課金情報を設定しないユーザを登録する場合

```
csaftpuseradd -user user2 -pass password2 -f account.properties
```

(3) ユーザのパスワードと課金情報を更新する場合

```
csaftpuseradd -user user1 -pass passwordnew -account accountnew
-r -f account.properties
```

(4) 課金情報が設定されていないユーザのパスワードを更新する場合

```
csaftpuseradd -user user2 -pass passwordnew -r -f
account.properties
```

(5) すでに登録されているユーザに課金情報を追加する場合

```
csaftpuseradd -user user2 -pass password2 -account account2 -r
-f account.properties
```

(6) すでに登録されているユーザの課金情報を削除する場合

```
csaftpuseradd -user user1 -pass password1 -r -f
account.properties
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。

注意事項

- 登録できるユーザ数の上限はありません。
- アカウント定義ファイルは編集できません。
- コマンドを実行する前に，運用コマンドを実行する管理者にだけ，アカウント定義ファイルに対する更新・参照のアクセス権を設定してください。
- コマンドの実行内容（ユーザの登録・更新）は，FTP アダプタの開始後に有効となります。また，FTP アダプタが開始している状態でコマンドを実行した場合，コマンドの実行内容（ユーザの登録・更新）は，次に FTP アダプタを開始したあとに有効となります。

csaftpuserdel（FTP アダプタのユーザの削除）

形式

```
csaftpuserdel [-h]
              -user <ログインユーザID>
              -f <アカウント定義ファイルのパス>
```

機能

FTP アダプタのアカウント定義ファイルに登録されているユーザを削除します。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字および半角記号＞** ((1 － 80 **文字**))

削除したいユーザ ID を指定します。使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号を次に示します。

- 感嘆符（!）
- ダブルクォーテーション（"）
- 番号記号（#）
- ドル記号（$）
- パーセント（%）
- アンパサンド（&）
- アポストロフィ（'）
- 始め小括弧（(）
- 終わり小括弧（)）
- アスタリスク（*）
- 正符号（+）
- コンマ（,）
- ハイフン（-）
- ピリオド（.）
- スラッシュ（/）
- コロン（:）
- セミコロン（;）
- 左アングルブラケット（<）
- 右アングルブラケット（>）

- 等号（=）
- クエスチョンマーク（?）
- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）
- 円マーク（¥）
- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）
- 波ダッシュ（~）

-f < アカウント定義ファイルのパス >

アカウント定義ファイルのパスを相対パス，または絶対パスで指定します。空白を含む場合は，オプション引数全体をダブルクォーテーション（"）で囲みます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。

注意事項

- アカウント定義ファイルは編集できません。
- アカウント定義ファイルのユーザ認証情報が 0 個になってもアカウント定義ファイルは削除されません。
- コマンドを実行する前に，運用コマンドを実行する管理者にだけ，アカウント定義ファイルに対する更新・参照のアクセス権を設定してください。
- コマンドの実行内容（ユーザの削除）は，FTP アダプタの開始後に有効となります。また，FTP アダプタが開始している状態でコマンドを実行した場合，コマンドの実行内容（ユーザの削除）は，次に FTP アダプタを開始したあとに有効となります。

csaftpuserls（FTP アダプタのユーザの表示）

形式

```
csaftpuserls [-h]
             -f <アカウント定義ファイルのパス>
```

機能

FTP アダプタのアカウント定義ファイルに登録されているユーザを表示します。表示結果は標準出力に出力します。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-f < アカウント定義ファイルのパス >

アカウント定義ファイルのパスを相対パス，または絶対パスで指定します。空白を含む場合は，オプション引数全体をダブルクォーテーション（"）で囲みます。

表示形式

(1) ユーザ認証情報が登録されている場合

1：ユーザ ID1 ＝課金情報
2：ユーザ ID2
：

1 行に 1 ユーザ名を表示します。ユーザ ID に対する課金情報が設定されている場合は，課金情報を表示します。

(2) ユーザ認証情報が登録されていない場合

none

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。

注意事項

- アカウント定義ファイルは編集できません。
- コマンドを実行する前に，運用コマンドを実行する管理者にだけ，アカウント定義ファイルに対する更新・参照のアクセス権を設定してください。

cscapputil（アプリケーションの操作）

形式

```
cscapputil [-h]
           -user <ログインユーザID>
           -pass <ログインパスワード>
           {-mng <Cosminexus Manager名>
              |-host <IPアドレス>:<ポート番号>
               -mnguser <管理ユーザID> [-mngpass <管理ユーザパスワード>]}
           {-operation { start|stop|delete }
           -j2ee <J2EEサーバ名> -app <アプリケーション名>
              |-operation list -j2ee <J2EEサーバ名>}
```

機能

HCSC サーバが管理しているアプリケーションを操作します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-mng <Cosminexus Manager **名** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

Management Server を識別するための名称（Cosminexus Manager 名）を指定します。リポジトリ内に存在する Cosminexus Manager 名を指定してください。

-host < **ホスト名または** IP **アドレス** >：< **ポート番号** > **～＜ホスト名または** IP **アドレス：文字列，ポート番号：数字＞** ((**文字列：**1 **文字以上，ポート番号：**1 － 65535))

Manager リモート管理機能のホスト名（または IP アドレス）とポート番号を「：」で連結して指定します。IP アドレス，ポート番号ともに省略できません。

リポジトリが存在しない状態でも，-host オプションは指定できます。-host オプションを指定する場合，-mnguser オプションおよび -mngpass オプションを指定してください。

-mnguser < **管理ユーザ** ID> 〜 ((1 **文字以上**))

Management Server の管理ユーザ ID を指定します。

-mngpass < **管理ユーザパスワード** > 〜 ((1 **文字以上**))

Management Server の管理ユーザパスワードを指定します。パスワードがない場合は指定しません。

-operation { start ｜ stop ｜ delete }

指定したアプリケーションの操作を指定します。

- start
  アプリケーションを開始します。
- stop
  アプリケーションを停止します。
- delete
  アプリケーションを削除します。
- list
  アプリケーションを表示します。

-j2ee <J2EE **サーバ名** > 〜 ((1 **文字以上**))

J2EE サーバの論理名を指定します。

-app < **アプリケーション名** > 〜 ((1 **文字以上**))

アプリケーション名称を指定します。

-operation に list を指定した場合，このオプションは省略できます。指定した場合，値は無視されます。

入力例

(1)J2EE サーバ名称 J2EEServer 上にあるアプリケーション HCSCMessaging を開始する場合

```
cscapputil -user admin -pass admin -host localhost:28099
-mnguser admin -j2ee J2EEServer -app HCSCMessaging -operation
start
```

(2)J2EE サーバ名称 J2EEServer 上にあるアプリケーション HCSCMessaging を停止する場合

```
cscapputil -user admin -pass admin -host localhost:28099
```

```
-mnguser admin -j2ee J2EEServer -app HCSCMessaging -operation
stop
```

(3)J2EE サーバ名称 J2EEServer 上にあるアプリケーション HCSCMessaging を削除する場合

```
cscapputil -user admin -pass admin -host localhost:28099
-mnguser admin -j2ee J2EEServer -app HCSCMessaging -operation
delete
```

(4)J2EE サーバ上にあるアプリケーションを表示する場合

```
cscapputil -user admin -pass admin -host localhost:28099
-mnguser admin -j2ee J2EEServer -operation list
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

このコマンドでアプリケーションを削除した場合，HCSC システムが正常に動作しなくなるおそれがあります。そのため，十分に注意して運用してください。

csccmctl（定義ファイルの管理）

形式

```
csccmctl [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         -cluster <クラスタ名>
         -name <サービスアダプタのサービスID｜受付ID>
         -targetfilename <定義ファイル名>
         [-basedir <カレントディレクトリ>]
         -operation {get｜set｜reset}
```

機能

開発環境で設定した定義ファイルに対して，次の機能を利用できます。

- 開発環境に設定された定義ファイルの取得（-operation get）
- 定義ファイルを運用環境に設定（-operation set）
- 運用環境上に設定した定義ファイルの削除（-operation reset）

開発環境と運用環境で設定する値が異なる場合にこのコマンドを使用します。このコマンドで設定した定義ファイルは，運用環境でだけ有効になります。

このコマンドで削除できるのは運用環境に設定した定義ファイルだけです。開発環境で設定した定義ファイル自体は削除できません。開発環境で設定した定義ファイルを削除したい場合は，開発環境で定義ファイルを削除してください。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-cluster < **クラスタ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

サービス情報を変更するサービスアダプタがあるクラスタ名を指定します。リポジトリ内に存在するクラスタが一つの場合は，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルに指定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

-name< **サービスアダプタのサービス** ID> ｜ < **受付** ID> ～ <**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 **文字以上**))

次のどちらかを指定します。

- カスタムアダプタの定義ファイルを設定する場合：サービス ID
- TP1/RPC 受付の定義ファイルを設定する場合：受付 ID

-targetfilename < **定義ファイル名** > ～ ((1 **文字以上**))

取得，設定，更新，および消去する定義ファイル名を指定します。指定できる値はファイル名だけです。定義ファイル名には，開発環境で設定した名称と同じ名称を指定してください。また，開発環境で存在する定義ファイル名を指定してください。

取得，設定，および更新時に，存在しないファイル名を指定した場合はエラーになります。消去時に存在しないファイル名を指定した場合は，エラーにはなりません。処理を継続します。

ディレクトリやファイルのパスの長さは，OS に依存して制限されます。-basedir オプションに指定したカレントディレクトリと連結したパスの長さが，OS で制限された長さに達しないよう設定してください。

-basedir < **カレントディレクトリ** > ～ ((1 **文字以上**))

取得，設定，および更新する定義ファイルのディレクトリパス名を相対パスまたは絶対パスで指定します。指定値はディレクトリである必要があります。存在するディレクトリを指定してください。

このオプションを指定しない場合は，コマンド実行時のパスがカレントディレクトリと見なされます。

ディレクトリやファイルのパスの長さは，OS に依存して制限されます。-targetfilename オプションに指定した定義ファイル名と連結したパスの長さが，OS で制限された長さに達しないよう設定してください。

なお，-operation reset オプションが指定された場合，このオプションは無視されます。

-operation {get ｜ set ｜ reset}

開発環境で設定した定義ファイルを運用環境に取得，設定，および削除します。開発環境での設定とは異なる設定をする場合に使用します。

- get
  -targetfilename オプションで指定した定義ファイルが，-basedir オプションで指定し

たディレクトリ下に配置されます。
同一のファイル名が存在する場合，ファイルが上書きされます。

- set
  -basedir オプションで指定したディレクトリ下にある，-targetfilename オプションで指定したファイルが運用環境のリポジトリに設定されます。すでに同名の定義ファイルが設定されている場合は，内容が更新されます。
- reset
  -targetfilename オプションで指定したファイル名が，-operation set オプションで指定した運用環境のリポジトリのファイル名と一致する場合，定義ファイルが削除されます。

入力例

カスタムアダプタの定義ファイルを設定する場合

(1) 定義ファイル「adptp1_config.xml」を運用環境に取得する場合

```
csccmctl -cluster CLS1 -name ADP1 -targetfilename
adptp1_config.xml -basedir C:¥tmp -operation get
```

(2) 運用環境の定義ファイル「adptp1_config.xml」を設定または更新する場合

```
csccmctl -cluster CLS1 -name ADP1 -targetfilename
adptp1_config.xml -basedir C:¥tmp -operation set
```

(3) 運用環境の定義ファイル「adptp1_config.xml」の設定を削除する場合

```
csccmctl -cluster CLS1 -name ADP1 -targetfilename
adptp1_config.xml -operation reset
```

TP1/RPC 受付の定義ファイルを設定する場合

(1) 定義ファイル「cscurecptp1rpc.properties」を運用環境に取得する場合

```
csccmctl -cluster CLS1 -name RCP1 -targetfilename
cscurecptp1rpc.properties -basedir C:¥tmp -operation get
```

(2) 運用環境の定義ファイル「cscurecptp1rpc.properties」を設定または更新する場合

```
csccmctl -cluster CLS1 -name RCP1 -targetfilename
cscurecptp1rpc.properties -basedir C:¥tmp -operation set
```

(3) 運用環境の定義ファイル「cscurecptp1rpc.properties」の設定を削除する場合

```
csccmctl -cluster CLS1 -name RCP1 -targetfilename
cscurecptp1rpc.properties -operation reset
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- -operation set オプションまたは -operation reset オプションは，コンポーネントの配備前に実行してください。

csccompoconfig（HCSC コンポーネントの定義）

形式

```
csccompoconfig [-h]
          -user <ログインユーザID>
          -pass <ログインパスワード>
          {-operation get -csc <HCSCサーバ名>
            [-outputfile <出力先パス付きファイル名>]
            |-operation set -propfile
              <コンポーネントランタイム定義ファイル名
            |アプリケーション統合属性ファイル名>
          {-csc <HCSCサーバ名>|-cluster <クラスタ名>}}
          -name <受付ID>
```

機能

ユーザ定義受付の定義情報の取得および変更をします。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-operation {get | set}

このコマンドの動作を指定します。

- get
  指定したユーザ定義受付に設定されている定義を標準出力に出力します。
- set
  -propfile オプションで指定したファイルの内容を指定したユーザ定義受付に反映します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバ名を指定します。

-outputfile < **出力先パス付きファイル名** > ～ ((1 － 200 **バイト**))

-operation get オプションを指定したときに，定義内容を出力するファイル名とパスを指定します。相対パス，または絶対パスで指定します。

-propfile < **コンポーネントランタイム定義ファイル名**｜**アプリケーション統合属性ファイル名** > ～ ((1 － 200 **バイト**))

次に示すどちらかの受付に定義する定義一覧を記載したファイル名を指定します。相対パス，または絶対パスで指定します。-operation set オプションを指定したときに有効になります。

- SOAP ユーザ定義受付：コンポーネントランタイム定義ファイルを設定します。
- カスタム受付：アプリケーション統合属性ファイルを設定します。

-cluster < **クラスタ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))<<-csc **オプションで指定したサーバ名** >>

クラスタ名を指定します。-operation set オプションを指定したときに有効になります。また，クラスタ種別が HA のときに -cluster オプションを指定するとエラーになります。

-name < **受付** ID> ～ <**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 **文字以上**))

ユーザ定義受付の受付 ID を指定します。

出力形式

-operation get オプションを指定した場合の出力形式を示します。

- SOAP ユーザ定義受付

```
user-defined-reception-soap.instance.maximum=20
user-defined-reception-soap.queue-size=1000
user-defined-reception-soap.exclusive.threads=2
```

- カスタム受付
  アプリケーション統合属性ファイル形式に従います。

-operation get オプションを指定した場合に，-outputfile オプションに出力先パス付きファイル名を指定すると，標準出力する内容が，指定したファイルに出力されます。

入力例

(1) サーバ名 CSCSrv1 に配備されている SOAP ユーザ定義受付 ID「URECP1」の定義を取得する場合

```
csccompoconfig -user admin -pass admin -csc CSCSrv1 -name URECP1
-operation get
```

(2) サーバ名 CSCSrv1 に配備されている SOAP ユーザ定義受付 ID「URECP1」の定義をファイルに出力する場合

```
csccompoconfig -user admin -pass admin -csc CSCSrv1 -name URECP1
-operation get -outputfile runtime_recp1.properties
```

(3) サーバ名 CSCSrv1 に配備されているカスタム受付 ID「CRECP1」の定義を取得する場合

```
csccompoconfig -user admin -pass admin -csc CSCSrv1 -name CRECP1
-operation get
```

(4) サーバ名 CSCSrv1 に配備されているカスタム受付 ID「CRECP1」の定義をファイルに出力する場合

```
csccompoconfig -user admin -pass admin -csc CSCSrv1 -name CRECP1
-operation get -outputfile userdef_crecp1.xml
```

(5) クラスタ名 CLS1 に配備されているすべての SOAP ユーザ定義受付 ID「URECP1」の定義を設定する場合

```
csccompoconfig -user admin -pass admin -cluster CLS1 -name URECP1
-operation set -propfile cscurcptnconfig.properties
```

(6) クラスタ名 CLS1 に配備されているすべてのカスタム受付 ID「CRECP1」の定義を設定する場合

```
csccompoconfig -user admin -pass admin -cluster CLS1 -name CRECP1
-operation set -propfile userdef_crecp1.xml
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- SOAP ユーザ定義受付の場合，このコマンドはコンポーネント配備後に実施してください。
- カスタム受付の場合，このコマンドはコンポーネント配備後で，かつサービス停止時に実施してください。
- このコマンドを配備前のコンポーネントに実行した場合はエラーとなります。
- デフォルト値から変更していない値は出力されません。
- コンポーネントを削除したときに，そのコンポーネントに設定した値は無効になります。

csccompodeploy（HCSC コンポーネントの配備）

形式

```
csccompodeploy [-h]
               -user <ログインユーザID>
               -pass <ログインパスワード>
               {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
               {-name <サービスID｜受付ID>｜-all}
```

機能

セットアップ済みの HCSC サーバに，HCSC コンポーネントを配備します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

HCSC コンポーネントを配備する HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

HCSC コンポーネントを一括配備するクラスタ名を指定します。なお，クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-name < **サービス** ID ｜ **受付** ID>　**～** ((1 **文字以上**))

配備する HCSC コンポーネントのサービス ID または受付 ID を指定します。

-all

未配備の HCSC コンポーネントをすべて配備します。-csc と同時に指定した場合は，その HCSC サーバ内で未配備の HCSC コンポーネントをすべて配備します。-cluster と同時に指定した場合は，そのクラスタ内で未配備の HCSC コンポーネントをすべて配備します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

csccompostart（HCSC コンポーネントの開始）

形式

```
csccompostart [-h]
              -user <ログインユーザID>
              -pass <ログインパスワード>
              {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
              {-name <サービスID｜受付ID>｜-all }
```

機能

HCSC コンポーネントを開始します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

開始する HCSC コンポーネントの HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

HCSC コンポーネントを一括開始するクラスタ名を指定します。クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-name < **サービス** ID ｜ **受付** ID> ～ ((1 **文字以上**))

開始する HCSC コンポーネントのサービス ID または受付 ID を指定します。-cluster と同時に指定した場合は，クラスタ内の同じサービス ID の HCSC コンポーネントをすべて開始します。

-all

指定範囲内で停止中の HCSC コンポーネントをすべて開始します。-csc と同時に指定した場合は，指定した HCSC サーバ内で停止中のすべての HCSC コンポーネントを開始します。-cluster と同時に指定した場合は，指定したクラスタ内で停止中のすべての HCSC コンポーネントを開始します。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC 下にある BP1 を開始する場合

```
csccompostart -user admin -pass admin -csc HCSC -name BP1
```

(2)HCSC サーバ HCSC 下にあるすべての HCSC コンポーネントを一括開始する場合

```
csccompostart -user admin -pass admin -csc HCSC -all
```

(3)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバごとに BP1 を一括開始する場合

```
csccompostart -user admin -pass admin -cluster Cluster -name BP1
```

(4)Cluster クラスタ下にあるすべての HCSC コンポーネントを一括開始する場合

```
csccompostart -user admin -pass admin -cluster Cluster -all
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは停止状態の HCSC コンポーネントに対して実行してください。
- コマンド実行時に HCSC サーバは起動している必要があります。
- -cluster や -all を指定してエラーになった場合，結果を cscstatus コマンドで確認し，障害要因を取り除いたあとに，再度コマンドを実行してください。

csccompostop（HCSC コンポーネントの停止）

形式

```
csccompostop [-h]
             -user <ログインユーザID>
             -pass <ログインパスワード>
             {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
             {-name <サービスID｜受付ID>｜-all}
```

機能

HCSC コンポーネントを停止します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

停止する HCSC コンポーネントの HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

HCSC コンポーネントを一括停止するクラスタ名を指定します。クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-name < **サービス** ID ｜ **受付** ID> ～ ((1 **文字以上**))

停止する HCSC コンポーネントのサービス ID または受付 ID を指定します。-cluster と同時に指定した場合は，クラスタ内の同じサービス ID の HCSC コンポーネントをすべて停止します。

-all

指定範囲内で開始中の HCSC コンポーネントをすべて停止します。-csc と同時に指定した場合は，その HCSC サーバ内で開始中のすべての HCSC コンポーネントを停止します。-cluster と同時に指定した場合は，そのクラスタ内で開始中のすべての HCSC コンポーネントを停止します。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC 下にある BP1 を停止する場合

```
csccompostop -user admin -pass admin -csc HCSC -name BP1
```

(2)HCSC サーバ HCSC 下にあるすべての HCSC コンポーネントを一括停止する場合

```
csccompostop -user admin -pass admin -csc HCSC -all
```

(3)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバごとに BP1 を一括停止する場合

```
csccompostop -user admin -pass admin -cluster Cluster -name BP1
```

(4)Cluster クラスタ下にあるすべての HCSC コンポーネントを一括停止する場合

```
csccompostop -user admin -pass admin -cluster Cluster -all
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは開始状態の HCSC コンポーネントに対して実行してください。
- コマンド実行時に HCSC サーバは起動している必要があります。
- -cluster や -all を指定してエラーになった場合，結果を cscstatus コマンドで確認し，障害要因を取り除いたあとに，再度コマンドを実行してください。

csccompoundeploy（配備済みの HCSC コンポーネントの削除）

形式

```
csccompoundeploy [-h]
                 -user <ログインユーザID>
                 -pass <ログインパスワード>
                 {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
                 {-name <サービスID｜受付ID>｜-all }
                 [-force]
                 [-ignore]
```

機能

実行環境に配備した HCSC コンポーネントを削除します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

実行環境から削除する HCSC コンポーネントが属している HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

HCSC コンポーネントを一括削除するクラスタ名を指定します。なお，クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-name < **サービス** ID ｜ **受付** ID>　〜 ((1 **文字以上**))

実行環境から削除する HCSC コンポーネントのサービス ID または受付 ID を指定します。

-all

配備した HCSC コンポーネントをすべて削除します。-csc と同時に指定した場合は，その HCSC サーバ内に配備された HCSC コンポーネントをすべて削除します。-cluster と同時に指定した場合は，そのクラスタ内に配備された HCSC コンポーネントをすべて削除します。

-force

配備したサービスアダプタを強制削除します。このオプションは，サービスアダプタに対して有効です。ビジネスプロセスおよびユーザ定義受付に対してこのオプションを指定しても，削除されません。なお，削除するサービスアダプタが非同期（MDB（WS-R））の場合，転送キューにメッセージが残っていてもサービスアダプタを削除します。

-ignore

実行環境へ配備した HCSC コンポーネントの削除に失敗した場合にも，リポジトリの情報を更新する場合に指定します。ハードディスク障害やアンセットアップ時の通信障害による実行環境とリポジトリ環境の不整合を調整するために使用します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
4	仕掛かっている電文があるため，アダプタの削除に失敗しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscenvbackup（HCSC-Manager 環境のバックアップ）

形式

```
cscenvbackup [-h]
             -user <ログインユーザID>
             -pass <ログインパスワード>
             [-backupdir <バックアップファイル出力先ディレクトリ>]
```

機能

HCSC-Manager 環境で発生した障害の復旧やスケールアップなどの環境移行をするために，HCSC-Manager 環境の復元に必要なファイルをバックアップします。バックアップファイル名は，次の形式で付与されます。

cscmngBKaaabbbcccddd_YYYYMMDDhhmmss.zip

cscmngBK：
　HCSC-Manager 環境のバックアップファイルであることを示します。

aaabbbcccddd：
　コマンドを実行したマシンの IP アドレスを示します。ただし，IP アドレスの取得に失敗した場合は，ファイル名に含まれません。

YYYYMMDDhhmmss：
　バックアップした時間を示します。
　YYYY：西暦年，MM：月，DD：日，hh：時，mm：分，ss：秒

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-backupdir < **バックアップファイル出力先ディレクトリ** > ((1 － 100 **バイト**))

HCSC-Manager 環境のバックアップファイルの出力先ディレクトリを指定します。このオプションを省略した場合，HCSC-Manager 定義ファイルに指定した出力先が仮定されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

cscrepdiff コマンドで現在のシステム構成情報との比較はできません。

cscenvrestore（HCSC-Manager 環境のリストア）

形式

```
cscenvrestore [-h]
              -user <ログインユーザID>
              -pass <ログインパスワード>
             -restorefile <HCSC-Manager動作環境のバックアップファイル名>
```

機能

次に示す HCSC-Manager 環境のバックアップファイルを利用して環境を復元します。

- リポジトリインポート成功時に自動的に取得したバックアップファイル
- cscenvbackup コマンドで取得したバックアップファイル

これら以外のファイルから環境を復元することはできません。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-restorefile <HCSC-Manager **動作環境のバックアップファイル名** >　**～** ((1 － 200 **バイト**))

復元する HCSC-Manager 動作環境のバックアップファイル名を指定します。デフォルトはリポジトリインポート成功時に自動取得したバックアップファイルです。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

HCSC サーバ環境に合った HCSC-Manager 環境のバックアップファイルで復元してください。

cscenvupdate（実行環境のバージョンアップ）

形式

```
cscenvupdate [-h]
             -csc <HCSCサーバ名>
             [-force]
```

機能

指定したHCSCサーバに対して，実行環境のアップデートやデータベースの更新を実行します。運用環境のリポジトリのバージョンが古い場合は，リポジトリのアップデートも同時に実行されます。

HCSCサーバ名は，HCSC-Managerコマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

バージョンアップするHCSCサーバ名を指定します。

-force

cscenvupdateコマンドを実行中ではないが，エラーとなる場合に，仕掛かり中のバージョンアップを実行します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- データベースがHiRDBの場合にローリングアップデートをすると，エラーが発生することがあります。詳細は，マニュアル「Cosminexusサービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録G.4　ローリングアップデートの場合の移行手順」を参照してください。

- コマンドがエラーになった場合は，エラーを取り除いてコマンドを再実行してください。
- リポジトリのアップデート処理中にファイル入出力エラーが発生した際，コマンドの再実行時にメッセージ KEOS50133-E が出力される場合があります。この場合は，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「7.6.2　ファイルの入出力に失敗した場合の回復方法」を参照して，手動で環境を復旧してください。
- 運用環境のリポジトリのバージョンが古い場合は，次に示すディレクトリのあるドライブに対し，リポジトリのディスク使用量の 3 倍以上の空き容量があることを確認してください。
  - Cosminexus のインストールディレクトリ
  - CSCMNG_HOME 環境変数に設定したディレクトリ

cscfscls（共通フォルダの参照）

形式

```
cscfscls [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
         {-folder <共通フォルダ定義名>｜-all}
         [-t <開始日時>｜-d <日数>]
```

機能

共通フォルダ内のファイルを参照します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

共通フォルダ以下に，ユーザが作成したファイルおよびディレクトリが存在する場合は，ファイルだけが表示されます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。大文字と小文字は区別されます。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-cluster < **クラスタ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

クラスタ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-folder < **共通フォルダ定義名** > 　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 64 **文字**))

共通フォルダ定義名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-all

すべての共通フォルダを対象とします。

-t < **開始日時** >

指定した日時より以前の共通フォルダ内のファイルを参照します。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，存在する日時を指定してください。

- 開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-d < **日数** > 　**～<整数>** ((0 － 365))

指定した日数より以前の共通フォルダ内のファイルを参照します。日数を日単位で指定してください。0 を指定した場合，すべての共通フォルダ内のファイルを参照します。

出力形式

HCSCServerName CommonFolderName FileSize LastModifiedTime FileName

<HCSC サーバ名 > < 共通フォルダ定義名 > < ファイルサイズ > < ファイルの最終更新時刻 > < ファイル名 >

<HCSC サーバ名 > < 共通フォルダ定義名 > < ファイルサイズ > < ファイルの最終更新時刻 > < ファイル名 >

説明

表示項目	説明
HCSCServerName	HCSC サーバ名を示します。
CommonFolderName	共通フォルダ定義名を示します。
FileSize	ファイルサイズ（バイト）を示します。
LastModifiedTime	ファイルの最終更新時刻（YYYY/MM/DD hh:mm:ss）を示します。
FileName	ファイル名を示します。ファイル名が 200 バイトを超える場合は，先頭から 200 バイトまでを表示します。

出力例を次に示します。

```
HCSCServerName CommonFolderName FileSize LastModifiedTime    FileName
HCSC           FOLDER1          1024     2010/04/26 14:26:39
ftpcommon.txt2010_04_26_14_26_39_111
HCSC           FOLDER2          1050     2010/04/26 14:26:40
ftp.txt2010_04_26_14_26_39_222
HCSC           FOLDER3          1020     2010/04/26 14:26:50
ftp.txt2010_04_26_14_26_39_333
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscfscrm（共通フォルダの削除）

形式

```
cscfscrm [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         {-csc <HCSCサーバ名>|-cluster <クラスタ名>}
         {-folder <共通フォルダ定義名>
         [-targetfilename <ファイル名>|-t <削除開始日時>|-d <日数>]
         |-all [-t <削除開始日時>|-d <日数>]}
         [-retrycount <リトライ回数>]
         [-retryinterval <リトライ間隔(秒)>]
```

機能

共通フォルダ内のファイルを削除します。共通フォルダ，および共通フォルダ以下のフォルダは削除されません。

リトライ回数およびリトライ間隔はロックの取得時に使用します。複数のファイルを指定した場合，それぞれのファイルに対して有効になります。

複数のファイルを削除する場合，エラーが発生したあと，処理を中断します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。大文字と小文字は区別されます。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-cluster < **クラスタ名** > 〜<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 − 8 **文字**))

クラスタ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-folder < **共通フォルダ定義名** > 〜<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 − 64 **文字**))

共通フォルダ定義名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-targetfilename < **ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

削除したいファイル名を指定します。

共通フォルダ内にあるファイルを指定してください。共通フォルダ内のファイルを参照するには，cscfscls コマンドを実行してください。

-t < **削除開始日時** >

指定した日時より以前の共通フォルダ内のファイルを削除します。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，存在する日時を指定してください。

- 削除開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-d < **日数** > 〜<**整数**> ((0 − 365))

指定した日数より以前の共通フォルダ内のファイルを削除します。日数を日単位で指定してください。0 を指定した場合，すべての共通フォルダ内のファイルを削除します。

-all

すべての共通フォルダを対象とします。

-retrycount < **リトライ回数** > 〜<**整数**> ((0 − 10000))

リトライ回数を指定します。デフォルトは 0 です。

0 を指定した場合，リトライをしません。

-retryinterval < **リトライ間隔** (**秒**)> 〜<**整数**> ((0 − 86400))

リトライ間隔を秒で指定します。デフォルトは 1 です。

0 を指定した場合，間隔を空けずにリトライを実施します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- コマンドを実行する前に，共通フォルダ以下に必要なファイルがないか確認してください。

cscfswls（作業フォルダの参照）

形式

```
cscfswls [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
         {-name <受付ID>｜-all}
         [-t <開始日時>｜-d <日数>]
```

機能

FTP 受付単位で作業フォルダを参照します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

作業フォルダ以下に，ユーザがファイルおよびディレクトリを作成した場合，ディレクトリだけが表示されます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-pass < **ログインパスワード** >　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。大文字と小文字は区別されます。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-cluster < **クラスタ名** >　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 8 **文字**))

クラスタ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-name < **受付** ID>　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 8 **文字**))

受付 ID を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-all

すべての作業フォルダを対象とします。

-t < 開始日時 >

指定した日時より以前の作業フォルダを参照します。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，存在する日時を指定してください。

- 開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-d < 日数 > ～< 整数 > ((0 － 365))

指定した日数より以前の作業フォルダを参照します。日数を日単位で指定してください。0 を指定した場合，すべての作業フォルダを参照します。

出力形式

HCSCServerName ReceptionID FolderSize LastModifiedTime FolderName

<HCSC サーバ名 > < 受付 ID> < フォルダ内のファイルサイズ合計 > < 最終更新時刻 > < フォルダ名 >

<HCSC サーバ名 > < 受付 ID> < フォルダ内のファイルサイズ合計 > < 最終更新時刻 > < フォルダ名 >

説明

表示項目	説明
HCSCServerName	HCSC サーバ名を示します。
ReceptionID	受付 ID を示します。
FolderSize	フォルダ内のファイルサイズの合計のバイト数を示します。フォルダ自身のサイズは含まれません。
LastModifiedTime	フォルダの最終更新時刻（YYYY/MM/DD hh:mm:ss）を示します。 フォルダ内にファイルが存在する場合は，存在するファイルの中で最終更新時刻が最も新しいファイルの最終更新時刻を出力します。
FolderName	フォルダ名を示します。

出力例を次に示します。

```
HCSCServerName ReceptionID FolderSize LastModifiedTime    FolderName
HCSC           rcp1        1020       2010/04/26 14:26:39
01111101111120100426142639111000
HCSC           rcp2        1030       2010/04/26 14:26:40
01111101111120100426142640111000
HCSC           rcp3        1004       2010/04/26 14:26:50
01111101111120100426142650111000
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscfswrm（作業フォルダの削除）

形式

```
cscfswrm [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
         {-name <受付ID>｜-all }
         [ -t <削除開始日時>｜-d <日数>]
```

機能

FTP 受付単位で作業フォルダを削除します。

複数のファイルを削除する場合，エラーが発生したあとの処理は終了します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。大文字と小文字は区別されます。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-cluster < **クラスタ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

クラスタ名を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-name < **受付** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

受付 ID を指定します。大文字と小文字は区別されます。

-all

すべての作業フォルダを対象とします。

-t < 削除開始日時 >

指定した日時より以前の作業フォルダを削除します（作業フォルダ内のファイルやフォルダも削除します）。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，存在する日時を指定してください。

- 削除開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-d < 日数 > 〜＜整数＞ ((0 − 365))

指定した日数より以前の作業フォルダ内のファイルを削除します。日数を日単位で指定してください。0 を指定した場合，すべての作業フォルダを削除します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意

- 削除開始日時には，実行環境の日時を指定してください。
- コマンドを実行する前に，作業フォルダ以下に必要なディレクトリおよびファイルがないか確認してください。

cscpasswd（ユーザの管理）

形式

```
cscpasswd [-h]
          -user <ログインユーザID>
          -pass <ログインパスワード>
          {-print
             |-cscmnguser <変更後のユーザID>
              -cscmngpass <変更後のパスワード>
             |-mng <Cosminexus Manager名>
              -mnguser <変更後のユーザID>
              [-mngpass <変更後のパスワード>]
             |-csc <HCSCサーバ名>
              -cscuser <変更後のユーザID>
              -cscpass <変更後のパスワード>}
```

機能

指定された条件に従ってユーザ情報を変更します。変更した情報は，コマンド正常終了後，次の画面でのログイン時，または次のコマンド起動時に反映されます。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-print

HCSC-Manager が管理している HCSC-Manager のユーザ ID，Cosminexus Manager へアクセスするユーザ ID，および HCSC サーバが使用するデータベースへアクセスするユーザ ID を表示します。

-cscmnguser < **変更後のユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager の変更後のユーザ ID を指定します。

-cscmngpass < **変更後のパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

変更後の HCSC-Manager のユーザ ID に対するパスワードを指定します。

-mng <Cosminexus Manager **名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

Cosminexus Manager セットアップ時に入力した Cosminexus Manager 名を指定します。Cosminexus Manager へログイン時のユーザ情報を変更する場合に指定します。HCSC サーバ構成定義ファイルで指定した Cosminexus Manager 名を指定してください。

-mnguser < **変更後のユーザ** ID> ～ ((1 **文字以上**))

変更後の Cosminexus Manager のユーザ ID を指定します。

-mngpass < **変更後のパスワード** > ～ ((1 **文字以上**))

変更後の Cosminexus Manager のユーザ ID に対するパスワードを指定します。変更する Cosminexus Manager のユーザ ID にパスワードを設定している場合にだけ，このオプションを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバのセットアップ時に入力した HCSC サーバ名を指定します。HCSC サーバへログイン時のユーザ情報を変更する場合に指定します。

-cscuser < **変更するユーザ** ID> ～ ((1 **文字以上**))

HCSC サーバが使用するデータベースのユーザ ID を指定します。

-cscpass < **変更するパスワード** > ～ ((1 **文字以上**))

変更する HCSC サーバが使用するデータベースの，ユーザ ID に対するパスワードを指定します。

入力例

(1)HCSC-Manager のユーザ ID を user1 に，パスワードを password に変更する場合

```
cscpasswd -user admin -pass admin -cscmnguser user1 -cscmngpass
password
```

(2)Cosminexus Manager 名が Manager のユーザ ID を admin に，パスワードを admin に変更する場合

```
cscpasswd -user admin -pass admin -mng Manager -mnguser admin
-mngpass admin
```

(3)HCSC サーバ名が HCSC で，アクセスするデータベースのユーザ ID を server1 に，パスワードを password に変更する場合

```
cscpasswd -user admin -pass admin -csc HCSC -cscuser server1
-cscpass password
```

(4)HCSC サーバ名が HCSC で，アクセスするデータベースのユーザ ID を "user1" に，パスワードを "pass" に変更する場合

```
cscpasswd -user admin -pass admin -csc HCSC -cscuser ¥"user1¥"
-cscpass ¥"pass¥"
```

(5)HCSC-Manager のユーザ情報を表示する場合

```
cscpasswd -user admin -pass admin -print
```

表示形式

(1) ユーザ情報（-print 指定時）

```
HCSC-Manager:HCSC-Managerのユーザ ID
 + Cosminexus Manager名:Cosminexus Manager名に対応するユーザ ID
          HCSCサーバ名:HCSCサーバ名に対応するユーザ ID
          HCSCサーバ名:HCSCサーバ名に対応するユーザ ID
                        :
 + Cosminexus Manager名:Cosminexus Manager名に対応するユーザ ID
          HCSCサーバ名:HCSCサーバ名に対応するユーザ ID
                        :
```

注　データベースにユーザ ID を設定していない場合，HCSC サーバ名に対応するユーザ ID が表示されません。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

HCSC-Manager のユーザ ID，パスワードを忘れた場合，次に示すコマンドを入力すると，HCSC-Manager のユーザを初期化できます。

```
cscpasswd -clean
```

初期化後は，ユーザ ID とパスワードに共に「admin」が仮定されます。初期化したあとは，必ずユーザ ID とパスワードを変更してください。

cscmsgtk（メッセージトラッキング機能の起動）

形式

```
cscmsgtk [-h]
         -prf <性能解析トレースファイル名>
         [-date [<読み込み開始日時>],[<読み込み終了日時>]]
```

機能

指定した条件の性能解析トレースを読み込み，メッセージトラッキング機能を起動します。メッセージトラッキング機能が起動すると，メッセージトラッキング専用の対話型のプロンプトが表示されます。このプロンプトは，メッセージトラッキング機能で使用するコマンド（メッセージトラッキングプロンプト専用のコマンド）の入力待ち状態となります。

性能解析トレースファイル名は，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-prf < **性能解析トレースファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

メッセージトラッキング機能の起動時に読み込む性能解析トレースのファイル名（CSV 形式）を絶対パス，または相対パスで指定します。指定したファイルがない場合，異常終了します。

-date [< **読み込み開始日時** >],[< **読み込み終了日時** >] 〜<半角数字>

メッセージトラッキング機能の起動時に読み込む性能解析トレースの範囲を指定します。なお，読み込み開始日時および読み込み終了日時は，次のどれかの形式で指定してください。また，日時には存在するものを指定してください。

形式 1：hhmmssMMddyyyy

形式 2：hhmmssMMdd

形式 3：hhmmss

- hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
- mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
- ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

- MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
- dd：日（01 ≦ dd ≦ 31）
- yyyy：西暦年（1970 ≦ yyyy）

西暦年だけを省略した場合（形式 2），コマンド実行時の西暦年を設定します。西暦年，月，および日を省略した場合（形式 3），コマンド実行時の西暦年，月，および日を設定します。読み込み開始日時を省略した場合は，最も古い性能解析トレースから読み込みます。読み込み終了日時を省略した場合は，最も新しい性能解析トレースまで読み込みます。

メッセージトラッキングプロンプトで使用するコマンド

障害解析コマンド

形式

```
prf <ルートアプリケーション情報のIPアドレス>/<ルートアプリケーション情報
のプロセスID>/<ルートアプリケーション情報の通信番号>
[<通番>]
```

説明

指定したルートアプリケーション情報に一致する性能解析トレースの情報を出力します。

ルートアプリケーション情報の IP アドレス / ルートアプリケーション情報のプロセス ID/ ルートアプリケーション情報の通信番号

通番

指定した性能解析トレースの詳細情報を出力します。

一覧表示コマンド

形式

```
ls [-e] [-t] [<表示する件数>]
```

説明

ルートアプリケーション情報の一覧を出力します。出力開始日時の昇順に出力されます。

-e

エラーが発生したルートアプリケーション情報を出力します。リターンコードが 0 以外のトレースを含むルートアプリケーション情報だけが出力されます。

-t

ルートアプリケーション情報が示す一連の性能解析トレースで，最初に出力されたトレースから最後に出力されたトレースまでの経過時間が長いルートアプリケーション情報を出力します。経過時間の昇順に出力されます。

表示する件数

指定した件数のルートアプリケーション情報を出力します。性能解析トレースの出力開始日時が新しい方から，指定した件数分が出力されます。

参考

オプションは「-et」のように，続けて指定することもできます。
（例）表示件数を 3 件に指定した場合
ls -et 3

解析対象絞り込みコマンド

形式

```
focus [<絞り込み日時>]
```

説明

指定した絞り込み日時に実行していた処理のトレースだけを解析対象に絞り込みます。

絞り込み日時

性能解析トレースの絞り込み日時を次のどれかの形式で指定します。また，日時には存在するものを指定してください。
形式 1：hhmmssMMddyyyy
形式 2：hhmmssMMdd
形式 3：hhmmss

- hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
- mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
- ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）
- MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
- dd：日（01 ≦ dd ≦ 31）
- yyyy：西暦年（1970 ≦ yyyy）

西暦年だけを省略した場合（形式 2），コマンド実行時の西暦年を設定します。
西暦年，月，および日を省略した場合（形式 3），コマンド実行時の西暦年，月，および日を設定します。
メッセージトラッキング機能の起動時の範囲に解析対象を戻したい場合は，絞り込み日時の指定を省略して focus コマンドを実行します。

出力モード切り替えコマンド

形式

```
mode {normal | detail}
```

説明

性能解析トレースの出力モードを切り替えます。

- normal
  標準出力モードで出力します。Cosminexus サービスプラットフォームのトレースポイントで取得される性能解析トレースだけが出力されます。
- detail
  詳細出力モードで出力します。すべての性能解析トレースが出力されます。

トレース取得ポイント表示コマンド

形式

```
id {<イベントID> | list}
```

説明

性能解析トレースの取得ポイントを表示します。

- **イベント** ID
  指定したイベント ID のトレース取得ポイントが表示されます。
- list
  Cosminexus サービスプラットフォームのすべてのトレース取得ポイントが表示されます。

終了コマンド

形式

```
quit
```

説明

メッセージトラッキングプロンプトを終了します。

ヘルプ表示コマンド

形式

```
help | ?
```

説明

ヘルプ情報を表示します。

入力例

(1) すべてのトレースを読み込む場合

```
cscmsgtk -prf prf_trace.csv
```

(2) コマンド実行日の 8 時 45 分 00 秒から 17 時 15 分 00 秒の間に取得したトレースを読み込む場合

```
cscmsgtk -prf prf_trace.csv -date 084500,171500
```

(3) コマンド実行年の 3 月 23 日 8 時 45 分 00 秒から 3 月 24 日 17 時 15 分 00 秒の間に取得したトレースを読み込む場合

```
cscmsgtk -prf prf_trace.csv -date 0845000323,1715000324
```

(4)2008 年 3 月 23 日 8 時 45 分 00 秒から 2008 年 3 月 24 日 17 時 15 分 00 秒の間に取得したトレースを読み込む場合

```
cscmsgtk -prf prf_trace.csv -date 08450003232008,17150003242008
```

(5) コマンド実行日の 17 時 15 分 00 秒以前に取得したすべてのトレースを読み込む場合

```
cscmsgtk -prf prf_trace.csv -date ,171500
```

(6) コマンド実行日の 8 時 45 分 00 秒以降に取得したすべてのトレースを読み込む場合

```
cscmsgtk -prf prf_trace.csv -date 084500,
```

注意事項

- 次の場合はエラーになります。
  - コマンドの引数の構文が不正な場合
  - 性能解析トレースファイルへのアクセスに失敗した場合
  - 読み込み開始日時または読み込み終了日時の指定に誤りがある場合
- cscmsgtk コマンドの実行中，またはメッセージトラッキング機能の起動中に表示されるメッセージは，ログファイルには出力されません。
- ほかのコマンドの実行中に，ファイルサイズの大きい性能解析トレースファイルを読み込んでメッセージトラッキング機能を起動した場合，ほかのコマンドのスループットが低下するおそれがあります。

cscpidelete（プロセスインスタンスの実行履歴の削除）

形式

```
cscpidelete [-h]
            -user <ログインユーザID>
            -pass <ログインパスワード>
            -csc <HCSCサーバ名>
            {-where <where句>
              |-idlist <プロセスインスタンスの識別子のリストが
                       記載されたファイル名>
              |-wherefile <where句が記載されたファイル名>
              |[-processname <ビジネスプロセス定義名>]
               [-date [<照会開始日時>],<照会終了日時>]
              [-status {executing|completed|faulted|error|all}]
              |-force}
            [-encoding <エンコーディング名>]
```

機能

セットアップ後の HCSC サーバに対して，指定された条件に従ってプロセスインスタンスの実行履歴を削除します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

SQL を実行する HCSC サーバ名を指定します。

-where <where 句 > 〜 ((1 文字以上))

削除対象となるプロセスインスタンスのプロセス概要情報を検索するための where 句を指定します。where 句に記載できる内容については，使用しているデータベースの SQL リファレンスマニュアルを参照してください。

なお，where 句には，テーブル名の指定およびコメント行の追加はできません。where 句の設定で，誤った例と正しい例を次に示します。

設定例 1

誤った例：テーブル名を指定している

```
P.Status='Completed'
```

正しい例：テーブル名を指定していない

```
Status='Completed'
```

設定例 2

誤った例：コメント行を追加している

```
Status='Completed' AND
# ProcessDefinitionName like 'BP%'
```

正しい例：：コメント行を追加していない

```
Status='Completed' AND
ProcessDefinitionName like 'BP%'
```

-idlist < プロセスインスタンスの識別子のリストが記載されたファイル名 > 〜 ((1 − 200 バイト))

プロセスインスタンスの識別子のリストが記載されたファイル名を指定します。プロセスインスタンスの識別子のリストは，改行区切り（「¥r¥n」または「¥n」）で記載します。ファイルパスは，絶対パス，または相対パスで指定します。一つの改行の先頭と終端の空白文字は削除します。設定例を次に示します。

設定例

ProcessID が「11111」,「44444」,「77777」のビジネスプロセスを削除する場合（改行コードは「¥n」で表示しています）。

```
11111¥n
44444¥n
77777¥n
```

-wherefile <where 句が記載されたファイル名 > 〜 ((1 − 200 バイト))

where 句が記載されたファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。指定されたファイル内容に改行コードをスペースに置き換えて，プロセス概要情報を検索し，該当するプロセスインスタンスの実行履歴を削除します。

-processname < ビジネスプロセス定義名 > 〜 ((1 文字以上))

指定したビジネスプロセス定義名のプロセスインスタンスを削除します。

-date [< 照会開始日時 >],< 照会終了日時 > 〜＜半角数字＞

指定した照会開始日時から照会終了日時までの間に開始したプロセスインスタンスを削

除します。照会開始日時を省略した場合，照会終了日時より前に開始したプロセスインスタンスを削除します。照会開始日時と照会終了日時の間のコンマ（,）の前後に余分なスペースを指定しないでください。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，日時の指定にはデフォルトタイムゾーンを使用してください。

- 照会開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
- 照会終了日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-status {executing ｜ completed ｜ faulted ｜ error ｜ all}　〜 <<completed>>

指定した状態のプロセスインスタンスを削除します。-where オプション，-idlist オプション，-wherefile オプション，-status オプション，および -force オプションをすべて省略した場合，このオプションの completed が有効になります。

- executing
  状態が「実行中」のプロセスインスタンスの履歴情報を削除します。
- completed
  状態が「完了」のプロセスインスタンスの履歴情報を削除します。
- faulted
  状態が「フォルト終了」のプロセスインスタンスの履歴情報を削除します。
- error
  状態が「エラー発生」のプロセスインスタンスの履歴情報を削除します。
- all
  全状態のプロセスインスタンスの履歴情報を削除します。

-force

データベース内の全プロセスインスタンスの情報を削除します。

-encoding < **エンコーディング名** >　〜 ((1 **文字以上**)) <<JavaVM **のデフォルトエンコーディング** >>

-wherefile オプションや -idlist オプションで指定した入力ファイルのエンコーディング名を指定します。次のエンコーディング名を指定できます。

- UTF-8
- US-ASCII
- ISO-8859-1
- JavaVM がサポートしているエンコーディング名

入力例

(1) 全情報を削除する場合

```
cscpidelete -user admin -pass admin -csc HCSC -force
```

(2) ステータスが「完了」のプロセスをすべて削除する場合

```
cscpidelete -user admin -pass admin -where "State='Completed'"
```

(3)ProcessID が「11111」,「22222」, および「33333」のプロセスを削除する場合

- where 句が記載されたファイルで指定する場合
  cscpidelete -user admin -pass admin -wherefile delete_where.txt -csc HCSC
  delete_where.txt の中身
  ProcessID='11111' OR ProcessID='22222' OR ProcessID='33333'
- プロセスインスタンスの識別子のリストを改行区切りで作成したファイルで指定する場合
  cscpidelete -user admin -pass admin -idlist idlist.txt -csc HCSC
  idlist.txt の中身
  11111
  22222
  33333

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは SQL の where 句をオプションに指定します。そのため，使用するユーザ ID およびパスワードを定期的に変更するなどして，第三者に不当にコマンドを実行されないようにしてください。
- 100 件以上のプロセスインスタンスを削除対象として指定し，101 件目以降の削除で例外が発生した場合，削除対象となっていた前 100 件のプロセスインスタンスは削除済みの状態になります。その場合，前 100 件の削除済みの情報は，エラーメッセージの詳細情報として表示されます。
- データベースと Cosminexus RM を使用する場合だけ，このコマンドを使用できます。

cscpireexec（プロセスインスタンスの再実行）

形式

```
cscpireexec [-h]
            -user <ログインユーザID>
            -pass <ログインパスワード>
            -csc <HCSCサーバ名>
            {-processname <ビジネスプロセス定義名>
              |-processnamefile <ビジネスプロセス定義ファイル名>
              |-all}
             [{-processid <プロセスインスタンスの識別子>
              |-processidfile <プロセスインスタンスの識別子を記載した
                              ファイル名>}]
            [-encoding <エンコーディング名>]
            [-summary]
```

機能

指定された条件に従って中断したプロセスインスタンスを再実行します。再実行の対象となるプロセスインスタンスを次に示します。

- サービス呼出アクティビティの状態が「実行中」のプロセスインスタンス
- サービス呼出アクティビティの状態が「エラー発生」のプロセスインスタンス
- 待機アクティビティの状態が「実行中」のプロセスインスタンス

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

再実行する HCSC サーバ名を指定します。

-processname < **ビジネスプロセス定義名** > ～ < XML **スキーマの** NCName **型の文字列** > ((**データベースの文字コードで** 64 **バイト以内**))

実行するプロセスのビジネスプロセス定義名を指定します。

-processnamefile < **ビジネスプロセス定義ファイル名** > ～ ((1 － 200 **バイト**))

再実行するプロセスのビジネスプロセス定義ファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。ファイルはビジネスプロセス定義名だけを指定します。ビジネスプロセス定義ファイルの内容が読み込まれ，前後の空白，タブ，および改行が削除され再実行するプロセスインスタンスの識別子となります。

-all

再実行の対象となるすべてのプロセスインスタンスを一括して再実行します。

-processid < **プロセスインスタンスの識別子** > ～ ((1 － 240 **バイト以内**))

再実行するプロセスの，プロセスインスタンスの識別子を指定します。このオプションと -processidfile オプションを指定していない場合は，-processname オプション，または -processnamefile オプションで指定したビジネスプロセス定義名の中断したプロセスがすべて再実行されます。

プロセスインスタンスの識別子は長い文字列（最大 240 文字）になる可能性があります。応答電文出力ディレクトリに深いディレクトリ階層を設定すると，ファイルを生成できない場合があるため注意してください。再実行しても，応答電文ファイルが生成されない場合はメッセージが出力されます。

-processidfile < **プロセスインスタンスの識別子を記載したファイル名** > ～ ((1 － 200 **バイト**))

再実行するプロセスの，プロセスインスタンスの識別子をファイルに記載し，ファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。プロセスインスタンスの識別子を記載したファイルにはプロセスインスタンスの識別子だけを指定します。コマンド実行時に，プロセスインスタンスの識別子を記載したファイルの内容が読み込まれ，前後の空白，タブ，および改行が削除され再実行するプロセスインスタンスの識別子となります。このオプションと -processid オプションを指定していない場合は，-processname オプション，または -processnamefile オプションで指定したビジネスプロセス定義名の実行中状態で中断したプロセスがすべて再実行されます。

-encoding < **エンコーディング名** > ～ <<JavaVM **のデフォルトエンコーディング** >> ((1 **文字以上**))

processidfile オプションや processnamefile オプションで指定した入力ファイルのエンコーディング名を指定します。次のエンコーディング名を指定できます。

- UTF-8
- US-ASCII

- ISO-8859-1
- JavaVM がサポートしているエンコーディング名

-summary

再実行の結果を成功および失敗の件数で表示する場合に指定します。

入力例

(1) プロセスインスタンスの識別子が「11111」，ビジネスプロセス定義名が「PC 貸し出し」のプロセスインスタンスを再実行する場合

```
cscpireexec -user admin -pass admin -processidfile
process_id.txt  -csc HCSC -processnamefile processname.txt
```

process_id.txt の中身：11111

processname.txt の中身：PC 貸し出し

(2) ビジネスプロセス定義名が「PC 貸し出し」のサービス部品を一括再実行する場合

```
cscpireexec -user admin -pass admin -csc HCSC -processname "PC貸し出し"
```

(3) 再実行の対象となるすべてのプロセスインスタンスを一括再実行する場合

```
cscpireexec -user admin -pass admin -csc HCSC -all
```

表示形式

(1)-summary **未指定時**

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,Result,ErrorMessage
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,呼び出し結果,エラー情報
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,呼び出し結果,エラー情報
  :
```

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_< クラスタ名 >_PROCESS テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
Result	呼び出し結果	呼び出し結果を示します。次のどちらかが表示されます。 Success：呼び出しが正常終了 Failure：呼び出しが失敗	
ErrorMessage	エラー情報	エラー情報を示します。Result 欄（呼び出し結果）の内容によって，次のように表示されます。 Success：「""」 Failure：エラー情報	

(2)-summary **指定時**

KEOS52290-I のメッセージが出力されます。KEOS52290-I のメッセージには，再実行が成功した件数および再実行が失敗した件数が表示されます。詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム メッセージ」の「2.11 KEOS50000 ～ KEOS59999 のメッセージ」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- データベースと Cosminexus RM を使用する場合だけ，このコマンドを使用できます。
- 再実行の対象となるプロセスインスタンスが多数存在する場合，再実行が完了するまでに時間が掛かることがあります。

cscpiselect（プロセスインスタンスの検索）

形式

```
cscpiselect [-h]
            -user <ログインユーザID>
            -pass <ログインパスワード>
            -csc <HCSCサーバ名>
            -table
              {process | activity | link | set | string | numeric | boolean
               | message | relation | process_set}
            [-detail]
            [-separator {comma | tab}]
            [{-count | -orderby <ソート条件>}]
            [{-where <where句>
              | -wherefile <where句が記載されたファイル名>
              | [-processname <ビジネスプロセス定義名>]
                [-date [<照会開始日時>],<照会終了日時>]
             [-status {executing | completed | faulted | error | all}]}]
            [-encoding <エンコーディング名>]
```

機能

セットアップ後の HCSC サーバに対して，指定された条件に従ってビジネスプロセス情報を検索し，CSV または TSV 形式で出力します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

SQL を実行する HCSC サーバ名を指定します。

-table {process ｜ activity ｜ link ｜ set ｜ string ｜ numeric ｜ boolean ｜ message ｜ relation ｜ process_set}

検索するテーブルを指定します。

このオプションに process_set を指定した場合，内部でプロセス概要情報と相関セット情報を連結して検索します。そのため，検索条件にプロセス情報のカラムを指定する場合は，where 句に「P」を，相関セット情報のカラムを指定する場合は，「C」を付けてください。このオプションに process_set 以外を指定した場合は，where 句にテーブル名の指定は不要です。where 句に記載できる内容については，使用しているデータベースの SQL リファレンスマニュアルを参照してください。

- process
  指定した検索条件に該当するプロセスの概要情報を表示します。
  なお，where 句には，テーブル名の指定およびコメント行の追加はできません。
  where 句の設定で，誤った例と正しい例を次に示します。

  設定例 1

  誤った例：テーブル名を指定している
  ```
  P.Status='Completed'
  ```
  正しい例：テーブル名を指定していない
  ```
  Status='Completed'
  ```

  設定例 2

  誤った例：コメント行を追加している
  ```
  Status='Completed' AND
  # ProcessDefinitionName like 'BP%'
  ```
  正しい例：：コメント行を追加していない
  ```
  Status='Completed' AND
  ProcessDefinitionName like 'BP%'
  ```

- activity
  検索条件に該当するアクティビティ情報を表示します。
- link
  検索条件に該当するリンク情報を表示します。
- set
  検索条件に該当する相関セット情報を表示します。
- string
  検索条件に該当する string 変数情報を表示します。
- numeric
  検索条件に該当する numeric 変数情報を表示します。
- boolean
  検索条件に該当する boolean 変数情報を表示します。
- message
  検索条件に該当する message 変数情報を表示します。
- relation
  検索条件に該当するメッセージ関連情報を表示します。

- process_set
  検索条件に該当するプロセス概要情報を相関セット情報から検索し表示します。なお，where 句には，テーブル名を指定してください。where 句の設定で，誤った例と正しい例を次に示します。

  設定例：
  誤った例：テーブル名を指定していない
  ```
  State='Completed'
  ```
  正しい例1：テーブル名を指定している
  ```
  P.State='Completed'
  ```
  正しい例2：テーブル名を指定している
  ```
  P.State='Completed' AND
  C.ProcessDefinitionName like 'BP%'
  ```

-detail

テーブルの全情報を出力する場合に指定します。

-separator {comma ｜ tab}　〜 <<comma>>

情報を区切るセパレータを指定します。

-count

検索結果の行数だけが出力されます。このオプションは，検索結果のデータが大量にある場合に，検索件数だけを知るときに使用します（SQL 文の count(*) に相当します）。

-orderby < **ソート条件** >　〜 ((1 **文字以上**))

データをソートする条件を指定します。SQL 文の order by 句に相当します。-count オプションと同時には指定できません。order by 句に記載できる内容については，使用しているデータベースの SQL リファレンスマニュアルを参照してください。-orderby オプションを指定しない場合は，order by 句の指定がないと仮定されます。

-where <where **句** >　〜 ((1 **文字以上**))

where 句を指定します。where 句に記載できる内容については，使用しているデータベースの SQL リファレンスマニュアルを参照してください。

-wherefile <where **句が記載されたファイル名** >　〜 ((1 − 200 **バイト**))

where 句が記載されたファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。指定されたファイルの内容に改行コードをスペースに置き換えて，SQL が実行されます。記載できる内容については，使用しているデータベースの SQL リファレンスマニュアルを参照してください。

-processname < **ビジネスプロセス定義名** >　〜 ((1 **文字以上**))

ビジネスプロセス定義名で検索する場合に指定します。-table オプションで relation または process_set 以外を指定した場合だけ指定できます。

-date [< **照会開始日時** >],< **照会終了日時** > 〜<半角数字>

プロセスインスタンスの開始日時で検索する場合に指定します。指定した照会開始日時から照会終了日時までの間に開始したプロセスインスタンスを検索します。-table オプションで process または activity を指定した場合だけ指定できます。照会開始日時を省略した場合，照会終了日時より前に開始したプロセスインスタンスから検索します。照会開始日時と照会終了日時の間のコンマ（,）の前後に余分なスペースを指定しないでください。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，日時の指定にはデフォルトタイムゾーンを使用してください。

- 照会開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
- 照会終了日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-status {executing ｜ completed ｜ faulted ｜ error ｜ all} 〜 <<all>>

プロセスインスタンスの状態で検索する場合に指定します。-table オプションで process または activity を指定した場合だけ指定できます。

- executing
  状態が「実行中」のプロセスインスタンスのプロセス概要情報またはアクティビティ情報を検索します。
- completed
  状態が「完了」のプロセスインスタンスのプロセス概要情報またはアクティビティ情報を検索します。
- faulted
  状態が「フォルト終了」のプロセスインスタンスのプロセス概要情報またはアクティビティ情報を検索します。
- error
  状態が「エラー発生」のプロセスインスタンスのプロセス概要情報またはアクティビティ情報を検索します。
- all
  全状態のプロセス概要情報またはアクティビティ情報を検索します。

-encoding < **エンコーディング名** > 〜 <<JavaVM **のデフォルトエンコーディング** >> ((1 **文字以上**))

-wherefile オプションで指定した入力ファイルのエンコーディング名を指定します。次のエンコーディング名を指定できます。

- UTF-8
- US-ASCII
- ISO-8859-1
- JavaVM がサポートしているエンコーディング名

入力例

(1) プロセスの概要情報の全情報を出力する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -csc HCSC -table process
```

(2) 相関セット定義名が rentalNumber で，相関セット値が 100 であるプロセスの概要情報の全情報を出力する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -wherefile sql_where.txt
-csc HCSC -table process_set

sql_where.txtの内容

C.CorrelationSetName = 'rentalNumber' AND C.CorrelationSetValue
= '100'
```

(3) アクティビティ情報からビジネスプロセス定義名が「BP」で始まる文字列の行数を表示する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -count -wherefile
sql_where.txt -csc HCSC -table activity

sql_where.txtの内容

ProcessDefinitionName like 'BP%'
```

(4) リンク情報を全件検索する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -csc HCSC -table link
```

(5) 相関セット情報を全件検索する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -csc HCSC -table set
```

(6)string 変数情報を ProcessID = '11111' である条件で検索する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -wherefile sql_where.txt
-csc HCSC -table string

sql_where.txtの内容

ProcessID = '11111'
```

(7)numeric 変数情報を ProcessID = '11111'，かつ，ビジネスプロセス定義名が「BP」で始まる条件で検索する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -wherefile sql_where.txt
-csc HCSC -table numeric

sql_where.txtの内容

ProcessID = '11111' AND  ProcessDefinitionName like 'BP%'
```

(8)boolean 変数情報を ProcessID = '11111'，かつ定義値が 0 である条件で検索する場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -where "ProcessID = '11111'
AND VariableValue = 0" -csc HCSC -table boolean
```

(9)message 変数情報を ProcessID = '11111'，かつ変数定義名に ABC が含まれる条件で検索し，検索結果を ProcessID の降順で並べる場合

```
cscpiselect -user admin -pass admin -wherefile sql_where.txt
-orderby "ProcessID DESC"-csc HCSC -table message

sql_where.txtの内容

ProcessID = '11111' AND VariableName like '%ABC%'
```

表示形式

(1) プロセス概要情報（process 指定時，process_set 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,State,StartTime,EndTi
me
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,PI状態,PI開始時刻,PI終了時刻
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,PI状態,PI開始時刻,PI終了時刻
   :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から EndTime（PI 終了時刻）までは改行されないで表示されます。

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,State,StartTime,EndTi
me,ChangeCount
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,PI状態,PI開始時刻,PI終了時刻
,更新回数
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,PI状態,PI開始時刻,PI終了時刻
,更新回数
   :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から ChangeCount（更新回数）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_PROCESS テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
State	PI 状態	プロセスインスタンスの状態を示します。	
StartTime	PI 開始時刻	プロセスインスタンスの開始時刻（GMT）を示します。java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒	
EndTime	PI 終了時刻	プロセスインスタンスの終了時刻（GMT）を示します。ava.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒	
ChangeCount	更新回数	データの更新回数を示します。	

(2) アクティビティ情報（activity 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,ActivityNumber,ActivityDefinitionName,ActivityKind,State,StartTime,E
ndTime,WaitTime
PI識別子,ACI識別子,AC定義名,AC種別,ACI状態,AC開始時刻,AC終了時刻,AC待機解除時刻
PI識別子,ACI識別子,AC定義名,AC種別,ACI状態,AC開始時刻,AC終了時刻,AC待機解除時刻
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から WaitTime（AC 待機解除時刻）までは改行されないで表示されます。

- -detail 指定時

```
ProcessID,ActivityNumber,ProcessDefinitionName,
ProcessDefinitionVersion,ActivityDefinitionName,ActivityKind,
ParentNumber,ScopeNumber,RepeatNumber,State,
FirstChildNumber,LastChildNumber,StartTime,EndTime,WaitTime
PI識別子,ACI識別子,ビジネスプロセス定義名,
ビジネスプロセス定義バージョン,AC定義名,AC種別
親ACI識別番号,所属SCI識別番号,所属RP識別番号,ACI状態,
先頭の子ACI識別番号,最後の子ACI識別番号,AC開始時刻,AC終了時刻,AC待機解除時刻
   :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から WaitTime（AC 待機解除時刻）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_ACTIVITY テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ActivityNumber	ACI 識別子	アクティビティインスタンスの識別番号を示します。 プロセスインスタンス内で一意の値です。	
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
ActivityDefinitionName	AC 定義名	アクティビティ定義名を示します。	
ActivityKind	AC 種別	アクティビティ種別を示します。	
ParentNumber	親 ACI 識別番号	親アクティビティインスタンスの識別番号を示します。	
ScopeNumber	所属 SCI 識別番号	所属するスコープインスタンスの識別番号を示します。	
RepeatNumber	所属 RP 識別番号	所属する繰り返し処理の識別番号を示します。	
State	ACI 状態	アクティビティインスタンスの状態を示します。	

表示項目	内容	説明	備考
FirstChildNumber	先頭の子 ACI 識別番号	先頭の子アクティビティインスタンスの識別番号を示します。	
LastChildNumber	最後の子 ACI 識別番号	最後の子アクティビティインスタンスの識別番号を示します。	
StartTime ※	AC 開始時刻	アクティビティの開始時刻（GMT）を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒	
EndTime ※	AC 終了時刻	アクティビティの終了時刻（GMT）を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒	
WaitTime ※	AC 待機解除時刻	アクティビティの待機解除時刻（GMT）を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒	

注※　プロセスインスタンスの履歴情報に値が存在しない場合は，何も表示されません。

(3) リンク情報（link 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,LinkDefinitionName,State
PI識別子,リンク定義名,リンク状態
PI識別子,リンク定義名,リンク状態
   :
```

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,
LinkDefinitionName,RepeatNumber,State
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
リンク定義名,所属RP識別番号,リンク状態
   :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から State（リンク状態）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_LINK テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
LinkDefinitionName	リンク定義名	リンク定義名を示します。	
RepeatNumber	所属 RP 識別番号	所属する繰り返し処理の識別番号を示します。	
State	リンク状態	リンクの状態（真偽値）を示します。	

(4) 相関セット情報（set 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,CorrelationSetName,CorrelationSetValue
PI識別子,相関セット定義名,相関セット値
PI識別子,相関セット定義名,相関セット値
   :
```

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,ScopeDefinitionName,
ScopeNumber,CorrelationSetName,CorrelationSetValue,State
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,SC定義名,
SCI識別番号,相関セット定義名,相関セット値,相関セット有効性
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,SC定義名,
SCI識別番号,相関セット定義名,相関セット値,相関セット有効性
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から State（相関セット有効性）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_CORRELATIONSET テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
ScopeDefinitionName	SC 定義名	スコープ定義名を示します。	
ScopeNumber	SCI 識別番号	スコープインスタンスの識別番号を示します。	
CorrelationSetName	相関セット定義名	相関セット定義名を示します。	
CorrelationSetValue	相関セット値	相関セット値を示します。文字列化および連結され格納されます。	
State	相関セット有効性	相関セットの有効性（真偽値）を示します。	

(5)string 変数情報（string 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,VariableName,VariableValue
PI識別子,変数定義名,変数値
PI識別子,変数定義名,変数値
  :
```

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,
ScopeDefinitionName,ScopeNumber,VariableName,VariableValue
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,変数値
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,変数値
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から VariableValue（変数値）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_< クラスタ名 >_STR_VARIABLE テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
ScopeDefinitionName	SC 定義名	スコープ定義名を示します。	
ScopeNumber	SCI 識別番号	スコープインスタンスの識別番号を示します。	
VariableName	変数定義名	変数定義名を示します。	
VariableValue	変数値	変数値を示します。	

(6)numeric 変数情報（numeric 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,VariableName,VariableValue
PI識別子,変数定義名,変数値
PI識別子,変数定義名,変数値
  :
```

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,
ScopeDefinitionName,ScopeNumber,VariableName,VariableValue
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,変数値
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,変数値
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から VariableValue（変数値）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_NUM_VARIABLE テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
ScopeDefinitionName	SC 定義名	スコープ定義名を示します。	
ScopeNumber	SCI 識別番号	スコープインスタンスの識別番号を示します。	
VariableName	変数定義名	変数定義名を示します。	
VariableValue	変数値	変数値を示します。	

(7)boolean 変数情報（boolean 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,VariableName,VariableValue
PI識別子,変数定義名,変数値
PI識別子,変数定義名,変数値
  :
```

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,
ScopeDefinitionName,ScopeNumber,VariableName,VariableValue
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,変数値
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,変数値
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から VariableValue（変数値）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_BOOL_VARIABLE テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
ScopeDefinitionName	SC 定義名	スコープ定義名を示します。	
ScopeNumber	SCI 識別番号	スコープインスタンスの識別番号を示します。	
VariableName	変数定義名	変数定義名を示します。	
VariableValue	変数値	変数値を示します。	

(8)message 変数情報（message 指定時）

- -detail 未指定時

```
ProcessID,VariableName,
VariableValue
PI識別子,変数定義名,
変数値
PI識別子,変数定義名,
変数値
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から VariableName（変数定義名）までは改行されないで表示され，VariableValue（変数値）は次行に表示されます。

- -detail 指定時

```
ProcessID,ProcessDefinitionName,ProcessDefinitionVersion,
ScopeDefinitionName,ScopeNumber,VariableName,
VariableValue
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,
変数値
PI識別子,ビジネスプロセス定義名,ビジネスプロセス定義バージョン,
SC定義名,SCI識別番号,変数定義名,
変数値
  :
```

注　ProcessID（PI 識別子）から VariableName（変数定義名）までは改行されないで表示され，VariableValue（変数値）は次行に表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_MSG_VARIABLE テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessDefinitionName	ビジネスプロセス定義名	ビジネスプロセス定義名を示します。	
ProcessDefinitionVersion	ビジネスプロセス定義バージョン	ビジネスプロセス定義バージョンを示します。	
ScopeDefinitionName	SC 定義名	スコープ定義名を示します。	
ScopeNumber	SCI 識別番号	スコープインスタンスの識別番号を示します。	
VariableName	変数定義名	変数定義名を示します。	
VariableValue	変数値	変数値を示します。	

(9) メッセージ関連情報（relation 指定時）

- -detail 未指定時

```
MessageID,ProcessID,ActivityNumber,SendOrReceive
MSG識別子,PI識別子,ACI識別番号,送受信フラグ
MSG識別子,PI識別子,ACI識別番号,送受信フラグ
  :
```

- -detail 指定時

```
MessageID,ProcessID,ActivityNumber,SendOrReceive,AsynchronousMessagingID
MSG識別子,PI識別子,ACI識別番号,送受信フラグ,ID
MSG識別子,PI識別子,ACI識別番号,送受信フラグ,ID
  :
```

注　MessageID（MSG 識別子）から AsynchronousMessagingID（ID）までは改行されないで表示されます。

説明

表示項目	内容	説明	備考
MessageID	MSG 識別子	メッセージの識別子を示します。	CSCBP_<クラスタ名>_MSG_RELATION テーブルの 1 レコードの情報を示します。情報の詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 C　データベースのテーブルの情報」を参照してください。
ProcessID	PI 識別子	プロセスインスタンスの識別子を示します。	
ActivityNumber	ACI 識別番号	アクティビティインスタンスの識別番号を示します。	
SendOrReceive	送受信フラグ	メッセージの送受信フラグを示します。	
AsynchronousMessagingID	ID	非同期メッセージングの ID を示します。	

(10) カウント表示

```
KEOS52029-I: row count is 行のカウント数
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- コメント行などは記載しないでください。
- このコマンドは SQL の where 句をオプションに指定します。そのため，使用するユーザ ID およびパスワードを定期的に変更するなどして，第三者に不当にコマンドを実行されないようにしてください。
- データベースと Cosminexus RM を使用する場合だけ，このコマンドを使用できます。
- 次のオプションをすべて指定しない場合は，where 句の指定がないと仮定されます。
  - -where オプション
  - -wherefile オプション
  - -processname オプション
  - -date オプション
  - -status オプション

cscrcptnstart（標準受付およびユーザ定義受付の開始）

形式

```
cscrcptnstart [-h]
              -user <ログインユーザID>
              -pass <ログインパスワード>
              {-csc <HCSCサーバ名>|-cluster <クラスタ名>}
              [{-standard|-userdef}]
```

機能

標準受付およびユーザ定義受付を開始します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

標準受付およびユーザ定義受付を開始する HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

標準受付およびユーザ定義受付を一括開始するクラスタ名を指定します。クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-standard

標準受付だけを起動します。-standard，-userdef ともに指定しない場合は，標準受付およびユーザ定義受付をすべて起動します。

-userdef

ユーザ定義受付をすべて起動します。個別のユーザ定義受付を起動する場合は，csccompostart コマンドで起動してください。-standard，-userdef ともに指定しない場合は，標準受付およびユーザ定義受付をすべて起動します。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC の標準受付およびユーザ定義受付を開始する場合

```
cscrcptnstart -user admin -pass admin -csc HCSC
```

(2)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバごとに標準受付を一括開始する場合

```
cscrcptnstart -user admin -pass admin -cluster Cluster -standard
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは停止状態の受付に対して実行してください。
- コマンド実行時に HCSC サーバは起動している必要があります。
- -cluster を指定してエラーになった場合，結果を cscstatus コマンドで確認し，障害要因を取り除いたあとに，再度コマンドを実行してください。

cscrcptnstop（標準受付およびユーザ定義受付の停止）

形式

```
cscrcptnstop [-h]
             -user <ログインユーザID>
             -pass <ログインパスワード>
             {-csc <HCSCサーバ名>｜-cluster <クラスタ名>}
             [{-standard｜-userdef}]
             [-stopfg {normal｜wait｜force}]
```

機能

標準受付およびユーザ定義受付を停止します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

受付を停止する HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

標準受付およびユーザ定義受付を一括停止するクラスタ名を指定します。クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-standard

標準受付だけを停止します。-standard，-userdef ともに指定しない場合は，標準受付およびユーザ定義受付をすべて停止します。

-userdef

ユーザ定義受付をすべて停止します。個別のユーザ定義受付を停止する場合は，csccompostop コマンドで停止してください。-standard，-userdef ともに指定しない場合は，標準受付およびユーザ定義受付をすべて停止します。

-stopfg {normal ｜ wait ｜ force}

標準受付の停止オプションを指定します。-userdef オプションを指定した場合，この定義は無視されます。デフォルトは normal です。

- normal
  通常停止の場合に指定します。
- wait
  計画停止の場合に指定します。
- force
  強制停止の場合に指定します。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC の標準受付およびユーザ定義受付を停止する場合

```
cscrcptnstop -user admin -pass admin -csc HCSC
```

(2)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバごとに標準受付およびユーザ定義受付を一括停止する場合

```
cscrcptnstop -user admin -pass admin -cluster Cluster
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは開始状態の受付に対して実行してください。
- コマンド実行時に HCSC サーバは起動している必要があります。
- -cluster を指定してエラーになった場合，結果を cscstatus コマンドで確認し，障害要因を取り除いたあとに，再度コマンドを実行してください。

cscrepcheck（インポート可否の検証）

形式

```
cscrepcheck [-h]
            -user <ログインユーザID>
            -pass <ログインパスワード>
            -repfile <リポジトリZIPファイル名>
            [-compo [-name <サービスID>] ]
```

機能

指定されたリポジトリ ZIP ファイル名のインポート可否を検証します。インポート不可と検証された場合は，エラーメッセージで原因を出力します。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> 〜<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 − 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > 〜<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 − 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-repfile < **リポジトリ** ZIP **ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

インポート可否の検証対象となるリポジトリ ZIP ファイルを指定します。

-compo

リポジトリのコンポーネント単位でのインポートができるかを検証する場合に指定します。

指定を省略した場合，リポジトリ ZIP ファイル全体のインポートが検証の対象となります。

-name < **サービス** ID> 〜 ((1 **文字以上**))

検証の対象とする HCSC コンポーネントを指定します。

指定を省略した場合，リポジトリ ZIP ファイル内のすべての HCSC コンポーネントが検証の対象となります。

入力例

(1) リポジトリ ZIP ファイル「repository.zip」のインポート可否を検証する場合

```
cscrepcheck -user admin -pass admin -repfile repository.zip
```

(2) リポジトリ ZIP ファイル「repository.zip」のコンポーネント単位でのインポート可否を検証する場合

```
cscrepcheck -user admin -pass admin -repfile repository.zip
-compo
```

(3) リポジトリ ZIP ファイル「repository.zip」内のサービス ID「1」のコンポーネントを対象に，インポート可否を検証する場合

```
cscrepcheck -user admin -pass admin -repfile repository.zip
-compo -name 1
```

設定ファイル

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル（csccmd.properties）で cscrepcheck コマンドのオプションのデフォルト値を設定できます。HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルについては，「5. 定義ファイル」の「HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 現在の運用環境のリポジトリ情報とインポートするリポジトリ情報で，データベースおよび Cosminexus RM を使用するかどうかの設定が異なる場合，インポート時にエラーになることがあります。
- 現在の運用環境のリポジトリ情報と，インポートするリポジトリ情報の SOAP モードが異なる場合，インポート時にエラーになります。
- リポジトリ内に複数のクラスタ環境がある場合，エラーになります。

cscrepctl（インポート / エクスポート）

形式

```
cscrepctl [-h]
          -user <ログインユーザID>
          -pass <ログインパスワード>
          {-import <ファイル名> [-overwrite]
          [ {-check | -compo [-name <サービスID>] [-nouoc] } ]
              | -export <ファイル名>
              | -autoexport
              | -delete -name <サービスID>}
```

機能

リポジトリ内の情報を ZIP 形式ファイルに出力したり，ZIP 形式で保存された情報をリポジトリに展開したりします。また，リポジトリ内のコンポーネントの削除もできます。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-import < **ファイル名** >　**～** ((1 － 200 **バイト**))

展開する ZIP 形式ファイルを絶対パス，または相対パスで指定します。

-overwrite

インポート時に HCSC コンポーネントを運用環境のリポジトリに展開します。このオプションは，-import 指定時に有効になります。

-check

現在の運用環境のリポジトリ情報とインポートするリポジトリ情報で，HCSC サーバの

構成情報が同じかどうかをチェックします。HCSC サーバの構成情報が異なる場合は，エラーになります。このオプションは，-import 指定時に有効になります。なお，標準インポートの場合は，このオプションを指定しないでください。

-compo

コンポーネント単位でインポートします。

-name < **サービス** ID> 〜 ((1 **文字以上**))

指定されたサービス ID の BP またはサービスアダプタをインポートまたは削除します。

-compo オプションの指定時にこのオプションを省略した場合，すべてのコンポーネントがインポートの対象となります。

-nouoc

コンポーネント単位でのインポート時に UOC を更新しない場合に指定します。UOC とは，開発環境の HCSCTE プロジェクト内でユーザが独自に作成したソース，クラスおよびライブラリを示します。

このオプションは -compo オプションの指定時だけ指定できます。

-export < **ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

出力する ZIP 形式ファイルのファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。指定したファイルまでのディレクトリがない場合，異常終了になります。指定したファイルがすでにある場合，上書きされます。指定したファイルの拡張子を「.zip」にしなかった場合は，「.zip」が付けられます。

-autoexport

ZIP ファイルをデフォルトファイル名で出力する場合に指定します。デフォルトファイル名は，次の形式で付与されます。

aaabbbcccddd_YYYYMMDDhhmmss.zip

aaabbbcccddd：
　コマンドを実行したマシンの IP アドレスを示します。

YYYYMMDDhhmmss：
　バックアップした時間を示します。
　YYYY：西暦年，MM：月，DD：日，hh：時，mm：分，ss：秒

出力先は cscmng.properties（HCSC-Manager 定義ファイル）に指定できます。出力先を指定しなかった場合はカレントディレクトリに出力されます。

-delete

運用環境のリポジトリから，指定されたサービス ID のコンポーネントを削除します。こ

のオプションの後ろに，削除対象のサービス ID を -name オプションで指定してください。

入力例

(1)repository.zip の内容をリポジトリに展開する場合

```
cscrepctl -user admin -pass admin -import repository.zip
```

(2) カレントディレクトリにリポジトリ情報を収集した repository.zip を出力する場合

```
cscrepctl -user admin -pass admin -export repository.zip
```

(3) デフォルトファイル名で出力する場合

```
cscrepctl -user admin -pass admin -autoexport
```

(4)repository.zip の内容をコンポーネント単位でインポートする場合

```
cscrepctl -user admin -pass admin -import repository.zip -compo
```

(5) サービス ID「1」のコンポーネントを削除する場合

```
cscrepctl -user admin -pass admin -delete -name 1
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 運用環境にログイン中の場合は，このコマンドを実行できません。
- インポートする場合は，必ずリポジトリに設定したディレクトリ以下のディレクトリおよびファイルを参照していないことを確認してから，cscrepctl コマンドを実行してください。
- 現在の運用環境のリポジトリ情報とインポートするリポジトリ情報で，データベースおよび Cosminexus RM を使用するかどうかの設定が異なる場合，インポート時にエラーになることがあります。
- 現在の運用環境のリポジトリ情報と，インポートするリポジトリ情報の SOAP モードが異なる場合，インポート時にエラーになります。

cscrepdiff（リポジトリ情報の差分の表示）

形式

```
cscrepdiff [-h]
           -user <ログインユーザID>
           -pass <ログインパスワード>
           -repfile <エクスポートされたリポジトリZIPファイル名>
           [-allinfo]
           [ {-check | -compo [-name <サービスID> ] } ]
```

機能

現在の運用環境のリポジトリ情報と，指定されたリポジトリ情報との HCSC コンポーネントの差分を確認します。このコマンドは，次に示すリポジトリ情報の項目が同じ場合，同じ HCSC コンポーネントと見なして差分を表示します。

- サービスアダプタのサービス ID
- ビジネスプロセスのサービス ID
- ユーザ定義受付の受付 ID

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン** (_) ＞ ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン** (_) ＞ ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-repfile < **エクスポートされたリポジトリ** ZIP **ファイル名** >　**～** ((1 － 200 **バイト**))

エクスポートされた差分表示の対象となる ZIP ファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。

-allinfo

すべての HCSC コンポーネントの変更情報を表示します。インポート後の HCSC コン

ポーネントがすべて表示されるため，リポジトリ内に HCSC コンポーネントが多いと，大量に表示される場合があります。

このオプションを省略した場合，差分が発生した HCSC コンポーネントだけが表示されます。

-check

現在の運用環境のリポジトリ情報と比較対象のリポジトリ情報で，HCSC サーバの構成情報が同じかどうかをチェックします。HCSC サーバの構成情報が異なる場合は，エラーになります。なお，標準インポートの場合は，このオプションを指定しないでください。

-compo

コンポーネント単位でインポートする場合の，HCSC コンポーネントの差分情報を表示します。

-name < **サービス** ID>　〜 ((1 **文字以上**))

コンポーネント単位でインポートする場合に，ZIP ファイル中の HCSC コンポーネントのサービス ID を指定します。このオプションは，-compo オプションを指定した場合に指定できます。

このオプションを省略した場合は，ZIP ファイル中のすべての HCSC コンポーネントがコンポーネント単位のインポートの対象となります。

表示形式

表示形式の記号の意味は次のとおりです。

<：現在のリポジトリ情報に存在する HCSC コンポーネント

>：指定した ZIP ファイルのリポジトリ情報に存在する HCSC コンポーネント

(1) すべての項目で変更がある場合

```
KEOS52129-I cscrepdiff will now start.
Command Edit Time: コマンド発行時間
[BusinessProcess]
change:                                                    ┐
<クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※          ├ 更新された
>クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※          ┘ ビジネスプロセス
delete:                                                    ┐
<クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※          ┘ 削除された ビジネスプロセス
add:                                                       ┐
>クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※          ┘ 追加された ビジネスプロセス

[ServiceAdapter]
change:                                                    ┐
<クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※          ├ 更新された
>クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※          ┘ サービスアダプタ
delete:                                                    ┐
<クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※          ┘ 削除された サービスアダプタ
add:                                                       ┐
>クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※          ┘ 追加された サービスアダプタ

[UserDefinedReception]
change:                                                    ┐
< クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※               ├ 更新された
> クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※               ┘ ユーザ定義受付
delete:                                                    ┐
< クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※               ┘ 削除された ユーザ定義受付
add:                                                       ┐
> クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※               ┘ 追加された ユーザ定義受付
KEOS52130-I cscrepdiff ended normally.
```

注※　開発環境でHCSCコンポーネントをパッケージングした時間です。したがって，開発環境のマシンの時間に依存します。

(2) ビジネスプロセスだけ変更がある場合

```
KEOS52129-I cscrepdiff will now start.
Command Edit Time: コマンド発行時間
[BusinessProcess]
change:                                                    ┐
<クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※          ├ 更新された
>クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※          ┘ ビジネスプロセス
KEOS52130-I cscrepdiff ended normally.
```

注※　開発環境でHCSCコンポーネントをパッケージングした時間です。したがって，開発環境のマシンの時間に依存します。

(3) 変更がない場合（-allinfo オプション省略時）

```
KEOS52129-I cscrepdiff will now start.
Command Edit Time: コマンド発行時間
KEOS52130-I cscrepdiff ended normally.
```

(4) すべての項目で変更があるが，項目内に変更がないコンポーネントが含まれる場合（-allinfo オプション指定時）

```
[BusinessProcess]
no change:
  クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※
change:
< クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※   } 更新された
> クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※   } ビジネスプロセス
delete:
< クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※   } 削除された
                                                    } ビジネスプロセス
add:
> クラスタ名/ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※   } 追加された
                                                    } ビジネスプロセス

[ServiceAdapter]
no change:
  クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※
change:
< クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※   } 更新された
> クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※   } サービスアダプタ
delete:
< クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※   } 削除された
                                                    } サービスアダプタ
add:
> クラスタ名/サービスアダプタのサービスID 更新時間※   } 追加された
                                                    } サービスアダプタ

[UserDefinedReception]
no change:
  クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※
change:
< クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※       } 更新された
> クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※       } ユーザ定義受付
delete:
< クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※       } 削除された
                                                    } ユーザ定義受付
add:
> クラスタ名/ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※       } 追加された
                                                    } ユーザ定義受付
```

注※　開発環境でHCSCコンポーネントをパッケージングした時間です。したがって，開発環境のマシンの時間に依存します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。

戻り値	意味
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 現在の運用環境のリポジトリ情報と比較対象のリポジトリ情報で，データベースおよび Cosminexus RM を使用するかどうかの設定が異なる場合，コマンド実行時にエラーになることがあります。
- 現在の運用環境のリポジトリ情報と，比較対象のリポジトリ情報の SOAP モードが異なる場合，コマンド実行時にエラーになります。

cscrepls（リポジトリ情報の表示）

形式

```
cscrepls [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         [{-repfile <エクスポートされたリポジトリZIPファイル名>
           | -envbackfile <HCSC-Manager環境バックアップファイル名>}]
         [{-csc <HCSCサーバ名> | -oldtype | -private}]
```

機能

リポジトリ情報を標準出力に出力します。また，cscutil コマンドの引数に指定する値を確認できます。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-repfile < **エクスポートされたリポジトリ** ZIP **ファイル名** >　～ ((1 － 200 **バイト**))
<<HCSC-Manager **定義ファイルの** cscmng.repository.root **パラメタに設定されているリポジトリの内容** >>

エクスポートされたリポジトリ ZIP ファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。エクスポートされたリポジトリファイルの中を参照し，構成情報が出力されます。-envbackfile とは同時に指定できません。

-envbackfile <HCSC-Manager 環境バックアップファイル名 > 〜 ((1 − 200 バイト))
<<HCSC-Manager 定義ファイルの cscmng.repository.root パラメタに設定されているリポジトリの内容 >>

HCSC-Manager 環境バックアップファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。エクスポートされたリポジトリファイルの中を参照し，構成情報が出力されます。-repfile とは同時に指定できません。

-csc <HCSC サーバ名 > 〜 < 半角英数字およびアンダーライン（_）> ((1 − 8 文字))

指定した HCSC サーバ情報だけが出力されます。

-oldtype

バージョン 07-20 以前の情報が出力されます。

-private

リポジトリ，またはリポジトリファイルに存在する，非公開コンポーネントを含めた情報を表示する場合に指定します。

表示形式

(1)-csc オプションで HCSC サーバを指定しない場合

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
Domain(name:ドメイン名)

- Cluster(name:クラスタ名)
    cluster-display-name:クラスタ表示名
    cluster-type:クラスタ種別
    db-use:データベースの使用有無
    rm-use:Cosminexus RMの使用有無
    SOAP-mode:使用するSOAPモード

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus Managerのホスト IPアドレス:Cosminexus Managerのポート番号)

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
```

```
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus ManagerのホストIPアドレ
ス:Cosminexus Managerのポート番号)

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタ名)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間

- Cluster(name:クラスタ名)
    cluster-display-name:クラスタ表示名
    cluster-type:クラスタ種別
    db-use:データベースの使用有無
    rm-use:Cosminexus RMの使用有無
    SOAP-mode:使用するSOAPモード

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus ManagerのホストIPアドレ
ス:Cosminexus Managerのポート番号)
```

```
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間
```

(2)-csc オプションで HCSC サーバを指定した場合

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
Domain(name:ドメイン名)
- Cluster(name:クラスタ名)
    cluster-display-name:クラスタ表示名
    cluster-type:クラスタ種別
    db-use:データベースの使用有無
    rm-use:Cosminexus RMの使用有無
    SOAP-mode:使用するSOAPモード

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus ManagerのホストIPアドレス:Cosminexus Managerのポート番号)

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間

      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
```

```
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間
```

(3)-oldtype **オプションを指定した場合**

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
Domain(name:ドメイン名)
- Cosminexus Manager(name:Cosminexus Manager名)
    display-name:Cosminexus Manager表示名
    management-ip:Cosminexus ManagerのホストIPアドレス
    port:Cosminexus Managerのポート番号

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      cluster-name:クラスタ名
      cluster-display-name:クラスタ表示名
      cluster-type:クラスタ種別
      J2EESrvName:J2EEサーバ名

    - SessionBean
        Url:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するURL
        LookupName:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するルックアップ名

    - WebService(SOAP1.1)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.1）呼び出し時に使用するURL
    - WebService(SOAP1.2)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.2）呼び出し時に使用するURL
    - MDB(WS-R)
        Url:非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出し時に使用するURL
    - MDB(DBQueue)
        Name:DBキュー名
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
```

```
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      cluster-name:クラスタ名
      cluster-display-name:クラスタ表示名
      cluster-type:クラスタ種別
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
    - SessionBean
        Url:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するURL
        LookupName:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するルックアップ名

    - WebService(SOAP1.1)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.1）呼び出し時に使用するURL
    - WebService(SOAP1.2)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.2）呼び出し時に使用するURL
    - MDB(WS-R)
        Url:非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出し時に使用するURL
    - MDB(DBQueue)
        Name:DBキュー名
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
```

```
- Cosminexus Manager(name:Cosminexus Manager名)
    display-name:Cosminexus Manager表示名
    management-ip:Cosminexus ManagerのホストIPアドレス
    port:Cosminexus Managerのポート番号
  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      cluster-name:クラスタ名
      cluster-display-name:クラスタ表示名
      cluster-type:クラスタ種別
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
    - SessionBean
        Url:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するURL
        LookupName:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するルックアップ名

    - WebService(SOAP1.1)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.1）呼び出し時に使用するURL
    - WebService(SOAP1.2)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.2）呼び出し時に使用するURL
    - MDB(WS-R)
        Url:非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出し時に使用するURL
    - MDB(DBQueue)
        Name:DBキュー名

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      cluster-name:クラスタ名
      cluster-display-name:クラスタ表示名
      cluster-type:クラスタ種別
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
    - SessionBean
        Url:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するURL
        LookupName:同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するルックアップ名

    - WebService(SOAP1.1)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.1）呼び出し時に使用するURL
    - WebService(SOAP1.2)
        Url:同期サービス（Webサービス・SOAP1.2）呼び出し時に使用するURL
    - MDB(WS-R)
        Url:非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出し時に使用するURL
    - MDB(DBQueue)
        Name:DBキュー名
```

```
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:ビジネスプロセス配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:受付配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
```

(4)-private オプションを指定した場合

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
Domain(name:ドメイン名)
- Cluster(name:クラスタ名)
    cluster-display-name:クラスタ表示名
    cluster-type:クラスタ種別
    db-use:データベースの使用有無
    rm-use:Cosminexus RMの使用有無
    SOAP-mode:使用するSOAPモード

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus Managerのホストipアドレス:Cosminexus Managerのポート番号)

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間
```

```
  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus ManagerのホストIPアドレ
ス:Cosminexus Managerのポート番号)
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間

- Cluster(name:クラスタ名)
    cluster-display-name:クラスタ表示名
    cluster-type:クラスタ種別
    db-use:データベースの使用有無
    rm-use:Cosminexus RMの使用有無
    SOAP-mode:使用するSOAPモード

  - HCSC-Server(CSCSrvName:HCSCサーバ名)
      display-name:HCSCサーバ表示名
      J2EESrvName:J2EEサーバ名
      Cosminexus Manager(Cosminexus Manager名, Cosminexus ManagerのホストIPアドレ
ス:Cosminexus Managerのポート番号)
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:アダプタ配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間

    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:ビジネスプロセスが更新された時間
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
          deployed:アダプタ配備状態
          modified-time:ユーザ定義受付が更新された時間
```

```
    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
        deployed:アダプタ配備状態
        modified-time:サービスアダプタが更新された時間

- PrivateComponents
    - BusinessProcess(ServiceID:ビジネスプロセスのサービスID)
        ServiceName:ビジネスプロセス表示名
      - UserDefinedReception(ReceptionID:ユーザ定義受付の受付ID)
          ReceptionName:受付名
          Type:受付種別
          ContextRoot:コンテキストルート
    - ServiceAdapter(ServiceID:サービスアダプタのサービスID)
        ServiceName:アダプタ表示名
        Type:アダプタ種別
```

説明（(1)-csc オプションで HCSC サーバを指定しない場合，および (2)-csc オプションで HCSC サーバを指定した場合）

表示項目	説明
Command Edit Time	コマンド発行時間を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒
Domain（name）	ドメイン名を示します。
Cluster（name）	クラスタ名を示します。
cluster-display-name	クラスタ表示名を示します。※
cluster-type	クラスタ種別を示します。次のどちらかが表示されます。 • LB：ロードバランスクラスタ • HA：HA クラスタ
db-use	データベースを使用しているかどうかを示します。次のどちらかが表示されます。 • ON：使用しています。 • OFF：使用していません。
rm-use	Cosminexus RM を使用しているかどうかを示します。次のどちらかが表示されます。 • ON：使用しています。 • OFF：使用していません。

表示項目	説明
SOAP-mode	使用する SOAP モードを示します。次のどちらかが表示されます。 • 1.1：SOAP1.1 モードを示します。 • 1.1/1.2：SOAP1.1/1.2 併用モードを示します。
HCSCServer（CSCSrvName）	HCSC サーバ名を示します。
display-name	HCSC サーバ表示名を示します。※
J2EESrvName	J2EE サーバ名を示します。
Cosminexus Manager（name, ip：port）	次の情報が表示されます。 • Cosminexus Manager 名 • Cosminexus Manager のホスト IP アドレス • Cosminexus Manager のポート番号
BusinessProcess（ServiceID）	ビジネスプロセスのサービス ID を示します。
ServiceAdapter（ServiceID）	サービスアダプタのサービス ID を示します。
ServiceName	ビジネスプロセス表示名，またはサービスアダプタ表示名を示します。
UserDefinedReception（ReceptionID）	ユーザ定義受付の受付 ID を示します。
ReceptionName	ユーザ定義受付の受付名を示します。
Type	アダプタ種別の場合，次の情報が表示されます。 • WebService：ユーザ定義受付 • SessionBean：SessionBean 用サービスアダプタ • MDB_WSR：MDB（WS-R）用サービスアダプタ • MDB_DBQ：MDB（DB キュー）用サービスアダプタ • Custom：カスタムアダプタ（07-50 より古いリポジトリの情報は，空白で表示されます） 受付種別の場合，次の情報が表示されます。 • WebService：ユーザ定義受付
ContextRoot	コンテキストルートを示します。情報が存在しない場合は空白で表示されます。
deployed	ビジネスプロセス，サービスアダプタ，またはユーザ定義受付が配備されているかどうかを示します。次のどちらかが表示されます。 • true：配備されています。 • false：配備されていません。

表示項目	説明
modified-time	ビジネスプロセス，サービスアダプタ，またはユーザ定義受付が更新された時間を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 なお，更新時刻は開発環境でパッケージングした時間です。

注※

次の条件の両方に当てはまる場合，文字化けが発生するおそれがあります。

- HCSC サーバ表示名，クラスタ表示名，またはユーザ電文に次の文字を使用している。
  ・基本多言語面（BMP）以外の文字
  ・Unicode のコードポイント U+10000 ～ U+10FFFF の範囲の文字
  ・UTF-16 エンコーディングでのサロゲート・ペアで表される文字
- Windows Vista 以外の OS でこのコマンドを使用している。

説明（(3)-oldtype オプションを指定した場合，および (4)-private オプションを指定した場合）

表示項目	説明
Command Edit Time	コマンド発行時間を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒
Domain（name）	ドメイン名を示します。
Cosminexus Manager（name）	Cosminexus Manager 名を示します。
display-name	次のどれかが表示されます。 • Cosminexus Manager 表示名※ • HCSC サーバ表示名※ • ビジネスプロセス表示名 • サービスアダプタ表示名
management-ip	Cosminexus Manager のホスト IP アドレスを示します。

表示項目	説明
port	Cosminexus Manager のポート番号を示します。
HCSCServer（CSCSrvName）	HCSC サーバ名を示します。
cluster-name	クラスタ名を示します。
cluster-display-name	クラスタ表示名を示します。
cluster-type	クラスタ種別を示します。次のどちらかが表示されます。 • LB：ロードバランスクラスタ • HA：HA クラスタ
J2EESrvName	J2EE サーバ名を示します。
Url	次のどれかが表示されます。 • SessionBean の場合：同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用する URL • WebService(SOAP1.1) の場合：同期サービス（Web サービス・SOAP1.1）呼び出し時に使用する URL • WebService(SOAP1.2) の場合：同期サービス（Web サービス・SOAP1.2）呼び出し時に使用する URL • MDB（WS-R）の場合：非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出し時に使用する URL
LookupName	同期サービス（SessionBean）呼び出し時に使用するルックアップ名を示します。
Name	DB キュー名を示します。
BusinessProcess（ServiceID）	ビジネスプロセスのサービス ID を示します。
ReceptionName	ユーザ定義受付の受付名を示します。
Type	アダプタ種別の場合，次の情報が表示されます。07-50 より古いリポジトリの情報は，空白で表示されます。 • WebService：ユーザ定義受付 • SessionBean：SessionBean 用サービスアダプタ • MDB_WSR：MDB（WS-R）用サービスアダプタ • MDB_DBQ：MDB（DB キュー）用サービスアダプタ • Custom：カスタムアダプタ 受付種別の場合，次の情報が表示されます。 • WebService：ユーザ定義受付
ContextRoot	コンテキストルートを示します。情報が存在しない場合は空白で表示されます。
deployed	ビジネスプロセス，またはサービスアダプタが配備されているかどうかを示します。次のどちらかが表示されます。 • true：配備されています。 • false：配備されていません。

表示項目	説明
modified-time	ビジネスプロセス，またはサービスアダプタが更新された時間を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 なお，更新時刻は開発環境でパッケージングした時間です。
ServiceAdapter（ServiceID）	サービスアダプタのサービス ID を示します。

注※

次の条件の両方に当てはまる場合，文字化けが発生するおそれがあります。

- HCSC サーバ表示名，クラスタ表示名，またはユーザ電文に次の文字を使用している。
  - ・基本多言語面（BMP）以外の文字
  - ・Unicode のコードポイント U+10000 ～ U+10FFFF の範囲の文字
  - ・UTF-16 エンコーディングでのサロゲート・ペアで表される文字
- Windows Vista 以外の OS でこのコマンドを使用している。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

-repfile 指定時は，次の情報は出力されません。

- ビジネスプロセスの配備状態，およびサービスアダプタの配備状態
- 次のサービス呼び出し時に使用する URL※
  - 同期サービス（SessionBean）
  - 同期サービス（Web サービス (SOAP1.1)）
  - 同期サービス（Web サービス (SOAP1.2)）
  - 非同期サービス（MDB（WS-R））
- DB キュー名※
- クラスタ種別

注※

サービス部品呼び出し時に使用する URL，および DB キュー名は，-oldtype 指定時に出力されます。

cscrepupdate（リポジトリのアップデート）

形式

```
cscrepupdate [-h]
             -user <ログインユーザID>
             -pass <ログインパスワード>
             -inputfile <アップデート前のZIPファイル名>
             -outputfile <アップデート後のZIPファイル名>
```

機能

旧バージョンで作成されたリポジトリを対象に，インストールされているバージョンで使用できるリポジトリへアップデートします。リポジトリのアップデート処理が必要ない場合は，何も出力されません。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> 〜<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 − 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > 〜<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 − 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-inputfile < **アップデート前の** ZIP **ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

アップデート前の古いバージョンのリポジトリ ZIP ファイルを絶対パスまたは相対パスで指定します。

指定したファイルが存在しない場合は，エラーになります。

-outputfile < **アップデート後の** ZIP **ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

アップデート後の新しいバージョンのリポジトリ ZIP ファイルの出力先を絶対パスまたは相対パスで指定します。指定したファイルの拡張子を「.zip」にしなかった場合は，「.zip」が付加されます。-inputfile オプションと同じ ZIP ファイルは指定できません。

指定したファイルがすでに存在する場合は上書きされます。また，次の場合はエラーになります。

- 指定したファイルのディレクトリが存在しない場合
- ファイル以外を指定した場合

入力例

(1)repository_old.zip の内容をアップデートし，カレントディレクトリに repozitory_new.zip として出力する場合

```
cscrepupdate -user admin -pass admin -inputfile
repository_old.zip -outputfile repozitory_new.zip
```

設定ファイル

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル（csccmd.properties）で，cscrepupdate コマンドのオプションのデフォルト値を設定できます。詳細については，「5. 定義ファイル」の「HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドでアップデートできるのは 08-00 以降のリポジトリです。07-60 以前のリポジトリをアップデートしたい場合は，開発環境でインポートを実行してリポジトリをアップデートしてください。
- アップデートするリポジトリにカスタムアダプタが存在する場合は，対応するプロトコルコンバータの JAR ファイルが「<Cosminexus のインストールディレクトリ >/CSC/custom-adapter/」の下に格納されている必要があります。
- コマンドを実行する前に，次に示すディレクトリのあるドライブに対し，リポジトリのディスク使用量の 2 倍以上の空き容量があることを確認してください。
  - Cosminexus のインストールディレクトリ
  - CSCMNG_HOME 環境変数に設定したディレクトリ

cscresinfo（リソース稼働情報の表示）

形式

```
cscresinfo [-h]
           -user <ログインユーザID>
           -pass <ログインパスワード>
           -csc <HCSCサーバ名>
```

機能

HCSC サーバのリソースの稼働情報を表示します。開始しているリソースアダプタ，標準受付，および HCSC コンポーネントの稼働情報だけが表示されます。HCSC サーバが起動していない場合，稼働情報は表示されません。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

稼働情報を表示したい HCSC サーバ名を指定します。

出力形式

(1)HCSC サーバが起動状態の場合で，標準受付および HCSC コンポーネントが開始状態のとき

```
Information Get Time : 稼働情報収集時刻
[HCSC-Server]
<クラスタ名>.<HCSCサーバ名>:active
 JavaVM Heap Size(MB)           Java VMヒープサイズ最大値 / Java VMヒープサイズ上限値

[DBConnector]
 リソースアダプタ名  DBコネクション数最大値 / DBコネクション数上限値

[StandardReception]
受付種別
 queue        キュー滞留数最大値 / キュー滞留数上限値
 instance     実行数の最大値 / 実行数の上限値

[UserDefinedReception]
ユーザ定義受付の受付ID
 queue        キュー滞留数最大値 / キュー滞留数上限値
 instance     実行数の最大値 / 実行数の上限値

[BusinessProcess]
ビジネスプロセスのサービスID     実行数の最大値 / 実行数の上限値

[ServiceAdapter]
サービスアダプタのサービスID     実行数の最大値 / 実行数の上限値
```

(2)HCSC サーバが起動状態の場合で，標準受付および HCSC コンポーネントがすべて開始状態以外のとき

```
Information Get Time : 稼働情報収集時刻
[HCSC-Server]
<クラスタ名>.<HCSCサーバ名>:active
 JavaVM Heap Size(MB)           Java VMヒープサイズ最大値 / Java VMヒープサイズ上限値

[DBConnector]
 リソースアダプタ名  DBコネクション数最大値 / DBコネクション数上限値

[StandardReception]※

[UserDefinedReception]※

[BusinessProcess]※

[ServiceAdapter]※
```

注※　見出しだけが表示されます。

(3)HCSC サーバが起動状態以外の場合

```
[HCSC-Server]
<クラスタ名>.<HCSCサーバ名>:HCSCサーバ稼働状態※
```

注※　active 以外が表示されます。

説明

表示項目	説明
稼働情報収集時刻	稼働情報を収集した時刻を示します。java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss の形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒
クラスタ名	クラスタ名を示します。
HCSC サーバ名	HCSC サーバ名を示します。
Java VM ヒープサイズ最大値※1	Java VM ヒープサイズの最大値（単位：MB）を示します。稼働情報の取得に失敗した場合，または稼働情報が未取得※2 の場合，「-」が表示されます。
Java VM ヒープサイズ上限値	Java VM ヒープサイズの上限値（単位：MB）を示します。稼働情報の取得に失敗した場合，または稼働情報が未取得※2 の場合，「-」が表示されます。なお，Java VM の -Xmx オプションで指定した値から Survivor 領域の一つ分のサイズを除いた値が表示されます。
リソースアダプタ名	リソースアダプタ名を示します。
DB コネクション数最大値※1	DB コネクションの最大値を示します。また，次の場合は DB コネクション数上限値と合わせて「NA/NA」（無効値）が表示されます。 • 該当のリソースアダプタが，ルートリソースアダプタ，または Cosminexus RM 連携用 DB コネクタ • コネクションプールの上限値が 0 に設定されている場合
DB コネクション数上限値	DB コネクションの上限値を示します。DB コネクション数上限値だけ「NA」と表示される場合は，無制限を示します。DB コネクション数最大値と合わせて「NA/NA」と表示される場合については，「DB コネクション数最大値」の説明を参照してください。
受付種別	標準受付の受付種別を示します。次のどちらかが表示されます。 • WebService(SOAP1.1) • WebService(SOAP1.2)
キュー滞留数最大値※1	キュー滞留数の最大値を示します。稼働情報の取得に失敗した場合，または稼働情報が未取得※3 の場合，「-」が表示されます。
キュー滞留数上限値	キュー滞留数の上限値を示します。稼働情報の取得に失敗した場合，または稼働情報が未取得※3 の場合，「-」が表示されます。
実行数の最大値※1	実行数の最大値を示します。稼働情報の取得に失敗した場合，または稼働情報が未取得※3 の場合，標準出力に「-」が出力されます。
実行数の上限値	実行数の上限値を示します。「NA」と表示される場合は，無制限を示します。稼働情報の取得に失敗した場合，または稼働情報が未取得※3 の場合，「-」が表示されます。

表示項目	説明
ユーザ定義受付の受付 ID	ユーザ定義受付の受付 ID を示します。
ビジネスプロセスのサービス ID	ビジネスプロセスのサービス ID を示します。
サービスアダプタのサービス ID	サービスアダプタのサービス ID を示します。
HCSC サーバ稼働状態	HCSC サーバの稼働状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：起動状態 • inactive：停止状態 • startfailed：起動失敗 • stopfailed：停止失敗 • starting：起動中 • stopping：停止中 • unknown：取得失敗

注※ 1　最大値は，収集した 60 秒間のデータのうち最大となった値を示します。

注※ 2　HCSC サーバが起動してから稼働情報が収集されるまで（デフォルトでは 60 秒間）に，コマンドを実行した場合に未取得になります。

注※ 3　対象となる受付，または HCSC コンポーネントが開始してから稼働情報が収集されるまで（デフォルトでは 60 秒間）に，コマンドを実行した場合に未取得になります。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscstatus（状態表示）

形式

```
cscstatus [-h]
          -user <ログインユーザID>
          -pass <ログインパスワード>
          [-csc <HCSCサーバ名>
           -type {system | reception | compo}]
```

機能

HCSC サーバ，標準受付，および HCSC コンポーネントの状態を表示します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

標準受付または HCSC コンポーネントの状態を表示したい HCSC サーバ名を指定します。このオプションを指定した場合，必ず -type オプションを指定してください。このオプションを省略した場合，すべての HCSC サーバの状態が表示されます。

-type {system ｜ reception ｜ compo}

状態を表示する標準受付または HCSC コンポーネントの種類を指定します。

- system
  HCSC サーバと，HCSC サーバが管理する論理サーバの状態（PRF の状態）を表示する場合に指定します。
- reception
  標準受付およびユーザ定義受付の状態を表示する場合に指定します。

- compo
  HCSC コンポーネントの状態を表示する場合に指定します。

表示形式

(1)HCSC サーバの状態

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
HCSCサーバの状態 HCSCサーバ名
```

説明

表示項目	説明
HCSC サーバの状態	HCSC サーバの状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：開始状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • unknown：取得失敗
HCSC サーバ名	HCSC サーバ名を示します。次の形式で表示されます。 < クラスタ名 >.<HCSC サーバ名 >

(2)HCSC サーバが管理する論理サーバの状態 (-csc 指定時)

- -type system 指定時

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
HCSCサーバの状態 HCSCサーバ名
論理サーバの稼働状態 論理サーバ名
```

説明

表示項目	説明
HCSC サーバの状態	HCSC サーバの状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：開始状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • unknown：取得失敗

表示項目	説明
論理サーバの稼働状態	論理サーバの状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：開始状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • stopping：停止処理中 • abnormal ended：異常停止 • recovering：回復中 • communication error：通信障害 • auto stopping：自動停止中 • auto restarting：自動再起動中 • force stopping：強制停止中 • planned stopping：計画停止中

(3) 標準受付およびユーザ定義受付の状態 (-csc 指定時)

- -type reception 指定時

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
標準受付の状態 reception

ユーザ定義受付の状態
```

説明

表示項目	説明
標準受付の状態	標準受付の状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：開始状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • unknown：取得失敗
ユーザ定義受付の状態	ユーザ定義受付の状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：開始状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • deleting：削除処理中 • undeployed：配備前 • unknown：取得失敗

(4)HCSC コンポーネントの状態 (-csc 指定時)

- -type compo 指定時

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
ビジネスプロセスの状態 ビジネスプロセスのサービスID 更新時間※

サービスアダプタの状態 サービスアダプタのサービスID 更新時間※

ユーザ定義受付の状態 ユーザ定義受付の受付ID 更新時間※
```

注※ 開発環境で HCSC コンポーネントをパッケージングした時間です。したがって，開発環境のマシンの時間に依存します。

説明

表示項目	説明
• ビジネスプロセスの状態 • サービスアダプタの状態 • ユーザ定義受付の状態	ビジネスプロセス，サービスアダプタ，およびユーザ定義受付の状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：開始状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • deleting：削除処理中 • undeployed：配備前 • unknown：取得失敗

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscsetup（本番環境の簡易セットアップ）

形式

```
cscsetup [-h]
         {-setup <定義ファイルの格納先ディレクトリ>
           |-unsetup [-force]
           |-change <定義ファイルの格納先ディレクトリ>}
         [-yes]
```

機能

本番環境に適用できるシステムをセットアップおよびアンセットアップします。また，簡易セットアップで設定した情報を容易に変更します。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-setup < **定義ファイルの格納先ディレクトリ** > ((1 ー 100 **バイト**))

指定されたディレクトリの定義ファイルを参照し，本番環境をセットアップします。ディレクトリは絶対パスで指定してください。

-unsetup

本番環境をアンセットアップします。

-force

アンセットアップ中にエラーが発生した場合，強制的にアンセットアップを続行します。このオプションは，-setup オプションを指定したセットアップや -unsetup オプションを指定したアンセットアップに失敗し，処理が続行できなくなった場合に使用します。通常のアンセットアップをしたい場合は，-force オプションではなく -unsetup オプションを指定してアンセットアップすることをお勧めします。

-change < **定義ファイルの格納先ディレクトリ** > ((1 ー 100 **バイト**))

指定されたディレクトリの定義ファイルを参照し，本番環境の情報を変更します。ディレクトリは絶対パスで指定してください。

-yes

確認メッセージが表示されないようにします。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

UNIX の場合，定義ファイルの格納先ディレクトリに cscsetup コマンド定義ファイル（cscsetup.properties）が存在しないと，スーパーユーザで処理が実行されます。そのため，Cosminexus Component Container 管理者を変更して運用したい場合は，cscsetup コマンド定義ファイル（cscsetup.properties）でオーナー名およびグループ名を指定してください。cscsetup コマンド定義ファイルについては，「cscsetup コマンド定義ファイル」を参照してください。

cscsvcctl（サービス情報の管理）

形式

```
cscsvcctl [-h]
          -user <ログインユーザID>
          -pass <ログインパスワード>
          {-getfile <サービス情報変更定義ファイル名>
            |-setfile <サービス情報変更定義ファイル名>
            |-cluster <クラスタ名>
           -name <サービスアダプタのサービスID>
           -props <プロパティ>}
```

機能

cscsvcctl コマンドには，次に示す機能があります。

- サービス情報変更定義ファイルを出力する機能（-getfile オプションを使用）
- サービス情報変更定義ファイルを入力し，一括してサービス情報の変更を設定する機能（-setfile オプションを使用）
- サービス情報変更定義ファイルを使用しないで，個別にサービス情報の変更を設定する機能（-cluster，-name，および -props オプションを使用）

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-getfile < **サービス情報変更定義ファイル名** > ((1 － 200 **バイト**))

出力するサービス情報変更定義ファイル名を指定します。絶対パスまたは相対パスで指定します。指定したファイルまでのディレクトリがない場合，異常終了します。指定したファイルがすでにある場合，上書きされます。指定したファイル名と同名のディレクトリがある場合は，異常終了します。

なお，出力したサービス情報変更定義ファイル中で，プロキシサーバのユーザ ID/ パスワード，ベーシック認証のユーザ ID/ パスワードの設定値は，次のように表示されます。

- 値が設定されている場合：The value has already been set.
- 値が設定されていない場合：空白

-setfile < **サービス情報変更定義ファイル名** >　((1 － 200 **バイト**))

入力するサービス情報変更定義ファイル名を指定します。絶対パスまたは相対パスで指定します。指定したファイルがない場合，異常終了します。

なお，サービス情報変更定義ファイルを設定する際，プロキシサーバのユーザ ID/ パスワード，ベーシック認証のユーザ ID/ パスワードを変更しない場合は，-getfile オプションで取得したままの値を設定してください。

-cluster < **クラスタ名** >　～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

サービス情報を変更するサービスアダプタがあるクラスタ名を指定します。

-name < **サービスアダプタのサービス** ID>　～ ((1 **文字以上**))

サービス情報を変更するサービスアダプタのサービス ID を指定します。

-props < **プロパティ** >　～ ((1 **文字以上**))

操作対象に渡す情報を <key>=<value> 形式で指定します。<key> はサービス情報表示コマンド（cscsvcls）で表示されるキー名称を使用します。指定値はダブルクォーテーション（"）で囲みます。また，-name オプションで指定したアダプタに関するサービス情報であれば複数指定できます。複数指定する場合，指定値をコンマ（,）で区切ります（例：-props "a=b,c=d"）。なお，サービス情報表示コマンド（cscsvcls）で確認した LocalCall の値が false の場合は true へ変更しないでください。

入力例

(1) サービス情報変更定義ファイルを出力する場合

```
cscsvcctl -getfile service_info.txt
```

(2) サービス情報変更定義ファイルを入力し，一括してサービス情報の変更を設定する場合

```
cscsvcctl -setfile service_info.txt
```

(3) サービス情報変更定義ファイルを使用しないで，個別にサービス情報の変更を設定する場合

```
cscsvcctl -cluster Cluster -name adapter1 -props
"Url=aaa,ReadTimeout=60"
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

-setfile オプションまたは -name オプションを指定した場合，サービス情報を変更するサービスアダプタが配備中（HCSC サーバがクラスタ構成の場合，クラスタ内のどれかの HCSC サーバに配備中）の状態になっていると，cscsvcctl コマンドはエラーになります。

cscsvcls（サービス情報の表示）

形式

```
cscsvcls [-h]
         -user <ログインユーザID>
         -pass <ログインパスワード>
         [-detail]
```

機能

サービス情報を標準出力に出力します。カスタム受付およびカスタムアダプタに対しては，開発環境または運用環境で設定されている定義ファイル名およびその状態を出力します。また，cscsvcctl コマンドの引数に指定する値を調べます。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID>　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** >　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-detail

開発時に設定した値を表示する場合に指定します。

出力形式

-detail を指定しない場合

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
Cluster(name: クラスタ名)
- ServiceAdapter(ServiceID: サービスアダプタのサービスID, ServiceType: サービスアダプタ種別)
  属性名: 値
- ServiceAdapter(ServiceID: サービスアダプタのサービスID, ServiceType: サービスアダプタ種別)
  属性名： 値
- ServiceAdapter(ServiceID: サービスアダプタのサービスID, ServiceType: Custom)
    定義ファイル名: 状態
-UserDefinedReception(ReceptionID: 受付ID, ReceptionType: 受付種別)
    定義ファイル名: 状態
```

-detail を指定する場合

```
Command Edit Time:コマンド発行時間
Cluster(name: クラスタ名)
- ServiceAdapter(ServiceID: サービスアダプタのサービスID, ServiceType: サービスアダプタ種別)
  属性名(def): 開発時に設定した値
  属性名(set): 値
- ServiceAdapter(ServiceID: サービスアダプタのサービスID, ServiceType: サービスアダプタ種別)
  属性名(def): 開発時に設定した値
  属性名(set): 値
- ServiceAdapter(ServiceID: サービスアダプタのサービスID, ServiceType: Custom)
    定義ファイル名: 状態
      プロパティのキー名称：プロパティの値
-UserDefinedReception(ReceptionID: 受付ID, ReceptionType: 受付種別)
    定義ファイル名: 状態
      プロパティのキー名称=:プロパティの値
```

説明

表示項目	説明
Command Edit Time	コマンド発行時間を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS 形式で出力されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒
Cluster（name）	クラスタ名を示します。
ServiceAdapter（ServiceID）	サービスアダプタのサービス ID を示します。

表示項目	説明
ServiceType	サービスアダプタ種別を示します。次のどれかが出力されます。 • SessionBean：同期（SessionBean） • WebService：同期（Web サービス） • MDB_WSR：非同期（MDB（WS-R）） • MDB_DBQ：非同期（MDB（DB キュー））
属性名	現在有効なサービス情報が出力されます。
属性名（def）	サービス情報変更定義に設定されているサービス情報が出力されます。
属性名（set）	開発時に設定したサービス情報が出力されます。
受付 ID	受付 ID を示します。
受付種別	Custom が出力されます。
定義ファイル名※1	定義ファイル名を示します。
状態	定義ファイルの状態を示します。次のどれかが出力されます。 • noChange：独自定義ファイルを運用環境に設定してない状態 • add：独自定義ファイルを運用環境に追加した状態 • changed：運用環境に追加した定義を変更している状態
プロパティのキー名称※2	定義ファイルの拡張子が「*.properties」の場合にプロパティのキー名称が出力されます。
プロパティの値※2	定義ファイルの拡張子が「*.properties」の場合にプロパティの値が出力されます。

注※1　カスタムアダプタの場合，アプリケーション統合属性ファイル名が表示されることがあります。
注※2　拡張子が *.properties 以外の場合は表示されません。

サービス情報の出力形式を次の表に示します。なお，表中の SOAP モードは SOAP1.1 モードおよび SOAP1.1/1.2 併用モードを表します。

表 4-3　サービス情報の出力形式

サービスアダプタ種別	SOAP モード		出力形式（出力順）	サービス情報変更定義ファイルの相当する属性
	1.1	1.1/1.2 併用		
WebService	○	○	BasicAuthenticationId	basic_authentication_id ※1 ※2
	○	○	BasicAuthenticationPass	basic_authentication_pass ※1 ※2
	○	○	BasicAuthenticationUse	basic_authentication_use ※1
	○		SessionMaintain	c4web.application.app_maintainsession ※1

サービスアダプタ種別	SOAP モード		出力形式（出力順）	サービス情報変更定義ファイルの相当する属性
	1.1	1.1/1.2 併用		
	○		NonProxyHosts	c4web.application.non_proxy_hosts ※1
	○		ProxyHost	c4web.application.proxy_host ※1
	○		ProxyPassword	c4web.application.proxy_password ※1 ※2
	○		ProxyPort	c4web.application.proxy_port ※1
	○		ProxyUser	c4web.application.proxy_user ※1 ※2
	○		ConnectTimeout	c4web.application.socket_connect_timeout ※1
		○		com.cosminexus.csc.connect.timeout ※1
	○		ReadTimeout	c4web.application.socket_read_timeout ※1
		○		com.cosminexus.csc.request.timeout ※1
	○		WriteTimeout	c4web.application.socket_write_timeout ※1
	○		PrfTraceLevel	c4web.common.prf_trace_level ※1
	○		ReceiveMaxSoapEnvelopeSize	c4web.common.receive_max_soap_envelope_size ※1
	○		SendMaxSoapEnvelopeSize	c4web.common.send_max_soap_envelope_size ※1
		○	SessionMaintain	com.cosminexus.csc.session.maintain ※1
	○	○	Url	url
SessionBean	○		Timeout	c4web.application.ejb_timeout ※1
	○		PrfTraceLevel	c4web.common.prf_trace_level ※1
	○		LookupName	lookupName
	○		Url	url
MDB_WSR	○		LocalCall	local_call

サービスアダプタ種別	SOAP モード		出力形式（出力順）	サービス情報変更定義ファイルの相当する属性
	1.1	1.1/1.2 併用		
	○		QueueName	queue_name
	○		Url	url
	○		MaxMessageNum	max_message_num
	○		QosInOrder	qos_in_order
	○		RdAreaName	rdarea_name
MDB_DBQ	○	○	QueueName	queue_name

（凡例）

○：サービス情報の出力に対応していることを示します。

空欄：サービス情報の出力に対応していないことを示します。

注※１　設定されていない場合は，空白が表示されます。

注※２　設定されている場合は，「The value has already been set.」が表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscsvconfig（HCSC サーバランタイムの定義）

形式

```
cscsvconfig [-h]
            -user <ログインユーザID>
            -pass <ログインパスワード>
            {-operation get -csc <HCSCサーバ名>
               |-operation set -propfile <HCSCサーバランタイム定義ファイル名>
            {-csc <HCSCサーバ名>|-cluster <クラスタ名>}}
```

機能

サーバセットアップ後の HCSC サーバに対して，定義情報の取得や変更をします。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-operation {get ｜ set}

このコマンドの操作を指定します。

- get
  指定した HCSC サーバに設定されている定義が標準出力に出力されます。
- set
  -propfile オプションで指定したファイルの内容を，指定した HCSC サーバに反映されます。

-csc <HCSC **サーバ名** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

定義情報の取得や変更の対象となる HCSC サーバ名を指定します。

-propfile <HCSC サーバランタイム定義ファイル名 > ～ ((1 － 200 バイト))

HCSC サーバに定義する定義一覧を記載したファイル名を相対パス，または絶対パスで指定します。このオプションは，-operation オプションで set を指定したときに有効になります。

-cluster < クラスタ名 > ～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞ ((1 － 8 文字))

HCSC サーバ定義を一括更新するクラスタ名を指定します。-operation で set を指定したときに有効になります。ただし，クラスタ種別が HA のときにこのオプションを指定した場合はエラーになります。

入力例

(1)HCSC サーバ名 HCSC の定義を取得する場合

```
cscsvconfig -user admin -pass admin -csc HCSC -operation get
```

(2)HCSC サーバ名 HCSC の定義を設定する場合

```
cscsvconfig -user admin -pass admin -csc HCSC -operation set
-propfile config.properties
```

(3)Cluster クラスタに存在するすべての HCSC サーバの定義を変更する場合

```
cscsvconfig -user admin -pass admin -cluster Cluster -operation
set -propfile config.properties
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

cscsvsetup（HCSC サーバのセットアップ）

形式

```
cscsvsetup [-h]
           -user <ログインユーザID>
           -pass <ログインパスワード>
           [-csc <HCSCサーバ名>]
           [-cluster <クラスタ名>]
           -propfile <HCSCサーバ構成定義ファイル名>
```

機能

HCSC サーバのセットアップをします。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

セットアップする HCSC サーバ名を指定します。セットアップ済みの HCSC サーバ名と大文字，小文字だけが異なる HCSC サーバ名を使用しないでください。使用すると，データベーステーブル名やキュー名が重複してセットアップが失敗することがあります。このオプションの指定を省略した場合，HCSC サーバ構成定義ファイルに指定した HCSC サーバ名が仮定されます。

-cluster < **クラスタ名** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))<<-csc **オプションで指定したサーバ名** >>

セットアップする HCSC サーバが属するクラスタ名を指定します。クラスタ間で一意になるクラスタ名を指定します。セットアップ済みのクラスタ名と大文字，小文字だけが

異なるクラスタ名を使用しないでください。使用すると，データベーステーブル名やキュー名が重複してセットアップが失敗することがあります。このオプションの指定を省略した場合，HCSC サーバ構成定義ファイルに指定したクラスタ名が仮定されます。

-propfile <HCSC **サーバ構成定義ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

HCSC サーバ構成定義ファイル名を相対パス，または絶対パスで指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 追加セットアップをする場合は，HCSC サーバ，各ビジネスプロセス，および各サービスアダプタが停止してからコマンドを実行してください。停止していない場合はエラーになります。
- 同じクラスタ内では，データベースおよび Cosminexus RM を使用するかどうかの設定を一致させてください。
- 同じリポジトリ内では，すべての HCSC サーバの SOAP モードを一致させてください。

cscsvstart（HCSC サーバの起動）

形式

```
cscsvstart [-h]
           -user <ログインユーザID>
           -pass <ログインパスワード>
           {-csc <HCSCサーバ名>|-cluster <クラスタ名>}
           [{-logical <論理サーバ名>|-system }]
```

機能

HCSC サーバ，または論理サーバを起動します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

起動する HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバを一括起動するクラスタ名を指定します。クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-logical < **論理サーバ名** > ～<**半角英数字，アンダーライン（_），およびハイフン（-）**> ((1 － 128 **文字**))

起動する論理サーバ名を指定します。このオプションで設定した論理サーバの種類とその動作を次の表に示します。なお，このオプションを指定した場合，HCSC サーバは起動しません。

表 4-4 -logical オプションに指定した論理サーバの種類とその動作（起動時）

項番	指定した論理サーバの種類	動作
1	PRF	PRF を起動します。
2	スマートエージェント	スマートエージェントを起動します。
3	CTM ドメインマネージャ	CTM ドメインマネージャを起動します。
4	CTM デーモン	CTM デーモンを起動します。
5	J2EE サーバ	J2EE アプリケーションを起動しないで J2EE サーバを起動します。※
6	Web サーバ	Web サーバを起動します。

注※ HCSC サーバが起動していない状態でコマンドを実行します。

-system

HCSC サーバの起動と同時に，HCSC-Manager 定義ファイルの cscmng.server.<HCSC サーバ名 >.system で定義した論理サーバを起動します。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC を起動する場合

```
cscsvstart -user admin -pass admin -csc HCSC
```

(2)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバを一括起動する場合

```
cscsvstart -user admin -pass admin -cluster Cluster
```

(3)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバを論理サーバと同時に一括起動する場合

```
cscsvstart -user admin -pass admin -cluster Cluster -system
```

(4)Cluster クラスタ下にある論理サーバ名 PRF を一括起動する場合

```
cscsvstart -user admin -pass admin -cluster Cluster -logical PRF
```

(5)J2EE アプリケーションを起動しないで，HCSC サーバ HCSC にある J2EE サーバ J2EEServer を起動する場合

```
cscsvstart -user admin -pass admin -csc HCSC -logical J2EEServer
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは，セットアップ済みで，かつ停止済みの HCSC サーバに対して実行してください。
- このコマンドは起動状態の HCSC サーバ対して実行してもエラーになりません。
- -cluster を指定してエラーになった場合，結果を cscstatus コマンドで確認し，障害要因を取り除いたあとに，再度コマンドを実行してください。

cscsvstop（HCSC サーバの停止）

形式

```
cscsvstop [-h]
          -user <ログインユーザID>
          -pass <ログインパスワード>
          {-csc <HCSCサーバ名>|-cluster <クラスタ名>}
          [{-logical <論理サーバ名>|-system}]
          [-force]
```

機能

HCSC サーバを停止します。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

停止する HCSC サーバ名を指定します。

-cluster < **クラスタ名** > ～<**半角英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

HCSC サーバを一括停止するクラスタ名を指定します。クラスタ種別が HA のときに -cluster を指定するとエラーになります。

-logical < **論理サーバ名** > ～<**半角英数字，アンダーライン（_），およびハイフン（-）**> ((1 － 128 **文字**))

停止する論理サーバ名を指定します。このオプションで設定した論理サーバの種類とその動作を次の表に示します。なお，このオプションを指定した場合，HCSC サーバは停

止しません。また，-force は無効になります。

表 4-5 -logical オプションに指定した論理サーバの種類とその動作（停止時）

項番	指定した論理サーバの種類	動作
1	PRF	PRF を停止します。
2	スマートエージェント	スマートエージェントを停止します。
3	CTM ドメインマネージャ	CTM ドメインマネージャを停止します。
4	CTM デーモン	CTM デーモンを停止します。
5	J2EE サーバ	J2EE サーバを停止します。※
6	Web サーバ	Web サーバを停止します。

注※ HCSC サーバが起動していない状態でコマンドを実行します。

-system

HCSC サーバの停止と同時に，HCSC-Manager 定義ファイルの cscmng.server.<HCSC サーバ名 >.system で定義した論理サーバを停止します。

-force

強制停止をします。MBean 側のステータスを初期化します。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC を停止する場合

```
cscsvstop -user admin -pass admin -csc HCSC
```

(2)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバを一括強制停止する場合

```
cscsvstop -user admin -pass admin -cluster Cluster -force
```

(3)Cluster クラスタ下にある HCSC サーバを論理サーバと同時に一括停止する場合

```
cscsvstop -user admin -pass admin -cluster Cluster -system
```

(4)Cluster クラスタ下にある論理サーバ名 PRF を一括停止する場合

```
cscsvstop -user admin -pass admin -cluster Cluster -logical PRF
```

(5)HCSC サーバ HCSC にある J2EE サーバ J2EEServer を停止する場合

```
cscsvstop -user admin -pass admin -csc HCSC -logical J2EEServer
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- このコマンドは，起動状態の HCSC サーバに対して実行してください。
- -cluster を指定してエラーになった場合，結果を cscstatus コマンドで確認し，障害要因を取り除いたあとに，再度コマンドを実行してください。

cscsvunsetup（HCSC サーバのアンセットアップ）

形式

```
cscsvunsetup [-h]
             -user <ログインユーザID>
             -pass <ログインパスワード>
             -csc <HCSCサーバ名>
             [-ignore]
```

機能

HCSC サーバのアンセットアップをします。

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-csc <HCSC **サーバ名** > **～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

アンセットアップする HCSC サーバ名を指定します。

-ignore

実行環境側のアンセットアップに失敗した場合もリポジトリの情報を更新する場合に指定します。ハードディスク障害やアンセットアップ時の通信障害などによる実行環境とリポジトリ環境の不整合を調整するために使用します。HCSC コンポーネントが配備されていた場合は，リポジトリの情報は更新されません。HCSC コンポーネントの情報を削除する場合は，csccompoundeploy コマンドで -ignore オプションを指定して削除してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

HCSC サーバを停止後，各 HCSC コンポーネントが未配備，または未セットアップ状態にしてからこのコマンドを実行してください。HCSC サーバが起動しているときや，各 HCSC コンポーネント配備状態，またはセットアップ状態の場合はエラーになります。

cscutil（各種操作）

形式

```
cscutil [-h]
        -user <ログインユーザID>
        -pass <ログインパスワード>
        {-mng <Cosminexus Manager名>
           | -host <IPアドレス>:<ポート番号> -mnguser <管理ユーザID>
             [-mngpass <管理ユーザパスワード>]}
        -target {server | compo | compo_urecp | request_service}
        -operation {start | stop | get_setup_info | get_info
           | get_bp_info | get_adapter_info | set_info | delete_info}
        {-props <プロパティ> | -propfile <プロパティファイル名>}
        [-binary <ファイル名>]
```

機能

次に示す操作ができます。

- HCSC サーバの起動
- ビジネスプロセス・サービスアダプタの開始
- 標準受付の開始
- ユーザ定義受付の開始
- HCSC サーバセットアップの情報取得
- HCSC サーバの情報取得
- ビジネスプロセスの情報取得
- サービスアダプタの情報取得
- ユーザ定義受付の情報取得
- 標準受付の停止
- ユーザ定義受付の停止
- ビジネスプロセス・サービスアダプタの停止
- HCSC サーバの停止

ログインユーザ ID などの必須オプションは，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルにデフォルト値を設定することで，このコマンドでの指定を省略できます。

引数

-h

コマンドの使用方法が表示されます。このオプションを指定している場合は，ほかのオプションを指定しても無視されます。

-user < **ログインユーザ** ID> 　**～<半角英数字およびアンダーライン（_）>** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するユーザ ID を指定します。

-pass < **ログインパスワード** > 　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

HCSC-Manager ログイン時に使用するパスワードを指定します。

-mng <Cosminexus Manager **名** > 　**～＜半角英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 16 **文字**))

Cosminexus Manager のマネージャ識別名を指定します。リポジトリ内に存在する Cosminexus Manager 名を指定してください。

-host < **ホスト名または** IP **アドレス** >：< **ポート番号** > 　**～＜ホスト名または** IP **アドレス：文字列，ポート番号：数字＞** ((**文字列：**1 **文字以上，ポート番号：**1 － 65535))

Manager リモート管理機能のホスト名（または IP アドレス）とポート番号を「:」で連結して指定します。IP アドレス，ポート番号ともに省略はできません。

リポジトリが存在しない状態でも，-host オプションは指定できます。-host オプションを指定する場合，-mnguser オプションおよび -mngpass オプションを指定してください。

-mnguser < **管理ユーザ** ID> 　**～** ((1 **文字以上**))

Cosminexus Manager の管理ユーザ ID を指定します。

-mngpass < **管理ユーザパスワード** > 　**～** ((1 **文字以上**))

Cosminexus Manager の管理ユーザ ID に対するパスワードを指定します。変更する Cosminexus Manager のユーザ ID にパスワードを設定している場合だけ，このオプションを指定できます。

-target {server ｜ compo ｜ compo_urecp ｜ request_service}

実行する操作対象を指定します。

- server
  実行する操作対象が，HCSC サーバの場合に指定します。
- compo
  実行する操作対象が，ビジネスプロセスまたはアダプタの場合に指定します。
- compo_urecp
  実行する操作対象が，ユーザ定義受付の場合に指定します。
- request_service
  実行する操作対象が，標準受付の場合に指定します。

-operation {start ｜ stop ｜ get_setup_info ｜ get_info ｜ get_bp_info ｜ get_adapter_info}

実行する操作を指定します。

- start

指定した操作対象を開始する場合に指定します。

- stop
  指定した操作対象を停止する場合に指定します。
- get_setup_info
  指定した HCSC サーバのセットアップ情報を取得する場合に指定します。
- get_info
  指定した HCSC サーバの情報を取得する場合に指定します。
- get_bp_info
  指定したビジネスプロセスの情報を取得する場合に指定します。
- get_adapter_info
  指定したアダプタの情報を取得する場合に指定します。

-target オプションと -operation オプションの値によって実施できる操作を次の表に示します。

表 4-6　-target オプションと -operation オプションの値によって実施できる操作

-target オプション	-operation オプション	操作内容
server	start	HCSC サーバの起動
compo	start	ビジネスプロセスの開始
compo	start	アダプタの開始
request_service	start	標準受付の開始
request_service	stop	標準受付の停止
compo	stop	アダプタの停止
compo	stop	ビジネスプロセスの停止
server	stop	HCSC サーバの停止
server	get_setup_info	HCSC サーバのセットアップ情報取得
server	get_info	HCSC サーバの情報取得
compo	get_bp_info	ビジネスプロセスの情報取得
compo	get_adapter_info	アダプタの情報取得
compo_urecp	get_info	ユーザ定義受付の情報取得
compo_urecp	start	ユーザ定義受付の開始
compo_urecp	stop	ユーザ定義受付の停止

-props < **プロパティ** >　〜 ((0 **文字以上**))

指定した操作対象やオペレーションに指定する引数を 「< キー値 >= < 指定値 >」の形式で指定します。指定値はダブルクォーテーション（"）で囲みます。

ただし，キー値および指定値には，次に示す文字を指定できません。指定すると，動作が不定となります。

- ダブルクォーテーション（"）
- 等号（=）
- コンマ（,）

また，複数指定する場合，各引数はコンマ（,）で区切ります。

（例） -props "J2EESrvName=HCSC サーバをセットアップした J2EE サーバ名,CSCSrvName= 起動する HCSC サーバ名 "

表 4-7 操作対象や操作に対する -props オプションへ指定するプロパティ

操作内容	-target	-operation	-props で指定するプロパティ
HCSC サーバの起動	server	start	• J2EESrvName=HCSC サーバをセットアップした J2EE サーバ名 • CSCSrvName= 起動する HCSC サーバ名
ビジネスプロセスの開始	compo	start	• AdapterName= 起動するビジネスプロセスのサービス ID • ServiceKind= アダプタ種別 bp：ビジネスプロセス • J2EESrvName= アダプタを起動する J2EE サーバ名 • CSCSrvName= アダプタを起動する HCSC サーバ名
アダプタの開始	compo	start	• AdapterName= 起動するサービスアダプタのサービス ID • ServiceKind= アダプタ種別 serviceAdapter：サービスアダプタ • J2EESrvName= アダプタを起動する J2EE サーバ名 • CSCSrvName= アダプタを起動する HCSC サーバ名
標準受付の開始	request_service	start	• J2EESrvName=HCSC サーバが起動している J2EE サーバ名 • CSCSrvName= リクエスト受付ができる HCSC サーバ名
標準受付の停止	request_service	stop	• J2EESrvName= インポートする J2EE サーバ名 • CSCSrvName= リクエスト抑止する HCSC サーバ名 • ForceFlag= 強制停止フラグ NORMAL_OPTION：通常停止 WAIT_OPTION：計画停止 FORCE_OPTION：強制停止

操作内容	-target	-operation	-props で指定するプロパティ
アダプタの停止	compo	stop	• J2EESrvName= アダプタを停止する J2EE サーバ名 • CSCSrvName= アダプタを停止する HCSC サーバ名 • AdapterName= 停止するサービスアダプタのサービス ID
ビジネスプロセスの停止	compo	stop	• J2EESrvName= アダプタを停止する J2EE サーバ名 • CSCSrvName= アダプタを停止する HCSC サーバ名 • AdapterName= 停止するビジネスプロセスのサービス ID
HCSC サーバの停止	server	stop	• J2EESrvName=HCSC サーバをセットアップした J2EE サーバ名 • CSCSrvName= 停止する HCSC サーバ名 • ForceFlag= 強制停止フラグ false：通常停止 true：強制停止
HCSC サーバのセットアップ情報取得	server	get_setup_info	• CSCSrvName=HCSC サーバ名
HCSC サーバの情報取得	server	get_info	• CSCSrvName= 状態表示する HCSC サーバ名
ビジネスプロセスの情報取得	compo	get_bp_info	• CSCSrvName=HCSC サーバ名 • AdapterName= ビジネスプロセスのサービス ID
アダプタの情報取得	compo	get_adapter_info	• CSCSrvName=HCSC サーバ名 • AdapterName= サービスアダプタのサービス ID
ユーザ定義受付の情報取得	compo_urecp	get_info	• CSCSrvName= ユーザ定義受付の情報を取得する HCSC サーバ名
ユーザ定義受付の開始	compo_urecp	start	• CSCSrvName= ユーザ定義受付を開始する HCSC サーバ名 • J2EESrvName= ユーザ定義受付を開始する J2EE サーバ名
ユーザ定義受付の停止	compo_urecp	stop	• CSCSrvName= ユーザ定義受付を停止する HCSC サーバ名 • J2EESrvName= ユーザ定義受付を停止する J2EE サーバ名

-propfile < **プロパティファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

引数を記述したプロパティファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。J2SE のプロパティファイル形式で指定します。

-binary < **ファイル名** > 〜 ((1 − 200 **バイト**))

バイナリ形式のファイル名を絶対パス，または相対パスで指定します。このオプションは将来使用するために定義されているオプションです。

入力例

(1)HCSC サーバ HCSC を起動する場合

```
cscutil -user admin -pass admin -mng Manager -target server
-operation start -props "CSCSrvName=HCSC,
J2EESrvName=J2EEServer"
```

(2) プロパティファイル cscutil.properties を使用して，HCSC サーバ HCSC を起動する場合

```
cscutil -user admin -pass admin -host 10.209.13.165:9001
-mnguser admin -mngpass admin -target server -operation start
-propfile cscutil.properties

cscutil.propertiesの中身

  CSCSrvName=HCSC
  J2EESrvName=J2EEServer
```

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
2	通信タイムアウトが発生しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- cscutil コマンドを実行する場合，参照機能（HCSC サーバ情報の参照など）は，複数同時に実行できます。
- 運用機能（HCSC サーバの起動やサービスアダプタの停止など）を複数同時に実行できません。

csmdeletehistory（電文の実行履歴情報テーブルのレコードの削除）

形式

```
csmdeletehistory [<HCSCサーバ名>]
                 {-t <削除開始日時>｜-d <日数>}
                 [ {-m <メッセージ共通ID>
                    ｜-c <クライアント相関ID>
                  ｜-a <サービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービスID>} ]
                  [-u <DBユーザID> [-p <DBパスワード>]]
```

機能

データベースを使用する構成で HCSC サーバをセットアップした場合，電文の実行履歴情報テーブル中のレコードを削除します。削除したい日時または日数と削除対象（メッセージ共通 ID，クライアント相関 ID，またはサービスアダプタもしくはビジネスプロセスのサービス ID）を組み合わせて指定できます。HCSC サーバが停止している場合でも削除できます。

引数

<HCSC サーバ名 >　～ < 英数字およびアンダーライン（_）> ((1 － 8 **文字**))

自 HCSC サーバ名を指定します。CSM_SV_NAME 環境変数に HCSC サーバ名を設定すると，このオプションの指定を省略できます。

-t < 削除開始日時 >　～＜半角数字＞

指定した日時より以前の実行履歴レコードを削除します。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，日時には存在するものを指定してください。

- 削除開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-d < 日数 >　～＜整数＞ ((0 － 365))

指定した日数より以前の実行履歴レコードを削除します。日数を日単位で指定してください。0 を指定した場合，削除対象のすべての実行履歴を削除します。

-m < **メッセージ共通** ID> ～<**英数字および記号，コロン（:），およびピリオド（.）**> ((1 － 75 **文字**))

指定したメッセージ共通 ID に合致する実行履歴レコードを削除します。

-c < **クライアント相関** ID> ～<**英数字および記号**> ((1 － 255 **文字**))

指定したクライアント相関 ID に合致する実行履歴レコードを削除します。

-a < **サービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービス** ID> ～<**英数字およびアンダーライン（_）**> ((1 － 8 **文字**))

指定したサービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービス ID に合致する実行履歴レコードを削除します。

-u <DB **ユーザ** ID>

HCSC サーバで使用しているデータベースのユーザ ID を指定します。HCSC サーバが起動している場合は，このオプションを指定しても無効になります。HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の条件を満たす場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定している場合
- jdbc-dbconnectinfo に指定した環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

-p <DB **パスワード** >

HCSC サーバで使用しているデータベースのパスワードを指定します。HCSC サーバが起動している場合は，このオプションを指定しても無効になります。HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の条件を満たす場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定している場合
- jdbc-dbconnectinfo に指定した環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 入力形式を間違えた場合はエラーになります。
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合，このコマンドは使用できません。

csmftpaddusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの登録・更新）

形式

```
csmftpaddusr -usr <ユーザ名>
             -pass <パスワード>
             [-r]
```

機能

FTP インバウンドアダプタに新規のユーザを登録します。ユーザがすでに登録されている場合は，パスワードを更新します。

引数

-usr < ユーザ名 > 〜＜半角英数字および半角記号＞ ((1 − 80 **文字**))

登録または更新したいユーザ名を指定します。ユーザ名が指定されていない（anonymous）ユーザは登録できません。

使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」〜「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号を次に示します。

- 感嘆符（!）
- ダブルクォーテーション（"）
- 番号記号（#）
- ドル記号（$）
- パーセント（%）
- アンパサンド（&）
- アポストロフィ（'）
- 始め小括弧（(）
- 終わり小括弧（)）
- 正符号（+）
- ハイフン（-）
- ピリオド（.）
- スラッシュ（/）
- コロン（:）
- セミコロン（;）
- 左アングルブラケット（<）
- 右アングルブラケット（>）
- 等号（=）

- クエスチョンマーク（?）
- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）
- 円マーク（¥）
- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）
- 波ダッシュ（~）

-pass < **パスワード** > ～<**半角英数字および半角記号**> ((1 － 80 **文字**))

登録または変更したいユーザ名に対するパスワードを指定します。使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。英字の大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号は -usr オプションと同じです。

更新したい場合（-r オプションを指定する場合），更新後のパスワードを指定します。

-r

すでに登録されているユーザ ID のパスワードを変更する場合に指定します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 登録できるユーザ数は 2,048 までです。
- FTP インバウンドアダプタが停止している状態でコマンドを実行してください。
- HCSC サーバの稼働の状態に関係なく，コマンドを実行できます。
- コマンドの実行内容（ユーザの登録・更新）は，FTP インバウンドアダプタの開始後に有効となります。また，FTP インバウンドアダプタが開始している状態でコマンドを実行した場合，コマンドの実行内容（ユーザの登録・更新）は，次に FTP インバウンドアダプタを開始したあとに有効となります。
- 次の場合はエラーになります。

- ユーザの登録，更新，削除および表示を実行中の場合
- システム管理者以外がコマンドを実行しようとした場合

csmftpdelusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの削除）

形式

```
csmftpdelusr -usr <ユーザ名>
```

機能

FTP インバウンドアダプタに登録されているユーザを削除します。

引数

-usr < ユーザ名 > ～<半角英数字および半角記号> ((1 － 80 **文字**))

削除したいユーザ名を指定します。使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。英字の大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号を次に示します。

- 感嘆符（!）
- ダブルクォーテーション（"）
- 番号記号（#）
- ドル記号（$）
- パーセント（%）
- アンパサンド（&）
- アポストロフィ（'）
- 始め小括弧（(）
- 終わり小括弧（)）
- 正符号（+）
- ハイフン（-）
- ピリオド（.）
- スラッシュ（/）
- コロン（:）
- セミコロン（;）
- 左アングルブラケット（<）
- 右アングルブラケット（>）
- 等号（=）
- クエスチョンマーク（?）
- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）
- 円マーク（¥）

- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）
- 波ダッシュ（~）

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- FTP インバウンドアダプタが停止している状態でコマンドを実行してください。
- HCSC サーバの稼働の状態に関係なく，コマンドを実行できます。
- コマンドの実行内容（ユーザの削除）は，FTP インバウンドアダプタの開始後に有効となります。また，FTP インバウンドアダプタが開始している状態でコマンドを実行した場合，コマンドの実行内容（ユーザの削除）は，次に FTP インバウンドアダプタを開始したあとに有効となります。
- 次の場合はエラーになります。
  - ユーザの登録，更新，削除および表示を実行中の場合
  - システム管理者以外がコマンドを実行しようとした場合

csmftplsusr（FTP インバウンドアダプタのユーザの表示）

形式

```
csmftplsusr
```

機能

FTP インバウンドアダプタに登録されているユーザを表示します。表示結果は標準出力に出力されます。

表示形式

1：ユーザ ID1

2：ユーザ ID2

3：ユーザ ID3

　　：

1 行に 1 ユーザ名を表示します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- FTP インバウンドアダプタが停止している状態でコマンドを実行してください。
- HCSC サーバの稼働の状態に関係なく，コマンドを実行できます。
- 次の場合はエラーになります。
  - ユーザの登録，更新，削除および表示を実行中の場合
  - システム管理者以外がコマンドを実行しようとした場合

csmftplshistory（転送履歴の表示）

形式

```
csmftplshistory <J2EEサーバ名>
                [-csv <出力ファイルパス>]
                [-date <表示開始日時>,<表示終了日時>]
```

機能

転送履歴を表示します。

引数

<J2EE サーバ名 >

HCSC の開始時に指定した J2EE サーバ名を指定します。

アンセットアップされた J2EE サーバ名を指定した場合は，アンセットアップされた J2EE サーバで取得済みの転送履歴が表示されます。

-csv < 出力ファイルパス >

転送履歴を CSV 形式のファイルに出力します。出力ファイルパスは絶対パスまたは相対パスを指定してください。ただし，Windows の場合，ドライブレター付きの相対パス（例：C:temp¥history.csv）は指定できません。省略した場合は，転送履歴を標準出力に出力します。

-date < 表示開始日時 >,< 表示終了日時 >

転送コマンド開始日時が表示開始日時から表示終了日時までの転送履歴だけを出力する場合に指定します。

- 表示開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
- 表示終了日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

表示終了日時に，表示開始日時よりも古い日時が指定された場合は，何も表示されません。また，転送処理が異常終了した場合など，転送コマンド開始日時が転送履歴に保存されていない場合は，その転送履歴は表示されません。

出力形式

- CSV 形式の出力例

  先頭行に出力項目の名称を出力し，1 行に 1 回の転送の履歴情報を出力します。

```
TransferID UserName ServerFileName…ClientPort
10.209.12.111/2200/0x00000000000000c7 admin /service1/file1…1071
10.209.12.111/2200/0x00000000000000c8 admin /service1/file2…1072
    :
```

- 標準出力への出力例

```
TransferID                :10.209.12.111/2200/0x00000000000000c7
UserName                  :admin
ServerFileName            :/service1/file1
TransferType              :RETR
TransferMode              :ASCII
CompressionMode           :uncompress
Status                    :SUCCESS
TransferCmdStartTime      :2010/07/22 19:00:00.000
TransferCmdEndTime        :2010/07/22 19:00:02.000
TransferCmdTime           :2.000
TransferStartTime         :2010/07/22 19:00:01.000
TransferEndTime           :2010/07/22 19:00:02.000
TransferTime              :1.000
TransferSize              :1024
ClientIP                  :10.209.12.110
ClientPort                :1071
    :
```

説明

表示項目	説明
TransferID	転送ごとのユニークな番号を示します。PRF のルートアプリケーションの情報となります。 xxx.xxx.xxx.xxx/aaa/bbb の形式で表示されます。 • xxx.xxx.xxx.xxx：ルートアプリケーションの IP アドレス • aaa：ルートアプリケーションのプロセス ID • bbb：ルートの通信番号
UserName	認証されたユーザ名を示します。
ServerFileName	クライアントから転送要求されたサーバのファイル名を示します。 /< 振分識別子 >/< ファイル名 > の形式で表示されます。
TransferType	送受信種別を示します。次に示すどれかが表示されます。 • RETR：サーバからクライアントへのファイル転送 • STOR：クライアントからサーバへのファイル転送 • APPE：クライアントからサーバへのファイル転送（サーバ上のファイルへ追加書き）
TransferMode	転送要求時に指定した転送モードを示します。 • ASCII：ASCII モード • BINARY：BINARY モード

表示項目	説明
CompressionMode	転送要求時に指定した圧縮モードを示します。 • compress：圧縮 • uncompress：非圧縮 • unknown：データコネクションのオープンに失敗
Status	ファイル転送の終了状態を示します。 • SUCCESS：成功 • FAILURE：失敗
TransferCmdStartTime	転送コマンドを受信して転送コマンドの処理を開始した時刻を示します。 YYYY/MM/DD HH:MM:SS.mmm の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • HH：時 • MM：分 • SS：秒 • mmm：ミリ秒 • *****：転送コマンドの処理開始前にエラーが発生
TransferCmdEndTime	転送コマンドの処理を終了した時刻を示します。 YYYY/MM/DD HH:MM:SS.mmm の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • HH：時 • MM：分 • SS：秒 • mmm：ミリ秒
TransferCmdTime	転送コマンドの処理に掛かった，通算の時間を示します。 ss.SSS の形式で表示されます。 • ss：秒 • SSS：ミリ秒 • *****：転送コマンドの処理開始前にエラーが発生
TransferStartTime	ファイル転送を開始した時刻を示します。 YYYY/MM/DD HH:MM:SS.mmm の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • HH：時 • MM：分 • SS：秒 • mmm：ミリ秒 • *****：転送開始前にエラーが発生

表示項目	説明
TransferEndTime	ファイル転送を終了した時刻を示します。 YYYY/MM/DD HH:MM:SS.mmm の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • HH：時 • MM：分 • SS：秒 • mmm：ミリ秒 • *****：転送に失敗
TransferTime	ファイル転送に掛かった，通算の時間を示します。 ss.SSS の形式で表示されます。 • ss：秒 • SSS：ミリ秒 • *****：転送に失敗
TransferSize	転送したファイルのデータサイズをバイトで示します。 転送に失敗した場合は「-1」と表示されます。
ClientIP	転送が要求されたクライアントの IP アドレスを示します。
ClientPort	転送が要求されたクライアントのポート番号を示します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
3	排他エラーが発生しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- HCSC サーバの稼働の状態に関係なく，コマンドを実行できます。
- FTP インバウンドアダプタの状態に関係なく，コマンドを実行できます。
- システム管理者以外がコマンドを実行しようとした場合，エラーとなります。

csmlshistory（電文の実行履歴情報の表示）

形式

```
csmlshistory [<HCSCサーバ名>]
             [-c <クライアント相関ID>]※
             [-m <メッセージ共通ID>]※
             [-i <サービスリクエストID>]※
             [-t <照会開始日時>,<照会終了日時>]※
             [-rs <サービスリクエスタからの入力サービス名>]※
             [-s <サービス名>]※
             [-jm <JMSメッセージID>]※
             [-jc <JMS相関識別子>]※
             [-l {new｜all}]
             [-d {nml｜ext｜msg}]
             [-ul <電文データ長>]
             [-r <表示レコード数>]
             [-k {list｜count}]
             [-u <DBユーザID> [-p <DBパスワード>]]
```

注※　一つ以上指定します。すべてを省略することはできません。

機能

データベースを使用する構成で HCSC サーバをセットアップした場合，電文の実行履歴の情報を表示します。HCSC サーバが停止している場合でも表示できます。

引数

<HCSC **サーバ名** >　**～＜英数字およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 8 **文字**))

自 HCSC サーバ名を指定します。CSM_SV_NAME 環境変数に HCSC サーバ名を設定すると，このオプションの指定を省略できます。

-c < **クライアント相関** ID>　**～＜英数字および記号＞** ((1 － 255 **文字**))

クライアント相関 ID で検索する場合に指定します。

-m < **メッセージ共通** ID>　**～＜英数字および記号，コロン（:），およびピリオド（.）＞** ((1 － 75 **文字**))

メッセージ共通 ID で検索する場合に指定します。

-i < **サービスリクエスト** ID>　**～＜英数字および記号，コロン（:），およびピリオド（.）＞** ((1 － 84 **文字**))

サービスリクエスト ID で検索する場合に指定します。

-t < **照会開始日時** >,< **照会終了日時** > 〜<**半角数字**>

開始日時，終了日時で検索する場合に指定します。照会開始日時と照会終了日時の間のコンマ（,）の前後に余分なスペースを指定しないでください。なお，指定できる日時の形式は次の形式です。また，日時には存在するものを指定してください。

- 照会開始日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
- 照会終了日時：YYYYMMDDhhmmss の形式で指定してください。
  YYYY：西暦年（1970 ≦ YYYY）
  MM：月（01 ≦ MM ≦ 12）
  DD：日（01 ≦ DD ≦ 31）
  hh：時（00 ≦ hh ≦ 23）
  mm：分（00 ≦ mm ≦ 59）
  ss：秒（00 ≦ ss ≦ 59）

-rs < **サービスリクエスタからの入力サービス名** > 〜< XML **スキーマの** NCName **型の文字列**> ((1 − 64 **バイト**))

サービスリクエスタの入力サービス名で検索する場合に指定します。

-s < **サービス名** > 〜< XML **スキーマの** NCName **型の文字列**> ((1 − 64 **バイト**))

呼び出し先のサービス名で検索する場合に指定します。

-jm <JMS **メッセージ** ID> 〜<**英数字および記号，コロン（:），およびピリオド（.）**> ((1 − 255 **文字**))

JMS ヘッダの JMSMessageID の値で検索する場合に指定します。

-jc <JMS **相関識別子** > 〜<**文字列**> ((1 − 255 **文字**))

JMS ヘッダの JMSCorrelationID の値で検索する場合に指定します。

-l {new ｜ all} 〜 <<new>>

実行履歴情報の検索方法を指定します。

- new
  HCSC メッセージ共通 ID とサービスリクエスト ID が一致する実行履歴情報のうち，最新の実行履歴情報だけを表示します。例えば，あるリクエストによって実行履歴に送信履歴と応答履歴が格納された場合，応答履歴だけが表示されます。
- all
  該当するすべての実行履歴情報を表示します。重複した情報も含めて表示します。

-d {nml ｜ ext ｜ msg} 〜 <<nml>>

実行履歴の表示方法を指定します。

- nml

基本情報だけを表示します。

- ext
  電文データを除くすべての情報を表示します。
- msg
  電文データを含むすべての情報を表示します。

-ul < **電文データ長** > 〜 ((0 − 65535 **バイト**)) <<1024>>

出力する電文データ（ユーザ電文）の上限値を指定します。このオプションは -d オプションに msg を指定したときだけ有効になります。また，0 を指定した場合は上限値がなくなります。

-r < **表示レコード数** > 〜<**整数**> ((1 − 1000)) <<100>>

表示するレコード数を指定します。該当するレコード数が指定値より小さい場合は，該当するレコード数だけ表示します。

-k {list ｜ count} <<list>>

指定した条件を満たす履歴情報について，内容を表示するか，またはエントリ数を表示するかを指定します。

- list
  履歴情報の内容を表示します。該当する情報が存在しない場合，情報は表示されません。
- count
  履歴情報のエントリ数を表示します。count を指定した場合は，-d オプション，-ul オプション，および -r オプションの値は無効になります。

-u <DB **ユーザ** ID>

HCSC サーバで使用しているデータベースのユーザ ID を指定します。HCSC サーバが起動している場合は，このオプションを指定しても無効になります。HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の条件を満たす場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定している場合
- jdbc-dbconnectinfo に指定した環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

-p <DB **パスワード** >

HCSC サーバで使用しているデータベースのパスワードを指定します。HCSC サーバが起動している場合は，このオプションを指定しても無効になります。HCSC サーバが停

止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の条件を満たす場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定している場合
- jdbc-dbconnectinfo に指定した環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

表示形式

(1) 実行履歴情報の内容（-k list 指定時）

```
EntryCount：エントリ番号
TimeStamp：実行履歴採取時刻
HCSCServerName：受付HCSCサーバ名
ClusterName：サービス部品を呼び出したHCSCサーバのクラスタ名
HistoryDirection：実行履歴採取方向
HCSCCommonID：メッセージ共通ID
ServiceRequestID：サービスリクエストID
ClientID：クライアント相関ID
JMSMessageID：JMSメッセージID
JMSCorrelationID：JMS相関識別子
RequestType：サービスリクエスタ種別
RequestProtocolKind：リクエストのプロトコル種別
RequestServiceName：サービスリクエスタからの入力サービス名
ServiceName：呼び出し先のサービス名
ServiceKind：サービスの種別
AdapterName：サービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービスID
ServiceProtocolKind：サービスアダプタの種類
ServiceOperationName：サービス部品のオペレーション名
ConnectProtocolKind：連携プロトコル種別
RequestUserTelegramType：ユーザ電文の種別
ResponseUserTelegramType：ユーザへの応答電文の種別
BPActivity：ビジネスプロセス用アクティビティ番号
BPProcessID：ビジネスプロセス用プロセスID
BPRequestType：ビジネスプロセス用要求タイプ
ReplyToQueueName：応答用のキュー名
RouteHistory：経路履歴情報
ErrorCode：エラー情報
Version：実行履歴情報コンテナのバージョン番号
Revision：実行履歴情報コンテナのリビジョン番号
UserTelegram：ユーザ電文
```

注　表示するエントリが複数ある場合，エントリごとに改行で区切ります。

説明

表示項目	説明	-d オプションを設定した場合に表示される情報		
		基本情報（nml を指定）	電文データ以外の情報（ext を指定）	電文データを含むすべての情報（msg を指定）
EntryCount	エントリ番号を示します。	○	○	○
TimeStamp	実行履歴採取時刻を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒	○	○	○
HCSCServerName	受付 HCSC サーバ名を示します。	×	○	○
ClusterName	サービス部品を呼び出した HCSC サーバのクラスタ名を示します。	○	○	○
HistoryDirection	実行履歴採取方向を示します。次のどれかが表示されます。 • Service Request Direction：送信方向 送信方向には次の二つの場合があります。 ・サービスリクエスタ→メッセージング基盤→ビジネスプロセス ・ビジネスプロセス→メッセージング基盤→サービス部品 • Service Response Direction：応答方向 応答方向には次の二つの場合があります。 ・ビジネスプロセス→メッセージング基盤→サービスリクエスタ ・サービス部品→メッセージング基盤→ビジネスプロセス • Service Error：サービス部品呼び出しエラー • Service Fault：サービス部品またはアダプタからのフォルト	○	○	○
HCSCCommonID	メッセージ共通 ID を示します。	○	○	○
ServiceRequestID	サービスリクエスト ID を示します。	○	○	○

表示項目	説明	-d オプションを設定した場合に表示される情報		
		基本情報（nml を指定）	電文データ以外の情報（ext を指定）	電文データを含むすべての情報（msg を指定）
ClientID	クライアント相関 ID を示します。	×	○	○
JMSMessageID	JMS メッセージ ID を示します。	×	○	○
JMSCorrelationID	JMS 相関識別子を示します。	×	○	○
RequestType	サービスリクエスタ種別を示します。次のどれかが表示されます。 • ClientProgram：クライアントプログラム • BusinessProcess：ビジネスプロセス	×	○	○
RequestProtocolKind	リクエストのプロトコル種別を示します。次のどれかが表示されます。 • WebService：同期（Web サービス） • SessionBean：同期（SessionBean） • MDB_WSR：非同期（MDB（WS-R）） • MDB_DBQ：非同期（MDB（DB キュー）） • BusinessProcess：ビジネスプロセス	×	○	○
RequestServiceName	サービスリクエスタからの入力サービス名を示します。	○	○	○
ServiceName	呼び出し先のサービス名を示します。	○	○	○
ServiceKind	サービス部品の種別を示します。次のどれかが表示されます。 • ServiceAdapter：サービスアダプタ（単体サービス部品） • BusinessProcess：ビジネスプロセス	×	○	○
AdapterName	サービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービス ID を示します。	×	○	○
ServiceProtocolKind	サービスアダプタの種類を示します。次のどれかが表示されます。 • WebService：同期（Web サービス） • SessionBean：同期（SessionBean） • MDB_WSR：非同期（MDB（WS-R）） • MDB_DBQ：非同期（MDB（DB キュー）） • Custom：カスタムアダプタ	×	○	○
ServiceOperationName	サービス部品のオペレーション名を示します。	×	○	○
ConnectProtocolKind	連携プロトコル種別を示します。「null」が表示されます。	×	○	○

表示項目	説明	-d オプションを設定した場合に表示される情報		
		基本情報（nml を指定）	電文データ以外の情報（ext を指定）	電文データを含むすべての情報（msg を指定）
RequestUserTelegramType	ユーザ電文の種別を示します。次のどれかが表示されます。 • XML：XML 電文 • BINARY：バイナリ電文 • ANY：任意形式の電文	×	○	○
ResponseUserTelegramType	ユーザへの応答電文の種別を示します。次のどれかが表示されます。 • XML：XML 電文 • BINARY：バイナリ電文 • ANY：任意形式の電文	×	○	○
BPActivity	ビジネスプロセス用アクティビティ番号を示します。ビジネスプロセスのアクティビティインスタンスを識別するための番号です。	×	○	○
BPProcessID	ビジネスプロセス用プロセス ID を示します。	×	○	○
BPRequestType	ビジネスプロセス用要求タイプを示します。	×	○	○
ReplyToQueueName	応答用のキュー名を示します。	×	○	○
RouteHistory	経路履歴情報を示します。HCSC サーバ名またはサービスアダプタのサービス ID を「->」でつなげた文字列で表示されます。	×	○	○
ErrorCode	エラー情報を示します。 HistoryDirection=Service Error ※の場合，次のどれかのエラー理由とエラーコードが表示されます。 • HCSC サーバ内で検出したエラーのエラー理由 • ビジネスプロセス基盤でのロールバック発生理由 • 電文の二重配信理由	○	○	○
Version	実行履歴情報コンテナのバージョン番号を示します。	○	○	○
Revision	実行履歴情報コンテナのリビジョン番号を示します。	○	○	○
UserTelegram	ユーザ電文を示します。	×	×	○

（凡例）
○：表示されます
×：表示されません

注※

HistoryDirection=Service Fault の場合，サービス部品やカスタムアダプタからのフォルト情報や SOAP フォルト情報の内容が，次の XML 形式で表示されます（実際はすべて改行されないで表示されます）。

<SOAP1.1 の場合 >

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<cscmsgerror>
<errorcode>エラーコード</errorcode>
<errorstring>エラー情報</errorstring>
<processinstanceID/>
<errordetail>
<cscmsgcode>フォルト情報のFaultCode</cscmsgcode>
<cscmsgstring>フォルト情報のFaultString</cscmsgstring>
<cscmsgactor>フォルト情報のFaultActor</cscmsgactor>
<cscmsgdetail>フォルト情報のDetail</cscmsgdetail>
<exceptionName>フォルト名（例外名）</exceptionName>
</errordetail>
</cscmsgerror>
```

<SOAP1.2 の場合 >

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<cscmsgerror>
<errorcode>エラーコード</errorcode>
<errorstring>エラー情報</errorstring>
<processinstanceID/>
<errordetail>
<cscmsgcode>
<cscmsgvalue>SOAP Fault情報のCode</cscmsgvalue>
</cscmsgcode>
<cscmsgreason>
<cscmsgtext>SOAP Fault情報のReason</cscmsgtext>
</cscmsgreason>
<cscmsgnode>SOAP Fault情報のNode</cscmsgnode>
<cscmsgrole>SOAP Fault情報のRole</cscmsgrole>
<cscmsgdetail>SOAP Fault情報のDetail</cscmsgdetail>
<cscmsgfaultname>フォルト名(例外名)</cscmsgfaultname>
</errordetail>
</cscmsgerror>
```

(2) 実行履歴情報のエントリ数（-k count 指定時）

```
RecordCount：レコード数
```

説明

表示項目	説明
RecordCount	レコード数を示します。履歴参照条件に該当したレコードの数が表示されます。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 入力形式を間違えた場合はエラーになります。
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合，このコマンドは使用できません。

csmlslocation（サービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報の表示）

形式

```
csmlslocation [<HCSCサーバ名>]
              {{-a <サービスID>｜-t <サービス名>}
                 ｜-k {adp｜bp｜sg}
                 ｜-all}
              [{-l｜-r}]
              [-u <DBユーザID> [-p <DBパスワード>]]
```

機能

配備したサービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報を表示します。HCSC サーバが停止している場合でも表示できます。

引数

<HCSC サーバ名 > ～＜英数字およびアンダーライン（_）＞ ((1 － 8 文字))

自 HCSC サーバ名を指定します。CSM_SV_NAME 環境変数に HCSC サーバ名を設定すると，このオプションの指定を省略できます。

-a < サービス ID> ～＜英数字およびアンダーライン（_）＞ ((8 文字以内))

情報を表示するサービスアダプタのサービス ID，またはビジネスプロセスのサービス ID を指定します。このオプションを指定した場合に該当する情報が存在しないときは，エラーになります。

-t < サービス名 > ～＜ XML スキーマの NCName 型の文字列＞ ((1 － 64 バイト))

情報を表示するサービス名（アダプタのサービス名，ビジネスプロセス名）を指定します。このオプションを指定した場合に該当する情報が存在しないときは，エラーになります。

-k {adp ｜ bp ｜ sg}

情報一覧を絞り込む種別を指定します。このオプションを指定した場合に該当する情報が存在しないときは，エラーになります。

- adp
  サービスアダプタの情報を表示します。
- bp
  ビジネスプロセスの情報を表示します。
- sg
  サービスグループの情報を表示します。

-all

HCSC サーバに登録されているすべてのサービスアダプタまたはビジネスプロセスの一覧を表示します。このオプションを指定した場合に該当する情報が存在しないときは，情報は表示されません。

-l

自 HCSC サーバに配備されているサービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報を表示します。-k オプションで adp または bp を指定した場合，および -all オプションを指定した場合にだけ有効になります。なお，-a オプション，-t オプション，および -k オプションで sg をあわせて指定した場合は無効になります。

-r

このオプションは使用しません。

-u <DB **ユーザ** ID>

HCSC サーバで使用しているデータベースのユーザ ID を指定します。次の場合は，このオプションを指定しても無効になります。

- HCSC サーバが起動している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定し，jdbc-dbconnectinfo に指定した環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

-p <DB **パスワード** >

HCSC サーバで使用しているデータベースのパスワードを指定します。次の場合は，このオプションを指定しても無効になります。

- HCSC サーバが起動している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定し，jdbc-dbconnectinfo に指定した

環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

表示形式

```
HCSCServerName：HCSCサーバ名
ClusterName：クラスタ名
ServiceName：サービスアダプタまたはビジネスプロセス名
ServiceKind：サービスアダプタまたはビジネスプロセスの種別
AdapterName：サービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービスID
ServiceProtocolKind：サービスアダプタの種類
ServiceStatus：サービスアダプタまたはビジネスプロセスの状態
EntryTime：サービスアダプタまたはビジネスプロセスの配備時刻
AdapterLocalCall：ローカルキュー使用指定
BPOperationName：ビジネスプロセスのオペレーション名
BPRequestFormatID：ビジネスプロセスの要求電文フォーマットID
BPResponseFormatID：ビジネスプロセスの応答電文フォーマットID
ModifiedTime：サービスアダプタまたはビジネスプロセスの更新時刻
Version：ロケーションのバージョン番号
Revision：ロケーションのリビジョン番号
```

注　表示するエントリが複数ある場合，エントリごとに改行で区切ります。

説明

表示項目	説明
HCSCServerName	情報を取得した HCSC サーバ名を示します。
ClusterName	サービスアダプタまたはビジネスプロセスが配備されているクラスタ名を示します。
ServiceName	サービスアダプタまたはビジネスプロセス名を示します。 ServiceKind で示される種別によって，次のどれかが表示されます。 • ServiceKind が ServiceAdapter の場合：サービスアダプタのサービス名 • ServiceKind が BusinessProcess の場合：ビジネスプロセスのサービス名
ServiceKind	サービスアダプタまたはビジネスプロセスの種別を示します。次のどれかが表示されます。 • ServiceAdapter：サービスアダプタ • BusinessProcess：ビジネスプロセス
AdapterName	サービスアダプタまたはビジネスプロセスのサービス ID を示します。

表示項目	説明
ServiceProtocolKind	サービスアダプタの種類を示します。次のどれかが表示されます。 • WebService：同期（Web サービス） • SessionBean：同期（SessionBean） • MDB_WSR：非同期（MDB（WS-R）） • MDB_DBQ：非同期（MDB（DB キュー）） • Custom：カスタムアダプタ ServiceKind がビジネスプロセスの場合は表示されません。
ServiceStatus	サービスアダプタまたはビジネスプロセスの状態を示します。 次のどれかが表示されます。 • active：起動状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • deleting：削除処理中
EntryTime	サービスアダプタまたはビジネスプロセスを配備した時間を示します。java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒
AdapterLocalCall	ローカルキューを使用するかどうかを示します。 ServiceProtocolKind が非同期（MDB（DB キュー））の場合だけ次のどちらかが表示されます。 • true：ローカルキューを使用します • false：ローカルキューを使用しません
BPOperationName	ビジネスプロセスのオペレーション名を示します。ServiceKind がサービスアダプタの場合は表示されません。
BPRequestFormatID	ビジネスプロセスの要求電文フォーマット ID を示します。 ServiceKind がサービスアダプタの場合は表示されません。
BPResponseFormatID	ビジネスプロセスの応答電文フォーマット ID を示します。 ServiceKind がサービスアダプタの場合は表示されません。

表示項目	説明
ModifiedTime	サービスアダプタまたはビジネスプロセスの更新時刻を示します。 java.text.SimpleDateFormat で定義されているフォーマットに，YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒 なお，更新時刻は開発環境でパッケージングした時間です。
Version	ロケーションのバージョン番号を示します。
Revision	ロケーションのリビジョン番号を示します。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 入力形式を間違えた場合はエラーになります。
- 取得した情報が null 値の場合，非表示ではなく，"null" と表示されます。
- HCSC サーバが停止状態のときにこのコマンドを実行すると，HCSCServerName および ClusterName に "null" と表示されます。

csmlsreception（ユーザ定義受付の情報の表示）

形式

```
csmlsreception [<HCSCサーバ名>]
                 -i <受付ID>
                   |-s <関連するサービス名>
                   |-all
                [-u <DBユーザID> [-p <DBパスワード>]]
```

機能

配備したユーザ定義受付の情報を表示します。このコマンドは HCSC サーバが停止している状態でも実行できます。

引数

<HCSC サーバ名 > ～<英数字およびアンダーライン（_）> ((1 － 8 文字))

HCSC サーバ名を指定します。CSM_SV_NAME 環境変数に HCSC サーバ名を設定した場合，このオプションの指定を省略できます。

-i < 受付 ID> ～<英数字およびアンダーライン（_）> ((8 文字以内))

情報を表示するユーザ定義受付の受付 ID を指定します。

-s < 関連するサービス名 > ～< XMLschema の NCName 文字> ((1 － 64 バイト))

情報を表示するユーザ定義受付に関連するサービス名（ビジネスプロセスのサービス ID）を指定します。

-all

HCSC サーバに登録されているすべてのユーザ定義受付の一覧を表示します。このオプションを指定した場合に該当する情報が存在しないときは，情報は表示されません。

-u <DB ユーザ ID>

HCSC サーバで使用しているデータベースのユーザ ID を指定します。次の場合は，このオプションを指定しても無効になります。

- HCSC サーバが起動している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定し，jdbc-dbconnectinfo に指定した

環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

-p <DB **パスワード** >

HCSC サーバで使用しているデータベースのパスワードを指定します。次の場合は，このオプションを指定しても無効になります。

- HCSC サーバが起動している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

HCSC サーバが停止している場合は，必ずこのオプションを指定します。ただし，次の場合は，このオプションを省略できます。

- HCSC サーバセットアップ定義ファイルのデータベースの接続情報（jdbc-dbconnectinfo）に環境変数グループを指定し，jdbc-dbconnectinfo に指定した環境変数グループで PDUSER（認可識別子およびパスワード）を設定している場合
- データベースを使用しない構成で HCSC サーバをセットアップした場合

また，HCSC サーバが停止している場合でも，データベースの設定で認証が必要ないときは，このオプションを指定しないでください。

表示形式

```
*** User defined reception information ***
HCSCServerName : HCSCサーバ名
ClusterName : クラスタ名
ReceptionID : 受付ID
ReceptionName : 受付名
ServiceName : 関連するサービス名
ReceptionKind : 受付の種別
ReceptionProtocolKind : 受付のプロトコル種別
EntryTime : 受付定義追加時刻
ModifiedTime : 受付更新時刻
Version : ロケーションのバージョン番号
Revision : ロケーションのリビジョン番号
*** User defined reception status ***
ReceptionStatus : 受付の状態
*** User defined reception runtime value ***
現在反映されているユーザ定義受付ランタイム定義プロパティ名=設定値
```

注　表示するエントリが複数ある場合，エントリごとに改行で区切ります。

説明

表示項目	説明
HCSCServerName	情報を取得した HCSC サーバ名が表示されます。
ClusterName	ユーザ定義受付を所有しているクラスタ名が表示されます。

表示項目	説明
ReceptionID	HCSC サーバ内で管理しているユーザ定義受付の受付 ID が表示されます。
ReceptionName	配備されているユーザ定義受付の受付名が表示されます。
ServiceName	配備されているユーザ定義受付に関連するビジネスプロセスのサービス名が表示されます。
ReceptionKind	配備されているユーザ定義受付の種別が表示されます。 BusinessProcess：ビジネスプロセス
ReceptionProtocolKind	配備されているユーザ定義受付のプロトコルが表示されます。 WebService：同期（Web サービス）
EntryTime	配備されているユーザ定義受付を配備した時間が YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒
ModifiedTime	配備されているユーザ定義受付の定義更新時刻が YYYY/MM/DD hh:mm:ss.SSS の形式で表示されます。 • YYYY：西暦年 • MM：月 • DD：日 • hh：時 • mm：分 • ss：秒 • SSS：ミリ秒
Version	ロケーションのバージョン番号が表示されます。
Revision	ロケーションのリビジョン番号が表示されます。
ReceptionStatus	配備されているユーザ定義受付の状態が表示されます。 • active：起動状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 • deleting：削除処理中
現在反映されているユーザ定義受付ランタイム定義プロパティ名	現在反映されているユーザ定義受付ランタイム定義のプロパティの値が表示されます。 ユーザ定義受付ランタイム定義のプロパティについては，「5. 定義ファイル」の「ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 取得した情報が null 値の場合，値に "null" と表示されます。
- HCSC サーバが停止状態のときにこのコマンドを実行すると，HCSCServerName および ClusterName は "null" と表示されます。
- 失敗時の動作を次に示します。
  - 入力形式が誤りの場合はコマンドエラーになります。
  - -i，-s を指定した場合に該当する情報がない場合は，コマンドエラーになります。

csmlsstate（HCSC サーバの状態の表示）

形式

```
csmlsstate [<HCSCサーバ名>]
           [-d {prop｜runtime}]
```

機能

自 HCSC サーバの状態および設定情報の一覧を表示します。HCSC サーバが停止している場合でも表示できます。

引数

<HCSC サーバ名 > ～<英数字およびアンダーライン（_）> ((1 － 8 文字))

自 HCSC サーバ名を指定します。CSM_SV_NAME 環境変数に HCSC サーバ名を設定すると，このオプションの指定を省略できます。

-d {prop ｜ runtime}

表示する種別を指定します。

- prop
  定義した HCSC サーバランタイム定義ファイルのプロパティの情報を表示します。
- runtime
  現在反映されている HCSC サーバランタイム定義ファイルのプロパティの値を表示します。

表示形式

(1) 定義した設定情報を表示する場合（-d 未指定および -d prop 指定時）

```
*** HCSC server status ***
ServerStatus：HCSCサーバの状態
RequestServiceStatus：標準受付の状態
ConnectServiceStatus：HCSC連携受付の状態
JMSReceptorQueueName：JMSリクエストの受付キュー名
DBQReceptorQueueName：DBキューリクエストの受付キュー名
HCSCTableVersion：HCSCテーブルのバージョン
HCSCTableRevision：HCSCテーブルのリビジョン
*** HCSC server runtime properties ***
HCSCサーバランタイム定義ファイルのプロパティ名=設定値
          :
```

(2) 現在反映されている設定情報を表示する場合（-d runtime 指定時）

```
*** HCSC server status ***
ServerStatus：HCSCサーバの状態
RequestServiceStatus：標準受付の状態
ConnectServiceStatus：HCSC連携受付の状態
JMSReceptorQueueName：JMSリクエストの受付キュー名
DBQReceptorQueueName：DBキューリクエストの受付キュー名
HCSCTableVersion：HCSCテーブルのバージョン
HCSCTableRevision：HCSCテーブルのリビジョン
*** HCSC server runtime value ***
現在反映されているHCSCサーバランタイム定義ファイルのプロパティ名=設定値
          :
```

説明

表示項目	説明
ServerStatus	HCSC サーバの状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：起動状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • stopping：停止処理中 なお，HCSC サーバが停止している場合，HCSC サーバの起動に失敗した場合，および停止に失敗した場合は，「inactive」が表示されます。
RequestServiceStatus	HCSC サーバの標準受付の状態を示します。次のどれかが表示されます。 • active：起動状態 • inactive：停止状態 • starting：起動処理中 • startfailed：起動失敗状態 • stopping：停止処理中 • stopfailed：停止失敗状態 なお，HCSC サーバが停止している場合は，「null」が表示されます。
ConnectServiceStatus	HCSC サーバ連携受付の状態を示します。次の値が表示されます。 • inactive：停止状態 なお，HCSC サーバが停止している場合は，「null」が表示されます。
JMSReceptorQueueName	JMS のリクエスト受付キュー名を示します。 JMS のリクエスト受付がセットアップされていない場合は，「null」が表示されます。
DBQReceptorQueueName	DB キューのリクエスト受付キュー名を示します。 DB キューのリクエスト受付がセットアップされていない場合は，「null」が表示されます。
HCSCTableVersion	HCSC テーブルのバージョンを示します。
HCSCTableRevision	HCSC テーブルのリビジョンを示します。

表示項目	説明
HCSC サーバランタイム定義ファイルのプロパティ名	HCSC サーバランタイム定義ファイルで設定したプロパティの情報が表示されます。 HCSC サーバランタイム定義ファイルについては，「5. 定義ファイル」の「HCSC サーバランタイム定義ファイル」を参照してください。
現在反映されている HCSC サーバランタイム定義ファイルのプロパティ名	現在反映されている HCSC サーバランタイム定義ファイルのプロパティの情報が表示されます。 HCSC サーバランタイム定義ファイルについては，「5. 定義ファイル」の「HCSC サーバランタイム定義ファイル」を参照してください。

戻り値

戻り値	意味
0	正常終了しました。
1	コマンドが異常終了しました。
9	実行権限のチェックエラーが発生しました。

注意事項

- 次の場合はエラーになります。
  - 入力形式を間違えた場合
  - HCSC サーバがセットアップされていない場合
- 現在反映されている HCSC サーバランタイム定義ファイルのプロパティで，デフォルト値がないプロパティが省略されている場合，空文字（""）が仮定されます。
- HCSC サーバが停止している場合，HCSC サーバの状態には「inactive」，HCSC サーバの標準受付の状態には「null」が表示されます。
- HCSC サーバの起動に失敗した場合（または停止に失敗した場合），HCSC サーバの状態には，「inactive」が表示します。

5 定義ファイル

この章では，Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境および実行環境で使用する定義ファイルの文法について説明します。

定義ファイルの種類

定義ファイルの入力形式

定義ファイルの文法の記述形式

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル

HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル

HCSC サーバ構成定義ファイル

HCSC サーバセットアップ定義ファイル

HCSC サーバランタイム定義ファイル

ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル

HCSC-Manager 定義ファイル

サービス情報変更定義ファイル

SOAP Fault 動作定義ファイル

cscsetup コマンド定義ファイル

クライアント定義ファイル

FTP アダプタコマンド定義ファイル

FTP アダプタ実行環境プロパティファイル

アカウント定義ファイル

ファイル操作アダプタ定義ファイル
実行環境プロパティファイル
FTP **受付定義ファイル**
FTP **受付コンフィグファイル**
FTP **実行許可リスト定義ファイル**
FTP **コマンド許可リスト定義ファイル**
リストコマンドオプション定義ファイル
TP1/RPC **受付定義ファイル**

定義ファイルの種類

定義ファイルの種類を次に示します。

表 5-1 定義ファイル一覧

ファイル名	概要
HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル	各コマンドのオプションのデフォルト値を定義します。
HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル	HCSC-Messaging コマンドの動作に必要な情報を設定します。
HCSC サーバ構成定義ファイル	HCSC サーバの構成定義情報を設定します。
HCSC サーバセットアップ定義ファイル	HCSC サーバのセットアップ時に設定できる内容を設定します。
HCSC サーバランタイム定義ファイル	セットアップ後の HCSC サーバの定義情報を HCSC-Manager から設定します。
ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル	ユーザ定義受付（Web サービス）の情報を設定します。
HCSC-Manager 定義ファイル	HCSC-Manager の動作に必要となる情報を設定します。
サービス情報変更定義ファイル	サービスアダプタのサービス情報の変更を設定します。
SOAP Fault 動作定義ファイル	targetNamespace の URI を設定します。
cscsetup コマンド定義ファイル	cscsetup コマンドの動作に必要となる情報を設定します。
クライアント定義ファイル	SOAP1.1/1.2 併用モードで，サービスアダプタから Web サービスを呼び出すときの動作を定義します。
FTP アダプタコマンド定義ファイル	FTP アダプタで使用するコマンドのメッセージログの出力情報を設定します。
FTP アダプタ実行環境プロパティファイル	FTP アダプタごとの構成情報を設定します。
アカウント定義ファイル	ユーザアカウント情報を一括管理します。アカウント定義ファイルは，運用コマンドで管理します。
ファイル操作アダプタ定義ファイル	ファイル操作アダプタの動作情報を設定します。
実行環境プロパティファイル	ファイル操作アダプタが実行環境で動作する際のメッセージログとトレースログの出力レベルなどを設定します。
FTP 受付定義ファイル	FTP 受付をセットアップしたあとに設定変更できる内容を設定します。
FTP 受付コンフィグファイル	FTP 受付をセットアップしたあとに設定変更が発生する頻度が高い内容を設定します。
FTP 実行許可リスト定義ファイル	FTP 受付に関連づけられたビジネスプロセスの実行を許可するユーザや，許可しないユーザを設定します。
FTP コマンド許可リスト定義ファイル	転送前，転送後，リストコマンド実行前，またはリストコマンド実行後に実行を許可する FTP コマンドを設定します。

ファイル名	概要
リストコマンドオプション定義ファイル	FTP クライアントが実行するリストコマンドの引数に指定できるオプション文字列を設定します。
TP1/RPC 受付定義ファイル	TP1/RPC 受付のチューニングパラメタなどの動作を制御するパラメタを設定します。

定義ファイルの入力形式

表 5-1 に示す定義ファイルは，次の入力形式で作成または編集します。

HCSC サーバ構成定義ファイルの入力形式

HCSC サーバ構成定義ファイルは，XML 形式のファイルです。XML の仕様に従って作成または編集します。

リストコマンドオプション定義ファイルの入力形式

リストコマンドオプション定義ファイルは，独自形式のファイルです。リストコマンドオプション定義ファイルの仕様に従って作成または編集します。

そのほかの定義ファイルの入力形式

HCSC サーバ構成定義ファイル，リストコマンドオプション定義ファイル以外の定義ファイルは，次に示す Java のプロパティファイル形式で作成または編集します。

形式

定義ファイルの入力形式を次に示します。

```
<キー名称> = <値>
#<コメント>
```

各項目について説明します。なお，各項目は，ISO-8859-1 文字エンコーディングを使用してください。

キー名称

定義するキー名称を指定します。

値

定義する値がある場合に指定します。改行までを値とするため，値の後ろには，空白やコメントなどの文字列は指定できません。

コメント

行頭に「#」を記述した場合，その行はコメントとして扱われます。

定義ファイルの文法の記述形式

このマニュアルでは，定義ファイルの文法の記述形式について，次の形式で説明します。なお，すべてのファイルを次の形式で説明しているわけではありません。また，各ファイルの固有情報を記載している場合があります。

形式

ファイルの記述形式を示します。

機能

ファイルの機能について説明します。

DTD

ファイルの DTD について説明します。

ファイルの格納先

ファイルの格納先を示します。

設定できる要素

ファイルの中で指定できる XML の要素について説明します。

設定できるパラメタ

ファイルの中で指定できるパラメタについて説明します。

設定できるプロパティ

ファイルの中で指定できるプロパティについて説明します。

記述例

ファイルの内容の記述例を示します。

使用方法

ファイルの使用方法について説明します。

注意事項

ファイルを設定または使用する際の注意事項を説明します。

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル

形式

J2SE のプロパティファイル形式です。

```
csc.all.<コマンド引数名>=値
csc.<コマンド識別子>.<コマンド引数名>=値
```

機能

各コマンドのオプションのデフォルト値を設定します。設定ファイルの変更後，次回コマンドの発行時に更新情報が反映されます。この定義ファイルおよびコマンドの両方でオプションの値を指定した場合，コマンドの指定が有効になります。

この定義ファイルには，ユーザ ID やパスワードなどの情報が含まれるため，適切にファイルパーミッションを設定してください。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥csccmd.properties
```

設定できるパラメタ

csc.all.< コマンド引数名 >= 値

すべてのコマンドに共通する引数のデフォルト値を指定します。コマンド引数名はハイフン（-）を除いた値を指定してください。値がない場合は値の指定は不要です。

（指定例 1）

すべてのコマンドの -user オプションに，指定値「admin」を仮定する場合

```
csc.all.user=admin
```

（指定例 2）

すべてのコマンドに，-all オプションが指定されていると仮定する場合

```
csc.all.all=
```

csc.< コマンド識別子 >.< コマンド引数名 >= 値

コマンド識別子に対応したコマンドのデフォルト引数を定義します。コマンド識別子はコマンド名から "csc" を除いた値を指定してください。コマンド引数名はハイフン（-）を除いた値を指定してください。値がない場合は値の指定は不要です。

（指定例 1）

cscpiselect コマンドの -csc オプションに，指定値「HCSC」を仮定する場合

```
csc.piselect.csc=HCSC
```

（指定例 2）

cscsvstart コマンドに，-system オプションが指定されていると仮定する場合

```
csc.svstart.system=
```

注意事項

次の例に示すように，HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルの指定内容と，コマンド引数の指定に矛盾がある場合，コマンド引数が不正になります。

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイルの内容

```
csc.all.user=AAA
csc.all.pass=BBB
csc.repctl.autoexport=
```

コマンド入力例

```
> cscrepctl -import repository.zip
```

この例では，cscrepctl コマンドで，-import オプションと -autoexport オプションの両方が指定されています。そのため，コマンド引数の不正でエラーとなります。

HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル

形式

Windows の場合

```
@echo off
set HCSC_ADDCLASSPATH=<HiRDB Type4 JDBC Driver または Oracle JDBC Thin
Driverのパス>
```

UNIX の場合

```
#!/bin/sh
HCSC_ADDCLASSPATH=<HiRDB Type4 JDBC Driver または Oracle JDBC Thin Driver
のパス>
```

機能

HCSC-Messaging コマンド（csm で始まるコマンド）の動作に必要な情報を設定します。

ファイルの格納先

Windows の場合

<Cosminexusのインストールディレクトリ>¥CSC¥config¥msg¥cmdconf.bat

UNIX の場合

/opt/Cosminexus/CSC/config/msg/cmdconf

設定できるパラメタ

HCSC_ADDCLASSPATH

各データベースのドライバのファイル名を絶対パスで指定します。

- **HiRDB の場合**
  HiRDB Type4 JDBC Driver を使用するとき，HiRDB Type4 JDBC Driver（pdjdbc2.jar）のファイル名を絶対パスで指定します。
- **Oracle の場合**
  Oracle JDBC Thin Driver のファイル名を絶対パスで指定します。なお，使用する Oracle のバージョンによって，指定する Oracle JDBC Thin Driver が次のように異なります。
  - Oracle 10g を使用するとき：ojdbc14.jar

- Oracle 11g（JDK5）を使用するとき：ojdbc5.jar
- Oracle 11g（JDK6）を使用するとき：ojdbc6.jar

上記以外の場合は環境変数の定義だけを指定して，値は指定しないでください。

注意事項

環境変数として，HCSC_ADDCLASSPATH 以外を設定しないでください。

記述例

HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイルの記述例を次に示します。

Windows の場合

```
@echo off
set HCSC_ADDCLASSPATH=C:¥win32app¥hitachi¥hirdb_s¥CLIENT¥UTL¥pdjdbc2.jar
```

UNIX の場合

```
#!/bin/sh
HCSC_ADDCLASSPATH=/opt/HiRDB_S/client/lib/pdjdbc2.jar
```

HCSC サーバ構成定義ファイル

形式

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<!DOCTYPE csc-setup-definition SYSTEM "cscsvsetup_1_3.dtd">
<!-- All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, 2008, Hitachi, Ltd. -->
<csc-setup-definition>
  <cluster>
    <name>クラスタ名</name>
    <type>クラスタ種別</type>
  </cluster>
  <cosminexus-manager>
    <!-- Cosminexus Manager Definition -->
    <name>Cosminexus manager名</name>
    <ip-address>Cosminexus managerのIPアドレスまたはホスト名</ip-address>
    <port>Cosminexus managerのポート番号</port>
    <id>Management Serverの管理ユーザID</id>
    <password>Management Serverの管理ユーザパスワード</password>
    <csc-server>
      <!-- HCSC-Server Definition -->
      <name>HCSCサーバ名</name>
      <id>HCSCサーバが使用するデータベースのユーザID</id>
      <password>HCSCサーバが使用するデータベースのパスワード</password>
      <j2ee-server-name>HCSCサーバが使用するJ2EEサーバ名</j2ee-server-name>
     <setup-properties>HCSCサーバセットアップ定義ファイル名</setup-properties>
    </csc-server>
  </cosminexus-manager>
  <reception>
    <soap-reception>
      <!-- WebServer Definition -->
      <ip-address>WebサーバのIPアドレスまたはホスト名</ip-address>
      <port>Webサーバのポート番号</port>
     <protocol>プロトコル種別</protocol>
    </soap-reception>
    <jms-reception>
      <!-- WebServer Definition-->
      <ip-address>WebサーバのIPアドレスまたはホスト名</ip-address>
      <port>Webサーバのポート番号</port>
      <protocol>プロトコル種別(http or https)</protocol>
      <rm-service-context-root>RMのサービスコンテキストルート</
rm-service-context-root>
    </jms-reception>
    <jms-physical-reception>
      <!-- WebServer Definition-->
      <ip-address>WebサーバのIPアドレスまたはホスト名</ip-address>
      <port>Webサーバのポート番号</port>
      <protocol>プロトコル種別</protocol>
      <rm-service-context-root>RMのサービスコンテキストルート</
rm-service-context-root>
    </jms-physical-reception>
    <ejb-reception>
      <!-- NameServer Definition-->
      <ip-address>NameServerのIPアドレスまたはホスト名</ip-address>
      <port>NameServerのポート番号</port>
    </ejb-reception>
  </reception>
</csc-setup-definition>
```

機能

HCSC サーバの構成情報を設定します。

DTD

```
<!ELEMENT csc-setup-definition (cluster?,cosminexus-manager,reception?)>
<!ELEMENT cluster (name?,display-name?,type?)>
<!ELEMENT name (#PCDATA)>
<!ELEMENT display-name (#PCDATA)>
<!ELEMENT type (#PCDATA)>
<!ELEMENT cosminexus-manager
(name,display-name?,ip-address,port,id,password?,csc-server)>
<!ELEMENT ip-address (#PCDATA)>
<!ELEMENT port (#PCDATA)>
<!ELEMENT id (#PCDATA)>
<!ELEMENT password (#PCDATA)>
<!ELEMENT csc-server
(name?,display-name?,id?,password?,j2ee-server-name,setup-properties)>
<!ELEMENT j2ee-server-name (#PCDATA)>
<!ELEMENT setup-properties (#PCDATA)>
<!ELEMENT reception
(soap-reception?,jms-reception?,jms-physical-reception?,ejb-reception?)>
<!ELEMENT soap-reception (ip-address?,port,protocol)>
<!ELEMENT protocol (#PCDATA)>
<!ELEMENT jms-reception (ip-address?,port,protocol,rm-service-context-root?)>
<!ELEMENT rm-service-context-root (#PCDATA)>
<!ELEMENT jms-physical-reception
(ip-address?,port,protocol,rm-service-context-root?)>
<!ELEMENT ejb-reception (ip-address?,port)>
```

ファイルの格納先

<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥templates¥cscsvsetup.xml

設定できる要素

(1) cluster の定義

cluster タグは省略できます。

name　クラスタ名　～<半角英数字とアンダーライン（_）> ((1 － 8 文字))

クラスタ名を指定します。このタグを設定することで，cscsvsetup コマンドの -cluster を省略できます。

type　クラスタ種別　～ <<LB>>

クラスタ種別として，次のどちらかを指定します。ロードバランスクラスタ構成の場合は，省略できます。なお，必ず大文字で指定してください。

- LB
  ロードバランスクラスタ構成の場合に指定します。
- HA
  HA クラスタ構成の場合に指定します。

(2) cosminexus-manager の定義

name　Cosminexus manager 名　～<半角英数字とアンダーライン（_）> ((1 － 16 文字))

HCSC-Manager が Cosminexus Manager を認識するための HCSC-Manager 独自の識別名を指定します。HCSC-Manager で Cosminexus Manager（ホスト）単位に一意になる識別名を指定します。

ip-address　Cosminexus manager の IP アドレスまたはホスト名　～ ((1 文字以上))

Management Server が起動している IP アドレスまたはホスト名を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

port　Cosminexus manager のポート番号　～ ((1 － 65535))

Cosminexus Manager のリモート管理機能への接続ポート番号を指定します。

com.cosminexus.mngsvr.management.port の値を指定します。指定がない場合は，28099 を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

id　Management Server の管理ユーザ ID　～ ((1 文字以上))

Management Server の管理ユーザ ID を指定します。

password　Management Server の管理ユーザパスワード　～ ((1 文字以上))

Management Server の管理ユーザパスワードを指定します。このタグは省略できます。省略した場合，パスワードの指定がないとみなされます。

(3) csc-server の定義

name　HCSC サーバ名　～<半角英数字とアンダーライン（_）> ((1 － 8 文字))

HCSC サーバ名を指定します。このタグを設定することで，cscsvsetup コマンドの -csc を省略できます。

id　HCSC サーバが使用するデータベースのユーザ ID　～ ((1 文字以上))

HCSC サーバが使用するデータベースのユーザ ID を指定します。文字列の最大値および指定できる文字は，使用するデータベースに依存します。データベースを使用する場合は，必ず設定します。データベースを使用しない場合は，省略できます。

password　HCSC サーバが使用するデータベースのパスワード

HCSC サーバが使用するデータベースのパスワードを指定します。文字列の最大値および指定できる文字は，使用するデータベースに依存します。データベースを使用する場合は，必ず設定します。データベースを使用しない場合は，省略できます。

j2ee-server-name　HCSC サーバが使用する J2EE サーバ名　～ ((1 文字以上))

HCSC サーバをセットアップする J2EE サーバ名を指定します。

setup-properties　HCSC サーバセットアップ定義ファイル名

HCSC サーバセットアップ定義ファイル名を相対パス，または絶対パスで指定します。

(4) soap-reception の定義

同期サービス（Web サービス）呼び出しをする場合に指定します。同期サービス（Web サービス）呼び出しをしない場合は，soap-reception タグを省略してください。

ip-address　Web サーバの IP アドレスまたはホスト名　～ <<Cosminexus manager と同じ IP アドレスまたはホスト名 >>

Web サーバが起動している IP アドレスまたはホスト名を指定します。受付と Management Server の IP アドレス（またはホスト名）が同じ場合は，省略できます。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

port　Web サーバのポート番号　～ ((1 － 65535))

Web サーバの受付ポート番号を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

protocol　プロトコル種別

Web サーバの受付プロトコルとして，次のどちらかを指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

- http
  HTTP で受け付けられます。
- https
  HTTPS で受け付けられます。

(5) jms-reception の定義

クラスタ種別が HA クラスタで，非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出しをする場合に指定します。非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出しをしない場合は，jms-reception タグを省略してください。クラスタ種別がロードバランスクラスタの場合は，値を指定しても無視されます。

ip-address　Web サーバの IP アドレスまたはホスト名　～ <<Cosminexus manager と同じ IP アドレスまたはホスト名 >>

Web サーバが起動している IP アドレスまたはホスト名を指定します。受付と Management Server の IP アドレス（またはホスト名）が同じ場合は，省略できます。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

port　Web サーバのポート番号　～ ((1 － 65535))

Web サーバの受付ポート番号を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

protocol　プロトコル種別

Web サーバの受付プロトコルとして，次のどちらかを指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

- http
  HTTP で受け付けられます。
- https
  HTTPS で受け付けられます。

rm-service-context-root　RM のサービスコンテキストルート　～ ((1 文字以上))

Cosminexus RM のサービスコンテキストルート名を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

(6) jms-physical-reception の定義

クラスタ種別がロードバランスクラスタで，非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出しをする場合に指定します。非同期サービス（MDB（WS-R））呼び出しをしない場合は，jms-physical-reception タグを省略してください。クラスタ種別が HA クラスタの場合は，値を指定しても無視されます。

ip-address　Web サーバの IP アドレスまたはホスト名　～ <<Cosminexus manager と同じ IP アドレスまたはホスト名 >>

Web サーバが起動している IP アドレスまたはホスト名を指定します。受付と Management Server の IP アドレス（またはホスト名）が同じ場合は，省略できます。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

port　Web サーバのポート番号　～ ((1 － 65535))

Web サーバの受付ポート番号を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

protocol　プロトコル種別

Web サーバの受付プロトコルとして，次のどちらかを指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

- http
  HTTP で受け付けられます。
- https
  HTTPS で受け付けられます。

rm-service-context-root　RM のサービスコンテキストルート　～ ((1 文字以上))

Cosminexus RM のサービスコンテキストルート名を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

(7) ejb-reception の定義

SessionBean を呼び出す場合に指定します。SessionBean を呼び出さない場合は，ejb-reception タグを省略してください。

ip-address　NameServer の IP アドレスまたはホスト名　～ ((1 文字以上))<<Cosminexus manager と同じ IP アドレスまたはホスト名 >>

ネームサーバが起動している IP アドレスまたはホスト名を指定します。受付と Management Server の IP アドレス（またはホスト名）が同じ場合は，省略できます。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

port　NameServer のポート番号　～ ((1 － 65535))

ネームサーバの受付ポート番号を指定します。2 回目以降設定を変えて再セットアップすると，値が上書きされます。

記述例

HCSC サーバ構成定義ファイルの記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<!DOCTYPE csc-setup-definition SYSTEM "cscsvsetup_1_2.dtd">
<!-- All Rights Reserved. Copyright (C) 2006, Hitachi, Ltd. -->
<csc-setup-definition>
  <cluster>
    <name>LBクラスタ</name>
    <type>LB</type>
  </cluster>
  <cosminexus-manager>
    <!-- Cosminexus Manager Definition -->
    <name>MNG1</name>
    <ip-address>10.209.114.162</ip-address>
    <port>28099</port>
    <id>admin</id>
    <password>admin</password>
    <csc-server>
      <!-- HCSC-Server Definition -->
      <id>admin</id>
      <password>admin</password>
      <j2ee-server-name>LBServer</j2ee-server-name>
      <setup-properties>cscsvsetup.properties</setup-properties>
    </csc-server>
  </cosminexus-manager>
  <reception>
    <soap-reception>
      <!-- WebServer Definition -->
      <ip-address>10.209.15.197</ip-address>
      <port>80</port>
      <protocol>http</protocol>
    </soap-reception>
    <jms-physical-reception>
      <!-- WebServer Definition-->
      <ip-address>10.209.114.162</ip-address>
      <port>80</port>
      <protocol>http</protocol>
      <rm-service-context-root>uCosminexusRM</rm-service-context-root>
    </jms-physical-reception>
    <ejb-reception>
      <!-- NameServer Definition-->
      <ip-address>10.209.114.9</ip-address>
      <port>900</port>
    </ejb-reception>
  </reception>
</csc-setup-definition>
```

使用方法

cscsvsetup コマンドの -propfile オプションの引数に HCSC サーバ構成定義ファイルを指定します。詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「3.1.3　HCSC サーバをセットアップする」を参照してください。

HCSC サーバセットアップ定義ファイル

形式

```
[db-use={ON|OFF}]
[rm-use={ON|OFF}]
[hcscserver-data-filepath=HCSCサーバのシステム管理情報を保存する出力先のパス]

 request-ejb={ON|OFF}
 request-soap={ON|OFF}
 request-jms={ON|OFF}
[request-jms.maxmessage=標準の非同期受付（MDB（WS-R））のキューの最大メッセージ数]
 request-dbq={ON|OFF}
[request-dbq.maxmessage=標準の非同期受付（MDB（DBキュー））のキューの最大メッセージ数]
[request-jms-rdarea=標準の非同期受付（MDB（WS-R））のRDエリア名]
[request-dbq-rdarea=標準の非同期受付（MDB（DBキュー））のRDエリア名]
[request-dbq-maxlen=標準の非同期受付（MDB（DBキュー））の最大メッセージ長]

[request-userdef-soap={ON|OFF}]

[naming-service-hostname=ネーミングサービスのホスト名]
[naming-service-port=ネーミングサービスのポート番号]


[rm-systemname=Cosminexus RMのシステム名]
[rm-displayname=Cosminexus RMの表示名]

[dbcon-xadisplayname=XATransactionまたはLocalTransaction用DB Connectorの表示名]
[dbcon-nodisplayname=NoTransaction用DB Connectorの表示名]

[dbtype={HIRDB|ORACLE9I|ORACLE10G|ORACLE11G}]
[jdbc-type={DBPSV|HIRDB-TYPE4|ORACLE-THIN}]
[jdbc-url=JDBC用データベースURL]
[jdbc-dbhostname=データベースのホスト名]
[jdbc-dbconnectinfo=データベースの接続情報]
[db-character-sets={ASCII｜Shift_JIS｜UTF-8｜EUC-JP}]

[bp-status-compatible={ON｜OFF}]


[cscserverinfo-tbl-area=HCSC基本情報テーブル領域]
[location-tbl-area=ロケーション用テーブル領域]
[routing-tbl-area=ルーティング用テーブル領域]
[cv-tbl-area=データ変換用テーブル領域]

[exehistory-tbl-area=実行履歴情報テーブル領域]
[exehistory-idx-area=実行履歴情報テーブルのインデクスを格納する領域]
[process-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用PROCESSテーブルを格納する領域]
[process-idx-area=ビジネスプロセス基盤用PROCESSテーブルのインデクスを格納する領域]
[activity-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用ACTIVITYテーブルを格納する領域]
[activity-idx-area=ビジネスプロセス基盤用ACTIVITYテーブルのインデクスを格納する領域]
[link-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用LINKテーブルを格納する領域]
[link-idx-area=ビジネスプロセス基盤用LINKテーブルのインデクスを格納する領域]
```

```
［correlationset-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用CORRELATIONSETテーブルを格納する領域］
［correlationset-idx-area=ビジネスプロセス基盤用CORRELATIONSETテーブルのインデクスを格納する領域］
［string-variable-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用STRING-VARIABLEテーブルを格納する領域］
［string-variable-idx-area=ビジネスプロセス基盤用STRING-VARIABLEテーブルのインデクスを格納する領域］
［numeric-variable-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用NUMERIC-VARIABLEテーブルを格納する領域］
［numeric-variable-idx-area=ビジネスプロセス基盤用NUMERIC-VARIABLEテーブルのインデクスを格納する領域］
［boolean-variable-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用BOOLEAN-VARIABLEテーブルを格納する領域］
［boolean-variable-idx-area=ビジネスプロセス基盤用BOOLEAN-VARIABLEテーブルのインデクスを格納する領域］
［message-variable-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用MESSAGE-VARIABLEテーブルを格納する領域］
［message-variable-idx-area=ビジネスプロセス基盤用MESSAGE-VARIABLEテーブルのインデクスを格納する領域］
［message-variable-val-area=ビジネスプロセス基盤用MESSAGE-VARIABLEテーブルのVariableValue列を格納する領域］
［message-relation-tbl-area=ビジネスプロセス基盤用MESSAGE-RELATIONテーブルを格納する領域］
［message-relation-idx-area=ビジネスプロセス基盤用MESSAGE-RELATIONテーブルのインデクスを格納する領域］
［clusterinfo-tbl-area=クラスタ情報を格納する領域］
［haasyncadp-tbl-area=クラスタ内で配備された非同期アダプタサービスIDを格納する領域］
［sql-scriptfilename=SQLスクリプトファイルパス］
［activitynumber-maximum-compatible={ON|OFF}］
```

機能

HCSC サーバのセットアップ時に設定できる内容を設定します。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥templates¥cscsvsetup.properties
```

設定できるプロパティ

(1) セットアップ構成関連

db-use={ON ｜ OFF}　～ <<ON>>

HCSC サーバでデータベースを使用するかどうかを指定します。

- ON
  データベースを使用します。
- OFF
  データベースを使用しません。

rm-use={ON ｜ OFF}　～ <<ON>>

HCSC サーバで Cosminexus RM を使用するかどうかを指定します。db-use プロパティ

で OFF を指定した場合，このプロパティに ON を指定するとエラーになります。

- ON
  Cosminexus RM を使用します。
- OFF
  Cosminexus RM を使用しません。

hcscserver-data-filepath=HCSC **サーバのシステム管理情報を保存する出力先のパス　～ < 最大** 100 **バイトの文字列** ><<<Cosminexus **インストールディレクトリ** >¥CSC¥spool¥msg>>

HCSC サーバのシステム管理情報を保存する出力先を絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。存在しないディレクトリを指定した場合，および指定した文字列が 100 バイトを超える場合はエラーになります。そのため，<Cosminexus インストールディレクトリ > が 84 バイトを超える場合は，このプロパティを明示的に指定してください。なお，指定できる長さのバイトは，ISO-8859-1 でデコードしたあとの長さになります。

(2) 標準受付関連

request-ejb={ON ｜ OFF}

標準の同期受付（SessionBean）を使用するかどうかを指定します。

- ON
  標準の同期受付（SessionBean）を使用します。
- OFF
  標準の同期受付（SessionBean）を使用しません。

次に示す場合は，ON を指定してください。

- サービスリクエスタから SessionBean を使用してサービス部品を呼び出す場合
- 運用環境の画面上でプロセスインスタンスを再実行する場合
- cscpireexec コマンドを使用してプロセスインスタンスを再実行する場合

request-soap={ON ｜ OFF}

標準の同期受付（Web サービス）を使用するかどうかを指定します。

- ON
  標準の同期受付（Web サービス）を使用します。
- OFF
  標準の同期受付（Web サービス）を使用しません。

サービスリクエスタから Web サービスを使用してサービス部品を呼び出す場合は，ON を指定してください。

request-jms={ON ｜ OFF}

標準の非同期受付（MDB（WS-R））を使用するかどうかを指定します。rm-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティに ON を指定するとエラーになります。

- ON
  標準の非同期受付（MDB（WS-R））を使用します。
- OFF
  標準の非同期受付（MDB（WS-R））を使用しません。

次に示す場合は，ON を指定してください。

- サービスリクエスタから MDB（WS-R）を使用してサービス部品を呼び出す場合
- 配備するビジネスプロセスで応答アクティビティを実行したあとに，基本アクティビティ（受付，サービス呼出，Java 呼出，データ変換，代入，無操作，フォルト送出，待機）を実行するようなビジネスプロセスを定義した場合

request-jms.maxmessage= **標準の非同期受付（**MDB（WS-R）**）のキューの最大メッセージ数　～＜数字＞** ((1 － 65535))<<1024>>

標準の非同期受付（MDB（WS-R））の受付キュー作成時の最大メッセージ数を指定します。Cosminexus RM での設定値に依存します。request-jms プロパティで ON を指定した場合だけ有効になります。

request-dbq={ON ｜ OFF}

標準の非同期受付（MDB（DB キュー））を使用するかどうかを指定します。rm-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティに ON を指定するとエラーになります。

- ON
  標準の非同期受付（MDB（DB キュー））を使用します。
  なお，Oracle の場合は ON を指定できません。
- OFF
  標準の非同期受付（MDB（DB キュー））を使用しません。

サービスリクエスタから（MDB（DB キュー））を使用してサービス部品を呼び出す場合は，ON を指定してください。

request-dbq.maxmessage= **標準の非同期受付（**MDB（DB **キュー））のキューの最大メッセージ数　～＜数字＞** ((1 － 65535))<<1024>>

標準の非同期受付（MDB（DB キュー））の受付キュー作成時の最大メッセージ数を指定します。Cosminexus RM での設定値に依存します。request-dbq プロパティで ON を指定した場合だけ有効になります。

request-jms-rdarea= **標準の非同期受付（**MDB（WS-R)）**の** RD **エリア名　～＜先頭が英字の英数字，空白，およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 30 **文字**))

標準の非同期受付（MDB（WS-R））の RD エリア名を指定します。データベースに Oracle を使用している場合は無効になります。Cosminexus RM での設定値に依存します。

request-dbq-rdarea= **標準の非同期受付（**MDB（DB **キュー)）の** RD **エリア名　～＜先頭が英字の英数字，空白，およびアンダーライン（_）＞** ((1 － 30 **文字**))

標準の非同期受付（MDB（DB キュー））の RD エリア名を指定します。データベースに Oracle を使用している場合は無効になります。Cosminexus RM での設定値に依存します。

request-dbq-maxlen= **標準の非同期受付（**MDB（DB **キュー)）の最大メッセージ長　～＜数字＞** ((1000 － 1048576))<<33000>>

標準の非同期受付（MDB（DB キュー））の最大メッセージ長をバイト単位で指定します。Cosminexus RM での指定値に依存します。

(3) **ユーザ定義受付関連**

request-userdef-soap={ON ｜ OFF}　～ <<OFF>>

SOAP ユーザ定義受付を使用するかどうかを指定します。

- ON
  SOAP ユーザ定義受付を使用します。
- OFF
  SOAP ユーザ定義受付を使用しません。

注意事項

OFF の場合でもユーザ定義受付を配備・実行できます。ただし，OFF の場合，開発環境でユーザ定義受付を定義するとき，サービスリクエスタからの要求先 Web サービスのアドレスが表示されないので注意してください。

(4)J2EE **関連**

naming-service-hostname= **ネーミングサービスのホスト名　～＜文字列＞** <<localhost **名** >>

ネーミングサービスのホスト名を指定します。Cosminexus で指定した名称に依存します。このプロパティの指定を省略した場合，cscsvsetup コマンドによって自動的にホスト名が設定されます。

naming-service-port= **ネーミングサービスのポート番号　～<数字>** ((1 － 65535))<<900>>

ネーミングサービスのポート番号を指定します。Cosminexus での設定値に依存します。このプロパティの指定を省略した場合，cscsvsetup コマンドによって自動的にポート番号が設定されます。

(5)Cosminexus RM **関連**

rm-systemname=Cosminexus RM **のシステム名　～<先頭が英字の大文字英字または数字>** ((1 － 3 **文字**))

HCSC サーバが使用する Cosminexus RM の RM システム名を指定します。Cosminexus で指定した名称に依存します。rm-use プロパティで ON を指定した場合は，必ず指定します。rm-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティを指定するとエラーになります。

rm-displayname=Cosminexus RM **の表示名　～<英数字およびアンダーライン（_）>**

HCSC サーバが使用する Cosminexus RM（リソースアダプタ）の表示名をサニタイズ（半角英数字以外をアンダーライン（_）に変更）した値を指定します。Cosminexus での名称に依存します。rm-use プロパティで ON を指定した場合は，必ず指定します。rm-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティを指定するとエラーになります。

(6)DB **コネクタ関連**

dbcon-xadisplayname=XATransaction **または** LocalTransaction **用** DB Connector **の表示名　～<英数字およびアンダーライン（_）>**

HCSC サーバが使用する XATransaction 用，または LocalTransaction 用の DB Connector の表示名をサニタイズ（半角英数字以外をアンダーライン（_）に変更）した値を指定します。Cosminexus での名称に依存します。db-use プロパティで ON を指定した場合は，必ず指定します。db-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティを指定するとエラーになります。

dbcon-nodisplayname=NoTransaction **用** DB Connector **の表示名**

HCSC サーバが使用する NoTransaction 用 DB Connector の表示名をサニタイズ（半角英数字以外をアンダーライン（_）に変更）した値を指定します。Cosminexus での名称に依存します。db-use プロパティで ON を指定した場合は，必ず指定します。db-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティを指定するとエラーになります。

(7) **データベース関連**

dbtype={HIRDB ｜ ORACLE9I ｜ ORACLE10G ｜ ORACLE11G}

HCSC サーバで使用するデータベース種別を指定します。db-use プロパティで ON を指

定した場合は，必ず指定します。db-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティを指定するとエラーになります。

- HIRDB
  使用するデータベースとして HiRDB を使用します。
- ORACLE9I
  使用するデータベースとして Oracle9i を使用します。
- ORACLE10G
  使用するデータベースとして Oracle 10g を使用します。
- ORACLE11G
  使用するデータベースとして Oracle 11g を使用します。

jdbc-type={DBPSV ｜ HIRDB-TYPE4 ｜ ORACLE-THIN}

HCSC サーバオフライン時に使用する JDBC ドライバの種別を指定します。db-use プロパティで ON を指定した場合は，必ず指定します。db-use プロパティで OFF を指定した場合，このプロパティを指定するとエラーになります。

- DBPSV
  Cosminexus DABroker Library の JdbcDbpsvDriver を使用します。DBPSV を指定した場合は，必ず jdbc-dbhostname プロパティ，および jdbc-dbconnectinfo プロパティを指定します。Cosminexus DABroker Library を使用して Oracle へのデータベースにはアクセスできません。
- HIRDB-TYPE4
  HiRDB Version 8，または HiRDB Version 9 の HiRDB Type4 JDBC Driver を使用します。HIRDB-TYPE4 を指定した場合は，必ず jdbc-dbhostname プロパティ，および jdbc-dbconnectinfo プロパティを指定します。
- ORACLE-THIN
  Oracle JDBC Thin Driver を使用します。dbtype プロパティで，使用するデータベース種別に ORACLE9I，ORACLE10G または ORACLE11G を指定した場合は，必ず指定します。また，ORACLE-THIN を指定した場合は，必ず jdbc-url プロパティを指定します。

jdbc-url=JDBC **用データベース** URL　**～＜文字列＞**

HCSC サーバオフライン時に使用する JDBC ドライバごとに対応した接続設定情報として，Driver.connect メソッドで接続する際に指定する，接続先のデータベースの URL を指定します。jdbc-type プロパティで，JDBC ドライバ種別に ORACLE-THIN を指定した場合は必ず指定します。

- jdbc-type **プロパティに** DBPSV **を指定した場合**
  jdbc-url プロパティの指定は無効になります。
- jdbc-type **プロパティに** HIRDB-TYPE4 **を指定した場合**
  jdbc-url プロパティの指定は無効になります。

- jdbc-type プロパティに ORACLE-THIN を指定した場合
  Oracle JDBC Thin Driver がデータベースに接続する際に使用する URL を指定します。「jdbc:oracle:thin:@」より後ろの部分を指定します。URL の形式については，Oracle のマニュアルを参照してください。データベースに接続する際に使用するユーザ名とパスワードを含む URL は指定しないでください。なお，データベースに接続する際のユーザ名とパスワードは，HCSC サーバ構成定義ファイルで指定します。

jdbc-dbhostname= データベースのホスト名　～＜文字列＞ ((最大 2086 文字))

HCSC サーバオフライン時に HCSC サーバが使用する HiRDB のホスト名または IP アドレスを指定します。jdbc-type プロパティで，JDBC ドライバ種別に DBPSV および HIRDB-TYPE4 を指定した場合は必ず指定します。jdbc-type プロパティに ORACLE-THIN を指定した場合，jdbc-dbhostname プロパティの指定は無効になります。

jdbc-dbconnectinfo= データベースの接続情報　～＜英数字＞

HCSC サーバオフライン時に使用する接続情報（ポート番号，または環境変数グループ名）を指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。DABroker または HiRDB の設定値に依存します。jdbc-type プロパティで，JDBC ドライバ種別に DBPSV および HIRDB-TYPE4 を指定した場合は必ず指定します。

- jdbc-type プロパティに DBPSV を指定した場合
  HiRDB システムのポート番号，または HiRDB クライアントの環境変数グループ名を指定します。環境変数グループ名を指定する場合，必ず先頭の @DABENVGRP を含めて指定します。
- jdbc-type プロパティに HIRDB-TYPE4 を指定した場合
  HiRDB システムのポート番号，または HiRDB クライアントの環境変数グループファイル名を指定します。環境変数グループファイル名を指定する場合，必ず先頭の @HIRDBENVGRP= 指定に続けて，環境変数グループファイル名を絶対パス名で指定します。
- jdbc-type プロパティに ORACLE-THIN を指定した場合
  jdbc-dbconnectinfo プロパティの指定は無効になります。

db-character-sets={ASCII ｜ Shift_JIS ｜ UTF-8 ｜ EUC-JP}

使用するデータベースで指定した文字コード種別を指定します。

コマンド受付（MBean）や標準受付で入力チェックの際に「XML スキーマ定義の NCName」の長さ（データベースに入れることができる文字列のバイト数）を，指定された文字コードに変換してチェックするために使用します。

db-use プロパティで ON を指定した場合は，必ず指定します。データベースを使用しない場合は，このプロパティの指定を省略できます。db-use プロパティで OFF を指定した場合で，このプロパティを指定しなかったときは，UTF-8 に変換してチェックします。

UTF-8 以外を指定した場合は，指定された文字コードでチェックします。

- ASCII
  使用するデータベースで指定した文字コード種別が ASCII の場合に指定します。
- Shift_JIS
  使用するデータベースで指定した文字コード種別が Shift_JIS の場合に指定します。
- UTF-8
  使用するデータベースで指定した文字コード種別が UTF-8 の場合に指定します。
- EUC-JP
  使用するデータベースで指定した文字コード種別が EUC-JP の場合に指定します。

(8) ビジネスプロセスの状態の互換性

bp-status-compatible={ON ｜ OFF}

ビジネスプロセスのサービス呼出アクティビティが実行中の場合に例外（エラー）が発生したとき，プロセスインスタンスおよびアクティビティをエラー状態（Error）に設定するかどうかを指定します。

エラー状態（Error）の設定は，永続化するビジネスプロセスを使用する場合に有効となります。

08-10 以降を新規インストールした場合，bp-status-compatible のデフォルト値は「OFF」です。また，08-00 以前のバージョンから移行した場合，bp-status-compatible のデフォルト値は「ON」です。

- ON
  ビジネスプロセスのサービス呼出アクティビティが実行中の場合に例外（エラー）が発生したとき，プロセスインスタンスおよびサービス呼出アクティビティは実行中状態（Executing）となります。
  なお，bp-status-compatible に「ON」を指定した場合，サービス呼出アクティビティの処理が完了したタイミングではトランザクションをコミットしません。
- OFF
  ビジネスプロセスのサービス呼出アクティビティが実行中の場合に例外（エラー）が発生したとき，プロセスインスタンスおよびサービス呼出アクティビティはエラー状態（Error）となります。
  なお，bp-status-compatible に「OFF」を指定した場合，サービス呼出アクティビティの処理が完了したタイミングでトランザクションをコミットします。
  サービス呼出アクティビティの実行が正常に完了したあとにアクティビティでエラーが発生した場合は，サービス呼出アクティビティでの非同期サービスのキューへのメッセージ送信，および DB アダプタを呼び出すデータベースへの更新処理は有効となります。

(9) データベースの RD エリア（表領域）情報

cscserverinfo-tbl-area=HCSC 基本情報テーブル領域　～＜文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞ ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

HCSC 基本情報テーブルを作成するテーブル領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB の場合
  RD エリア名を指定します。
- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

location-tbl-area= ロケーション用テーブル領域　～＜文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞ ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

ロケーションディレクトリを作成するテーブル領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB の場合
  RD エリア名を指定します。
- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

routing-tbl-area= ルーティング用テーブル領域　～＜文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞ ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

ルーティングディレクトリを作成するテーブル領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB の場合
  RD エリア名を指定します。
- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

cv-tbl-area= データ変換用テーブル領域　～＜文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞ ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

データ変換ディレクトリを作成するテーブル領域を指定します。使用するデータベース

の種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

exehistory-tbl-area= **実行履歴情報テーブル領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

実行履歴情報テーブルを作成するテーブル領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

exehistory-idx-area= **実行履歴情報テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

実行履歴情報テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

process-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** PROCESS **テーブルを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 PROCESS テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。

- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

process-idx-area= ビジネスプロセス基盤用 PROCESS テーブルのインデクスを格納する領域　～<文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白> ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

ビジネスプロセス基盤用 PROCESS テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB の場合
  RD エリア名を指定します。
- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

activity-tbl-area= ビジネスプロセス基盤用 ACTIVITY テーブルを格納する領域　～<文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白> ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

ビジネスプロセス基盤用 ACTIVITY テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB の場合
  RD エリア名を指定します。
- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

activity-idx-area= ビジネスプロセス基盤用 ACTIVITY テーブルのインデクスを格納する領域　～<文字列，RD エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白> ((RD エリア名の場合：1 － 30 文字))

ビジネスプロセス基盤用 ACTIVITY テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB の場合
  RD エリア名を指定します。
- Oracle の場合
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

link-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** LINK **テーブルを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 **－** 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 LINK テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

link-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** LINK **テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 **－** 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 LINK テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

correlationset-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** CORRELATIONSET **テーブルを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 **－** 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 CORRELATIONSET テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

correlationset-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** CORRELATIONSET **テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 CORRELATIONSET テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

string-variable-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** STRING-VARIABLE **テーブルを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 STRING-VARIABLE テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

string-variable-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** STRING-VARIABLE **テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 STRING-VARIABLE テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

numeric-variable-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** NUMERIC-VARIABLE **テーブルを格納する領域　～<文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白>** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 NUMERIC-VARIABLE テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

numeric-variable-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** NUMERIC-VARIABLE **テーブルのインデクスを格納する領域　～<文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白>** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 NUMERIC-VARIABLE テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

boolean-variable-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** BOOLEAN-VARIABLE **テーブルを格納する領域　～<文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白>** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 BOOLEAN-VARIABLE テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

boolean-variable-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** BOOLEAN-VARIABLE **テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 BOOLEAN-VARIABLE テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

message-variable-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** MESSAGE-VARIABLE **テーブルを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 MESSAGE-VARIABLE テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

message-variable-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** MESSAGE-VARIABLE **テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 MESSAGE-VARIABLE テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

message-variable-val-area= **ビジネスプロセス基盤用** MESSAGE-VARIABLE **テーブルの** VariableValue **列を格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 MESSAGE-VARIABLE テーブルの VariableValue 列を作成する領域を指定します。

- HiRDB **の場合**
  指定は不要です。このプロパティを指定しても無効となります。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

message-relation-tbl-area= **ビジネスプロセス基盤用** MESSAGE-RELATION **テーブルを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 MESSAGE-RELATION テーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

message-relation-idx-area= **ビジネスプロセス基盤用** MESSAGE-RELATION **テーブルのインデクスを格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

ビジネスプロセス基盤用 MESSAGE-RELATION テーブルのインデクスを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってインデクス領域が決定されます。

clusterinfo-tbl-area= **クラスタ情報を格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

クラスタ内でセットアップされたクラスタ情報を格納するテーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

haasyncadp-tbl-area= **クラスタ内で配備された非同期アダプタサービス** ID **を格納する領域　～＜文字列，**RD **エリア名の場合：先頭が英字の英数字と空白＞** ((RD **エリア名の場合：**1 － 30 **文字**))

クラスタ内で配備された非同期アダプタサービス ID を格納するテーブルを作成する領域を指定します。使用するデータベースの種類によって，指定する値が異なります。

- HiRDB **の場合**
  RD エリア名を指定します。
- Oracle **の場合**
  表領域を指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，使用するデータベースに従ってテーブル領域が決定されます。

sql-scriptfilename=SQL **スクリプトファイルパス　～＜文字列＞**

データベース作成用の SQL スクリプトファイルパスを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。

このプロパティはオプション機能です。このプロパティでユーザ SQL ファイルを指定する場合，SQL ファイルの TABLE 名，INDEX 名，VIEW 名を誤らないようにしてください。誤ったものを指定すると動作は保障されません。また，HCSC サーバのアンセットアップ時には，SQL ファイルの内容に関係なく，HCSC サーバが使用するテーブル一式が削除されます。ただし，HA クラスタ内で共有できるテーブルについては，クラスタ内で最後の HCSC サーバをアンセットアップする場合にだけ削除します。HCSC サーバが使用するテーブル一式については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「7.5.3　HCSC サーバのセットアップおよびアンセットアップ時の回復方法」を参照してください。

また，SQL スクリプトファイルについては，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「付録 D　SQL スクリプトファイルの設定」

を参照してください。

なお，このプロパティを指定した場合，次に示すプロパティは無効になります。

- cscserverinfo-tbl-area
- location-tbl-area
- routing-tbl-area
- cv-tbl-area
- exehistory-tbl-area
- exehistory-idx-area
- process-tbl-area
- process-idx-area
- activity-tbl-area
- activity-idx-area
- link-tbl-area
- link-idx-area
- correlationset-tbl-area
- correlationset-idx-area
- string-variable-tbl-area
- string-variable-idx-area
- numeric-variable-tbl-area
- numeric-variable-idx-area
- boolean-variable-tbl-area
- boolean-variable-idx-area
- message-variable-tbl-area
- message-variable-idx-area
- message-variable-val-area
- message-relation-tbl-area
- message-relation-idx-area
- clusterinfo-tbl-area
- haasyncadp-tbl-area

(10) アクティビティインスタンスの最大数の互換性

activitynumber-maximum-compatible={ON ｜ OFF}　～ <<OFF>>

一つのプロセスインスタンスで生成できるアクティビティインスタンスの識別番号の上限値を指定します。

- ON
  最大 32,768 個まで生成できます。
- OFF
  最大 2,147,483,648 個まで生成できます。

デフォルト値は次のとおりです。

● 08-50 以降を新規インストールした場合
デフォルト値は「OFF」です。

● 08-10 以前のバージョンから移行した場合
データベースを使用していない環境ではデフォルト値は「OFF」，データベースを使用している環境ではデフォルト値は「ON」です。

記述例

HiRDB を使用した場合の例を次に示します。

```
db-use=ON
rm-use=ON
request-ejb=ON
request-soap=ON
request-jms=ON
request-dbq=OFF
rm-systemname=RM
rm-displayname=Cosminexus_Reliable_Messaging
dbcon-xadisplayname=DB_Connector_for_HiRDB_Type4_Cosminexus_RM
dbcon-nodisplayname=DB_Connector_for_HiRDB_Type4
dbtype=HIRDB
jdbc-type=HIRDB-TYPE4
jdbc-dbhostname=localhost
jdbc-dbconnectinfo=22200
db-character-sets=Shift_JIS
cscserverinfo-tbl-area=RDDATA1
location-tbl-area=RDDATA1
routing-tbl-area=RDDATA1
cv-tbl-area=RDDATA1
exehistory-tbl-area=RDDATA2
exehistory-idx-area=RDINDX2
process-tbl-area=RDDATA1
process-idx-area=RDINDX1
activity-tbl-area=RDDATA1
activity-idx-area=RDINDX1
link-tbl-area=RDDATA1
link-idx-area=RDINDX1
correlationset-tbl-area=RDDATA1
correlationset-idx-area=RDINDX1
string-variable-tbl-area=RDDATA3
string-variable-idx-area=RDINDX3
numeric-variable-tbl-area=RDDATA3
numeric-variable-idx-area=RDINDX3
boolean-variable-tbl-area=RDDATA3
boolean-variable-idx-area=RDINDX3
message-variable-tbl-area=RDDATA3
message-variable-idx-area=RDINDX3
message-relation-tbl-area=RDDATA4
message-relation-idx-area=RDINDX4
```

使用方法

HCSC サーバ構成定義ファイルの要素 setup-properties に HCSC サーバセットアップ定義ファイルを指定します。

注意事項

同じプロパティを複数指定した場合は，動作は保証されません。

HCSC サーバランタイム定義ファイル

形式

```
[historyrecord={ON｜OFF}]
[historyrecord-data={ON｜OFF}]
[historyrecord-binarylength={FULL｜電文データの長さ}]

[methodtrace-filepath=メソッドトレース出力先パス]
[requesttrace-filepath=リクエストトレース出力先パス]
[telegramtrace-filepath=ユーザ電文トレース出力先パス]
[methodtrace-filenum=メソッドトレース面数]
[requesttrace-filenum=リクエストトレース面数]
[telegramtrace-filenum=ユーザ電文トレース面数]
[methodtrace-filesize=メソッドトレースファイルサイズ]
[requesttrace-filesize=リクエストトレースファイルサイズ]
[telegramtrace-filesize=ユーザ電文トレースファイルサイズ]
[methodtrace-level={1｜2｜3｜4｜5}]
[requesttrace={ON｜OFF}]
[telegramtrace={ON｜OFF}]
[bptrace-level={0｜10｜20｜30}]
[bptrace-filenum=BPトレースの面数]
[bptrace-filesize=BPトレースのサイズ]

[dab-bufsize=DABrokerからの受信データのバッファ長]
[jdbc-bufsize=JDBCで取り扱うバッファ長]
[jdbc-longvarbinary={REAL｜LOCATOR}]
[jdbc-longvarbinary-access-size=HiRDBに一度に要求するデータの長さ]
[jdbc-maxbinarysize=取得するデータの最大長]
[jdbc-longvarbinary-truncerror={TRUE｜FALSE}]


[request-ejb.instance.minimum=標準の同期受付（SessionBean）のインスタンス最小数]
[request-ejb.instance.maximum=標準の同期受付（SessionBean）のインスタンス最大数]
[request-ejb.ctm={true｜false}]
[request-ejb.parallel.count=CTMがアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数]
[request-ejb.optional.name=標準の同期受付（SessionBean）の別名]
[request-soap.instance.minimum=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.1）の最小同時実行数]
[request-soap.instance.maximum=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.1）の最大同時実行数]
[request-soap.exclusive.threads=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.1）の占有スレッド数]
[request-soap.queue-size=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.1）の実行待ちキューのサイズ]
```

```
［request-soap1_2.instance.minimum=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.2）の最小同時実行数］
［request-soap1_2.instance.maximum=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.2）の最大同時実行数］
［request-soap1_2.exclusive.threads=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.2）の占有スレッド数］
［request-soap1_2.queue-size=標準の同期受付（Webサービス・SOAP1.2）の実行待ちキューのサイズ］
［request-jms.instance.maximum=標準の非同期受付（MDB（WS-R））のインスタンス最大数］
［receptionstop-monitor-timer=受付終了タイムアウト時間］

［soapfault-targetnamespace-filepath=SOAP Fault動作定義ファイルの絶対パス］


［formatdef-maxcache-num=フォーマット定義をキャッシュできる数］
［transformdef-maxcache-num=サーバ単位にデータ変換定義をキャッシュできる数］
［xmltelegram-maxcache-num=XML電文をキャッシュできる数］
［telegram-validation={ON｜OFF}］
［xmltelegram-namespace-complement={ON｜OFF}］
［telegram-undefined-character-code={ERROR｜IGNORE｜REPLACE}］
［telegram-notfound-soapheader={ERROR｜IGNORE}］
［validation-activity={ON｜OFF}］

［j2ee-stopapp-timeout=J2EEアプリケーション停止タイムアウト時間］
［startcsc-timeout=J2EEサーバ起動タイムアウト時間］
［stopcsc-timeout=J2EEサーバ停止タイムアウト時間］

［csc-command-timeout=コマンドタイムアウト時間］

［cookie-parsing={ON｜OFF}］

［work-folder=作業フォルダルートの絶対パス］
［common-folder-<共通フォルダ定義名>=共通フォルダの絶対パス］

［dba-separate-transaction={true｜false}］
```

機能

セットアップ後の HCSC サーバの定義情報を HCSC-Manager から設定します。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥templates¥cscsvconfig.properties
```

設定できるプロパティ

(1) 実行履歴管理

historyrecord={ON ｜ OFF} 〜 <<OFF>>

電文の実行履歴を採取するかどうかを指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの db-use プロパティで OFF を指定した場合に，このプロパティで ON を指定するとエラーになります。

- ON
  採取します。

- OFF
  採取しません。

historyrecord-data={ON ｜ OFF}　～ <<OFF>>

電文の実行履歴の電文データ（ユーザ電文）を採取するかどうかを指定します。
historyrecord プロパティで ON を指定した場合だけ有効になります。

- ON
  採取します。
- OFF
  採取しません。

historyrecord-binarylength={FULL ｜**電文データの長さ**｝　**～＜英大文字または数字＞** ((0 ー 2147483639))<<0>>

採取する電文データ（ユーザ電文）の長さを指定します。historyrecord プロパティおよび historyrecord-data プロパティで ON を指定した場合だけ有効になります。

- FULL
  電文データすべてを採取します。最大 2,147,483,639 バイトの電文データを取得します。
- **電文データの長さ**
  指定した長さの電文データを採取します。0 ～ 2,147,483,639 バイトの長さを指定します。

(2) **ログトレース**

methodtrace-filepath= **メソッドトレース出力先パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞** <<<Cosminexus **ログ出力ディレクトリ** >¥csc¥maintenance>>

メッセージング基盤，およびビジネスプロセス基盤のメソッドトレースの出力先パスを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。存在しないディレクトリを指定した場合は，省略値が使用されます。省略値は Cosminexus の設定値に依存します。

requesttrace-filepath= **リクエストトレース出力先パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞** <<<Cosminexus **ログ出力ディレクトリ** >¥csc>>

リクエストトレースの出力先パスを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。存在しないディレクトリを指定した場合は，省略値が使用されます。省略値は Cosminexus の設定値に依存します。

telegramtrace-filepath= **ユーザ電文トレース出力先パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞** <<<Cosminexus **ログ出力ディレクトリ** >¥csc>>

ユーザ電文トレースの出力先パスを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。存在しないディレクトリを指定した場合は，省略値が使用

されます。省略値は Cosminexus の設定値に依存します。

methodtrace-filenum= **メソッドトレース面数　～＜数字＞** ((1 － 16))<<8>>

メソッドトレースの最大面数を指定します。

requesttrace-filenum= **リクエストトレース面数　～＜数字＞** ((1 － 16))<<4>>

リクエストトレースの最大面数を指定します。

telegramtrace-filenum= **ユーザ電文トレース面数　～＜数字＞** ((1 － 16))<<4>>

ユーザ電文トレースの最大面数を指定します。

methodtrace-filesize= **メソッドトレースファイルサイズ　～＜数字＞** ((4096 － 2147483647))<<2097152>>

メソッドトレースファイルの 1 面当たりの最大サイズをバイト単位で指定します。

requesttrace-filesize= **リクエストトレースファイルサイズ　～＜数字＞** ((4096 － 2147483647))<<2097152>>

リクエストトレースファイルの 1 面当たりの最大サイズをバイト単位で指定します。

telegramtrace-filesize= **ユーザ電文トレースファイルサイズ　～＜数字＞** ((4096 － 2147483647))<<2097152>>

ユーザ電文トレースファイルの 1 面当たりの最大サイズをバイト単位で指定します。

methodtrace-level={1 ｜ 2 ｜ 3 ｜ 4 ｜ 5}　～ <<3>>

メソッドトレースの出力レベルを指定します。出力情報と出力レベルを次の表に示します。

出力情報	出力レベル				
	1	2	3	4	5
エラー情報（例外発生原因）	○	○	○	○	○
標準受付メソッドの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）※	×※	○※	○※	○※	○※
外部（BP など）のインターフェースの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	×	○	○	○
コンポーネント内インターフェースの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	×	×	○	○
デバッグ情報（処理の分岐などの情報）	×	×	×	×	○

（凡例）
○：出力されます。
×：出力されません。

注※　DB アダプタの場合は該当しません。

requesttrace={ON ｜ OFF}　〜 <<ON>>

リクエストトレースを採取するかどうかを指定します。

- ON
  採取します。
- OFF
  採取しません。

telegramtrace={ON ｜ OFF}　〜 <<OFF>>

ユーザ電文トレースを採取するかどうかを指定します。

- ON
  採取します。
- OFF
  採取しません。

bptrace-level={0 ｜ 10 ｜ 20 ｜ 30}　〜 <<10>>

ビジネスプロセス基盤のメソッドトレースの出力レベルを指定します。

bptrace-filenum=BP **トレースの面数　〜＜数字＞** ((1 − 16))<<16>>

ビジネスプロセス基盤のメソッドトレースの面数を指定します。

bptrace-filesize=BP **トレースのサイズ　〜＜数字＞** ((4096 − 2147483647))<<2097152>>

ビジネスプロセス基盤のメソッドトレースのサイズをバイト単位で指定します。

(3) データベース情報

dab-bufsize=DABroker **からの受信データのバッファ長　〜＜数字＞** ((10 − 16000))

HCSC サーバのオフライン時，データベースに格納されている電文の実行履歴情報を表示する場合に，Cosminexus DABroker Library からの受信データを格納するためのバッファ長をキロバイト単位で指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの jdbc-type プロパティに DBPSV を指定した場合にだけ有効になります。

次の場合は，表示データ長に 10 を加えた値を指定します。

- 電文の実行履歴を管理し，かつデータ長が 15,990 キロバイト以下のユーザ電文を採取している場合で，実行履歴情報を表示するときの電文データ長オプションで 1 〜 65535 の値を指定しているとき
- 電文の実行履歴を管理し，かつデータ長が 15,990 キロバイトより大きいユーザ電文を採取している場合で，実行履歴情報を表示するときの電文データ長オプションで 1 〜 65535 の値を指定しているとき

- 実行履歴情報の表示に際し，電文データ長オプションで 0（上限値なし）を指定している場合で，採取されているユーザ電文の長さの上限がわかっている場合

次の場合は，このプロパティに 16000 を指定し，さらに jdbc-longvarbinary プロパティに LOCATOR を指定します。

- 実行履歴情報を表示するときの電文データ長オプションの指定が 0（上限値なし）の場合

次の場合は，このプロパティの指定を省略できます。省略時は，DABroker の省略時の動作に依存します（Driver.connect メソッドに指定する BUF_SIZE の値）。

- 電文の実行履歴を管理しない場合
- ユーザ電文を採取しない場合

jdbc-bufsize=JDBC **で取り扱うバッファ長　～＜数字＞** ((16 － 512))

HCSC サーバのオフライン時に，データベースに格納されている電文の実行履歴情報を表示するときの JDBC で取り扱うバッファ長をメガバイト単位で指定します。実行履歴情報を表示する際の電文データ長オプションで 0（上限値なし）を指定している場合は，採取データ長に合わせて指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの jdbc-type プロパティに DBPSV を指定し，かつ dbc-longvarbinary プロパティで LOCATOR を指定した場合にだけ，有効になります。

次の場合は，このプロパティの指定を省略できます。省略時は，DABroker の省略時の動作に依存します（Driver.connect メソッドに指定する ROW_SIZE の値）。

- 電文の実行履歴を管理しない場合
- ユーザ電文を採取しない場合
- 電文の実行履歴を管理し，かつデータ長が 16,384 キロバイト以下のユーザ電文を採取している場合
- 電文の実行履歴を管理し，かつデータ長が 16,384 キロバイトより大きいユーザ電文を採取している場合で，実行履歴情報を表示するときの電文データ長オプションで 1 ～ 65535 の値を指定しているとき

jdbc-longvarbinary={REAL ｜ LOCATOR}　～ <<REAL>>

HCSC サーバのオフライン時に，データベースに格納されている電文の実行履歴情報を表示するときに指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの jdbc-type プロパティに DBPSV または HIRDB-TYPE4 を指定した場合にだけ，有効になります。

- REAL

  次の場合に指定します。

  jdbc-type **プロパティに** DBPSV **を指定した場合**

  1. 電文の実行履歴を管理しない場合
  2. ユーザ電文を採取しない場合
  3. 電文の実行履歴を管理し，かつデータ長が 16,000 キロバイト以下のユーザ電文を

採取している場合で，dab-bufsize プロパティで表示データ長や採取データ長より大きい値を指定したとき

jdbc-type **プロパティに** HIRDB-TYPE4 **を指定した場合**

1. 電文の実行履歴を管理しない場合
2. ユーザ電文を採取しない場合
3. 電文の実行履歴を管理し，かつ jdbc-maxbinarysize プロパティで指定したデータ長以下のユーザ電文を採取している場合

- LOCATOR

次の場合に指定します。

jdbc-type **プロパティに** DBPSV **を指定した場合**

1. 上記 REAL の jdbc-type プロパティに DBPSV を指定した場合の項番 3 に該当しない場合
2. 電文の実行履歴を管理し，かつデータ長が 16,000 キロバイトより大きいユーザ電文を採取している場合で，さらに電文の実行履歴情報を表示するコマンドの電文データ長オプションで 0（上限値なし）を指定しているとき

jdbc-type **プロパティに** HIRDB-TYPE4 **を指定した場合**

1. 電文の実行履歴を管理し，かつ jdbc-maxbinarysize プロパティで指定したデータ長より大きいユーザ電文を採取している場合
   次に示すデータ長でデータを分割して，データを取得します。
   jdbc-longvarbinary-access-size **プロパティで指定した値×** 1024**（単位：バイト）**

jdbc-longvarbinary-access-size=HiRDB **に一度に要求するデータの長さ　～<数字>** ((0 ～ 2097151))

HCSC サーバのオフライン時，データベースに格納されている電文の実行履歴情報を表示する場合に，HiRDB に一度に要求するデータの長さをキロバイト単位で指定します。jdbc-type プロパティに HIRDB-TYPE4 を指定し，jdbc-longvarbinary プロパティに LOCATOR を指定した場合にだけ，有効になります。省略時は，HiRDB Type4 JDBC Driver の省略時の動作に依存します（DriverManager#getConnection メソッドに指定する HiRDB_for_Java_LONGVARBINARY_ACCESS_SIZE の値）。

指定するデータの長さは，データベースに格納されている電文の実行履歴情報で，表示するユーザ電文の長さに応じて指定します。ユーザ電文は，次に示すデータ長でデータを分割して取得できます。

jdbc-longvarbinary-access-size **プロパティで指定した値×** 1024**（単位：バイト）**

0 を指定した場合は，データ全体を一度に要求します。ただし，定義長とメモリの設定によってメモリ不足が発生するおそれがあるため，注意する必要があります。

jdbc-maxbinarysize= **取得するデータの最大長　～＜数字＞** ((1 － 2147483647))<<64000>>

HCSC サーバのオフライン時，データベースに格納されている電文の実行履歴情報を表示する場合に，取得するデータの最大長をバイト単位で指定します。jdbc-type プロパティに HIRDB-TYPE4 を指定し，jdbc-longvarbinary プロパティに REAL を指定した場合にだけ，有効になります。

取得するデータの最大長は，電文の実行履歴で採取するユーザ電文の長さ（historyrecord-binarylength プロパティで指定）に応じて指定します。なお，取得対象のデータが jdbc-maxbinarysize プロパティで指定した値より大きい場合は，指定した値までのデータしか取得できません。

jdbc-longvarbinary-truncerror={TRUE ｜ FALSE}

HCSC サーバのオフライン時，データベースに格納されている電文の実行履歴情報を表示する場合に，取得対象のデータが取得データの最大長を超えてしまい，すべてのデータを取得できないとき，エラーにするかどうかを指定できます。jdbc-type プロパティに HIRDB-TYPE4 を指定した場合にだけ，有効になります。省略時は，HiRDB Type4 JDBC Driver の省略時の動作に依存します（DriverManager#getConnection メソッドに指定する HiRDB_for_Java_LONGVARBINARY_TRUNCERROR の値）。

- TRUE
  最大長を超えてしまい，すべてのデータを取得できないとき，エラーにします。
- FALSE
  最大長を超えてしまい，すべてのデータを取得できないとき，エラーにしません。

(4) 標準受付関連

request-ejb.instance.minimum= **標準の同期受付（**SessionBean**）のインスタンス最小数　～＜数字＞** ((0**，または** 1 － request-ejb.instance.maximum **プロパティでの設定値**))<<request-ejb.instance.maximum **プロパティでの設定値** >>

プール内の標準の同期受付（SessionBean）のインスタンス最小数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-ejb プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

request-ejb.instance.maximum= **標準の同期受付（**SessionBean**）のインスタンス最大数　～＜数字＞** ((1 － 1024))<<10>>

プール内の標準の同期受付（SessionBean）のインスタンス最大数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-ejb プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

CTM を使用している場合で CTM の同時実行数を動的に変更するときは，127 以上を指定してください。

request-ejb.ctm={true ｜ false} 〜 <<false>>

CTM 連携をするかどうかを指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-ejb プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

- true
  CTM 連携をします。
- false
  CTM 連携をしません。

request-ejb.parallel.count=CTM **がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数 〜＜数字＞** ((1 − 127))<<1>>

CTM がアプリケーションを呼び出すために用意するスレッド数を指定します。request-ejb.ctm プロパティで true を指定している場合だけ有効になります。なお，request-ejb.instance.maximum プロパティで指定した値以下の値を指定してください。

request-ejb.optional.name= **標準の同期受付（SessionBean）の別名 〜＜英数字，アンダーライン（_），ピリオド（.），およびスラッシュ（/）＞** ((1 **≦文字列長≦** 255))

標準の同期受付（SessionBean）の別名を指定します。このプロパティは，JavaVM のシステムプロパティで ejbserver.cui.optionalname.enabled が true に設定されている場合だけ有効になります。ejbserver.cui.optionalname.enabled については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (サーバ定義)」の「5.4 usrconf.properties（サーバ管理コマンド用システムプロパティファイル）」を参照してください。なお，次の名前を指定した場合，リクエスト受付の起動に失敗します。

- 次の値と重複した名前（起動状態のもの）
  - サービスアダプタのサービス ID
  - ビジネスプロセスのサービス ID
  - ユーザ定義受付の受付 ID
  - そのほか，J2EE アプリケーションの optional-name の指定値など
- "HITACHI_EJB" で始まる名前
- 名前の先頭または末尾に，スラッシュ（/）またはピリオド（.）を指定した名前
- スラッシュ（/）だけ，またはピリオド（.）だけの名前
- スラッシュ（/）が連続している名前
- スラッシュ（/）およびピリオド（.）が連続している名前

また，文字列の前後に空白または改行がある場合は，取り除かれて設定されます。文字列の途中に空白，改行がある場合はエラーになります。

request-soap.instance.minimum= **標準の同期受付（**Web **サービス・**SOAP1.1**）の最小同時実行数　～＜数字＞** ((0**，または** 1 － request-soap.instance.maximum **プロパティでの設定値**))<<request-soap.instance.maximum **プロパティでの設定値** >>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.1）の最小同時実行数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-soap プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

request-soap.instance.maximum= **標準の同期受付（**Web **サービス・**SOAP1.1**）の最大同時実行数　～＜数字＞** ((1 － 1024))<<10>>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.1）の最大同時実行数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-soap プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

request-soap.exclusive.threads= **標準の同期受付（**Web **サービス・**SOAP1.1**）の占有スレッド数　～＜数字＞** ((0 － 1024))<<0>>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.1）の占有スレッド数を指定します。最大同時実行数（request-soap.instance.maximum）を超えない範囲で値を指定してください。0 を指定した場合，スレッドは占有されません。

なお，この指定値は WAR の属性 thread-control-exclusive-threads に設定されます。このため，Web コンテナ全体の最大同時実行スレッド数や最大接続数などの値を考慮して指定する必要があります。

request-soap.queue-size= **標準の同期受付（**Web **サービス・**SOAP1.1**）の実行待ちキューのサイズ　～＜数字＞** ((0 － 2147483647))<<8192>>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.1）の実行待ちキューのサイズを指定します。

request-soap1_2.instance.minimum= **標準の同期受付（**Web **サービス・**SOAP1.2**）の最小同時実行数　～＜数字＞** ((0**，または** 1 － request-soap1_2.instance.maximum **プロパティでの設定値**))<<request-soap1_2.instance.maximum **プロパティでの設定値** >>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.2）の最小同時実行数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-soap プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

request-soap1_2.instance.maximum= **標準の同期受付（**Web **サービス・**SOAP1.2**）の最大同時実行数　～＜数字＞** ((1 － 1024))<<10>>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.2）の最大同時実行数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-soap プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

request-soap1_2.exclusive.threads= **標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.2）の占有スレッド数　～＜数字＞** ((0 － 1024))<<0>>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.2）の占有スレッド数を指定します。最大同時実行数（request-soap1_2.instance.maximum）を超えない範囲で値を指定してください。0 を指定した場合，スレッドは占有されません。

なお，この指定値は WAR の属性 thread-control-exclusive-threads に設定されます。このため，Web コンテナ全体の最大同時実行スレッド数や最大接続数などの値を考慮して指定する必要があります。

request-soap1_2.queue-size= **標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.2）の実行待ちキューのサイズ　～＜数字＞** ((0 － 2147483647))<<8192>>

プール内の標準の同期受付（Web サービス・SOAP1.2）の実行待ちキューのサイズを指定します。

request-jms.instance.maximum= **標準の非同期受付（MDB（WS-R））のインスタンス最大数　～＜数字＞** ((1 － 1024))<<10>>

プール内の標準の非同期受付（MDB（WS-R））のインスタンス最大数を指定します。HCSC サーバセットアップ定義ファイルの request-jms プロパティで ON を指定している場合だけ有効になります。

receptionstop-monitor-timer= **受付終了タイムアウト時間　～＜数字＞** ((0 － 600))<<0>>

標準受付，および HCSC サーバ転送用受付サービス停止処理のタイムアウト時間を秒単位で指定します。0 を指定した場合は，タイムアウトしません。

(5) **サービスアダプタ関連**

soapfault-targetnamespace-filepath=SOAP Fault **動作定義ファイルの絶対パス～＜文字列＞**

SOAP Fault 動作定義ファイルを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。このプロパティは，Web サービスのサービスアダプタで，Web サービスからの SOAP Fault をすべてユーザ定義例外として扱う場合に指定します。

(6) **データ変換関連**

formatdef-maxcache-num= **フォーマット定義をキャッシュできる数　～＜数字＞** ((1 － 2147483647))<<16>>

フォーマット定義をキャッシュできる数を指定します。HCSC サーバで使用するフォーマット定義は，次に示す数の総和になります。

- それぞれのビジネスプロセスで定義している全メッセージ型（XML）変数の数
- それぞれのビジネスプロセスで定義している全メッセージ型（non-XML）変数の数

- telegram-validation を有効にした場合，全サービスアダプタの数
- データ変換を行っているカスタム受付，およびサービスアダプタの数の 2 倍

transformdef-maxcache-num= **サーバ単位にデータ変換定義をキャッシュできる数　～＜数字＞** ((1 － 2147483647))<<16>>

データ変換定義をキャッシュできる数を指定します。

xmltelegram-maxcache-num=XML **電文をキャッシュできる数　～＜数字＞** ((0 － 2147483647))<<0>>

XML 電文オブジェクトをキャッシュできる数を指定します。キャッシュされた XML 電文オブジェクトが再利用されることによって，同じ形式の XML 電文の処理時間を短縮できます。XML 電文が再利用されるためには，次に示す値以上の数を指定します。

（アダプタ・ビジネスプロセスのデータ変換設定数）＋（ビジネスプロセスのパス操作設定数）

0 を指定した場合は，キャッシュされません。

なお，要素数の少ない XML 電文の場合，処理時間が遅くなることがあります。

telegram-validation={ON ｜ OFF}　～ <<OFF>>

指定した電文フォーマットに対して，送受信する電文が適切かどうかを検証します（データ検証機能）。

- ON
  検証します。
- OFF
  検証しません。

データ検証機能については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 機能解説」の「7.2　データ検証機能」を参照してください。

xmltelegram-namespace-complement={ON ｜ OFF}　～ <<OFF>>

HCSC サーバ内を流れる XML 電文に対して，XML 電文内に存在する属性値に指定した名前空間接頭辞に対応する名前空間宣言を補完するかどうかを指定します。

- ON
  名前空間接頭辞に対応する名前空間宣言を補完します。
- OFF
  名前空間接頭辞に対応する名前空間宣言を補完しません。

HCSC サーバ内を流れるユーザ電文で，XML スキーマの属性値の型に QName 型を使用する場合は，ON を指定してください。ただし，ON を指定すると，OFF を指定した場合よりも電文サイズが大きくなるため注意してください。

詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 機能解説」の「5.5　XML 電文内の属性値に指定した名前空間接頭辞の補完」を参照してください。

telegram-undefined-character-code={ERROR | IGNORE | REPLACE}　～ <<ERROR>>

バイナリデータの文字コード変換処理で，未定義の文字コードが検出された場合の動作を指定します。

- ERROR
  検出時にエラーとなり処理を終了します。
- IGNORE
  未定義部分の文字コードを無視して処理を続行します。
- REPLACE
  未定義部分の文字コードを空白の文字コードに置換して処理を継続します。

telegram-notfound-soapheader={ERROR ｜ IGNORE}　～ <<IGNORE>>

受付定義ファイル，サービスアダプタ定義ファイル，またはビジネスプロセス定義ファイルに対して，送受信する電文に指定された SOAP ヘッダが存在しない場合に処理を継続するかどうかを指定します。

- ERROR
  定義ファイルに指定された SOAP ヘッダが存在しない場合，エラーメッセージを出力して処理を中断します。
- IGNORE
  定義ファイルに指定された SOAP ヘッダが存在しない場合，無視して処理を続行します。

validation-activity={ON ｜ OFF}　～ <<ON>>

検証アクティビティでメッセージ型変数（XML）を検証するかどうかを定義します。HCSC サーバ内すべてのビジネスプロセスの検証アクティビティが対象となります。

- ON
  検証アクティビティに指定したメッセージ型変数（XML）を検証します。
- OFF
  検証アクティビティに指定したメッセージ型変数（XML）を検証しません。

(7)J2EE **関連**

j2ee-stopapp-timeout=J2EE **アプリケーション停止タイムアウト時間　～＜数字＞** ((0 － 2147483647))<<60>>

リクエスト受付停止，ビジネスプロセスまたはサービスアダプタの停止コマンドで発行する J2EE アプリケーションが停止した際のタイムアウト時間を秒単位で指定します。リクエスト処理中の場合，指定された時間だけ待機します。

タイムアウト発生後，リクエスト受付，ビジネスプロセス，サービスアダプタを強制停

止します。

startcsc-timeout=J2EE **サーバ起動タイムアウト時間　～＜数字＞** ((1 － 2147483647))<<180>>

HCSC サーバ起動コマンドで，J2EE サーバ起動を監視するタイムアウト値を秒単位で指定します。HCSC サーバ起動コマンドでタイムアウトが発生しても，J2EE サーバの起動処理は継続されます。

stopcsc-timeout=J2EE **サーバ停止タイムアウト時間　～＜数字＞** ((1 － 2147483647))<<180>>

HCSC サーバ停止コマンドで，J2EE サーバ停止を監視するタイムアウト値を秒単位で指定します。HCSC サーバ停止コマンドでタイムアウトが発生しても，J2EE サーバの停止処理は継続されます。

(8) **コマンドの通信のタイムアウト時間の監視**

csc-command-timeout= **コマンドタイムアウト時間　～＜数字＞** ((0 － 86400))<<300>>

次に示すコマンドの通信のタイムアウト時間を秒単位で指定します。

- csmdeletehistory コマンド
- csmlshistory コマンド
- csmlslocation コマンド
- csmlsreception コマンド
- csmlsstate コマンド

0 を指定した場合は，タイムアウトしません。

(9)Cookie **情報の引き継ぎ**

cookie-parsing={ON ｜ OFF}　～ <<OFF>>

Cookie 情報を引き継ぐかどうかを指定します。

- ON
  Cookie 情報を引き継ぎます。
- OFF
  Cookie 情報を引き継ぎません。

(10) **フォルダ関連**

work-folder= **作業フォルダルートの絶対パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞** <<<Cosminexus **インストールディレクトリ** >¥¥CSC¥¥spool¥¥ftp¥¥work>>

作業フォルダルートを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。存在しないディレクトリを指定した場合は，HCSC サーバの起動に失敗します。

common-folder-< **共通フォルダ定義名** >= **共通フォルダの絶対パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞** ((1 **≦文字列長≦** 64))<<<Cosminexus **インストールディレクトリ** >¥¥CSC¥¥spool¥¥ftp¥¥com>>

共通フォルダ定義名を定義し，共通フォルダの絶対パスを指定します。

なお，共通フォルダ定義名に指定できる値は半角英数字とアンダーライン（_）です。

ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。あらかじめ common-folder-< 共通フォルダ定義名 > ディレクトリを用意する必要があります。存在しないディレクトリを指定した場合は，HCSC サーバの起動に失敗します。

指定を省略した場合の共通フォルダ定義名は「default」になります。

共通フォルダ定義名が異なる場合は，同じディレクトリを指定できます。

(11)DB **アダプタ関連**

dba-separate-transaction={true ｜ false}　～ <<false>>

DB アダプタのトランザクションをビジネスプロセスとは別に開始するかどうかを指定します。

ビジネスプロセスとは別に DB アダプタのトランザクションを開始する場合，DB アダプタのアプリケーション統合属性ファイルの trans-attribute 要素指定値を Required から RequiresNew に変更してください。

- true
  ビジネスプロセスとは別に DB アダプタのトランザクションを開始します。
- false
  ビジネスプロセスと同一のトランザクションを DB アダプタでも使用します。

記述例

サンプルファイルを次に示します。

```
historyrecord=ON
historyrecord-data=ON
historyrecord-binarylength=FULL
methodtrace-filepath=c:¥¥TMP
requesttrace-filepath=c:¥¥TMP
telegramtrace-filepath=c:¥¥TMP
methodtrace-filenum=8
requesttrace-filenum=4
telegramtrace-filenum=4
methodtrace-filesize=2097152
requesttrace-filesize=2097152
telegramtrace-filesize=2097152
methodtrace-level=3
requesttrace=ON
telegramtrace=ON
bptrace-level=10
bptrace-filenum=16
bptrace-filesize=2097152
dab-bufsize=64
jdbc-bufsize=16
jdbc-longvarbinary=REAL
jdbc-maxbinarysize=64000
jdbc-longvarbinary-truncerror=TRUE
request-ejb.instance.minimum=10
request-ejb.instance.maximum=10
request-ejb.ctm=false
request-ejb.parallel.count=1
request-soap.instance.minimum=10
request-soap.instance.maximum=10
request-jms.instance.maximum=10
receptionstop-monitor-timer=0
```

使用方法

cscsvconfig コマンドの -propfile オプションの引数に HCSC サーバランタイム定義ファイルを指定します。詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「3.1.4　HCSC サーバの定義情報を設定する」を参照してください。

ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル

形式

```
user-defined-reception-soap.threads.maximum=最大同時実行数
user-defined-reception-soap.exclusive.threads=占有スレッド数
user-defined-reception-soap.queue-size=実行待ちキューサイズ
```

機能

ユーザ定義受付の情報を設定します。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥templates¥cscurcptnconfig.properties
```

設定できるパラメタ

user-defined-reception-soap.threads.maximum= **最大同時実行数　～<数字>** ((1 － 1024))<<10>>

ユーザ定義受付の最大同時実行数を指定します。占有スレッド数以上の値を指定する必要があります。

user-defined-reception-soap.exclusive.threads= **占有スレッド数　～<数字>** ((0 － 1024))<<0>>

ユーザ定義受付の占有スレッド数を指定します。最大実行数を超えない範囲で値を指定する必要があります。0 を指定した場合，スレッドは占有されません。

なお，この指定値は WAR の属性 thread-control-exclusive-threads に設定されます。このため，Web コンテナ全体の最大同時実行スレッド数や最大接続数などの値を考慮して指定する必要があります。

user-defined-reception-soap.queue-size= **実行待ちキューサイズ　～<数字>** ((0 － 2147483647))<<8192>>

ユーザ定義受付の実行待ちキューのサイズを指定します。

使用方法

ユーザ定義受付ランタイム定義ファイルは，csccompoconfig コマンドの -propfile オプションの引数に指定します。詳細については，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド」の「3.1.15　ユーザ定義受付の定義情報を設定する」を参照してください。

HCSC-Manager 定義ファイル

形式

```
cscmng.repository.root=リポジトリのルートディレクトリパス

cscmng.log.dir=ログ出力先ディレクトリパス
cscmng.log.<チャネル名>.filesize=ログファイルサイズ
cscmng.log.<チャネル名>.filenum=ログファイル面数

cscmng.manager.<マネージャ識別名>.timeout=読み込みタイムアウト値

cscmng.pireexec.response.dir=応答電文格納ディレクトリパス
cscmng.pireexec.response.encoding=応答電文格納文字コード

cscmng.server.<HCSCサーバ名>.system=論理サーバ名

cscmng.repctl.export.dir=エクスポートファイルの出力先ディレクトリパス

cscmng.envbackup.dir=環境バックアップの出力先ディレクトリパス
cscmng.envbackup.dir.envrestore=リストア前の環境バックアップの出力先ディレクトリパス
cscmng.envbackup.dir.import=インポート前の環境バックアップの出力先ディレクトリパス
cscmng.envbackup.autoget={ON｜OFF}
cscmng.envbackup.autoget.off={envrestore｜import｜envrestore,import}

cscmng.server.<HCSCサーバ名>.hws.svstop={normal｜wait}
cscmng.server.<HCSCサーバ名>.hws.svstop.timeout=Hitachi Web Server計画停止時のタイムアウト値
```

機能

HCSC-Manager の動作に必要となる情報を設定します。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥cscmng.properties
```

設定できるパラメタ

(1) リポジトリ設定

cscmng.repository.root= リポジトリのルートディレクトリパス　～< 最大 100 バイトの文字列 ><<<Cosminexus インストールディレクトリ >¥CSC¥repository>>

リポジトリのルートディレクトリを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。相対パスを指定した場合，エラーになる場合があります。存在しないディレクトリを指定した場合，および指定した文字列が 100 バイトを超える場合はエラーになります。そのため，<Cosminexus インストールディレクトリ > が 84 バイトを超える場合は，このプロパティを明示的に指定してください。

なお，1 台のマシンに複数の運用・実行環境を構築（環境変数 CSCMNG_HOME を設定）している場合，省略値は次のようになります。

```
%CSCMNG_HOME%¥repository
```

(2) ログ設定

cscmng.log.dir= **ログ出力先ディレクトリパス　～ < 最大** 100 **バイトの文字列** ><<<Cosminexus **インストールディレクトリ** >¥CSC¥log¥manager>>

ログ出力先ディレクトリを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。相対パスを指定した場合，エラーになる場合があります。存在しないディレクトリを指定した場合，および指定した文字列が 100 バイトを超える場合はエラーになります。そのため，<Cosminexus インストールディレクトリ > が 84 バイトを超える場合は，このプロパティを明示的に指定してください。

なお 1 台のマシンに複数の運用・実行環境を構築（環境変数 CSCMNG_HOME を設定）している場合，省略値は次のようになります。

```
%CSCMNG_HOME%¥log¥manager
```

cscmng.log.< **チャネル名** >.filesize= **ログファイルサイズ　～＜数字＞** ((4096 － 16777216))<<1048576>>　**チャネルが** maintenance **の場合は＜数字＞** ((4096 － 16777216))<<4194304>>

ログファイル一つ当たりの上限サイズをバイト単位で指定します。不正な値を指定した場合は，省略値が指定されます。チャネル名には，次のどれか一つを指定します。

- message：メッセージログ
- exception：例外ログ
- maintenance：メンテナンスログ

cscmng.log.< **チャネル名** >.filenum= **ログファイル面数　～＜数字＞** ((1 － 16))<<2>>

ログファイル面数を指定します。不正な値を指定した場合は，省略値が指定されます。チャネル名には，次のどれか一つを指定します。

- message：メッセージログ
- exception：例外ログ
- maintenance：メンテナンスログ

(3)Cosminexus-manager 設定

cscmng.manager. **＜マネージャ識別名＞** .timeout= **読み込みタイムアウト値　～＜数字＞** ((0 － 86400))<<0>>

Cosminexus manager との接続の読み込みタイムアウトを秒単位で指定します。0 を指

定した場合はタイムアウトしません。不正な値を指定した場合は，省略値が指定されます。マネージャ識別名は HCSC サーバ構成定義ファイルに指定した Cosminexus Manager 名を設定してください。

(4) **プロセスインスタンス再実行設定**

cscmng.pireexec.response.dir= **応答電文格納ディレクトリパス** ((1 － 100 **バイト**))

プロセスインスタンス再実行で応答電文を受け取った場合の応答電文格納ディレクトリを絶対パスで指定します。ディレクトリ区切りは「/」または「¥¥」を使用します。相対パスを指定した場合，エラーになる場合があります。指定しない場合は，応答電文が格納されません。存在しないパスを指定した場合，エラーになります。また，パスを含むファイル長が OS の MAX_PATH を超える場合はファイルを作成できません。

cscmng.pireexec.response.encoding= **応答電文格納文字コード** ～ <<UTF-8>>

応答電文格納時の出力文字コードを，JavaVM がサポートしているエンコーディング名で指定します。存在しない文字コードを指定した場合，省略値が指定されます。

(5)HCSC **サーバ運用設定**

cscmng.server.<HCSC **サーバ名** >.system= **論理サーバ名**

HCSC システムの管理下におく論理サーバを指定します。管理下におくと，論理サーバの各種運用（HCSC サーバとの一括起動・停止，および状態の参照）ができるようになります。

論理サーバ名は，「論理サーバ名 , 論理サーバ名 ,…」のようにコンマ（,）区切りで指定します。コンマ前後の半角スペースやタブ文字は無視されます。論理サーバの起動停止順序は，Cosminexus Manager で設定した順序になります。HCSC サーバも同時に起動する場合は，J2EE サーバの起動順序になります。

（指定例）

HCSC サーバ（HCSC）上に，論理パフォーマンストレーサ（PRF），および論理 Web サーバ（WebServer）を同時に起動停止する場合
cscmng.server.HCSC.system=PRF,WebServer

(6) **リポジトリエクスポート**

cscmng.repctl.export.dir= **エクスポートファイルの出力先ディレクトリパス** ～ ((1 － 100 **バイト**))

cscrepctl コマンドでリポジトリをエクスポートする場合，エクスポートファイルの出力先ディレクトリを指定します。

(7) 環境バックアップ

cscmng.envbackup.dir= **環境バックアップの出力先ディレクトリパス　～** ((1 － 100 **バイト**))<< **カレントディレクトリ** >>

cscenvbackupコマンドで環境をバックアップする場合，環境バックアップファイルの出力先ディレクトリを指定します。

cscmng.envbackup.dir.envrestore= **リストア前の環境バックアップの出力先ディレクトリパス　～** ((1 － 100 **バイト**))

cscenvrestore コマンドで環境をリストアする場合，リストア前の環境バックアップファイルの出力先ディレクトリを指定します。このパラメタの指定は，cscmng.envbackup.dir パラメタの指定よりも優先されます。このパラメタを省略した場合，リストア前の環境バックアップファイルは，cscmng.envbackup.dir パラメタで指定したディレクトリに出力されます。cscmng.envbackup.dir パラメタも省略した場合は，次のディレクトリに出力されます。

```
<Cosminexusインストールディレクトリ>¥CSC¥spool¥manager¥
```

なお，1 台のマシンに複数の運用・実行環境を構築（環境変数 CSCMNG_HOME を設定）している場合，省略値は次のようになります。

```
%CSCMNG_HOME%¥spool¥manager
```

cscmng.envbackup.dir.import= **インポート前の環境バックアップの出力先ディレクトリパス　～** ((1 － 100 **バイト**))

cscrepctl コマンドで -import オプションを指定してリポジトリをインポートする場合，インポート前の環境バックアップファイルの出力先ディレクトリを指定します。このパラメタの指定は，cscmng.envbackup.dir パラメタの指定よりも優先されます。このパラメタを省略した場合，インポート前の環境バックアップファイルは，cscmng.envbackup.dir パラメタで指定したディレクトリに出力されます。cscmng.envbackup.dir パラメタも省略した場合は，次のディレクトリに出力されます。

```
<Cosminexusインストールディレクトリ>¥CSC¥spool¥manager
```

なお，1 台のマシンに複数の運用・実行環境を構築（環境変数 CSCMNG_HOME を設定）している場合，省略値は次のようになります。

```
%CSCMNG_HOME%¥spool¥manager
```

cscmng.envbackup.autoget={ON ｜ OFF}　～ <<ON>>

自動でバックアップするかどうかを指定します。

- ON
  自動でバックアップします。
- OFF
  自動でバックアップしません。

cscmng.envbackup.autoget.off={envrestore ｜ import ｜ envrestore,import}

環境をリストアする際，またはリポジトリをインポートする際に，自動バックアップをしない場合に指定します。環境のリストア，およびリポジトリのインポートの両方で自動バックアップをしない場合は，envrestore と import をコンマ（,）区切りで指定します。コンマ前後のスペース文字は無視されます。

- envrestore
  cscenvrestore コマンドを実行して環境をリストアした場合に，自動バックアップをしません。
- import
  cscrepctl コマンドで -import オプションを指定してリポジトリをインポートした場合に，自動バックアップをしません。

（指定例）

- 環境をリストアする際に自動バックアップをしない場合
  cscmng.envbackup.autoget.off=envrestore
- リポジトリをインポートする際に自動バックアップをしない場合
  cscmng.envbackup.autoget.off=import
- 環境をリストアする際，およびリポジトリをインポートする際に自動バックアップをしない場合
  cscmng.envbackup.autoget.off=envrestore,import

ポイント

cscmng.envbackup.autoget パラメタと cscmng.envbackup.autoget.off パラメタの指定の組み合わせによって，環境をリストアする際，またはリポジトリをインポートする際に，自動バックアップをするかどうかが異なります。cscmng.envbackup.autoget パラメタと cscmng.envbackup.autoget.off パラメタの関係を次の表に示します。

表 5-2 cscmng.envbackup.autoget パラメタと cscmng.envbackup.autoget.off パラメタの関係

cscmng.envbackup.autoget パラメタの指定	cscmng.envbackup.autoget.off パラメタの指定	環境のリストア時	リポジトリのインポート時
なし	なし	○	○
なし	envrestore	×	○
なし	import	○	×
なし	envrestore,import	×	×

cscmng.envbackup.autoget パラメタの指定	cscmng.envbackup.autoget.off パラメタの指定	環境のリストア時	リポジトリのインポート時
ON	なし	○	○
ON	envrestore	×	○
ON	import	○	×
ON	envrestore,import	×	×
OFF	なし	×	×
OFF	envrestore	×	×
OFF	import	×	×
OFF	envrestore,import	×	×

（凡例）
○：自動バックアップをします。
×：自動バックアップをしません。

---

(8)Hitachi Web Server **運用設定**

cscmng.server.<HCSC **サーバ名** >.hws.svstop={normal ｜ wait}　～ <<wait>>

Hitachi Web Server 停止時の動作を指定します。不正な値を指定した場合は，省略値が指定されます。このパラメタは，論理サーバを一括で停止する場合，Hitachi Web Server の論理サーバを停止する場合，および運用環境の画面から HCSC サーバを停止する場合に有効になります。

- normal
  通常停止します。
- wait
  計画停止します。

cscmng.server.<HCSC **サーバ名** >.hws.svstop.timeout=Hitachi Web Server **計画停止時のタイムアウト値　～<数字>** ((0 **以下，または** 60 － 1800))<<300>>

Hitachi Web Server 計画停止時のタイムアウトを秒単位で指定します。不正な値を指定した場合は，省略値が指定されます。0 以下の値を指定した場合は，Management Server に設定されている停止監視時間が指定されます。0 以下の値を指定した場合に，Management Server に設定されている停止監視時間が 0 のときはタイムアウトしません。停止監視時間については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ 運用管理ポータル操作ガイド」の「11.12.1　Web サーバの起動／停止の設定」を参照してください。このパラメタは，論理サーバを一括で停止する場合，Hitachi Web Server の論理サーバを停止する場合，および運用環境の画面から HCSC サーバを停止する場合に有効になります。

なお，HWSGracefulStopTimeout ディレクティブに 0 以外の値を指定している場合は，

HWSGracefulStopTimeout ディレクティブに指定した値でもタイムアウト監視します。HWSGracefulStopTimeout ディレクティブについては，マニュアル「Hitachi Web Server」を参照してください。

記述例

```
cscmng.repository.root=C:/Program Files/Hitachi/Cosminexus/CSC/
repository

cscmng.log.dir=C:/Program Files/Hitachi/Cosminexus/CSC/log/manager
cscmng.log.message.filesize=1048576
cscmng.log.message.filenum=2
cscmng.log.exception.filesize=1048576
cscmng.log.exception.filenum=2
cscmng.log.maintenance.filesize=4194304
cscmng.log.maintenance.filenum=2

cscmng.manager.node1.timeout=180
cscmng.manager.node2.timeout=180

cscmng.pireexec.response.dir=C:/TMP
cscmng.pireexec.response.encoding=UTF-8

cscmng.server.HCSC.system=PRF, WebServer

cscmng.repctl.export.dir=C:/TMP/autoexport

cscmng.envbackup.dir=C:/TMP/enbbackup
cscmng.envbackup.dir.envrestore=C:/TMP/envrestore
cscmng.envbackup.dir.import=C:/TMP/import
cscmng.envbackup.autoget=ON
cscmng.envbackup.autoget.off=envrestore

cscmng.server.HCSC.hws.svstop=wait
cscmng.server.HCSC.hws.svstop.timeout=300
```

注意事項

- HCSC-Manager 定義ファイルは，画面およびコマンドのプロセス起動時に 1 度だけ読み込みます。そのため，HCSC-Manager 定義ファイルを変更した場合，変更した設定値は次にプロセスを起動した際に反映されます。
- HCSC サーバをセットアップしたあと，アンセットアップするまでは cscmng.repository.root パラメタの値を変更しないでください。変更した場合，セットアップ済みの HCSC サーバに対する操作ができなくなるおそれがあります。
- HWSGracefulStopTimeout ディレクティブは，HCSC-Manager が自動的に設定するディレクティブです。セットアップウィザードで構築した環境の場合，HWSGracefulStopTimeout ディレクティブの設定は運用管理ポータルから変更できません。Hitachi Web Server 定義ファイル（httpsd.conf）で HWSGracefulStopTimeout ディレクティブの設定を直接書き換えた場合も，設定情報を配布するときに設定が元に戻るため注意してください。

サービス情報変更定義ファイル

形式

各サービスに対応する情報が，キーの昇順でソートされて出力されます。

(1)Web サービス（SOAP1.1 モード）用サービスアダプタのサービス情報

```
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.url=サービス部品の呼び出しに使用するURL
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.application.socket_read_timeout=
読み込みタイムアウト値
<クラスタ名>.<サービス
ID>.WebService.c4web.application.socket_connect_timeout=接続タイムアウト値
<クラスタ名>.<サービス
ID>.WebService.c4web.application.socket_write_timeout=書き込みタイムアウト
値
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.application.proxy_host=プロキシ
サーバのホスト名
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.application.non_proxy_hosts=プロ
キシサーバを使用しないホスト名
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.application.proxy_port=プロキシ
サーバのポート番号
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.application.proxy_user=プロキシ
サーバのユーザ
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.application.proxy_password=プロキ
シサーバのパスワード
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.c4web.common.prf_trace_level=性能解析ト
レース出力オプション
<クラスタ名>.<サービス
ID>.WebService.c4web.common.receive_max_soap_envelope_size=受信
SOAPEnvelopeの最大バイト数
<クラスタ名>.<サービス
ID>.WebService.c4web.common.send_max_soap_envelope_size=送信SOAPEnvelope
の最大バイト数
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.basic_authentication_use={true｜false}
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.basic_authentication_id=ベーシック認証の
ユーザ
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.basic_authentication_pass=ベーシック認証
のパスワード
<クラスタ名>.<サービス
ID>.WebService.c4web.application.app_maintainsession={true｜false}
```

(2)Web サービス（SOAP1.1/1.2 併用モード）用サービスアダプタのサービス情報

```
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.url=サービス部品の呼び出しに使用するURL
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.com.cosminexus.csc.request.timeout=読
み込みタイムアウト値
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.com.cosminexus.csc.connect.timeout=接
続タイムアウト値
<クラスタ名>.<サービス
ID>.WebService.com.cosminexus.csc.session.maintain={true ｜ false}
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.basic_authentication_use={true｜false}
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.basic_authentication_id=ベーシック認証の
ユーザ
<クラスタ名>.<サービスID>.WebService.basic_authentication_pass=ベーシック認証
のパスワード
```

(3)SessionBean 用サービスアダプタのサービス情報

```
<クラスタ名>.<サービスID>.SessionBean.url=サービス部品の呼び出しに使用するURL
<クラスタ名>.<サービスID>.SessionBean.lookup_name=ルックアップ名
<クラスタ名>.<サービスID>.SessionBean.c4web.application.ejb_timeout=呼び出し
タイムアウト値
<クラスタ名>.<サービスID>.SessionBean.c4web.common.prf_trace_level=性能解析
トレース出力オプション
```

(4)MDB（WS-R）用サービスアダプタのサービス情報

```
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_WSR.queue_name=サービスアダプタがメッセージを送信す
るキュー名
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_WSR.local_call={true｜false}
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_WSR.url=転送先のキュー間転送用Webアプリケーションの
URL
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_WSR.max_message_num=転送キューが保持できるメッセー
ジの最大数
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_WSR.qos_in_order={true｜false}
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_WSR.rdarea_name=転送キュー作成先RDエリア名
```

(5)MDB（DB キュー）用サービスアダプタのサービス情報

```
<クラスタ名>.<サービスID>.MDB_DBQ.queue_name=サービス部品に関連づけられている
キュー名
```

機能

サービスアダプタのサービス情報の変更を設定します。

ファイルの格納先

cscsvcctl コマンドの -getfile オプションに指定したパスに格納されます。

設定できるパラメタ

(1)Web サービス（SOAP1.1 モード）用サービスアダプタのサービス情報

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.url= **サービス部品の呼び出しに使用する** URL

サービス部品の呼び出しに使用する URL を指定します。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.socket_read_timeout= **読み込みタイムアウト値**

サービスアダプタのソケットの読み込みタイムアウト値（単位：秒）を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の

「c4web.application.socket_read_timeout」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.socket_connect_timeout= 接続タイムアウト値

サービスアダプタのソケットの接続タイムアウト値（単位：秒）を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.socket_connect_timeout」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.socket_write_timeout= 書き込みタイムアウト値

サービスアダプタのソケットの書き込みタイムアウト値（単位：秒）を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.socket_write_timeout」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.proxy_host= プロキシサーバのホスト名

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.proxy_host」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.non_proxy_hosts= プロキシサーバを使用しないホスト名

プロキシサーバを使用しない場合のホスト名または IP アドレス群を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.non_proxy_hosts」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.proxy_port= プロキシサーバのポート番号

プロキシサーバのポート番号を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3 クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.proxy_port」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.proxy_user= プロキシサーバのユーザ

プロキシサーバの認証ユーザ ID を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3

クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.proxy_user」の説明を参照してください。

<クラスタ名>.<サービス ID>.WebService.c4web.application.proxy_password=プロキシサーバのパスワード

プロキシサーバの認証ユーザ ID に対応するパスワードを指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.proxy_password」の説明を参照してください。

<クラスタ名>.<サービス ID>.WebService.c4web.common.prf_trace_level=性能解析トレース出力オプション

性能解析トレースの出力オプションを指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3 クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.common.prf_trace_level」の説明を参照してください。

<クラスタ名>.<サービス ID>.WebService.c4web.common.receive_max_soap_envelope_size=受信 SOAPEnvelope の最大バイト数

受信できる SOAP エンベロープの最大バイト数を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.common.receive_max_soap_envelope_size」の説明を参照してください。

<クラスタ名>.<サービス ID>.WebService.c4web.common.send_max_soap_envelope_size=送信 SOAPEnvelope の最大バイト数

送信できる SOAP エンベロープの最大バイト数を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3　クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.common.send_max_soap_envelope_size」の説明を参照してください。

<クラスタ名>.<サービス ID>.WebService.basic_authentication_use={true | false}

サービスアダプタがベーシック認証を使用するかどうかを指定します。ベーシック認証を設定する場合は，ベーシック認証を使用する，使用しないにかかわらず必ず指定します。

- true
  使用します。
- false

使用しません。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.basic_authentication_id= **ベーシック認証のユーザ　～ < 半角英数字，半角記号（**ASCII **コードの「**0x21**」～「**0x7E**」），および半角スペース（**ASCII **コードの「**0x20**」）**>((1 **文字以上**))

ベーシック認証のユーザ ID を指定します。ベーシック認証を設定する場合は，ベーシック認証を使用する，使用しないにかかわらず必ず指定します。

値の先頭に半角スペース（ASCII コードの「0x20」）を指定する場合は，半角スペースの前に「¥」と指定してください。また，値に「¥」を指定する場合は，「¥¥」と指定してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.basic_authentication_pass= **ベーシック認証のパスワード　～ < 半角英数字，半角記号（**ASCII **コードの「**0x21**」～「**0x7E**」），および半角スペース（**ASCII **コードの「**0x20**」）**>((1 ～ 40 **文字**))

ベーシック認証のパスワードを指定します。ベーシック認証を設定する場合は，ベーシック認証を使用する，使用しないにかかわらず必ず指定します。

値の先頭に半角スペース（ASCII コードの「0x20」）を指定する場合は，半角スペースの前に「¥」と指定してください。また，値に「¥」を指定する場合は，「¥¥」と指定してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.c4web.application.app_maintainsession={true ｜ false}

HTTP セッションの維持の有無を指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3 クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.application.app_maintainsession」の説明を参照してください。

(2)Web **サービス（**SOAP1.1/1.2 **併用モード）用サービスアダプタのサービス情報**

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.url= **サービス部品の呼び出しに使用する** URL

サービス部品の呼び出しに使用する URL を指定します。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.com.cosminexus.csc.request.timeout= **読み込みタイムアウト値**

サービスアダプタのソケットの読み込みタイムアウト値（単位：秒）を指定します。指定する値については，「クライアント定義ファイル」の設定項目の「com.cosminexus.csc.request.timeout」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.WebService.com.cosminexus.csc.connect.timeout= **接続タイムアウト値**

サービスアダプタのソケットの接続タイムアウト値（単位：秒）を指定します。指定す

る値については,「クライアント定義ファイル」の設定項目の「com.cosminexus.csc.connect.timeout」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. WebService.com.cosminexus.csc.session.maintain={true | false}

HTTP セッションの維持の有無を指定します。指定する値については,「クライアント定義ファイル」の設定項目の「com.cosminexus.csc.session.maintain」の説明を参照してください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. WebService.basic_authentication_use={true ｜ false}

サービスアダプタ定義でのベーシック認証の使用可否チェックを指定します。

- true
  使用します。
- false
  使用しません。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. WebService.basic_authentication_id= **ベーシック認証のユーザ**

サービスアダプタ定義でのベーシック認証のユーザ名を指定します。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. WebService.basic_authentication_pass= **ベーシック認証のパスワード**

サービスアダプタ定義でのベーシック認証のパスワードを指定します。

(3)SessionBean **用サービスアダプタのサービス情報**

< クラスタ名 >.< サービス ID>. SessionBean.url= **サービス部品の呼び出しに使用する** URL

サービス部品の呼び出しに使用する URL を指定します。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. SessionBean.lookup_name= **ルックアップ名**

サービス部品の呼び出しに使用するルックアップ名を指定します。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. SessionBean.c4web.application.ejb_timeout= **呼び出しタイムアウト値**

サービス部品の呼び出しタイムアウト値（単位：秒）を指定します。0 ～ 86,400 の値を指定します。0 を指定した場合はタイムアウトしません。

< クラスタ名 >.< サービス ID>. SessionBean.c4web.common.prf_trace_level= **性能解析トレース出力オプション**

性能解析トレースの出力オプションを指定します。指定する値については，マニュアル「Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引」の「10.3

クライアント定義ファイルの設定」の「c4web.common.prf_trace_level」の説明を参照してください。

(4)MDB（WS-R）用サービスアダプタのサービス情報

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_WSR.queue_name= **サービスアダプタがメッセージを送信するキュー名**

サービスアダプタがメッセージを送信するキュー名を指定します。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_WSR.local_call={true ｜ false}

サービスアダプタがローカルホスト，またはリモートホストのどちらのサービス部品に接続するかを指定します。

- true
  ローカルホストのサービス部品に接続します。
- false
  リモートホストのサービス部品に接続します。

サービス情報変更定義ファイルで設定するパラメタに，すべて正しい値を指定している場合だけ，local_call の値を true から false へ変更できます。なお，local_call の値は，false から true へ変更しないでください。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_WSR.url= **転送先のキュー間転送用** Web **アプリケーションの** URL

サービスアダプタが使用する転送キューのメッセージ転送先を指定します。メッセージ転送先には，転送先のキュー間転送用 Web アプリケーションの URL を指定します。local_call パラメタが false の場合だけ有効になります。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_WSR.max_message_num= **転送キューが保持できるメッセージの最大数　～ < 数字 >**((1 － 65535))

サービスアダプタが使用する転送キューが保持できるメッセージの最大数を指定します。local_call パラメタが false の場合だけ有効になります。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_WSR.qos_in_order={true ｜ false}

サービスアダプタが使用する転送キューがメッセージを正しい順序で転送することを保証するかどうかを指定します。local_call パラメタが false の場合だけ有効になります。

- true
  保証します。
- false
  保証しません。

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_WSR.rdarea_name= 転送キュー作成先 RD エリア名　～ < 半角英数字，アンダーライン（_）および半角スペース（ ）>((30 バイト以内))

サービスアダプタが使用する転送キューの作成先の RD エリア名を指定します。
local_call パラメタが false の場合だけ有効になります。なお，ALL は指定しないでください。

(5)MDB（DB キュー）用サービスアダプタのサービス情報

< クラスタ名 >.< サービス ID>.MDB_DBQ.queue_name= サービス部品に関連づけられているキュー名

サービス部品に関連づけられているキュー名を指定します。

使用方法

- cscsvcctl コマンドの -getfile オプションにファイル名を指定してサービス情報変更定義ファイルを取得します。取得したファイルに変更内容を定義し，cscsvcctl コマンドの -setfile オプションにファイル名を指定して設定します。
- 運用環境で変更していないサービス情報は，パラメタの先頭にコメントを表す「#」が付けられています。サービス情報を変更する場合，該当するパラメタに付けられている「#」を削除してください。
- 運用環境での変更を無効にする場合（開発環境の設定値を有効にする場合）は，パラメタの先頭にコメントを表す「#」を付けてください。

注意事項

- 値の先頭に半角スペース（ASCII コードの「0x20」）を指定する場合は，半角スペースの前に「¥」と指定してください。また，値に「¥」を指定する場合は，「¥¥」と指定してください。
- 値を設定または変更する場合は，Java のプロパティファイル形式として編集してください。
- cscsvcctl コマンドの -getfile オプションで取得したサービス情報に次に示す文字が含まれていた場合は，「¥」を付加した形で出力されます。
  - 半角感嘆符（!）
  - 半角番号記号（#）
  - 半角コロン（:）
  - 半角等号（=）

SOAP Fault 動作定義ファイル

形式

```
[targetNamespaceのURI]
[targetNamespaceのURI]
    :
```

機能

targetNamespace の URI を設定します。targetNamespace の URI は，アダプタが Web サービスから SOAP Fault を受け取った場合に，Fault として扱うかどうかの判別をするために使用されます。設定された内容は HCSC サーバの起動後に有効となります。

指定方法

- targetNamespace の URI を改行で区切って指定します。アダプタの作成に使用する WDSL の targetNamespace の記述をそのまま指定してください。
- targetNamespace に使用できる文字は，ISO-8859-1 文字エンコーディングでの次に示す文字です。
  - 英数字
  - 感嘆符（!）
  - ダブルクォーテーション（"）
  - 番号記号（#）
  - ドル記号（$）
  - パーセント（%）
  - アンパサンド（&）
  - アポストロフィ（'）
  - 始め小括弧（(）
  - 終わり小括弧（)）
  - 正符号（+）
  - コンマ（,）
  - ハイフン（-）
  - ピリオド（.）
  - スラッシュ（/）
  - コロン（:）
  - セミコロン（;）
  - 左アングルブラケット（<）
  - 右アングルブラケット（>）
  - 等号（=）
  - クエスチョンマーク（?）

- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）
- 円マーク（¥）
- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）
- 波ダッシュ（~）

- 行頭に「#」を記述した場合はコメントと扱われます。
- 空行は無視されます。また，行頭および行末の半角スペースとタブも無視されます。
- WSDL に宣言されている targetNamespace 属性値が空文字（値がない）の場合や targetNamespace 属性が定義されていない場合は，「""」（ダブルクォーテーション二つ）を記述してください。

不正な定義がある場合の動作

「指定方法」に示すルールに合わない定義がある場合（ただし，ISO-8859-1 文字エンコーディングの条件に合っていない場合は除く）は，HCSC サーバの起動に失敗します。

次の場合，サービス部品から SOAP Fault が返ってきたときに，正常に動作しないことがあるため注意してください。

- 誤った targetNamespace を指定した場合※
- WSDL の targetNamespace として使用できない文字を指定した場合
- 指定した文字エンコーディング以外を使用した場合

注※

アダプタの作成に使用する WDSL の targetNamespace の記述をそのまま記述してください。「http://www.hitachi.com/」と，「http://w%77w.hitachi.com/」は URI としては同義ですが，別の URI として認識されます。

記述例

```
http://dictionary.com
urn:sample.co.jp:xmlns:wsdl:2007-06
```

cscsetup コマンド定義ファイル

形式

```
owner=Cosminexus Component Container管理者で設定するオーナー
group=Cosminexus Component Container管理者で設定するグループ
```

機能

cscsetup コマンドの動作に必要となる情報を設定します。HCSC 本番環境簡易セットアップで使用する定義ファイルです。この定義ファイルは，UNIX の場合だけ有効になります。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥manager¥templates¥hsetup¥esb¥cscsetup.properties
```

注意事項

格納されているファイルは，テンプレートファイルになります。テンプレートファイルを任意のディレクトリにコピーしたあと，テンプレートファイルを編集し，定義ファイルを作成してください。

設定できるパラメタ

owner=Cosminexus Component Container **管理者で設定するオーナー　～ << スーパーユーザ >>**

Cosminexus Component Container 管理者で設定するオーナーを指定します。

group=Cosminexus Component Container **管理者で設定するグループ　～ << スーパーユーザ >>**

Cosminexus Component Container 管理者で設定するプライマリ GID を指定します。

注意事項

owner および group の値を指定しない場合は，次に示す値がデフォルト値となります。任意の Cosminexus Component Container 管理者に変更して運用したい場合は，この定義ファイルでオーナーおよびグループを指定してください。

Linux の場合

オーナー：root，グループ：root

HP-UX の場合

オーナー：root，グループ：sys

AIX の場合

オーナー：root，グループ：system

クライアント定義ファイル

形式

```
[com.cosminexus.csc.connect.timeout=接続タイムアウト値]
[com.cosminexus.csc.request.timeout=読み込みタイムアウト値]
[com.cosminexus.csc.session.maintain={true | false}]
```

機能

SOAP1.1/1.2 併用モードで，サービスアダプタから Web サービスを呼び出すときの動作を定義するファイルです。サービスアダプタの開始時に設定が有効になります。

クライアント定義ファイルは「cscwsconf.properties」というファイル名で作成します。

設定できるパラメタ

com.cosminexus.csc.connect.timeout= **接続タイムアウト値　～<数字>** ((0 － 86400))<<60>>

Web サービスアダプタからサービス部品にアクセスする際のソケットの接続タイムアウト値を秒単位で指定します。0 を指定した場合，タイムアウトしません。このプロパティで指定したタイムアウト値は，Web サービス呼び出し時に適用されます。

com.cosminexus.csc.request.timeout= **読み込みタイムアウト値　～<数字>** ((0 － 86400))<<300>>

Web サービスアダプタからサービス部品にアクセスする際のソケットの読み込みタイムアウト値を秒単位で指定します。0 を指定した場合，タイムアウトしません。このプロパティで指定したタイムアウト値は，Web サービス呼び出し時に適用されます。

com.cosminexus.csc.session.maintain={true ｜ false}　～ <<false>>

HTTP セッションの維持の有無を指定します。

- true：セッションが維持されます。
- false：セッションが維持されません。

記述例

```
com.cosminexus.csc.connect.timeout=120
com.cosminexus.csc.request.timeout=480
com.cosminexus.csc.session.maintain=false
```

注意事項

同一のプロパティを複数記述しないでください。複数記述した場合，どの値が有効にな

るか保証されません。

FTP アダプタコマンド定義ファイル

形式

```
［ftpadp.command.messagelog.filepath=FTPアダプタコマンドのメッセージログファイルの出力先ディレクトリの絶対パス］
［ftpadp.command.messagelog.filenum=FTPアダプタコマンドのメッセージログファイルの面数］
［ftpadp.command.messagelog.filesize=FTPアダプタコマンドのメッセージログファイルの1面当たりの最大サイズ］
```

機能

FTP アダプタコマンドのメッセージログの構成情報を定義するファイルです。

ファイルの格納先

<FTPアダプタのインストールディレクトリ>¥config¥adpftpcommand.properties

設定できるパラメタ

ftpadp.command.messagelog.filepath=FTP **アダプタコマンドのメッセージログファイルの出力先ディレクトリの絶対パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞**
<<<FTP **アダプタのインストールディレクトリ** >¥log>>

FTP アダプタ関連コマンドのメッセージログファイルの出力先ディレクトリを絶対パスで指定します。存在しないディレクトリを指定した場合は，省略値が使用されます。

なお，メッセージログは「message< 面数 >.log」という名で作成されます。

ftpadp.command.messagelog.filenum=FTP **アダプタコマンドのメッセージログファイルの面数　～＜数字＞** ((1 － 64))<<2>>

FTP アダプタ関連コマンドのメッセージログファイルの面数を指定します。

ftpadp.command.messagelog.filesize=FTP **アダプタコマンドのメッセージログファイルの 1 面当たりの最大サイズ　～＜数字＞** ((4096 － 16777216))<<1048576>>

FTP アダプタ関連コマンドのメッセージログファイルの 1 面当たりの最大サイズをバイト単位で指定します。

FTP アダプタ実行環境プロパティファイル

形式

```
 ftpadp.host-ipaddr=接続するFTPサーバのIPアドレスまたはホスト名
[ftpadp.host-con-port=接続するFTPサーバの制御コネクション用のポート番号]
[ftpadp.file-name.charset={UTF-8|MS932}]

[ftpadp.ftps.enable={TRUE|FALSE}]
[ftpadp.ftps.protocol-name={TLS|SSL}]
[ftpadp.ftps.implicit-mode={TRUE|FALSE}]
[ftpadp.ftps.data-con-secure={TRUE|FALSE}]
[ftpadp.ftps.server-authentication={TRUE|FALSE}]

[ftpadp.client-ipaddr=FTPクライアントのIPアドレス]
[ftpadp.client-con-port.min=FTPクライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値]
[ftpadp.client-con-port.max=FTPクライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値]
[ftpadp.client-pasv-port.min=データコネクションがPASVモードの場合のFTPアダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値]
[ftpadp.client-pasv-port.max=データコネクションがPASVモードの場合のFTPアダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値]
[ftpadp.listen-port.min=データコネクションがPORTモードの場合のFTPアダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最小値]
[ftpadp.listen-port.max=データコネクションがPORTモードの場合のFTPアダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最大値]

[ftpadp.ftp-user=接続するFTPサーバのログインユーザ名]
[ftpadp.ftp-type={A|a|I|i}]
[ftpadp.ftp-mode={S|s|C|c}]
[ftpadp.pasvport={PASV|pasv|PORT|port}]

[ftpadp.file-size-check={TRUE|FALSE}]

[ftpadp.methodtrace.level={1|2|3|4|5}]
[ftpadp.methodtrace.filepath=保守ログの出力先ディレクトリの絶対パス]
[ftpadp.methodtrace.filenum=保守ログの面数]
[ftpadp.methodtrace.filesize=保守ログの1面当たりの最大サイズ]

[ftpadp.ftpprotocoltrace.filenum=プロトコルトレースファイルの面数]
[ftpadp.ftpprotocoltrace.filesize=プロトコルトレースファイルの1面当たりの最大サイズ]

[ftpadp.messagelog.level={0|10|20}]

 ftpadp.account-inf-filepath=アカウント定義ファイルの絶対パス
[ftpadp.cscthrough-filepath=FTPコマンド許可リスト定義ファイル（FTPアダプタ用）の絶対パス]

[ftpadp.control-con.retry.count=制御コネクションを確立できなかったときのリトライ回数]
[ftpadp.control-con.retry.interval=制御コネクションを確立できなかったときのリトライ間隔]
[ftpadp.control-con.connect.timeout=制御コネクションの接続タイムアウト時間]

[ftpadp.data-con.retry.count=PASVモードでデータコネクションを確立できなかったときのリトライ回数]
[ftpadp.data-con.retry.interval=PASVモードでデータコネクションを確立できなかったときのリトライ間隔]
[ftpadp.data-con.connect.timeout=データコネクションの接続タイムアウト時間]
```

［ftpadp.read-lock.retry.count=共通フォルダのファイルの共有ロック失敗時のリトライ回数］
［ftpadp.read-lock.retry.interval=共通フォルダのファイルの共有ロック失敗時のリトライ間隔］
［ftpadp.write-lock.retry.count=共通フォルダのファイルの占有ロック失敗時のリトライ回数］
［ftpadp.write-lock.retry.interval=共通フォルダのファイルの占有ロック失敗時のリトライ間隔］

［ftpadp.data-con-put.timeout=データ転送時タイムアウト時間］
［ftpadp.data-con-get.timeout=データ取得時タイムアウト時間］

［ftpadp.ftp-command-reply.timeout=リプライタイムアウト時間］

［ftpadp.listen.timeout=Listenタイムアウト時間］

［ftpadp.put-client-buffer.size=ファイル伝送（送信）するときのクライアントバッファサイズ］
［ftpadp.get-client-buffer.size=ファイル伝送（受信）するときのクライアントバッファサイズ］

機能

FTP アダプタごとの構成情報を設定します。

FTP アダプタ実行環境プロパティファイルは「<サービス ID>.properties」というファイル名で作成します。

ファイルの格納先

<FTPアダプタのインストールディレクトリ>¥config¥<サービスID>.properties

設定できるプロパティ

(1) サーバ情報関連

ftpadp.host-ipaddr= **接続する** FTP **サーバの** IP **アドレスまたはホスト名**

接続する FTP サーバの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

FTP アダプタの要求電文でも指定が可能です。重複して指定されている場合，要求電文の値が有効になります。

ftpadp.host-con-port= **接続する** FTP **サーバの制御コネクション用のポート番号　～<数字>** ((1 － 65535))<<21>>

接続する FTP サーバの制御コネクション用のポート番号を指定します。

FTP アダプタの要求電文でも指定が可能です。重複して指定されている場合，要求電文の値が有効になります。

ftpadp.file-name.charset={UTF-8 ｜ MS932}　～ <<UTF-8>>

FTP サーバとの間で次の情報を送受信する際に使用する，文字セットの名称を指定しま

す。

- 制御コネクションで送受信する情報（ファイル名など）
- LIST コマンドまたは NLST コマンドの実行時に，データコネクションを介して FTP サーバから受け取る情報（ファイルの一覧情報）

指定できる値は次のとおりです。大文字と小文字は区別されません。

- UTF-8
  文字セットとして UTF-8 を使用します。
- MS932
  文字セットとして MS932 を使用します。

(2)FTPS **関連**

ftpadp.ftps.enable={TRUE ｜ FALSE} 〜 <<FALSE>>

FTP サーバとの接続に FTPS を使用するかどうかを指定します。

- TRUE
  FTP サーバとの接続に FTPS を使用します。
- FALSE
  FTP サーバとの接続に通常の FTP を使用します。

TRUE を選択すると，制御コネクションおよびデータコネクションの通信は暗号化されます（データコネクションの通信の暗号化を抑止する設定となっている場合は，暗号化されません）。ただし，接続先の FTP サーバが FTPS による接続をサポートしている必要があります。

FALSE を選択すると，制御コネクションおよびデータコネクションの通信は暗号化されません。

接続先の FTP サーバが FTPS の Implicit モードで動作している場合に FALSE を指定すると，FTP サーバに接続してからタイムアウトが発生するまで待ち状態となるときがあります。タイムアウト発生までの時間は，次の二つのタイムアウト時間のうち短い方の時間が適用されます。

- ftpadp.control-con.connect.timeout プロパティで指定した値（制御コネクションの接続タイムアウト時間）
  この値でタイムアウトとなった場合，ftpadp.control-con.retry.count プロパティで指定した回数分リトライしたあと，メッセージ KDEK30407-E を出力します。
- 接続先 FTP サーバ側で設定されたタイムアウト値
  この値でタイムアウトとなった場合，メッセージ KDEK30428-E を出力します。

ftpadp.ftps.protocol-name={TLS ｜ SSL} 〜 <<TLS>>

FTP サーバとの接続で FTPS を使用する場合に使用する，セキュリティ通信用のプロトコルを指定します。この指定は，FTP サーバとの接続に FTPS を使用する場合だけ有効

となります。

- TLS
  セキュリティ通信用のプロトコルに TLS を使用します。
- SSL
  セキュリティ通信用のプロトコルに SSL を使用します。

ftpadp.ftps.implicit-mode={TRUE ｜ FALSE} 〜 <<FALSE>>

FTP サーバとの接続に FTPS を使用する場合に，FTPS の Implicit モードを使用するかどうかを指定します。この指定は，FTP サーバとの接続に FTPS を使用する場合だけ有効となります。

- TRUE
  Implicit モード（FTP サーバに接続したあとに FTP クライアント側から AUTH コマンドを実行して，明示的に暗号化された通信を開始するモード）を使用します。
- FALSE
  Explicit モード（FTP サーバに接続した直後から暗黙的に暗号化された通信が開始されるモード）を使用します。

接続先の FTP サーバが FTPS の Implicit モードで動作している場合に FALSE を指定すると，FTP サーバに接続してからタイムアウトが発生するまで待ち状態となるときがあります。タイムアウト発生までの時間は，次の二つのタイムアウト時間のうち短い方の時間が適用されます。

- ftpadp.control-con.connect.timeout プロパティで指定した値（制御コネクションの接続タイムアウト時間）
  この値でタイムアウトとなった場合，ftpadp.control-con.retry.count プロパティで指定した回数分リトライしたあと，メッセージ KDEK30407-E を出力します。
- 接続先 FTP サーバ側で設定されたタイムアウト値
  この値でタイムアウトとなった場合，メッセージ KDEK30428-E を出力します。

ftpadp.ftps.data-con-secure={TRUE ｜ FALSE} 〜 <<TRUE>>

FTP サーバとの接続に FTPS を使用する場合に，データコネクションの通信を暗号化するかどうかを指定します。この指定は，FTP サーバとの接続に FTPS を使用するときだけ有効となります。

- TRUE
  データコネクションの通信を暗号化します。
- FALSE
  データコネクションの通信は暗号化しません。

ftpadp.ftps.server-authentication={TRUE ｜ FALSE} 〜 <<FALSE>>

FTP サーバとの接続に FTPS を使用する場合に，FTP サーバのサーバ認証をするかどうかを指定します。この指定は，FTP サーバとの接続に FTPS を使用するときだけ有効と

なります。

- TRUE
  サーバ認証をします（証明書をチェックします）。
  FTPS の接続先である FTP サーバの公開鍵の証明書が信頼できるかどうかをチェックし，信頼できる場合だけ処理を実行します。
  TRUE を指定する場合は，トラストストアに関する設定が必要です。トラストストアの設定に関しては，マニュアル「Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド」の「20.3.3　セキュアプロトコルによる暗号化・認証」を参照してください。
- FALSE
  証明書をチェックしません。
  FTPS の接続先である FTP サーバの公開鍵の証明書が信頼できるかどうかはチェックしないで，処理を実行します。

(3) クライアント情報関連

ftpadp.client-ipaddr=FTP クライアントの IP アドレス

FTP クライアントの IP アドレスを指定します。ここで指定した IP アドレスが制御コネクションおよびデータコネクションで使用されます。

このプロパティの指定を省略した場合，システムによって自動的に任意の IP アドレスが割り当てられます。

ftpadp.client-con-port.min=FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値　～<数字> ((1024 － 65535))

FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値を指定します。

指定できる値を次に示します。

- ftpadp.client-con-port.max プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値）以下の範囲の値
- ftpadp.client-pasv-port.min プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.client-pasv-port.max プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値
- ftpadp.listen-port.min プロパティ（データコネクションが PORT モードの場合の FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.listen-port.max プロパティ（データコネクションが PORT モードの場合の FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値

上記以外の値を指定した場合，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

注意事項

ftpadp.client-con-port.max プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値）を省略した場合はこのプロパティも省略してください。省略しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

このプロパティの指定を省略した場合，システムによって自動的に任意のポート番号が設定されます。

ftpadp.client-con-port.max=FTP **クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値　～<数字>** ((1024 － 65535))

FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値を指定します。

指定できる値を次に示します。

- ftpadp.client-con-port.min プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値）以上の範囲の値
- ftpadp.client-pasv-port.min プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.client-pasv-port.max プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値
- ftpadp.listen-port.min プロパティ（データコネクションが PORT モードの場合の FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.listen-port.max プロパティ（データコネクションが PORT モードの場合の FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値

上記以外の値を指定した場合，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

注意事項

ftpadp.client-con-port.min プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値）を省略した場合はこのプロパティも省略してください。省略しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

このプロパティの指定を省略した場合，システムによって自動的に任意のポート番号が設定されます。

ftpadp.client-pasv-port.min= **データコネクションが** PASV **モードの場合の** FTP **アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値　～<数字>** ((1024 － 65535))

データコネクションが PASV モードの場合の，FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値を指定します。このプロパティはデータコネクションが

PASV モードの場合だけ有効になります。

指定できる値を次に示します。

- ftpadp.client-pasv-port.max プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値）以下の範囲の値
- ftpadp.client-con-port.min プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.client-con-port.max プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値

上記以外の値を指定した場合，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

注意事項

ftpadp.client-pasv-port.max（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値）を省略した場合はこのプロパティも省略してください。省略しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

このプロパティの指定を省略した場合，システムによって自動的に任意のポート番号が設定されます。

ftpadp.client-pasv-port.max= **データコネクションが** PASV **モードの場合の** FTP **アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値　～<数字>** ((1024 － 65535))

データコネクションが PASV モードの場合の，FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最大値を指定します。このプロパティはデータコネクションが PASV モードの場合だけ有効になります。

指定できる値を次に示します。

- ftpadp.client-pasv-port.min プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値）以上の範囲の値
- ftpadp.client-con-port.min プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.client-con-port.max プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値

上記以外の値を指定した場合，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

次の場合，このプロパティを省略してください。省略しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

注意事項

ftpadp.client-pasv-port.min プロパティ（データコネクションが PASV モードの場合の FTP アダプタがデータコネクション確立するポート番号の範囲の最小値）を省略した場合はこのプロパティも省略してください。省略しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

このプロパティの指定を省略した場合，システムによって自動的に任意のポート番号が設定されます。

ftpadp.listen-port.min= **データコネクションが** PORT **モードの場合の** FTP **アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最小値　～<数字>** ((1024 － 65535))

データコネクションが PORT モードの場合の，FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最小値を指定します。データコネクションが PORT モードの場合はこのプロパティを必ず指定してください。指定しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

このプロパティはデータコネクションが PORT モードの場合だけ有効になります。
PASV モードの場合，設定は不要です。

指定できる値を次に示します。

- ftpadp.listen-port.max プロパティ（データコネクションが PORT モードの場合の FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最大値）以下の範囲の値
- ftpadp.client-con-port.min プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.client-con-port.max プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値

上記以外の値を指定した場合，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

ftpadp.listen-port.max= **データコネクションが** PORT **モードの場合の** FTP **アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最大値　～<数字>** ((1024 － 65535))

データコネクションが PORT モードの場合の，FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最大値を指定します。データコネクションが PORT モードの場合はこのプロパティを必ず指定してください。指定しない場合は，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

このプロパティはデータコネクションが PORT モードの場合だけ有効になります。
PASV モードの場合，設定は不要です。

指定できる値を次に示します。

- ftpadp.listen-port.min プロパティ（データコネクションが PORT モードの場合の FTP アダプタがデータコネクションを待ち受けるポート番号の範囲の最小値）以上の範囲の値
- ftpadp.client-con-port.min プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最小値）から，ftpadp.client-con-port.max プロパティ（FTP クライアントの制御コネクションポート番号の範囲の最大値）までに指定した範囲と重複しない値

上記以外の値を指定した場合，FTP アダプタの起動時にエラーとなります。

(4)FTP 設定関連

ftpadp.ftp-user= 接続する FTP サーバのログインユーザ名　～＜文字列＞ ((1-80 文字))

接続する FTP サーバのログインユーザ名を指定します。使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」～「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。使用できる半角記号を次に示します。

- 感嘆符（!）
- ダブルクォーテーション（"）
- 番号記号（#）
- ドル記号（$）
- パーセント（%）
- アンパサンド（&）
- アポストロフィ（'）
- 始め小括弧（(）
- 終わり小括弧（)）
- アスタリスク（*）
- 正符号（+）
- コンマ（,）
- ハイフン（-）
- ピリオド（.）
- スラッシュ（/）
- コロン（:）
- セミコロン（;）
- 左アングルブラケット（<）
- 右アングルブラケット（>）
- 等号（=）
- クエスチョンマーク（?）
- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）

- 円マーク（¥）
- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）
- 波ダッシュ（~）

指定するログインユーザ名はファイル操作の実行権限が与えられている必要があります。ここで指定した値は USER コマンドの引数として使用されます。

また，FTP アダプタの要求電文でも指定が可能です。重複して指定されている場合，要求電文の値が有効になります。

ftpadp.ftp-type={A ｜ a ｜ I ｜ i}

転送するデータのタイプとして，次のどちらかを指定します。ここで指定した値は TYPE コマンドの引数として使用されます。

- A **または** a
  ASCII 形式で転送します。
- I **または** i
  imege（BINARY）形式で転送します。

FTP アダプタの要求電文でも指定が可能です。重複して指定されている場合，要求電文の値が有効になります。

指定が省略された場合は，FTP プロトコルの仕様（RFC959）に従って ASCII 形式で転送されます。

ftpadp.ftp-mode={S ｜ s ｜ C ｜ c}　〜 <<S>>

転送するデータを圧縮するかどうかを指定します。ここで指定した値は MODE コマンドの引数として使用されます。

- S **または** s
  ファイルを圧縮しないで転送します。
- C **または** c
  ファイルを圧縮して転送します。

FTP アダプタの要求電文でも指定が可能です。重複して指定されている場合，要求電文の値が有効になります。

ftpadp.pasvport={PASV ｜ pasv ｜ PORT ｜ port}　〜 <<PASV>>

データコネクションの接続モードを次のどちらかに指定します。

- PASV **または** pasv
  PASV モードでデータコネクションを設定します。
- PORT **または** port
  PORT モードでデータコネクションを設定します。

(5) **ファイルサイズチェック関連**

ftpadp.file-size-check={TRUE ｜ FALSE} 〜 <<FALSE>>

送信側と受信側で，転送されたファイルのサイズが正しいかどうかを確認する機能を，実行するかどうかを指定します。

- TRUE
  ファイルサイズを確認します。
- FALSE
  ファイルサイズを確認しません。

(6) **保守ログ関連**

ftpadp.methodtrace.level={1 ｜ 2 ｜ 3 ｜ 4 ｜ 5} 〜 <<3>>

保守ログの出力レベルを指定します。出力情報と出力レベルを次の表に示します。

出力情報	出力レベル				
	1	2	3	4	5
エラー情報（例外発生原因）	○	○	○	○	○
リクエスタサービスメソッドの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	○	○	○	○
外部（BP など）のインターフェースの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	×	○	○	○
コンポーネント内インターフェースの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	×	×	○	○
デバッグ情報（処理の分岐などの情報）	×	×	×	×	○

（凡例）
○：出力されます。
×：出力されません。

ftpadp.methodtrace.filepath= **保守ログの出力先ディレクトリの絶対パス 〜＜文字列（2バイト文字含む）および空白＞** <<<Cosminexus **ログ出力ディレクトリ**>¥csc¥maintenance>>

保守ログの出力先ディレクトリを絶対パスで指定します。存在しないディレクトリを指定した場合は，省略値が使用されます。省略値は Cosminexus の設定値に依存します。

なお，保守ログは「cscftpadpmtd_<HCSC サーバ名 >_< 面数 >.log」という名で作成されます。

ftpadp.methodtrace.filenum= **保守ログの面数　～＜数字＞** ((1 － 16))<<8>>

保守ログの面数を指定します。

ftpadp.methodtrace.filesize= **保守ログの** 1 **面当たりの最大サイズ　～＜数字＞** ((4096 － 2147483647))<<2097152>>

保守ログの 1 面当たりの最大サイズをバイト単位で指定します。

(7)FTP **プロトコルトレース関連**

ftpadp.ftpprotocoltrace.filenum= **プロトコルトレースファイルの面数　～＜数字＞** ((1 － 16)) <<8>>

プロトコルトレースファイルの面数を指定します。

ftpadp.ftpprotocoltrace.filesize= **プロトコルトレースファイルの** 1 **面当たりの最大サイズ　～＜数字＞** ((4096 － 2147483647)) <<2097152>>

プロトコルトレースファイルの 1 面当たりの最大サイズ数をバイト単位で指定します。

(8) **メッセージログ関連**

ftpadp.messagelog.level={0 ｜ 10 ｜ 20}　～ <<10>>

メッセージログの出力レベルを指定します。出力情報と出力レベルを次の表に示します。

出力情報	出力レベル		
	0	10	20
エラー情報 • 例外または障害の発生原因	○	○	○
警告情報 • 発生した問題など	×	○	○
インフォメーション • 電文や引数の内容 • HCSC-Messaging の状態の変更（起動時や終了時） • コマンド受付時と実行完了時 • イベントの通知	×	×	○

（凡例）
○：出力されます。
×：出力されません。

(9) **パス関連**

ftpadp.account-inf-filepath= **アカウント定義ファイルの絶対パス　～＜文字列（2 バイト文字含む）および空白＞**

アカウント定義ファイルのパスを絶対パスで指定します。

ftpadp.cscthrough-filepath=FTP **コマンド許可リスト定義ファイル（**FTP **アダプタ用）の絶対パス　～＜文字列（**2 **バイト文字含む）および空白＞**

FTP コマンド許可リスト定義ファイル（FTP アダプタ用）のパスを絶対パスで指定します。指定を省略した場合，ユーザ指定の FTP コマンドは，転送前，転送後，リストコマンド実行前，およびリストコマンド実行後には実行できません。

(10) **制御コネクションの接続タイムアウト関連**

ftpadp.control-con.retry.count= **制御コネクションを確立できなかったときのリトライ回数　～＜数字＞** ((0 － 10000))<<5>>

制御コネクションを確立できなかったときのリトライ回数を指定します。0 を指定した場合，リトライしません。

ftpadp.control-con.retry.interval= **制御コネクションを確立できなかったときのリトライ間隔　～＜数字＞** ((0 － 86400))<<2>>

制御コネクションを確立できなかったときのリトライ間隔を秒単位で指定します。0 を指定した場合，間隔を空けないでリトライします。

ftpadp.control-con.connect.timeout= **制御コネクションの接続タイムアウト時間　～＜数字＞** ((1 － 3600))<<10>>

制御コネクションの接続のタイムアウト時間を秒単位で指定します。

(11) **データコネクションの接続タイムアウト関連**

ftpadp.data-con.retry.count=PASV **モードでデータコネクションを確立できなかったときのリトライ回数　～＜数字＞** ((0 － 10000))<<5>>

PASV モードでデータコネクションを確立できなかったときのリトライ回数を指定します。0 を指定した場合，リトライしません。

ftpadp.data-con.retry.interval=PASV **モードでデータコネクションを確立できなかったときのリトライ間隔　～＜数字＞** ((0 － 86400))<<2>>

パッシブモードでデータコネクションを確立できなかったときのリトライ間隔を秒単位で指定します。0 を指定した場合，間隔を空けないでリトライします。

ftpadp.data-con.connect.timeout= **データコネクションの接続タイムアウト時間　～＜数字＞** ((1 － 3600))<<10>>

パッシブモードでの，データコネクション接続のタイムアウト時間を秒単位で指定します。

(12) **排他取得タイムアウト関連**

ftpadp.read-lock.retry.count= **共通フォルダのファイルの共有ロック失敗時のリトライ回数　～<数字>** ((0 － 1024))<<0>>

共通フォルダのファイルの共有ロック失敗時のリトライ回数を指定します。

ftpadp.read-lock.retry.interval= **共通フォルダのファイルの共有ロック失敗時のリトライ間隔　～<数字>** ((1 － 1024))<<1>>

共通フォルダのファイルの共有ロック失敗時のリトライ間隔を秒単位で指定します。

ftpadp.write-lock.retry.count= **共通フォルダのファイルの占有ロック失敗時のリトライ回数　～<数字>** ((0 － 1024))<<0>>

共通フォルダのファイルの占有ロック失敗時のリトライ回数を指定します。

ftpadp.write-lock.retry.interval= **共通フォルダのファイルの占有ロック失敗時のリトライ間隔　～<数字>** ((1 － 1024))<<1>>

共通フォルダのファイルの占有ロック失敗時のリトライ間隔を秒単位で指定します。

(13) **データ転送取得タイムアウト関連**

ftpadp.data-con-put.timeout= **データ転送時タイムアウト時間　～<数字>** ((1 － 86400))<<60>>

データ送信時に，パケットを送信し，送信バッファが空くまでの監視時間を秒単位で指定します。指定した時間を経過してもバッファが空かない場合は例外（エラー）が発生します。

ftpadp.data-con-get.timeout= **データ取得時タイムアウト時間　～<数字>** ((1 － 86400))<<60>>

データ受信時に，パケットを受信する（転送相手がパケットを送信してくる）までの監視時間を秒単位で指定します。指定した時間を経過してもデータの受信がない場合は例外（エラー）が発生します。

(14)FTP **コマンドリプライタイムアウト関連**

ftpadp.ftp-command-reply.timeout= **リプライタイムアウト時間　～<数字>** ((1 － 3600))<<60>>

FTP コマンドを発行して，リプライされるまでの監視時間を秒単位で指定します。指定した時間を経過してもサーバからデータコネクションの接続要求がなかった場合は例外（エラー）が発生します。

(15)Listen **タイムアウト関連**

ftpadp.listen.timeout=Listen **タイムアウト時間　～＜数字＞** ((1 － 3600))<<60>>

PORT モードの場合，PORT コマンドのリプライを受けたあと，Listen 状態での監視時間を秒単位で指定します。指定した時間を経過してもサーバからデータコネクションの接続要求がなかった場合は例外（エラー）が発生します。

(16) **バッファサイズ関連**

ftpadp.put-client-buffer.size= **ファイル転送（送信）するときのクライアントバッファサイズ　～＜数字＞** ((512 － 262144))<<40960>>

ファイル転送（送信）するときのクライアントバッファのメモリのサイズを，バイト単位で指定します。

この値は，メモリが制限されるときや転送効率を上げたいときなどに変更してください。なお，転送効率は回線の速度や利用状況，CPU の性能などによって変動します。

ftpadp.get-client-buffer.size= **ファイル転送（受信）するときのクライアントバッファサイズ　～＜数字＞** ((512 － 262144))<<40960>>

ファイル転送（受信）するときのクライアントバッファのメモリのサイズを，バイト単位で指定します。

この値は，メモリが制限されるときや転送効率を上げたいときなどに変更してください。なお，転送効率は回線の速度や利用状況，CPU の性能などによって変動します。

アカウント定義ファイル

機能

ユーザアカウント情報を一括管理します。

アカウント定義ファイルは，運用コマンドで管理するため，ユーザがアカウント定義ファイルを編集する必要はありません。

アカウント定義ファイルは，任意のパスに任意のファイル名で格納できます。ただし，アカウント定義ファイルの絶対パスが，FTP アダプタ実行環境プロパティファイルの ftpadp.account-inf-filepath プロパティで指定されている必要があります。

ファイル操作アダプタ定義ファイル

形式

```
[csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad={ON|OFF}]
[csc.adapter.fileOperation.transform.format={fixed|separate}]

[csc.adapter.fileOperation.transform.headerRecord={ON|OFF}]
[csc.adapter.fileOperation.transform.trailerRecord={ON|OFF}]

[csc.adapter.fileOperation.transform.header.inFormat=ヘッダレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.header.outFormat=ヘッダレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.header.styleSheet=ヘッダレコード変換用のXSLファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.header.fixedSize=ヘッダレコードの固定長サイズ]

[csc.adapter.fileOperation.transform.data.inFormat=データレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.data.outFormat=データレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.data.styleSheet=データレコード変換用のXSLファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.data.fixedSize=データレコードの固定長サイズ]

[csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.inFormat=トレーラレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.outFormat=トレーラレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.styleSheet=トレーラレコード変換用のXSLファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.fixedSize=トレーラレコードの固定長サイズ]

[csc.adapter.fileOperation.transform.all.inFormat=一括処理時の入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.all.outFormat=一括処理時の出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名]
[csc.adapter.fileOperation.transform.all.styleSheet=一括処理時の変換用のXSLファイル名]

[csc.adapter.fileOperation.transform.existFile={overwrite|error}]
[csc.adapter.fileOperation.copy.existFile={overwrite|error}]
```

機能

ファイル操作アダプタの動作情報を設定します。

ファイル操作アダプタ定義ファイルは「cscFileOperation.properties」というファイル名で作成します。

ファイル操作アダプタの開始時に，ファイル操作アダプタ定義ファイルに設定した内容が有効になります。

設定できるプロパティ

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad={ON ｜ OFF} 〜 <<ON>>

ファイルの入出力時，レコードごとに分割処理するかどうかを指定します。

- ON
  分割処理
- OFF
  一括処理

ON または OFF 以外の値を指定した場合は一括処理されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.format={fixed ｜ separate} 〜 <<fixed>>

入力ファイルの形式を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

- fixed
  固定長形式
- separate
  改行セパレータ形式

fixed または separate 以外の値を指定した場合は改行セパレータ形式になります。

csc.adapter.fileOperation.transform.headerRecord={ON ｜ OFF} 〜 <<ON>>

ファイルにヘッダレコードを使用するかどうかを指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

- ON
  ヘッダレコードを使用する
- OFF
  ヘッダレコードを使用しない

ON または OFF 以外の値を指定した場合，ヘッダレコードを使用しません。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailerRecord={ON ｜ OFF} 〜 <<ON>>

ファイルにトレーラレコードを使用するかどうかを指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

- ON
  トレーラレコードを使用する

- OFF
  トレーラレコードを使用しない

ON または OFF 以外の値を指定した場合，トレーラレコードを使用しません。

csc.adapter.fileOperation.transform.header.inFormat= **ヘッダレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～<文字列>**

ヘッダレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.headerRecord プロパティで ON（ファイルにヘッダレコードを使用する）を指定している場合，このプロパティは省略できません。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.header.outFormat= **ヘッダレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～<文字列>**

ヘッダレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.headerRecord プロパティで ON（ファイルにヘッダレコードを使用する）を指定している場合，このプロパティは省略できません。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.header.styleSheet= **ヘッダレコード変換用の** XSL **ファイル名　～<文字列>**

ヘッダレコード変換用の XSL ファイル名（ユーザ任意のファイル名）を指定します。
csc.adapter.fileOperation.transform.headerRecord プロパティで ON（ファイルにヘッダレコードを使用する）を指定している場合，このプロパティは省略できません。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.header.fixedSize= **ヘッダレコードの固定長サイズ～<数字>** ((1 － 2147483647))

ヘッダレコードの固定長サイズを指定します。次に示すプロパティが両方とも設定されている場合，このプロパティは省略できません。

- csc.adapter.fileOperation.transform.format プロパティの値が fixed（入力ファイルの形式が固定長）
- csc.adapter.fileOperation.transform.headerRecord プロパティの値が ON（ヘッダレコードを使用する）

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。また，

csc.adapter.fileOperation.transform.format プロパティで separate（入力ファイルの形式が改行セパレータ）を指定している場合，このプロパティは省略できます。

csc.adapter.fileOperation.transform.data.inFormat= **データレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～＜文字列＞**

データレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.data.outFormat= **データレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～＜文字列＞**

データレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.data.styleSheet= **データレコード変換用の** XSL **ファイル名　～＜文字列＞**

データレコード変換用の XSL ファイル名（ユーザ任意のファイル名）を指定します。
csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.data.fixedSize= **データレコードの固定長サイズ　～＜数字＞** ((1 － 2147483647))

データレコードの固定長サイズを指定します。
csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。また，csc.adapter.fileOperation.transform.format プロパティで separate（入力ファイルの形式が改行セパレータ）を指定している場合，このプロパティは省略できます。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.inFormat= **トレーラレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～＜文字列＞**

トレーラレコード入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailerRecord プロパティで ON（ファイルにトレーラレコードを使用する）を指定している場合，このプロパティは省略できません。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.outFormat= **トレーラレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～＜文字列＞**

トレーラレコード出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailerRecord プロパティで ON（ファイルにトレーラレコードを使用する）を指定している場合，このプロパティは省略できません。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.styleSheet= **トレーラレコード変換用の** XSL **ファイル名　～＜文字列＞**

トレーラレコード変換用の XSL ファイル名（ユーザ任意のファイル名）を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailerRecord プロパティで ON（ファイルにトレーラレコードを使用する）を指定している場合，このプロパティは省略できません。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.trailer.fixedSize= **トレーラレコードの固定長サイズ～＜数字＞** ((1 － 2147483647))

トレーラレコードの固定長サイズを指定します。次に示すプロパティが両方とも設定されている場合，このプロパティは省略できません。

- csc.adapter.fileOperation.transform.format プロパティの値が fixed（入力ファイルの形式が固定長）
- csc.adapter.fileOperation.transform.trailerRecord プロパティの値が ON（トレーラレコードを使用する）

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで OFF（入力ファイル形式の一括処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。また，csc.adapter.fileOperation.transform.format プロパティで separate を指定している場合は，このプロパティは省略できます。

csc.adapter.fileOperation.transform.all.inFormat= **一括処理時の入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～＜文字列＞**

一括処理時の入力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで ON（入力ファイル形式の分割処理）を指定している場合，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.all.outFormat= **一括処理時の出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名　～＜文字列＞**

一括処理時の出力用のバイナリフォーマット定義ファイル名を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで ON（入力ファイル形式の分割処理）を指定している場合は，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.all.styleSheet= **一括処理時の変換用の** XSL **ファイル名 ～<文字列>**

一括処理時の変換用の XSL ファイル名（ユーザ任意のファイル名）を指定します。

csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad プロパティで ON（入力ファイル形式の分割処理）を指定している場合は，このプロパティの指定は無視されます。

csc.adapter.fileOperation.transform.existFile={overwrite ｜ error} ～ <<overwrite>>

ファイル変換オペレーション時に出力するファイルと同名のファイルが存在する場合，上書きするかどうかを指定します。

- overwrite
  既存の内容のファイルに上書き
- error
  ファイル変換を中止し例外を発行

overwrite または error 以外の値を指定した場合，ファイル変換を中止し，例外を発行します。

csc.adapter.fileOperation.copy.existFile={overwrite ｜ error} ～ <<overwrite>>

ファイル複製オペレーション時に同名のファイルが存在する場合，上書きするかどうかを指定します。

- overwrite
  既存の内容のファイルに上書き
- error
  コピーを中止し例外を発行

overwrite または error 以外の値を指定した場合，コピーを中止し，例外を発行します。

記述例

記述例を次に示します。

```
csc.adapter.fileOperation.transform.splitLoad=on
csc.adapter.fileOperation.transform.format=fixed
csc.adapter.fileOperation.transform.header.inFormat=in_hdr.fdx
csc.adapter.fileOperation.transform.header.outFormat=out_hdr.fdx
csc.adapter.fileOperation.transform.header.styleSheet=trans_hdr.xsl
csc.adapter.fileOperation.transform.header.fixedSize=64
  :
```

実行環境プロパティファイル

形式

```
[messagelog-level={0｜10｜20}]

[methodtrace-level={1｜2｜3｜4｜5}]
[methodtrace-filenum=保守ログの面数]
[methodtrace-filesize=保守ログの1面当たりの最大サイズ]

[readLock.retry.count=共有ロック取得時のロックリトライ回数]
[readLock.retry.interval=共有ロック取得時のロックリトライ間隔]
[writeLock.retry.count=占有ロック取得時のロックリトライ回数]
[writeLock.retry.interval=占有ロック取得時のロックリトライ間隔]

[transform.limitsize=入力ファイルのサイズ]
[transform.timeout=タイムアウト時間]
```

機能

ファイル操作アダプタが実行環境で動作する際のメッセージログとトレースログの出力レベルなどを設定します。

ファイルの格納先

<Cosminexusのインストールディレクトリ>¥CSC¥config¥adpfop¥<サービスID>.properties

設定できるプロパティ

(1) メッセージログ

messagelog-level={0 ｜ 10 ｜ 20} 〜 <<10>>

メッセージログの出力レベルを指定します。出力情報と出力レベルを次の表に示します。

出力情報	出力レベル		
	0	10	20
エラー情報 • 例外または障害の発生原因	○	○	○
警告情報 • 発生した問題など	△	○	○
インフォメーション • 電文や引数の内容 • HCSC-Messaging の状態の変更（起動時や終了時） • コマンド受付時と実行完了時 • イベントの通知	△	△	△

（凡例）
○：出力されます。
△：重要なログメッセージだけ出力されます。

(2) 保守ログ

methodtrace-level={1 ｜ 2 ｜ 3 ｜ 4 ｜ 5} 〜 <<3>>

保守ログの出力レベルを指定します。出力情報と出力レベルを次の表に示します。

出力情報	出力レベル				
	1	2	3	4	5
エラー情報（例外発生原因）	○	○	○	○	○
リクエスタサービスメソッドの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	○	○	○	○
外部（BP など）のインターフェースの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	×	○	○	○
コンポーネント内インターフェースの入口／出口情報（クラス名，メソッド名，引数，戻り値）	×	×	×	○	○
デバッグ情報（処理の分岐などの情報）	×	×	×	×	○

（凡例）
○：出力されます。
×：出力されません。

methodtrace-filenum= **保守ログの面数 〜＜数字＞** ((1 − 16))<<8>>

保守ログの面数を指定します。

methodtrace-filesize= **保守ログの** 1 **面当たりの最大サイズ 〜＜数字＞** ((4096 − 2147483647))<<2097152>>

保守ログの 1 面当たりの最大サイズをバイト単位で指定します。

(3) 排他取得

readLock.retry.count= **共有ロック取得時のロックリトライ回数 〜＜数字＞** ((0 − 1024))<<0>>

排他管理 API による共有ロック取得時のロックリトライ回数を指定します。

readLock.retry.interval= **共有ロック取得時のロックリトライ間隔 〜＜数字＞** ((1 − 1024))<<1>>

排他管理 API による共有ロック取得時のロックリトライ間隔を秒単位で指定します。

writeLock.retry.count= **占有ロック取得時のロックリトライ回数　～<数字>** ((0 － 1024))<<0>>

排他管理 API による占有ロック取得時のロックリトライ回数を指定します。

writeLock.retry.interval= **占有ロック取得時のロックリトライ間隔　～<数字>** ((1 － 1024))<<1>>

排他管理 API による占有ロック取得時のロックリトライ間隔を秒単位で指定します。

(4) **その他**

transform.limitsize= **入力ファイルのサイズ　～<数字>** ((0 － 2147483647))<<62914560>>

ファイル変換オペレーションで，変換を打ち切る入力ファイルのサイズをバイト単位で指定します。0 を指定した場合は，変換を打ち切りません。

transform.timeout= **タイムアウト時間　～<数字>** ((0 － 86400))<<60>>

ファイル変換オペレーションで，変換を打ち切るタイムアウト時間を秒単位で指定します。

0 を指定した場合はタイムアウトしません。

記述例

記述例を次に示します。

```
messagelog-level=10
methodtrace-level=3
methodtrace-filenum=8
methodtrace-filesize=2097152
   :
```

FTP 受付定義ファイル

形式

```
［urecp-ftp.resource-adapter=受付処理が使用するFTPインバウンドアダプタの表示名］
［urecp-ftp.pooled-instance.minimum=カスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最小数］
［urecp-ftp.pooled-instance.maximum=受付処理およびカスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最大数］
［urecp-ftp.ejb-transaction-timeout=受付処理およびカスタム受付フレームワークのEJBトランザクションタイムアウト時間］
［urecp-ftp.work-dir.auto-delete={true｜false}］
```

機能

FTP 受付をセットアップしたあとに設定変更できる内容を設定します。FTP 受付開始時に，FTP 受付定義ファイルに設定した内容が有効になります。

なお，FTP 受付に対して FTP 受付定義ファイルが設定されていない場合，FTP 受付定義ファイルで設定できるすべてのプロパティに，デフォルト値が仮定されます。この場合，FTP 受付のデプロイ時，および FTP 受付の起動時に KDEC00410-W メッセージを出力します。

FTP 受付定義ファイルは「cscurecpftp.properties」というファイル名で作成します。「cscurecpftp.properties」以外のファイル名で作成した場合，そのファイルは無視されます。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥ftprecp¥templates¥cscurecpftp.properties
```

設定できるプロパティ

urecp-ftp.resource-adapter= **受付処理が使用する** FTP **インバウンドアダプタの表示名～＜半角英数字とアンダーライン（_）＞** ((0 － 240 **文字**))<<Connector **属性ファイルの** display-name **タグの設定値** >>

受付処理が使用する，FTP インバウンドアダプタの表示名を指定します。大文字と小文字は区別されます。このプロパティは省略できます。

ここでは，Connector 属性ファイルの display-name タグの設定値を指定してください。

このプロパティを省略，またはこのプロパティに値を指定しなかった場合，運用コマンドおよびコマンド制御（MBean）実行時に，値のチェック処理を実行しません。

urecp-ftp.pooled-instance.minimum= **カスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最小数　～<数字>** ((0 － 2147483647))<<0>>

カスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最小数を指定します。なお，受付処理のプール内のインスタンスの最小数は固定値です。このプロパティで変更することはできません。

urecp-ftp.pooled-instance.maximum プロパティの値（受付処理およびカスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最大数）以下の値を指定してください。

このプロパティを省略，またはこのプロパティに値を指定しなかった場合，運用コマンドおよびコマンド制御（MBean）実行時に，値のチェック処理を実行しません。また，コマンド制御（MBean）実行時に，FTP 受付のカスタムアダプタ用のアプリケーション統合属性ファイルの対象となる要素に値を適用しません。

urecp-ftp.pooled-instance.maximum= **受付処理およびカスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最大数　～<数字>** ((0 － 2147483647))<<0>>

受付処理およびカスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最大数を指定します。

urecp-ftp.pooled-instance.minimum プロパティの値（カスタム受付フレームワークのプール内インスタンスの最小数）以上の値を指定してください。

0（無制限）を指定すると受付処理およびカスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスは無制限になります。0（無制限）を指定した場合，受付処理のプール内のインスタンスの最大数には，1 が設定されます。

このプロパティを省略，またはこのプロパティに値を指定しなかった場合，運用コマンドおよびコマンド制御（MBean）実行時に，値のチェック処理を実行しません。また，コマンド制御（MBean）実行時に，FTP 受付のアプリケーション統合属性ファイルの対象となる要素に値を適用しません。

urecp-ftp.ejb-transaction-timeout= **受付処理およびカスタム受付フレームワークの** EJB **トランザクションタイムアウト時間　～<数字>** ((0 － 2147483647))<<0>>

受付処理およびカスタム受付フレームワークの EJB トランザクションタイムアウト時間を秒単位で指定します。0 を指定した場合，J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

このプロパティを省略，またはこのプロパティに値を指定しなかった場合，運用コマンドおよびコマンド制御（MBean）実行時に，値のチェック処理を実行しません。また，コマンド制御（MBean）実行時に，FTP 受付のカスタムアダプタ用のアプリケーション統合属性ファイルの対象要素に値を適用しません。

urecp-ftp.work-dir.auto-delete={true ｜ false}　～ <<true>>

FTP 受付が作業フォルダを自動的に削除するかどうかを指定します。

- true
  FTP 受付で自動的に作業フォルダを削除します。FTP 受付がビジネスプロセスからの応答を受け取り，FTP 受付の処理が正常に完了したあとに削除します。
- false
  FTP 受付で作業フォルダを削除しません。

注意事項

ビジネスプロセスが非同期型の場合，このプロパティに false を指定する必要があります。

記述例

記述例を次に示します。

```
urecp-ftp.resource-adapter=FTP_Inbound_Adapter
urecp-ftp.work-dir.auto-delete=true
```

注意事項

FTP 受付定義ファイルの内容が不正な場合，FTP 受付のデプロイ時にエラーとなります。

FTP 受付コンフィグファイル

形式

```
［urecp-ftp.permission-def.filepath=FTP実行許可リスト定義ファイルのパス］
［urecp-ftp.ftp-command-allow.filepath=FTPコマンド許可リスト定義ファイル（FTP受付用）のパス］
［urecp-ftp.request-timeout=FTP受付後のビジネスプロセスの処理時間］
［urecp-ftp.resident-thread.count=FTP受付後の処理時間の監視で利用する常駐スレッド数］
［urecp-ftp.timer-thread.maximum=FTP受付の処理時間の監視で利用する最大スレッド数］
［urecp-ftp.list-command-option.filepath=リストコマンドオプション定義ファイルのパス］
```

機能

FTP 受付をセットアップしたあとに，設定変更が発生する頻度が高い内容を設定します。FTP 受付開始時に，FTP 受付コンフィグファイルに設定した内容が有効になります。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ>¥CSC¥config¥ftprecp¥<受付ID>.properties
```

設定できるプロパティ

urecp-ftp.permission-def.filepath=FTP **実行許可リスト定義ファイルのパス　～＜文字列または半角アスタリスク（*）＞**

FTP 実行許可リスト定義ファイルのパスを絶対パスで指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，すべてのユーザに対して，FTP 受付が関連づけられたビジネスプロセスの実行を許可します。

urecp-ftp.ftp-command-allow.filepath=FTP **コマンド許可リスト定義ファイル（FTP 受付用）のパス　～＜文字列または半角アスタリスク（*）＞**

FTP コマンド許可リスト定義ファイル（FTP 受付用）のパスを絶対パスで指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，転送前，転送後，リストコマンド実行前，およびリストコマンド実行後にユーザ指定の FTP コマンドの実行を許可しません。

urecp-ftp.request-timeout=FTP **受付後のビジネスプロセスの処理時間　～＜数字＞** ((0 － 2147483647))<<0>>

FTP 受付後にビジネスプロセスに要求電文を渡して応答電文が返ってくるまでの処理時間を秒単位で指定します。

- 0 を指定した場合や，キーまたは値を省略した場合は，処理時間は監視されません。
- 1 以上を指定した場合，処理時間を監視するためにスレッドが常駐します。常駐スレッド数は urecp-ftp.resident-thread.count プロパティで指定してください。

数字以外の値や範囲外の値が指定された場合は，コマンド実行時にエラーとなります。

urecp-ftp.resident-thread.count=FTP **受付後の処理時間の監視で利用する常駐スレッド数～<数字>** ((0 － 2147483647))<<0>>

FTP 受付後にビジネスプロセスでの処理時間を監視する際，常駐させるスレッド数を指定します。常駐スレッドは FTP 受付の起動時に生成されます。

キーまたは値を省略した場合は，処理時間は監視されません。また，監視を実行しない場合はスレッドが生成されないため，このプロパティに指定された値は無視されます。

数字以外の値や範囲外の値が指定された場合は，コマンド実行時にエラーとなります。また，urecp-ftp.timer-thread.maximum プロパティの指定値より大きい値を指定した場合，コマンド実行時にエラーとなります。

urecp-ftp.timer-thread.maximum=FTP **受付の処理時間の監視で利用する最大スレッド数～<数字>** ((0 － 2147483647))<<FTP **受付定義ファイルの** urecp-ftp.pooled-instance.maximum **の指定値** >>

FTP 受付の処理時間の監視で利用する最大スレッド数を指定します。処理時間を監視しない場合はスレッドが生成されないため，このプロパティに指定された値は無視されます。

キーまたは値を省略した場合は，デフォルト値として FTP 受付定義ファイルの urecp-ftp.pooled-instance.maximum（受付処理およびカスタム受付フレームワークのプール内のインスタンスの最大数）の指定値が適用されます。csccompoconfig コマンドによる変更は適用されません。

次の場合，最大スレッド数は 1 となります。

- 0 を指定した場合
- デフォルト値が適用された際に，FTP 受付定義ファイルの urecp-ftp.pooled-instance.maximum の指定値が 0 である場合

urecp-ftp.list-command-option.filepath= **リストコマンドオプション定義ファイルのパス～<文字列または半角アスタリスク（*）>**

リストコマンドオプション定義ファイルのパスを絶対パスで指定します。

このプロパティの指定を省略した場合，リストコマンドの引数に指定された情報はすべてパスの情報と解釈されます。

記述例

記述例を次に示します。

- Windows の場合

```
urecp-ftp.permission-def.filepath=C:¥¥my_config¥¥permission_A.properties
urecp-ftp.ftp-command-allow.filepath=C:¥¥my_config¥¥command_allow_X.prop
erties
urecp-ftp.list-command-option.filepath=C:¥¥my_config¥¥list_command_optio
n.txt
```

- UNIX の場合

```
urecp-ftp.permission-def.filepath=/my_config/permission_A.properties
urecp-ftp.ftp-command-allow.filepath=/my_config/
command_allow_X.properties
urecp-ftp.list-command-option.filepath=/my_config/
list_command_option.txt
```

FTP 実行許可リスト定義ファイル

形式

```
[urecp-ftp.permission.allow=実行を許可するユーザ名]
[urecp-ftp.permission.deny=実行を許可しないユーザ名]
```

機能

FTP 受付に関連づけられたビジネスプロセスの実行を許可，または許可しないユーザを設定します。

FTP 実行許可リスト定義ファイルは，任意のパスに任意のファイル名で格納できます。ただし，FTP 実行許可リスト定義ファイルの絶対パスが，FTP 受付コンフィグファイルの urecp-ftp.permission-def.filepath プロパティで指定されている必要があります。

設定できるプロパティ

urecp-ftp.permission.allow= **実行を許可するユーザ名　～<文字列または半角アスタリスク（*）> <<*>>**

FTP 受付に関連づけられたビジネスプロセスの実行を許可するユーザのユーザ名を指定します。

複数のユーザを指定する場合は，「ユーザ名 , ユーザ名 ,…」のように半角コンマ（,）区切りで指定します。半角コンマ前後の半角スペースやタブ文字は無視されます。

また，空のユーザ名（長さ 0 のユーザ名）も無視されます。次のように指定した場合は，空文字を無視して FTP 受付が正常に起動します。

```
urecp-ftp.permission.allow = <ユーザ名1>,
urecp-ftp.permission.allow = <ユーザ名1>,△
urecp-ftp.permission.allow = <ユーザ名1>,△,<ユーザ名2>
urecp-ftp.permission.allow = <ユーザ名1>,,,,,,,,,,<ユーザ名2>
urecp-ftp.permission.allow = ,<タブ文字><ユーザ名1><タブ文字>,<タブ文字><タブ文字>
```

（凡例）△：半角スペース

半角アスタリスク（*）だけを指定した場合，すべてのユーザに実行が許可されます。なお，次に示す形式のユーザ名を指定する場合は，前後をタブ文字で囲んでください。

- 半角コンマ（,）の文字を含むユーザ名
- 先頭または末尾に半角スペースがあるユーザ名
- 半角アスタリスク（*）一文字のユーザ名

このプロパティを省略した場合，半角アスタリスク（*）が設定されます。

注意事項

urecp-ftp.permission.deny プロパティ（実行を許可しないユーザ名）で指定されたユーザは，FTP 受付に関連づけられたビジネスプロセスの実行は許可されません。

urecp-ftp.permission.deny= **実行を許可しないユーザ名　～<文字列または半角アスタリスク（*）>**

FTP 受付に関連づけられたビジネスプロセスの実行を許可しないユーザのユーザ名を指定します。

複数のユーザを指定する場合は，「ユーザ名 , ユーザ名 ,…」のように半角コンマ（,）区切りで指定します。半角コンマ前後の半角スペースやタブ文字は無視されます。

また，空のユーザ名（長さ 0 のユーザ名）も無視されます。次のように指定した場合は，空文字を無視して FTP 受付が正常に起動します。

```
urecp-ftp.permission.deny = <ユーザ名1>,
urecp-ftp.permission.deny = <ユーザ名1>,△
urecp-ftp.permission.deny = <ユーザ名1>,△,<ユーザ名2>
urecp-ftp.permission.deny = <ユーザ名1>,,,,,,,,,,<ユーザ名2>
urecp-ftp.permission.deny = ,<タブ文字><ユーザ名1><タブ文字>,<タブ文字><タブ文字>
```

（凡例）△：半角スペース

なお，次に示す形式のユーザ名を指定する場合は，前後をタブ文字で囲んでください。

- 半角コンマ（,）の文字を含むユーザ名
- 先頭または末尾に半角スペースがあるユーザ名

注意事項

このプロパティで指定したユーザは，urecp-ftp.permission.allow プロパティ（実行を許可するユーザ名）でユーザ名を指定，または半角アスタリスク（*）を指定されていても，FTP 受付に関連づけられたビジネスプロセスの実行は許可されません。

記述例

記述例を次に示します。

- すべてのユーザを許可する場合（デフォルト）

```
urecp-ftp.permission.allow=*
```

なお，FTP 受付コンフィグファイルで，urecp-ftp.permission-def.filepath プロパティ（FTP 実行許可リスト定義ファイルのパス）を指定しない場合も，すべてのユーザが許可されます。

- ユーザ名「root」およびユーザ名「admin」だけを許可する場合

```
urecp-ftp.permission.allow=root,admin
```

- ユーザ名「guest1」およびユーザ名「guest2」以外のユーザを許可する場合
  - urecp-ftp.permission.allow プロパティ（実行を許可するユーザ名）を指定する場合

```
urecp-ftp.permission.allow=*
urecp-ftp.permission.deny=guest1,guest2
```

  - urecp-ftp.permission.allow プロパティを省略する場合

```
urecp-ftp.permission.deny=guest1,guest2
```

FTP コマンド許可リスト定義ファイル

形式

```
[ftp-command.allow=実行を許可するFTPコマンド]
[ftp-command.site.allow=SITEコマンドで実行を許可するコマンド]
```

機能

転送前，転送後，リストコマンド実行前，またはリストコマンド実行後に実行を許可する FTP コマンドを設定します。

FTP コマンド許可リスト定義ファイルには，FTP アダプタ用と FTP 受付用の 2 種類があります。

FTP コマンド許可リスト定義ファイルは任意のパスに任意のファイル名で作成できます。ただし，FTP コマンド許可リスト定義ファイルの絶対パスが，それぞれ次のプロパティに指定されている必要があります。

- FTP コマンド許可リスト定義ファイル（FTP アダプタ用）
  FTP アダプタ実行環境プロパティファイルの ftpadp.cscthrough-filepath プロパティ
- FTP コマンド許可リスト定義ファイル（FTP 受付用）
  FTP 受付コンフィグファイルの urecp-ftp.ftp-command-allow.filepath プロパティ

FTP 受付または FTP アダプタの開始時に，FTP コマンド許可リスト定義ファイルに設定した内容が有効になります。

ファイルの格納先

- FTP コマンド許可リスト定義ファイル（FTP アダプタ用）の場合

```
<FTPアダプタのインストールディレクトリ
>¥config¥templates¥cscthrough.properties
```

- FTP コマンド許可リスト定義ファイル（FTP 受付用）の場合

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥config¥ftprecp¥templates¥ftp_command_allow.properties
```

注意事項

格納されているファイルは，テンプレートファイルになります。テンプレートファイルを任意のディレクトリにコピーしたあと，テンプレートファイルを編集し，定義ファイルを作成してください。

設定できるプロパティ

ftp-command.allow= 実行を許可する FTP コマンド　～<文字列または半角アスタリスク（*）>

転送前，または転送後にビジネスプロセスで実行することを許可する FTP コマンドを指定します。

注意事項

- このプロパティの設定は，FTP 受付コンフィグファイルまたは FTP アダプタ実行環境プロパティファイルに，この定義ファイルのパスを設定している FTP 受付または FTP アダプタにだけ適用されます。
- SITE コマンドの引数として指定するコマンドは，ftp-command.site.allow プロパティで許可するかどうかを指定するため，このプロパティに SITE コマンドを指定する必要はありません。
- 複数のコマンドを指定する場合は，「コマンド , コマンド ,…」のようにコンマ（,）区切りで指定します。コンマ前後の半角スペースやタブ文字は無視されます。
- 半角アスタリスク（*）だけを指定した場合，Cosminexus サービスプラットフォームでサポートする SITE コマンド以外のすべての FTP コマンドが許可されます。
- STOR コマンド，APPE コマンド，STOU コマンド，RETR コマンド，LIST コマンドおよび NLST コマンドは，Cosminexus サービスプラットフォームでサポートしていないため，指定しても許可されません。半角アスタリスク（*）を指定している場合も，同様に許可されません。

ftp-command.site.allow=SITE コマンドで実行を許可するコマンド　～<文字列または半角アスタリスク（*）>

転送前，または転送後にビジネスプロセスで実行することを許可する，FTP サーバが独自にサポートしているコマンドを指定します。このプロパティでは，SITE コマンドの第 1 引数として指定されるコマンドが対象になります。

注意事項

- このプロパティの設定は，FTP 受付コンフィグファイルまたは FTP アダプタ実行環境プロパティファイルに，この定義ファイルのパスを設定している FTP 受付または FTP アダプタにだけ適用されます。
- SITE FSIZE コマンドは，FTP インバウンドアダプタで処理されるので，このプロパティの値に FSIZE を指定しても無視されます。
- 複数のコマンドを指定する場合は，「コマンド , コマンド ,…」のようにコンマ（,）区切りで指定します。コンマ前後の半角スペースやタブ文字は無視されます。
- 半角アスタリスク（*）だけを指定した場合，FSIZE 以外のすべての SITE コマンドが許可されます。

記述例

記述例を次に示します。

```
ftp-command.allow=STAT, RNFR, RNTO, DELE, RMD
ftp-command.site.allow=CHMOD, UMASK
```

記述例の詳細を次に示します。

- 許可する FTP コマンド（SITE コマンド以外）：STAT，RNFR，RNTO，DELE，および RMD コマンド
- 許可する SITE コマンド：CHMOD，および UMASK コマンド

リストコマンドオプション定義ファイル

形式

```
[<オプション文字列1>]
[<オプション文字列2>]
      :
[<オプション文字列n>]
```

機能

FTP クライアントが実行するリストコマンド（LIST コマンドおよび NLST コマンド）の引数となるオプション文字列を 1 行ずつ設定します。複数のオプション文字列を設定できますが，一つのコマンドに適用されるオプション文字列は一つだけです。

リストコマンドオプション定義ファイルを定義しない場合と定義した場合の，リストコマンドの実行形式の違いを次に示します。△は 1 文字の半角スペースを示します。

● リストコマンドオプション定義ファイルを定義しない場合
リストコマンドの実行形式は次のとおりです。

```
LIST［△<パス>］
NLST［△<パス>］
```

この場合，リストコマンドの引数で指定された情報は，すべてパス情報と解釈されます。

● リストコマンドオプション定義ファイルを定義した場合
リストコマンドオプション定義ファイルに＜オプション文字列＞を定義しておくことで，リストコマンドは次のように＜オプション文字列＞を指定して実行できます。

```
LIST［△<オプション文字列>］［△<パス>］
NLST［△<オプション文字列>］［△<パス>］
```

リストコマンドの引数に指定した情報は，FTP 受付がリストコマンドオプション定義ファイルの定義に従って＜オプション文字列＞と＜パス＞に分割し，実行されます。

ファイルの格納先

リストコマンドオプション定義ファイルの格納先となるパスおよびファイル名は任意です。

ただし，リストコマンドオプション定義ファイルの格納場所は，FTP 受付コンフィグファイルの urecp-ftp.list-command-option.filepath プロパティに絶対パスで指定する必要があります。指定がない場合は，リストコマンドオプション定義ファイルの定義が無効になります。

設定できるプロパティ

< オプション文字列 > 〜<文字列>

リストコマンドの引数で指定できるオプション文字列を設定します。

使用できる文字は，半角英数字，半角記号（ASCII コードの「0x21」〜「0x7E」），および半角スペース（ASCII コードの「0x20」）です。大文字と小文字は区別されます。先頭および末尾に半角スペースおよびタブ文字は指定できません。

使用できる半角記号を次に示します。

- 感嘆符（!）
- ダブルクォーテーション（"）
- 番号記号（#）
- ドル記号（$）
- パーセント（%）
- アンパサンド（&）
- アポストロフィ（'）
- 始め小括弧（(）
- 終わり小括弧（)）
- アスタリスク（*）
- 正符号（+）
- コンマ（,）
- ハイフン（-）
- ピリオド（.）
- スラッシュ（/）
- コロン（:）
- セミコロン（;）
- 左アングルブラケット（<）
- 右アングルブラケット（>）
- 等号（=）
- クエスチョンマーク（?）
- 単価記号（@）
- 始め角括弧（[）
- 終わり角括弧（]）
- 円マーク（¥）
- アクサンシルコンフレックス（^）
- アンダーライン（_）
- アクサングラーブ（`）
- 始め波括弧（{）
- 終わり波括弧（}）
- パイプライン（|）

- 波ダッシュ（~）

記述例

オプションを「-al」と「-la」のどちらでも指定できるようにしたい場合は，次のように両方の形式のオプション文字列を指定します。

```
-al
-la
```

オプションを「-l」と「-L」のどちらでも指定できるようにしたい場合は，次のように両方の形式のオプション文字列を指定します。

```
-l
-L
```

注意事項

- リストコマンドオプション定義ファイルの指定内容を変更した場合，指定値を有効とするには，そのリストコマンドオプション定義ファイルを使用している FTP 受付を再起動してください。
- オプション文字列の先頭および末尾に半角スペースは指定できません。
- 指定されたオプション文字列の先頭が「¥」の場合，「¥」はエスケープ文字と解釈され，それ以降の文字列がオプション文字列と見なされます。
  なお，オプション文字列の途中に指定した「¥」は，エスケープ文字でなく通常の文字列「¥」と扱われます。
  「#」または「¥」で始まるオプション文字列を定義する場合は，その前にエスケープ文字「¥」を付けてください。
- エスケープ文字「¥」の直後に半角スペースまたはタブ文字を指定したり，エスケープ文字「¥」だけの行を定義したりすることはできません。指定するとエラーになります。
- 改行までが値になります。ただし，先頭および末尾の半角スペースおよびタブ文字は無視されます。
- 指定された文字列の先頭の非空白文字（半角スペースでもタブ文字でもない文字）が "#" の場合，その行はコメントとみなされます。

TP1/RPC 受付定義ファイル

形式

```
  urecp-tp1rpc.activation-config.service=TP1/RPC受付のサービス名
［urecp-tp1rpc.activation-config.queue_max_length=TP1/RPC受付のスケジュール
キューの長さ］
［urecp-tp1rpc.activation-config.stay_watch_queue_rate=TP1/RPC受付のスケ
ジュールキューの滞留監視でのしきい値］
［urecp-tp1rpc.activation-config.stay_watch_check_interval=TP1/RPC受付の
スケジュールキューの滞留監視での警告メッセージの抑止時間］
  urecp-tp1rpc.resource-adapter=TP1/RPC受付が使用するTP1インバウンドアダプタの
表示名
［urecp-tp1rpc.pooled-instance.minimum=TP1/RPC受付のプール内のインスタンスの
最小数］
［urecp-tp1rpc.pooled-instance.maximum=TP1/RPC受付のプール内のインスタンスの
最大数］
［urecp-tp1rpc.ejb-transaction-timeout=TP1/RPC受付のEJBトランザクションタイム
アウト時間］
［urecp-tp1rpc.dt-skip={true｜false}］
```

機能

TP1/RPC 受付のチューニングパラメタなどの動作を制御するパラメタを設定します。

TP1/RPC 受付定義ファイルは「cscurecptp1rpc.properties」というファイル名で作成します。TP1/RPC 受付開始時に設定した内容が有効になります。

ファイルの格納先

```
<Cosminexusのインストールディレクトリ
>¥CSC¥samples¥urecp¥cscurecptp1rpc.properties
```

設定できるプロパティ

urecp-tp1rpc.activation-config.service=TP1/RPC **受付のサービス名　～＜先頭が英字の英数字およびアンダーライン** (_) **＞** ((1 － 31 **文字**))

TP1/RPC 受付のサービス名を指定します。

urecp-tp1rpc.activation-config.queue_max_length=TP1/RPC **受付のスケジュールキューの長さ　～＜数字＞** ((1 － 65535))<<100>>

TP1/RPC 受付のスケジュールキューの長さを整数で指定します。

urecp-tp1rpc.activation-config.stay_watch_queue_rate=TP1/RPC **受付のスケジュールキューの滞留監視でのしきい値　～＜数字＞** ((0 － 100))<<70>>

TP1/RPC 受付のスケジュールキューの滞留監視でのしきい値を整数で指定します。

urecp-tp1rpc.activation-config.stay_watch_check_interval=TP1/RPC **受付のスケジュールキューの滞留監視での警告メッセージの抑止時間　～<数字>** ((1 － 2147483647))<<60>>

TP1/RPC 受付のスケジュールキューの滞留監視での警告メッセージの抑止時間を整数で指定します。

urecp-tp1rpc.resource-adapter=TP1/RPC **受付が使用する** TP1 **インバウンドアダプタの表示名　～<英数字およびアンダーライン** (_) **>** ((1 － 240 **文字**))

TP1/RPC 受付が使用する TP1 インバウンドアダプタの表示名を指定します。

urecp-tp1rpc.pooled-instance.minimum=TP1/RPC **受付のプール内のインスタンスの最小数　～<数字>** ((0 **または** 1 － 2147483647))<<0>>

TP1/RPC 受付のプール内のインスタンスの最小数を整数で指定します。0 を指定した場合，制限はありません。

なお，このプロパティでは，urecp-tp1rpc.pooled-instance.maximum プロパティで指定した値より小さい値を指定してください。指定した値が，urecp-tp1rpc.pooled-instance.maximum プロパティで指定した値よりも大きい場合，コマンド実行時にエラーになります。

urecp-tp1rpc.pooled-instance.maximum=TP1/RPC **受付のプール内のインスタンスの最大数　～<数字>** ((0 **または** 1 － 2147483647))<<0>>

TP1/RPC 受付のプール内のインスタンスの最大数を整数で指定します。0 を指定した場合，制限はありません。

なお，このプロパティでは，urecp-tp1rpc.pooled-instance.minimum プロパティで指定した値より大きい値を指定してください。指定した値が，urecp-tp1rpc.pooled-instance.minimum プロパティで指定した値よりも小さい場合，コマンド実行時にエラーになります。

urecp-tp1rpc.ejb-transaction-timeout=TP1/RPC **受付の** EJB **トランザクションタイムアウト時間　～<数字>** ((0 **または** 1 － 2147483647))<<0>>

TP1/RPC 受付の EJB トランザクションタイムアウト時間を秒単位で指定します。0 を指定した場合，J2EE サーバに設定されたデフォルトのタイムアウト値で動作します。

urecp-tp1rpc.dt-skip={true ｜ false}

データ変換時に電文の構造変換をスキップするかどうかを指定します。このプロパティを省略，または値を省略した場合，構造変換をスキップしません。

- true
  構造変換をスキップします。
- false

構造変換をスキップしません。

なお，値を指定する場合は，true または false のどちらかを指定してください。true または false 以外の値を指定した場合，コマンド実行時にエラーになります。

記述例

記述例を次に示します。

```
urecp-tp1rpc.activation-config.service=refer
urecp-tp1rpc.activation-config.queue_max_length=10
urecp-tp1rpc.activation-config.stay_watch_queue_rate=70
urecp-tp1rpc.activation-config.stay_watch_check_interval=60
urecp-tp1rpc.resource-adapter=TP1_Inbound_Adapter
urecp-tp1rpc.pooled-instance.minimum=1
urecp-tp1rpc.pooled-instance.maximum=10
urecp-tp1rpc.ejb-transaction-timeout=0
urecp-tp1rpc.dt-skip=true
```

付録

付録 A　このマニュアルの参考情報

付録 B　用語解説

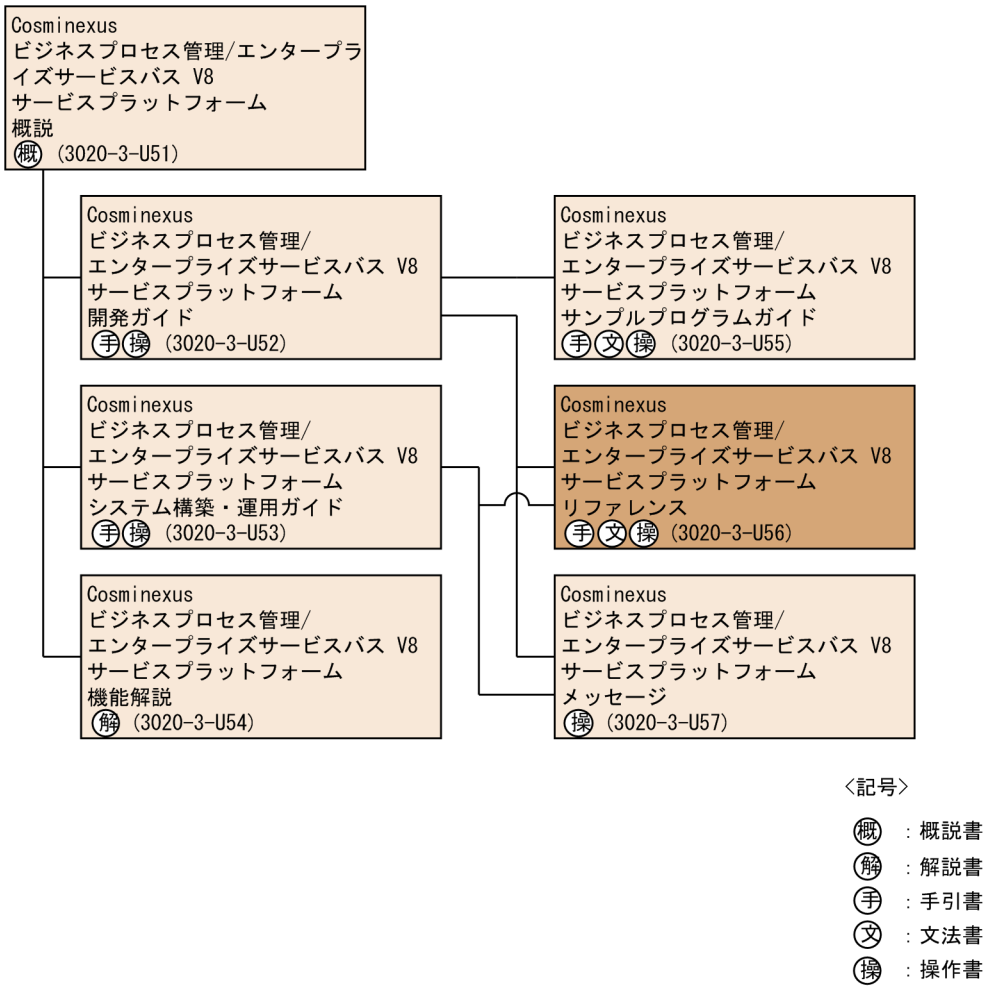
付録 A　このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 A.1　関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを，次の図に示します。必要に応じてお読みください。

図 A-1　このマニュアルの関連マニュアル



また，図に示したマニュアル以外で，このマニュアルと関連するマニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

Cosminexus アプリケーションサーバ関連

- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 概説（3020-3-U01）

- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 ファーストステップガイド（3020-3-U02）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム設計ガイド（3020-3-U03）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 システム構築・運用ガイド（3020-3-U04）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編（Web コンテナ）（3020-3-U05）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編（EJB コンテナ）（3020-3-U06）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 基本・開発編（コンテナ共通機能）（3020-3-U07）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 拡張編（3020-3-U08）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 運用／監視／連携編（3020-3-U09）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 機能解説 保守／移行／互換編（3020-3-U10）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション設定操作ガイド（3020-3-U12）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 運用管理ポータル操作ガイド（3020-3-U13）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス コマンド編（3020-3-U14）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編（サーバ定義）（3020-3-U15）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編（アプリケーション／リソース定義）（3020-3-U16）
- Hitachi Web Server（3020-3-U17）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 仮想化システム構築・運用ガイド（3020-3-U18）
- TPBroker Version 5 トランザクショナル分散オブジェクト基盤 TPBroker ユーザーズガイド（3020-3-U19）
- TPBroker Version 5 トランザクショナル分散オブジェクト基盤 TPBroker 運用ガイド（3020-3-U20）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 Cosminexus Reliable Messaging（3020-3-U21）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 アプリケーション開発ガイド（3020-3-U25）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス API 編（3020-3-U26）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 Cosminexus XML Processor ユーザーズガイド（3020-3-U27）
- VisiBroker Version 5 Borland(R) Enterprise Server VisiBroker(R) デベロッパーズガイド（3020-3-U28）
- VisiBroker Version 5 Borland(R) Enterprise Server VisiBroker(R) プログラマーズリファレンス（3020-3-U29）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引（3020-3-U30）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 Web サービス開発の手引（3020-3-U31）

- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 Web サービスセキュリティ 使用の手引（3020-3-U32）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 Cosminexus XML Security - Core ユーザーズガイド（3020-3-U33）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 1 KDAL-KDCG および Hitachi Web Server 編（3020-3-U41）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 2 KDJE-KDJW 編（3020-3-U42）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 3 KECX-KEDT ／ KEOS02000-29999 ／ KEUC-KFRM 編（3020-3-U43）
- Cosminexus アプリケーションサーバ V8 メッセージ 4 監査ログ編（3020-3-U44）
- Cosminexus ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8 サービスプラットフォーム TP1 アダプタ　ユーザーズガイド（3020-3-U58）

その他

- 日立コード変換ユーザーズガイド（Java™ 版）（3020-7-353）

なお，このマニュアルでは，次のマニュアルについて，対象 OS およびバージョン番号を省略して表記しています。マニュアルの正式名称とこのマニュアルでの表記を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
Cosminexus ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8 サービスプラットフォーム 概説	Cosminexus サービスプラットフォーム 概説
Cosminexus ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8 サービスプラットフォーム 開発ガイド	Cosminexus サービスプラットフォーム 開発ガイド
Cosminexus ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8 サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド	Cosminexus サービスプラットフォーム システム構築・運用ガイド
Cosminexus ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8 サービスプラットフォーム 機能解説	Cosminexus サービスプラットフォーム 機能解説
Cosminexus ビジネスプロセス管理 / エンタープライズサービスバス V8 サービスプラットフォーム メッセージ	Cosminexus サービスプラットフォーム メッセージ
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 運用管理ポータル操作ガイド	Cosminexus アプリケーションサーバ 運用管理ポータル操作ガイド
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 リファレンス 定義編 (サーバ定義)	Cosminexus アプリケーションサーバ リファレンス 定義編 (サーバ定義)
Cosminexus アプリケーションサーバ V8 SOAP アプリケーション開発の手引	Cosminexus アプリケーションサーバ SOAP アプリケーション開発の手引

付録 A.2　このマニュアルでの表記

(1) 製品名

このマニュアルで使用している表記と，対応する製品名を次に示します。

表記		製品名
Eclipse		Eclipse Classic 3.6.1
HiRDB または HiRDB サーバ	HiRDB/Parallel Server	HiRDB/Parallel Server Version 8
	HiRDB/Single Server	HiRDB/Single Server Version 8
	HiRDB Server	HiRDB Server Version 9
IPF		Itanium(R) Processor Family
JP1		JP1 関連製品
Oracle	Oracle 10g	Oracle 10*g* R2
	Oracle 11g	Oracle Database 11*g*
TP1/EE		TP1/Server Base Enterprise Option
UNIX	AIX	AIX 5L V5.3
		AIX V6.1
		AIX V7.1
	HP-UX	HP-UX 11i V2（IPF）
		HP-UX 11i V3（IPF）
	Linux（IPF）	Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4（IPF）
		Red Hat Enterprise Linux(R) 5（Intel Itanium(R)）
		Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform（Intel Itanium(R)）
	Linux または Linux（x86 ／ AMD64 & Intel EM64T）	Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4（x86）
		Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform（x86）
		Red Hat Enterprise Linux(R) ES 4（x86）
		Red Hat Enterprise Linux(R) 5（x86）
		Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4（AMD64 & Intel EM64T）

表記		製品名
		Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform（AMD/Intel 64）
		Red Hat Enterprise Linux(R) ES 4（AMD64 & Intel EM64T）
		Red Hat Enterprise Linux(R) 5（AMD/Intel 64）
		Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6（32-bit x86）
		Red Hat Enterprise Linux(R) Server 6（64-bit x86_64）

(2) Cosminexus の機能名

このマニュアルで使用する表記と，対応する Cosminexus の機能名を次に示します。

表記	Cosminexus の機能名
Cosminexus RM	Cosminexus Reliable Messaging
CTM	Cosminexus Component Transaction Monitor
HCSC	Hitachi Cosminexus Service Coordinator
HCSC-Business Process，ビジネスプロセス基盤，または BP 基盤	Hitachi Cosminexus Service Coordinator - Business Process
HCSC-Data Transform またはデータ変換基盤	Hitachi Cosminexus Service Coordinator - Data Transform
HCSC-DB Adapter または DB アダプタ	Hitachi Cosminexus Service Coordinator - Database Adapter
HCSC-Manager または HCSC-MNG	Hitachi Cosminexus Service Coordinator - Manager
HCSC-Messaging，HCSC-MSG，またはメッセージング基盤	Hitachi Cosminexus Service Coordinator - Messaging
HCSCTE	Hitachi Cosminexus Service Coordinator Tools for Eclipse
Management Server	Cosminexus Management Server
MyEclipse	MyEclipse for Cosminexus
PRF	Cosminexus Performance Tracer
TPBroker	Cosminexus TPBroker

(3) Java 関連用語

このマニュアルで使用する表記と，対応する Java 関連用語を次に示します。

表記	Java 関連用語
Connector 1.5	J2EE™ Connector Architecture 1.5
EAR	Enterprise ARchive
EJB または Enterprise JavaBeans	Enterprise JavaBeans
J2EE	J2EE™
	Java™ 2 Platform, Enterprise Edition
J2SE	Java™ 2 Platform, Standard Edition
Java	Java™
Java 2 SDK	Java™ 2 Software Development Kit, Standard Edition
JAXP	Java™ API for XML Processing
JDBC	Java™ Database Connectivity
JMS	Java™ Message Service
JSF	JavaServer Faces
Servlet またはサーブレット	Java™ Servlet

付録 A.3　英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
API	Application Programming Interface
BP	Business Process
BPEL	Business Process Execution Language
BPM	Business Process Management
BPMN	Business Process Modeling Notation
CA	Certificate Authority
DB	Database
DOM	Document Object Model
DTD	Document Type Definition
ERP	Enterprise Resource Planning
ESB	Enterprise Service Bus
ETL	Extract Transform Loading
HTML	Hyper Text Markup Language
HTTP	Hyper Text Transfer Protocol
IIOP	Internet Inter-Orb Protocol

英略語	英字での表記
IT	Information Technology
MBean	Managed Bean
MDB	Message-Driven Bean
OS	Operating System
QoS	Quality of Service
RDB	Relational Database
RMI	Remote Method Invocation
SaaS	Software as a Service
SOA	Service Oriented Architecture
SOAP	Simple Object Access Protocol
SSL	Secure Sockets Layer
TLS	Transport Layer Security
W3C	World Wide Web Consortium
WFA	Work-Flow Architecture
WS-R	Web Services Reliability
WSDL	Web Service Description Language
WST	Web Standard Tools
XML	Extensible Markup Language

付録 A.4　KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

付録 B　用語解説

(英字)

BPEL（Business Process Execution Language）

XML をベースにしたワークフロー記述言語です。Cosminexus サービスプラットフォームでは，アクティビティとコネクションで定義したビジネスプロセスを BPEL 形式で保存できます。

BPMN（Business Process Modeling Notation）

業務手順をわかりやすく図示して可視化するための表記ルールを定めたものです。ビジネスプロセス・モデリング表記法ともいいます。

CA（Certificate Authority）

認証局と呼ばれる，証明書を発行する機関です。
ほかのエンティティのために有効な証明書を発行する，信頼のおけるエンティティです。次に示す種類があります。

- ルート CA
  上位の CA による認証を受けないで，自分の正当性を自ら証明します。
- 中間 CA
  自分の正当性を証明するために，上位の CA による認証を受けています。

Cosminexus Manager

Cosminexus アプリケーションサーバのシステムの運用管理機能です。Management Server および運用管理エージェントの総称です。

CTM（Cosminexus Component Transaction Monitor）

構成ソフトウェアの一つです。サービス部品の実行要求が集中しないようにスケジューリングをするための機能です。

DB Connector

データベースに接続するためのリソースアダプタです。

DB アダプタ

データベースの操作をサービス部品として利用する場合に，操作するデータベースや実行する SQL を定義した HCSC コンポーネントです。

DB キュー

データベースを介してシステム間で連携する，TP1/EE（TP1/Server Base Enterprise Option）の機能です。DB キュー機能を使用すると，データベースをキューとして，TP1/EE と J2EE との間で，非同期型のメッセージ送受信ができます。

EAR（Enterprise ARchive）ファイル

J2EE アプリケーションを構成する複数のファイルを EAR ファイル形式でパッケージ化したものです。
Cosminexus サービスプラットフォームでは，HCSC コンポーネントをパッケージングして，EAR

ファイルを作成します。

Eclipse

Eclipse プロジェクト（eclipse.org）が提供するオープンソースの統合開発環境です。ソースコードの編集支援機能やデバッグ機能など，アプリケーションの開発効率を向上させる各種機能を備えています。
Cosminexus サービスプラットフォームでは，Eclipse に必要な機能をプラグインして利用します。

EJB（Enterprise JavaBeans）

業務ロジックをプログラムとして記述したビジネスロジック，および永続的データを格納するオブジェクトであるエンティティを Java コンポーネント化したものです。Oracle Corporation から EJB 仕様が公開されています。

FTP アダプタ

Cosminexus サービスプラットフォームと FTP サーバとの間でファイルの送受信をするために利用するアダプタです。

FTP インバウンドアダプタ

FTP 連携で使用するリソースアダプタです。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

FTP 受付

FTP インバウンドアダプタを経由して FTP クライアントからの実行要求を受け付ける機能（インターフェース）です。
ファイル操作アダプタや FTP アダプタと連携することで，Cosminexus サービスプラットフォーム上で FTP クライアントと FTP サーバの間のファイル転送ができるようになります。

FTP クライアント

FTP を使用してファイルの送受信を行うクライアント用ソフトウェアです。

FTP サーバ

FTP クライアントからの要求によってファイルを送受信するサーバ用ソフトウェアです。

FTP 連携

Cosminexus サービスプラットフォーム上で FTP クライアントと FTP サーバの間のファイル転送を実現するための機能です。

HCSC（Hitachi Cosminexus Service Coordinator）

uCosminexus Service Platform を構成する構成ソフトウェアの一つです。Cosminexus サービスプラットフォームで SOA を適用したシステムを構築，運用するための機能として，ビジネスプロセス実行機能，データ変換機能，DB アダプタ機能，実行環境の運用管理機能，およびメッセージング制御機能を提供しています。

HCSC-Business Process（ビジネスプロセス基盤）

ビジネスプロセスの定義に従って，適切なサービス部品を呼び出すための機能です。

HCSC-Data Transform（データ変換基盤）

データ変換定義に従って，要求電文・応答電文の電文フォーマットを変換する機能です。

HCSC-DB Adapter（DB アダプタ）

DB アダプタの定義に従って適切なサービス部品（データベースの操作）を呼び出す機能です。

HCSC-Manager

Cosminexus サービスプラットフォームの運用環境で利用する運用管理機能です。
HCSC サーバのセットアップ機能，HCSC コンポーネントの配備機能，プロセスインスタンスの実行履歴管理機能などが含まれます。

HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル（csccmd.properties）

運用環境で使用するコマンドの必須項目の省略値を定義するファイルです。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。
このファイルに省略値を定義しておくと，コマンド入力時に該当するオプションの入力を省略できます。

HCSC-Manager 定義ファイル（cscmng.properties）

運用環境のカスタマイズに必要な情報を定義するファイルです。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。
リポジトリのインポート先となるディレクトリや，ログファイルの大きさ・面数などを定義できます。

HCSC-Messaging（メッセージング基盤）

サービスアダプタの定義に従って適切なサービス部品を呼び出す機能です。

HCSCTE

Cosminexus サービスプラットフォームの開発環境で利用する開発支援機能です。HCSCTE で提供される機能は，Eclipse にプラグインして利用します。
アダプタやビジネスプロセスの作成・定義機能などが含まれます。

HCSC コンポーネント

開発環境で作成するサービスアダプタ，DB アダプタ，ビジネスプロセス，およびユーザ定義受付の総称です。

HCSC コンポーネントの検証

定義したアダプタ，ビジネスプロセス，データ変換定義の内容が妥当かどうか検証する機能です。必要な定義があるか，また定義の関係が正しいかを，必要に応じて任意のタイミングで検証できます。

HCSC サーバ

実行環境でサービス部品の実行を管理するサーバ機能です。メッセージング基盤，ビジネスプロセス基盤，データ変換基盤など，実行環境に必要な機能が含まれます。また，標準受付，ユーザ定義受付などのリクエスト受付機能や，サービスアダプタ（Web サービス，SessionBean，MDB（WS-R），MDB（DB キュー），DB アダプタ）の各種アダプタ機能も含まれます。

HCSC サーバ構成定義ファイル（cscsvsetup.xml）

HCSC サーバの構成を定義するファイルです。XML 形式のファイルとして作成します。
HCSC サーバ，クラスタ，Cosminexus Manager などの情報を定義できます。

HCSC サーバセットアップ定義ファイル（cscsvsetup.properties）

HCSC サーバのセットアップに必要な情報を定義するファイルです。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。
HCSC サーバに設定するクラスタ名や使用できる標準受付の種類などを定義できます。

HCSC サーバランタイム定義ファイル（cscsvconfig.properties）

HCSC サーバの起動時に必要なランタイム情報を定義するファイルです。J2SE のプロパティ形式のファイルとして作成します。
実行履歴を採取するかどうかや，トレースファイルのレベル・出力先などを定義できます。

HTTP

インターネットで，WWW サーバと WWW クライアントの間で HTML 文書を送受信するための通信プロトコルです。

iWay アダプタ

Cosminexus サービスプラットフォームの実行環境から他社 ERP パッケージのサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

J2EE サーバ

アプリケーションを実行するためのサーバ基盤である J2EE コンテナを生成，実行する環境です。Cosminexus サービスプラットフォームは，J2EE サーバとして Cosminexus Component Container を使用します。

Java 雛形ファイル

カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションの雛形ファイルです。パッケージ，クラス，およびメソッド（引数を含む）の構成が記載されています。

JAX-WS エンジン

Cosminexus が提供する Web サービスの通信基盤です。SOAP1.1 仕様および SOAP1.2 仕様に対応しています。

JDBC（Java Database Connectivity）

Java のプログラムでデータベースを利用するための API です。
JavaSoft が 1996 年前半に仕様を公開しました。Java プログラムから，JDBC API を経由して「JDBC ドライバ」を呼び出し，ドライバがデータベース・サーバへの接続機能を提供します。

JP1

日立の統合システム運用管理ソフトウェアの総称です。

MBean（Managed Bean）

管理対象となるリソースを表す Java オブジェクトです。JMX 仕様に基づいて実装されます。マネージャに対するリソースのインターフェースとして機能し，リソースに関する情報や操作をマネージャに提供します。

MDB（Message-Driven Bean）

JMS と連携するメッセージ駆動タイプの Bean です。EJB コンテナは JMS の Destination からの JMS メッセージ受信を契機に Bean を起動します。

Message Queue アダプタ

Cosminexus サービスプラットフォームの実行環境から既存のメッセージキュー（IBM WebSphere MQ システム）に対してメッセージの送受信をする場合に利用するアダプタです。

MyEclipse

Java アプリケーションの開発環境です。MyEclipse には，Eclipse でアプリケーションを開発するときに使用するプラグインがまとめられています。MyEclipse を使用すると，アプリケーションの作成，J2EE サーバへのアプリケーションのデプロイ，J2EE サーバの起動・停止，データベースの操作などができます。

Cosminexus では，構成ソフトウェアとして，MyEclipse の日本語版環境である MyEclipse for Cosminexus を提供しています。

Object Access アダプタ

Cosminexus サービスプラットフォームの実行環境から既存の TPBroker システム（Object Wrapper システム）のサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

RMI-IIOP

JavaRMI と JavaIDL を統合した API です。

SessionBean

セッション単位での処理を行う機能がある，EJB で規定されている Bean の一つです。

SOAP（Simple Object Access Protocol）

ネットワーク上のサービスを呼び出す際のメッセージを規定したものです。HTTP と XML がベースとなっています。

SOAP1.1/1.2 併用モード

利用する Web サービスの標準仕様および通信基盤を表すモードです。SOAP1.1 仕様および SOAP1.2 仕様に対応したサービス部品／サービスリクエスタを利用するときに指定します。SOAP1.1/1.2 併用モードでは，通信基盤として Cosminexus が提供する JAX-WS エンジンを利用します。

SOAP1.1 モード

利用する Web サービスの標準仕様および通信基盤を表すモードです。SOAP1.1 仕様に対応したサービス部品／サービスリクエスタを利用するときに指定します。SOAP1.1 モードでは，通信基盤として Cosminexus が提供する SOAP 通信基盤を利用します。

SOAP 通信基盤

Cosminexus が提供する Web サービス（SOAP アプリケーション）の通信基盤です。SOAP1.1 仕様に対応しています。

SQL オペレーション定義ファイル

DB アダプタを利用してデータベースにアクセスする場合に，実行する SQL を定義するファイルです。DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルを作成するときの基となるファイルです。

SSL（Secure Sockets Layer）

情報を暗号化してネットワークで送受信するためのプロトコルの一つです。

TLS（Transport Layer Security）

情報を暗号化してネットワークで送受信するためのプロトコルの一つです。SSL を基に改良が加えられたプロトコルです。

TP1/RPC 受付

既存の OpenTP1 システム内にあるサービスリクエスタからのサービス部品呼び出し要求を受け付けるための機能（インターフェース）です。

TP1 アダプタ

Cosminexus サービスプラットフォームの実行環境から既存の OpenTP1 システム内にあるサービス部品を呼び出す場合に利用するアダプタです。

TP1 インバウンドアダプタ

TP1 インバウンド連携機能で使用するリソースアダプタです。Connector 1.5 仕様に準拠しています。

TP1 連携システム

OpenTP1 システム内にあるサービスリクエスタおよびサービス部品と接続するためのシステム構成です。

uCosminexus Service Architect

Cosminexus サービスプラットフォームの開発環境を構築・運用するための製品です。

uCosminexus Service Platform

Cosminexus サービスプラットフォームの実行環境・運用環境を構築・運用するための製品です。

W3C（World Wide Web Consortium）

XML や DOM を含む Web 関連技術の標準化を推進する非営利団体です。

Web サービス

インターネット上に分散するアプリケーションが提供するサービスを，クライアントに API として提供するサービスです。

WFA（Work-Flow Architecture）

経済産業省がエンタープライズアーキテクチャで提案している業務フローの記法です。業務に関わる組織や担当者，業務の流れ，および流れる情報を明示できます。

WS-R（Web Services Reliability）

標準化団体 OASIS で標準化された，インターネット向けのオープンな非同期通信プロトコルです。

WSDL（Web Service Description Language）

Web サービスを記述するための言語仕様です。XML がベースとなっています。

XML スキーマ

W3C 勧告で定められた仕様で，XML 文書内の論理的なデータ構造を規定するための仕組みです。

XML フォーマット定義ファイル

XML 形式のデータを扱う場合に利用する電文フォーマット定義ファイルです。XML スキーマファイルとして作成します。

XPath

XML 文書の中の特定の要素を示すための記述方法に関する W3C 勧告の標準仕様です。XML 形式のデータのツリー構造をたどって要素や属性にアクセスする手段が規定されています。

（ア行）

アクティビティ

ビジネスプロセスの処理フローを定義する部品です。基本アクティビティと構造アクティビティに分類されます。複数のアクティビティを画面上に配置し，コネクションで連結して，ビジネスプロセスの処理フローを定義します。

アダプタ

サービスリクエスタからの要求電文を受け取り，アダプタ内で定義されているサービス部品へ要求電文を送信して，サービス部品を呼び出すアプリケーションです。
アダプタには，標準で使用するサービスアダプタ（標準アダプタ）と，ユーザが必要に応じて使用するカスタムアダプタ（DB アダプタ，TP1 アダプタなど）があります。サービスアダプタは，Web サービス，SessionBean，MDB（WS-R），および MDB（DB キュー）のサービス部品を呼び出すアダプタです。カスタムアダプタは，それ以外のサービス部品を呼び出すアダプタです。

受付処理

サービス部品の呼び出し要求を受け付けたり，電文を転送したりする処理を記述した API です。
ユーザが作成した受付処理をカスタム受付フレームワーク上で動作させることで，任意のプロトコルに対応した受付を開発できます。

運用環境

開発環境で作成した EAR ファイルをリポジトリから読み込み，実行環境に配備する環境です。また，実行環境で利用する HCSC サーバをセットアップします。実行環境での業務の運用を開始したあとは，システムの起動・停止，および状態を監視します。

永続化

ビジネスプロセスのプロセスインスタンスの実行状況を履歴として，データベースに記録することです。

応答電文

サービス部品の実行結果を返すための電文です。応答電文には，サービス部品から HCSC サーバに送信される電文と，HCSC サーバからサービスリクエスタに送信される電文があります。

（カ行）

開発環境
実行環境でサービス部品を呼び出すために必要な HCSC コンポーネントを作成したり，作成した HCSC コンポーネントを HCSC サーバおよびクラスタにどのように配備するか定義（配備定義）したりする環境です。

カスタムアダプタ
呼び出すサービス部品の種類が，Web サービス，SessionBean，MDB（WS-R），MDB（DB キュー）以外のアダプタです。

カスタム受付
サービスリクエスタからの実行要求を受け付けるための機能（インターフェース）です。ユーザが作成した受付処理をカスタム受付フレームワーク上で動作させることで，任意のプロトコルからの実行要求を受け付けることができます。

カスタム受付フレームワーク
カスタム受付を作成するために Cosminexus サービスプラットフォームで提供している開発用フレームワークです。

カスタムファンクション
データ変換の定義で使用するファンクションの一つです。このファンクションでは，ユーザが作成した任意の Java プログラムを呼び出し，データを加工できます。

基本アクティビティ
受付処理，応答処理，サービスの呼び出しなど，ビジネスプロセス内の基本的な処理を定義するためのアクティビティです。

共通フォルダ
FTP 連携で，複数のビジネスプロセスからアクセスできるファイルを格納するために HCSC サーバに作成する任意のフォルダです。

クラスタ
ある共通の機能を提供するサーバの集合です。
Cosminexus サービスプラットフォームでは，二つの HCSC サーバで実行系と待機系を構成する HA クラスタと，複数の HCSC サーバでクラスタを構成するロードバランスクラスタがあります。

公開鍵
特定のエンティティ（署名者）に関連づけられた数値です。
該当するエンティティとの間に信頼できる関係を持つ必要がある，すべての人に対して公開することを意図しています。署名の検証に使用されます。

構造アクティビティ
分岐処理，並列処理，繰り返し処理など，ビジネスプロセス内の処理の構造を定義するためのアクティビティです。

コネクション
アクティビティを連結して，アクティビティの実行順序を定義するための部品です。通常のコネク

ションに加えて，フォルト処理を連結するフォルトコネクションおよび並列処理時のリンクを設定するリンクコネクションがあります。

（サ行）

サーバ認証

クライアントが，サーバから送られてきたサーバの証明書を基に，信頼できるサーバかどうかを確認することです。

サービス

業務と一対一に対応し，業務に必要な機能を再利用できるソフトウェア部品のことです。SOA では，サービスを組み合わせて業務システムを構築します。これによって，業務の変化に対して，システムを迅速に変更できます。

サービスアダプタ

どのサービス部品を実行するかを定義した HCSC コンポーネントです。呼び出すサービス部品の種類（Web サービス，SessionBean，MDB（WS-R），MDB（DB キュー））ごとに定義する内容は異なります。

サービス型ソフトウェア

ソフトウェアの機能のうち，ユーザが必要とするものだけをサービスとして配布し利用できるようにしたソフトウェアの配布形態です。SaaS（Software as a Service）ともいいます。

サービス部品

サービスアダプタおよび DB アダプタから実行できる業務処理のことです。Web サービス，SessionBean，MDB（WS-R），MDB（DB キュー），およびデータベースの操作をサービス部品として利用できます。

サービス部品電文

サービス部品独自の電文フォーマットを持った電文です。サービス部品がデータベースの操作の場合，DB アダプタ電文といいます。

サービスリクエスタ

HCSC サーバへサービス部品の実行要求（要求電文）を送信するアプリケーションです。HCSC サーバの標準受付が同期標準受付（Web サービス／ SessionBean）か，非同期標準受付（MDB（WS-R）／ MDB（DB キュー））か，またはユーザ定義受付（Web サービス）かによって，作成するサービスリクエスタの形式が異なります。
標準受付にサービス部品の実行を要求するサービスリクエスタを作成するときは，HCSC サーバに送信される要求電文の電文フォーマットを，標準電文に合わせる必要があります。
ユーザ定義受付にサービス部品の実行を要求するサービスリクエスタを作成するときは，サービス部品またはビジネスプロセスに定義した電文フォーマット（WSDL）に合わせることができます。

作業フォルダ

FTP 連携で，FTP クライアントや FTP サーバなどから受信したファイルを扱うために HCSC サーバに作成されるフォルダです。

システム構成定義

HCSC サーバおよびクラスタのセットアップ情報と，HCSC コンポーネントを HCSC サーバおよびクラスタにどのように配備するかの情報が含まれる定義情報です。
HCSC サーバおよびクラスタのセットアップ情報は，運用環境で更新されます。開発環境では，HCSC サーバおよびクラスタに HCSC コンポーネントをどのように配備するかの情報を定義します。

実行環境

サービスリクエスタで受け付けた実行要求に応じて，HCSC サーバを介して適切なサービス部品を呼び出し，業務を実行する環境です。

実行履歴

ビジネスプロセスのプロセスインスタンスの実行履歴と電文の実行履歴とがあります。ビジネスプロセスの実行状況や応答状況を確認したり，サービス部品の情報や電文の配送経路や配送状態を確認したりできます。

実行履歴情報テーブル

ビジネスプロセスや電文のプロセスインスタンスおよび電文の実行履歴を管理するテーブルです。

証明書

公開鍵証明書です。あるエンティティの識別情報および公開鍵の内容を証明します。証明書には，自己署名付き証明書と，CA（認証局）から発行された証明書があります。

性能解析トレース

Cosminexus システムの性能解析をするためのトレース情報です。

相関セット

サービスリクエスタから送信された要求電文を一意に識別するために利用する文字列です。HCSC サーバには，サービスリクエスタから相関セットを含む要求電文が送信されます。サービス部品の HCSC サーバは，相関セットを含んだ応答電文をサービスリクエスタに返信します。その結果，サービスリクエスタは受信した応答電文が，どの要求電文に対する応答であるのかを一意に識別できます。

（タ行）

データ変換

標準電文とサービス部品電文の電文フォーマットが異なる場合に，データ変換定義に従って，標準電文をサービス部品電文の電文フォーマットに変換することです。

データ変換定義

標準電文とサービス部品電文の電文フォーマットの相違を解消するためのデータ変換方法を定義したものです。標準電文とサービス部品電文の電文フォーマット定義ファイルの各要素をマッピングし，必要に応じてファンクションを設定して定義します。

電文フォーマット

要求電文および応答電文のデータ構造です。
サービスリクエスタから HCSC サーバに送信される要求電文の電文フォーマットは，標準電文の電

文フォーマットに合わせる必要があります。標準電文とサービス部品に実行要求するための電文（サービス部品電文）の電文フォーマットが異なる場合は，データ変換定義を作成して，電文フォーマットの相違を解消します。

電文フォーマット定義ファイル

電文の構造（電文フォーマット）を定義したファイルです。XML フォーマット定義ファイルとバイナリフォーマット定義ファイルとがあります。サービス部品の実行に利用する電文で XML 形式のデータを扱う場合は，XML フォーマット定義ファイルを，バイナリ形式（XML 形式以外）のデータを扱う場合は，バイナリフォーマット定義ファイルを利用します。

（ナ行）

ノード

データ変換定義画面で，ツリービューアに表示される各要素のことです。データ変換の元になる変換元ノードと，変換先になる変換先ノードがあります。

（ハ行）

バイナリフォーマット定義ファイル

バイナリ形式（XML 形式以外）のデータを扱う場合に利用する電文フォーマット定義ファイルです。XML スキーマファイルとして作成します。バイナリ形式のデータ内の値の格納形式を定義し，定義した情報を XML スキーマファイルに付加したファイル（拡張子：.fdx）です。

配備

HCSC コンポーネントを適切な HCSC サーバに配置することです。開発環境で作成した HCSC コンポーネントは，運用環境を利用して実行環境（HCSC サーバ）に配備します。

配備定義

開発環境で，HCSC コンポーネントを HCSC サーバおよびクラスタにどのように配備するか定義し，システム構成定義を更新することです。運用環境から HCSC コンポーネントを配備するときには，開発環境で配備定義したシステム構成定義の内容に従って配備します。

パッケージング

開発環境で作成した HCSC コンポーネントを，実行環境に配備できるように EAR ファイルに組み立てることです。

ビジネスプロセス

複数のサービス部品の処理の順番や条件などを定義して，一連の業務の流れとして定義したものです。Cosminexus サービスプラットフォームの開発環境では，複数のアクティビティを画面上に配置し，コネクションで連結して定義します。

標準受付

サービスリクエスタからの要求電文を受け付けるための機能（インターフェース）です。HCSC サーバに含まれる機能です。標準受付を開始すると，サービスリクエスタからの要求電文を受け付けられる状態になります。

同期受付（Web サービス／ SessionBean）および非同期受付（MDB（WS-R）／ MDB（DB キュー））の要求を受け付けることができます。

標準電文（標準電文フォーマット）
Cosminexus サービスプラットフォームで提供する標準的な電文フォーマットです。

ファイルアダプタ
Cosminexus サービスプラットフォームの実行環境から HCSC サーバ上のローカルディスクに対して直接ファイルの入出力をする場合に利用するアダプタです。

ファイル操作アダプタ
ファイルのレイアウト変換，文字コード変換，複製，および削除をするためのアダプタです。

ファンクション
データ変換を定義する場合に，変換元ノードの値を加工して変換先ノードにマッピングする場合に使用するときの加工の方法を定義するものです。
文字列や数値を変換するファンクション，ノードの名称を取得するファンクション，条件による処理の選択や繰り返しを定義するファンクションなどがあります。

プロセスインスタンス
ビジネスプロセスで実行している業務の一つの実体です。ワークフローの案件に相当します。

変換ファンクション
カスタムファンクションから呼び出す Java プログラムのことです。

変換ファンクション定義ファイル
カスタムファンクションから呼び出す変換ファンクションの構成を定義したファイルです。

（マ行）

マッピング
データ変換を定義する場合に，変換元と変換先のノードを連結することです。マッピングの始点をマッピング元，終点をマッピング先といいます。

メソッドトレース
障害が発生し，原因の究明が困難な場合に必要な情報です。

（ヤ行）

ユーザ定義受付
サービスリクエスタからの実行要求を受け付けるための機能（インターフェース）です。HCSC サーバに含まれる標準受付とは異なり，ユーザが任意のインターフェースを定義できます。定義したユーザ定義受付を HCSC サーバに配備して開始すると，サービスリクエスタからの要求電文を受け付けられる状態になります。

ユーザ電文

サービスリクエスタから送信される要求電文です。

要求電文

サービス部品の実行を要求するための電文です。要求電文には，サービスリクエスタから HCSC サーバに送信される電文と HCSC サーバ内のアダプタからサービス部品に送信される電文があります。

（ラ行）

リクエスト受付

標準受付およびユーザ定義受付の総称です。サービスリクエスタからの実行要求を受け付けるための機能（インターフェース）です。

リクエストトレース

メッセージング基盤での，標準受付，ビジネスプロセス受付，またはサーバ間転送受付で受け付けたリクエストの BP やサービスアダプタの呼び出し先やその結果を把握するための情報です。

リポジトリ

定義した HCSC コンポーネントやシステム構成定義を格納するディレクトリです。格納した情報は，リポジトリの管理機能（リポジトリのインポート／エクスポート機能）を利用して，開発環境と運用環境との間で受け渡します。

索引

B

BPEL〔用語解説〕 605
BPMN〔用語解説〕 605

C

CA〔用語解説〕 605
Cosminexus Manager〔用語解説〕 605
csaftpuseradd 299
csaftpuserdel 303
csaftpuserls 305
csamkxmls 244
cscapputil 306
csccmctl 309
csccmd.properties〔用語解説〕 607
csccompoconfig 313
csccompodeploy 317
csccompostart 319
csccompostop 321
csccompoundeploy 323
cscenvbackup 325
cscenvrestore 327
cscenvupdate 329
cscfdx2xsd 245
cscfscls 331
cscfscrm 334
cscfswls 337
cscfswrm 340
cscmng.properties〔用語解説〕 607
cscmsgtk 346
cscpasswd 342
cscpidelete 351
cscpireexec 355
cscpiselect 359
cscrcptnstart 376
cscrcptnstop 378
cscrepcheck 380
cscrepctl 382
cscrepdiff 385
cscrepls 390
cscrepupdate 405
cscresinfo 407
cscsetup 415
cscsetup コマンド定義ファイル〔定義ファイル〕 549
cscsoapmode 247
cscstatus 411
cscsvcctl 417
cscsvcls 420
cscsvconfig 425
cscsvconfig.properties〔用語解説〕 608
cscsvsetup 427
cscsvsetup.properties〔用語解説〕 608
cscsvsetup.xml〔用語解説〕 607
cscsvstart 429
cscsvstop 432
cscsvunsetup 435
cscutil 437
csmdeletehistory 443
csmftpaddusr 446
csmftpdelusr 449
csmftplshistory 452
csmftplsusr 451
csmlshistory 456
csmlslocation 465
csmlsreception 470
csmlsstate 474
CTM〔用語解説〕 605

D

DB Connector〔用語解説〕 605
DB アダプタ〔用語解説〕 605
DB アダプタ用の XML フォーマット定義ファイルの生成 244
DB キュー〔用語解説〕 605

E

EAR ファイル〔用語解説〕 605
Eclipse〔用語解説〕 606
EJB〔用語解説〕 606

F

FTP アダプタ〔用語解説〕 606
FTP アダプタコマンド定義ファイル 553
FTP アダプタ実行環境プロパティファイル 554
FTP アダプタのユーザの削除 303
FTP アダプタのユーザの登録・更新 299
FTP アダプタのユーザの表示 305
FTP インバウンドアダプタ〔用語解説〕 606
FTP インバウンドアダプタのユーザの削除 449
FTP インバウンドアダプタのユーザの登録・更新 446
FTP インバウンドアダプタのユーザの表示 451
FTP 受付〔用語解説〕 606
FTP 受付コンフィグファイル 582
FTP 受付定義ファイル 579
FTP クライアント〔用語解説〕 606
FTP コマンド許可リスト定義ファイル 588
FTP サーバ〔用語解説〕 606
FTP 実行許可リスト定義ファイル 585
FTP 連携〔用語解説〕 606

H

HCSC〔用語解説〕 606
HCSC-Business Process〔用語解説〕 606
HCSC-Data Transform〔用語解説〕 606
HCSC-DB Adapter 607
HCSC-Manager〔用語解説〕 607
HCSC-Manager 環境のバックアップ 325
HCSC-Manager 環境のリストア 327
HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル〔定義ファイル〕 483
HCSC-Manager コマンド共通定義ファイル〔用語解説〕 607
HCSC-Manager 定義ファイル〔定義ファイル〕 532
HCSC-Manager 定義ファイル〔用語解説〕 607
HCSC-Messaging〔用語解説〕 607
HCSC-Messaging コマンド共通定義ファイル〔定義ファイル〕 485
HCSCTE〔用語解説〕 607
HCSC XPath 評価ビュー 45
HCSC エミュレートビュー 44
HCSC コンポーネント〔用語解説〕 607
HCSC コンポーネント情報表示画面 60
HCSC コンポーネントの開始 319
HCSC コンポーネントの定義 313
HCSC コンポーネントの停止 321
HCSC コンポーネントの配備 317
HCSCコンポーネントを作成する画面の構成 4
HCSC サーバ〔用語解説〕 607
HCSC サーバ構成定義ファイル〔定義ファイル〕 487
HCSC サーバ構成定義ファイル〔用語解説〕 607
HCSC サーバセットアップ定義ファイル〔定義ファイル〕 494
HCSC サーバセットアップ定義ファイル〔用語解説〕 608
HCSC サーバのアンセットアップ 435
HCSC サーバの起動 429
HCSC サーバの状態の表示 474
HCSC サーバのセットアップ 427
HCSC サーバの停止 432
HCSC サーバランタイム定義ファイル〔定義ファイル〕 515
HCSC サーバランタイム定義ファイル〔用語解説〕 608
HCSC サーバランタイムの定義 425
HCSC 自動エミュレートビュー 42
HTTP〔用語解説〕 608

I

iWay アダプタ〔用語解説〕 608

J

J2EE サーバ〔用語解説〕 608
Java 雛形ファイル〔用語解説〕 608
Java 呼出アクティビティダイアログ 121

JAX-WS エンジン〔用語解説〕 608
JDBC〔用語解説〕 608
JP1〔用語解説〕 608

M

MBean〔用語解説〕 608
MDB〔用語解説〕 608
Message Queue アダプタ〔用語解説〕 609
MyEclipse〔用語解説〕 609

O

Object Access アダプタ〔用語解説〕 609

R

RMI-IIOP〔用語解説〕 609

S

SessionBean〔用語解説〕 609
SOAP〔用語解説〕 609
SOAP1.1/1.2 併用モード〔用語解説〕 609
SOAP1.1 モード〔用語解説〕 609
SOAP Fault 動作定義ファイル 547
SOAP 通信基盤〔用語解説〕 609
SOAP モードの設定 247
SQL オペレーション定義ファイル〔用語解説〕 609
SSL〔用語解説〕 610

T

TLS〔用語解説〕 610
TP1/RPC 受付〔用語解説〕 610
TP1/RPC 受付定義ファイル 594
TP1 アダプタ〔用語解説〕 610
TP1 インバウンドアダプタ〔用語解説〕 610
TP1 連携システム〔用語解説〕 610

U

uCosminexus Service Architect〔用語解説〕 610
uCosminexus Service Platform〔用語解説〕 610

W

W3C〔用語解説〕 610
Web サービス〔用語解説〕 610
WFA（Work-Flow Architecture）〔用語解説〕 610
WS-R〔用語解説〕 610
WSDL〔用語解説〕 610

X

XML スキーマ〔用語解説〕 611
XML フォーマット定義ファイル〔用語解説〕 611
XPath〔用語解説〕 611

あ

アウトラインビュー 10
アカウント定義ファイル 569
アクティビティ〔用語解説〕 611
値置換えダイアログ 209
値の設定ダイアログ 150
アダプタ〔用語解説〕 611
アプリケーションの操作 306

い

一覧表示コマンド 347
インポート 382
インポート可否の検証 380

う

受付アクティビティダイアログ 114
受付処理〔用語解説〕 611
運用環境〔用語解説〕 611

え

永続化〔用語解説〕 611
エクスポート 382
エディタエリア 251

お

応答アクティビティダイアログ 116
応答電文〔用語解説〕 611
オブジェクトを切り取る 227
オブジェクトをコピーする 227
オブジェクトを削除する 229
オブジェクトを整列する 229
オブジェクトを貼り付ける 227

か

解析対象絞り込みコマンド 348
開発環境〔用語解説〕 612
各種操作 437
カスタムアダプタ〔用語解説〕 612
カスタム受付〔用語解説〕 612
カスタム受付フレームワーク〔用語解説〕 612
カスタムダイアログ 212
カスタムファンクション〔用語解説〕 612
稼働運用ページ 265
稼働確認ページ 273
画面一覧 6
画面構成（運用環境） 250
画面構成（開発環境） 2

き

基本アクティビティ 37
基本アクティビティ〔用語解説〕 612
基本情報ページ 253
キャンバス 38
共通フォルダ〔用語解説〕 612
共通フォルダの削除 334
共通フォルダの参照 331

く

空白除去ダイアログ 185
クライアント定義ファイル 551
クラスタ〔用語解説〕 612
繰り返しアクティビティダイアログ 134
くり返し設定ダイアログ 158
くり返しダイアログ 198

け

検証〔用語解説〕 607
検証アクティビティダイアログ 132

こ

公開鍵〔用語解説〕 612
構成要素ダイアログ 83
構造アクティビティ 37
構造アクティビティ〔用語解説〕 612
コネクション〔用語解説〕 612
コマンドの種類〔運用環境・実行環境〕 290
コマンドの種類〔開発環境〕 240
コマンドの同時実行 294
コマンドの入力形式〔運用環境・実行環境〕 296
コマンドの入力形式〔開発環境〕 241
コマンドの文法の記述形式〔運用環境・実行環境〕 298
コマンドの文法の記述形式〔開発環境〕 243
コンソールビュー 5,252
コンソールビュー〔バイナリフォーマット定義時〕 3

さ

サーバ認証〔用語解説〕 613
サービス〔用語解説〕 613
サービスアダプタ〔用語解説〕 613
サービスアダプタ定義画面 12
サービスアダプタ定義画面（MDB（DB キュー）の基本画面） 26
サービスアダプタ定義画面（MDB（WS-R）の基本画面） 23
サービスアダプタ定義画面（MDB（WS-R）の詳細画面） 24
サービスアダプタ定義画面（SessionBean の基本画面） 20
サービスアダプタ定義画面（SessionBean の詳細画面） 22
サービスアダプタ定義画面（Web サービスの基本画面） 12
サービスアダプタ定義画面（Web サービスの詳細画面） 19

サービスアダプタ定義画面（カスタムアダプタの基本画面） 28
サービスアダプタ定義画面（カスタムアダプタの詳細画面） 33
サービスアダプタまたはビジネスプロセスの情報の表示 465
サービス型ソフトウェア〔用語解説〕 613
サービス情報の管理 417
サービス情報の表示 420
サービス情報変更定義ファイル〔定義ファイル〕 539
サービス部品〔用語解説〕 613
サービス部品電文〔用語解説〕 613
サービス呼出アクティビティダイアログ 118
サービスリクエスタ〔用語解説〕 613
作業フォルダ〔用語解説〕 613
作業フォルダの削除 340
作業フォルダの参照 337

し

システム構成定義〔用語解説〕 614
実行環境〔用語解説〕 614
実行環境のバージョンアップ 329
実行環境プロパティファイル 576
実行履歴〔用語解説〕 614
実行履歴情報テーブル〔用語解説〕 614
自動マッピング候補選択ダイアログ 157
自動マッピング元設定ダイアログ 156
終了コマンド 349
出力モード切り替えコマンド 348
障害解析コマンド 347
条件設定ダイアログ 150
条件設定ダイアログ（繰り返しアクティビティ） 135
条件設定ダイアログ（ノード条件の設定） 166
条件設定ダイアログ（分岐アクティビティ） 138
条件設定ダイアログ（並列処理アクティビティ） 142
条件値設定ダイアログ 89
条件追加 / 編集ダイアログ 205
状態表示 411
証明書〔用語解説〕 614

す

数値演算ダイアログ 189
数値フォーマット変換ダイアログ 187
スキーマ論理名 47
スコープアクティビティダイアログ 134

せ

性能解析トレース〔用語解説〕 614
設定ダイアログ 174
セパレータ選択ダイアログ 95
セパレータ追加 / 変更ダイアログ 96
選択ダイアログ 202

そ

相関セット〔用語解説〕 614
操作を元に戻す〔データ変換定義画面〕 236
操作を元に戻す〔バイナリフォーマット定義エディタ〕 226
操作を元に戻す〔ビジネスプロセス定義画面〕 229
操作をやり直す〔データ変換定義画面〕 236
操作をやり直す〔バイナリフォーマット定義エディタ〕 226
操作をやり直す〔ビジネスプロセス定義画面〕 230
総和ダイアログ 192
ソート条件追加 / 編集ダイアログ 200
属性 47

た

待機アクティビティダイアログ 130
代入アクティビティサブダイアログ 126
代入アクティビティダイアログ 125
タブ 252
単純内容 47
単純内容要素ダイアログ 69

つ

ツリービュー 4,250

て

定義情報ページ 262
定義ファイルの管理 309
定義ファイルの種類 479
定義ファイルの入力形式 481
定義ファイルの文法の記述形式 482
定義領域 4
定義を保存する 236
定数ダイアログ 207
データ変換〔用語解説〕614
データ変換アクティビティダイアログ 122
データ変換基盤〔用語解説〕606
データ変換定義〔用語解説〕614
データ変換定義画面 45
データ変換定義画面の操作 236
データ変換定義を作成する画面の構成 4
データ変換に関連するダイアログ 153
デバッグ構成ダイアログ 146
デバッグビュー 39
転送履歴の表示 452
電文の実行履歴情報テーブルのレコードの削除 443
電文の実行履歴情報の表示 456
電文フォーマット〔用語解説〕614
電文フォーマット定義ファイル〔用語解説〕615
電文フォーマットの取込ダイアログ 111

と

トレース取得ポイント表示コマンド 349

に

入力値を除去ダイアログ 216

の

ノード〔用語解説〕615
ノード条件設定ダイアログ 165
ノード数取得ダイアログ 194
ノード選択ダイアログ（データ変換）160
ノード選択ダイアログ（バイナリフォーマット定義）90
ノード調査ダイアログ 196
ノード名取得ダイアログ 195

は

バイナリフォーマット定義エディタ 7
バイナリフォーマット定義画面 7
バイナリフォーマット定義画面の操作 220
バイナリフォーマット定義に関連するダイアログ 66
バイナリフォーマット定義ファイル〔用語解説〕615
バイナリフォーマット定義ファイル（COBOL 登録集原文からの変換）ダイアログ 98
バイナリフォーマット定義ファイルから XML フォーマット定義ファイルの生成 245
バイナリフォーマット定義ファイルを作成する画面の構成 2
配備〔用語解説〕615
配備済みの HCSC コンポーネントの削除 323
配備定義〔用語解説〕615
端数処理ダイアログ 191
パッケージ・エクスプローラー 2
パッケージング〔用語解説〕615
パレット〔データ変換定義画面〕48
パレット〔ビジネスプロセス定義画面〕35
パレット設定ダイアログ 143
パレットの表示を設定する 232

ひ

ビジネスプロセス〔用語解説〕615
ビジネスプロセスエディタ 42
ビジネスプロセス基盤〔用語解説〕606
ビジネスプロセス定義画面 34
ビジネスプロセス定義画面の操作 227
ビジネスプロセスに関連するダイアログ 104
ビジネスプロセスのデバッグ画面 39
ビジネスプロセスのデバッグに関連するダイアログ 146
標準受付〔用語解説〕615

標準受付およびユーザ定義受付の開始 376
標準受付およびユーザ定義受付の停止 378
標準電文〔用語解説〕616
標準電文フォーマット〔用語解説〕616
表示を拡大する 231
表示を縮小する 231
表示を元のサイズに戻す 231

ふ

ファイルアダプタ〔用語解説〕616
ファイル操作アダプタ〔用語解説〕616
ファイル操作アダプタ定義ファイル 570
ファンクション〔用語解説〕616
ファンクション選択ダイアログ 162
フォーマットダイアログ 66
フォルト処理の割当ダイアログ 113
フォルト送出アクティビティダイアログ 129
複合内容 47
複合内容要素ダイアログ 78
複製マッピング範囲設定ダイアログ 171
複製マッピング元設定ダイアログ 172
部分文字列取得ダイアログ 179
ブレークポイントビュー 41
プロセスインスタンス〔用語解説〕616
プロセスインスタンスの検索 359
プロセスインスタンスの再実行 355
プロセスインスタンスの実行履歴の削除 351
プロパティービュー 5
プロパティービュー〔バイナリフォーマット定義時〕3
分岐アクティビティダイアログ 137

へ

並列処理アクティビティダイアログ 140
ヘッダ割当変数ダイアログ 107
ヘルプ表示コマンド 349
変換先スキーマツリービューア 46
変換ファンクション〔用語解説〕616
変換ファンクション選択ダイアログ 215
変換ファンクション定義ファイル〔用語解説〕616
変換元スキーマツリービューア 46
変数・相関セット一覧ダイアログ 104
変数の表示ダイアログ 110
変数ビュー 40

ほ

本番環境の簡易セットアップ 415

ま

マッピング〔用語解説〕616
マッピング線の色を変更する 236
マッピング定義登録ダイアログ 170
マッピングビューア 46
マッピング元設定ダイアログ 154

む

無操作アクティビティダイアログ 129

め

メソッドトレース〔用語解説〕616
メッセージトラッキング機能の起動 346
メッセージトラッキングプロンプトで使用するコマンド 347
メッセージング基盤〔用語解説〕607
メニューバー 250

も

文字数取得ダイアログ 182
文字列調査ダイアログ 183
文字列連結ダイアログ 177
問題ビュー 3

ゆ

ユーザ定義受付〔用語解説〕616
ユーザ定義受付削除ダイアログ 218
ユーザ定義受付情報表示画面 64
ユーザ定義受付定義画面 51
ユーザ定義受付に関連するダイアログ 218
ユーザ定義受付の情報の表示 470
ユーザ定義受付ランタイム定義ファイル〔定義ファイル〕531

ユーザ電文〔用語解説〕 617
ユーザの管理 342

よ

要求電文〔用語解説〕 617
要素選択ダイアログ 94
要素名検索ダイアログ 163
要素を移動する 222
要素をコピーする 220
要素を削除する 222
要素を貼り付ける 220

り

リクエスト受付〔用語解説〕 617
リクエストトレース〔用語解説〕 617
リストコマンドオプション定義ファイル 591
リソース稼働情報の表示 407
リポジトリ〔用語解説〕 617
リポジトリ情報の差分の表示 385
リポジトリ情報の表示 390
リポジトリのアップデート 405
履歴管理ページ 278
リンクダイアログ 141

る

ルート要素選択ダイアログ 153

わ

割当相関セット群ダイアログ 108